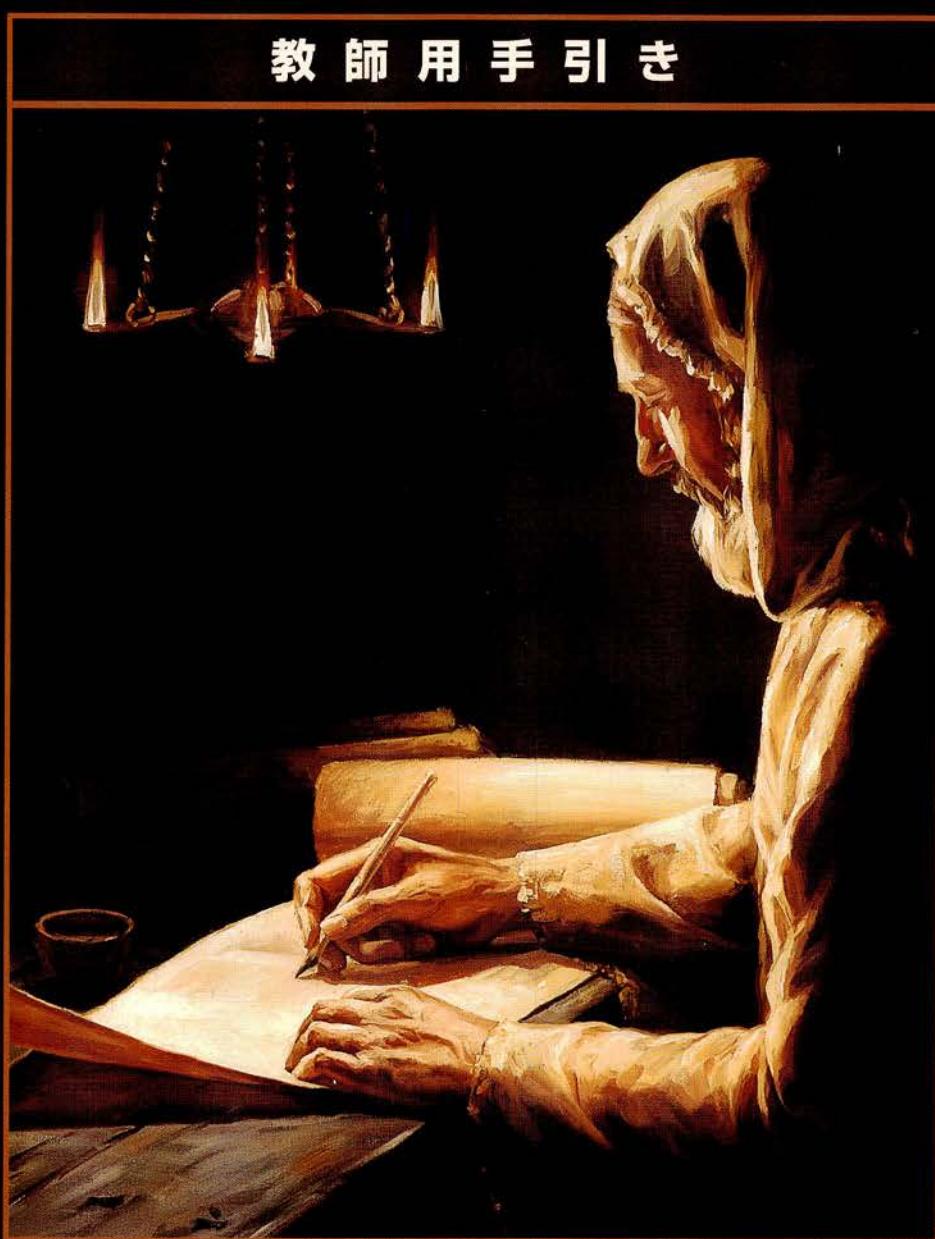


旧約聖書

教師用手引き



旧約聖書教師用手引き

制作：教会教育システム

発行：末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

© 2003 Intellectual Reserve, Inc.
版權所有
印刷：日本
英語版承認：1995年9月
翻訳承認：2007年2月
原題：Old Testament Teacher Resource Manual

目次

旧約聖書教師用手引きの序文	1
学習年度36週対応の学習進度ガイド	5
旧約聖書の概要	7
聖文研究のための補助資料	10
偉大な幸福の計画	12
創世記、モーセ書、アブラハム書	20
アブラハム 3 章	20
モーセ 1 章	21
創世 1-2 章；モーセ 2-3 章；アブラハム 4-5 章	23
創世 3 章；モーセ 4 章	26
創世 4 章；モーセ 5 章	30
創世 5 章；モーセ 6-7 章	33
創世 6-10 章；モーセ 8 章	37
創世 11-17 章；アブラハム 1-2 章	41
創世 18-23 章	45
創世 24-33 章	49
創世 34-41 章	53
創世 42-50 章	58
出エジプト記	64
出エジプト 1-4 章	64
出エジプト 5-10 章	68
出エジプト 11-13 章	71
出エジプト 14-15 章	73
出エジプト 16-17 章	75
出エジプト 18-24 章	77
出エジプト 25-40 章	81
レビ記	87
レビ 1-16 章	87
レビ 17-27 章	91
民数記	94
民数 1-10 章	94
民数 11-21 章	96
民数 22-36 章	99
申命記	102
申命 1-34 章	102
ヨシュア記	107
ヨシュア 1-24 章	107
士師記	112
士師 1-21 章	112
ルツ記	117
ルツ 1-4 章	117
サムエル記上	119
サムエル上 1-11 章	119
サムエル上 12-15 章	122
サムエル上 16-17 章	123
サムエル上 18-31 章	125
サムエル記下	127
サムエル下 1-10 章	127
サムエル下 11-24 章	129
列王紀上	132
列王上 1-10 章	132
列王上 11-16 章	133
列王上 17-22 章	135
列王紀下	137
列王下 1-13 章	137
列王下 14-25 章	141
歴代志上	144
歴代志上 1-29 章	144
歴代志下	146
歴代志下 1-36 章	146
エズラ記	147
エズラ 1-10 章	147
ネヘミヤ記	149
ネヘミヤ 1-13 章	149
エステル記	151
エステル 1-10 章	151
ヨブ記	153
ヨブ 1-42 章	153
詩篇	156
詩篇 1-150 篇	156
箴言	160
箴言 1-31 章	160
伝道の書	162
伝道の書 1-12 章	162
雅歌	163
イザヤ書	164
イザヤ 1-12 章	164
イザヤ 13-23 章	168
イザヤ 24-35 章	169
イザヤ 36-39 章	171
イザヤ 40-47 章	171
イザヤ 48-66 章	173
エレミヤ書	177
エレミヤ 1-19 章	177
エレミヤ 20-29 章	180
エレミヤ 30-33 章	181
エレミヤ 34-52 章	183

エレミヤの哀歌	185	ミカ書	207
哀歌 1-5章	185	ミカ 1-7 章	207
エゼキエル書	186	ナホム書	208
エゼキエル 1-3 章	186	ナホム 1-3 章	208
エゼキエル 4-32章	187	ハバクク書	209
エゼキエル33-48章	189	ハバクク 1-3 章	209
ダニエル書	194	ゼパニヤ書	210
ダニエル 1-12章	194	ゼパニヤ 1-3 章	210
ホセア書	199	ハガイ書	211
ホセア 1-14章	199	ハガイ 1-2 章	211
ヨエル書	201	ゼカリヤ書	213
ヨエル 1-3 章	201	ゼカリヤ 1-14章	213
アモス書	202	マラキ書	215
アモス 1-9 章	202	マラキ 1-4 章	215
オバデヤ書	204	『家族-世界への宣言』	218
オバデヤ 1章	204	イスラエルとユダの王と預言者	219
ヨナ書	205	絵	223
ヨナ 1-4 章	205		

旧約聖書教師用手引きの序文

「教会教育システムにおける宗教教育の目標は、……個人、家族、神権指導者が教会の使命を達成できるように援助することにある。」(『福音を教える—教会教育システム教師ならびに指導者用手引き』[1994年], 3) この目的を達成するために、まず初めに強調すべき事柄は、標準聖典と預言者たちの言葉のままにイエス・キリストの福音を生徒たちに教えることである。この手引きは、教授経験、また言語や国籍の違いにかかわらず、教師がその目的を達成できるよう援助するために作成されたものである。

次に強調すべき事柄は、訓戒と、模範によって教えるということである。訓戒と模範によって教える人々は、福音を最も効果的に教えることができる。訓戒によって教えるためには、まず「研究によって、また信仰によって」(教義と聖約88:118), イエス・キリストの福音の原則を理解すべく努力する必要がある。そして模範によって教えるためには、自分自身の生活の中で福音を実践していかなければならない。十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老は次のように教えている。「力は、教師がなし得るかぎりを尽くして備えるときに与えられます。それは、個々のレッスンだけでなく、実際の生活において御靈と調和した生活をしていく中で与えられるものです。靈感を求めて御靈に頼るようになるなら、教師は、自分は靈感によって教えることができるという確信を持って……生徒たちの前に立つことができます。」(Teach Ye Diligently [1975年], 306) パッカー長老が語ったこの力は、教師が自ら教える原則や教義について、個人的な証を述べるときによく現れるものである。

この手引きの使用法

教師がレッスンの準備を行う際に、第一の資料とすべきものは聖典である。聖文の研究、レッスンの準備の助けとして、手もとに置くべき資料には以下のものがある。

- 2冊のインスティテュート生徒用資料、宗教コース301および302—『旧約聖書：創世記－サムエル記下』(32489 300) および『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』(32498 300)
- 家庭学習セミナリー生徒用資料—『旧約聖書生徒用学習ガイド』(34189 300)
- 『「旧約聖書」ビデオガイド』(32318 300)
- 本書—『旧約聖書教師用手引き』

これらの資料は、生徒たちに教えるための準備として自分自身が行う聖文の学習に置き換えられるものではなく、聖靈の靈的な導きに代わり得るものでもない。あくまでもレッスンの準備のための補助的な資料である。特に、『旧約聖書教師用手引き』は、一塊の聖句ブロックに関して序説的な情報を提供し、また学び取るべき重要な福音の原則を概説し、生徒たちがそれらの原則を理解し生活の中で応用できるようにするにはどのように教えたらよいか、様々な提案をしている。

「教会教育システム当局は週日の設定として、教えるための時間をもっと割ける所では、聖典の各書をその配列順

に従って教えるという決定をした。聖典をその配列順に教えるのは、イエス・キリストの福音を教えるための最良の方法の一つである。順次聖典教授法では、標準聖典に配列されている順序に従って各書を教えていく。」(『福音を教える』20; 順次聖典教授法に関するより詳細な情報についてはこのページを参照。) この手引きでは聖句を標準聖典の掲載順に学んでいくが、各聖句ブロックのすべての聖句について、教えるためのアイデアを提示しているわけではない。教えるためのアイデアは、インスティテュート生徒用資料とセミナリー生徒用学習ガイドにも載せられている。

『福音を教える—教会教育システム教師ならびに指導者用手引き』(34829 300) は、教会教育システムのクラスを教える際に役立つ詳細な情報を提供している。教師はその内容にも精通しておく必要がある。以下に挙げる幾つかの一般的提案も、教師がレッスンの準備に取り組むうえで助けになるであろう。

福音を研究し教えるために自分自身を備える

- 福音を実践する。
- 研究し、備え、教えるときに、御靈の導きを求めて祈る。
- 生徒たちの必要を満たすために、主を信じる信仰、また御靈の力に対する信仰、聖文の力に対する信仰を実践する。

何を教えるかを決める

- 自分が行うレッスンの中で聖典のどの部分を採り上げたいと思うかを決める。この手引きは幾つもの聖句ブロックに分けられている。それぞれの聖句ブロックは、どこで話の筋や主題が変わるかを示している。5-6ページに書かれている学習進度ガイドは、毎日あるいは毎週どのくらいの資料を学んでいくかを決めるのに役立てることができる。
- 採り上げる聖句ブロックを入念に研究する。教義、原則、出来事、難しい語句などに注意しながら、その聖句ブロックを数回読む。本書、またインスティテュート生徒用資料、セミナリー生徒用学習ガイドも、聖句ブロックを理解し、クラスの生徒たちにとって何が大切かを見極めるのに役立つであろう。あなた自身が聖句ブロックの中に何か靈感を与えるものを見いだすなら、より効果的に教えることができるようになる。また、生徒たちにも同じような発見をするように導くことができる。
- 十二使徒定員会会員のヘンリー・B・アイリング長老は次のように語った。「皆さんが旧約聖書の歴史と物語を教えてくださることを願っています。そして、それらのページに記されている聖約と犠牲の教義を明確に教えてくださるよう願っています。」(Covenants and Sacrifice [宗教教育者への説教, 1995年8月15日], 7) 生徒たちが学ぶべき最も重要な教義、原則、出来事を選択する。御靈の促しと生徒たちが必要としているものを基に、何を教えたらよいか決めるようにする。

どのように教えるかを決める

- 教えたいと思う出来事、原則、教義の各々について、少なくとも一つの教授法を選ぶ。自分自身で考えた方法、あるいはカリキュラム用の資料の中に提案されている方法を活用する。
- 生徒たちの自発的な準備や積極的な参加、実生活への応用などを促す方法を選ぶ。

1. **自発的な準備**とは、生徒たちが靈的にも、また知的な面でも、注意を向け、心を集中させ、学習体験の中に進んで参加する備えができていることを意味する。「準備とは、心と思いの状態を言う。」(『福音を教える』、13) それはレッスンを始めるために用いる仕掛けというようなものではない。生徒たちの興味や関心の中核となっているものに絶えず心を向けるということである。

2. **積極的な参加**とは、生徒たちが学習過程の中に熱心にかかわっていくという意味である。生徒たちの積極的な参加には、身体面、感情面、知的面、靈的面などの要素が考えられる。生徒たちは積極的に参加すればするほど、レッスンの内容をさらによく理解し、記憶し、応用することができるようになる。

3. **実生活への応用**とは、生徒たちがレッスンで学んだ教えを受け入れて、日々の暮らしの中で実践し、それらの原則に従った生活をするよう努力することを意味する。

この手引きの構成

各聖句ブロックに対応する資料が、3つのセクションに載せられている。

「はじめに」に紹介されている資料

「はじめに」は、各書および各聖句ブロックに設けられている。各書の「はじめに」は、歴史や聖典の中における位置付けという観点からその書を理解できるように、背景となる資料やそのほかの情報を載せている。聖書の中での位置付けや目的を理解することで、聖文研究がもっと意義深いものとなり、そこから多くを得られるようになる。各聖句ブロックの「はじめに」は、各章の聖書の中での位置付けや目的を理解するうえで助けとなる。「はじめに」は、聖文研究をより良いものとする洞察力をしばしば与え、各聖句ブロックの重要性を理解するうえで役に立つ。インスティテュート生徒用資料とセミナリー生徒用学習ガイドにも「はじめに」が含まれている。

これらの資料と情報を、次の点において役立てることができる。

- 生徒たちの意欲と積極的な姿勢を引き出す質問を考える。
- 生徒に、背景となる情報や聖典の中から読み取るべき事柄を伝えることで、予習するのを助ける。
- クラスで提示したり黒板に書いたりする引用文、また生徒たちが各自の聖典に記入する注釈を決める。

学び取るべき重要な福音の原則

聖句ブロックの中から多くの重要な原則を見いだすことができる。このセクションには、教師が生徒たちに教えるべき重要な事柄が幾つか挙げられている。以下に挙げるのは、教師がレッスンの中で福音の原則を用いる際の幾つかの方法である。

- 正しい教義を教えるようにするための一つの指針として用いる。
- 生徒たちに何を教える必要があるかを判断するための助けとして活用する。
- 聖句ブロックを研究する中で学び取るべき原則を生徒たちに伝えるために、それらを黒板に書き上げる。
- 生徒たちに、その教義を裏付け、さらに明確にする聖句をほかにも探すように促す。

教え方の提案

このセクションには、聖句ブロックの中から選んだ出来事、原則、教義などをどう教えたらよいかという点について、考慮に値するアイデアが提案されている。教師はこれらの提案を必ず採用するように義務付けられているわけではない。これらの提案は教師にとって、御靈の導きを得て生徒たちの様々な必要について深く考えるうえで役立つ情報となるであろう。教師は、セミナリー生徒用学習ガイドの中に、クラスで実際に教えるときに活用できる有益な提案を見いだすこともできる(「教師のための『教義と聖約および教会歴史生徒用学習ガイド』の紹介」、3-4参照)。

「教え方の提案」のセクションには以下の項目がある。

- **強調点**。この提案の各セクションの冒頭には、節や章と、提案の中で強調されている原則が表記されている。これは、その聖句ブロックの中の「学び取るべき重要な福音の原則」のセクションに書かれている原則と一致している場合が多い。

- **マスター聖句**。教えるための提案の中にマスター聖句が含まれている場合は、左のマークで分かるようになっている。当時十二使徒定員会会長であったハワード・W・ハンター長老は次のように話している。「わたしたちは、聖句の場所を見つけて示せるほどには聖典をよく理解していないために、自分は必要な助けを見いだすことができないと恥じ入ったり、恐れや気後れを抱いたりしたままクラスを出て行く生徒が、一人もないようにと望んでいます。」(Eternal Investments[宗教教育者への講話、1989年2月10日]、2)

「マスター聖句」は、聖句の見つけ方、またその意味の理解の仕方、実生活への応用の仕方などを生徒たちに教えるためにある。セミナリーで特に強調して学ぶ100の聖句(コースごとに25の聖句)が選ばれている。これらの聖句は「教え方の提案」のセクションに、「マスター聖句」のマークとともに表記されている。教師は、生徒たちがこれらの聖句をマスターできるように助ける必要がある。そのために、これらの聖句についてレッスンの中で教えたり、自分自身で学ぶように促したりしていく。クラスの中でマスター聖句に関する活動を促すための方法については、付録の「マスター聖句一覧表」「マ

スター聖句の習得」を参照する。『福音を教える——教会教育システム教師ならびに指導者用手引き』32-33ページの提案も参照する。

-  **ウイークリー・アイコン。**教えるための提案の中には、このマークで表示されているものもある。このマークのある箇所には、家庭学習プログラムの教師、あるいは、より広い聖句のブロックを教える場合の提案がなされている。
- **予想所要時間の表記。**太文字で表記された見出し部分の最後の箇所の括弧内には、提案に添った教え方をする場合に、およそどのくらいの時間がかかるかが示されている。これは毎日のレッスンの計画を助けるためのものであり、提案された教え方にどれほどの時間をかけるべきであるか示すものではない。

その他の教師用資料

-  **『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』(53058 300)。**このビデオパッケージには、生徒たちに旧約聖書を教えるのに役立つプレゼンテーションが含まれている。『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』を用いて教えるための提案は、『「旧約聖書」ビデオガイド』(34810 300)の中に載せられている。ビデオプレゼンテーションが用意されている聖句ブロックは、このアイコンと、「教え方の提案」セクションの初めの表記で分かるようになっている。
- **特別な援助を必要とする生徒。**「特別な援助を必要とする」とは、特別な状況にある生徒を示すために用いられる一般的な表現である。その中には、読書や学習能力などの障害、行動障害、知的障害などの状況にある人々も含まれる。また服役中のや特殊教育を受けている人、車いす使用者、寝たきりの生活を余儀なくされている人、視覚障害者、聴覚障害者なども含まれる。

預言者ジョセフ・スミスはこう述べている。「神がこの世へ遣わされた人は、すべて成長する可能性を秘めています。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976年], 354) 教師はすべての生徒の学習上の必要を満たすために、力の及ぶ限りの努力をする必要がある。すべての生徒のあらゆる必要を常時満たしていくのは恐らく不可能である。しかし教師は、生徒たちが各レッスンに参加し、何かを学び取れるようにするために、クラスの生徒たちの特別な援助の必要性を見極めたうえで、通常の教科資料による教え方に調整を加えることができる。ほかの生徒たちに特別な援助を必要とする生徒たちを助ける機会を与えることもできる。そのような無私の奉仕の機会は、行う側と受ける側の双方にとって祝福となる。

通常の教科資料に加えて、特別な援助を必要とする生徒たちを教えるのを助けるために、幾つかの資料がほかにも用意されている。これらの資料には、点字印刷物や視覚資料セットなどがある。教会機関誌『リアホナ』は、生徒たちの特別な必要に関連する記事、写真や絵、アイデアなどのすばらしい源である。

教師のための『旧約聖書生徒用学習ガイド』の紹介

『旧約聖書生徒用学習ガイド』は、生徒たちが旧約聖書を読み、その教えについて深く考え、実践していく助けとなる。『旧約聖書生徒用学習ガイド』は、家庭学習プログラム用の必須資料だが、多くのデイリーコースの教師にとっても、準備や実際のレッスンに役立つものとなるであろう。

家庭学習セミナリープログラムにおける使用

セミナリーは学校年度を通して週に5日行われるプログラム（あるいはそれに相当するプログラム）である。家庭学習セミナリーのクラスが開かれるのは週に1度だけであるために、家庭学習コースの生徒たちは、ほかの4日は生徒用学習ガイドを用いて学ぶように求められている。生徒たちは毎日聖文を読むように勧められているが、家庭学習コースの生徒たちは、学習ガイドに述べられている活動や割り当てを行うために、各週4日間、1日30-40分を用いるように期待されていることを理解しておく必要がある。

生徒たちは、以前の教科資料のように、自分の学習ガイドに書き込みをするように求められてはいない。何かを記録して提出するよう割り当てる場合は、以下の二つの選択肢の中から一つを選んで活用する。

- 各生徒に2冊のノートを用意させ、交互に用いさせる。生徒は最初の週に1冊目のノートに記入し、クラスに出席するときに教師に提出する。教師がノートに目を通し、返答を書くまでの間、生徒はもう1冊のノートに記入し、次回のクラスのときに提出していたノートと交換する。
- 一人一人の生徒に、その割り当てをルーズリーフ式のノートに記入させ、書き終えたページを毎週提出させる。教師がそれを返却すれば、生徒はそのページを自分のファイルに戻すことができる。

教師は毎週、生徒たちのノートを集めた後に、目を通して、コメントを記入する。これは教師が一人一人の生徒について知り、学習内容に対する彼らの理解度を判断するための非常に優れた方法である。教師は週例のクラスの中で、ノートに書き込んだことの一部を発表させることにより、生徒たちのやる気を起こすことができる。

生徒が提出するノートの評価

生徒用学習ガイドに書かれている様々な活動を評価するための解答用紙はない。答えの幾つかは聖典の中に示されている。したがって、教師がそれぞれの活動の内容をよく理解するならば、答えは明らかになる。生徒自身のアイデア、経験、判断、証などがあがしめがちが答えの基準となる。このような場合には、正しい答えは一つだけとは限らない。生徒に対する評価は、それぞれの能力に応じてどれほど努力したかを基準に判断する。教師は自分の感想や評価を書く場合に、生徒たちが誤解している事柄や明らかに間違っている答えについては、正しい答えを示すとともに、その努力を称賛する。

特別な援助が必要な生徒たちには特に配慮し、それに応じて生徒用学習ガイドの内容に調整を加えた教え方を

する必要がある。例えば、文章を書くという点について障害のある生徒については、テープレコーダーを用いて、答えを録音させるようにしても差し支えない。また友人や家族に代筆してもらうようにしてもよい。教師は、特別な必要を考慮して、一部の生徒に割り当てる学習活動については、その数を調整しなければならない場合もある。ほかの生徒たちは、それ以上の活動ができるかもしれない。彼らには最小限の条件を越えた活動をするように促すこともできる。

デイリーセミナリープログラムにおける使用

『旧約聖書生徒用学習ガイド』をデイリーセミナリープログラムに参加する全ての生徒が持つ必要はない。しかし、生徒が「聖文を理解する」のセクションを参照できるよう、ガイドを人数分用意しておくべきである。このセクションには難しい語句への理解を助ける記述や、引用文、説明などが載せられている（訳注——このセクションは原文である英語に忠実に翻訳されており、日本語として不自然なものも含まれている）。

レッスンの準備をするときには、どのような教え方をするかを決めるために、各聖句ブロックの冒頭部分と「聖文を研究する」のセクションを読むようにする。例えば、聖句ブロックの冒頭部分には、生徒たちの積極的な姿勢を引き出すのに役立つ話し合いのための質問が載せられている。教師はレッスンの中で、生徒たちに「聖文を研究する」のセクションの活動の一つをさせたり、グループあるいはクラス全体で、生徒たちに各自が書いたことを発表させたりしてもよい。学習ガイドに書かれているとおりの活動ができない場合でも、クラスの状況に合った良いアイデアとなることがある。

旧約聖書を教えるためのスケジュール調整

旧約聖書は、モルモン書の約2倍のページ数があり、教会の標準聖典の中で最も容量のある書物である。旧約聖書のすべての聖句を1学習年度内に教えることは不可能である。そのため、適切なスケジュールで教えていくことが重要になる。最初の部分にあまり多くの時間をかけすぎると、終わりの部分にあるメッセージを教える時間がなくなってしまうことにもなりかねない。しかし、進度が速すぎると、生徒たちが旧約聖書の重要な部分を理解する機会を逃してしまうこともあり得る。

この手引きをすることで、旧約聖書の最も重要な部分を選択して教えることができる。次の学習進度ガイドは、生徒に推奨されている読書課題を与え、毎日、毎週のレッスンの進度を決めるのに役立つ。全世界的に見ると、セミナリープログラムには実に多くのタイプがある。したがって、この手引きをそれらすべてのタイプに合った内容にするのは不可能なことである。36週対応の学習進度ガイドは、平均的なセミナリープログラムであり、同様の読書進度表が生徒用学習ガイドにも掲載されている。教師はこのコースのスケジュールを、自分たちのプログラムと生徒たちの必要に合わせて調整してもよい。

教会の青少年にイエス・キリストの福音を教えることは、神から託された神聖な使命であり、喜びをもたらす責任である。今年、旧約聖書を研究していく中で、教師と生徒たちのうえに主の祝福が注がれるように。

学習年度36週対応の学習進度ガイド

セミナリーのクラスは週に5回開かれるが、準備されているレッスンの資料は4日分のみである。これは学校の行事や集会、また特別なセミナリー活動や発表、マスター聖句に関連した活動、テストやクイズなどの活動のために、プログラムが中断されることを考慮した結果である。教師は一つの聖句ブロックをより効果的に教えるために、2日

あるいはそれ以上の日数を使っても差し支えない。このような柔軟性を持たせたのは、生徒たちそれぞれの必要を満たすために御靈の導きを求めるよう、教師を促すためである。

このガイドに従うなら、生徒は旧約聖書を約395ページ読むことになる。35週間で1週間平均11.3ページである。

週	教えるべき聖句ブロックの範囲（提案）	生徒の読書課題（提案）
1	第1-2日：「旧約聖書の概要」と「聖文研究のための補助資料」 第3-4日：「偉大な幸福の計画」	
2	第1日：アブラハム3章 第2日：モーセ1章 第3日：創世1-2章；モーセ2-3章；アブラハム4-5章 第4日：創世3章；モーセ4章	モーセ1-4章；アブラハム3章
3	第1日：創世4章；モーセ5章 第2-4日：創世5章；モーセ6-7章	モーセ5-7章
4	第1日：創世6章；モーセ8章 第2-3日：創世7-10章 第4日：創世11章	創世6-9章；11章；モーセ8章
5	第1日：創世12章；アブラハム1-2章 第2日：創世13-14章 第3日：創世15-16章 第4日：創世17章	創世13-17章；アブラハム1-2章
6	第1日：創世18-19章 第2日：創世20章 第3日：創世21-22章 第4日：創世23章	創世18-19章；21-22章
7	第1日：創世24章 第2日：創世25-27章 第3日：創世28-30章 第4日：創世31-33章	創世24章；26-30章；32-33章
8	第1日：創世34-36章 第2日：創世37章 第3日：創世38-39章 第4日：創世40-41章	創世35章；37章；39-41章
9	第1日：創世42-45章 第2日：創世46-47章 第3日：創世48-49章 第4日：創世50章	創世42-46章；48-50章
10	第1日：出エジプト1-2章 第2日：出エジプト3-4章 第3日：出エジプト5-6章 第4日：出エジプト7-10章	出エジプト1-10章
11	第1-2日：出エジプト11-13章 第3日：出エジプト14-15章 第4日：出エジプト16-17章	出エジプト11-14章；16-17章
12	第1日：出エジプト18-19章 第2日：出エジプト20:1-11 第3日：出エジプト20:12-26 第4日：出エジプト21-24章	出エジプト18-20章；24章

週	教えるべき聖句ブロックの範囲（提案）	生徒の読書課題（提案）
13	第1日：出エジプト25-27章；30章 第2日：出エジプト28-29章；31章 第3日：出エジプト32章 第4日：出エジプト33-40章	出エジプト28-29章；32-34章
14	第1日：レビ1-7章 第2日：レビ8-11章 第3日：レビ12-18章 第4日：レビ19-27章	レビ1章；10-11章；14章；16章；19章；26章
15	第1日：民数1-10章 第2日：民数11-15章 第3日：民数16-21章 第4日：民数22-36章	民数6章；9章；11-14章；16章；22-24章；27章
16	第1日：申命1-6章 第2日：申命7-13章 第3日：申命14-26章 第4日：申命27-34章	申命4章；6章；8-9章；18章；26章；28章；30章；32章
17	第1日：ヨシュア1章 第2日：ヨシュア2-5章 第3日：ヨシュア6-10章 第4日：ヨシュア11-24章	ヨシュア1-7章；10章；23-24章
18	第1日：士師1-5章 第2日：士師6-9章 第3日：士師10-21章 第4日：ルツ記	士師2-3章；6-8章；13-16章；ルツ1-4章
19	第1日：サムエル上1-2章 第2日：サムエル上3章 第3日：サムエル上4-8章 第4日：サムエル上9-11章	サムエル上1-3章；7-10章
20	第1日：サムエル上12-15章 第2日：サムエル上16-17章 第3日：サムエル上18-24章 第4日：サムエル上25-31章	サムエル上12-13章；15-17章；24章；26章
21	第1日：サムエル下1-6章 第2日：サムエル下7-10章 第3日：サムエル下11-12章 第4日：サムエル下13-24章	サムエル下6-7章；9章；11-14章
22	第1日：列王上1-10章 第2日：列王上11-16章 第3日：列王上17章 第4日：列王上18-22章	列王上3章；8-9章；11-12章；17-19章
23	第1日：列王下1-3章 第2日：列王下4-13章 第3日：列王下14-20章 第4日：列王下21-25章	列王下2章；4-6章；17-19章；22-23章

週	教えるべき聖句ブロック の範囲（提案）	生徒の読書課題 (提案)	週	教えるべき聖句ブロック の範囲（提案）	生徒の読書課題 (提案)
24	第1日：歴代志上下 第2日：エズラ1-6章 第3日：エズラ7-10章 第4日：ネヘミヤ記	歴代下15章；20章； エズラ9-10章； ネヘミヤ1章；6章； 8章	31	第1日：エレミヤ30-32章 第2日：エレミヤ33-52章 第3日：哀歌 第4日：エゼキエル1-3章	エレミヤ30-31章； 52章；哀歌1章；5章； エゼキエル2-3章
25	第1日：エステル記 第2日：ヨブ1-18章 第3日：ヨブ19-37章 第4日：ヨブ38-42章	エステル1-10章； ヨブ1-3章；38章； 42章	32	第1日：エゼキエル4-32章 第2日：エゼキエル33-34章 第3日：エゼキエル37章 第4日：エゼキエル38-48章	エゼキエル18章； 33-34章；37章
26	第1日：詩篇1-24篇 第2日：詩篇25-150篇 第3日：箴言 第4日：伝道の書（雅歌についての説明）	詩篇22-24篇；箴言 3章；6章；22章； 30-31章；伝道1-2 章；4-5章；12章	33	第1日：ダニエル1章 第2日：ダニエル2章 第3日：ダニエル3-5章 第4日：ダニエル6-12章	ダニエル1-3章； 6章
27	第1日：イザヤ1-2章 第2日：イザヤ3-5章 第3日：イザヤ6-9章 第4日：イザヤ10-23章	イザヤ1-2章；4- 5章；11章；14章	34	第1日：ホセア書 第2日：ヨエル書 第3日：アモス書 第4日：オバデヤ書	ホセア1-3章；6章； ヨエル2章； アモス3-4章
28	第1日：イザヤ24-28章 第2日：イザヤ29章 第3日：イザヤ30-35章 第4日：イザヤ36-47章	イザヤ24章；26章； 29章；40章；43章； 46-47章	35	第1日：ヨナ書 第2日：ミカ書 第3日：ナホム書；ハバクク書 第4日：ゼパニヤ書；ハガイ書	ヨナ1-4章； ミカ3章； ゼパニヤ3章； ハガイ1章
29	第1日：イザヤ48-52章 第2日：イザヤ53章 第3日：イザヤ54-58章 第4日：イザヤ59-66章	イザヤ48-50章； 53章；55章； 58-59章	36	第1日：ゼカリヤ書 第2日：マラキ1-3章 第3日：マラキ4章 第4日：証とお別れ会	ゼカリヤ10章；14章； マラキ3-4章
30	第1日：エレミヤ1-6章 第2日：エレミヤ7-15章 第3日：エレミヤ16-22章 第4日：エレミヤ23-29章	エレミヤ1章；7章； 16章；23章			

旧約聖書の概要

はじめに

ボイド・K・パッカー長老は、教会教育システムの教師に向けて次のように話している。

「まさしくこの初めのときに、**簡潔**でありながらも、入念に構成されたコースの全体像を提示することには、大きな価値があります。……

このスタート時のごくわずかな時間は、相対的に見ても非常に短い時間の投資ですが、それによって生徒たちは、コースのどこに自分が位置するか把握できるようになります。生徒たちはコースについて何がしかの理解を得ることができます。そして生徒たちは、すべての要素が一つに調和することを理解すると、より多くのものを得、知識の光は明るい輝きをさらに増し加えます。事前に概要をつかむことで全体の枠組みができ、それに投資した時間、努力に勝る価値をもたらすのです。」(The Great Plan of Happiness [宗教教育者への講話、1993年8月10日]、2)

旧約聖書の紹介と全体像のレッスンを組み立て、教えるための時間を取る。そして生徒たちが旧約聖書の大切さを理解し、今年、読み、学んでいくことになる物語、真理、そして洞察への期待を高められるよう助ける。教師と生徒が、イエス・キリストの神聖な使命に対する理解を深めていけるよう力づける。

旧約聖書とは何か

旧約聖書とは、この世の創造から紀元前400年ごろまでの記録で、神とその子供たちとの交わりについて記されている。旧約聖書の「約」という字は「聖約」という意味である。聖約とは、個人あるいは集団と主との間で交わされる特別な関係を意味する。主はこの聖約の中で、報い（祝福、救い、昇栄）とそれに求められる努力（律法と儀式への従順）を定められている。交わした約束を守り、信仰をもって最後まで堪え忍ぶときに聖約は成就する。そして、主はわたしたちが死すべき状態にある間に祝福を授け、この世の生涯を終えたときには、救いと昇栄を与えてくださる。旧約聖書には、主がその子らに与えられた聖約と教義が含まれている。それは、主の子らをメシヤの降誕に備えさせ、主のみもとへ戻って住む方法を教えるために与えられたものである。

旧約聖書は、過去の靈感あふれる言葉であり、現代のための重要なメッセージが記されている。また、末日聖徒が使用するすべての聖典の歴史的および教義的な源であり、わたしたちがだれで、何を信じているのかを理解するための基盤を据えている。現代の啓示を通して、わたしたちはもっと正確に旧約聖書を理解し、その価値を感謝することができる。

なぜ旧約聖書を学ぶ必要があるのか

大管長会の第二顧問を務めていたマリオン・G・ロムニ一管長は次のように語った。

「旧約聖書のメッセージは、キリストとその降誕、および贖罪のメッセージである。……〔2ニーファイ25-33章〕に記されているメッセージほど、旧約聖書を簡潔にはっきりと、そして敬意を込めて説明している言葉はないと思う。旧約聖書のメッセージを理解し、教えたいと望む人は、これらの章を注意深く、祈りをもって研究する必要があるよう思う。これらの章でニーファイは、重要でないものから重要なものを振るい分けている。また、旧約聖書の教えが末日に生きるわたしたちにとってどれだけ重要なかを教えている。〔2ニーファイ25:23-26参照〕……

……旧約聖書は、救いのメッセージであり、救いにあずかるために従わなければならない戒めが記されている。」(“The Message of the Old Testament,” A Symposium on the Old Testamentで引用、1979年、5-6)

古代と現代の預言者たちは、神を知るよう人々を導くうえで、聖文が重要な価値を持つことを強調してきた。使徒パウロは、テモテに次のように書き記した。「また幼い時から、聖書に親し〔んだ。〕」(2テモテ3:15) テモテが手にすることのできた聖典は、今日わたしたちに与えられている旧約聖書の記録が含まれている。パウロがこれらの神聖な記録について語った以下の言葉に注目する。

- 聖文は「救いに至る知恵を……与えうる書物」である。(2テモテ3:15)
- 聖文は、すべて「神の靈感を受けて書かれたもの」である。(16節)
- 聖文は、「人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益」である。(16節)
- 聖文は、義人が完全になり、「あらゆる良いわざに対して十分な準備」をする力となる。(17節)

モルモン書の多くの部分が、旧約聖書の聖句や引用を含んでいる。預言者ニーファイは、真鑑版から多くの真理を民に教えた。これらの版には、モーセやイザヤの記録を含む、今日の旧約聖書の記録が記されていた。ニーファイは真鑑版を以下の目的に使用した。

- 「主がほかの地で昔の人々の中で行なわれたことを」知らせるため。(1ニーファイ19:22)
- 「主なる頼い主を信じるようさらに十分に勧めるため。」(23節)
- 聖文を自分たちに当てはめて（または応用し）、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするため。(23節参照)

ボイド・K・パッカー長老は次のように述べた。

「旧約聖書のコースでは、創造と人類の堕落など、神殿で受けるエンダウメントの基礎を学びます。また預言者の役割について学びます。従順、犠牲、誓約、アロン、メルキゼデク、神権といった言葉について熟知するようになります。

ユダヤ教やキリスト教の律法、そしてイスラム教にまで通じる基礎を全体的に学びます。

また、什分の一やさしがれ物を納める理由を学びます。来たるべきメシヤと福音の回復の預言について勉強します。エリヤが結び固めの力を行使するのを見、結び固めの鍵を携えてエリヤが遣わされるというマラキの預言に耳を傾けます。

セミナーを通して旧約聖書を知ることができます。昨今のキリスト教界では、旧約聖書はほとんど顧みられなくなっていますが、わたしたちにとっては今でも旧約聖書はイエス・キリストを証する書物なのです。」（『聖徒の道』1990年7月号、42）

以下の項目は、旧約聖書の注意深い研究を単に有意義なものとするだけでなく、非常に重要なものとしてくれる。

- 旧約の神であるエホバは、約束されたメシヤ、肉体を受けられる前のイエス・キリストの御名である。
- エホバ（イエス・キリスト）は、天と地を創造された。
- アダムとエバの堕落は実際に起こった。それは、全人類が進歩するうえで欠かせない段階であった。
- 神は人々の生活や国々の動きに直接介入することがおきになるし、またそうされる。
- わたしたちは神聖な聖約を交わし、それを守ることで神から祝福を受ける。
- 偶像礼拝はどのような形のものであれ、靈的な破壊をもたらす。
- 主は、末日にイスラエルを文字どおり集合させることを約束しておられる。
- 主の降誕と再臨に関する預言が記されている。
- 御父の幸福の計画は、預言者を通してその子供たちに教えられている。

時間的にもまた文化的にも、旧約聖書の時代とは、はるかに懸け離れた時代に生きているわたしたちにとって、聖書の研究は非常に難しいものがある。それだけでなく、わたしたちが現在手にしている聖書は決して完全なものではない。「分かりやすく大変貴い多くの部分」が取り去られているのである（1ニーファイ13:26）。取り去られた多くの部分が、モルモン書、ジョセフ・スミス訳の聖書、現代の様々な啓示を通して回復されてきた（1ニーファイ13:

33-41参照）。さらに、聖書の文章表現の中には、そのほんとうの意味が、象徴的な言葉の中に隠されている箇所がある。預言者の言葉の真の意味が、象徴的な言葉の中に隠されるこのような表現法には有益な面もあった。というのは、「分かりやすく貴い部分」を取り去ろうとした人々は、理解するのがより難しい語句の多くを比較的完全な形のままに残してきたからである。これによって、数多くの偉大な真理が読まれ、理解されるべく、神が末日の聖徒たちに約束された聖靈の力と「預言の靈」（2ニーファイ25:4）によって守られてきた。

旧約聖書はどのような構成になっているのか

聖書は1冊の書物ではなく、複数の書物が一つにまとめられたものである。英語の「bible」（聖書）という言葉には、「書物」という意味がある。旧約聖書には39の書物が含まれ、それぞれの内容に応じて4つの主要項目に分けられる。これらの書物は必ずしも、それぞれが記録された順番どおりに配列されているわけではない。

1. **律法**——このグループは最初の五書、すなわち創世記から申命記まで構成されている。これらはモーセが記録したものである。これら5つの書には、天地の創造から神がモーセを取り上げられるまでの、人々に対する神の計らいの歴史が記されている。しばしば「律法」と呼ばれているのは、モーセの律法を含む、モーセに対する神の啓示が記されているからである。これら5つの書は、ギリシャ語で5つの部からなる書物を表す「Torah」（トーラー）または「Pentateuch」（モーセの五書）とも呼ばれている（『聖句ガイド』「モーセの五書」の項、259ページ参照）。
2. **歴史**——このグループは、ヨシュア記からエステル記まで構成されている。表題のとおり、多くの歴史物語が含まれている。
3. **詩歌または知恵文学**——ヨブ記から雅歌までの5つの書は、その大半がヘブライ人の詩的表現で記されている。
4. **預言者**——旧約聖書の残りの書には、それぞれの書の表題となっている預言者の教えが記されている。

聖書の起源と歴史に関するより詳細な情報については、『聖句ガイド』の「聖書」の項を参照する（147-148ページ参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 多くの「分かりやすく貴い部分」が取り去られたが、旧約聖書は神の御手によって取って置かれた。旧約聖書に含まれている教えは、現代にとって、またわたしたちの益にとって大切なものである（1ニーファイ13:20-29；信仰箇条1:8参照）。

考え方の提案

 旧約聖書の概要を教えるために、『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』1、「序——タイムカプセル」を用いることができる（考え方の提案のためには『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照する）。

旧約聖書の概要。 旧約聖書はこの時代のために、またわたしたちの利益のために取って置かれた。（30-35分）

タイムカプセルについて説明する。タイムカプセルとは、ある特定の時代の文化を示す記録や品物を入れた容器であり、将来開封できるように保存される。生徒に、紀元2050年に開封するタイムカプセルを作る手伝いをするように言う。黒板にタイムカプセルに似せた大きな箱を描く。自分の国の過去5年間を示すものを10点選ばせ、それを黒板に描いた箱の中に書く。それぞれが現代の社会についてどのようなことを表しているか話し合う時間を与える。旧約聖書は、靈的なタイムカプセルのようなものであることを理解できるよう助ける。旧約聖書には、様々な種類の靈的な記録が載っており、わたしたちのために取っておかれた。

聖書を開き、旧約聖書（創世記からマラキ書まで）には何ページあるか調べさせる。アダムとエバは紀元前約4,000年にエデンの園を離れた。マラキ書は紀元前400年ごろに記されている。旧約聖書の真ん中だと思う箇所を開かせる。次に創世記12章を開かせ、預言者アブラム（後に主がアブラハムと名付けられる）は、紀元前2,000年ごろに生きていたことを伝える。アダムからマラキまでのほぼ真ん中である。前半と後半の2,000年間のページ数を比較させる。（生徒用学習ガイドの「創世記、モーセ書、アブラハム書」の冒頭の部分には、最初の2,000年間についての情報をさらに与えるために主がどうされたかが記されている。）

生徒に、聖書の目次を開かせる。旧約聖書を項目ごと（律法、歴史、詩歌、預言者）に色分けさせ、それぞれ何が含まれているか話し合わせる（「旧約聖書はどのような構成になっているのか」8ページ参照）。

旧約聖書の中から、自分の好きな物語を挙げさせ、その理由を尋ねる。

この1年間、多くの試練を経験した実在した人々について学ぶことを伝える。

- 不可能だと思えることを達成するよう求められたことがありますか。アブラハムが求められたことと結びつけてみましょう。
- 兄弟や姉妹から不公平な扱いをされたことがありますか。ヨセフはどのように感じたか分かるでしょうか。
- いじわるな人に立ち向かったことがありますか。ダビデも同じような経験をしました。
- 求められたことに恐れを抱いたことはありますか。今年、ギデオンが同じような状態をどのように克服したかを学びます。
- 現代の人々は、純潔の律法を破るよう誘惑されているでしょうか。ヨセフとダビデは同じ誘惑を経験しましたが、まったく異なった対処をしました。

古代の聖徒たちが直面した試練は、こんにち 今日わたしたちが経験するものとあまり変わりないことを証する。この靈的なタイムカプセルに含まれているものは過去のものであるが、旧約聖書の教義、歴史、そして物語は今日において大いなる価値がある。旧約聖書はこの時代のために、またわたしたちの利益のために編さんされ、取っておかれた。

タイムカプセルと旧約聖書に含まれているものは、それを開封しなければ発見できないし、注意深く調べなければ理解することはできない。旧約聖書に対する人々の態度は、福音の原則に対する理解力とどのように結びつくか意見を求める。旧約聖書の学習を懸命な努力と祈りの態度をもって行うよう生徒を励ます。

聖文研究のための補助資料

末日聖典合本の中の学習補助資料

1995年に教会が発行した末日聖典合本（モルモン書、教義と聖約、高価な真珠）には、聖文の研究に役立つ学習補助資料が含まれている。それらの資料を活用するなら、聖文の研究をより有意義で報いあるものにすることができる。学習補助資料について詳しく知りたい場合は、『旧約聖書生徒用学習ガイド』にある「末日聖典の中の学習補助資料」の項を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・末日聖典の合本には、聖典に対する理解を深めるうえで助けとなる、優れた学習補助資料が含まれている。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』2「分かりやすくて貴い多くの部分」は、ジョセフ・スミス訳を通して聖書の失われた真理が回復されたことを教える際に役立つ（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』参照）。

聖文研究のための補助資料。末日聖典の合本に載せられている学習補助資料は、聖典を最大限に活用するための助けとなる。（40-45分）

教会発行の末日聖典合本の中には、聖文の研究に役立つ数多くの資料が掲載されている。これらは、生徒用学習ガイドの「末日聖典の中の学習補助資料」の項に詳しく説明されている。以下の提案は、生徒たちにそれらの資料の効果的な活用法を教えるのに役立つであろう。

ジョセフ・スミス訳。『聖句ガイド』にあるジョセフ・スミス訳について生徒に話す。『聖句ガイド』には、ジョセフ・スミス訳がすべて掲載されているわけではないことを説明する。

一つの例として、『聖句ガイド』にあるジョセフ・スミス訳出エジプト4:21とアモス7:3を読む。読んだ後で、預言者によってどのような変更が加えられたか見つける。

『聖句ガイド』。『聖句ガイド』には、語句や項目が標準聖典の参照聖句とともに五十音順に配列されている。聖典に登場する名前や語句についての意味や説明が記されている。教会の集会で話すよう依頼されたときにテーマにしたい項目を選び、『聖句ガイド』を使って参照聖句を見つけ、話の準備をする。

生徒は『聖句ガイド』を開き、イエス・キリストに関する様々な項目があることに注目する。

『聖句ガイド』の20ページを開き、アロンという人物は何人いて、それぞれどのような人物だったか調べる。また、『聖句ガイド』を使用することにより、簡単に参照聖句を見つけることも説明する。

『聖句ガイド』を使って、以下の項目について話し合

う。

- ・年表（「年表」193-197）
- ・四大福音書の協調性（「福音書」220-227）
- ・パウロの手紙（「パウロの手紙」201-203）

地図と地名索引。『聖句ガイド』にある「地図と地名索引」の項目の最初のページを開き、どのように使うか簡単に説明する。この項目には、地図上の場所が五十音順で記されている。生徒に、幾つかの都市や場所を地図上で探させる。

また生徒に、『聖句ガイド』「地図と地名索引」にある地図9-12を参照させる。これらの地図を参照することで、初期の教会の歴史がどこで繰り広げられたかが理解しやすくなる。ニューヨーク州マンチェスターのスミス家の農場からオハイオ州カートランドまで、どのくらい離れていたかを割り出させる。

聖文研究のための補助資料。学習補助資料を活用することによって、わたしたちは聖文への理解を増し加えることができる。（5-10分）

当時七十人会長会の一員だったリチャード・G・スコット長老の次の話を紹介する。スコット長老はこの話の中で、1979年と1981年発行の英語版聖典のために準備され、現在の最新版補助資料の基になった学習補助資料に言及し、次のように語っている。

「わたしはその新しい末日聖典の合本が中央幹部に初めて提示されたときのことを覚えています。その提示をしたのはマッコンキー長老でした。彼は1冊の本を取り上げ、文字が印刷されていない巻末のページに書かれた手書きの文字を読みました。『ブルース・R・マッコンキーへ』という言葉に続いて、『アメリア』（後に彼の妻となった女性の名前）という署名があり、彼が伝道本部へ着任した日付が書き込まれていました。彼はこう言いました。『わたしはこの聖典を持って世界中に行きました。よく使ってきました。3度製本し直しました。多くの聖句について、それがどのページにあるかも言えます。』それからこう付け加えました。『それでも、わたしはもうこの本を使うことはないでしょう。この聖典には、新しい聖典の中に含まれている、聖句の研究と理解を助けてくれる教授資料も効果的な道具もありませんから。』それを聞いてわたしは心に深い感銘を受けました。その翌日、わたしはマッコンキー長老のオフィスを訪ねる機会がありました。彼は大きな机を前に座っていました。手には定規と赤鉛筆を持ち、新しい版の聖典に印を付けていました。聖文を深く理解している人がこの新しい版が価値あるものであると認めているのです。わたしもそれに倣おうと心に決めました。」（“Spiritual Communication,” *Principles of the Gospel in Practice*, スペリー・シンポジウム1985〔1985年〕, 18-19で引用）

聖文研究のための補助資料。聖文研究のための補助資料に関連して学んだことを実際に活用できるように、生徒たちを助ける。(30-35分)

生徒たちに聖文研究のための補助資料について教える。その後で、レッスンの復習として以下の活動を行う。クラスを幾つかのグループに分けるとよい。

1. バプテスマに関して、以下の質問をする。

- a. 「バプテスマ」という言葉にはどんな意味があるでしょうか。
- b. バプテスマが、キリストの時代以前にも行われていたことを示す証拠はありますか。
- c. バプテスマは何を象徴しているでしょうか。
- d. バプテスマの4つの目的は何でしょうか。

2. 以下の各主題について述べた聖句を、生徒がそれぞれ3つずつ挙げる。

- a. 終わりの時
- b. 失われた聖典
- c. 預言
- d. 啓示

3. 1ニーファイ8章に書かれている、リーハイの命の木の示現に関する記録を読む。また、脚注の参照聖句を用いて、以下の象徴が何を表しているかを調べる。

- a. 水の流れている川
- b. 鉄の棒
- c. 暗黒の霧
- d. 大きく広々とした建物

4. 次の質問をする。「聖徒たちがニューヨーク州からグレートソルトレークへ移住したとき、どの州、準州、地域を通ったでしょうか。」

偉大な幸福の計画

はじめに

十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老は、1993年に、教会教育システムの教師たちに向けて、各年度の初めには、コースで学ぶ内容の概要に加えて、救いの計画の全体像を教えるべきであると話している。

「『幸福の計画』（これは、救いの計画について話す際に、最も好んで使う呼び名ですが）の全体像を簡潔にまとめたものが最初に示され、また度々確認できるなら、それは生徒たちにとって非常に価値あるものとなるでしょう。

皆さんに一つの課題を差し上げたいと思います。……皆さんへの課題は、幸福の計画、すなわち救いの計画の概要あるいは全体像をまとめたものを準備することです。一つの骨組みとしてそれを準備し、生徒たちがその上に、皆さんから学ぶ真理を築くことができるようにしてください。

初めは簡単な課題のように思えるかもしれません。しかし、わたしは断言します。簡単なものではありません。簡潔で分かりやすいものを成し遂げるのは、かなり難しいことなのです。最初は、あまりに多くのものを盛り込みたい気持ちに駆られるでしょう。この計画には、福音のすべての真理が含まれているのです。……

これは、教師としての皆さんの仕事の中で、最も難しいものとなるかもしれません。そして最も報いある仕事になるのは確かなことです。

皆さんができる幸福の計画の全体像は、聖典の真理の全容が簡単に把握できるものでなければなりません。そうすれば、生徒たちは計画に自分を当てはめることができます。……

手始めとして、幸福の計画の最も基本的な概要を示したいと思います。しかし、皆さんには自分で骨組みを作る必要があります。

『偉大な幸福の計画』、すなわち『贖いの計画』『救いの計画』の基本的な構成要素は以下のとおりです。

前世

靈の創造

選択の自由

天での戦い

物質的な創造

墮落と死すべき状態

イエス・キリストの福音の原則と儀式（第一の原則
——主イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、
バプテスマ……）

贖罪

墓を超えた生活

靈界

裁き

復活」（*The Great Plan of Happiness, 2-3*）

以下の情報は、教師が偉大な幸福の計画への理解を深め、自分自身でその全体像を作るのを援助するためのものである。教師は救いの計画について、パッカー長老が薦めている簡単な全体像以上のものを教えるといいう気持ちに駆られるかもしれない。しかし、救いの計画の詳細については、旧約聖書を研究するコースの中で論じていくということを念頭に置いて、その誘惑に負けないようにする必要がある。本手引きには、教え方の提案が掲載されており、それらは旧約聖書で教えられていることを教師が作った救いの計画の全体像と結びつけてくれる。

救いの計画は3幕物の演劇にたとえられる

1995年のファイヤサイドにおけるヤングアダルトへの講話の中で、十二使徒定員会会长代理のボイド・K・パッカーハー会長は次のように述べた。

「誕生から死に至る現世の生涯の歩みは、永遠の律法に従ったものであり、啓示の中で偉大な幸福の計画と述べられている一つの計画に添って進むものです。わたしが皆さんの中に植え付けたい一つの概念、一つの真理は、こうです。この計画には3つの部分があります。皆さんにはその中の、2番目すなわち真ん中の部分にいます。皆さんはその中で、誘惑や試練によって試されるでしょう。ことによると、悲劇によって試される場合もあります。そのことを理解してください。そうすれば人生の意味をさらによくわきまえ、疑い、失望、落胆などの病に立ち向かうことができるようになります。

3つに区分される贖いの計画は、3幕物の壮大な演劇にたとえることができます。第1幕のタイトルは『前世』です。聖典はそれを第一の位と呼んでいます（ユダ1:6；アブラハム3:26, 28参照）。第2幕は、誕生から復活の時までを扱う『第二の位』です。そして第3幕は『死後の生活』あるいは『永遠の命』と呼ばれています。

現世におけるわたしたちは、第2幕のカーテンが開くのとともに、舞台に上がった役者のような存在です。第1幕のことは忘れてはいます。この作品は、数多くの筋が絡み合って、登場人物のだれとだれがどういう関係にあり、何と何がどう絡み合い、だれがヒーローで、だれが悪役であるか判断するのが決して容易ではありません。また、わたしたち自身が単なる観客ではないために、なおいっそう複雑になっているのです。」（*The Play and the Plan* [ヤングアダルトへの説教, 1995年5月7日], 1-2）

前世

この世に生を受ける前のわたしたちは、天の御父と一緒に住んでいた（ヨブ38:4-7；エレミヤ1:5；アブラハム3:21-23参照）。天の御父は栄光をお受けになった、完全無欠の、日の栄えの状態にある御方である（教義と聖約130:22参照）。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。「神御自身は、かつては今のわたしたちのようであり、今は昇栄された人となり、かなたの天の王座に座っておられる。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 345）

天の御父はわたしたちの靈の体の父親である（民数16:22；使徒17:29；ヘブル12:9；モーセ3:5参照）。御父はすべての神聖な特質と喜びに満ちた御方であり、御自分のすべての子供たちが、御自身に似た者となることを望んでおられる（マタイ5:48；2ニーファイ9:18；モーセ1:39参照）。

靈の創造

アブラハムは、天の御父のすべての子供たちが、「英知」すなわち世界が存在する前に組織された靈として存在していた様子を見た（アブラハム3:18-23参照）。ボイド・K・パッカー会長はこう教えている。「男も女も、人の靈は永遠です（教義と聖約93:29-31参照；ジョセフ・スミス、*Teachings of the Prophet Joseph Smith*……、158、208も参照）。わたしたちは皆、神の息子、娘であり、前世においては神の靈の子供として生きていました（民数16:22；ヘブル12:9；教義と聖約76:24参照）。各人の靈は、男も女も、現世の人間としての存在に似た存在でした（教義と聖約77:2；132:63；モーセ6:9-10；アブラハム4:27参照）。すべての人は、天の両親の形に創造されているのです。」（*The Play and the Plan*, 3）

『家族——世界への宣言』の中で、大管長会は次のように述べている。「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている靈の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。」（『聖徒の道』1996年6月号、10；教義と聖約29:31-32；モーセ3:5；『旧約聖書：創世—サムエル下』〔宗教コース301生徒用資料〕、17-18参照）

選択の自由

1. 人は皆、神聖な律法の支配下にあります。その律法に従順であれば、祝福を受けられます。しかし、不従順であれば、苦しみと罰を受けることになります。

2. 人は皆、善悪を自由に選択できるという神聖な賜物を持っています。人は何を、どこで、どのように礼拝するかを、自分で判断することができます。しかし、日の栄えの律法を学び、それに従わなければ、昇栄することはできません。

3. 人は善悪の知識を得、第三者からの感化を受けて初めて、自分自身で行動するという選択ができるのです。」（“Basic Doctrine,” *Charge to Religious Educators*, 第3版〔1994年〕、85）

神に似た者となるためには、選択の自由を適切に用いることが不可欠である（2ニーファイ2:14-16参照）。しかし、選択する自由を与えれば、それに伴って幾つかの結果が生じてくる。選択の自由は、わたしたちの成長にとって必要不可欠なものではあるが、当然のことながら、わたしたちは、いつも正しい選択をするとは限らない。使徒パウロが書いているように、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなつて」いる（ローマ3:23）。選択の自由だけでは、わたしたちは罪の宣告を受けるのである。このような結果になるのは、前世の会議において御父が御自身の子供たちに示された計画の中でも想定されたことであり、それに対する備えもなされた。

天上の会議と天での戦い

わたしたちは前世において御父から靈の体を頂いたことにより、さらに御父に似た者となつたが、それでもなお、多くの必須の特質に欠けていた。御父は栄光化された肉体を持つ、昇栄された完全な御方だが、わたしたちはそうではなかった。御父は天上で会議を開き、御自身の子供たちをそこに召集し、わたしたちが神に似た者となれるように助けるための計画を示された（モーセ4:1-4；アブラハム3:22-27参照）。

ボイド・K・パッカー会長は次のように話している。

「この神々の会議において、天の御父の計画が支持されました（アルマ34:9参照。*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 349-350も参照）。この計画には、神の子供たちが肉体を受け、戒めに従うかどうかを試される場所として、地球が創造されることも含まれていました（モーセ6:3-10, 22, 59；アブラハム3:24-25；4:26-27参照）。すべての靈たちは、前世において学び、従順であることを示す機会を与えられていました。そして、一人一人に選択の自由が与えられたのです（アルマ13:3-5参照）。

天上において大きな会議が召集されました（*Teachings*, 349-350, 357参照）。神の計画では、御父の御心が果たされるために、救い主として贖い主として、一人の人が遣わされる必要がありました。永遠の御父の長子であったエホバが、自ら申し出られ、選ばれました（モーセ4:1-2；アブラハム3:19, 22-27参照）。

多くの靈はこの選びを支持しました。しかし、これに背く者があり、天で戦いが起こりました。御父の計画に対して反抗したサタンとそれに従う者たちは、追放され、肉体を受ける権利を拒まれました（黙示12:7-13；教義と聖約29:36；76:28；モーセ4:3参照）。

第一の位を守った人々（皆さんもその中に入ります）は肉体を与えられ、第二の位として備えられた地球に住むこ

とを許されました（アブラハム3：26参照）。そして一人一人が、いつ、どの地に生まれるかを定められたのです（申命32：8；使徒17：26参照）。預言者となるように予任された人々もいました（アルマ13：7-9；アブラハム3：23参照。Teachings, 365も参照）。」（The Play and the Plan, 3。『聖句ガイド』「天での戦い」の項、179ページも参照）

物質的なものの創造

天と地とその上にある万物の物質的な創造は、わたしたちが神に似た者となるために、欠かすことのできないもう一つのステップである（モーセ1：33-39；アブラハム3：24-26参照）。神が地球を創造されたとき、それは「非常に良かった」（モーセ2：31）。そして、美しく豊かな場所だった（創世1-2章；モーセ2章；3：7-25；アブラハム4-5章参照。教義と聖約59：16-20；『旧約聖書：創世-サムエル下』11-23も参照）。

ボイド・K・パッカー会長は次のように教えている。「こうして地球が創造されました（アブラハム5：4参照）。アダムとエバは、このパラダイスの状態の中に置かれた最初の男と女でした（モーセ1：34；3：7；4：26；6：3-10, 22, 59参照）。二人は永遠の結婚のきずなで結ばれ、戒めを授けられました（モーセ3：23-25参照）。彼らはまったく汚れない状態で、罪を知りませんでした（2ニーファイ2：23参照）。」（The Play and the Plan, 3）

墮落と死すべき状態

アダムとエバの墮落は、偉大な幸福の計画の次のステップである。墮落は靈の死と肉体の死を含めて、死すべき状態をもたらした（2ニーファイ2：19-25；アルマ42：1-10参照）。地上における死すべき世の生活は、神に似た者となるうえで必要不可欠なものであった。それはわたしたちに肉体を得させ、神の勧告とサタンの誘惑のどちらに従うか選択することにより、成長と学習を続ける機会をもたらしている（アルマ42：1-12；教義と聖約29：36-43；モーセ5：9-12参照）。わたしたちは自らの選択を通して、自分自身が忠実な者であることを「試〔す〕」のである（アブラハム3：25参照。『旧約聖書：創世-サムエル下』26-30も参照）。

ボイド・K・パッカー会長は、人間の永遠の存在を3幕の劇にたとえた話（12ページ参照）の中で、わたしたちの死すべき状態について、次のような勧告を与えていた。

「この永遠の計画の中で、わたしたちの前世すなわち第1幕の記憶は幕で覆われています。第2幕の開始とともに現世に来たわたしたちは、第1幕の記憶がないのですから、今行われていることがなかなか理解できないとしても、少しも不思議ではありません。

記憶がないことによって、わたしたちはまったく白紙の状態からスタートすることができます。それは試しとして理想的な状況です。わたしたち一人一人の選択の自由を保障し、自由に選択ができるようにしているのです。多くの

ことを信仰だけで選択していかなければなりません。それでもわたしたちには、自分たちの前世における生活と、不死不滅の両親の子供であることを知らせる、静かにささやく声があります。

皆さんは生まれたときには汚れのない存在でした。なぜなら『人の靈は皆、初めに罪がなかった』からです（教義と聖約93：38）。また、皆さんには生まれながらにして善惡の観念があります。なぜなら、モルモン書の聖句に、『人は善惡をわきまえることを十分に教えられている』（2ニーファイ2：5）と記されているからです。……

もし皆さんのが第2幕において、平安無事と無上の喜びだけを見いだそうとするなら、必ずざせつを味わうことでしょう。また、今起きていることの意味も、世の中が今のような状態であることを許されている理由も、ほとんど理解できないでしょう。

このことを忘れないでください。『そしていつまでも幸せに暮らしました』という言葉が、第2幕に書かれることは決してありません。この言葉は、すべての謎が解き明かされ、すべてのことが望ましい状態になる第3幕に来るものです。……

この壮大なドラマの全容を把握するようになるまでは、人々の中にある様々な不公平な状況を理解することはあまりできないでしょう。ほんとうに何もないような状況で生まれている人がいる一方で、非常に恵まれた環境の下に生まれてくる人もいます。貧困や心身の障害、苦しみや悲しみの中に生まれてくる人たちがいます。あまりにも早い死を経験する人もいます。あどけない子供が命を落とすことがあります。情け容赦のない自然の猛威や、人間同士の残忍な行いもあります。最近わたしたちは、そのようなことをよく目にしています。

神はこれらを勝手気ままに行っておられると考えてはなりません。神御自身の目的において許しておられるのです。そのすべての計画と目的を知るときに、あなたはこれらのこととも愛に満ちた御父を明らかに示すものであることが分かるでしょう。

この偉大な劇、長い時の流れを描くドラマの脚本と言えるものがあります。……

皆さんすでに御存じだと思いますが、その脚本とは聖典、神の啓示です。これを読んでください。研究してください。……

聖典は真理を伝えるものです。皆さんは聖典を通して、3幕のすべてについて十分に学び、人生の中で忍耐と導きを得ることができます。聖典は次のことを明らかにしています。『あなたがたも初めに父とともにおり、御靈すなわち真理の御靈であった。

真理とは、現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識である。』（教義と聖約93：23-24）

それが、第1幕、第2幕、第3幕です。」(*The Play and the Plan, 2*)

教会の使命と、福音の原則と儀式

アダムとエバの堕落は失敗でもなければ、思いがけない出来事でもない。もし二人が死すべき状態になることを選択しなかったら、彼ら自身だけでなく、天の御父のほかの子供たちも、成長して神に似た者となることができなかつた(2ニーファイ2:22-25参照)。堕落はこの計画に欠かせない要素だったが、幾つか望ましくない結果ももたらした。そしてわたしたちはその影響から救い出される必要がある(『旧約聖書:創世-サムエル下』の創世3:19に関する注解、29参照)。

イエス・キリストの福音は全人類に、堕落から救われ、神の御前に戻るための道を示している(2ニーファイ31:10-21; モーサヤ3:19; アルマ7:14-16; 3ニーファイ27:13-22; 信仰箇条1:4参照)。『旧約聖書:創世-サムエル下』の創世4:1に関する注解、39-40も参照)。この計画に従うことを拒み、キリストの贖罪を受け入れないなら、わたしたちは罪を贖^{しょく}されて完全になることはできない(モーサヤ2:36-39; 4:1-12; アルマ11:40-41; 教義と聖約29:43-44参照)。

どの神権時代においても、地上の神の子供たちに福音を教えるために、預言者が遣わされてきた。世の人々に福音を宣言し、聖徒たちを完全な者とし、死者を贖うことによってすべての人々をキリストのもとへ導くために、この終わりの時にイエス・キリストの教会が設立された(アモス3:7; エペソ4:11-15; 教義と聖約1:4-23; 138章; 信仰箇条1:5-6参照)。

贖罪

アダムの堕落があったために、わたしたちは皆死(肉体の死)を受け、神の前から絶たれ(靈の死)、自分自身の力では神のもとへ戻れなくなり、苦しみ、罪、悲しみの世界に住んでいる。しかし、キリストの贖罪によってすべての人が復活し、不死不滅の肉体を受け、肉体の死を克服できるようになった。また、わたしたちは贖罪を通して、自分自身の罪を清められ、堕落した状態から神に似た者へと変わっていくことができる(2ニーファイ2:5-10; 9:4-14, 19-27; アルマ7:11-13; 12:32-34; 34:8-16; 42:11-28; 教義と聖約19:16-19; 信仰箇条1:3参照)。「天上の会議と天での戦い」13ページも参照)。

通常の人間には、復活をもたらしたり、全人類の罪を贖^{あがな}ったりすることはできるものではない。それができるのは、死に打ち勝つ力を持ち、罪のない生き方がもたらす力を持っている御方だけだった。それには、神の犠牲が必要であった(ヨハネ10:17-18; アルマ34:9-14; 教義と聖約45:4参照)。

墓を超える命

靈界

肉体の死とは、肉体と靈が分離することである。天の御父の子供たちが死ぬと、例外なく、その靈は靈界へ行って復活の時を待つ。靈界では、福音を受け入れて戒めに従つた人々と、そうしなかった人々は分けられている。ボイド・K・パッカー会長は次のように説明している。「そこは、義人にとっては幸福な場所であり、パラダイスです。しかし、邪悪な人々にとっては、惨めな場所です(2ニーファイ9:10-16; アルマ40:7-14参照)。どちらの状態の人々も学び続け、また、自分の行いに対しては責任を求められます(教義と聖約138:10-22参照)。」(*The Play and the Plan, 3*)靈界に関するさらに詳細な情報については、教義と聖約138章を参照する。教義と聖約138章は、ジョセフ・F・スミス大管長が受けた、靈界での働きに関する驚くべき示現の説明である。

裁き

御父がその計画を示し、地球の創造を提案されたのには、御自身の子供たちを「試し」、彼らが戒めを守るかどうかを見るという目的があった(アブラハム3:25参照)。わたしたちは預言者ジョセフ・スミスを通して、人は行いだけではなく、心の中で思うことによっても裁かれるということを示されている(アルマ41:3-6; 教義と聖約137:9参照)。

裁きと復活には密接な関係があり、最終的な裁きのある部分は、わたしたちが復活するときに起こる。滅びの子を除いて、すべての人は完全な体を持って復活する。ただし、その栄光は人によって様々である。すべての人が、自分が受け継ぐ王国、すなわち、日の栄え、月の栄え、星の栄えの王国のいずれかにふさわしい体で復活するのである。滅びの子も復活はするが、彼らはどの段階の栄光も受けられない。外の暗闇に追放されるのである(1コリント15:35, 39-42; 教義と聖約88:28-32参照)。

ボイド・K・パッカー会長は次のように話している。

「すべてのことが平等に取り扱われた後に、裁きが下されます(モーサヤ3:18参照; *Teachings, 218-219*も参照)。一人一人が、それぞれの順番に従つて復活します(1コリント15:21-23参照)。しかし、どのような栄光を受けるかは、御父の計画に定められた律法と儀式に対する従順の度合いによって決まります(1コリント15:40-42参照)。

悔い改めを通して清くなった人々は、永遠の命を授けられて神の御前へ戻ることができます。彼らは『神の相続人であって、……キリストと共同の相続人』として昇栄するのです(ローマ8:17; 教義と聖約76:94-95; 84:35; 132:19-20; *Teachings, 374*も参照)。

この計画を知らずに現世の生涯を送る人々のための用意もなされています。『律法がないところには罰がない。また

罰のないところには罪の宣告もない。……それは贖罪のゆえである。彼らはイスラエルの聖者の力によって救われているからである。』(2ニーファイ9:25)

この神聖な死者の贖いの業がなければ、御父の計画は不完全なものであり、まったく不公平なものとなってしまいます。エンダウメントや結び固めなどの神殿の儀式を受けるには備えなければなりませんが、それらはすべて備えるだけの価値があります。神殿の儀式を受けるふさわしさを失うようなことは一切しないでください。さもないと、この永遠のドラマの第3幕では低い栄光を受け継ぐことになるでしょう。』(The Play and the Plan, 3-4)

復活

義人であるかないかを問わず、この地上に生を受けた人はだれでも、不死不滅の肉体を持っていつか復活することになる。これはキリストの贖罪によってもたらされる賜物である(1コリント15:19-22; 2ニーファイ9:6-15, 19-22参照)。すべての人が同時に復活するのではない。「各自はそれぞれの順序に従わねばならない。」(1コリント15:23。モーサヤ15:20-26; アルマ40:1-2; 教義と聖約76:15-17も参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

- 天の御父は栄光に満ちた完全な御方である。また日の栄えの状態にあり、満ちみちる喜びを得た御方である(モーサヤ4:9; 3ニーファイ28:10参照)。
- わたしたちはこの地上に来る前、天の御父とともに住んでいた。わたしたちは天の御父の靈の子供である。御父はわたしたちに、御自身と同じようになることによって、御自分が持つておられるのと同じ喜びを得るように望んでおられる(エレミヤ1:5; ローマ8:16; ヘブル12:9参照)。
- 神と同じようになるためには、復活した栄光に輝く体を持ち、神の属性を身に付けるために成長していかなければならない(ヨブ19:26; 3ニーファイ27:27; 教義と聖約130:22参照)。
- 地上における死すべき生涯は、わたしたちが神の属性を得られるように定められたものである。この世の生涯は、肉体を得、神の勧告に従うか、それともサタンの誘惑に乗るか、そのどちらかを自由に選択することによって、神の属性を身に付けるための教えを学ぶ機会を与えていく(創世2:16-17; 2ニーファイ2:25-27; アルマ34:32-34参照)。
- 地球の創造とアダムの墮落により、靈と肉体の死、また苦しみ、痛み、悲しみの存在する世界を含む、死すべき状態という必要条件がもたらされた(創世2:17; 3:6-7; 2ニーファイ2:15-25参照)。
- キリストの贖罪は復活をもたらし、それによってすべての人がその体に不死をまとうことができるようになる

(ヨブ19:25-27; エゼキエル37:12-14; アルマ11:42-45参照)。贖罪を通して、わたしたちは自らの罪から清められ、神に似た者となることができる(イザヤ1:18; モーサヤ3:19; モロナイ10:32-33参照)。

- イエス・キリストは、どの神権時代においても、地上の神の子供たちに福音を伝えるために預言者を遣わしてられた。キリストのもとへ来て、神の幸福の計画にあずかるようすべての人々を招くために、この末日にイエス・キリストの教会が設立された(アモス3:7; アルマ12:32-34; 教義と聖約1:1-14参照)。

教え方の提案

『旧約聖書』ビデオプレゼンテーション4「救いの計画」では、救いの計画の中心となる部分の概要を伝えている(教え方の提案は、『旧約聖書』ビデオガイド参照)。このビデオは、前世と来世について簡単に触れていいだけなので、クラスの話し合いでは用いない。

注意:ボイド・K・パッカー会長は次のように警告しています。「ノーブーを離れる聖徒の中には、指導者が定めた荷物の量に従えない者もいました。彼らは後に苦しむことになりました。皆さんも同じように、あまりにも多くのものを【救いの計画】全体像に盛り込もうとします。すべてを教えられないため残念に思うのです。手車を押した開拓者たちは、約32キログラムまでしか荷を積むことを許されませんでした。全体像も同じことです(The Great Plan of Happiness, 2-3)。旧約聖書の多くの場面を通じて、救いの計画の主要素について教えます。創世記、モーセ書、アブラハム書の最初の数章を教える次の数週間は特にそうです。各書では、創造や墮落、そして贖罪について実に詳しく学びます。これらの書で学ぶ内容に事前に目を通しておくとよいでしょう。全体像で教えたことをただ繰り返すだけでなく、さらに多くを学べるようにするためです。

救いの計画の全体像: 提案1 (90-120分)

生徒たちが救いの計画(幸福の計画)を視覚化して理解できるようにする。そのために以下のことをする。教室の片側の壁からもう一方の壁に糸を張る。その糸にペーパークリップを一つ下げる。ペーパークリップは糸の上を自由に移動できるようにする。白い紙と透明なビニールで、それぞれ人の形に切り抜いたものを同様に作る。この二つはペーパークリップにつけて用いる。

糸はわたしたちの人生の流れを表し、糸の両端はそれぞれ過去と未来を表していることを説明する。ペーパークリップは英知を象徴し、透明のビニールの人形は人間の靈体、白い紙の人形は肉体を象徴している。前世という過去から来世という未来への時の流れの中での人の成長を説明しながらペーパークリップを糸の上で移動させ、人形をつける。死について話し合うときには、紙の人形からペーパークリップとビニールの人形を外す。幸福の計画について教えるながら、次のセクションに提案されているような質問をする。

また必要に応じて、冒頭の情報も活用する。通常、生徒たちは提案されている参照聖句を調べることによって、できるかぎり多くの答えを自分で見つけるようにするのが望ましい。

前世

- わたしたちの命は、どこで始まり、どこで終わるのでしょうか（教義と聖約93:29；「靈の創造」13ページ参照）。命の流れは、実際には教室の壁の向こう側まで広がり、両方向に永遠に続いていることを説明する。わたしたちの命には始めも終わりもない。
- 皆さんは天の御父についてどのようなことを知っていますか。地上に生まれる前に天の御父とともに暮らしたことについてはどうでしょうか（「前世」13ページ参照）。
- 神の靈の子供であるとは、どのような意味でしょうか。靈の子供であった以前はどのような状態だったのでしょうか（「前世」および「靈の創造」13ページ参照）。英知から靈となったことを説明するために、ビニールの人形をペーパークリップで挟む。
- 前世において、人は天の御父とともに住み、不死の状態にありました。なぜそこにとどまっていたのでしょうか（「選択の自由」および「天上の会議と天での戦い」13ページ参照）。
- 天の御父の計画と、ルシフェルがその代わりに出した案にはどのような違いがあるでしょうか（モーセ4:1-4；「天上の会議と天での戦い」13ページ参照）。
- 神は、ルシフェルとその従う者たちに、御自身に背き、天での戦いを始める意のままになさいました。神がそれほどまでに選択の自由を尊ばれたのはなぜだと思いますか（「選択の自由」13ページ参照）。

現世

- サタンは最終的に外の暗闇に追い出されてしまいます。にもかかわらず、神はルシフェルとその従う者たちが地上に来て、わたしたちを誘惑するのをそのままにしておられます。なぜでしょうか（教義と聖約29:39参照）。
- この地上に来て肉体を受けることは、どうして必要だったのでしょうか（モーセ1:33-39；「天上の会議と天での戦い」および「物質的なものの創造」13-14ページ参照）。
- どうしてアダムとエバの墮落が必要だったのでしょうか。アダムとエバが背いたため、どのような変化が起こったのでしょうか（2ニーファイ2:19-25；「墮落と死すべき状態」14ページ参照）。
- 苦痛や悲しみ、死を経験するために地球が必要であったなら、神が初めに地球を楽園の状態にされたのはなぜでしょうか（「墮落と死すべき状態」14ページ参照）。
- 計画を成し遂げるために^{あがな}主が必要だったのはなぜでしょうか（「天上の会議と天での戦い」13ページおよび

「贖罪」15ページ参照）

- エホバ（神、イエス・キリストでもあられる）は地上に来て、死すべき体をお受けになる必要がありました。なぜでしょうか（「贖罪」15ページ参照）。
- 人はこの世の中で非常に多くの誘惑に直面します。どうしたら自分の性質を変え、悪に抵抗することができるでしょうか（1ニーファイ2:16；モーサヤ3:19;4:1-3;5:1-2；エテル12:27参照）。

来世

- 肉体の死と靈の死の違いは何でしょうか。人はその二つの死から、どのようにして救われるでしょうか（2ニーファイ9:6-23；アルマ40:11-14；教義と聖約29:40-44；「教会の使命と、福音の原則と儀式」、「贖罪」、および「靈界」15ページ参照）。
- 靈界はどのような場所でしょうか。わたしたちは靈界で何をするのでしょうか（アルマ40:11-14；教義と聖約138:11-37；「靈界」15ページ参照）。
- わたしたちはいつ裁きを受けるのでしょうか。裁きは一度だけではないのでしょうか（「裁き」15ページ参照）。
- わたしたちは何を基に裁かれるのでしょうか。皆が同じ基準で裁かれるのでしょうか（モーサヤ2:36-41；アルマ41:3-7；教義と聖約82:3；「裁き」15ページ参照）。
- この世にいる間に福音を聞く機会がなかった人々は、どうなるのでしょうか（教義と聖約138:1-37；「裁き」15ページ参照）。
- わたしたちは復活するとき、どのような状態になるのでしょうか（アルマ11:42-45；「裁き」および「復活」15-16ページ参照）。
- わたしたちの最終目標は何でしょうか。「偉大な幸福の計画」に従うなら、どうなることができるのでしょうか（教義と聖約76:50-70参照）。
- 天の御父は、死すべき世での経験なしに、わたしたちを神々にすることはおできにならなかったのでしょうか（アルマ34:32-34参照）。

レッスンで学んでいる事柄が、天の御父の計画にどう対応しているか理解できるように、糸は張ったままにしておき、必要に応じて説明や話し合いの中で用いるとよい。

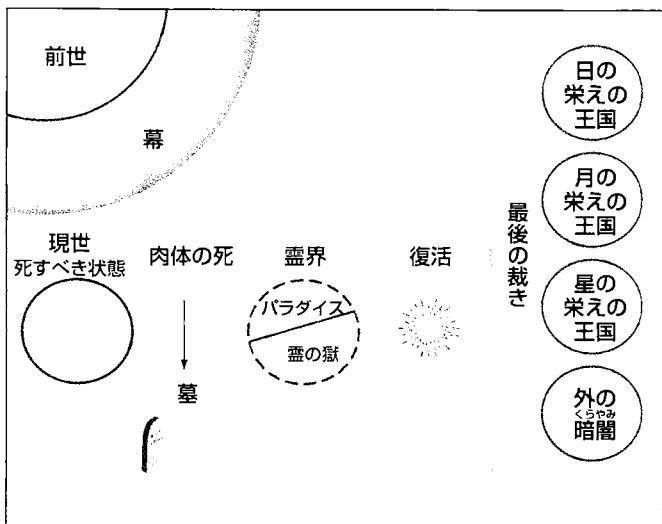
主が「すべきこと」と「してはならないこと」を定めておられる理由を理解するのに、救いの計画に対する知識がどう役に立つか、生徒たちに質問する。地元の若者にとって守りにいく戒め（誠実さや徳高いこと、または安息日を守ることなど）を選ぶ。幸福の計画を理解するときに、これらの戒めを守ることが理にかなって見えるのはなぜか尋ねる。

幸福の計画のすばらしさについて^{あかし}証する。わたしたちが

この地上にいる理由や、みもとへ戻れるよう主がしてくださったことを心に留めることがなぜ大切な証する。

救いの計画の全体像：提案 2 (90-100分)

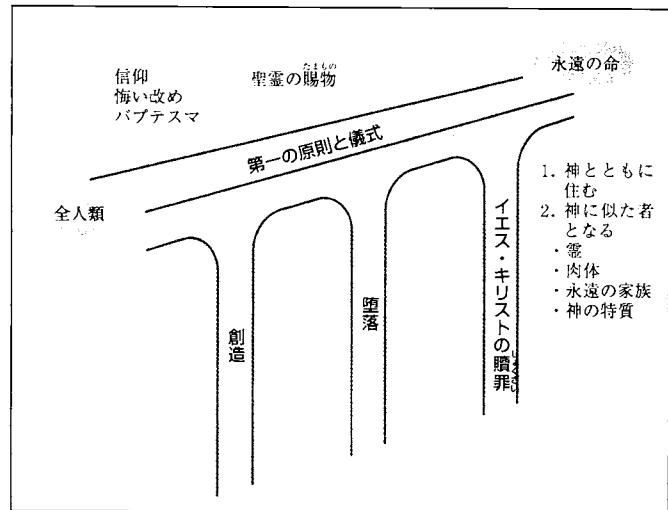
救いの計画について教えるときに、下記のような図を用いるとよい。これは救いの計画を視覚的に教えるうえでは良い方法であるが、時間的な経過を追いながら教えるという点では、提案1の方法には及ばない。



黒板にこの図を描きながら、提案1に挙げられているような質問をする（または配付資料として渡してもよい）。そして救いの計画のそれぞれの要素について話し合う。救いの計画の中でのわたしたちの進歩を示すために、矢印を書き加えていく。生徒たちは提案されている参照聖句の内容を調べることによって、できるかぎり質問の答えを見いだすようにする。この図を教室に掲示し、1年を通してレッスンの中で使えるようにしておくとよい。

救いの計画の全体像：提案 3 (60-70分)

死すべき状態（現世）の重要性を強調し、救いの計画の全体像を簡潔に示す効果的な方法は、橋の比喩を用いることである。下記にあるような橋のイラストを（黒板か大きな紙に）描く。最初は文字を書かないでおく。一緒に聖句を学びながら、生徒たちが救いの計画の各要素を理解していくのに応じて書き込んでいく。



生徒たちに橋のイラストを見せ、次の質問をする。「橋にはどのような役割がありますか。」（橋があることで、谷間など道路のないところを渡ることができる。）生徒たちと一緒にアブラハム3:22を読み、この地上に来る前にわたしたちはどこにいたかを説明する。次にモーセ1:39を読み、天の御父はわたしたちをどこへ導こうとしておられるか理解できるようにする（「不死不滅」とは、復活して永遠に生きることを意味する。「永遠の命」とは、神とともに住み、神に似た者になることを意味する。「前世」および「靈の創造」13ページ；「選択の自由」13ページ参照）橋の左端に「全人類」と書く。右端には「永遠の命」と書く。

以下の質問をする。

- 神の前で暮らしていたにもかかわらず、前世を離れたのはなぜでしょうか。
- 神の靈の子供として神とともに住んでいたとき、人と天の御父の間には、どんな「谷間」（違い）があったでしょうか。

わたしたちは神の靈の子供として天の御父とともに住んでいたが、神に似ていない点が多くあった。生徒たちがそのことを理解できるように助ける（3ニーファイ12:48；教義と聖約76:70; 88:41; 130:22；「前世」13ページ参照）。

橋を支える柱（橋脚）は、人が神に似た者となれるよう助けるために天の御父がしてくださったことを表している。また、柱の上に架け渡されている部分（橋りょう）は、人に求められている事柄を表している。アブラハム3:24-27を生徒が読み、天の御父がわたしたちのために何をしてくださったかを考える。次に、なぜそれが必要だったのかについて話し合う（「選択の自由」、「天上の会議と天での戦い」および「物質的なものの創造」13-14ページ参照）。最初の柱に「創造」と書く。

2番目の柱は何を表していると思うか尋ねる。物質的なものの創造の後で、わたしたちがさらに神と似た者となるために、何が起こらなければならなかつたのでしょうか（2ニーファイ2:22-25；「墮落と死すべき状態」14ページ参照）。2番目の柱に「墮落」と書き、墮落によって変化が起こり、罪と死がこの世に入り込んで来たことを簡単に説明する。

すべての事物が墮落したままの状態にとどまっていたとしたら、わたしたちは物質的に、また靈的にどうなっていたか尋ねる。2ニーファイ9:6-10を読む。わたしたちが墮落の結果を克服できるように神がしてくださったことについて話し合う（「贖罪」15ページ参照）。3番目の柱が何を表しているか生徒に聞く。その後、3番目の柱に「イエス・キリストの贖罪」と書き加える。次の質問をする。「イエス・キリストは、わたしたちを各自の罪から離すと約束されました。この計画が一人一人に当てはまるようにするために、わたしたちに課せられている責任は何でしょうか。」（アルマ42:9-15）

ヒラマン14:15-17を生徒が読む。贖罪がもたらす祝福の中で、どう生き方をしたかにかかわりなく、すべての人に与えられる恵みには、どのようなものがあるか考える（復活すること、および裁きを受けるために神のもとへ戻されること）。ほかに、熱心に求める人だけに授けられる祝福もある。信仰箇条1:3-4を生徒が読み、わたしたちが罪の赦しを受けて完全な者となるためになすべきことの中で、神から第一に求められている事柄を挙げる（「教会の使命と、福音の原則と儀式」15ページも参照）。

図の中に説明を書き加える活動をここで終える。次のように尋ねる。「救いの計画を理解することは、何かをするよう、また、しないようにという戒めが与えられる理由を理解するうえで、どのように役立つでしょうか。」地元の若人にとって守るのが難しいと思われる戒めを幾つか挙げる。神がこれらの戒めを与えていている理由について、救いの計画からどのようなことが学べるか話し合う。

「裁き」（15ページ）の中のボイド・K・パッカー会長の言葉を生徒たちに読み聞かせ、天の御父が御自分の子供たちのために備えられた「偉大な幸福の計画」について教師自身の証を述べる。

アブラハム3章

はじめに

エホバはアブラハムに、エジプトに行って福音を教えるように命じられた。アブラハムがエジプトに到着する前に（アブラハム3:15），主はアブラハム書3-5章に含まれている真理をアブラハムにお教えになった。

学び取るべき重要な福音の原則

- 人の靈は永遠である。靈は天の御父によって組織され、地上に生を受ける前は御父とともに生活していた（アブラハム3:18-23参照）。
- イエス・キリストは英知すなわち「光と真理」（教義と聖約93:36）において御父のほかの靈の子供たちより優れており、「神のような者」であった（アブラハム3:24.19, 22-24節も参照）。
- イエス・キリストは、御父の計画に同意して地球に來ることになった靈の子供たちの救い主となり贖い主となるよう選ばれた（アブラハム3:24-28参照）。
- 預言者ジョセフ・スミスはこう語った。「世に住む人々を教え導くために召された者は皆、この世界が存在する前に、天上の会議でその目的のために聖任されたのです。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 365；アブラハム3:22-23参照。教義と聖約138:55-56も参照）わたしたちは、この世での召しに忠実であることを証明しなければならない（アブラハム3:25参照。アルマ13:3-5, 8-10；教義と聖約121:34-40も参照）。

教え方の提案

アブラハム3:22-28（マスター聖句、アブラハム3:22-23）。自分が何者であり、なぜここにいるかを知れば、試練に堪える力が増し、人生に喜びを見いだすことができる。（35-40分）

注意：前世については救いの計画を教えたときにも説明したが、アブラハム書の一部として、また特にマスター聖句として、ここでさらに詳しく扱うべきである。以下の活動は、生徒が交流を深めるとともにアブラハム3章についての学習を促すためのものである。

黒板に「わたしはだれ？」と「なぜここにいるの？」と書く。この質問に対する答えとして、これらの言葉で始まる自己紹介を書かせる。創造的でおもしろい紹介文を書くように勧める。最初の質問に対する答えを列挙させる。例えば、娘、友人、生徒、音楽家、皿洗い、ローレルクラス書記などの答えが考えられる。

それが終わったら、預言者アブラハムがこの質問に関連して非常に重要な答えを受けたことを指摘する。アブラハム3:22-28を読ませ、黒板にある質問への答えとして、どの節にどのような答えが記されているか調べさせる。答えを質問の下に書く。

以下の質問をする。

- アブラハムの経験についてどう感じますか。
- この啓示を通して得た知識は、アブラハムの生活にどのような影響を与えたか。
- 自分が天上の会議に出席していたという知識は、この世でいろいろな決定を下すときにはどのような影響を与えると思いますか。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語っている。「人生における大いなる試しは、神に従うことです。」（『聖徒の道』1988年6月号、4参照）ベンソン大管長の言葉を黒板に書き出し、少しだけ時間を与えてこの言葉を暗唱させる。ポスターにしてクラスに掲示してもよい。以下のことを理解できるよう助ける。「アブラハムは特別な使命を果たすよう予任されていたが（アブラハム3:23参照）、それだけでなく、この世においても従順さを通して自らのふさわしさを『証明する』必要があった。」（25節参照）

ベンソン大管長の以下の言葉を読む。

「約6千年間、神は皆さんを再臨の前の末日に、この地上に生まれて来るように取っておかされました。過去のすべての神権時代は背教に流れていきました。でもわたしたちの時代は違います。……神は最後の神権時代のためにいちばん強い子供たちを取っておかされました。王国に勝利をもたらすためです。皆さんはこうした時代に生まれました。皆さんは神に会う用意をする世代なのです。……皆さんはこのために、確かに選ばれた人々なのです。これほどわずかな時間に、これほど多くのことが忠実な人々に求められている時代は、これまでありませんでした。……わたしたちは毎日、どなたを支持するかを示す決定をしなくてはなりません。結末は明確です。最後には必ず義の軍勢が勝利を収めるのです。問題は、わたしたちが現在、そして将来、個人としてどちらの側に立つか、そしてどれほど雄々しく戦うかということです。末日に果たすべき予任された使命を忠実に達成しようではありませんか。」（マービン・J・アシュトン長老による引用。『聖徒の道』1990年1月号、38参照）

自分が何者で、なぜここにいるのかという知識を通して、誘惑に打ち勝つ強さを身に付けることができる。また、神に従順になることで忠実さを証明することができる。

モーセ1章

はじめに

モーセ1章に記録されている啓示がモーセに授けられた時期を正確に特定することはできない。しかし聖典の記述を考慮すれば、それは燃えるしばの経験（モーセ1:17。出エジプト3:1-22; 4:1-17も参照）の後であり、イスラエルの子らを奴隸の状態から救うためエジプトに戻る（モーセ1:25-26参照）前の出来事であったと推察できる。さらに、モーセ1章に記されている啓示から、創世記を書いたのはモーセであることが分かる（モーセ1:40-41参照）。この章はいろいろな意味で深い洞察に満ちているが、中でもモーセが創世記の最初の数章を受けた方法と理由を明らかにしている点で特に興味深い（モーセ1:30参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神の栄光を受けられるよう聖霊の力によって身を変えられなければ、神の臨在に堪えることはできない。この変化を「変貌」と呼ぶ（モーセ1:2, 5, 9, 11, 25, 31参照）。
- わたしたちは栄光をお受けになった天の御父の子供である（モーセ1:3-6）。
- 旧約のエホバであるイエス・キリストの力を信じ、神とわたしたちの関係を心に留め、戒めを守り、祈ることは、サタンの力と誘惑を退けるのに役立つ（モーセ1:12-22参照。マタイ4:10-11；ヤコブの手紙4:7も参照）。
- 聖霊は善と悪を区別するのを容易にしてくださる（モーセ1:13-18参照。教義と聖約93:36-37も参照）。
- 神の業と創造の目的は、神の子らが不死不滅と永遠の命を得ることである（モーセ1:30-39）。
- イエス・キリストは地球と地球に似た無数の世界を造られた（モーセ1:32-38参照。モーセ7:30も参照）。

教え方の提案

「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション3「神の業と栄光」を用いて、わたしたちの可能性について理解させることができる（教え方の提案は「旧約聖書」ビデオガイドを参照）。ビデオを見せる前に、これは神とお会いしたモーセの経験をドラマ化したものであることを説明する。ビデオを見ながら、主がモーセの疑問に何とお答えになったかに注目し、またその答えがなぜ重要なのか考えよう求める。

モーセ1:1-22。モーセの経験は、十二使徒定員会会員のダリン・H・オーツ長老が語った次の言葉を具体的に例証するものである。オーツ長老はこう語った。「若人の心に、自分は神の子供であるという力強い理念を確立し

てください。そうすれば人生の諸問題に立ち向かう自尊心と動機づけを与えることができます。」（『聖徒の道』1996年1月号、27）（25-30分）

「わたしはだれ？」と黒板に書く。（アブラハム3章を学んだときに、この質問に何と答えるかすでに話し合ったかもしれない。）この質問に対する答え次第で、人生の方向が左右されるのはなぜか尋ねる。

「人は取るに足りないものである」と黒板に書き、次の質問をする。

- この言葉を聞いてどう思いますか。
- これは「わたしはだれ？」という質問に対する答えになりますか。
- 「人は取るに足りないものである」と考える人がいるのはなぜでしょうか。

モーセ1:9-11を読ませ、モーセが「人は取るに足りないものである」と言ったのはなぜか説明させる。

モーセ1:1-11を読ませ、この聖句が神についてどのようなことを教えているか列挙させる。列挙したものと普通の人間の特徴と比較させる。次の質問をする。「モーセが『人は取るに足りない』と語った理由はこれでしょうか。」

モーセ1章で話をされた御方がどなたであるか理解させる。モーセ1章でモーセと話をされた「主なる神」はモーセを「わたしの子」（4節）と呼んでおられるが、この御方はエホバすなわちこの世に降誕される前のイエス・キリストである。これは神が権能を委譲される際の原則の実例である。この権能を通してイエス・キリストは、御父の代わりに御父が語っておられるかのように語ることができる。

エデンの園を追放されたアダムは、天の御父の前から引き離された。それ以来、イエス・キリストは代弁者あるいは仲保者として、天の御父と人間との間を取り持っておられる。使徒であるジェームズ・E・タルメージ長老は次のように記している。

「聖典に見られる証拠資料を広く考えてみると、永遠の父なる神はこれまでごくまれにしか地上の預言者や啓示者たちに現れておられない。しかもそのときは、専らイエス・キリストが真実神の御子であることを証明されるときだけであった。」（『キリスト・イエス』38）

もう一度モーセ1:1-11を読ませ、モーセが自分自身について学んだことに印を付けさせる。次の質問をする。

- 神の息子、娘と呼ばれることについてどう思いますか。
- イエス・キリストとの関係から、わたしたちがどのような可能性を持っていることが分かりますか。

わたしたちの可能性について説明するために、大木の種をクラスに持て来る。種を見せてどのような木になると思うか尋ねる。どのような木になるかを説明した後で次の

よう尋ねる。

- この種にはどんな可能性がありますか。
- なぜそれが分かりますか。
- この種は、今は小さくて取るに足りないように見えます。しかし、その可能性を考えると、この種には計り知れない価値があります。この種と11節のモーセの言葉はどんな関係がありますか。
- この種はどのような点でわたしたち全員と似ていますか。

生徒と一緒にモーセ1:12-22を読み、自分が何者であり、どのような可能性があるか知ることがいかに大切か理解させる。そして、この知識がサタンに対するモーセの対応を左右したことを指摘する。以下の幾つかの質問をするとよい。

- サタンはモーセのことを何と呼びましたか。
- モーセは何と答えましたか。
- サタンはどれくらいしつこかったです。
- 神に関するモーセの知識は、サタンを退けるのにどう役立ちましたか。

このモーセの体験から学んだことを発表させる。

モーセ1:1-28。主の御靈を受けると、容易に善と悪を区別し、賢明な選択をすることができるようになる。(20-25分)

できれば教室を薄暗い状態にする。よく似ているが違った色のもの（黒と濃紺の靴下など）を見せ、両者の異なる点を説明させる。次に教室を明るくして同じことを尋ねる。モーセ1:1-18を読ませ、この活動のどこがモーセの経験と似ているか尋ねる。次の質問をする。「もっと頻繁に御靈を受け靈的な体験をすることは、なぜ必要なのでしょうか。」

モーセ1:1, 5-9, 24-28を読ませ、モーセが何を見て何を学んだか列挙させる。また、11, 14-15節を読ませ、モーセがそのようなことを見たり学んだりできた理由を見つけさせる。次のように尋ねる。「変貌することで、モーセが容易に善と悪を区別することができるようになったのはなぜでしょうか。」

日々聖靈を受けるために何ができるかクラスでリストアップする。聖靈を受けることで、個人的な啓示の祝福を受けた識別の力を高めることができる。聖句の中から答えを探すときは『聖句ガイド』（『聖靈の賜物』154ページ、および『啓示』93-94ページ）を参照するよう勧める。例えば次のような答えが考えられる。聖文を研究する（ヒラマン3:29参照）、悔い改める（アルマ26:21-22参照）、実りある人生を送るために標準を守って生活する（教義と聖約11:12-14参照）、主を第一に生活する（教義と聖約88:67-68参照）、ふさわしい状態で聖餐を受け、聖餐の聖約を

守る（3ニーファイ18:1-7参照）。

次のように尋ねる。「主の教えに従うことによって、生活の中で御靈を受けた経験がありますか。」何人かにその経験を紹介してもらう。

モーセ1:24-40。人が神に似た者となれるように助けることが神の業であり栄光である。この知識により、わたしたちは慰めと平安を受ける。(15-20分)

生徒にどのような仕事に就きたいか尋ねる。また、なぜその仕事をしたいのか尋ねる。モーセ1:6を読んで、モーセがどのような仕事に召されたか調べさせる。以下の質問をする。

- 主があなたのために仕事を用意していらっしゃるしたら、どんな気持ちがしますか。主はあなたのために仕事を用意していらっしゃるでしょうか。
- モーセ1:24-26を読んで、モーセがどのような業に召されたか探してください。主はあなたのためにどのような業を用意していらっしゃると思いますか。
- 自分にどのような業が与えられているか、どうしたら分かりますか。
- 天の御父とイエス・キリスト、そして聖靈の業は何だと思いますか。
- モーセ1:27-29を読んで、神の業についてモーセが何を見たかを探してください。モーセが見たことをあなたも見たとしたら、どんな質問があると思いますか。

30節を読ませ、モーセが抱いた二つの質問を見つけて印を付けさせる。次に31-40節を読んで、その質問に対する主の答えを見つけさせる。

黒板に「不死不滅」と「永遠の命」と書き、それぞれの意味と両者の違いについて尋ねる。以下のジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉を読めば、不死不滅と永遠の命の違いが分かるだろう。

「不死不滅と永遠の命は、互いにはっきり異なる別々のものである。善人と悪人、あるいは冷淡な人であるとを問わず、人は皆、不死不滅を受ける。なぜならあらゆる人は死から復活するからである。」

永遠の命とはそれに付け加えられるものである。主の戒めを守って主の御前に出る資格のある人以外は、だれも永遠の命を受けることはできない。……永遠の命とはこのことである。すなわち御父の御前に住んで、御父から昇栄を受けることである。」（『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編、全3巻〔1954-1956年〕、第2巻、4-5）

モーセ1:39; 2ニーファイ26:23-24を読み、以下の質問をする。

- 神の業と目的を知ることによって、わたしたちの生活は

どう変わりますか。

- ・イエス・キリストがこの地球を創造され、人類の罪のために苦しみ亡くなられたという事実から、人類に対するイエス・キリストのどのような思いが分かりますか。
- ・主を信頼し、主がいつもわたしたちにとって最善のことを考えてくださっているとの確信を得るうえで、どのような知識はどう役立ちますか。

主を信頼することについて感じていることや信じていることを生徒に発表させる。

モーセ1:39 (マスター聖句)。神の業と創造の目的は、神の子が不死不滅と永遠の命を得られるように助けることである。(15-20分)

モーセ1:39全体を黒板に書き、生徒が暗唱できるよう助ける。例えばクラス全体で声に出て繰り返し読んでもよい。何度か繰り返した後で単語を幾つか消して暗唱させる。黒板の聖句が全部消え、完全に暗唱できるようになるまでこれを続ける。

聖句を覚えることも大切だが、その意味を理解して生活に応用することはもっと大切であることを説明する。生徒になぜこの聖句が真実なのかを尋ねる。単に暗記するだけでなくモーセ1:39を深く理解するよう勧める。次のような質問をするとよい。

- ・聖餐のパンと水は何を象徴していますか。
- ・不死不滅と永遠の命をもたらすためにイエス・キリストが果たされた役割を理解するうえで、聖餐のパンと水の象徴はどのように役立ちますか。
- ・人々に不死不滅と永遠の命をもたらすために、主はわたしたちに何を望んでおられるでしょうか。(例えば、伝道活動や永遠の結婚が天の御父の業を遂行するうえでいかに重要なか考える。)

創世1-2章・モーセ2-3章・アブラハム4-5章

はじめに

聖文には創造に関する記述が3か所ある(創世1-2章・モーセ2-3章・アブラハム4-5章参照)。そのほかに神殿で授けられる説明もある)。このレッスンではおもにモーセ2-3章を探り上げ、創世1-2章とアブラハム4-5章は必要に応じて参照する。

愛に満ちた天の御父は、子供たちが不死不滅と永遠の命を得られるよう、幸福の計画を授けてくださった。そして靈の子供たちが肉体を得て、試しを受け、神の属性をはぐくめる

くめるように地球を創造された。地球は神の計画にとって不可欠なものであった。聖文には創造の詳細が記されており、創造の過程でイエス・キリストが果たされた役割や創造の神聖な目的について教えている。

聖文にある創造の記述は、いつ、またはどのようにして地球が創造されたかということについては触れていないが、だれが創造主であり、どのような目的で創造したかについては証している(モーセ1:31-32, 39参照)。主は、地球の創造の詳細が明らかにされる日が来るなどを約束しておられる(教義と聖約76:5-10; 101:32-34参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

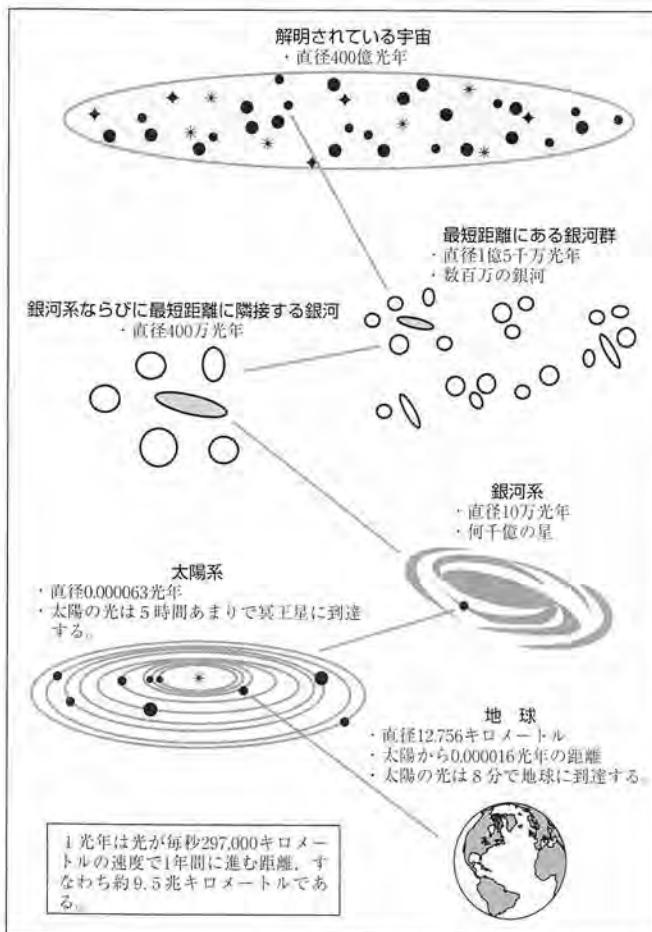
- ・御父の指示の下に、イエス・キリスト(エホバ)が天地を創造された(モーセ2:1参照。教義と聖約38:1-3; 76:23-24; モーセ2:31-33も参照)。
- ・地球は無から創造されたのではない。地球はすでに存在していた物質を使って創造された(創世1章; モーセ2章; アブラハム4章参照)。
- ・すべての生けるものの靈は、物質として創造される前に靈として創造された(創世2:4-5; モーセ3:4-5参照)。
- ・人間の始祖はアダムである。アダムは妻のエバとともに神の形に似せて創造された。地上のすべての民はアダムとエバの子孫である(創世1:26-27; モーセ2:26-27参照)。
- ・神は7日のうちの1日を人々が働きを休んで神を礼拝する日として定められた(創世2:1-3; モーセ3:1-3参照。出エジプト20:8-11も参照)。
- ・時の初めから、神は人に選択の自由を授けられた。それは自らの意志で行動することである。選択の自由を行使して選んだすべてのことには、永遠の律法に基づく結果が伴う(モーセ3:16-17参照。2ニーファイ2:16, 27; 教義と聖約130:20-21も参照)。

教え方の提案

【「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション】5「創造」は、天父の計画の中での創造の位置付けについて説明したものである(教え方の提案は「「旧約聖書」ビデオガイド」を参照)。

創世1:1; モーセ2:1; アブラハム4:1。聖文にある創造に関する記述は、地球がどのように、またどのくらい前に造られ、その過程にどれだけの年月を要したかといった疑問に答えることを目的としてはいない。聖文の目的は、なぜ地球が創造されたのか、創造主はどなたなのかという、より重要な疑問に答えることである。(20-25分)

星空の写真か宇宙の概念図を見せる(次に示した図か223ページの図を参照)。現在解明されている宇宙と地球との関係や、宇宙の広大さについて生徒と話し合う。



200ピース程度のパズルを持参して見せ、宇宙全体と比較するとそのパズルがどれほど単純で簡単かを考えさせる。パズルの入った箱を振ったりパズルを床に落としたりするだけでパズルをうまく組み合わせることができるか試させる。次は、もっと一生懸命に振ったり放ったりすればパズルが自然に組み合わさるかどうか試させる。次のように尋ねる。「パズルのような単純なものでさえも自然には組み合わさないとすれば、地球や宇宙のような途方もない広がりを見せる場所を組織する場合はどうでしょうか。」この活動から、物質を組み立てる創造主や創造を手助けする者の必要性について何が分かるか話し合う。

モーセ2:1とアブラハム4:1を読ませ、これらの聖句から、創造について何が分かるか調べさせる。創造について述べているモーセ2-4章とアブラハム4-5章で「神」という言葉が何回使われているかすばやく数えさせる。なぜ「神」という言葉が何度も使われ強調されていると思うか尋ねる。

エホバ（イエス・キリスト）が創造主であるという重要な真理を強調するために、以下の活動を幾つか行ってもよい。

- 「天のお父様の愛」（『子供の歌集』16ページ）を歌い、この歌が何を伝えようとしているか話し合う。
- 神が生きておられ、愛してくださっていることを思い出させてくれるものについて考えさせるか、クラスに持参させる、またはその絵を描かせる。
- アルマ30:43-44とモーセ6:63を読み、自然界の万物は創造主としてのイエス・キリストと、わたしたちの贖い主としての使命をどのように証しているか話し合う。

創世1-2章；モーセ2-3章；アブラハム3-4章。創造は、天の御父の計画どおりに秩序正しく行われた。（30-35分）

創造の各段階がどのような順序で行われたか生徒に理解させるために、生徒用学習ガイドにある創世1章；モーセ2:1のための活動Aをさせる。創造の順番について話し合い、活動の中で最も印象深かったものはなにか分かち合ってもらう。

モーセ2:10, 12, 18, 21, 25, 31を読ませる。以下の質問をする。

- 創造の各段階を終えたとき、主はどのように評価されましたか。
- 創造の業は、主が良しとされるほどすばらしいものでした。それは、あなたにとってどんな意味があるでしょうか。それはなぜですか。
- 人類は、天の御父とイエス・キリストによる最高の被造物です。それについてどう感じますか。

聖書を手に持って見せ、聖書の外的な特徴（製本、紙、印字スタイル）と、聖書の内容やそれがわたしたちの人生にもたらす意義とで、どちらが大切かを尋ねる。聖書の成り立ちや印刷、歴史も興味深いが、本当に重要なのはそのメッセージや意味であることを伝える。地球の創造にも同じことが言えるか尋ねる。

黒板に以下の質問を書く。

- 方法は？
- 期間は？
- 創造主は？
- 目的は？

以下の質問をする。

- 以上は創造に関する質問だとします。自分の救いという面から考えると、最も重要なのはどの質問ですか。重要度の高いものから順に並べてください。なぜそのように並べましたか。
- モーセ1:39を読む。神が地球を創造された目的は何ですか。

地球の創造については、まだ分からぬことや理解の及ばないことが多い（教義と聖約101:32-33参照）。しかし、創造に関する聖文の記述は、幾つかの最も重要な疑問に答えてくれる。

使徒であったマーク・E・ピーターセン長老のメッセージを読み、その問い合わせにどう答えるか話し合う。

「わたしたちはこの地球が自分にとってどういう意義を持つのか、本当に理解しているでしょうか。なぜ創造されたのか、目的は何なのか理解しているでしょうか。地球の起源に偶然性はまったくないことを分かっているのでしょうか。また、地球の創造が文字通り真実のものであり、完璧な神の御業であることを知っているでしょうか。」（『聖徒の道』1983年7月号、112参照）

創世1：26-27（マスター聖句）。わたしたちはまさしく神の息子、娘であり、神の姿に似せて創造された。（15-20分）

何人かの生徒に、親と似ている点について、特に親から受け継いだ性格や学んだ特質（身体的な特徴、習慣、癖、価値観、靈の賜物など）について話させる。以下の質問をする。

- 一般的に、子供は成長すると親に似てきますか。
- 創世1：26-27を読んでください。わたしたちはどなたに似せて創造されましたか。
- その御方からどのような性格や資質を受け継ぎましたか。
- 天の御父に似せて創造されたという知識は、わたしたちが成長して神と似た者となるためにどう役立ちますか。

1909年、大管長会は次の声明を出した。

「すべての男女は、全人類の両親である天の父母にかたどられており、文字どおり神の息子、娘です。」（ジェームズ・R・クラーク編、Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints、全6巻〔1965年-1975年〕、第4巻、203）

1995年に、大管長会と十二使徒定員会は次の宣言を発表した。

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている靈の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、10参照）

自分が天の御父に似せて創造されたことを知ることは、自尊心を高めるのにどう役立ちますか。わたしたちが神の子であり、神に似せて造られたことを示すほかの聖句を見つけさせる。『聖句ガイド』を使うよう促す。見つけた聖句を列挙し、その幾つかをマスター聖句の節の隣に書き込むよう勧める。リストの中から聖句を幾つか選び、友人が天の御父についてより深く理解するのを助けるため、それらの聖句をどう用いるか考えさせる。

十二使徒定員会会員であるM・ラッセル・バラード長老はこう語っている。

「砂粒から広大な宇宙に至るまで、身の回りのあらゆる物に神の創造のしるしを求めるとき、人間はその中で最も偉大なものであることが分かるようになります。わたしたちは神にかたどって造られています。」（『聖徒の道』1988年6月号、58参照）

創世2：1-3。神は7日のうちの1日を、人々が働きを休んで神を礼拝する日とされた。（10-15分）

生徒に質問する。

- 一週間のうち、ほかの日よりも楽しいのは何曜日ですか。
- その日がほかの日と違うのはどんな点ですか。
- モーセ2：31を読む。エホバは創造の業を終えられたとき、その業をどう表現されましたか。
- モーセ3：1-3を読む。聖文によると、創造の最後に何がありましたか。
- 創造の7日目に対する主の扱いは、ほかの6日間とどう異なっていましたか。
- 主はわたしたちがどのように主の模範に従うよう求めておられますか。

主が安息日の大切さをシナイ山で再び強調されたことを説明する。出エジプト20：8-11；31：13, 16-17を読んで、なぜ安息日を聖なる日として聖く過ごさなければならないか理解させる。生徒の答えを黒板に書いて話し合う。

主と聖約を交わしたとして、安息日にはどのような意義があるか尋ねる（出エジプト31：13, 16参照）。主と交わした聖約を無視したり軽んじたりするとどうなるか生徒に尋ねる。

イザヤ58：13-14と教義と聖約59：9-21を読ませ、戒めに従って安息日を聖く保つことにより与えられる祝福を探させる。主が聖約の民に約束された祝福を受けることができるよう、戒めをこれまで以上に忠実に守って生活するよう生徒を励ます。

創世2：15-17；モーセ3：15-17。アダムとエバの物語や神の救いの計画における永遠の進歩にとって、選択の自由は不可欠な要素である。（15-20分）

黒板に「自由は無料ではない」と書き、このように尋ねる。

- この言葉はどのような意味ですか。
- なぜ自由は無料ではないのですか。
- 無料とはどのような意味ですか。（代価を支払う必要がない。）

自由のために支払う代価の例を生徒に挙げさせて、ボイド・K・パッカー長老の次の話を紹介する。

「聖典には『選択の自由』という言葉がありますが、これは本来、善悪を判断する能力という意味で使われているのです。主はこのように述べておられます。『それは、すべての人が……裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うようになるためである。』（教義と聖約101：78。強調付加）」（『聖徒の道』1992年7月号、71参照）

聖文のどこにも選択の自由は無料であるという記述はない。その理由を生徒に尋ねる。次のことを理解させる。「選択の自由という賜物は、わたしたちに自由に選択する力を

与えてくれる（2ニーファイ2:27参照）。そのため、しばしば選択の自由には代価を払う必要がないとの誤解を与えるが、わたしたちは自由に選択した結果について責任を負わなければならない。」（教義と聖約101:78参照）別の言葉で言えば、わたしたちは年齢や精神的な問題がないかぎり、選択に伴う責任と結果を免れることはできない。

創世2章とモーセ3章に、主がアダムとエバに選択の自由をお与えになったことが書かれていることを説明する。次の表を書き写す。「食べる」「食べない」の欄は空欄にしておく。この出来事について学びながら生徒に空欄を埋めさせる。

食べるか、食べないか

アダムの選択

食べる

エデンの園を出て死すべき体になるが、神のように日の栄えの状態を受け継ぐ機会が得られる。

善悪を知る木

食べない

月の栄えの状態で園に残る。死ぬことはないか子供をもうけることはできない。

モーセ3:9、15-17を読ませ、善悪を知る木の実を食べることについて神がアダムに何と言われたかを探させる。2ニーファイ2:15-16を読ませてこう尋ねる。

- アダムとエバに選択の自由を与えることはなぜ大切だったのでしょうか。
- 2ニーファイ2:22-23を読んでください。アダムとエバが禁断の実を食べなかつたらどうなっていたと思いますか。
- 2ニーファイ2:24-29を読んでください。善悪を知る木の実を食べるという二人の選択は、わたしたちにどのような変化をもたらしましたか。

アダムとエバの選択がわたしたちにとってどのような意義を持つか説明するために、テーブルの上に果物を盛った鉢を置く。その鉢の隣に、食欲をそそるおいしそうな別の果物を1個だけ入れた鉢を置く。一人の生徒をテーブルの前に立たせ、その生徒とテーブルの周間に境界線を引く。最初の鉢の果物は境界線から外に出ないかぎりいくら食べてもいいが、2番目の果物は境界線の外に出て食べなければならない。しかも一度境界線を越えたら二度と中には入れないことを話す。しかし、2番目の鉢の1個を境界線の外に出て自分の席で食べることを選んだ場合は、来週のレッスンのときにクラス全員に何か（果物など）をあげると約束する。

要点：生徒は境界線から出ないで最初の鉢の果物を好きなだけ食べることができる。または2番目の鉢の果物を1個持つて境界線から出て、次のレッスンのときにクラスの全員に何かをプレゼントすることができる。こう質問する。

- この例の場合、どのような選択の自由がありますか。
- この例は、アダムとエバの物語とどのような点で似ていますか。

アダムが選択の自由行使して堕落をもたらし、「人が存在」（2ニーファイ2:25）できるようにしてくれたこと、またイエス・キリストがわたしたちのために贖いの業を成し遂げ、復活と救いを得られるようにしてくださった（1コリント15:22参照）ことを生徒に理解させる。

創世3章；モーセ4章

はじめに

現代の啓示は、神の子供たちの永遠の進歩という観点から、堕落が適切かつ必要な、計画されたステップであったことを明らかにしている。旧約聖書は、堕落の過程で何があったかは説明しているが、堕落の目的やその意義については何も語っていない。その一つの理由は、聖書から分かりやすくて貴い多くの部分が取り去られた（1ニーファイ13:25-29参照）ことであろう。しかし聖書から取り去られた教える多くは、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠の中で回復されているため、教員は堕落の教義を深く理解することができる。

学び取るべき重要な福音の原則

- サタンは、天の御父の幸福の計画を滅ぼそうとして、天で始めた戦いを地上でも続けている（モーセ4:1-6参照。黙示12:7-17；教義と聖約76:28-30も参照）。
- サタンは、主の言葉に耳を傾けない人々の目をくらませ欺き、人々を奴隸にしようとしている（モーセ4:4参照。ジョセフ・スミスマタイ1:37も参照）。
- サタンはエバを欺き、善悪を知る木の実を食べさせようと誘惑した。アダムはその実を食べることを選択した。それは堕落によって「人が存在」し（2ニーファイ2:25）、救いの計画を押し進める（創世3:1-6；モーセ4:5-18参照）ためである。
- 主はアダムとエバに堕落の結果についてお告げになった。二人を含む全人類は、死すべき人間としてこの地上で罪や悲しみを経験し、子供をもうけ、働き、死を味わい、神のみもとから離れた生活をする（創世3:16-24；モーセ4:23-25参照。アルマ42:2-10；モーセ5:1-4；6:48-49も参照）。
- 堕落の結果はアダムとエバにとって益となった。わたしたちにとって善悪を選ぶことができ、悲しみを経験し、子供をもうけ、働き、やがて肉体の死をもってこの世を去るのはよいことである（創世3:16-24参照。モーセ

5:9-11も参照)。

- 夫は、妻と子供を義にかなって管理し、その必要を満たさなければならない(創世3:16-20; モーセ4:22参照。エペソ5:22-31も参照)。
- この世での労働と試練は必要なものであり、祝福となり得る(創世3:16-19; モーセ4:22-25参照)。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』6「墮落」は、墮落が天の御父の計画にとってなぜ不可欠なのか理解するのに役立つ(教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』参照)。

モーセ4:1-6。天で始まった戦いは終わってはいない。サタンは今もなお、天の御父の計画と御父の子供たちを滅ぼそうとしている。(5-10分)

黒板に「天での戦い」と書く。戦争で用いる武器の写真を見せるか、または黒板に絵を描いて尋ねる。

- 天での戦いはどのようなものだったと思いますか。
- 戦いの原因は何でしたか(教義と聖約29:36-38; モーセ4:1-4参照)。

黙示12:7-11を読ませ、だれが戦いに参加していたか調べさせる。(ミカエルとその使い〔これにはわたしたちも含まれる〕対サタンとその使い)モーセ4:1-6を読んで尋ねる。

- サタンはどのような方法で天の軍勢の3分の1を味方につけましたか。
- 神の計画を成就するためのサタンの提案はどのようなものでしたか。
- 人の選択の自由を奪いながら、サタンが成功する見込みはあるでしょうか。

サタンが天の御父に提案したことと「愛する子」であるイエスが提案されたことを比較する。次の質問をする。

- このことを知ると、イエス・キリストに対してどのような気持ちを持ちますか。
- サタンとサタンに従った者たちはどうなりましたか。

教義と聖約76:25-30を読み、戦いはまだ終わっていないことを生徒に理解させる。戦場が天から地上に変わっただけで、戦いは続いている。サタンを打ち負かす武器にはどのようなものがあるか生徒に尋ねる(黙示12:11参照)。サタンの主たる標的は末日聖徒であることを話す(黙示12:17参照)。次の質問をする。「サタンは最終的には外の暗闇に投げ落とされます。それならば、なぜ天の御父はサタンとサタンに従う者たちが地上で多くの人々に害を及ぼすのをそのままにしておかれるのでしょうか。」

モーセ4:1-6。反逆したサタンは、人の選択の自由を滅ぼそうとした。(15-20分)

注意: 以下の活動は創世2:15-17とモーセ3:15-17の教え方の提案(25ページ)に基づいているが、その提案を用いなかった場合でもなお有効である。

モーセ4:1, 3を読み、次のように尋ねる。「聖文には、サタンが人の選択の自由を滅ぼすために何をしたと記されているでしょうか。」多くの人はサタンが強制的に正義を行わせようとしたと考えているが、それは一つの可能性にすぎない。選択の自由を得るには特定の条件が必要であり、その条件をこれから紹介すると生徒に伝える。

生徒の一人を教室の前に出し、今日の残りの一日を正しいことをして過ごせばすばらしい報酬を与えると話す。「正しいこと」とは何か尋ねられたら、ルールは何もなく、好きなことを行ってかまないと伝える。生徒はいい条件だと思うかもしれない。そこでクラスの生徒に、何を根拠に「正しいこと」をしたと判断したらよいか尋ねる。生徒と一緒に2ニーファイ2:11-13を読む。行いを律する規則がなければ、間違った行いも正しい行いもないことになることを理解させる。このような状況では選択の自由が存在しないため、生徒は報酬をもらうことはできない。黒板に「1. 善と悪の区別を明確にする律法が必要である」(2ニーファイ2:13参照)と書く。祝福と結果を伴った特定の規則、すなわち戒めがなければならないことを説明する。律法がなければ罪もない(2ニーファイ2:13参照)。これが選択の自由に不可欠な条件である。

教室の前にテーブルを置き、別の生徒を前に出す。何も置いていないテーブルを指して次のように言う。「このテーブルに置いたものを取って食べることは禁じられています。」生徒が何もしないのを見てから次のように誓める。「律法を破らなかったあなたは何と義しい人でしょうか。」次のように尋ねる。「このような選択肢のない状態で律法を守った人に報酬を与えるべきでしょうか。」預言者ニーファイは、物事には反対のものがなければならないと教えている(2ニーファイ2:11参照)。わたしたちは最終的には善悪の判断を下さなければならない(2ニーファイ2:16参照)。生徒に選択の自由に欠かせない第2の条件は何か尋ねる。黒板に「2. 善と認められる正しい選択肢がなければならない」と書く(2ニーファイ2:11参照)。

テーブルにお菓子を置き、もっとおいしい別の種類のお菓子をポケットに隠しておく。生徒の一人を前に出し、テーブルの上のものを何でも取って食べていいと言う。生徒がテーブルの上の菓子を取った後でポケットの中のものを見せ、なぜポケットの中のもっとおいしいお菓子を選ばなかったのか尋ねる。生徒が「ほかにもお菓子があることを知らなかった」と答えたたら、不可欠な3番目の条件は何かを尋ねる。黒板に「3. 人はすべての選択肢とその結果を知らなければならない」と書く(2ニーファイ2:15-16; ヒラマン14:30-31参照)。

テーブルにお菓子を二つ置く。一方は別の種類よりもおいしいお菓子である。別の生徒を前に出し、好きなものを一つ取って食べていいと言う。生徒がおいしそうな方に手を伸ばしたら、それをテーブルから取り上げる。同じことをもう一度させ、今度はお菓子を取ろうとする生徒の邪魔をする。クラスに4番目の必要条件を尋ねる。黒板に「4. 何にもじやまされず自由に善悪を選択できなければならない」と書く(2ニーファイ2:26-27参照)。

選択の自由が救いの計画において不可欠な条件であることを、以下の質問を用いて理解させる。

- わたしたちがサタンではなく、天の御父の計画に従って地球に来ることを選んだのはなぜでしょうか。
- サタンの計画に従うことで、御父のようになれると思いますか。なぜなれないのですか。
- 善悪の選択について学ぶ機会のなかった人が、神の力を頼ることができますか。

次のことを説明する。「サタンは、これら4つの条件のどれかをなくすことによって、わたしたちの選択の自由を奪おうとしました。そして、同じ欺きと偽りの手法を用いて、今も選択の自由を滅ぼそうとしています。」

モーセ4:4を読ませる。サタンはどのような偽りを用いて人々をだまし、選択に影響を与えようとしているだろうか。(神はいない。だから律法もなければ善悪もないし、罪もない。したがって罰もない。何をしても正しいのだ。)次のように尋ねる。「今日サタンは、どのような方法で選択の自由の4つの条件を切り崩そうとしているでしょうか。」(皆がやっている。自分の体だからいいじゃないか。人に迷惑はかけてない。1回だけだよ。だれにも分からぬよ。)

創世3章；モーセ4:6-29。贖罪について理解し、この世の苦難に立ち向かっていくうえで、堕落への理解は欠かせない。(20-25分)

黒板に次のように書く。「もしエデンの園がパラダイスだったら、なぜアダムとエバは園を離れることを選んだのでしょうか。」以下の文(または生徒の状況に合うもの)を読み、賛成であれば「親指を上向きに」、反対であれば「下向きに」するように言う。

- 虫にかまれるのが好きです。
 - 草むしりは大好きな仕事です。
 - 病気のときがいちばん楽しいです。
 - 戦争や飢餓、疫病が世界中に広まっているのを知ると、心が安らぎます。
 - いつか死ぬと思うとわくわくします。
- 生徒に尋ねる。
- アダムとエバはこのようなことをエデンの園で体験しましたか。
 - アダムとエバがパラダイスではなく、堕落した世界に住むことを選んだのはなぜですか。

モーセ4:6-19を読ませ、エバが禁断の実を食べた理由(12、19節参照)とアダムが食べた理由(18節参照)を調べさせる。このように質問する。「もしもアダムとエバの背きがなければ、わたしたちはエデンの園で生まれていたと思いますか。」(2ニーファイ2:22-23参照)

堕落がわたしたちの進歩に不可欠であったことを理解させるため、次の表を配布するか、または黒板に書く。見出しと番号だけを書いて、残りは答えを書きめるよう空欄にしておく。参考聖句を生徒と読み、堕落前と堕落後の状

態を空欄に記入する。

堕落前	堕落後
1. 肉体の死はない。アダムとエバは永遠に生きることができた(2ニーファイ2:22参照)。	1. 万物が肉体の死を味わうようになった(2ニーファイ9:6参照)。
2. 霊の死はない。二人は神の御前で生活していたので、信仰は必要なかった(アルマ32:21参照)。	2. アダムとエバは神の御前から追い出され、靈的に死んだ状態になった(教義と聖約29:40-42参照)。
3. 選択の自由が制限されていたので、進歩して神になることはできなかった(2ニーファイ2:22参照)。	3. 天の御父の計画に基づいて、永遠の進歩が可能になった(モーセ5:11参照)。
4. 子供をもうけることができなかった(2ニーファイ2:23参照)。	4. アダムとエバは子供をもうけられるようになった(モーセ4:22;5:11参照)。
5. 善と悪、喜びと悲しみの区別が分からぬ、無垢な状態にあった(2ニーファイ2:23参照)。	5. 二人は善と悪、喜びと悲しみを経験できるようになった(モーセ5:11参照)。
6. 何の労力もなしに何でも与えられるパラダイスで生活していた(モーセ3:8-9参照)。	6. 地球も堕落したので、人は働いて必要なものを得なければならなくなつた(モーセ4:23-25参照)。

次のエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉を読み、堕落の結果について知ることが贖罪の価値を認識するためにどのように役立つかを理解させる。(注意: 贖罪についてはモーセ5章で教える。)

「人は飢えを感じなければ本当に食べたいとは思いません。それと同じように、人はなぜキリストが必要かを理解するまで、キリストの救いを得たいとは思いません。

堕落に関する教義と堕落が全人類に及ぼした結果を理解し受け入れるまでは、なぜキリストが必要なのかを、正しくまた十分に理解することはできません。」(『聖徒の道』1987年7月号、96)

生徒に尋ねる。

- 堕落について理解すると、この世で遭遇する試練やチャレンジに堪えやすくなるのはなぜでしょうか。
- チャレンジや困難をまったく経験せずに地上での生活を送ると、どのような不都合がありますか。(次のように尋ねてもよい。「数学の問題を解かずに数学が分かるようになりますか。」「運動をしないでどれくらい体を鍛えることができますか。」)

堕落は後退のように見えるが、実は前進するために不可欠な段階であったことを証する。

創世3:14-19; モーセ4:20-25。墮落の結果は罰ではなく祝福である。(15-20分)

注意: この教え方の提案は、墮落の結果に関する前回の提案の続きである。そのため前回の分に続けて一緒に教えててもよい。

モーセ4:20-25を読ませ、墮落の結果について調べさせる。答えを黒板に書く。

黒板に「恨み」と書く。エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を伝える。「恨みは『憎悪、敵意、反感』などを意味します。」(『聖徒の道』1989年7月号、4参照)

モーセ4:21を黙読させ、次の質問をする。

- ・サタンと女の間、そしてサタンに従う者と女の子孫との間に恨みを置いたのはどなたですか。
- ・女の「子孫」とはだれだと思いますか。(イエス・キリスト。『旧約聖書: 創世—サムエル下』28ページの創世3:15についての注解も参照。)
- ・この恨みが祝福と考えられるのはなぜですか。
- ・イエス・キリストがサタンに勝利を収めたことで、わたしたちはこの世から永遠にわたってどのような祝福を受けると思いますか。

黒板に「苦しみ」と書き、苦しみが祝福と言えるか尋ねる。モーセ4:22-23を読んで各節から「苦しみ」「苦しんで」という言葉を探し、それが罰なのか祝福なのか考えさせる。ここで「苦しみ」という意味に訳されているヘブライ語の言葉には「悲しみ」「労働」「子を産む苦しみ」などの意味もあることを説明する(『旧約聖書: 創世—サムエル下』28-29ページの創世3:16-19についての注解も参照)。次のように尋ねる。「生活において、つらい労働や病気などの逆境が、最後には祝福となることがあります。それはなぜでしょうか。」

創世3:16-20。主はアダムに、エバの福利に対する責任を与えられた。それと同様に、夫は義をもって妻子を治め管理し、家族の必要を満たさなければならない。(5-10分)

中にはアダムがエバを治めるという表現(創世3:16; モーセ4:22参照)に納得がいかない人もいるだろう。『旧約聖書: 創世—サムエル下』28ページの創世3:16にあるスペンサー・W・キンボール大管長の言葉を紹介する。

エベソ5:23を読み、夫はどのように妻子を治めるべきかを尋ねる。次のように尋ねる。「教会を導かれるイエス・キリストはどのような属性をお持ちでしょうか。」黒板に答えを書く。

次のことを理解させる。「天の御父が、アダムとすべての男性に家族を導くに当たって求められている属性は、救い主が教会を導くに当たって示されたものと同じです。」



モーセ1-4章。墮落から得られる祝福。(40-50分)

注意: 週に1回か2回しかクラスがない場合、モーセ1-4章で学ぶ主概念のすべてを教えることは不可能である。この提案は、これらの章で最も重要な教義の幾つかを復習するためのものである。また、生徒の状況や御靈の導きに合わせて、ほかの提案を用意してもよい。

以下の4つの質問を黒板に書く。

- ・わたしはだれでしょう。
- ・地球が創造されたのはなぜですか。
- ・地上に悪が満ち、人生には苦難や試練が続くのはなぜでしょう。
- ・なぜ救い主が必要なのですか。

レッスンを終えるころには以上の4つの質問すべてに答えられるようになってほしいと話す。

「わたしはだれでしょう」という最初の質問について、モーセ1-2章の個人学習から何を学んだか尋ねる。モーセが神と自分自身について学んだことに焦点を当てる(モーセ1:1-11参照)。「子供がどんな大人になるかを判断する一つの方法は、親を見ることだ」という言葉を紹介する。次の質問をする。

- ・わたしたちの靈の父はどなたですか。
- ・そのことから考えて、わたしたちはどのような可能性があると思いますか。

自分が神の靈の子供であると知ることは人生にとってなぜ大切かを話し合う。

生徒用資料のモーセ1章のための活動のAとBを終わらせる。答えを発表させる。

モーセ1章には、この世とこの世に住む人々について主がモーセに授けた示現が記されている。この示現を見た後で、モーセは二つの疑問を持った。モーセ1:30を読んでその二つの疑問に印を付けさせる。次にモーセ1:39とアブラハム3:24-26を読んで、地球が創造された理由を説明させる。

地球が創造された理由の補足として、創造のそれぞれの段階を簡単に説明させる。次の質問をする。

- ・最後に創造されたものは何でしたか。
- ・それはほかの被造物とはどのように異なっていましたか。

「地上に悪が満ち、人生には苦難や試練が続くのはなぜでしょう」という3番目の質問に何と答えるか、生徒に尋ねる。モーセ4:15-31を読ませ、墮落の結果を列挙させる。モーセ5:9-11を読ませる。次の質問をする。

- ・墮落はわたしたちにどのような恵みをもたらしましたか。
- ・救いの計画にとって墮落はなぜ不可欠だったのですか。

- 堕落を祝福するために何が必要でしたか。(贖罪。) それはなぜですか。
- 贖罪の祝福を受けるために、悔い改めはどう役立ちますか。

創世4章：モーセ5章

はじめに

主は十分な指導をせずにアダムとエバをこの世に送り込むことはなさらなかつた。ヨセフ・スミス訳聖書を見れば、アダムとエバが墮落に伴う祝福について学ぶとともに、イエス・キリストとイエスを礼拝する方法についても教わつたことは明白である(モーセ5-6章参照)。さらに、アダムとエバが、自分たちが学んだ真理を子供たちに教えたことも分かる。したがつて、カインが弟を殺したのは、永遠の真理を知つたうえでのことであつた。またわたしたちは、サタンがカインの行動に影響を与えたことも知ることができる。これは聖書から抜け落ちている真理である。

モーセ5章は、アダムとエバの墮落や自分自身の罪が原因で経験する個人的な墮落から贖うための御父の計画について教えている(モーセ5:4と5:41を比較。2ニーファイ1:20; 5:20も参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

- アダムとエバとその子孫は、救いを可能にしてくれるイエス・キリストの贖罪を通して墮落から贖われる(モーセ5:4-9参照。モーサヤ3:16-17; 4:6-8; モーセ6:52も参照)。
- 墮落したことで、アダムとエバとその子孫は喜びを経験し、子供をもうけ、永遠の命を得ることができるようになった(モーセ5:10-11参照。2ニーファイ2:22-27も参照)。
- 主に対するささげ物は、正しい方法でささげられなければならない。そうでなければ主は受け入れてくださらない(モーセ5:16-27参照。モロナイ7:6-8も参照)。
- サタンが人類を滅ぼす一つの方法は、人々を誘惑して同胞に対する責任感を失わせてしまうことである(モーセ5:28-34参照)。

教え方の提案

「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション7「贖罪」は、アダムとエバの犠牲を再現したものである(教え方の提案については「旧約聖書」ビデオガイドを参照)。

モーセ5:1-12。アダムとエバのように、わたしたちは「墮落」し、神の御前から「追い出」されている。イエス・キリストの贖罪を通して、その墮落した状態から贖われる。(25-30分)

大きな紙を2枚用意し、1枚に「神の御前」と書き、もう1枚に「神の御前からの追放」と書く。片方の紙を教室の壁にはり、もう片方の紙を反対側の壁にはる。

生徒と一緒に「神の御前」と書かれた紙の前に立つ。わたしたちを含めすべての人は、地上に来る前に神とともに生活していたことを説明する。アダムとエバもエデンの園で神とともに生活していた。次に墮落を追体験するかのように、生徒と一緒に反対側の壁の「神の御前からの追放」の紙がはつてあるところに移動する。また二つの壁を隔てた教室の床の中央にテープで境界線を引き、そこに神の御前に戻ることを阻む壁があることを説明する。

モーセ5:1を読ませて尋ねる。

- このときアダムとエバは、神の御前で生活していましたか。それとも追い出されていましたか。
- 二人はどうして神の御前から追い出されたのですか。(禁断の実を食べることによって律法に背いた。)
- 二人の状態と今のわたしたちの状態はどんな点が似ていますか。

アルマ42:2-3, 6-7, 9, 12, 14を読ませ、墮落の後の状態を黒板に列挙する。墮落の重大な結果として、肉体の死と靈の死の二つがもたらされ、それによって人は神の前から追い出されたことを生徒に理解させる。

わたしたちは二つの原因によって墮落した状態に置かれている。その原因とは、アダムの墮落とわたしたち自身の罪である。救い主の贖罪は、全人類をアダムの墮落の結果から救い出し、特定の条件に従うことで個人的な罪の結果から逃れるすべてを与えてくれる。贖罪の力を示すために、教室の床にはつたテープの中間部分を1メートル程度はがす。生徒に2ニーファイ31:19-21を読ませ、次のように尋ねる。「天の御父のみもとに戻る道を開いてくださったのはどなたでしょうか。また、どのようにしてそれを成し遂げてくださったのでしょうか。」「街を離れたる青き丘に」(『贊美歌』110番)の歌詞を生徒と一緒に歌うか読んで、それがモーセ5:6-8の天使のメッセージとどう関連するかを話し合ってもよい。テープをはがした部分に「イエス・キリストの贖罪」と書いたラベルをはる。

次の表の内容を黒板や紙に書くか、または配付資料にして配るかして、贖罪がどのようにして全人類に墮落の結果から贖われる道を備えたか理解させる(モーセ6:50-68の教え方の提案、35ページも参照)。表の右の欄に参照聖句の章と節だけを書いて、生徒に答えを探させてよい。

救いを必要とする アダムの墮落の結果

- ・肉体の死：わたしたちは皆、やがては滅びる肉体を持って生まれる。
- ・靈の死：わたしたちは皆、天の御父の御前から切り離された墮落した世界に生まれる。
- ・わたしたちは星の栄えの状態にある墮落した地球に住む。



救いを必要とする わたしたち自身の 墮落の結果

- ・自分自身の選択に対して責任を問われるようになると、罪によって天の御父のみもとに戻るためのふさわしさを失ってしまう（モーサヤ16：2-5参照）。

救いを必要とする 贖罪のもたらす 条件つきの祝福

- ・イエス・キリストに対する信仰を持ち、悔い改めてバブテスマを受ける人は、罪から清められる。また、聖靈の賜物を通して聖められ、御父のみもとに戻り御父のようになる資格を得る（アルマ34：13-17；42：15；モロナイ10：32-33；教義と聖約76：58；132：19-20；モーセ5：5-11参照）。

モーセ5：4-7。主の贖いの犠牲について教え、覚えさせるために、主は象徴をお使いになる。（20-25分）

懐中電灯かオーバーヘッドプロジェクターを使って、ある物体の影を壁に映し出し、このように尋ねる。「これはいったい何でしょうか。なぜそれが分かりますか。」影は物体そのものではないが、物体の存在を示す象徴であることを説明する。

神はしばしば、イエス・キリストの贖罪の「影」（「予型」や「ひながた」とも呼ばれる）を用いて、信者の信仰を高め、贖罪の原則を教え、贖罪によってもたらされる救いを信者が待ち望むようにされた。モーセ5：4-5を読ませ、主がアダムとエバにお与えになった戒めを探させる。7節

救いを必要とする アダムの墮落の結果

- ・これまで地上に生を受けた人は皆、不死不滅の肉体を得て復活する（アルマ11：42-44参照）。
- ・すべての人は裁きのために神の御前に戻る（アルマ11：44；ヒラマン14：15-17参照）。
- ・地球は日の栄えの状態になる（教義と聖約88：18-20参照）。

を読ませ、「ひながた」という言葉を見つけさせる。ひながたとは、予型や象徴とも呼ばれ、実在する別の何かを思い起こさせるものであることを話す。5-6節を読んで、どのようなささげ物がひながたとして使われたか探させる（犠牲；群れの初子）。これらが救い主の贖罪の「影」と言えるのはなぜか尋ねる。

アダムがささげた犠牲はイエス・キリストの贖罪を象徴するものであり、以下に挙げる犠牲のささげ物は贖罪について教えるものであった。

- ・アダムは「群れの初子」（モーセ5：5）をささげた。初子とは最初に生まれた雄のことである。イエス・キリストは前世において御父の長子としてお生まれになった（教義と聖約93：21参照）。イエスは御父の内における独り子であられ、母マリヤの長子でもあった。またイエスは死人の中から最初にお生まれになった（コロサイ1：18参照。1コリント15：20も参照）。
- ・群れの初子は、罪を犯した人の代わりに犠牲としてささげられた。同じ理由でイエス・キリストは神の小羊と呼ばれることがある（ヨハネ1：29；1ニーファイ11：31-33参照）。イエスは全人類の身代わりとして苦しみ、命をささげられた（教義と聖約18：11-12参照）。それは「すべての人が大いなる創造主に従うようになる」（2ニーファイ9：5）ためであった。主がわたしたちの罪の代価を払い、御自身を犠牲としてささげられたので、わたしたちは主を通して救いを求めるなければならない。アダムは天使から、彼がささげた犠牲は「悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求め」（モーセ5：8）ることを思い起こさせるためのものであると教えられた。

主はモーセに、救い主の贖いの犠牲のひながたとなる、ほかの犠牲についても明らかにされた（出エジプト12：3-28、43-50；レビ1：1-4：12参照）。

生徒に質問する。「わたしたちは今日、あるひながたに参加しています。それを通して贖罪を思い起こすことができます。そのひながたとは何でしょうか。」（聖餐。）教義と聖約20：77、79にある聖餐の祈りを読み、次のように尋ねる。「聖餐を通して、アダムが天使から教わった原則について何を知ることができるでしょうか。例えば、聖餐によってわたしたちはどのように『行うすべてのことを御子の御名によって行〔う〕』（モーセ5：8）よう促されるでしょうか。『あなたは墮落したので、^{おかな}贖いを受けることができる』（9節）という知識についてはどうでしょうか。」

黒板に次の図を描き、次のことを理解させる。「イエス・キリストが降誕される前にささげられた血の犠牲は、将来におけるイエスの贖罪を待ち望むものです。そして聖餐は、贖罪を思い起こすためのものです。」

血の犠牲 → 贖罪 ← 聖餐

創世4：1-16；モーセ5：12-41。サタンはわたしたちを誘惑して、他人の福利に対して何も責任がないかのように思わせる。(20-25分)

モーセ5：12を一緒に読み、次のことを理解させる。「アダムとエバは、主から学んだ真理をすべての子供たちに教えました。」生徒に13-41節を読ませ、義しい両親によって育てられたカインが、福音の真理に背いて「滅び」と呼ばれるようになったことを理解させるために、重要な言葉や記述を指摘する。滅びとは「失われた者」または「破滅」という意味である。

使徒であったブルース・R・マッコンキー長老はこう語っている。

「カインとサタンの二人は、滅びという恐ろしい称号を得た。この称号は、二人がいかなる程度の救いも得る望みがないということを意味している。彼らはありとあらゆる罪悪に身をゆだね、義なる思いを心の中からことごとく締め出してしまった。……二人とも自分たちのしていることは義にそぐわないとはっきり知っているから、公然と神に背いたのである。」(Mormon Doctrine, 第2版〔1966年〕, 566)

以下の質問を用いてクラスで話し合う。

- カインのどのような行いが、神よりもサタンを愛したことと示していますか。
- 今日の人々もその行いによって、神とサタンのどちらを愛しているか分かります。どのような行いによってそれが分かるのでしょうか。
- サタンがカインにささげ物をするように命じたという事実を知ることはなぜ大切なですか(モーセ5：18参照)。
- アルマ3：27を読んでください。サタンがもたらす「報い」と主が授けてくださる賜物にはどんな違いがありますか。
- サタンの誘惑に従うとどのような結果を招きますか。
- 「わたしは弟の番人でしょうか」(創世4：9；モーセ5：34)というカインの言葉から、カインの人柄についてどんなことが分かりますか。なぜカインはそのように言ったと思いますか。
- カインの質問に対する適切な答えは何だと思いますか。

十二使徒定員会会員のダリン・H・オーラス長老はこう述べています。

「わたしたちは兄弟たちの番人でしょうか。つまり、日々の糧を求めるときに、隣人の福利を守る責任があるのでしょうか。救い主の黄金律によれば、そのとおりです。しかしサタンはそうではないと言っています。

サタンの誘惑を受けて、カインの例に倣ってきた人々もいます。財産を欲し、それを得るために罪を犯すのです。その罪は殺人、強盗、窃盗もありますし、詐欺やごまかしもあります。法律の網の目をくぐるようにして巧みに事実を操作したり、他人の弱みに付け込むように圧力をかけたりすることもあるでしょう。いずれの場合にも言い訳は同じなのです。『わたしが弟の番人でしょうか。』」(『聖徒の道』1987年1月号, 22参照)

生徒に尋ねる。

- 今日、サタンはどのような誘惑を用いて人々を迷わせていますか。
- 今日広く見受けられる罪の中で、どのような罪がカインの罪に似ていますか。

アルマ41：3-10を読み、何が幸福をもたらし何が不幸をもたらすか調べさせる。

モーセ5章。主に対するささげ物は正しい方法でささげられなければならない。そうでなければ主は受け入れてくださらない。(10-15分)

生徒たちも知っているように、今日わたしたちは神に燔祭をささげることはしない。しかし多くの人は、犠牲の律法が現在も生きていて、律法に従うことでアダムが受けたのと同じ祝福をわたしたちも得ることができるということを理解していないようである。生徒に3ニーファイ9：20；教義と聖約59：8；97：8を読ませ、次のように尋ねる。「主は今日、どのような犠牲をわたしたちに求めておられるでしょうか。」

当時十二使徒定員会会長であったエズラ・タフト・ベンソン長老の言葉を紹介する。

「神の御心に背くことを捨てると、主の御靈の導きからわたしたちを遠ざける一切の罪を悔い改め、儀式を受け、主と誓約を交わすことによってキリストのもとへ来ることである。また神の御心に背くことを捨てると、『主なるあなたの神に犠牲を、すなわち打ち碎かれた心と悔いる靈の犠牲をささげ〔る〕』(教義と聖約59：8)ことである。」(『聖徒の道』1979年10月, 47)

生徒に質問する。

- 打ち碎かれた心と悔いる靈を主が喜ばれるのはなぜですか。
- 今日わたしたちは、ほかにどのようなものをささげていますか。(例えば、什分の一や断食献金を納める、奉仕をする、才能を分かち合う、福音の原則に従う、セミナーに出席する、伝道に出る。)

モーセ5：16-21を読ませ、アベルとカインが何をどのような理由でささげたかを比較させる。次の質問をする。「アベルのささげ物が受け入れられ、カインのささげ物が受け入れられなかったのはなぜですか。」(モーセ5：5, 20-23参照)

モロナイ7：6-13を読ませ、わたしたちの動機や態度がささげ物の価値にどのような影響を与えるか調べさせる。モロナイは「悪魔はだれにも善を行なうように説き勧めない」(モロナイ7：17)と教えている。サタンの求めに従ってささげるささげ物が、モロナイ7：6-9で教えられていることと調和しないのはなぜだろうか。本当の動機は信仰の一部であり、わたしたちは正しい行いによってその信仰を示す。預言者ジョセフ・スミスはこう説明している。

「カインは地の産物をささげましたが受け入れられませんでした。信仰によってささげることができなかつたからです。……動物の犠牲は、神が備えられた大いなる犠牲を理解するための予型として定められました。ですから、それにそぐわないものをささげても信仰を行使することにはなりません。……しかしアベルは御心にかなつたものをささげたため、義人として認められたのです。……動物の血を流すことは、神がいつの日か御自身を犠牲としてささげられることのひながた、予型、あるいは象徴として行う必要がありました。また罪の赦しをもたらす偉大な犠牲を、ひたすら望み見る信仰をもって行うのでなければ何の意味もなかったのです。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 58)

義にかなつた行いをしたアベルは、カインに殺されはしたものとの主の祝福を得た。教義と聖約42:46; 98:13; そして138:38-40を読ませ、アベルがその義なる行いのゆえに主から得た偉大な祝福を探させる。

今にわたくしたちがささげる犠牲は、旧約聖書の時代のものとは異なる。しかし、心の思いについての原則は今日でも生きている。例えば、わたしたちは聖餐の儀式で打ち砕かれた心と悔いる靈をささげる機会がある。イエス・キリストと贖罪を覚えて聖餐にあづかることにより、その神聖な儀式から祝福を得ることができる。義なる犠牲は「天の恵み」(「たたえよ、主の召したまいし」『贊美歌』16番参照)をもたらすことを生徒に理解させる。この原則の応用例を生徒に考えさせる。(例えば、什分の一を納める。清い生活をする。) あなた自身の経験の中からこの真理を証する例を紹介してもよい。

創世5章：モーセ6-7章

はじめに

モーセ6-7章には、預言者ジョセフ・スミスによって復された聖句が含まれている。これらの章では、創世5章の4つの節が改訂され、新たに126の節が加えられている。この追加によって、わたしたちはアダムとその子孫のこととさらによく理解できるようになった。これらの章は、エノクとその使命(これにはアダムが堕落をどう克服したかについての新たな教えも含んでいる)、そしてシオンの町についての知識を提供するという大きな役割を果たしている。わたしたちはエノクについての記述から、罪を克服して神のみもとに戻るための教義や原則を学ぶにとどまらず、そうした原則を応用して義なる社会を確立し、やがては神の御前に取り上げられた民について読むことができる。

学び取るべき重要な福音の原則

- 家族歴史の業には、先祖の名前や歴史を探求し、自分の

記録を子孫に残すことが含まれる(モーセ6:1-25, 45-46参照)。家族歴史の業は神殿の業に集約される。

- わたしたちは、過去の義人の記録を読むことによって、重要な福音の真理を学ぶことができる(モーセ6:4-9, 41, 45-46参照。2ニーファイ25:23, 26; アブラハム1:31も参照)。
- 主は、福音の真理を人に教えるために特定の人々を召され、特別な知識と洞察力、および力を授けられる(モーセ6:27-29, 32-36, 42-43, 47; 7:2-21参照)。
- わたしたちは神の王国に「再び……生まれ」ことにより、堕落からの影響を克服することができる(モーセ6:48-60, 62, 64-68; 7:10-11, 18-21参照)。
- エノクはその町とともに、義のために身を変えられた。すなわち天に取り上げられた(創世5:21-24; モーセ7:13-21参照。教義と聖約107:48-49も参照)。
- 民が皆一致して義にかなつた生活をし、民の中の貧しい人々の世話をするとき、主はその民をシオンの民と呼ばれる(モーセ7:18参照)。主はシオンにおいて主の民とともに住みになる(モーセ7:16-17, 21, 27, 69参照。教義と聖約45:64-71; 84:2-5も参照)。
- 悪は救い主の再降臨まで地球上に存在し続ける(モーセ7:23-66)。

教え方の提案

『旧約聖書』ビデオプレゼンテーション8「第一の原則と儀式」では、生命の誕生の姿を靈的な再生のひながたとしてとらえ、また救いの計画におけるわたしたちの責任を橋にたとえている。プレゼンテーション12「聖文の象徴」は、聖文に見られる象徴の特徴と目的を説明したものである。以上はこの聖句ブロックまたは出エジプト11-13章を教えるときに用いるとよい(教え方の提案については『旧約聖書』ビデオガイドを参照)。

モーセ6:1-25, 45-46。家族歴史の業は神聖かつ重要な業である。この業にはわたしたちの先祖の名前や歴史を探求すること、および自分自身の記録を子孫に残すことが含まれる。それらは神殿の業に集約されている。(25-30分)

完成した系図表と家族の記録を見せ(教師自身のものが望ましい)、その説明をする。また可能であれば、記録の中に記されている人を一人選び、その人にまつわる話をする。その人とつながりがあることになぜ感謝しているのか説明する。未記入の系図表と家族の記録用紙を人数分用意し、クラスの中で書かせる。個人と家族の歴史を書くことの一環として、家で記録を完成させる。

モーセ6:5-25, 45-46を黙読させ、アダムの家族の記録にどのような情報が記されていたか、また記録が何のために用いられていたかを話させる。次のように尋ねる。「わたしたちの家族の記録を、アダムと同じように用いるにはどうしたらいいでしょうか。」個人と家族の歴史や記録にど

のようなものを含むべきか、また、以下の情報を伝えることがなぜ大切なことを理解させる。

- ・当時十二使徒定員会会員であったブルース・R・マッコーシー長老は、靈感の御靈によって書かれたアダムの覚えの書には「彼らの信仰と働き、義と献身、啓示と示現、そして啓示された救いの計画への従順さ」が含まれていたと記している（*Mormon Doctrine*, 100）。
- ・アダムやその後の人々の記録は、後世の人々が先祖や先祖の教え、および神権の儀式を学ぶのに役立った（モーセ6:45-46；アブラハム1:31参照）。
- ・記録は読み書きを教えるためにも用いられた（モーセ6:6参照）。
- ・聖典は、「覚えの書」に、主に誠実かつ忠実に生きた人々の名が連ねてあると教えていた（マラキ3:16-17；教義と聖約85:9-11参照）。

教会指導者は、アダムの模範に従って個人と家族の歴史を残すように勧めている。覚えの書を記すことの大切さについてスペンサー・W・キンボール大管長はこう語っている。

「覚えの書を記す人々は、日常生活において主を覚えるのである。日記は自分の受けている祝福を数え上げ、その祝福を子孫に伝え残す手段である。」（『聖徒の道』1978年10月号、123参照）

教会は、亡くなった親族のために、家族の記録を作成して神殿の業を行うよう教会員に勧告している（ダリン・H・オーケス「賢く秩序正しく」『聖徒の道』1989年12月号、18-23）。生徒用資料の創世5章；モーセ6章にあるキンボール大管長の言葉を紹介してもよい。

記録を残すことの大切さについて、以下の聖句から何が分かるかグループまたは個人で調べさせる。

- ・1ニーファイ4:10-16（不信仰のために國が滅びないようにする。）
- ・2ニーファイ25:23, 26（わたしたちの証を通して、子孫がキリストのみもとに来られるようにする。）
- ・教義と聖約128:6-7, 15-18（執行された救いの儀式の記録となる。）

個人と家族の正確な記録を残すよう生徒に勧める。

モーセ6:26-47; 7:1-21。預言者としてのエノクの召しについて知ることで、主がなぜ預言者を召されるか理解することができる。また、主が預言者に靈的洞察力を与えられることや、主に進んで従おうとするときに力を与えられ、弱さを強くされることが分かる。（35-40分）

主が預言者を召される理由を尋ねる。生徒の答えをすべて受け入れたうえで、聖典を調べ、『聖句ガイド』を用いるよう促す。教義と聖約1:12-23には、その理由として最適な答えが記されている。それらの聖句を読んで話し合うよう提案してもよい。

エノクの召しについて研究することは、主が預言者を召される理由を理解するうえで役立つ。以下の質問を黒板に書く。行間を空けて、答えを書き込めるようにする。

- ・主がエノクを召されたのはなぜですか。
- ・エノクは召しについてどう感じましたか。
- ・主はエノクにどんなことを約束されましたか。
- ・人々はエノクにどのような態度を執りましたか。

モーセ6:26-38を読ませ、質問に対する答えを書かせる。生徒が気づいたことについて話し合いながら、以下の点に特に注目させる。

- ・その地の民の状態について説明している言葉（モーセ6:27-29）。以下の言葉がどのようなことを意味しているのか話し合う。「彼らの心はかたくなになり」「その耳は聞こえにくく」「その目は遠くを見ることができない」「闇の中で自分の知恵を求める」「彼らは偽りの誓いを立て」。これらの言葉は、どんな点で現代の人々に当てはまりますか。
- ・聖見者とは「見る人」のことである。次の質問をする。「主が聖見者をお遣わしになったことと、主が言われた民の問題との間には、具体的にどのような関係がありますか」（モーセ6:27-29参照）。生徒にモーセ6:35-46; 7:2-12を読ませ、次の質問に答えさせる。「エノクは何を見ましたか。」「それについて主は何と言われましたか。」「そのことを知ってエノクは何をしましたか。」次の質問をする。「示現を見る前にエノクが目に泥を塗ってそれを洗い流したことにはどんな意味がありますか」（モーセ6:35-36参照。教義と聖約5:24も参照）。

教義と聖約21:1-2, 4-6を読み、次のことを話し合う。「主は、現代の預言者とその役割について何とおしゃったでしょうか。また、預言者が受けた示現をわたしたちが受け入れるとき、主は何を約束されているでしょうか。」預言者は聖見者であるため、わたしたちが見ることのできないものを目にすること。預言者が与える勧告も、今はまだ理解できない理由に基づいているかもしれない。例えば、若人にとって守りにくい標準があるのは、その目的を自分で理解できない、すなわち見ていないからかもしれない。

エノクの物語は、主を信頼してその勧告に従った人々がどのような報いを受けるかについてのすばらしい例である。以下について調べさせる。

- ・エノクが語った自分の弱点（モーセ6:31参照）。
- ・主がエノクに命じられたこと。また、約束されたこと（モーセ6:32-34参照）。
- ・エノクが行ったこと（モーセ6:37, 39, 47; 7:2-3, 12参照）。
- ・エノクについて書かれていること（モーセ6:39, 47; 7:13, 20参照）。

次のことを尋ねる。「エノクの物語はどういう点で、主がエテル12:27でされた約束の例と言えるでしょうか。」モーセ6:27-29, 37-38とモーセ7:16-21を比較させ、民の生活に起きた劇的な変化について話し合う。エノクとその民がしたのと同じように、わたしたちも主の助けを得て

自分の性格を変えていくことができると約束する。

モーセ6:50-68。神の王国において救いを得るには、イエス・キリストの贖罪しゆくざいを通して「再び……生まれ」なければならない。(35-40分)

以下の質問をする。

- 新しい場所に引っ越しした経験のある人は、どんなことが大変でしたか。
- 新しい場所に引っ越しすことの利点は何ですか。(知らない人と友達になる。異なる文化や生活様式を理解する。だれも自分を知らない場所で人生の再スタートを切る。)
- 人生の再スタートを切ることにはどのような利点がありますか。

モーセ6:59を読ませ、次のことを調べさせる。「主から最大の賜物たまものを得るために、主は何をする必要があるとおっしゃいましたか。」再び生まれることの意味をもっとよく理解させるために50-58節を読ませ、バプテスマと人の誕生がどのように似ているか話し合う。モーサヤ5:2とアルマ5:14を読ませ、再び生まれるには、バプテスマの儀式以上のことことが求められることを明らかにする。

モーセ6:60を読ませる。黒板に「義とされる」「聖められる」と書き、この二つの言葉を聞いたことがあるか、またどのような意味かを尋ねる。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう説明している。

「この世に生まれてくる子供はすべて水の中に宿り、水と血と靈によって生まれる。神の王国に生まれるときも同じようにして生まれなければならない。バプテスマを受けるとき、わたしたちは水によって生まれる。キリストの血が流されたことによってわたしたちは洗われ、清められる。また神の御靈みなまによって義とされる。バプテスマは聖靈によるバプテスマなしには完全ではない。これでこの世に生まれてくる誕生と神の王国に生まれる誕生の類似点たとえいが分かるだろう。」(『救いの教義』第2巻、300-301参照)

以下の文章は、義とされることと聖められること、およびそれらが靈的再生の過程で果たす役割をさらに理解するうえで役立つ。コピーして生徒たちに読ませてもよい。

- ブルース・R・マッコンキー長老はこう書いている。

「義とされるとは、正しい人々が追い求めてきた人生的の歩みに、神が承認の印を押され結び固められることです。これは教員として過ごした人生を聖靈が承認されることであり、眞の聖徒たちの生き方を神が受け入れられることを意味します。つまり約束の聖なる御靈みなまによって結び固められることなのです。」(A New Witness for the Articles of Faith [1985年], 102)

- マッコンキー長老はこう続けている。

「聖められるとは清くなることです。純粹で汚れがなく、罪が一切ない状態のことです。罪においては死に、義にあっては再び生まれ、聖靈によって新たに生かされた人々のみが、聖められた人として数えられるのです。……

……多くの人にとって聖めは進行中のプロセスです。わたしたちは、どの程度この世の習わしを克服し、名前だけでなく行きにおいても聖徒となったかに応じて、この栄光ある状態を享受することになります。」(A New Witness for the Articles of Faith, 265-266)

- ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう語っている。

「永遠の命とは、福音のすべての律法と聖約に従順であった人で、その忠実さのゆえにイエス・キリストの血によって清められた人が受ける報いである。この大きな賜物を受ける人は……イエス・キリストに似た者となる。」(『救いの教義』第2巻、200参照)

義とされることと聖められることは、人がそれを受け、その状態を維持するために信仰と努力が求められるプロセスであることを生徒に理解させる。バプテスマの聖約を守り、聖靈の促しに従い、悔い改めることによって、キリストに近づけるように忍耐強く努力すれば、わたしたちは義とされ、聖められる。

モーセ6:62を読ませ、わたしたちは何の力によって救いの計画の恩恵を受けることができるようになったのか調べさせる。バプテスマなどの様々な儀式が、救いの計画の中でどのような役割を果たしているか尋ねる。モーセ6:64-68を読ませ、アダムがどのような救いの儀式を受けたか調べさせる。

次のように尋ねる。「救いに必要な儀式は、バプテスマと聖靈の賜物たまものを受けることだけでしょうか。」2ニーファイ31:17-21を一緒に読む。道を歩み始めた後で、ニーファイは何をしなければならないと言つただろうか。調べて話し合う。モーセ6:68でレッスンを終えるとよい。この聖句は、これまで学んできた教義と原則に従うことで、アダムの場合と同じようにアダムの子孫たちも神と一つになるということを教えている。

モーセ7:18(マスター聖句)。福音の原則に完全に従うなら、人は主がともに住まわれる理想の社会を築くことができる。主はそのような人々および地域社会を「シオン」と呼ばれる。(25-30分)

エノクとその民の模範は、主の戒めを守ってシオンのような社会を築こうとする末日聖徒に役立つ教えを提供してくれる(教義と聖約6:6参照)。モーセ7:18を読ませ、主がシオンについて説明するために用いられた3つの段階

を探させる。

- ・「心を一つにし、思いを一つにし」(一致)
- ・「義のうちに住んだ」
- ・「貧しい者はいなかった」

これらを黒板に書き出し、聖典に出てくるこれらの言葉に下線を引かせる。これらがどのような状態か分かると、生活の中にそのような状態を確立するために備えることができる。

「心を一つにし、思いを一つにし」 4ニーファイ1:15を読ませ、何が一致をもたらしたか調べさせる。エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を紹介する。

「神を第一に考えれば、ほかのすべてのものは正しい位置に落ち着くか、または生活の中から消えていくかのどちらかです。主の愛は、感情の欲求や時間の要求、興味、および物事の優先順位をコントロールします。」(『聖徒の道』1988年6月号、4参照)

「義のうちに住んだ」 シオンは義によってのみ確立され、義は文字どおり「神の前に義しい」ことを意味する。これはエノクがモーセ6:57-61で教えているプロセスに従うことによって達成される。

「貧しい者はいなかった」 マタイ22:36-40を読ませ、第二の偉大な戒めを見つけさせる。隣人に愛を示すにはどうしたらよいか尋ねる。モルモン書ヤコブ2:18-19を読ませ、わたしたちが富を得る目的について主が教えられたことを調べさせる。人は義のうちに心を一つにして初めて、利己心や貪欲、理にかなわない感情などを克服することができる。そのような人々の最大の望みは、主を助けて、すべての人に真の幸福をもたらすことである。貧しい人々の世話をすることは、自分自身を愛するように隣人を愛するという第二の偉大な戒めの実践にほかならない。

教員には貧しい人々の世話をする機会が毎月与えられている。どのような機会があるか生徒に尋ねる。断食をして惜しみなく断食献金を納めることによって、この世の影響を克服して御靈に近づけることを説明する。わたしたちは毎月定期的に断食し、少なくとも断食して食べなかつた食事に相当する金額を貧しい人々のために献金するよう勧められている。可能な人はそれ以上の金額を納めるべきである。スペンサー・W・キンボール大管長はこう語っている。

「わたしたちは、さらに惜しみなく与えるべきだと思います。断食することで得た2食分の金額だけではなく、恐らくもっと多くを献金すべきなのです。可能であるなら、その10倍をも納めるべきなのです。」(Conference Report, 1974年4月号, 184)

以下の勧告を紹介し、貧しい人々を助けるためのほかの方法についても理解させる。

「貧しい人や助けを必要としている人に憐れみを示す方法はほかにもたくさんあります。時間や才能を使って助ける、精神的、情緒的な支えとなる、信仰をもって祈るなどです。……」

心に愛を抱くならば、貧しい人や助けを必要としている人に手を差し伸べる方法は、言わなくても分かるはずです……

自分よりも恵まれない人に援助の手を差し伸べようとするならば、そうした必要にもっと気づくようになります。そして憐れみの気持ちが増し、周囲の人の苦しみを何とかして取り除きたいと強く願うようになります。そして主の御靈の導きを受けるようになります、だれに奉仕すればよいか、必要を満たす最もよい方法は何か分かるようになるでしょう。」(『福祉に関する指導者用ガイド—主の道にかないで助けをなす』9)

生徒用資料の創世5章；モーセ7章の「聖句を理解する」の項にあるスペンサー・W・キンボール大管長の話を用いてもよい。キンボール大管長は、シオンを確立するために何が必要か述べている。この話について生徒と話し合ってもよい。

モーセ7:23-67。主が再降臨されるまで、悪は地上に存在し続ける。エノクが生きていた時代も悪がはびこっていた。(10-15分)

クラスでモーセ7:23-67を研究し、選択の自由、邪悪、大洪水、イエス・キリストの贖罪と復活、福音の回復、再降臨などが、御父の救いの計画でどのような意義を持つか理解させる。生徒用資料の創世5章；モーセ7章にある活動B, C, Dを行わせる。

 モーセ5-7章。わたしたちは罪のために堕落した世界に生まれ、靈的に神から切り離された状態にある。しかし、イエス・キリストの贖罪を通して、また福音の律法と儀式に従順になることで、神の王国に再び生まれ、シオンを確立し、最終的には神の御前で生活できるようになる。(35-40分)

モーセ5:1-12の教え方の提案(30ページ)に従ってクラスを配置する。モーセ6:48-49, 55を読ませ、堕落によってわたしたちはどのような結果を被っているか見つけさせる。

モーセ5:5を読ませ、主がアダムとエバをエデンの園から追放したときにどのような戒めを与えられたか説明させる。モーセ5:6-9を読み、墮落から贖われて神とともに再び住むことについてアダムが何を学んだか話し合う。わたしたちはモーセ6章にあるエノクの教えから、アダムに教えられたことをさらに詳しく学ぶことができる。

理解すべき重要な点は、イエス・キリストの贖罪によってアダムの墮落の結果をすべて克服できるようになったということである。しかし、(クラスの配置によって示されて

いるように)わたしたちが神から切り離された状態にあるのは、**自分自身の罪**のために自ら堕落した結果である。(贖罪の役割について説明するには、モーセ5:1-12の教え方の提案にある指示に従うとよい。)モーセ6:53-57と一緒に読んで、アダムの堕落について話し合う。さらに、それぞれが責任を負うべき個人的な堕落とアダムの堕落との関係について話し合う。

モーセ5:6-9を読むと、イエス・キリストの贖罪によって神のみもとに戻る道が備えられたことが分かる。神とともに永遠に生活したいと望むなら、わたしたちは自分の罪を悔い改めて戒めを守らなければならない。モーセ6:52, 57-60を読ませ、贖罪の祝福をすべて受けるために主が求めておられることを列挙する。6枚の大きな細長い紙を用意して、それぞれに以下の必要条件を書くとよい。

- キリストを信じる
- 悔い改める
- キリストの御名によりバプテスマを受ける
- 聖霊の賜物たまものを受ける
- 御霊の導きに従う
- 終わりまで堪え忍ぶ

この細長い紙を、**贖罪**を示すテープをはがした箇所に置く。テープをはがした箇所は、神の御前の象徴である教室の反対側への入り口である。6枚の紙を置く代わりに、テープをはがした箇所に「再び生まれる」と書いた紙を1枚置いてもよい(モーセ6:50-68の教え方の提案を参照)。

エノクの時代の民が、エノクの教えを聞いてどう変わったかを示すために、モーセ6:27-29とモーセ7:11-21を読んで比較する。対照的な民の性質の変化は、福音の原則を生活に応用して再び生まれることによって得られる力を示すものである。(モーセ7:18の教え方の提案を用いてシオンについて説明してもよい。)

アダムが犠牲をささげたことも、バプテスマの意義について受けた教えも、どちらもイエス・キリストの贖いの犠牲とそれによってもたらされる恵みを象徴していることを理解させ、二つの儀式を関連付ける。現代においてはバプテスマの儀式は行っているが、アダムがしたような動物の犠牲はささげていない。次のように尋ねる。「贖罪と、救い主がわたしたちのために行ってくださったことを思い起こすための儀式として、わたしたちは何を行っているでしょうか。」バプテスマの重要性を認識しつつ、その聖約を毎週新たにすることで、生徒が**真の意味**で再び生まれることができるよう促す。そして**聖餐**をもっと靈的な経験にできるよう助ける。

堕落、イエス・キリストの贖罪、靈的に再生することなど、これまでに学んだことのまとめとして、デビッド・O・マッケイ大管長が若い使徒として旅行していたときの経験を紹介する。ある晩、マッケイ大管長は眠っていたときに、美しい町と白い服を着てその町に向かう大勢の人々を見た。先頭に立っているのは救い主であった。

「それは主の町だったと思います。永遠という名の町で、主の後に続いていた人々はそこで平安を得、永遠の幸福を味わうのです。

しかし、彼らはだれなのでしょう。

救い主はわたしの心を読んでおられるかのように、彼らの上に現れた半円を指されました。そこには金色の文字でこう書かれていました。

『ここにいるのは世に打ち勝った人々である。真に再び生まれた人々である。』(Cherished Experiences from the Writings of President David O. McKey, クレア・ミドルミス編 [1976年], 60)

創世6-10章；モーセ8章

はじめに

ブルース・R・マッコンキー長老はこう記している。「アダムからノアに至るまでは、雷のとどろきが徐々に大きくなっていくように、不道徳と肉欲と邪悪が満ちていき、『すべての人がその心に思い計ることで高ぶっており、いつも悪いことばかりを考えている』(モーセ8:22)ようになっていた。」(The Millennial Messiah: The Second Coming of the Son of Man [1982年], 359)ノアの時代になると「暴虐が地に満ち」そして「すべての肉なるものが地の上でその道を乱した。」(モーセ8:28-29)神は地球とこれから生まれてくる世代の行く末を哀れまれ、ノアにこう語られた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は暴虐で満ちている。まことに、わたしはすべての肉なるものを地から滅ぼそう。」(30節)十二使徒定員会会員であったジョン・A・ウイツツォー長老はこう教えている。「末日聖徒は地球を生命のある有機体であって、創造の目的にかなった栄光あふれる場所だと見ている。末日聖徒はノアの大洪水を過去の不純なものを一掃する地球のバプテスマ、新しい命の始まりであると見ている。」(Evidences and Reconciliations, G・ホーマー・ダラム編, 全3巻, 第1巻 [1960年], 127)

学び取るべき重要な福音の原則

- 新しくかつ永遠の聖約に基づかないで結婚する人々は、この世から永遠にわたる祝福を失う(創世6:1-4; モーセ8:13-21参照。申命7:1-4; 教義と聖約132:15-17も参照)。
- 人々が邪悪なことを選び続けるとき、主の御霊は退き去る(創世6:3-7; モーセ8:17-30参照。2ニーファイ26:11も参照)。
- わたしたちもノアのように、邪悪な時代にあっても主の恵みを見いだすことができる(創世6:5-8; モーセ

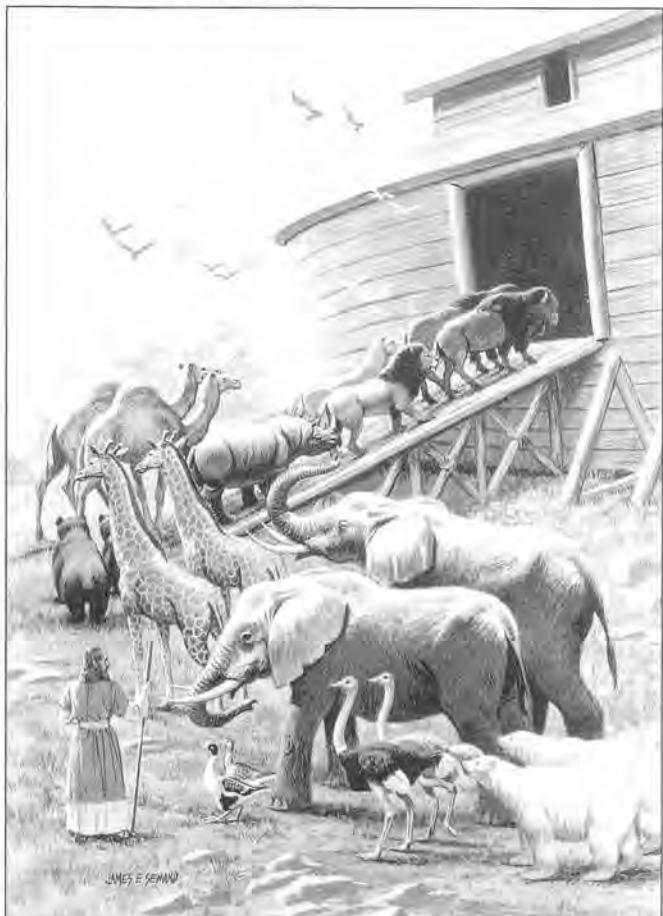
8:22-27参照)。

- ノアの時代の悪人が滅ぼされたことは、神の正義とすべての子供たちに対する愛を証するものである(創世6:5-13; モーセ8:22-30参照)。
- 福音の律法と儀式に従う人々は、神の息子、娘となる(モーセ8:13参照。モーサヤ5:1-9も参照)。

教え方の提案

創世6-9章。生徒が大洪水についてより深く理解できるように助ける。(20-25分)

生徒を2人から4人単位のグループに分ける。創世6-9章を幾つかの部分に分け、各グループに割り当てて読ませる。それから、各グループに10問のクイズを作らせる。できたクイズをグループ間で交換して解答させ、大洪水について学んだことを話し合う。



創世6-9章: モーセ8章。大洪水は神の正義と愛の表れである。(30-35分)

大洪水についての話し合いを通して、天の御父が愛にあふれた御方であり、悪人を罰せられたのは彼らの永遠の祝福のためであることを思い起こさせる。2ニーファイ26:23-24を読み、主が行わることは、すべて子供たちに利益をもたらすためであることについて話し合う。以下のような質問について話し合うとよい。

- すべての人類が神の子供であるなら、神はなぜこれほど

多くの人々を大洪水で滅ぼされたと思いますか。

- 大洪水が天の御父の愛の表れであると言えるのはなぜですか。
- 大洪水は地球にどのような恵みをもたらしましたか。大洪水が祝福であった以下の理由を黒板に書く。
- 邪悪な人々への裁きとなった。
- 大洪水によって残りの義人を救うことができ、彼らを通して神は再び聖約を交わすことがおできになった。
- これから生まれてくる靈の子供を守った。邪悪な両親のもとでは、義と真理を教えることは望めなかったからである。
- 邪悪な人々を靈界に送ることで福音を学ぶ機会を与えた。

創世6章とモーセ8章から、先に述べた理由について説明している部分を見つけさせる。その節を黒板の該当する部分に書き加える。大洪水が神の完全な正義と愛を示していることを説明する。ニール・A・マックスウェル長老は、神が介入されるのは「人々の選択の自由を滅ぼしてしまうほど世が腐敗し、靈を公正に送り込むことができなくなつたときである」と述べている(『We Will Prove Them Herewith』[1982年], 58; 「大洪水は愛の行為であった」『旧約聖書: 創世記-サムエル記下』45も参照)。

大洪水に関する聖文の記述には、創造に関する記述と非常によく似た表現が使われている。創世7:10, 14; 8:17, 20-21; 9:1, 3を読んで、これらの聖句がどのような点で天地創造の聖句と似ているか尋ねる。このような類似点から、大洪水の目的についてどのようなことが推測できるだろうか。大洪水はパブテスマと同じで、地球の新たな始まりを意味する。

黒板に次の表を書いて見出しを書き入れ、大洪水と天地創造の類似点について話し合いながら残りを書き足していく。

アダムの始まり (創世1章)	出来事または説明	ノアの新たな始まり (創世8-9章)
1:2	神の靈が水のおもてをおおっていた。	8:1
1:6-7	水が分けられた。	8:2-3
1:9-10	かわいた地が現れた。	8:5
1:24-25	地の上で増えるよう動物が与えられた。	8:17
1:28-30	人は、地に満ちて地を従わせるよう命じられた。	9:1-3

生徒と一緒にジョセフ・スミス訳-マタイ1:41を読み、主がノアの時代と再降臨の前の時代とを比較して何とおっしゃったか調べさせる。再降臨の一部として、地球はもう

一度聖められるが、そのときは火によって聖められる（教義と聖約5:19参照）。また、わたしたちは水と火の両方でバプテスマを受けなければならない。この場合、火とは聖靈のことである（ヨハネ3:5;2ニーファイ31:13参照）。

聖靈の力によって清められることを証する（2ニーファイ31:17参照）。すでにバプテスマと確認を受けている場合、どのようにすればこの清めの力を受けられるか生徒に尋ねる。教義と聖約20:77,79を読み、生活の中に主の清めの力を招き入れるために必要なことを行うようチャレンジする。

創世6:1-4;モーセ8:13-15。ノアの時代、聖約外の結婚は邪悪な行いと見なされていた。（10-15分）

モーセ8:13-14を読ませて次のことを尋ねる。

- ・「神の子」とはだれですか。
- ・彼らはどのような点で「人の子」と違っていましたか。

『旧約聖書：創世記－サムエル記下』の創世6:1-2,21の注解（42ページ）の一部を読む。この注解は、人々が神と聖約を交わすことによって神の子となったことについて説明している。モーセ8:15を読んで尋ねる。

- ・「娘たちは自分自身を売り渡した」とはどういう意味ですか。
- ・聖約外の結婚をする人がいるのはなぜだと思いますか。
- ・ふさわしい教会員との結婚にはどのような祝福が伴うと思いますか。

以下のスペンサー・W・キンボール大管長の言葉を読ませる。

「この大切さ、すばらしさが分かっていたら、だれでも結び固めの儀式を受けるために世界中へ出かけて行つてもよいと思うでしょう。距離や金銭、そのほかのいかなる状況も、主の聖なる宮で結ばれるためなら問題にはならないのです。」（「日の光栄の結婚の重要性」『聖徒の道』1980年7月号、4参照）

キンボール大管長の言葉を読んでどう感じたか尋ねる。また、聖約に基づいて結婚するうえで、どのような状況がわたしたちの選択を左右するか尋ねる。聖約に基づく結婚には何物にも代え難い価値があり、それ以外の方法で結婚することは永遠の結果を招くことを生徒に再確認する。

創世6-7章。ノアは神への並ならぬ信仰の持ち主であつた。ノアの模範は、わたしたちがさらに信仰を深めるための励ましとなる。（15-20分）

クラスで「ニーファイの勇気」（『子供の歌集』64-65ページ）を歌う。この歌で教えられている原則がノアにどう当てはまるか尋ねる。

創世6:14-21で主がノアに何をするよう命じられたか読む。箱舟の大きさを説明するために教室の外に連れて行

き、あらかじめ準備しておいた箱舟とほぼ同じ大きさの場所を見せる。1キュビトを45センチとして、創世6:15の指示に従って計測する。生徒を外に連れ出しができない場合は、生徒がよく知っているものを使って箱舟の大きさを表すとよい（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』44ページの比較図を参照。また43ページの創世6:14-16の注解も参照）。

次の質問をする。

- ・箱舟の大きさや近くに海や大きな湖がなかったことを考慮すると、ノアの隣人たちはノアに対してどのような思いを抱いたと思いますか。
- ・主は預言者を通して、わたしたちにどのようなことを求めていらっしゃいますか。
- ・教員であるわたしたちを、世の人々から見て特異なものとしているのはどのような点でしょうか。

主の助けによって、難しい割り当てを果たしたときの経験を話す。生徒が話してもよい。

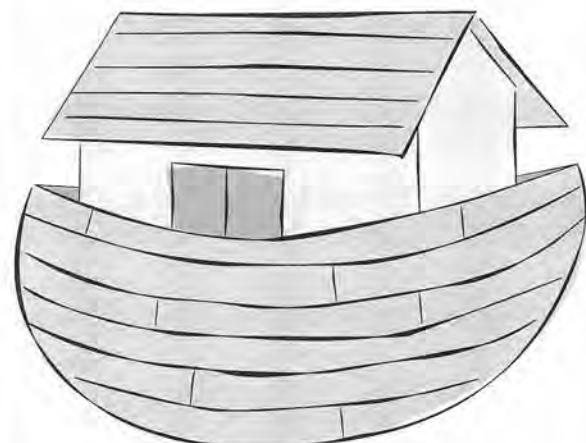
創世6-9章；モーセ8章。箱舟がノアの家族を守ったように、今日の世にも、平安を与えて世の悪から守ってくれる場所がある。（25-30分）

ある人が学校にやって来て、1週間以内に大災害が起き、町中が破壊されると警告したとする。次のことを尋ねる。

- ・その人についてどう思いますか。
- ・その人を信じるために何が必要ですか。
- ・あなたはどこに安全を求めますか。

モーセ8:16-24を読ませ、尋ねる。

- ・ノアの時代の人々は同じような警告にどう対応しましたか。
- ・人々はなぜそのように対応したと思いますか。
- ・ノアの警告に従うように説得するには何が必要だったでしょうか。



創世7:4-6, 11-12, 19-24を読み、ノアの言葉に耳を傾けなかった人々に何が起ったか見つける。創世7:1-3, 7-10, 13-18; 8:13-18を読んで、預言者に従った人々に何が起ったか調べる。それから、先の結果と比較する。クラス全体で次の質問について考える。

- ・ノアの家族は、なぜ大洪水から守られたと思いますか（創世6:18, 22; 7:1, 5; 9:1, 8-15参照）。
- ・ノアの家族は、大洪水から身を守るためにどうしましたか（創世6:14-18; 7:1, 17; 8:4, 13参照）。

今の時代にも、聖約の民が悪や預言された末日の破壊から身を守るために場所があることを理解させる。クラスが始まる前に箱舟の絵を描き、それを6ピースのパズルに切り分ける。各ピースの裏側に、以下に示した6つの参照聖句の一つを書いておく。次に生徒を6つのグループに分けて1ピースずつ渡し、裏に書かれている参照聖句について研究させる。それから、安全と守りを得られる場所について何を学んだか発表させる。生徒は発表に合わせてパズルを組み合わせ、現代の箱舟を完成させる。

グループ1：教義と聖約1:13-18; 20:25-27（預言者に従う）

グループ2：詩篇127:3-5; 箴言1:8; 20:7; 1コリント11:11（両親と家族）

グループ3：教義と聖約109:20-26; 132:19-20（神殿）

グループ4：教義と聖約82:14-15; 101:17-25; 115:6; モーセ7:17-21（シオンのステーク）

グループ5：1ニーファイ8:21-30; 15:23-24; 教義と聖約1:37-38（聖文の研究）

グループ6：ルカ21:36; 3ニーファイ18:15-19; 教義と聖約10:5; ジョセフ・スミス-歴史1:15-17（祈り）

パズルが完成したら創世6:14を読んで、ノアが箱舟の透き間や穴をふさがなければならなかつたことを説明する。靈的な守りを受けるために自分にできるすべてのことを行ったとき、すなわち預言者に従い、両親の言葉に耳を傾け、神殿に参入し、ステークに集まり、聖文を学び、祈りをささげたとき、わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通して、邪悪な人々に下される破壊に耐え、それから逃れることができる。モーサヤ5:15を読み、贖罪を生活に生かすことによって、末日という大洪水の中でも沈まずに「浮かんで」いられるよう生徒を励ます（創世7:17参照）。

 創世6:9; モーセ8章。わたしたちもノアのように邪悪な時代にあっても神の恵みを受けることができる。（35-40分）

わたしたちは悪いのはびこる時代に生きている。やがて地球はかつて水で聖められたように、火で聖められる。それは救い主の再降臨に伴って起きる（教義と聖約5:19参照）。ノアは、主の戒めに従って箱舟を造ったことで救われた。それによってノアと家族は主の裁きを免れることができた。わたしたちも悪から救われるには、ノアとその家族のよう

に、悔い改めて主に従わなければならない。この世の悪を克服して神の裁きから逃れるために、主は何を求めておられるだろうか。それは箱舟を造ることに相当する。主が求めておられることを話し合せた後で、意見を黒板に書く。

クラスを二つのグループに分ける。一つのグループに創世6:1-7:10を読ませ、別のグループにはモーセ8章を読ませる。ノアの行ったことで、世の悪から守られる方法を示しているものを見つけさせる。見つけた原則を黒板に付け加える。以下の点を強調する。

- ・ノアは周りの人々とは異なっていた。創世6:1-13を読ませ、当時の民がどれほど邪悪であったかを示す言葉や表現を見つけさせる。「神の子たち」が「人の娘たち」と結婚するとはどういう意味か話し合う（創世6:2参照）。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』42ページの創世6:1-2, 21の注解も参照）。
- ・創世6:8を読み、恵みとは何か尋ねる（『聖句ガイド』の「恵み」の項、254参照）。モーセ8:13, 23-27を読ませ、ノアがどのようにして主から恵みを得たか理解させる。生徒用資料の創世6章；モーセ8章の活動Aを行わせ、それから学んだことを発表させてもよい。
- ・福音の聖約を交わしてそれを守ることは、わたしたちの救いに不可欠である。主から力と助けを得るうえで、従順さと聖約が重要であることを生徒と話し合う。（レッスンのこの部分で創世6-7章の教え方の提案を活用してもよい。）次の質問をする。「ノアとその家族は、従順であったためにどのような祝福を得ましたか。再降臨のときに、地球は聖められます。わたしたちはどのような備えができるでしょうか。主が交わされる聖約で確かなことは何ですか。」（主は常に御自分の責任を果たされる。）

次の質問をする。

- ・わたしたちはいつどのようなときに、拒絶されたり、あざけられたり、軽蔑されたりするでしょうか。
- ・悪の影響に取り囲まれていると感じますか。
- ・ノアの箱舟は、今日のわたしたちにとっては何でしょうか。
- ・この世にはびこる悪からの避け所はどこでしょうか。
- ・家庭やワード、ステークは箱舟となることができます。それはなぜですか。
- ・それらを安全な港として保つために何ができると思いまですか。

神殿も今日のふさわしい教員にとって箱舟のような役割を果たすことを説明し、神殿参入に備えることがどれほど重要か生徒に理解させる。

ノアは大洪水の後もわたしたちの模範となった。創世8:20-22を読ませ、箱舟から出た後でノアが最初に何をしたかを理解させる。主はわたしたちを悪から救うための方を備えてくださった。また、この世において喜びと希望を見いだし、後の世では永遠の命を得られるようにしてくださった。わたしたちは絶えず主に感謝しなければならない。

創世11-17章；アブラハム1-2章

はじめに

主は新たな福音の神権時代を始めるために、アブラハムを通じて御自身の聖約を再びお立てになった。アブラハムは忠実な者の先祖と呼ばれている（教義と聖約138：41参照）。聖文には、福音を受け入れるすべての者はアブラハムの子孫と呼ばれると記されている（アブラハム2：10-11参照）。この理由について、スペンサー・W・キンポール大管長は次のように説明している。

「すべての忠実な神権者にとって、キリストは究極の模範です。聖典を調べると、この究極の模範に従うことでふさわしさを身に付け、神権を通して約束された祝福にあずかった大勢の人々が登場します。その一人が父祖アブラハムです。アブラハムの生涯は、父親として家族の立派な族長になりたいと願う教員の心を、鼓舞し高揚する模範です。……

……日常生活の中で神のことを最優先にする習慣を身に付けるなら、だれでもアブラハムのようになれることが御存じでしょうか。わたしは皆さんに証します。その優れた特質のゆえに、今は『昇栄に入ってその王座に着いている』アブラハムのようにわたしたちもなれるのです（教義と聖約132：29）。昇栄は、中央幹部、ステーク会長、定員会会長、あるいはビショップだけに与えられる祝福なのでしょうか。そうではありません。それは、自分の罪を捨て、日々聖靈の導きに従って生活し、アブラハムの模範に従って自分を備えるすべての人たちに与えられる祝福なのです。

アブラハムのような誠実さ、従順さ、信仰を身に付け、アブラハムと同じように啓示を受け、奉仕を行いさえすればよいのです！ 両親がアブラハムの求めた祝福を求めるならば、彼らもまたアブラハムが受けたのと同じ啓示と聖約、約束と永遠の報いを受けることができるのです。」（『聖徒の道』1975年12月号、529、532参照）

アブラハムが昇栄したことを知っているわたしたちは（教義と聖約132：29参照）、アブラハムの生涯を学び、彼がこの偉大な祝福を受けるために何を行ったかを調べるべきです。それから「行って、アブラハムの業を行」う必要があります（教義と聖約132：32）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 天の王国に救われるためには、福音の原則に従い、福音の儀式を受けなければならない（アブラハム1：2参照。モーセ6：52；信仰箇条1：3；教義と聖約84：33-39も参照）。
- 神に従うか自分の命を守るかの選択を迫られた場合、わたしたちは神に従うことを選ぶべきである（アブラハム1：5-12参照）。
- アブラハムの義のゆえに、主は祝福として、土地と神権を与え、子孫の永続と昇栄を授けるという聖約を交わされた。福音の儀式と聖約を身に受け、それを忠実に守るべきとき、わたしたちもアブラハムの聖約として知られるこ

の聖約に加わるのである（創世15：1-6；17：1-8；アブラハム1：18-19；2：9-11参照）。

- 主は御自身が交わされた約束をすべてお守りになる（創世13：16；15：1-18；17：15-22；21：1-2参照。教義と聖約1：37-38；82：10も参照）。
- 天の御父はわたしたちの祈りを聞き、試練を知り、信仰をもって求めるときに寛めを与えてくださる（創世15：1-6；16：4-14）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』9「アブラハムの聖約」は、主と聖約を交わすことによって得られる力を生徒がさらに理解するうえで役立つ（教え方の提案については『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照する）。

創世11-17章。主はアブラムと聖約を交わされたとき、アブラムの名前を「アブラハム」に変えられた（創世17：1-9参照）。アブラハムの経験について学ぶことは、福音の儀式を受け、主と聖約を交わすことの大切さを理解するのに役立つ。また、キリストの御名を受けることの大切さを理解するのに役立つ。（20-25分）

名前の大切さを理解できるようにする。以下の質問について話し合う。

- 親が子供の名前を決めるのに非常に時間をかけることがあるのはなぜですか。
- あなたの名前には何か特別な意味がありますか。もしあれば、どのような意味ですか。
- 名前を変えたいと思いますか。もし変えたいのであれば、それはなぜですか。どのような名前にしたいですか。

創世11：27-32から、知っている名前を探させる。創世17：1-8を開かせ、主がアブラムの名前について何をなさったか見つけさせる。アブラムの名前は聖約の一部として変えられたことに注目する。「アブラム」という名前は「昇栄した父」、「アブラハム」は「多くの国民の父」という意味である（Bible Dictionary, "Abraham," 601-602参照）。次の質問をする。「この変更は、主がアブラハムに授けられた約束をさらに証明するものでした。それはなぜでしょうか。」

今日、主はわたしたちの名前を変えたりはなさらない。代わりに、バプテスマを受けて教会に加わるときにイエス・キリストの御名を受ける（モーサヤ5：6-12；教義と聖約20：37参照）。わたしたちはこれまで通りに自分の名前で呼ばれるが、同時に「クリスチヤン」または「聖徒」とも呼ばれるようになる。聖徒とは清められてキリストに従う者である。イエス・キリストの御名を受けるとはどういう意味か、またなぜそれが大切なのか話し合う。

アブラハム1：18-19を読み、主から名前を受けることが何を意味するか、少なくとも一つ話し合う。モーサヤ5：7-10と教義と聖約20：77、79を読ませ、民が主の御名を受ける場面に注目させる。次の質問をする。

- わたしたちが主の御名を授かりたいと願う理由について、これらの聖句からどのようなことが分かりますか。
- イエス・キリストの御名を受けた人々は、それ以前と何

が変わると 思いますか。

- ・イエス・キリストの御名を受けることにはどのような義務が伴いますか。
- ・キリストの御名を受ける人に、主はどのようなことを約束しておられますか。

アブラハム1：1-19。わたしたちが心から望むことは、現世と来世における自分の状態に大きな影響を与える。(20-25分)

人生で最も望んでいることを5つ考えさせる。アルマ32：27-28と教義と聖約137：9を生徒と一緒に読み、正しい望みを持つことがなぜ大切か話し合う。

アブラハム1：1-4を読ませ、アブラハムが望んだことを黒板に列挙する。教義と聖約132：29とアブラハム2：12を読み、アブラハムの正しい望みが、彼の受けた永遠の報いにどのように反映されたか話し合う。

自分の望みとアブラハムの望みとを比較させる。アブラハムの場合と同じように、自分の望みがどのように自分の受けた報いを表しているか話し合う。

アブラハム1：5-7を読ませる。アブラハムにとって、正しい望みを持つための妨げになっていたものは何だろうか。聖句から見つけさせる。アブラハムの置かれていた困難な状況を考慮するとき、アブラハムにどのような決断が可能だったか生徒に尋ねる（例えば、義を追い求めることをやめる、自分の父親を改宗するようさらに努力して、当時はびこっていた宗教の影響力を変えるよう試みる、家を去る、など）。8-12節を読ませ、アブラハムが実際に行ったこととその結果を調べさせる。たとえ心から望んでいる場合でも、義にかなった状態でいることは必ずしも容易ではないことを生徒に理解させる。アブラハムの場合と同じように、福音に従おうとするときには試練や誘惑が付き物である。試練や誘惑に直面するときに、たゆまず義を求め続けるなら、アブラハムのように祝福を受けることを生徒に約束する。

預言者ジョセフ・スマスの以下の言葉を読み、その意味について話し合う。

「人が初めて地上に置かれたときから、命と救いに欠くことのできない信仰は、俗世のあらゆるものを犠牲にせずに得られたことはありませんでした。……そして俗世のあらゆるものを犠牲にすることによって、人は自分が神の目にかなう事柄を行っていると確信するのです。自分の命をも惜しまず、持てるすべてを真理のために犠牲としてささげるとき、……人は初めて神が自分の犠牲とささげ物とを受け入れてくださることを何の疑いもなく知るようになります。主に尋ね求めたことは無駄ではなかったと知るのです。このようにして、人は永遠の命を得るのに必要な信仰を手に入れることができるのです。」(Lectures on Faith [1985年], 69)

アブラハム1：15-20を読み、主がアブラハムの忠実さゆえに何を行われたか列挙する。主が18-19節でアブラハムに約束された祝福の中から、自分が得たいものを一つ選ばせ、その理由を話させる。アブラハムが祝福を受けたのは、それらを望み、従順であったからであり、自分が望

んだことや真実であると確信していたことのために進んで勇敢に犠牲を払ったからであると理解させる。アブラハムの経験を基に、忠実な者に約束されている祝福を享受するうえでどのような行いが役立つか考えさせる。

アブラハム2：1-25。アブラハムがそうであったように、周りの人々が邪悪であっても義にかなった生活をすることができる。(15-20分)

同年代や地域社会の人々にとって、どのような影響や誘惑が義にかなった生活をするうえで妨げとなっているだろうか。幾つか挙げさせる。以下の質問について話し合う。

- ・わたしたちの周囲で多くの人々が邪悪な事柄を行っている中、どうすれば義にかなった生活ができると思いますか。
- ・世の中はますます邪悪になっています。主は本当に義にかなった生活をするよう期待しておられるのでしょうか。
- ・正義を選ぶうえで、アブラハムの模範はどう役立つと思いますか。

生徒とともにアブラハム1：2-7を読み、アブラハムの置かれていた状況について話し合う。そのような状況の中、義にかなった望みを成し遂げることはどれほど難しかったか話し合う。

縦線を引いて黒板を二つに分ける。片側に「アブラハム2：1-13」と書き、反対側に「アブラハム2：14-25」と書く。クラスを二つのグループに分け、各グループに参照聖句を割り当てる。アブラハムのどのような行いが義にかなった生活をするうえで役に立っただろうか。聖句から見つけさせる。終わったら、それぞれ見つけたことを黒板に記した参照箇所の下に列挙させる。(次のような答えが挙げられるであろう。義にかなった人と結婚した〔2節〕、邪悪な環境を離れた〔4節〕、祈った〔6, 17-18, 20節〕、主を求めた〔12節〕、主に従うことを選んだ〔13節〕、主に従った〔3-4, 13-14節〕、伝道活動をした〔15節〕)。

黒板のリストを使い、アブラハムの模範に従うために何ができるかを話し合う。アブラハム2：3-4をヘブル11：8-16と相互参照し、義にかなった状態にとどまるための力についてパウロが語っていることを話し合う。次の質問をする。「これらの原則はわたしたちが義にかなった状態にとどまるためにどう役立つと思いますか。」

創世13：5-15。慈愛、無私、および平和をつくり出すことは、天の祝福にふさわしいキリストのような属性である。(15-20分)

二つのお菓子をクラスに持参する。一方は他方よりも好みしいものを用意する。好みしい方のお菓子が好きな生徒を二人前に呼び、これから二人にお菓子をあげると伝える。お菓子を見せて、だれがどちらのお菓子をもらうか決めるように言う。ただしお菓子を半分ずつに分けることはできない。悩んだ末に選び終わったら、決めるのは難しかったか尋ねる。次の質問をする。「もしこれがステレオや車、家、または土地などであったら、決断はどれほど難しいものになっていたでしょうか。」

これに似た経験をした二人の人物が聖文に出てくることを生徒に話す。創世13：5-7を読ませ、その二人はだれで、

どのような決断を迫られていたか調べさせる。生徒は8-13節を読み、アブラハムとロトがどのような動機からこの争いを解決したか探す。アブラハムの動機については、ヘブル11：10、13-16からもうかがうことができる。創世13：14-18を読ませ、アブラハムがその義のゆえに主からどのような報いを受けたか、またその祝福がなぜアブラハムにとって大切だったのか調べさせる。

争いから生じる問題と、主が平和をつくり出す人にお与えになる祝福について話し合ってもよい（『聖句ガイド』「争い」19ページ、「平和をつくり出す人」234ページ参照）。

創世14：17-24。アブラハムはわたしたちの模範であり、^{しもべ}主の僕を敬い、この世のものを惜しみなくささげ、聖約を守ることで、どのように主に対する愛を表せるか教えている。（15-20分）

黒板に「メルキゼデク」と書き、この言葉について知っていることを生徒に尋ねる。生徒の多くは「メルキゼデク神権」という言葉は知っていても、メルキゼデクという人物についてはあまり知らない。以下の資料を調べてメルキゼデクがどのような人物だったか学ばせる。創世14：17-24；ジョセフ・スミス訳創世14：25-40；アルマ13：14-19；教義と聖約107：1-4；『聖句ガイド』「メルキゼデク」（256ページ）。学んだことについて話し合う。

生徒は創世14：17-20を読み、そこに何が記されているか話す。メルキゼデクについて学んだことを基に、なぜアブラハムはそのようなことを行ったのか尋ねる。教義と聖約84：14には、アブラハムとメルキゼデクの関係についてさらに詳しい情報が記されている。アブラハムのメルキゼデクに対する対応の仕方と、ソドムの王に対する対応の仕方とを比較させる（ソドムの王が何を象徴していたかについては創世13：13を参照する）。次の質問をする。

- これらを比較することでアブラハムについて何が分かりますか。
- これらの聖句に記されているアブラハムの模範を、どのように応用することができると思いますか。例えば、わたしたちの周囲に「メルキゼデク」のような人はいますか。わたしたちにとっての「ソドムの王」はだれですか。

ソドムの王が与えようとした富にアブラハムが心を動かされなかった理由の一つは、アブラハムが聖約に忠実であることを何よりも望んでいたからであった（創世14：22参照）。次の質問をする。

- わたしたちはどのような聖約を交わしていますか。
- アブラハムのように忠実になるために、それらの聖約はどのように役立ちますか。

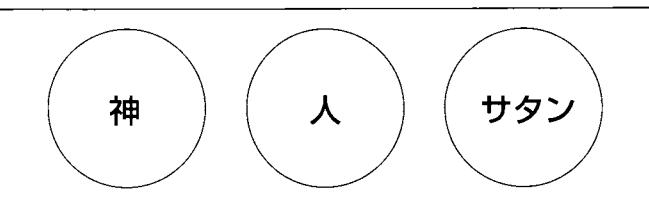
生徒と什分の一の原則について簡単に話し合ってもよい。次の質問をする。

- アブラハムはメルキゼデクと一緒にいたときに何をしましたか（創世14：20参照）。
- 主はなぜ教会が必要とする財源を御自身で提供なさらずに、什分の一を納めるように求められるのですか。
- マタイ19：16-22に記されている救い主の経験は、この質問に答えるうえでどう役立つと思いますか。

什分の一を納めることは、わたしたちが日々の生活の中で主を最優先していることを示す一つの方法であることを生徒が理解できるようにする。

創世15章。創世15章には、主と聖約を交わす様子が記されている。この章は、儀式および聖約を交わすことに含まれる象徴と力についてより深く考える機会を与えてくれる。（20-25分）

黒板に以下の表を描く。



生徒に尋ねる。

- 黒板に挙げた3者の中で、最も力があるのはどなたですか。（神。）
- 残る2者、つまり人とサタンでは、どちらがより大きな力を持っていますか。

生徒が2番目の質問に答える前に、エペソ6：10-13；2ニーファイ2：27-29；アルマ34：35；教義と聖約10：5；21：4-6；およびモーセ4：3-4を読ませる。「神」とよび「人」と書かれている円を直線で結ぶ。直線の上に「聖約」と書く。人は聖約を通して神と結ばれ、神から力を授けられるならば、サタンより大きな力を持つることを生徒が理解できるようにする。人が神と結ばれていなければ、サタンは人よりも大きな力を得ることができる。

生徒とともに創世15：1を読む。主は御自身がアブラハムの「盾」であって「あなたの受ける報いは、はなはだ大きい」とおっしゃったことを指摘する。この言葉の意味を話し合う。土地、神権、無数の子孫など、主がアブラハムにどのような報いを約束されたか確認する。次の質問をする。「これらの報い、すなわち祝福のうち、アブラハムがすでに受けていたものはどれですか。」

創世15：2-3を読ませ、主の祝福のうち、受けられるかどうかアブラハムが懸念していたと思われる祝福はどれか見つけさせる。一緒に4-6節を読み、主がアブラハムの抱えていた悩みにどのようにおこたえになったか、またアブラハムが何をしたか調べさせる。ジョセフ・スミス訳創世15：9-12を読み、アブラハムが抱いていたもう一つの悩みと、それに関してアブラハムと主の間にどのようなやり取りがあったか調べる。神が常に約束を成就されることを理解するためには、永遠の観点から物事を見るよう努力しなければならないことを生徒が理解できるようにする（教義と聖約1：37-38参照）。これは創世15章の最後の出来事が強調している点である。

可能であれば、十二使徒定員会会員のヘンリー・B・アーリング長老が語った以下の言葉のコピーを配って読む。

「天の御父は……わたしたちが御父と聖約を交わすことができるようにしてくださいました。また御父はそれらの聖約に付随して儀式も授けてくださいり、それによつて御自身が行うと約束および聖約されたことを示し、ま

たわたしたちが行うと約束および聖約したことを示せる
ようにしてくださったのです。」(Covenants [大学該当
年齢のヤングアダルトに向けた説教。1996年9月6日], 1)

バプテスマの儀式と聖約について考えるよう言う。それから次の質問をする。

- ・バプテスマの儀式で、主が（特に、象徴的な意味で）約束しておられることは何ですか。
- ・わたしたちは何を約束しますか。

創世15:9-21には古代の契約の交わし方が記されていることを生徒に伝える。契約は通常二人の人の間で交わされるが、この場合は神とアブラハムの間で交わされた。創世15:9-19を読ませ、アブラハムがしたこと、主がアブラハムに言われたこと、および煙の立つかまどと炎の出るたいまつによって表された主の行いについて調べさせる。次の質問をする。

- ・アブラハムは聖約の一部として自分が行うことをどのように示しましたか。（祝福が成就するまで主を待ち続けた。）
- ・主は何を約束されましたか。（約束を必ず成就されること。）

教義と聖約82:10を読んでこの話し合いをまとめる。主は常に御自身の聖約を守られることを伝える。わたしたちは主と正式な聖約を交わして、それを守ることによって悪に打ち勝ち、永遠の命を得ることができると説明する。

創世11-17章：アブラハム1-2章。アブラハムの聖約の重要性を認識し、自分とのかかわりを理解するなら、わたしたちは現世における自分の可能性と責任、そして永遠の世で受け継ぐことになる祝福について、より深く理解することができる。（30-45分）

クラスのだれかを相続人とした遺書があると仮定する。次の質問をする。

- ・だれの遺書に相続人として指名されたいですか。
- ・通常、遺産の相続人に指名されるのはだれですか。（家族。）
- ・物質的な富を持たない両親や祖父母でも残すことができる受け継ぎにはどのようなものがありますか。
- ・あなたが両親、祖父母、またはほかの先祖から受け継いだ非物質的な遺産にはどのようなものがありますか。
- ・あなたは自分の家族の一員として生まれたことでどのような特権や祝福を得ていますか。

「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」であることを思い起こさせる（「家族—世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、10-11）。地上に来る前、わたしたちは一つの家族、すなわち神の永遠の家族の一員として住んでいた。わたしたちが御前にいたとき、天の御父はわたしたちに御自身の計画について教えられた。それはわたしたちが御父の持っておられるすべてを受け継ぐことができるようになる計画であった。天の御父はわたしたちを地上の家族へ送られたが、その目的はわたしたちが戻って御父とともに住むだけでなく、神のようになるためであった。

墮落の後、アダムとエバには指示と儀式、そして聖約が与えられた。これらは、現世の目的に関するもので、永遠の命、すなわち神のような生活をするために何をしなければ

ならないかを教えるものであった。アダムは人々のためにこれらの儀式を執行することができるよう神権を授けられた。アダムとエバは、子供たちが永遠の家族としてまた一つとなり、永遠の命を受け継ぐことができるよう、これらをすべて子供たちに教えて実践するよう命じられた（モーセ5:4-12, 58-59; 6:51-62, 64-68参照）。

福音は、初め家族を通して教えられ実践された。しかし、アダムの家族に教えを受け入れない人々がいたため、多くの子孫が福音の救いの儀式を受けることなく成長した。生徒とともにアブラハム1:2-5を読み、これがアブラハムの置かれていた状況であることを生徒に理解させる。特に2節に注目する。2節でアブラハムは、ついに「先祖に属する権利を持つ正当な相続人……となった」（斜体付加）と言っている。

最終的にアブラハムは福音の救いの儀式を受けた。また彼はそれらの儀式を子孫のために執行できるよう神権を受けた。アブラハムの義のゆえに、主はアブラハムと特別な聖約を交わされた。わたしたちはそれをアブラハムの聖約と呼んでいる。この聖約の一部として、主はアブラハムを「忠実な者の先祖」（教義と聖約138:41）、地上に来る御父のすべての子供たちに救いをもたらす一族の長とされた。

アブラハムの家族に属する人々は、神の救いの業において御父の代理人として働く。そのためアブラハムの家族は、天の御父の家族を象徴する予型となった。わたしたちがアブラハムの聖約に入ると、アブラハムに約束された祝福はわたしたちのものとなる。

生徒と一緒に『旧約聖書：創世記－サムエル記下』第5章の「理解を深めるために」(61-63ページ)にある資料を使って話し合う。それぞれの祝福がどのように自分に当てはまるかを生徒が理解できるよう助ける。

聖約に伴って約束されている祝福は、血統によって自動的に与えられるものではないことを生徒に理解させる（2ニーファイ30:1-2参照）。創世17:1を読ませ、聖約の祝福をすべて受けるために、主がアブラハムに何をしなければならないとおっしゃったか調べさせる。創世17章の出来事に先立って、アブラハムが聖約を受ける備えとして何をしたか、どのように聖約を守ったかなどについて指摘してもよい。

祝福師の祝福に見られるような以下の文を読んで聞かせ、学んできたことを生徒が応用するのを助ける。

「あなたは祝福され、イスラエルの家の員としてこの世に来ました。あなたはアブラハムに約束されたすべての祝福を受けるのです。そのような者として、あなたには責任と、このイスラエルの家に与えられている祝福と約束のすべてを受ける権利が与えられています。」

このような祝福を受けた人にあてて、この言葉の重要性を説明する手紙を生徒たちに書かせる。手紙の中では、特に家族の概念に関連付けて、預言者アブラハムの相続人となるとはどういう意味か、相続人にはどのような責任があるか説明させる。何人かの生徒に書いたものを発表させる。

創世18-23章

はじめに

1833年に、主は次のように言われた。末日聖徒は自らの背きのゆえに「アブラハムのように、試みられなければならない。」(教義と聖約101:4) 創世18-23章には、アブラハムが受けた幾つかの厳しい試練とアブラハムの忠実さが描かれている。アブラハムと対照的なのはソドムとゴモラの運命である。これらの章を研究しながら、アブラハムについて考える。アブラハムはどのようにしてこれらの試練を堪え忍ぶことができたのだろうか。主に忠実に従ったことで、アブラハムはどのような祝福を受けただろうか。同じ祝福を求める際に、わたしたちはどのようにすればアブラハムの模範に習うことができるだろうか。

アブラハムは神から受けた約束(後にアブラハムの聖約と呼ばれた)を保ち、「忠実な者の先祖」(教義と聖約138:41)という称号を得た。アブラハムを通して、わたしたちは福音の祝福を受けられるようになった(教義と聖約84:33-34; 124:58参照)。一方、ソドムとゴモラの民はその邪悪さのため神に滅ぼされた。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神の約束は、直接神によって成就されることもあるが、神の僕を通して成就されることもある(創世18:2, 9-15; 21:1-2参照。創世17:15-19; 教義と聖約1:38も参照)。
- 試練や試しを忠実に堪え忍ぶ者に、主は特別な祝福をお与えになる(創世18:1-19; 20:1-3, 14-18; 22:1-19参照。教義と聖約58:4も参照)。
- 創世記は、わたしたちと主との関係について以下のことを教えている。
 - わたしたちには不可能に思えることでも、主はおできになる。そのため、信仰をもって主を信頼しなければならない(創世18:9-14; 21:1-8参照。ローマ4:16-22; 1ニーファイ4:1も参照)。
 - 地域や国家にいる義人のゆえに、神の裁きが残りの邪悪な人々に完全に及ぶのが一時的にとどめられることがある(創世18:23-32参照。アルマ10:22-23; 62:40; ヒラマン13:13-14も参照)。
 - 悪人との頻繁な交わりを選択することは、肉体的にも靈的にも害をもたらしかねない(創世19章参照)。
 - 主はわたしたち全員をお試しになる。わたしたちは主がお命じになることを、たとえそれがどのように難しく思えても行わなければならない。もし従うならば、すべてのことはこの世においても次の世においてもわたしたちの益となる(創世21:9-21; 22:1-19参照。ローマ8:28; 教義と聖約90:24も参照)。
- もし心を尽くして主を愛するならば、わたしたちは主がお求めになることをすべて喜んで行う(創世22:1-12参照。ヨハネ14:15; オムナイ1:26も参照)。

教え方の提案

創世18:1-15。主は御自分に忠実に従う者に、栄光ある約束をお与えになる。主は約束を果たす力を持っておられ、「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って」その約束を果たされる(教義と聖約88:68)。(20-25分)

次のように書かれている紙を配る。

教師はこう言っています。「_____を約束します。」

両親はこう言っています。「_____を約束します。」

各生徒に、何でも好きな約束を空欄に書き込ませる。数人の生徒に書いたものを発表させ、理由を説明させる。次の質問をする。

- これまでに彼らからどんな約束を受けてきましたか。
- それらの約束はあなたにとってどれくらい大切なものでしたか。
- これらの約束が必ず守られるという確信がありますか。それはなぜですか。

主も約束をなさる。主の約束にはどのようなものがあるか尋ねる(例えば、祝福師の祝福やそのほかの神権の祝福、儀式、生ける預言者の言葉、聖文)。主から個人的に受けた幾つかの約束について考えるよう言う。主は御自分の約束を果たす力を持っておられ、実際に果たされることを伝える。

創世18:1-12を読ませ、サラが受けた約束を調べさせる。次の質問をする。

- サラの年齢(11節参照)を考慮すると、この約束はどれほどすばらしいものだったと思いますか。
- この約束にサラはどう答えましたか(12節参照)。
- なぜサラはそう答えたのでしょうか。

『旧約聖書: 創世記-サムエル記下』にある創世18:9-15の注解を紹介する(訳注—日本語版では「英文『聖書』のみに関連する説明のため省略」となっている)。これまで神の驚くべき慈しみに驚嘆したことがあるか生徒に尋ねる。

創世18:13-14を読ませ、御自分の約束を守る力について主が何とおっしゃったか探させる。「主にとって不可能なことがありますか」という質問に自分ならどのように答えるか尋ねる。教義と聖約1:36-37と82:10を読む。次の質問をする。「わたしたちにはどれほど難しく思えるものであっても、主は御自分の約束をすべて果たされます。これらの聖句は、この教義をどのように裏付けていると思いますか。」

主にとって難しすぎることはあり得ない。しかし主は「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って」祝福をお与えになることを理解させる(教義と聖約88:68)。例として、サラとアブラハムは子供を授かるまでどれだけ待ったかを考える。

生徒とともに創世15:1-6を読み、アブラハムは不安であったときに何をしたか、また、なぜ、どのように祝福を受けたか確認する。イザヤ40:25-31を読み、主を待ち望むこと(忍耐)の大切さについてこれらの聖句が教えていることを探させる。次のことを話すよう生徒に勧めてもよい。「主の答えが自分の望んでいたものとは異なっていたにもかかわらず、それが自分にとって最善の答えだったと感じたことはありますか。」

創世18：1-15。神の約束は、直接神によって成就されることがある。神の僕を通して成就されることもある。(5-10分)

青少年が直面している最も困難なチャレンジにはどのようなものがあるか尋ね、黒板に列挙する。次の質問をする。「主にとって難しすぎることはあるでしょうか。また、主がわたしたちとともにいるときに、わたしたちにとって難しすぎることがあるでしょうか。」

16歳までデートをしない、伝道のために2年間学業や職業を離れる、道徳的な清さを保つ、什分の一の律法に従うなど、主が命じられていることで待つよう求められているものに話し合いの焦点を絞る。信仰をもって忍耐強く堪え忍ぶ者には主の祝福が待っていること、また主が常に御自身の約束を果たされることについて、教師の証を述べる。

創世18：16-33；19：1-13, 23-26。世の中がますます邪悪になっているため、わたしたちは、義人が悪人にに対して持つことができる救いの力について知る必要がある。また、地に住む者に神の裁きが下るとき、ほかの人々にどのように接するべきか、神は義人に何をなさるかなどについて知る必要がある。(30-35分)

神が町全体を滅ぼされることがあるのはなぜだと思うか尋ねる。レッスンの時間に応じて、以下のうちの一つを行う。

- ・『聖句ガイド』を使って「罪」、「邪悪」などの項目を調べ、答えを探させる。
- ・モーセ7：33-34と8：28-30を読む。これらの聖句には大洪水前の邪悪な状態について記されている。

生徒に創世18：20-21を読ませ、アブラハムの時代に非常に邪悪であった町を探させる。以下の聖句を調べさせて、ソドムとゴモラに蔓延していた具体的な罪を探させる。見つけたことについて話し合う。

- ・創世19：4-11(ジョセフ・スミス訳創世19：9-15も参照)
- ・エゼキエル16：48-50
- ・ユダ1：7(『旧約聖書：創世記-サムエル記下』66ページにある創世19：13についての注解も参照)

これらの箇所で述べられている罪が、生徒たちがすでに見つけて話し合ったものとどのように似ているか尋ねる。ここで列挙したものは現代にどのように当てはまるか、また主が預言者を通して語られたように、今日の世の中に見られる同じ罪悪に対して神がどのように感じておられるか考えるよう勧める。

主はソドムとゴモラに使者を送る前に、これから行おうとしていることをアブラハムに伝えられたことを説明する。アブラハムがどのように答えたか読む前に、なぜ神は人々や社会全体に対して辛抱強くあられると思うか尋ねる。創世18：22-23を読ませ、神がこれほどまでに辛抱強くあられる理由を探させる。また(全体として)悪事が満ちて滅ぼされるばかりの民に対して、義人はどのような行動を取るべきか調べさせる。主が教義と聖約86：1-7で語られた小麦と毒麦のたとえをその話し合いで利用してもよい。

生徒と一緒にアルマ10：22-23を読み、そこで述べられている原則がアブラハムと主のやり取りにどう当てはまるか話し合う。次の質問をする。「アブラハムの言葉や行動から、どのようなことが学べますか。」(『旧約聖書：創世記-サムエル記下』65-66ページにある創世18：16-33についての注解を参照する)教義と聖約29：7-9と133：4-15を読ませ、この教義に関して主が与えられた勧告を見る。次の質問をする。

- ・主は何をなさるとおっしゃいましたか。
- ・主の守りを受けられるよう備えるために、どのようなことができますか。

神が民を滅ぼされる理由をもう一度尋ねる。(ここでノアとその時代の民が滅亡した物語について復習してもよい。)生徒は1ニーファイ17：35とアルマ45：16を読み、次のことを説明する。「これらの聖句は、神がどのようなときに民を滅ぼされると教えているでしょうか。」次の質問をする。

- ・今読んだ2つの聖句で、義人がいなくなった後のソドムとゴモラの状態を表している言葉はどれですか。(熟す。)
- ・義人がいなくなった後、神はソドムとゴモラをどうなさいましたか。
- ・ソドムとゴモラの物語から、将来やって来る滅亡の多くを堪え忍び、それから逃れるためにどのようなことを学べますか。

創世19：1-8。わたしたちは、主がお立てになり任命された僕を尊重し、敬意を払わなければならない。(10-15分)

教会の大管長や中央幹部の訪問を受けたらどのように感じると思うか尋ねる。アブラハムとロトは、ともに主が遣わされた特別な使者の訪れを受けたことを話す。創世18：2-8と19：1-3を読ませ、アブラハムとロトは主が任命された僕にどう応対したか調べさせる。次の質問をする。

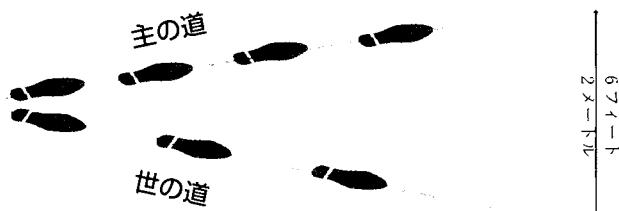
- ・アブラハムやロトが主の使者に示した敬意と、そのようなときにわたしたちが持る態度とは、どのように似ていますか。
- ・どうすれば預言者や指導者が日の前にいないときでも彼らへの敬意を示すことができますか。

モルモン書ヤコブ4：6；3ニーファイ23：5；および教義と聖約1：14, 37-38を読ませ、それぞれの聖句が何を勧告しているか説明させる。地元の教会指導者に敬意を示すための適切な方法について話し合う。地元の教会指導者も同様に主の僕である。

主は今日の教員に、預言者ジョセフ・スミスを通して、指導者に対し、またお互いに対して敬意を示すよう警告された。「教会内外における、あらゆる振る舞い、習慣や慣行、互いに交わすあいさつ、すなわち主なるわたしが指名、任命あるいは聖任した職、召し、神権にあるすべての人に敬意を示すに当たって」教員は態度を改めるよう命じられた(History of the Church, 2:177)。

創世19-22章。悪人との頻繁な交わりを選択することは、肉体的にも靈的にも害をもたらしかねない。(30-35分)

テープまたは紙を使って、以下の図のように床に2本の線を引く。一方の端が6フィートまたは2メートルほど離れるよう十分な長さにする。



それぞれの線に片方の足を乗せながら、できる限り遠くまで線に沿って歩くよう指示する。初めは簡単だが、次第に難しくなる。最終的にはどちらか1本の線の上を歩かなければ倒れてしまうことになる。決断が遅すぎると難しい問題が起こることを示すために、端の方まで行っている生徒に、片足を線の上に残したまま反対の足を上げて、バランスを崩さずに片方の足と同じ線の上に置くように指示する。

片方の線に「主の道」、もう片方の線に「世の道」と書いた紙をはる。次の質問をする。

- この活動は、ある人たちの生活とどのように似ているでしょうか。
- 最初は線がとても近いのはなぜですか。
- これは、サタンが人を欺くときに用いる一つの手段を示しています。なぜでしょうか。

2ニーファイ28:19-24と当時十二使徒定員会会員だったエズラ・タフト・ベンソン長老が語った以下の言葉を読んで話し合う。

「キリストは、世にあって世のものとならないようにと教えられました。しかし中には、福音を世にもたらすことよりも、この世のものを福音に持ち込むことに関心を持っている人々がいます。このような人々は、世にあって世のものとなることを望んでいるのです。」(Conference Report, 1969年4月, 11)

創世13:5-13を読ませ、アブラハムとロトが異なった道を歩き始めた分岐点と思われる箇所を見つけさせる。ソドムは非常に富み繁栄していた町だったが、非常に邪悪な町でもあったことを説明する(13節参照)。次の質問をする。

- ロトと彼の家族が「天幕をソドムに移」すことにはどんな危険が伴っていたと思いますか。それはなぜですか。
- あるものに向かって「天幕を移す」ということは、どのようなことを象徴していると思いますか。
- わたしたちは何に向かって「天幕を移す」べきですか(一つの提案としてモーサヤ2:6参照)。

創世14:12を読ませ、ロトが後に家族をどこに住まわせ

たか調べさせる。次に創世14:5, 11-12を読ませ、ソドムに住むというロトの決断がもたらした残念な結果を見る。アブラハムは捕虜になることなく、ロトの救出以外はこの戦いに巻き込まれることさえなかったことを指摘する。安全な場所で生活することと同じように、福音に従って生活することは、ほかの人々が陥っている「救出」を必要とするような試練や問題を避けたり退けたりするうえでどのように役立つか話し合う。

アブラハムは神だけに仕える決意をしていた。創世14:17-24を読ませる。メルキゼデクとはだれのことだったかを思い起こさせる(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』57-59ページにある創世14:18についての注解、および43ページにある創世14:17-24の教え方の提案を参照)。ソドムの王がどのような人物だったか想像させ、なぜアブラハムがそのような言動を取ったか答えさせる。次の質問をする。「アブラハムの行動から、アブラハムはどちらの線の上を歩くことを望んでいたでしょうか。」

アブラハムとサラにはまだ子供がなかったにもかかわらず、主はアブラハムに子孫の永続を約束された(創世15:1-5参照)。主の約束に対するアブラハムの反応を見るため、創世15:5-6を読ませる。創世17章と18章には、アブラハムとサラはすでに年老いていたにもかかわらず、主がこの約束を新たにされたことが記されている。

創世19章を読ませ、ロトがソドムに住んだ結果生じた事柄を列挙させる。特に、ロトの家族に及ぼした影響を探させる。邪悪な世の中にありながら正しい状態にとどまる方法を分かち合うよう勧める。ロトと彼の家族に起きたことを、創世21-22章に書かれているアブラハムの家族に起きたことと比較させる。その際、特に創世22:17-18に記されている約束と比較させる。

次の質問をする。

- この物語の最初の部分だけを見ると、この二人の人生について人はどう思うでしょうか。途中まで見るとどうですか。最後まで見るとどうですか。
- 主に忠実であることについて、二人からどのようなことが学べますか。
- 2本の線を使ったレッスンからどのようなことが学べますか。

『若人の強さのために』(パンフレット、1990年)2-3ページの導入にある大管長会の言葉を読む。次の質問をする。

- 大管長会の勧告は、どの道を歩むか決めるうえでどのように役立ちますか。
- このパンフレットにあるそのほかの勧告は、人生にどのような祝福をもたらすと思いますか。

創世21章。アブラハムとサラは忠実に主を待ち望んだ。(15-20分)

主を待ち望むという原則についての生徒の共感を深めるために、生徒用学習ガイドにある創世20-21章のための活動Aをさせる。

 創世22章。アブラハムが息子イサクを進んで犠牲とした物語は、単にアブラハムの忠実さを劇的な方法で証明しただけではなく、イエス・キリストの贖罪についても教え、また証している。(45-50分)

生徒とともに生徒用学習ガイドの創世22章の最初の部分にある質問について話し合う。「なぜ」で始まる質問に答えるに当たって、学習ガイドの「聖文を理解する」の項にある概念を利用する。

創世22:1-18に記されている話は非常に重要であるため、できればクラスで朗読するとよい。必要に応じて朗読を中断し、質問し、話し合い、よく考え、意見を述べさせる。例えば、1節読んでから、アブラハム、イサク、サラ、または主についてどのようなことが分かるか生徒に尋ねる。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』67-68ページから、アブラハムについて理解するうえで役に立ちそうな内容を紹介してもよい。

教義と聖約101:4-5で主が教会員に語られたことを読ませる。次のように尋ねる。「わたしたちは、何らかの形で試しを受けなければなりません。それはなぜでしょうか。」(この聖句は、子供を犠牲にするように求められることがあるという意味ではないことを間違いなく生徒に理解させる。) 生徒用学習ガイドにある創世22章についての説明や『旧約聖書：創世記－サムエル記下』68-69ページにある創世22:1についての注解などから必要な内容を紹介し、この話し合いに役立てる。

高性能の新車か、若者にとって非常に価値がある何か別のものを持っていると仮定させる。次の質問をする。

- 5歳や10歳の子供など、判断力、経験、自制心などにおいて未熟な人に自分の車を運転させたり、高価なものを使わせたり、それで遊ばせたりすることについてどう感じますか。それはなぜですか。
- 対照的に、主はわたしたちに何を与えると約束なさいましたか(教義と聖約76:58-59, 95; 84:38参照)。

創世22:16-18で、アブラハムはたった一人の息子を犠牲としてささげ、心から従順であることを示しました。主はそれを御覧になられた後、厳肅に誓いを立てられ、以前に約束された祝福が、これまで言及されていなかったものも含め、すべてアブラハムに与えられることを保証された。次の質問をする。「アブラハムの従順さは、これらの偉大な祝福を受ける資格を身に付けるうえでどのように役立ったと思いますか。」

アブラハムとイサクの物語がイエス・キリストの犠牲に類似している(予型または象徴となっている)と思う点について、生徒とともにリストを作成するか、生徒用学習ガイドにある創世22章のための活動Aで書いたことを発表させる。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』の創世22:1-19についての注解(67-68ページ)の内容はこの活動に役立つ。

天の御父が御子を犠牲にされたとき、やぶに雄羊はいなかったことを生徒に思い起こさせる。イエスは一切罪を犯すことがなく、生涯のあらゆるときを罪とは無縁に過ごされた。そのためイエスは、御自身を犠牲になさることで(わたしたちには理解することさえできない方法で)悔い改めを条件に人類を救う道を備えることができた。わたしたちが主のようになろうと努力するとき、罪を克服して犠牲をささげるよう求められるのは当然である。

十二使徒定員会員であるニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしたちのだれが平穏無事な人生など期待できるでしょうか。それはまさにこう言っているようなものです。『主よ、経験を授けてください。けれども悲しみや苦しみ、対立や裏切り、そして見捨てられるような経験はもちろん要りません。主が主となられるために味わわれたような経験はすべてわたしから遠ざけてください。そして、みもとにあって主とともに完全な主の喜びを味わわせてください。』」(『聖徒の道』1991年7月号、90参照)

同じく使徒のメルビン・J・バラード長老は、御父が御自身の独り子を進んでささげられたことについて次のように語っている。

「そのとき、わたしには愛する天の御父が、この末期の苦しみを幕の向こうで見守っておられるのが見えるような気がしました。……その偉大な心は、御子に対する愛のために張り裂けんばかりでした。おお、御子をお救いになることもできたあの瞬間に、御父がわたしたちをお見捨てにならなかつたことに、わたしは感謝し、御父を讃美称えます。……天の御父が介入なさることなく、わたしたちを愛するがゆえに御子の苦しみを堪え忍んで御覧になり、ついには救い主、贖い主を与えてくださったことを喜びます。主がおられなかつたなら、主の犠牲がなかつたなら、わたしたちはとどまつて、神の御前で栄光を受けることは決してなかつことでしょう。これこそが、御父が人に御子を賜るためお支払いになった、代価の一部なのです。」(メルビン・J・バラード……*Crusader for Righteousness* [1966年], 137)

生徒に、イエス・キリストの犠牲と贖いに対する感謝を述べる時間を与えてよい。

創世12-22章；アブラハム1-2章。アブラハムは昇栄し(教義と聖約132:29参照)、「忠実な者の先祖」(教義と聖約138:41)として知られるようになった。アブラハムはわたしたちすべてに、どうすれば永遠の命を得られるか模範を示してくれた。(30-40分)

聖約の祝福にあずかる教会員にとって、アブラハムは重要な人物である。アブラハムの生涯を研究して学んだことについて生徒に書かせる。アブラハムの生涯から、今日の教会員が生活に取り入れるべき原則を3つ選ぶか、アブラハムの生涯における進歩の段階(すなわち、どこから始めて、どこで終わり、どのようにそこへ到達したか)を大まかに書くように提案してもよい。または以下に記したテーマのうちの一つについて書かせててもよい。

- なぜアブラハムは神の友および忠実な者の先祖と呼ばれているのでしょうか。
- アブラハムの聖約の家族の一員となるにはどうしたらいいのでしょうか。

クラスの全時間を使って生徒に書かせ、教師が感想を書いて返却するか、クラスの前半で書かせて後半で希望者に発表させてもよい。

創世記24-33章

はじめに

旧約聖書の中で、エホバはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神と呼ばれている（出エジプト3:6参照）。最初にアブラハムと交わされた聖約は、息子イサクと孫のヤコブの血統を通して継承された。アブラハムの次男イサクは、兄のイシマエルに代わって聖約と長子の特権の祝福を受けた。同様に、エサウではなくヤコブが聖約の相続人となつた。長子の特権は最初の妻の長男に与えられるのが慣習であったが、それは、それぞれの子の忠実さ次第であった。聖文には、年下の息子が長子の特権の祝福を受けていた例が幾つか見られる（例えば、セツ、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、エフライム、およびニーファイ。創世4:25; 11:27; 27:36-40; 28:1-5; 48:1-4, 14-22; 1ニーファイ2:22参照）。

アブラハムの聖約の祝福を受けるうえで大切なのは、血統や生まれた順序ではなく、完全な従順さなのである。血統に関係なく、わたしたちは福音に忠実な生活を送ることによって聖約の祝福を受けるためのふさわしさを身に付ければならない。聖文では、アブラハムの祝福を受けるのを決めるのは血統ではなく、イスラエルの聖者への信仰と悔い改めであると教えていた（ローマ9:6-8; 2ニーファイ30:2; 教義と聖約64:34-36; アブラハム2:6-11参照）。創世24-33章を研究しながら、イサクとヤコブの忠実さと聖約に基づいた結婚（神殿結婚）の重要さに注目する。これらはアブラハムの祝福を享受するための必須条件である。

学び取るべき重要な福音の原則

- アブラハムの聖約の祝福を受けるうえで大切なのは、血統や生まれた順序よりも個人のふさわしさである（創世24:57-60; 25:19-34; 26:1-5, 24, 34-35; 27:46; 28:1-19参照）。
- 聖約に基づいた結婚、すなわち神殿における永遠の結婚は、アブラハムの聖約のすべての祝福を得るために不可欠である（創世24:1-4; 26:34-35; 27:46; 28:1-9参照。教義と聖約131:1-4; 132:19-20も参照）。
- わたしたちは周りの人々との問題や人々に対する悪感情を解消するよう努めなければならない（創世27:30-42; 31:17-55; 32:3-23; 33:1-16参照）。
- わたしたちは自分の決意を守り通す意志の強さを身に付ければならない（創世29章参照）。
- 主はわたしたちが福音の聖約を守るとき、物質的にも靈的にも祝福してくださる（創世30:37-43; 31:5-7, 9, 42; 32:9-12参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』10「ちよろずの人」では、結婚の聖約が持つ長期的影響がドミノのたとえを使って示されている（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

創世24-28章。神殿で結婚し、そこで交わす聖約を守る人々は、夫婦として昇栄を享受する。（35-40分）

黒板に「人生の大切な決断」と書く。生徒に自分がしなければならない最も大切な決断を幾つか挙げさせ、答えを黒板に書く。答えの中から、自分の永遠の旅路に最も影響を与えると思われる決断を選ばせる。生徒用学習ガイドの創世24章の最初の部分にあるスペンサー・W・キンボール大管長の言葉を読ませる。教義と聖約131:1-5と132:1-6, 19-20を読み、なぜ、だれと、いつ、どこで結婚するかといった重大な決断の大切さを話し合う。

創世24:1-7; 27:46; と28:1-9を読ませ、アブラハムとサラ、そして後にイサクとリベカは、息子の妻にどのような資質を求めたか調べさせる。アブラハムやイサクは、息子が「カナンの娘」と結婚しないようにすることに、なぜそれほどこだわったのだろうか。その理由について話し合う。

ハラン（パダンアラム）とベエルシバとの距離に注目させる（『聖句ガイド』地図1参照）。次の質問をする。

- 1日平均32キロメートル旅するとして、この距離を徒步で旅するにはどのくらいの期間がかかるでしょうか。
- これほどの距離を旅することから、聖約結婚の大切さについて何が分かりますか。
- カナン人と結婚することにはどんな問題がありましたか（申命7:3-4参照）。
- 今日、カナンの娘または息子との結婚に相当するのはどのようなことですか。（教員以外の人との結婚。）
- 教義と聖約132:7, 14-16を読む。永遠の結婚の聖約に基づかない結婚は、この世と永遠においてどのような結果をもたらしますか。

創世26:34-35および27:46を読ませる。エサウのある行動は、アブラハムの祝福を継承する権利を危険にさらした。それはどのような行動だろうか。説明させる。次の質問をする。「イサクとリベカはエサウの決断にどう反応しましたか。」申命7:3-4を読ませ、結婚に関して主が古代イスラエルにお与えになった指示を見つけさせる。次の質問をする。

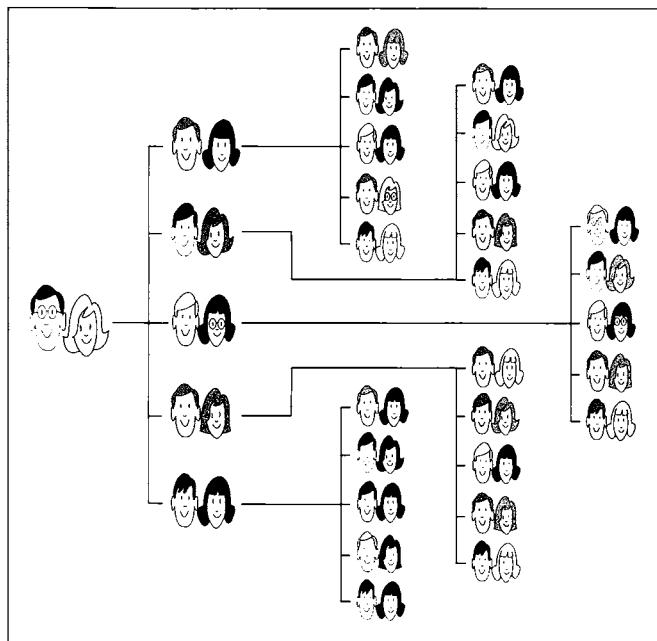
- あなたは伴侶にどのような資質を求めますか。
- それらの資質を備えた人を見つけるために、どのような努力をしますか。
- それらの資質を自ら身に付けるために、自分自身の生活をどのように変える必要がありますか。

創世24-28章。結婚に関する決断は、何世代にもわたって影響を及ぼす。(35-40分)

主は、アブラハムの僕がイサクのためにふさわしい妻を探すのをお助けになった。物語を要約して、主がどのように助けられたか話す。生徒とともに、創世29:1-30にある、ヤコブがレアとラケルのために働いた話を読む。次の質問をする。

- これらの物語から、聖約に基づいた結婚の大切さについてどのようなことが分かりますか
- 正しい親は、子供たちにどのような期待を抱いているでしょうか。

創世24:60を読ませ、リベカの家族がリベカに受けさせたいと願っていた祝福について調べさせる。以下の計算方法を用いて、結婚の決断がどのくらいの人々に影響を及ぼすか理解させる。5人の子供を持つ夫婦から始める。それぞれの子供が結婚して（5人の配偶者を合計人数に加える）、5人の子供を持つとする（下の表を参照）。最初の夫婦の子孫がいかに短い期間で千人以上となるか注目する。神殿で結婚するという決意によって、ほんのわずかの期間に、これから地上に生まれてくる何千人という御父の子供たちに影響を与えることについて話し合う。教義と聖約132:19を読ませ、この聖句から、永遠の結婚と永遠の家族についてどのようなことが分かるか話し合う。



神殿結婚に備えるために今何ができるか生徒と話し合う（『若人の強さのために』24-25参照）。創世29:15-20, 30を読み、ヤコブがラケルと結婚するために進んで行ったことについて話し合う。永遠の命は神殿の儀式なしには決して得ることができない。また、永遠の結婚をした人だけが永遠の家族の祝福を享受することができる。スペンサー・W・キンボール大管長は、実りある永遠の結婚に必要な原則についてこう紹介している。

「第1に、結婚に向けて適切な取り組み方をしなければなりません。すなわち、相手を選ぶに当たってじっくりと考えることであり、自分にとって大切な事柄のすべての面でできるだけ完璧に近い配偶者を選ぶようにします。その後二人の当事者は、実りある共同生活のために一生懸命働くべきことを認識しつつ聖壇に来なければなりません。

第2に、大いなる無私の精神がなければなりません。

……

第3に、愛を保ち、さらに育てるために、求婚時代の精神を持ち続け、愛情、親切、そして思いやりを続けて表現しなければなりません。

第4に、主の戒めに完全に従って生活しなければなりません。」（The Teaching of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 306）

聖約に基づいた結婚（神殿結婚）が持つ永遠の価値について証する。また、今から準備を始めなければならないことを証する。

創世24章:31:1-16。ふさわしい生活をするとき、主はわたしたちが正しい決断を下すのを助けてくださる。わたしたちのことを気にかけてくれている人々（両親、教会指導者、教師など）も、わたしたちが大切な決断を下すのを助けてくれる。（25-30分）

生徒に今日すでに行った選択について考えさせる。次の質問をする。

- あなたはどのようにして決断を下しますか。
- 主の助けに頼らなければならないほど重要な決断には、どのようなものがありますか。

創世24:1-7を読ませ、アブラハムの僕がしなければならなかった決断について調べさせる。次の質問をする。「決断を下すに当たって、アブラハムの僕は、主がどのような役割を果たしてくださると信じていましたか。」24章の残りを読み、主が僕の決断を承認されたことの根拠は何か調べる。

創世31章の中で、ヤコブは大切な決断をするに当たって助言を必要としていた。1-2節を調べ、ヤコブの悩みが何だったか探させる。3-16節を読む。ヤコブはラバノンが自分に抱いている悪感情にどう対応すべきか決断しなければならなかった。ヤコブがだれから助言を受け、だれと相談したかを調べさせる。家族会議に関するエズラ・タフト・ベンソン大管長の以下の言葉を紹介する。

「堅固な家庭に見られる特徴は、効果的なコミュニケーションの方法を培っていることです。彼らは自分たちの問題について話し合い、皆で計画を立て、共通の目標を達成するために協力し合います。家庭のタペや家族会議を実践し、この目標を達成するための有効な手段として利用します。」（『聖徒の道』1984年7月号, 10参照）

前世において、天の御父は評議会の持ち方を示してくださいましたことを思い起こさせる（アブラハム4:26参照）。

ヤコブが妻たちと相談したことや、御父のもとで行われた天上の会議は、大切な決断を下すときの方法について

何を教えているだろうか。以下の聖句をクラス全体または小さなグループで調べさせ、主から指示や導きを受けることについて、それらの聖句から、どのようなことが分かるか報告させる。ヨシア1:7-9; マタイ7:7-11; 2ニーファイ32:1-3; 教義と聖約6:22-24; 8:2-3; 9:7-9。

大切な決断をするときに主の勧告を求めるについて教師の証を述べる。

創世25-27章。福音の祝福を受けるうえで大切なのは、血統や生まれた順序よりも個人のふさわしさである。(15-20分)

黒板に「長子の特権の祝福」と書き、この言葉が旧約の時代に何を意味していたか尋ねる(『旧約聖書: 創世記-サムエル記下』75-76ページにある創世25:32についての注解を参照)。

アブラハム1:1-7と創世25:29-34を読み、「先祖の祝福」に対するアブラハムの気持ちと、それに対するエサウの気持ちとを比較する。長子の特権に対するエサウの態度を示す部分を生徒に選ばせ黒板に書かせる。創世26:34-35を読ませ、エサウのどのような行動から、エサウが靈的な祝福よりも物質的な望みを優先させていたことが分かるか調べさせる。次の質問をする。「エサウの両親は、エサウの結婚にどのような反応を示しましたか。」

エサウが聖約の民ではないヘテ人の女性と結婚したことは、エサウが靈的な祝福を重視していなかったことを重ねて証明していることを理解させる。ヘテ人はカナンの地と小アジアの間の地域に住む、偶像を礼拝する民であった(『聖句ガイド』地図1参照)。申命7:3-4で主は、信仰の異なる人との結婚がもたらす弊害についてかなり詳しく説明しておられる。

創世25-27章。福音の聖約を守るとき、主はわたしたちを祝福してください。(15-20分)

ヤコブがどのように長子の特権の祝福を受けたか復習する。物語を理解しやすくするために、『旧約聖書: 創世記-サムエル記下』にある創世27:1-40についての注解(76ページ)を利用する。わたしたちは物事の経緯のすべてを知っているわけではないことを生徒に認識させたうえで、主が長子の特権の祝福を授けるよう意図しておられたのはヤコブであったことを指摘する(創世25:23参照)。イサクは祝福を受けるべき人がヤコブであることを知っていた。例として、創世27:33と28:1-4を読み、それを示す言葉を探させる。生徒に創世28:13-15を読ませ、主がヤコブに語られた言葉の中から、ヤコブが受けた祝福を受けたことを示している表現を見つけさせる。ヤコブは主が自分に約束されたことの真の意義について最初から完全に理解していたわけではなかったが、時間とともに理解を深めていった。

十二使徒定員会会員のダリン・H・オーカス長老は次のように語っている。

「長男のエサウは『長子の特権を軽んじ』ました(創世25:34)。しかし次男のヤコブはそれを切望しました。ヤコブは靈的なものを大切にし、エサウはこの世のものを求めました。……この世のものに対する一時的な飢えを満たすために、大勢の人がエサウのように永遠の価値のあるものを捨ててしまったのです。」(『聖徒の道』1986年1月号、58-59参照)

当時十二使徒定員会会員であったエズラ・タフト・ベンソン長老は次のように語っている。

「皆さんの受け継ぎは、世の中でもきわめて偉大な価値があるものです。この世のばく大な富を相続すべく生まれた人や、国の統治権利を生まれながらに付与された人をうらやむ必要はありません。皆さんの長子の特権はそれらすべてを凌駕するものであり、皆さんはその血統ゆえに祝福を受けているのです。」(The Teachings of Ezra Taft Benson [1988年], 555)

教義と聖約88:33を読み、教会員としてどのような祝福を享受しているか尋ねる。答えを黒板に書く。(答えとして、聖靈の賜物、神権、儀式、神殿の祝福、聖文、生ける預言者、ワードまたは支部という家族、および永遠の命の約束が挙げられるだろう。)次の質問をする。

- 祝福の価値を深く理解し、無関心や不従順によってそれらを失わないためにはどうすればいいでしょうか。
- それらの祝福を失うよりはむしろ死を選ぶ人々がいるのはなぜだと思いますか。

福音の約束の大切さについて教師の証を述べる。

創世28:10-22。神殿の儀式と聖約を究極とする福音の儀式と聖約は、昇栄に不可欠である。(15-20分)



末日の神殿とはしごの写真を見せる。両者の間に何か類似点があるか、もしあるとすればそれは何か尋ねる。ふさわしい妻を探すためにヤコブをハランへ行かせる前、イサクはヤコブにアブラハムの祝福を与えたことを説明する(創世28:3-4)。そしてハランへ向かう途中、ヤコブはベテルで神聖な経験をした。

創世28:10-22を読ませ、ヤコブがなぜその場所を「ベテル」と呼んだか説明させる(『聖句ガイド』「ベテル」234ページ参照)。主がベテルでヤコブにお与えになった約束(創世28:13-15)と、主がふさわしい状態で神殿に参入する人にお与えになる約束(教義と聖約109:22-26; 110:6-7)とを比較させる。

『旧約聖書: 創世記-サムエル記下』創世28:10-19に

についての注解（76-77ページ）にあるマリオン・G・ロムニー管長の言葉を読む。また預言者ジョセフ・スミスの以下の言葉を紹介する。

「パウロは第3の天にまで昇りました。そしてヤコブのはしごの3つの主要な区分である星と月と日の栄えの栄光、すなわち王国を理解したのです。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 304-305）

はしごの横木が何を象徴しているか尋ねる。クラス全体で、昇栄に必要な儀式または聖約をはしごの各段に当てはめていく（バプテスマ、聖霊の賜物、エンダウメント、結び固めなど）。教義と聖約131:1-4を読ませ、はしごの最上段の横木が象徴している儀式は何か調べさせる。

イエス・キリストの贖罪がなければ、わたしたちを救いに導く儀式は何一つあり得ないことを話す。はしごを登って天に帰るために必要な努力と、主がどのようにはしごを用意され、それぞれの段階でわたしたちを助けてくださるか話し合う（モーサヤ5:1-5；エテル12:27参照）。

創世32-33章。天の御父との聖約を守るとき、わたしたちはより大きな自信を持って人生の試練に立ち向かうことができる。（30-35分）

明日という日がないとしたら、今日一日何をして過ごすか生徒に尋ねる。創世32章の中のヤコブはそのような状況にあったことを説明する。彼は20年前に、兄のエサウに命をねらわれたこともあって故郷を離れた。帰郷に当たって、エサウが再び自分の命をねらうかもしれないと彼が懸念したのも無理はない。ヤコブが兄との再会に備えて何をしたかは、わたしたちが人生のチャレンジによりよく対処するために検討して実行できる事柄の一例と言える。

創世32:3-20を黙読させ、ヤコブがエサウと会うのに備えて何をしたか調べさせる。生徒たちが見つけた答えを黒板に列挙する。9-12節を、特にヤコブの謙遜さが表れている語句に注意しながら再び読む。次の質問をする。「ヤコブの謙遜さは、兄に会ううえでどのような備えとなつたと思いますか。」

創世32:24-32を読ませる。次の質問をする。

- ヤコブは何を望みましたか。
- ヤコブが経験した「組打ち」とはどのようなものだったのでしょうか。

ペニエルでの出来事についての詳細は不明であるが、聖文の記録はそこで神聖な出来事が起きたことを示している。力強い啓示を受けるに先立って霊的な苦闘を経験することがしばしばある。例えば、エノス、アルマ、およびジョセフ・スミスが主の祝福を熱心に尋ね求めたとき、彼らはのような「組打ち」を経験した（エノス1:1-5；アルマ8:10；ジョセフ・スミス歴史1:13-17参照）。ヤコブが経験した組打ちも同様の霊的苦闘だったのかもしれない。

創世32:30を読み、なぜヤコブはその場所をペニエル、すなわち「神の顔」と名づけたのか尋ねる。ヤコブは、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」と記している。これはヤコブがどこかの時点で主を見たことを示唆している。30節は「わたしは顔と顔をあわせて神を見、わたしの靈は贖われている」と言い換えることもできる（創世48:14-16も参照）。

ヤコブがそれまでの20年間に行ってきたことで、ペニエルでの出来事への備えとなつたことにはどのようなものがあるでしょうか。（ヤコブは聖約による結婚をし、忍耐強い奉仕をし、聖約を忠実に守り、試練に直面したときには主を求めた。）ヤコブの苦闘とそれに続いて受けた祝福は、生涯を通じて霊的な強さの源となった。この経験はヤコブにとって永遠の目標に向かって進んで行く「はしご」の大切な一段階であり、後にヤコブがベテルに戻ったときに受けた完全な祝福への大切な準備段階であったと思われる。



次の質問をする。

- この経験は、エサウに会う準備をしていたヤコブにどのような影響を与えたと思いますか。
- 自分の生活が神の御心にかなうものであると知ることは、試練に立ち向かうときどのように役立ちますか。

ヤコブは主との聖約を守っていたため、自信が強められた（創世28:10-22参照）。ヤコブはその義のゆえに、（創世32:24-32に比喩的に言及されているように）さらなる聖約により偉大な祝福を受けた。バプテスマや聖餐など、

これまで交わしてきた聖約について尋ねる。これらの聖約に忠実であれば、神殿の聖約に伴うより偉大な祝福と義務への備えをするのに役立つことを約束する。この点を強調するために教義と聖約35:24を読む。

十二使徒定員会会員ニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を読む。マックスウェル長老は主の御前に戻る機会について次のように語っている。

「その瞬間を台なしにするようなことは一切行ってはいけません。あの細くて狭い道からそれることなく、靈的で、喜びにあふれ、主の御腕に触れることのできる再会の場に到達するよう努めましょう。主の憐れみと愛の御腕が皆さんに伸ばされているからです。そのような再会の時は実際に訪れます。すぐにそのような時が訪れる人もいれば、そうでない人もいるでしょう。しかし皆さんのが忠実であるならば、その時が来るのです。わたしはそのことを証します。」(“The Education of Our Desires.” [ソルトレーク・インスティテュートにおけるディボーショナル, 1983年1月5日], 11)

創世34-41章

はじめに

創世34-41章では、焦点がヤコブすなわちイスラエルから彼の子孫へと移っている。ここにはヨセフの正しさと、人々の悪事のためにヨセフが受けた苦難が記されている。また主がどのようにヨセフの試練を偉大な祝福へと変えられたかについても記されている。それらの祝福によってヨセフは自分の家族全員を飢饉から救い、アブラハムの聖約の子孫を守ることができた。

ヨセフの物語は多くの偉大な事柄を教えている。かつて七十人の会員であったハートマン・レクター・ジュニア長老は次のように語っている。「イスラエルと呼ばれたヤコブの息子ヨセフの話は、『万事が〔神を愛する者たちの〕益となる』ために作用するという大いなる真理を、はっきりと描写している(ローマ8:28参照)。ヨセフは常に義にかなったことをしていたと思われる。しかし、もっと重要なことは、ヨセフがそれを正しい理由でしていたことである。それは何と重大なことであろうか。ヨセフは兄たちから奴隸として売られ、パロの侍衛ボテバルに買われた。ヨセフは契約書をもって買われた奴隸でありながら、あらゆる経験と環境を、それがどれほど困難なものであろうとことごとく良いものに変えていった。」(『聖徒の道』1973年8月号, 365参照)

ヨセフの物語を研究しながら、ヨセフの生涯がどのような点で救い主の生涯の「予型」すなわちあらかじめ示すものとなっていたかに注目する。この点については、創世42-50章で詳しく話し合う。

学び取るべき重要な福音の原則

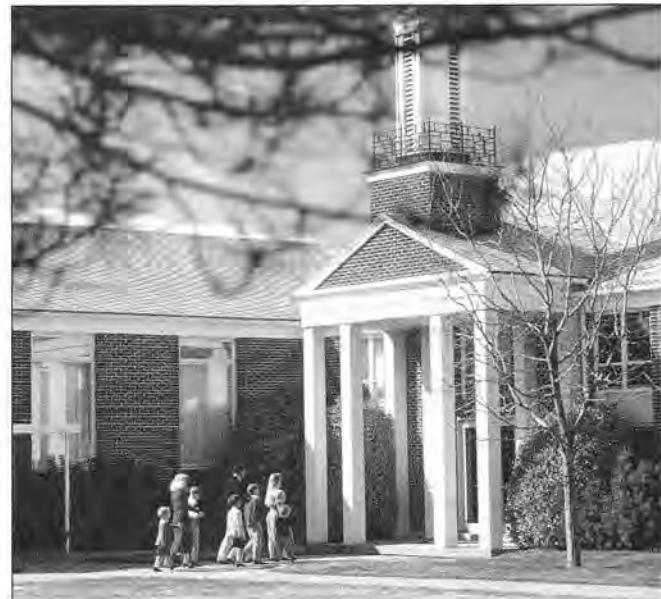
- **復讐**を求めるることは罪である(創世34:1-31参照。創世49:5-7; レビ19:18も参照)。
- 神聖な聖約を交わしてそれを忠実に守る人々に、主はアブラハムの祝福をお与えになる(創世35:2-4, 6-7, 9-15参照。教義と聖約84:33-34; アブラハム2:11も参照)。
- 嫉妬やねたみは高慢の表れである。それらは御靈を退かせ、より大きな罪を招くことがある(創世37:1-28参照。箴言6:34-35; 2ニーファイ26:32も参照)。
- この世では義人が大きな艱難を受けることがある。しかし、忠実であれば主がともにいてくださるので、試練を偉大な祝福に変えることができる(創世37:1-28; 39:1-23; 41:1-45参照。アルマ36:3; 教義と聖約98:3; 122:9も参照)。
- 純潔の律法を破ることは神に対する罪である(創世39:7-9参照。アルマ39:5; モルモン書ヤコブ2:28も参照)。
- 神をあがめて神に従い、神を人生に最大の影響を及ぼす御方とするなら、わたしたちは誘惑に打ち勝つ力を得てすべての戒めを守ることができる(創世39:9参照。マタイ22:35-40; モロナイ10:32も参照)。
- 主はしばしば、預言者を通して将来の出来事を警告してください。賢い人々は預言者の勧告に従う(創世41:28-57参照。アモス3:7; マタイ25:1-13も参照)。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』11「わたしをここにつかわしたのは……神です」では、ヨセフの生涯が織物に、それを織る織工が天の御父にたとえられている(教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照)。

創世35:1-5。わたしたちは神殿に参入するために自分自身を靈的にも物質的にも備えなければならない。(10-15分)

以下のような写真を2枚見せる(54ページも参照)。





© 1998 Photodisc, Inc. 版権所有。

次の質問をする。

- これらの人々はどんな活動に参加しているように見えますか。
- 写真の中に何かヒントがありますか。
- 特定の行事に対して特定の服装が適切かどうかを判断するものは何だと思いますか。
- 預言者あるいは主にお会いする用意をしているとしたら、どのような服を着ますか。

創世35:1を読ませ、ヤコブはどこに行くように命じられたかを見つけさせる。クラス全体で、ベテルとそこで起きた出来事について以前学んだ事柄を復習する。ベテルとはヘブライ語で「神の家」を意味することを思い出させる（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』77ページにあるマリオン・G・ロムニー管長の「神殿は我々にとって、ヤコブに対するベテルのようなものである」という言葉も参照）。

創世35:2-5を読み、次の質問をする。

- ベテルに行く備えをするに当たって、ヤコブは民にふさわしい服装をするよう勧めました。何と言いましたか。
- ヤコブの勧告をわたしたちは今日どのように活用できると思いますか。
- 物質的な備えのほかに、ヤコブは2節でどのような備えについて述べていますか。（靈的な備え）
- わたしたちは「あなたがたのうちに異なる異なる神々を捨て、身を清め〔なさい〕」というヤコブの勧告を自分の生活にどう取り入れることができますか。
- 神殿や教会の集会所などの神聖な場所へ行くために、わたしたちはどのような靈的備えをすることができますか。

『聖句ガイド』（「清いものと清くないもの」、「悔い改め」、および「ふさわしさ」）から、どうすれば清くあるいはふさわしくなるか理解するために役立つ聖句を見つけさせる。見つけた聖句をクラスで発表させる。ふさわしくない状態で参入して神殿を汚すようなことがなければ、主は祝福を

約束しておられる。教義と聖約110:6-8を読ませ、どのような祝福を約束しておられるか答えさせる。パンフレット『若人の強さのために』の「服装と外見」（14-15ページ）の内容を紹介してもよい。

創世35:9-13。ヤコブの生涯は、聖約を交わしてそれを守るときに、主から祝福が与えられるという原則を例証している。（25-30分）

次の質問をする。

- 靈性とは持つて生まれたものでしょうか。それとも築いていかなければならないものでしょうか。
- 成長する過程で、人々はより正しく靈的に成熟した人となるために、どのようなことを行いますか。
- さらに義にかなった人になりたいという望みをもたらしてくれるものにはどのようなものがありますか。

ヤコブの生涯について分かっている事柄から、ヤコブは苦難に直面したとき主に立ち返る習慣を身に付けていたため靈的に成長していったことがうかがえる。生徒は創世26-35章に簡単に目を通し、ヤコブの生涯にまつわる出来事を起きた順に挙げる。それぞれの出来事はヤコブが靈的に成長するうえでどのように役立ったと思うか尋ねる。ヤコブの最も賞賛すべき点は何か、また永遠の祝福を得ることに関してヤコブの模範的な生涯から、どのようなことを学んだか発表させる。



RT BARRETT

ヤコブが受けた主の3度の訪れについて読ませ、比較させる（創世28:10-22; 32:24-31; 35:9-13参照）。次の質問をする。

- これらの訪れの類似点は何ですか。
- これらの訪れの相違点は何ですか。
- これらはヤコブの靈的成長についてどのようなことを表していますか。

- これらはわたしたちの靈的成長についてどのようなことを象徴していますか。
- 訪れを受ける度に、ヤコブはどのように靈的成熟度を高めていきましたか。

注意：生徒がこれらの訪れを調べるのを助けるために、以下の3つの段落に記されている内容を活用する。

創世35:9-13に記されている主のヤコブへの訪れは、記録に残っているものとしては3度目、またベテルで受けたものとしては2度目のものである。この訪れは様々な意味で、ヤコブがまだ若く独身で兄エサウの怒りから逃げていたころに始まった靈的な旅を完結する役割を果たした。ヤコブが初めてベテルを訪れたとき、主は夢のなかでヤコブに御自身を現された。夢から覚めたときにヤコブが語った言葉は、ヤコブが人生において靈的にも目覚め、神に仕える決意をますます強めたことを示している（創世28:10-22参照）。『旧約聖書：創世記-サムエル記下』76-77ページにあるこれらの聖句についての注解も参照）。この最初の夢で主は、ヤコブが手にできるアブラハムの聖約に伴う数々の約束について語られた。これに対してヤコブは、その場所を「ベテル」（ヘブライ語で「神の家」の意味）と呼ぶことによって、主と主の戒めに従順であると固く決意することによってこたえた。

パダンアラム（スリヤ）に20年間滞在した後、ヤコブは故郷への旅路についた。ヤコブは主との聖約を守り、靈的に成長していた。「神の顔」という意味のペニエルという場所で、ヤコブは非常に神聖な経験をした（創世32:24-31参照）。ヤコブは祝福を求めて一人の人と組み打ちしたのである（後にヤコブはこの人を「み使」^{つかい}と呼んでいる。創世48:16参照）。組み打ちした相手はまずヤコブに新しい名前を与え、それから祝福を与えた。「イスラエル」（ヘブライ語で「神を堪え忍んだ者」または「神に勝利させる」という意味にもなる）という新しい名前は、ヤコブがそれまでの20年間をどのように過ごしたか示唆するものであり、また彼の靈的な成長をも示すものである。創世28章には、主がヤコブに対してどれほどの期待を抱いておられたかが記録されており、その20年後の創世32章からは、ヤコブがいかに熱心に主を求め、主の祝福を得るために苦闘したかをうかがい知ることができる。ヤコブは主の御前において自分がどこにいるか知りたいと願い、平安のうちに確証を得たのである（創世32:24-29参照）。

創世35章には、ヤコブの生涯における第3の重要な靈にかかる出来事が記されている。ヤコブは初めて主にお目にかかった場所に戻った。そこはヤコブが、主に完全に従うことを決意した場所であった。このときヤコブは家族全員を連れていたが、主は（ペニエルで最初に授けた）イスラエルという新しい名前と、子孫に関する祝福を含めアブラハムの聖約に関連するそのほかの多くの祝福を確認された。彼は最初にベテルに来たときに授かった知識と決意した事柄に忠実であった。彼の父や祖父と同様に、ヤコブは家族と永遠の命に関する神からの聖約の祝福を求めて、それを手に入れた。最後に、生徒に教義と聖約132:37を読ませ、ヤコブは今どこにいるのか、彼はどのようにしてその祝福を得たのか調べさせる。

ヤコブの靈的成長について生徒が学んだことや、今日得

ることができる福音の祝福に関して彼らが知っている事柄に基づいて、永遠の祝福を受けるために踏まなければならない段階を示すはしごを生徒と一緒に作る（51-52ページにある創世28:10-22のための教え方の提案を参照）。

創世37-41章。正しくあるよう努めることによって、人生が常に快適で、順調で、痛みのないものとなるわけではない。わたしたちが忠実であるならば主は試練や困難を祝福に変えてくださるが、この変化はわたしたちの求めるときではなく、主が定められたときに起きる。（60-70分）



絵1（225ページ）を見せ、この絵で起きていることは良いことか悪いことか尋ねる。（ほとんどの生徒は悪いことが起きていると言うであろう。良いことが起きていると言う生徒がいる場合は、理由を言わせ、教えようとしている内容に応用する。）次に絵2（226ページ）を見せ、絵1の出来事についてより多くの背景を知ることによって、出来事への判断がどのように変わるか尋ねる。逆境が後に祝福となったような経験があるか尋ねる。（例えば、高齢者や病人の世話をし、その経験から知識や祝福を得たこと。）経験を話しても構わない感じている生徒がいれば、あまり個人的すぎないかぎりそれらの経験をクラスで紹介するよう勧めてもよい。これからある人物の物語を学ぶが、その人物が経験した幾つかの苦難は、後に祝福となったことを生徒に伝える。

以下に挙げる、ヨセフの生涯にまつわる出来事が記された聖句の参考箇所を黒板に書く。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 創世37:1-4 | 7. 創世40:1-19 |
| 2. 創世37:5-11 | 8. 創世40:20-23 |
| 3. 創世37:12-28 | 9. 創世41:9-45 |
| 4. 創世39:1-6 | 10. 創世41:46-49, 53-57 |
| 5. 創世39:7-20 | 11. 創世41:50-52 |
| 6. 創世39:21-23 | |

個々の生徒またはグループに参考聖句を少なくとも一つ割り当てる。割り当てられた聖句を読んだ後で、その経験は逆境なのか祝福なのか判断させ、答えを黒板に記した参考箇所の横に書き込ませる。

すべての聖句について逆境か祝福かの判断が出そろったら、各生徒または各グループの一人に参考聖句の番号の順に前に出て来させ、聖文中の物語を話してその経験がヨセフにとってなぜ逆境または祝福であったのか説明させる。発表の間ほかの生徒は、物語が進むにつれて逆境か祝福かの判断がどのように変化していくかよく考えるように勧める。例えば、ヨセフがポテパルの妻のために投獄されたことは逆境と判断されるかもしれないが、後でそのグループは、それが最終的にヨセフをパロに次ぐ地位に就かせることになったのでむしろ祝福であったと判断するかもしれない。この活動の最後に、ヨセフの全生涯という大きな観点からこれらの出来事を理解することによって、個々の出来事に対する見方がどのように変わったか尋ねる。

生徒用学習ガイドの創世38-39章の最初の部分にある、預言者ヨセフ・スマスの言葉の引用を読ませ、エジプトのヨセフについても同じことが言えることを指摘する。生徒とともに、エジプトのヨセフのような信仰がないためすぐに落胆してしまい、主が夢でお与えになった約束さえもあきらめてしまうかもしれないような場面を列挙する。次の質問をする。「もしヨセフが落胆や悪事に屈していたら、どのようなことが起きていたと思いますか。」教義と聖約122:5-9から、試練や迫害について主が預言者ヨセフ・スマスに語られた勧告を読んで話し合う。

「そんなの不公平だ！」または「人生なんて不公平だ！」とだれかが口にするのを何回ぐらい聞いたことがあるか尋ねる。その言葉に賛成かまたは反対か尋ね、また理由を尋ねる。次の質問をする。「ヨセフにとって人生は常に公平であったと思いますか。」

今年度の初めに行った御父の幸福の計画についての話し合いを思い出させる。次の質問をする。「その計画の中で試練や難難はどのような役割を果たしましたか。」（「偉大な幸福の計画」12-19参照。エテル12:6も参照）。黙示15:3と2ニーファイ26:7を読ませ、神の公正さについて教えられていることについて話し合う。

救い主のすべての業は、わたしたちの進歩と成長を助けるためのものであり、わたしたちが主を信頼し、受けている真理に忠実であるならば、わたしたちの益となる（2ニーファイ26:24；モーセ1:39参照）。これらの真理を踏まえて、次の質問に対する答えを書かせる。「なぜ神は、時々正しい人々に災いが起きるのをお許しになるのでしょうか。」数人の生徒に書いたものを発表するよう求める。

やがて「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために……働く」（教義と聖約98:3。教義と聖約90:24も参照）という信仰と勇気をもって試練に立ち向かうことの大切さについて教師の証を述べる。

 創世39:7-20（マスター聖句、創世39:9）。
神に従い、神をわたしたちの人生に最も大きな影響を及ぼす御方とするなら、わたしたちは誘惑に打ち勝つ力を授けられる。（35-40分）

黒板にゴードン・B・ヒンクリー大管長の以下の言葉を書くとよい。

「まるで世の中全体が性的な事柄に取りつかれているのではないかと思うことすらあります。いかにも巧妙に、いかにも魅力的に、皆さんに取りつこうと絶えずねらっています。皆さん、テレビ、雑誌、本、ビデオ、そして音楽でも、そうした誘惑にさらされています。そのようなものに背を向けてください。遠ざかってください。それが『言うはやすく行うは難し』であることは百も承知しています。しかし、それらを避ける度ごとに、次はもっと容易に避けることができるようになります。いつか、皆さんのが主の御前に立って『わたしは清く、汚れがありません』と言えるとしたら、それは何とすばらしいことでしょうか。」（『聖徒の道』1996年7月号、57-58参照）

これからユダとヨセフという二人の兄弟が、それぞれの誘惑にどのように対処したか見ていくことを伝える。全員で創世38:15-26と39:7-20を読む。生徒が二つの物語を比較できるよう、以下のような質問について話し合う。

- ヨセフが直面した性的誘惑は、ユダが直面したものとどう違っていましたか。
- ヨセフの反応は、純潔を守るというヨセフの決意の固さをどのように示していましたか。
- 両者の行動は、その直後にどのような結果をもたらしましたか。
- 両者の行動は、長期的に見てどのような影響をもたらしたでしょうか（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』86-88ページにある創世38-41章についての注解を参照）。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語っている。

「ヨセフはエジプトで何を頭としたでしょうか。神でしょうか、仕事でしょうか、それともポテパルの妻でしょうか。ポテパルの妻の誘惑に対してヨセフはこう言いました。『どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。』（創世39:9）

ヨセフは神を第一に考えたために投獄されました。同じような選択を迫られたら、わたしたちはまず何を選ぶでしょうか。安全や平安、情欲、富、人の誉れなどを押しのけて、神を頭に置くことができるでしょうか。

ヨセフはこの選択を迫られたとき、雇い主の妻ではなく神に喜んでいたことを考えました。わたしたちも選択しなければならないとき、上司や教師、隣人、恋人ではなく、神に喜んでいた方を選ぶでしょうか。」（『聖徒の道』1988年7月号、4-5）

創世39:9に印を付けるように勧め、ヨセフが誘惑に抵抗するとき聖約を守ることがどれほど助けとなったか、この聖句から分かることを説明する。純潔の律法に限らずほかの戒めに従ううえでも、聖約を守ることがどれほど役に立つか話し合う。

創世39:10を読ませ、主人の妻から「毎日」誘惑されたときに、ヨセフが何をしたかを調べさせる。11-12節を見て、彼女に執拗に言い寄られたときにヨセフが何をしたか答えさせる。かつて七十人の会員だったハートマン・レクター・ジュニア長老の以下の言葉を読む。

「ヨセフはこのような状況下でできる最善のことをしました。……今の言葉で言えば、走って逃げたのです。

逃げるという行為は、それほど体裁の良いことではないかもしれません。しかし、ときには逃げることしかできないことがあります。……

結婚前の若者が、危険な状態を避けるために誘惑に対するとりでを築くことは非常に大切です。わたしはその幾つかのとりでを提案したいと思います。

1. 異性と1対1になる家には行かない。
2. 異性と1対1になる部屋には入らない。
3. ネッキングやペッティングをしない。……
4. 二人だけで人目につかない場所に車を止めない。
5. いわゆるポルノ文学と呼ばれるものを読まない。
6. [不道徳な場面が出てくる映画]を見ない。……

ヨセフは確かに逃げました。そしてそのために社会から閉め出され、一時は牢屋に入れられました。しかしヨセフがもし逃げなかったとしたら、恐らく永久に神の御前から閉め出され、永遠の囚われ人になったことでしょう。また神と交わることもできない状態になって、偉大な預言者になることもなかったでしょう。」(『聖徒の道』1973年8月号、365-366参照)

創世38章と39章で、生徒は誘惑に追い回されたヨセフと、誘惑を追い求めたユダについて読んだ。生徒たちはどちらの状況にも当てはまるかもしれない。教義と聖約20:22を読み、誘惑に対処する方法について救い主がどのような模範を示されたか話し合う。救い主やヨセフの模範をどうすれば自分の生活に応用できるか意見を述べるよう求める。

全員で1コリント10:13-14を読み、正しい生活を送り、誘惑が来たときにそれから逃れるなら、抵抗できない誘惑など決してないことを証する。純潔の律法を破ることにつながるような誘惑から逃れるために、『若人の強さのために』で与えられている勧告について話し合ってもよい。

偉大な祝福は純潔の律法に従う人々にもたらされることを理解させる。創世39:21, 23を読ませ、貞潔を守ったことによりヨセフが受けた祝福を見る。教義と聖約131:1-4

を読ませ、日の栄えの王国において昇栄を得るための条件の一つは何かを尋ねる。地上でそれらの祝福を得るために必要な条件は純潔の律法を守ることであり、永遠にわたって祝福を受けるためには、純潔やそのほかの律法および戒めを守り続けなければならないことを心に留めさせる(教義と聖約14:7参照)。この教え方の提案の冒頭にあるキンボール大管長の言葉をもう一度生徒とともに読む。

創世40-41章。主はヨセフとともにおり、給仕役、料理役、およびパロの夢を解き明かすのを助けられた。(20-30分)

生徒をグループに分け、各グループに数枚の紙と筆記用具を与える。各グループに生徒用学習ガイドにある創世41章の活動Aをさせる。

各グループから一人選び、自分が描いたものとその意味を説明してもらう。創世41:29-36を読ませ、パロの二つの夢の解き明かしを見つけさせる。夢で啓示を受けることがあり得るか尋ねる(ヨエル2:28-29;マタイ1:20;2:12;1ニーファイ3:2;8:2参照)。教義と聖約46:27と50:9-10, 15-25, 28-30を読み、主から与えられた夢かどうかを見分ける方法を見つけさせる。

創世40:8と41:16, 39を読ませ、ヨセフに夢の正しい解き明かしができたのはなぜか調べさせる。モロナイ7:16-17を読み、どのようなものであれ主から与えられた啓示を理解するためには御靈を得ることが大切であることを証する。ヨセフは神の力によって夢を解き明かしたので、ヨセフの解き明かしは正しかったことを理解させる(創世40:20-23;41:44-57参照)。

創世41:38を読ませ、「神の靈をもつこのような人」という部分に印を付けさせる。次の質問をする。

- これはどのような点でヨセフのことをうまく言い表していると思いますか。
- あなたのことをどのように言う人がいたらどう感じますか。
- このような人になるために、何をする必要がありますか。

「神の靈をもつこのような人」と呼ばれるのにふさわしくなるため努力するよう励ます。

創世41:46-57。主の民は物質的にも靈的にも備えるよう絶えず勧告を受けている。(15-20分)

以下のいずれかの状況を提示する。

- 今日学校にいる間に、雪が1メートル積もることを知っていたら、どのような服装をしますか。
- 町の飲料水のあらゆる供給源が、明日から2日間にわたって汚染されてしまうことを知っていたら、今日何をしますか。

エジプトのヨセフは似たような状況に直面したことを話す。創世41:46-57を読ませ、ヨセフがこれから起ころうとしている飢饉に対してエジプトをどのように備えたか調べさせる。

物質的な必要に対する備えをすることが、自分と家族にとってどれほど大切なことか尋ねる。主は、救い主の再臨に先立ち、多くの難難が地上に起こり、そのような備えが必要となると予告しておられることを説明する（教義と聖約29：14-16参照）。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語っている。

「皆さんにお尋ねしたいと思います。状況が許す場合には燃料も含めて、家族のために1年分の食糧、衣類を貯蔵しているでしょうか。ノアの時代の人々にとっては、箱船に乗り込むことがきわめて重要な意味を持っていました。それと同じように、食糧を生産し貯蔵するようにとの啓示は、現代のわたしたちの物質的な福利に欠かすことのできないものなのです。」（『聖徒の道』1988年1月号、53）

教会はさらに次のように説明している。

「自立するためには衣食住を十分に確保する必要があります。そこでわたしたちは基本的な品目を蓄え、使用し、作り方や調理の仕方を知っておくように勧告されています。非常時にも自活するだけの備えがあれば、心配する必要はありません（教義と聖約38：30参照）。」（『福祉に関する指導者用ガイド—主の道にかないで助けをなす』7）

次の質問をする。「物質的な備えがこれほど重要であるなら、靈的な備えはどれほど大切でしょうか。」マタイ25：1-13を読ませ、このたとえが靈的な備えとどのように関連しているか尋ねる。教義と聖約45：56-57を読み、靈のランプに油を満たすために何ができるか話し合う。5人の思慮深いおとめたちが自分たちの油を分けなかつたのはなぜだと思うか尋ねる。当時十二使徒定員会会長であったスペンサー・W・キンボル会長は、なかには分け与えることができないものもあると話している。

「自分の一の原則に対する従順、正しい生活から来る心の平安、知識の蓄積をどのように分け与えることができるでしょうか。信仰や証をどのように分け与えることができるでしょうか。態度や純潔、または伝道の経験をどのように分け与えることができるでしょうか。神殿の特権をどのように分け与えることができるでしょうか。この種の油は、一人一人が自ら手に入れなければならぬものなのです。」（*Faith Precedes the Miracle* [1972年]、255-256）

備えることの大切さについて教師の証を述べる。教義と聖約38：30の備えることに関する主の勧告を紹介する。

はじめに

ヨセフは自分の兄弟たちに裏切られ、売られて奴隸となつた。ヨセフは家族との交わりを含めて多くのものを失つた。見知らぬ土地で一人ぼっちになったヨセフだが、彼は自分の人格を維持し高めるための特質を身に付けていった。

シドニー・B・スペリー博士は次のように書いている。「ヨセフの物語は、偉大な人物（民の中の王子）について記されていることと、この英雄の卓越した人格を際立たせる方法で語られていることから、それだけですばらしいものとなっている。わたしたちはこの物語から、ほかの何にも増してヤコブが愛した息子ヨセフの誠実、純潔、正直、そして人としての優れた価値を見て取ることができる。その輝きは今後いつまでも薄れることがないであろう。」（*The Spirit of the Old Testament*, 第2版 [1980年], 34）

創世42-50章を学ぶとき、ヨセフが伸ばしていった特質と、それらの特質がヨセフにどのような祝福をもたらしたかに注目する。その中で自分に役立つ特質はどれか判断し、生活に取り入れる。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主はわたしたちに、苦しめたり傷つけたりする人々を救すよう求めておられる（創世45：1-7, 15；50：15-21参照。マタイ6：14-15；教義と聖約64：9-11も参照）。
- 祝福師の祝福を通じて、主は約束されている祝福や機会を明らかにされる。また、勧告や警告を与え、賜物や才能をお知らせになる。祝福師の祝福は、わたしたちがイスラエルのどの「部族」を通じてアブラハムの祝福を受け継ぐか明らかにする（創世48：3-4, 15-22；49：1-28参照。2ニーファイ2：1-4；3：1-25；4：3-12も参照）。
- エフライムの指導の下、ヨセフの子孫はアブラハムの聖約の祝福を全世界にもたらす責任を負っている（ヨセフ・スミス証創世48：5-11；創世49：22-26参照。創世17：4-8も参照）。
- 父親は、慰めや導きを与える父の祝福を与えることによって、家庭で神権を行使することができる（創世48：8-49：28参照）。

教え方の提案

 創世37-50章。すべての預言者はイエス・キリストについて教え、証した（モルモン書ヤコブ7：11参照）。（40-45分）

注意：この教え方の提案は、創世記の学習の最後に利用するのが最も効果的だと思われる。その際、ヨセフはどのような意味で救い主の弟子であったと言えるか、またその模範から何を学ぶことができるかに焦点を当てながら、ヨセフの生涯を復習する。

3 ニーファイ27:27を読ませ、主は男性だけにこの勧告を与えられたと思うか尋ねる。自分のワード、支部、または学校で、男性であれ女性であれ、キリストのような人があるだろうか。次の質問をする。

- その人物のどのような行いが、救い主を思い起こさせるのですか。
- その人物の行いは、ほかの人々にどのような影響を与えていきますか。

預言者の生涯は、しばしばわたしたちに救い主を思い起こさせることを説明する。十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老の以下の言葉を紹介する。

「(イサク、ヨセフ、および旧約聖書のそのほかの多くの人々と同様に) モーセは自分自身、将来おいでになるキリストの預言的象徴でした。」(Christ and the New Covenant: The Messianic Message of the Book of Mormon [1997年], 137)

エジプトに売られたヨセフと救い主の間に見られる類似性は決して偶然ではない(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』89-90ページにある創世45:4-8についての注解を参照)。以下の表を参照聖句だけ記入して生徒に配布する。クラス全体、個人、またはグループで、参照聖句を読んで中央の欄に類似点を書かせる。

ヨセフに関する参考聖句	ヨセフとキリストの類似点	キリストに関する参考聖句
創世37:3	ともに長子の特権を持つ最愛の息子であった。	モルモン5:14; モーセ4:2
創世37:4	どちらも父親のほかの子供たちから憎まれた。	ルカ4:16, 28-29
創世37:2-11	どちらも若いころから自分自身の人生における使命を理解していた。	ルカ2:46-49
創世37:18	どちらに対しても共同して陰謀を企てる人々がいた。	マタイ26:3-4
創世37:23-24	どちらも自分を愛し守ってくれるはずの非常に身近な人々に裏切られた。	マタイ26: 46-47
創世37:23	どちらも衣服をはぎ取られた。	マタイ27:28

創世37:26	どちらもユダという名前の人物に裏切られた。	マタイ27:3
創世37:28	どちらもエジプトへ行った。	マタイ2:14
創世37:28	どちらも当時の奴隸の価格で売られた(ヨセフは銀20枚、キリストは30枚)。	マタイ27:3
創世37:29	どちらも捜された。ヨセフの最年長の兄はヨセフを捜しに空になった穴へ行った。キリストの先任使徒は彼を捜しに空になった墓へ行った。	ヨハネ20:3-6
創世39:10	どちらも大きな誘惑を克服した。	ヘブル4:15
創世39:12-18	どちらも虚偽の訴えを受けた。	マタイ26:59
創世40:8; 41:16	どちらも自身の善い行いによって栄光を神に帰した。	ヨハネ8:28-29
創世45:3-5	どちらも悔い改める者を喜んで赦した。	モーサヤ26:30
創世42:35; 45:7	どちらも自分の民にとっての救い手であり、救いの糧を提供した。	ヨハネ4:42; 2ニーファイ 9:50-51
創世42:8; 45:3-5	ともに自分を知っているはずの人々に気づかれなかつた。	ルカ5:17-21

ほかの人々がキリストのような特質を備えているのを知ることは、どのような助けとなるか尋ねる。少し時間を与え、自分がそのような特質を身に付けるにはどうすればよいか考えさせる。生活の中で自分が救い主のようになろうと努力している分野を一つ見つけさせる。

創世42-45章。わたしたちはヤコブの子ヨセフの生涯から多くの重要な事柄を学ぶことができる。(90-120分)

創世42-45章の主な箇所を生徒とともに読み、ヨセフの物語を読み進めるにつれ、そこで教えられている事柄につ

いて話し合うと効果的である。これを行うために、ヨセフ、その兄弟（必要であれば一人か二人の生徒に十一人の兄弟全員を担当させてもよい）、ヤコブ、およびパロが話す箇所を読む生徒を選ぶといい。また、一人の生徒に会話以外の部分を読ませることもできる。

あらましを終えた時点で、創世42：1-8を読み、なぜ兄弟たちはヨセフに気づかなかったと思うか尋ねる（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』88ページにある創世42：8についての注解を参照）。創世42：9-13, 17-24を読み、兄弟たちは自分たちが監禁所に入れられている理由として何を挙げたか尋ねる。

ヨセフの兄弟たちはヨセフを奴隸として売ってから20年たつても、依然として罪の意識を感じていた。次の質問をする。「このことから罪の影響力についてどんなことが分かりますか。」十二使徒定員会会員のM・ラッセル・バラード長老の以下の言葉を読んで話し合う。

「罪は必ず苦痛を招きます。例外はありません。遅かれ早かれ、確実に苦しみをなめることになるのです。」（『聖徒の道』1991年1月号、39）

創世42：21-38を読み、以下のことを質問する。

- ヨセフが泣いたのはなぜだと思いますか。
- ヨセフは穀物が入った袋に兄弟たちのお金を隠し、それを持たせて彼らを家へ返しました。そのことは兄弟たちにどのような影響を与えましたか（35節参照）。
- シメオンを監禁所から出すためにベニヤミンをエジプトに行かせることについて、ヤコブはどのように感じましたか（36-38節参照）。
- 兄弟たちは、ヤコブのベニヤミンに対する思いについてどう感じたと思いますか。
- もしあなたがシメオンだったら、兄弟たちが自分を救うために戻って来なかったらどう感じると思いますか。
- シメオンの経験は、ヨセフの経験とどのように似ていますか（21節参照）。

以下の質問をして物語の残りの部分について考える。

- ヤコブがベニヤミンをエジプトへ行かせたのはなぜですか（創世43：1, 9参照）。
- 弟ベニヤミンを見たとき、ヨセフはどのような反応を示しましたか（29-30節参照）。
- ヨセフが兄弟たちを年齢順に席に着かせたのはなぜだと思いますか（33節参照）。
- ヨセフはベニヤミンに特別な厚意を示しました。けれども後にベニヤミンが盜みを働いたかのように仕立てたのです。それはなぜでしょうか（創世43：34-44：12参照）。
- 兄弟たちがかつてヨセフに腹を立てたようにベニヤミン

に腹を立てていたとしたら、彼らはベニヤミンの袋から杯が見つかったときにどうしたと思いますか。

- ユダが創世44：16-34で行ったことを、創世37：26-28で行ったことと比較します。どのような違いに気づきましたか。ユダが異なる言動を取ったのはなぜだと思いますか。
- 創世45：1-8を読んでください。ヨセフはなぜこのとき自分自身を明らかにしたのでしょうか。
- 兄弟たちが「驚き恐れた」のはなぜだと思いますか（創世45：3）。

当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老は次のように記している。

「赦しと立ち直りは、罪を犯した人の悔い改めにかかっている。悔い改めは罪を認め、それに対する責任を負うことから始まるのである。」（『赦しの奇跡』、84-85）

次の質問をする。

- ヨセフの兄弟たちが自分たちの罪を認めたという証拠が何かありますか。
- 彼らがヨセフに対してしたこの責任を取ろうとしたことはどこから分かりますか。
- 創世45：5-8を読み、ヨセフが備えていたキリストのような属性を見つける（マタイ6：14-15；教義と聖約64：9-11も参照）。兄弟たちはヨセフの言葉を聞いてどのように感じたと思いますか。
- なぜヨセフはそれほど寛大になることができたのでしょうか。（ヨセフはエジプトで神の目的を果たしていたから。）

創世48：1-22。エフライムとマナセがヨセフに代わる部族となった理由と経緯を理解することは大切である。（15-20分）

イスラエルの家が幾つの部族で構成されているか尋ねる。（12。）生徒を二つのグループに分ける。一方のグループに創世49：1-27を、もう一方のグループに民数10：14-27を調べるように割り当てる。各グループに部族の名前を黒板に列挙させる。両方のリストを比較して違いを確認する。民数10章でレビの部族は「アロンの子」（8節）や「ゲルションの子たち、およびメラリの子たち」（17節）として表現されていることを説明する。

ヨセフの部族にどのようなことが起きたか尋ねる。創世48：1-6を読み、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にある創世48：22についての注解（91ページ）を紹介する。ヨセフは生得権を持つ子として2倍のものを受け、それが二人の息子の間で分けられた（創世48：22参照）。



ジョセフ・スミス訳聖書では、ヤコブがヨセフに対して抱いていた幾つかの重要な見識が回復されている（『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳創世48：5-11参照。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』90-91ページにある創世48：5-11についての注解も参照）。以下の点を強調するとよい。

- ・主が交わされた聖約のために、ヤコブはヨセフがイスラエルの家を滅亡から救うために特別に立てられたことを宣言した（『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳創世48：7-9参照）。
- ・ヨセフの忠実さのゆえに、ヨセフの部族はほかのどの部族よりも祝福される。その祝福は父が受けた祝福よりも大きいものである（『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳創世48：9-11参照。創世37：9-11にあるヨセフの夢と比較する）。
- ・将来、ヨセフの部族は（息子であるエフライムとマナセの部族を通じて）再びイスラエルの家に、飢餓ではなく罪の束縛からの救いをもたらす（『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳創世48：11参照。『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳創世50：24-38および2ニーファイ3：1-22も参照。ここではエジプトのヨセフが、子孫の一人である預言者ジョセフ・スミスを通じてもたらされる末日の救いの業について預言している）。

創世49章。祝福師の祝福には、愛にあふれた天の御父が子供たちを助けるために祝福師を通じて与えてくださる個人的な啓示が含まれている。（50-60分）

注意：祝福師の祝福をクラスで読むことは適切ではない。祝福師をクラスに招待して、祝福師の祝福について生徒が抱いている質問に答えるのを助けてもらってもよい。

黒板にリアホナの絵を描き、次の質問をする。

- ・リアホナとはどのようなものでしたか。
- ・何に使われましたか。
- ・そのような指示器はどのような役に立ちますか。



1ニーファイ16：10, 27-29とアルマ37：38-40を読み、リアホナがリーハイの家族をどのように導いたか調べる。次の質問をする。「生涯を通じてあなたを安全に導いてくれるあなた自身のリアホナがあつたらどうでしょうか。」トマス・S・モンソン管長が大管長会第二顧問であったころに語った以下の言葉を紹介する。

「リーハイに羅針盤をお与えになった主は、こんにち今日も、わたしたちに人生の指針を与えてくれる一つの珍しく価値あるたまもの賜物を用意してくださっています。それはわたしたちの安全のために危険を示し、道すなわち安全な道を目に見えるように示して、わたしたちを約束の地ならぬ天の家へと導いてくれるものです。わたしの言うこの賜物とは、皆さんが受ける祝福師の祝福です。ふさわしい教員ならだれでも、この貴重でかけがえのない自分だけの宝を手に入れることができます。」（『聖徒の道』1987年1月号、68参照）

祝福師の祝福はどのような点で個人に授けられたリアホナにたとえられるのか尋ねる。

創世49章を読み、ヤコブが自分の息子たちに与えた祝福を研究する。難しい部分の学習には、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にある創世49：1-20；49：8-12；および49：22-26についての注解（91-92ページ）を活用する。祝福師の祝福とヤコブの祝福の類似点と相違点について尋ねる。

以下のような質問に対する答えを準備しておく。

- 何歳になったら祝福師の祝福を受けることができますか。
 - 祝福師の祝福はどのような導きと祝福を与えてくれるのですか。
 - 祝福師の祝福を受けるためにどのような準備をすればいいのですか。
 - どうすれば祝福師の祝福を受けることができますか。(ビショップまたは支部会長に推薦状を書いてもらい、祝福師と会う約束を作る。)
 - 祝福師の祝福には、人生の重要な出来事がすべて網羅されているのですか。
 - 血統の宣言はなぜ大切なのですか。
- 答える際に以下の引用を利用する。
- ゴードン・B・ヒンクリー大管長は神権指導者に対して次のように語っている。

「わたしは皆さんに、祝福師の祝福の大切さを理解するのに十分な成熟度を備えた人々に、それを受けよう適切に勧めていることを願っています。わたしは自分の祝福師の祝福を、自分の人生にとって非常に神聖なもの一つと見なしています。祝福師の祝福はふさわしい生活をしているこの教会のすべての会員に与えられる、かけがえのない、神聖で、個人的な、すばらしい贈り物です。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 423)

- 大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長は次のように語っている。

「祝福師の祝福は、へりくだり、祈りをもって、何度も繰り返し読む必要があります。祝福師の祝福は非常に神聖で個人的なものですが、家族には見せてもかまいません。祝福師の祝福は、主から授けられる勧告と約束、そして知識を含む神聖な指針です。しかし、祝福文の中に将来の出来事がすべて網羅されているとか、あらゆる疑問への答えがすべて記されていると考えるべきではありません。祝福文の中に伝道や結婚などの重要な出来事が述べられていなかったとしても、それが実現しないわけではないのです。祝福師の祝福を成就させるには、祝福の言葉を大切な宝として心に蓄え、そのことについて深く考え、示されるとおりの生活をすることです。そうすれば、わたしたちはこの世で祝福を受けられるばかりでなく、後の世において義の冠を受けられるでしょう。……

祝福師の祝福は、失意に打ちひしがれるときに励ましを、恐れを抱くときに強さを、悲しみに沈むときに慰めを、そして不安にさいなまれるときに勇気を与えてくれ、靈性が弱まるときにはわたしたちを鼓舞してくれます。そして、祝福文を読む度ごとに、わたしたちの証は強められるのです。」(『聖徒の道』1996年1月号, 68, 69参照)

- 同じ説教の中で、ファウスト管長は次のように述べている。

「ヨセフのもう一人の息子であるマナセや、ヤコブのほかの息子たちの子孫も教員の中に大勢います。現在は、ヤコブの血統でない人も教員の中にいるかもしれません。しかし、イスラエルの血統でないからといって祝福が拒まることは決してありません。主はアブラハムに言わされました。『わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであろう。』(アブラハム 2:10)

ニーファイはこう述べています。『異邦人であっても悔い改める者は皆、主の聖約の民となる。』(2ニーファイ30:2) ですから、イスラエルの家の祝福が血統によるか養子縁組によるかは問題ではないのです。

中には、同じ家族の中で異なった血統が宣言されたために心を悩ませる人がいるかもしれません。家族の中には異なった血統が混在している場合もあるのです。わたしたちは、人類全体のかなりの部分がイスラエルの流れを引いていると考えています。したがって、部族間での婚姻の結果、同じ家族の子供の中でも血統が異なり、ある子供はエフライム、別の子供はマナセやほかの部族の血統と宣言される場合があるのです。ある子供は一方の部族の祝福を多く受け継ぎ、別の子供は他方の部族の祝福を多く受け継ぐことがあるからです。このようにして、同じ両親から生まれた子供でありながら、異なる部族の祝福を受ける場合があるのです。」(『聖徒の道』1996年1月号, 69参照)

生徒に祝福師の祝福を受けるための備えをするよう奨励し、祝福師の祝福が生涯を通じて偉大な祝福となり得ることについて、教師の証を述べる。

創世49:28。わたしたちは必要に応じて癒し、慰め、導きを受けるために、父親の祝福を求めるべきである。(15-20分)

注意：この教え方の提案は創世49章のための教え方の提案の続きである。この教え方の提案だけ独立して教えることもできるが、その場合はこの教え方の提案の内容を教える前に、ヤコブが息子たちに与えた祝福を生徒が理解できるよう『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にある創世49:1-20; 49:8-12、および49:22-26についての注解(91-92ページ)を利用する必要があるだろう。父親が教員でない生徒や、父親が神権を持っていない生徒たちに対する配慮が必要である。

祝福師の祝福に加えて、わたしたちが受けられる別の祝福があることを話す。メルキゼデク神権を持つ父親は、その神権を使って家族に父親の祝福を与えることができる。父親の祝福を受けたことがある生徒がいるか尋ねる。次の質問をする。「父親の祝福を受けるのにふさわしい人生の節日にはどのようなものがありますか。」十二使徒定員会会員のダリン・H・オーケス長老の以下の言葉を紹介する。

「大切な決定を下すために導きを求めている人は、神権の祝福を受けることができます。個人的な問題を解決するために靈的な力を特別に必要としている人も、祝福を受けることができます。妊婦も出産の前に祝福を受け

られます。ふさわしい父親が、結婚を前にした息子や娘に神権の祝福を授けた貴い思い出を、多くの末日聖徒の家族は記憶にとどめています。また、子供たちが何らかの理由で家庭を離れるとき、例えば学業や兵役、長期の旅行など、そのほとんどの場合にも父親の神権の祝福が求められます。

新しく召された宣教師も、家をたつ前に、父親の祝福をしばしば望みます。……

神権の祝福にはどのような意義があるのでしょうか。……神権の祝福とは、靈的な事柄に対する力を授けることなのです。それは手で触れたり、重さを計ったりすることはできませんが、わたしたちが永遠の生命へつながる道に立ちふさがる障害を克服しようとするとき、大きな意味を持つものなのです。……

年齢にかかわりなく、靈的な力が必要なときには、神権の祝福を受けることをためらわぬでください。父親やそのほかの長老の皆さん、自分の子供たちや御父のほかの子供たちを祝福する特権を大切にし、大いに活用してください。信仰を込めた熱心な求めに応じて、いつでも聖靈の導きのままに神権の祝福を受けられるように備えてください。」（『聖徒の道』1987年7月号、39、40、42参照）

次の質問をする。

- だれに祝福を依頼することができると思いますか。（できればまず父親に頼むべきであり、それから親戚、ホームティーチャー、ビショップリック、教師、など。）
- まだ父親の祝福を受けたことがない人は、父親に頼んでみてはどうですか。

当時十二使徒定員会会長であったエズラ・タフト・ベンソン会長の以下の物語を紹介する。

「以前、一人の青年が祝福を求めてわたしの事務所にやって来た。彼は18歳で、幾つかの問題をかかえていた。……この青年は……祝福を求めて来たのである。

そこでわたしはこう尋ねた。『お父さんに祝福を頼みましたか。お父さんも教員でしょう。』

『ええ、長老です。でもあまり教会に行っていません。』

わたしはこう言った。『機会を見つけて、祝福をお願いしてみてはどうですか。』

『ええっ、そんなことしたら父は仰天してしまいますよ。』

『でもやってみませんか。わたしもあなたのためにお祈りします。』

『はい、分かりました。やってみます。』

それから数日後、この青年は再びわたしのもとへやって来てこう言った。『ベンソン兄弟、実はわたしたちの家族にすばらしいことが起こったんです。……父は、ほくに本当にすばらしい祝福を授けてくれました。……そして祝福が終わったとき、ほくたちの家族は今までにない感謝と喜びと愛のきずなでしっかりと結ばれました。』（『聖徒の道』1978年2月号、46-47参照）

病気のときだけでなく、慰めや導きが必要なときにはいつも父親に祝福を頼むよう生徒に勧める。若い男性に、

父親となったときに自分の家族に祝福を与えることができるよう、今すぐ準備を始め、神権の真の力を得られるふさわしさを身に付けるよう勧める。

創世50章。肉体の死は幸福の計画の一部である。（15-20分）

次の質問をする。

- これまでに引っ越ししたことがありますか。
- もしあれば、どこがいちばん好きでしたか。「故郷」と呼べる場所がありますか。それはなぜですか。
- 創世46:1-4と47:29-31を読んでください。ヤコブにとってカナンに埋葬されることはなぜそれほど大切なことだったのでしょうか。
- ヤコブの望みから、神の約束に対するヤコブの信仰について何が分かりますか。
- 創世49:29-50:9を読む。ヤコブの死は、ヨセフ、ヨセフの家族、およびエジプトの民にどのような影響を及ぼしましたか。
- 人々はヤコブの死をとても悲しましたが、喜びはどこにあったでしょうか。
- ヤコブの葬儀で話を頼まれたとしたら、あなたはヤコブについてどのようなことを話しますか。

ヤコブは自分を約束の地カナンに埋葬するよう頼んだ。靈的な意味で、わたしたちにも約束の地がある。ヤコブのように、わたしたちも自分の受け継ぎの地、すなわち日の榮えの王国へ戻ることを望むべきである。1ニーファイ17:13-14を読み、天の御父のもとへ戻ったときに義人が得る喜びと知識について話し合う。御父の御前を離れて地上にやって来たことや、忠実さを通して御父のもとへ戻るにはどうしたらよいか教えている幸福の計画の一部分を復習してもよい（「偉大な幸福の計画」12-19ページ参照）。

死によって家族のきずなをより緊密にすることもできれば弱めることもできることを生徒に思い起こさせる。創世50:15-21を読み、次の質問をする。

- ヤコブの死後、ヨセフの兄弟たちはなぜ恐れましたか。
- ヨセフは兄弟たちの恐れを鎮めるためにどのようなことをしましたか。
- 聖文のどのような言葉に、家族に対するヨセフの気持ちが表れていますか。

創世50:24-26；『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳

創世50:24-38。ヨセフの預言の失われた、あるいは取り去られた部分は、欽定訳聖書のジョセフ・スミスによる翻訳を通じて回復された。わたしたちは主が古代のヨセフにモーセの使命、福音の回復、ジョセフ・スミスの預言者としての召し、およびモルモン書の出現についての真理を明らかにされたことを学ぶことができる。（25-35分）

二人一組またはグループで生徒用学習ガイドにある創世50章のための活動B、C、およびDを行わせ、生徒がヨセフの預言を見つけられるよう助ける。終わったら、クラスで答えを発表させ、質問や話し合いを促す。

出エジプト記

出エジプト記はモーセの五書の第二番目の書である。ギリシャ語で *exodus* とは「脱出」または「出発」を意味し(『聖句ガイド』「出エジプト記」128ページ参照), 主がイスラエルをエジプト人による束縛から救い出されたことにちなんでいる。

出エジプトが始まるころ, エジプトは新しい王朝によって統治されていた。これらの指導者は「ヨセフのことを知ら【ず】」(出エジプト1:8), イスラエル人を奴隸とした(出エジプト1:8-11参照)。出エジプト記には, 預言者モーセの靈感による指導を通じて, 主が奇跡的な方法で御自分の民を束縛から救い出された話が記されている(出エジプト12:51; 申命26:8参照)。またイスラエルが荒れ野をさまよい, モーセの律法を受け, 幕屋を建てたことが述べられている。

出エジプト1-4章

はじめに

出エジプト記の最初の4章は, 預言者モーセについて紹介している。また, モーセの出生とバロの家族の一員となった経緯や, 預言者としての召しなどについて詳細に説明されている。これらの章は, 主が預言者を召して備えられること, 主が預言者に御自身を現されること, 預言者がその責任を全うできるよう主は必要な賜物をお授けになることなどを認識させてくれる。

学び取るべき重要な福音の原則

- サタンは神の業を止めることはできない。神は御自分の民を苦難にあって見守り強め, 祈りを聞き, すべての約束を成就される(出エジプト1:7-22; 2:1-10, 23-25; 3:7-10参照。創世50:24; 出エジプト12:51; ニーファイ22:22-25; 教義と聖約3:1-3も参照)。
- わたしたちは人よりも神を畏れる(あがめ, 従い, または敬う)べきである(出エジプト1:15-22参照。教義と聖約3:7-8も参照)。
- 御父の幸福の計画を成就させるうえで女性はきわめて重要な役割を担っている(出エジプト1-2章参照)。
- 主は御自身の言葉を語り御自身の業を行わせるために僕を備えて召される(出エジプト2-4章参照。ヨハネ15:16; 教義と聖約1:38も参照)。

- 主の預言者は, 地上で特定の使命を果たすよう予任されていた(出エジプト3:7-10参照。エレミヤ1:5; 2:ニーファイ3:9-10, 17も参照)。
- 主が住まわれる場所は神聖であり, 敬い尊ばれなければならない(出エジプト3:5参照。教義と聖約110:7-8も参照)。

教え方の提案

 **出エジプト1-4章。**出エジプトは, 現世を通して神の御前に戻る人類の旅路の象徴として見ることができる。(20-30分)

注意: この教え方の提案は, 出エジプト記の全体像をつかむために一度に用いることもできるし, 出エジプト1-4章やほかの部分を教える際に必要に応じて部分的に利用することもできる。出エジプト4:21など可能な部分については, ジョセフ・スマス訳を利用するとさらに理解を深めることができると生徒に伝える。

黒板に「出エジプト記」と書き, 出エジプト記は何について記されていると思うか尋ねる。『聖句ガイド』から, 「出エジプト記」についての説明を見つけさせる。出エジプト記にはイスラエルの民がエジプトを「脱出」した物語, また約束の地に向けて荒れ野を旅した物語が記されていることを話す。

黒板に「人生は旅である」と書き, 生徒とともに天の御父の救いの計画を旅になぞらえながら学ぶ(18ページにある「救いの計画の全体像: 提案2」の図を参照)。紙を用意して, 生徒に自分自身の人生の旅路を簡単に描かせてもよい。

エジプトを脱出して約束の地へと向かったイスラエルの子らの旅路は, 天の御父のもとへ戻る人類の旅の予型または象徴として見ることができると説明する。以下の見出しがつけられている聖句を読み, イスラエルの旅における4つの主要な段階を調べる。

- 束縛(出エジプト1:13-14参照)
- 救い(出エジプト3:7-8参照)
- 荒れ野をさまよう(出エジプト17:1; 19:1-2参照)
- 約束の地に入る(出エジプト33:1-3参照)

以下のような表を作成し, 参照聖句だけを記入しておく。参照聖句をクラス全体で読んで話し合うか, 各生徒やグループに4つの段階の一つを割り当てて, そこから学んだことを報告させる。話し合った事柄を表に記入する。

約束の地への イスラエルの物理的な旅		日の栄えの王国への イスラエルの靈的な旅	約束の地に入る
	束縛		
出エジプト 1:13-14 (イスラエルはエジプト人に束縛されていた。)	2 ニーファイ 1:13; モーサヤ 3:19 (生まれながらの人は罪に束縛されている。)	民数 14:29-33; ヨシュア 1:1-9 (イスラエルが十分に忠実になった後、ヨシュアは彼らを約束の地へと導いた。)	黙示 3:5, 12, 20-21; 教義と聖約 76:50-70; 88:17-20 (この世に打ち勝つ者は日の栄えの王国で受け継ぎを得ると約束されている。)
出エジプト 5:1-2 (イスラエルはパロの支配下にあった。)	アルマ 12:11 (罪によってわたしたちはサタンの支配下に置かれる。)	民数 14:22-30 (イスラエルの民の多くは不従順のために約束の地に入る特権を失った。)	教義と聖約 88:21-24 (多くの人は福音を受け入れないため聖められることができず、日の栄えの王国に入ることができない。)
出エジプト 3:10 (イスラエルを救い出すためにモーセが送られた。)	2 ニーファイ 6:17; アルマ 11:40 (イスラエルの聖約の民を救い出すためにイエス・キリストが送られた。)		
出エジプト 4:14-16 (アロンはモーセの代弁者であった。)	教義と聖約 1:38 (預言者はキリストの言葉を語る。)		
	救い		
出エジプト 7:3-5 (10の災いは、主の力がこの世のあらゆるものに及ぶことを実証した。)	1 ニーファイ 7:12-13; 2 ニーファイ 31:19 (主は御自分の子供たちを救う力を持っておられる。)	• 束縛——わたしたちは人生においてどのような束縛を受けていますか (2 ニーファイ 1:13 参照)。わたしたちは罪によってどのように奴隸になると思いますか (アルマ 34:35 参照)。	
出エジプト 12:1-27 (イスラエルは子羊の血によって滅亡を免れた。)	1 ペテロ 1:18-19; 2 ニーファイ 9:7-9 (わたしたちは神の子羊の血によって永遠の滅亡を免れる。)	• 救い——主は束縛を受けていたイスラエルの子らのことをどの程度御存じだったと思いますか (出エジプト 3:7-10 参照)。罪に束縛されている子供たちに対して、主はどのような気持ちを抱いておられたでしょうか。聖文には何と書かれていますか (エゼキエル 18:23; 3 ニーファイ 9:1-2, 5 参照)。主はどのようにしてわたしたちを罪から解放してくださるのですか (アルマ 7:13-14 参照)。イスラエルの子らはエジプトを去ったときに紅海を通ったが、これはバプテスマの象徴であることを指摘する (1 コリスト 10:1-2 参照)。	
出エジプト 14:16 (イスラエルの民は束縛から解放される過程で紅海の水をくぐった。)	1 コリスト 10:1-2; モロナイ 6:1-4 (わたしたちは罪の束縛から解放されるためにバプテスマの水をくぐらなければならない。)	• 荒れ野をさまよう——イスラエルの子らが荒れ野をさまよった際に、何によって導かれましたか (出エジプト 13:21-22 参照)。今日わたしたちを導くもので、同じように「火」と表現されているものは何ですか (2 ニーファイ 31:13; 2 ニーファイ 32:5 参照)。荒れ野において、主はイスラエルの子らに食物と水をお与えになって旅の間養われました (出エジプト 16-17 章 参照)。主はどのようにして御自分の民を靈的に養われると思いますか (1 コリスト 10:1-4; 2 ニーファイ 32:3; 教義と聖約 20:77-79 参照)。	
出エジプト 13:21 (イスラエルは、昼は雲、夜は火の柱の中におられた主によって守られ導かれた。)	ヨハネ 16:13 (聖靈の賜物は日々わたしたちを守り導いてくれる。)	• 約束の地に入る——わたしたちが目指す約束の地とはどこですか (ヘブル 11:14-16 参照)。主はイスラエルの子らが約束の地に入る前に、どのようなことを求められましたか (十戒など、戒めや聖約への従順)。	
	荒れ野をさまよう		
出エジプト 16:14-15; 17:6 (主はイスラエルの子らの命を保つためにマナと水をお与えになった。)	ヨハネ 6:31-35; 7:37-39 (イエス・キリストは「命のパン」であり「生ける水」である。主の贖罪はまさしくわたしたちの命を維持する。)	出エジプト 1-2 章。正義を選んで行うことは、しばしば難しいことがある。(30-35 節)	
出エジプト 17:8-13 (イスラエルは預言者を支持したときに敵を打ち破った。)	教義と聖約 1:14 (わたしたちは預言者および使徒を支持しなければならない。そうでなければ「絶たれる [。]」)	各生徒に 1 枚の紙の半分を配付する。全員に出エジプト 1 章を開かせ、聖典のそのページを紙で覆わせる。指示があったときだけ該当する節から紙をどけるように言う。以下に挙げられている聖句の最初の部分を、答えが書かれている節を覆ったまま読ませる。以下の質問をし、答えを考えさせる。それから紙をどけて答えを確認させ、必要に	
出エジプト 20:1-23 (イスラエルに主の御前にに入る備えをさせるため、主はモーセを通して戒めをお与えになった。)	教義と聖約 76:50-62; 93:1 (わたしたちに主の御前に住む備えをさせるため、主は現代の預言者を通して戒めをお与えになる。)		
出エジプト 25:2-9; 教義と聖約 84:23-24 (イスラエルはシナイ山に行くように命じられた。また後には神聖な儀式のために主の家として神殿を建てるよう命じられている。)	教義と聖約 124:27-28, 40-42 (わたしたちは神聖な儀式のために主の家として神殿を建てるよう命じられている。)		

- 応じて話し合う。残りの聖句についてもこの手順を繰り返す。
- 出エジプト1:6-10を読んでください。エジプト人はイスラエル人に何をしましたか。(答え—出エジプト1:11。)
 - 出エジプト1:12-13, 15-16を読んでください。助産婦たちは何をしましたか。(答え—出エジプト1:17。)
 - 出エジプト1:18を読んでください。助産婦たちは王に何と答えましたか。(答え—出エジプト1:19-21。)
 - 出エジプト1:22-2:2を読んでください。女は3か月後に男の子をどうしましたか。(答え—出エジプト2:3-4。)
 - 出エジプト2:5-6を読んでください。パロの娘は幼な子をどうしましたか。(答え—出エジプト2:7-10。)
 - 出エジプト2:11を読んでください。モーセはエジプト人がヘブル人を打つのを見た後で何をしましたか。(答え—出エジプト2:12。)
 - 出エジプト2:13-14を読んでください。モーセはどうしましたか(答え—出エジプト2:15。)
 - 出エジプト2:16-20を読んでください。リウエルはモーセのために何をしましたか。(答え—出エジプト2:21-22。)
 - 出エジプト2:23-25を読んでください。神はイスラエルの子らのために何をなさいましたか。(答え—出エジプト3-14章。)

黒板に以下の事柄を書く。

- 助産婦—出産を助ける女性(出エジプト1:15-21参照)
- モーセの母(出エジプト1:22-2:4参照)
- モーセ(出エジプト2:10-12, 15; 使徒7:22-25参照)

クラスを3つのグループに分ける。各グループに上記の聖句の一つを割り当てて読ませ、以下の質問に対する答えを見つけさせる。

- これらの人々が行った勇気ある行いとはどのようなものでしたか。
- なぜそのようなことをしたと思いますか。
- どのような点でそれは信仰の行いだと言えるのですか。
- その行いの後、主は彼らをどのように祝福されましたか。

各グループにクラスで答えを発表させる。(モーセがエジプト人を殺したことに関して生徒が疑問を抱いた場合は、『旧約聖書：創世記-サムエル記下』99ページにある出エジプト2:11-15のための注解を参照する。)

生徒に数分の時間を与え、このレッスンで話し合った人物のうち、どの人物から何を学んだか書かせる。時間があれば、数人の生徒に書いたものを発表させる。

出エジプト1-2章。御父の幸福の計画を成就させるうえで、女性はきわめて重要な役割を担っている。(10-15分)

出エジプト1-2章を読ませ、女性が登場する部分を探させる。黒板にそれらの人物を書き出す。(助産婦たち、モーセの母、モーセの姉、パロの娘、チッポラおよびリウエル[エテロ]のほかの6人の娘。)次の質問をする。

- これらの女性は、モーセの生涯にどのような影響を与えたか。

ましたか。

- これらの女性に共通していることは何ですか。(彼女たちは皆モーセを助けた。モーセの命を救った人さえいる。)
- 生徒の人生において女性が果たす重要な役割について話し合う。以下の概念や質問を利用するとよい。
- 自分の人生で女性から受けた重要な影響について話す。女性の偉大な影響力を認識していることを示すために何ができるか尋ねる。
 - 人生にとても大きな影響を及ぼした女性のおかげで達成できたものがありますか。それはどのようなものですか。
 - 彼女たちはどのような動機から、あなたの人生に祝福をもたらしたのでしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長の以下の言葉を紹介する。

「次のような言葉があります。『一人の男性を教育するなら、教育を受けるのはただ一人である。しかし一人の女性を教育するなら、それは家族全体を教育することになる。』(チャールズ・D・マッカイバー博士) わたしたちは女性に十分な教育を受けてほしいと望んでいます。子供たちは、母親が知らないことを埋め合わせることができないかもしれないからです。」(Men of Example [宗教教育者への説教, 1975年9月12日], 9-10)

この言葉の意味について尋ねる。御父の幸福の計画の中で、女性が常に担ってきた重要な役割について教師の証を述べる。女性はきわめて重要な貢献をしながらも評価を受けることは少ない。自分の人生に祝福をもたらしてきた女性に対して感謝を示す時間を取りよう生徒に勧める。

出エジプト3:1-10。敬虔さは啓示をもたらす。(15-20分)

物音一つ立てないようにして、普段気がつかない音に耳を傾けるように言う。1分後、どのような音が聞こえたか尋ねる。それらの音はいつも聞こえているはずだが、音として認識するためには特別な注意が必要なことを指摘する。周囲の音に注意深く耳を傾ける体験を、御靈のささやきに耳を傾けることの大切さになぞらえる。日常生活の中のある種の音を聞くために静けさが必要なのと同じように、聖靈のささやきを感じるには敬虔さが必要である。

教会の集会にとって敬虔さがいかに大切であるか、ボイド・K・パッカー長老は次のように語っている。

「敬虔さは啓示をもたらします。」

「敬虔さとは、音をまったく立てないという意味ではありません。」(『聖徒の道』1992年1月号, 24)

黒板に「敬虔」と書き、啓示の靈をもたらす敬虔さの要素を列挙させる(清い思い、謙遜さ、注意をそらすものを避ける、神聖な音楽、聖文を深く考えるなど)。敬虔さは天の御父から靈感を受けるうえでどのように役立つか尋ねる。

モーセは山に登ったとき、主に対して大きいなる敬虔さを示した。出エジプト3:1と19:18を読ませ、この主の山の二つの名前を調べさせる。『聖句ガイド』の「地図と地名索引」を開かせ、シナイ山（「シナイ山〔ホレブ山〕」で収録）の位置を確認する。

出エジプト3:2-6を読む。預言者ジョセフ・スミスは2節の「使」という言葉を変更し、「ときに主の臨在が……彼にあった」と訂正していることを説明する。モーセが燃えるしばに近づいたときに何をするよう命じられたか質問することによって、主に対する敬虔さを持つ必要性を理解させる。これまでの人生で自分が神聖な場所に立っているように感じたときのことを考えさせる。それはどこにいたときで、どのように感じたか、数名の生徒に発表させる。

パッカー長老の以下の勧告を紹介することで、主に対する敬虔さをもってセミナリーに参加するよう教える。

「福音の教義を学ぶために集まるときは、敬虔な気持ちを忘れないようにしてください。」（『聖徒の道』1992年1月号、23）

天の御父を最も近く感じることができたクラス活動を思い起こすように言う。敬虔さを通じてクラスに御靈を招くために生徒たちがこれまでに払ってきた努力を褒める。福音を学ぶときには、常に最も敬虔な気持ちをもたらしてくれる事柄を行う必要があることを証する。

出エジプト3:7-10。義人の生涯は、しばしばわたしたちに救い主の生涯を思い起こさせる。（10-15分）

モーセが預言者に召されたとき、主は次のように言われた。「あなたはわたしの独り子にかたどられている。わたしの独り子は、現在も将来も救い主である。彼は恵みと真理に満ちているからである。」（モーセ1:6）申命18:15を読み、モーセが預言した預言者はイエス・キリストであることを説明する。モーセの生涯とイエス・キリストの生涯の類似点は興味深く、そこから多くを学ぶことができる。この教え方の提案の最後にある表を配布用に準備してもよい。「類似点」の欄を空欄にしておき、参照聖句を調べながら生徒に記入させる。

この教え方の提案は幾つかの異なる方法で利用することができる。

- ここでモーセの生涯を概観するために利用する。
- 出エジプト17章でモーセが行った奇跡について概観するために利用する。
- クラスを小さなグループに分け、表の一部を割り当てる。モーセと救い主についての参照聖句を読ませ、見つけた類似点について発表させる。
- 大きな表をクラスに掲示する。最初の2, 3組の参照聖句を読み、生徒が類似点を発見できるよう助ける。自分で学習を進めながらそのほかの類似点を見つけるよ

う励ます。出エジプト記から申命記までを学習する間に、それらを見つけた時点で表に書き足し、聖句および類似点についてほかの生徒と分かち合うよう勧める。

預言者の生涯と教えを含めて、すべてのことがイエス・キリストを証していることを理解することは大切である（モルモン書ヤコブ7:10-11；モーセ6:63参照）。

モーセ	類似点	イエス・キリスト
出エジプト 1:15-16, 22; 2:1-3	どちらも幼な子を殺せとの命令から逃れた。	マタイ2:13-16
出エジプト 3:7-10	どちらもイスラエルを救い出すように召された。	2ニーファイ 6:17
モーセ 1:1, 8, 11	どちらも御靈によって高い山へ連れて行かれ、そこで世の王国を見せられた。	『聖句ガイド』ジ ヨセフ・スミス訳 マタイ4:8
モーセ1:12-22	どちらもサタンとの対決に勝利した。	マタイ4:3-11
出エジプト4:19	どちらも自分の命をねらう王が死ぬまで国外に逃れていた。	マタイ2:19-20
出エジプト 14:21	どちらも風と海を従わせた。	マルコ4:37-39
出エジプト 16:15-18	どちらも奇跡によってパンを用意した。	ヨハネ6:35
出エジプト 17:5-6	どちらも命を救う水を用意した。	ヨハネ4:10-14
『聖句ガイド』ジ ヨセフ・スミス訳 ヨハネ1:17	どちらも偉大な立法者であった。	3ニーファイ15: 5-10
申命9:16-20, 23-26	どちらも神と民との間の仲保者であった。	1テモテ2:5

出エジプト3-4章。主は、主に仕えるようにという召しを受け入れる人々を助けてくださる。また、わたしたちが望むならば、疑いや不安を解決できるよう助けてくださる。（30-40分）

生徒がほとんど知らない場所に行くよう記した伝道の召しの手紙を作成する。手紙には、召しを受ける人物は同僚なしで働くことになると書く。全員に手紙を読んで聞かせ、質問する。

- 一度も聞いたことがない場所や、どんなところか見当もつかない場所への伝道の召しを受けたら、どのように感じますか。
- 何がこの召しを受け入れるための勇気を増してくれると思いますか。

生徒とともに、出エジプト3章にあるモーセの召しを簡

単に読む。出エジプト3:11-15と4:1-17を読ませ、生徒用学習ガイドにある出エジプト4章のための活動Aをさせる。生徒が活動を終えたら、主がどのようにしてモーセの懸念を取り去られたか、また主の解決法はわたしたちが難しい召しを受け入れるときにどのように役立つか考える。クラスで話し合いをするときに以下の要約が役立つであろう。

- **第1の懸念**——「そのようなことができるとは、わたしはいったい何者でしょう。」(出エジプト3:11参照) モーセが言いたかったことは何だと思うか尋ねる。主の答えは、激励の言葉であった(12節参照)。主はそこにいてモーセをお助けになるのである。
 - **第2の懸念**——「人々から、だれによって遣わされたか尋ねられたとき、何と言いましょうか。」(13節参照) 主がモーセにお与えになった二つの名前を生徒に尋ねる(14-15節参照)。「わたしは有る」という称号の重要性を生徒に理解させる(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』100ページにある出エジプト3:11-18のための注解を参照)。次の質問をする。「今日わたしたちはどのようにして主の御名を受けますか?」「バプテスマと聖餐を通じて聖約によって主の御名を受けることは、直面するチャレンジに対処するうえでどのように役立ちますか。」
 - **第3の懸念**——「彼らがわたしを信じないならどうしましょうか。」(出エジプト4:1参照) この懸念に答えて、主はモーセのつえを使って奇跡を行われた。次の質問をする。「つえは何の象徴だと思いますか。」(権能)「モーセはミデアンのエテロからどのような権能を受けましたか。」(神権。教義と聖約84:6参照)「神権とは何ですか。」(神の御名によって行動する権能)「自分は神を代表する権能を持っていると認識することは、宣教師にどのような変化をもたらすと思いますか。」
 - **第4の懸念**——「わたしは話が得意ではありません。」(出エジプト4:10参照) 出エジプト4:11-12にある主の答えを読ませる。しかし、モーセは依然として神の代弁者となることをためらっていた。(不適格であるという彼の気持ちを生徒が理解できるように、『旧約聖書:創世記-サムエル記下』100ページにある出エジプト4:10-17のための注解を参照する。) 次の質問をする。「主はモーセの気持ちにどのようにお答えになりましたか。」(14-16節参照)「このことから、主がわたしたちを心にかけ、喜んで助けてくださることについて何が分かりますか。」
- 生徒に出エジプト4:27-31を読ませ、モーセが戻ったときにイスラエルの子らが彼に対してどのような反応を示したか見つけさせる。次のことを尋ねる。
- 召しや責任で、受けるのを恐れたり、自分は不適格だと感じたりするものにはどのようなものがありますか。(例えば、話の割り当て、奉仕プロジェクト、または伝道の召し。)
 - 主はどのようにわたしたちを強め、これらの気持ちを克服するのを助けてくださいますか。(1ニーファイ3:7; 教義と聖約60:2-4参照。)

教義と聖約6:14, 20-24またはモロナイ10:3-5を読み、人々が主から受けた祝福について話し合う。主はわたしたちが求めるときにわたしたちを支えて強めてくださる。またトーマス・S・モンソン管長が証しているように、「神は召される者をふさわしくされる」(『聖徒の道』1987年7月号、48参照)ことを証する。

出エジプト5-10章

はじめに

モーセは自分の使命のために備えられたとき、神の力以上に偉大なものはないことを学んだ(モーセ1:10, 13-15, 20-22, 33参照)。この知識を通して、モーセは主が命じられることは何でも行うという信仰を培うことができた。イスラエルの子らも同様の信仰をはぐくんで、神が自分たちをエジプトから約束の地へ安全に導いてくださることを確信する必要があった。主は、御自身の力を劇的な方法でお示しになり、イスラエルの民が信仰をはぐくむための機会を用意された。イスラエルの子らは、エジプトを去るまで多くの機会を与えられた。そして、イスラエルの神が生けるまことの神であること、そしてあらゆるものを作り出す力を持っておられることが知るようになった。

末日に教会が回復されたとき、主は次のようにおっしゃられた。「世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る。それは、人がその同胞に忠告することや、肉の腕に頼ることのないようにする〔ことを示すためである。〕」(教義と聖約1:19) これは初めから主が取ってこられた方法である。モーセの時代、エジプトは富、教育、科学技術、数学、および天文学などの分野において地上で最も偉大な国家であった。それに対して、イスラエルの民は雑事に携わるだけの奴隸であった。モーセはパロに立ち向かったとき、それまでの40年間を荒れ野で牧者として過ごしてきており、従う者も、地位も、権力もなかった。しかしモーセには主がともにおられ、モーセはすべてのものを支配する神の力に絶対的な信頼を寄せていた。エジプト人には無数の神々があり、パロさえも神であると見なしていたが、主は偶像には救いの力はなく、本当に強く力があるのは主に頼る者だけであることをお示しになった。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主はわたしたちを試練や苦難から救い出し、それらに堪え忍ぶための強さを与えることがおきになる(出エジプト6:6-7参照。モーサヤ24:13-14も参照)。
- 神はすべてのものを支配しておられる(出エジプト7:3-5, 10-12, 20:8:5, 16, 24; 9:6, 10, 23; 10:13, 22参照。出エジプト11:4-7; 12:22-30も参照)。
- 神によるものではない偽りの奇跡がある(出エジプト7:10-12, 22; 8:7, 18参照)。
- 奇跡は信仰の結果としてもたらされるのであり、信仰を生み出しあしない(出エジプト8:19, 31-32; 9:7, 11, 34-35; 10:19-20参照。出エジプト4:31; 11:10; 教義と聖約63:7-12も参照)。

考え方の提案

出エジプト5章。正しいことを行おうとするときに妨害を受けるのはなぜだろうか。(30-35分)

正しいことを行ったのにそれが裏目に出で損をした経験があるか尋ねる。1, 2名の生徒に彼らの経験を簡単に紹介させる。出エジプト5章を読ませ、モーセとアロンが何をしようとしたか、そのために何が起きたか発表させる。民がモーセに言ったこととモーセが主に言ったことを自分の言葉で言わせる(21-23節参照)。

パロはモーセが自分の使命を果たすのを妨げた。そのようなことを主がお許しになったのはなぜだと思うか尋ねる。以下の二つの理由を理解させる。

- パロは選択の自由を用いた。出エジプト3:19-20で預言されているように、パロは選択の結果を見て主の言葉に従うべきだと納得するまで、反抗し続けた。
- 主はイスラエルの子らに、彼らをエジプトから救い出せるのは主の力だけであることをお示しになった(出エジプト6:6-8参照)。エジプトからの脱出が単にモーセとパロの間の同意を通じて達成されていたなら、イスラエルの民が神の無限の力と知識について理解することはほとんどなかったであろう。イスラエルがついにエジプトを脱出したとき、民が何の力によって救い出されたかについては、エジプト人でさえ何の疑いも持っていないかった(出エジプト7:3-5; 8:10, 19, 22; 9:13-14, 29; 10:1-2; 11:4-7参照)。

次の質問をする。

- もしこの時期にイスラエルの民と一緒にいて多くの奇跡を目にしていたら、どのように感じたと思いますか。
- エジプトの民は災いに対してどう反応しましたか(出エジプト12:31-33参照)。
- 自分の力だけでは対処できなかった難問を、主の助けによって克服した経験がありますか。
- 主が助けをお与えになる前に、まずあなたが自分の力で問題に取り組む必要があったのはなぜですか。
- その取り組みは、神に対するあなたの信仰にどのような影響を与えたか。
- 教義と聖約121:1-8と122:5-9を読む。これら二つの聖句が教えていることから、わたしたちが正しいことを行おうとしているときでさえも、主が試練そのものを軽くなさらず、わたしたちが試練を受けるままにされるのはなぜだと思いますか。

わたしたちが神のようになるうえで、現世における試練がいかに大切な役割を果たすか証する。

出エジプト7:1-22; 8:5-10, 16-24。神からのものではなく、人を惑わすために人間やサタンが作り出した偽りの奇跡がある。(10-15分)

本物の紙幣を1枚見せる。紙幣が本物かどうかを見分ける方法を知っている生徒がいるか尋ねる。おもちゃの紙幣または明らかに手書きの偽造紙幣を見せる。本物のお金と

この偽造紙幣を見分けるのはなぜ簡単なのか尋ねる。黒板に「偽物」と書き、この言葉の意味を尋ねる(「人を欺くために価値あるものをまねること」または「詐欺的な模造品」)。次の質問をする。

- なぜ人々は時々偽造紙幣にだまされると思いますか。
- 小さい子供にはおもちゃの紙幣が本物ではないと分からないのでしょうか。
- 欺かれないようにするとき、本物に接しておくことが大切なのはなぜですか。

出エジプト7:11, 22; 8:7を読ませ、偽物を見つけさせる。次の質問をする。「今日このような奇術はどのようにして行うことができますか。」『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にある出エジプト7:11-12のための注解(102ページ)を読む。縦に線を引いて黒板を二つに分け、一方に「魔術師」、もう一方に「神(モーセを通じて)」という見出しを書く。出エジプト7:10-12, 19-22; 8:5-10, 16-24; 9:11を研究させ、人を惑わす魔術師の行為を神の力とを比較させる。モーセと魔術師の両方にできたことを書き出す。次の質問をする。

- 魔術師は何ができましたか。それはどのくらい有益なものでしたか。
- 魔術師は何ができませんでしたか。

今日、サタンが人類を混乱させて束縛に至らせるために用いる偽りを幾つか挙げる。(例えば、愛ではなく情欲、神権ではなく偽善売教、永遠の結婚ではなく市民結婚、神の靈感ではなく人間の知恵。) モロナイ7:16-19を読ませ、どのように善悪を区別することができるか話し合う。1ニーファイ22:25-28を読み、どうすればサタンとその偽りに打ち勝つ力を得ることができるか話し合う。

出エジプト7-10章。エジプトの災いはイスラエルの民の信仰を強め、イスラエルを奴隸の状態から解放するようにパロを説き伏せ、エジプト人の神々の信憑性を揺るがした。これらの災いは、主の再臨の前に悪人を待ち受けている滅亡を象徴している。(45-55分)

クラスが始まる前に、何人かの生徒にエジプトで起こった最初の9つの災いについて別々の紙に簡単な絵を描かせ、それがどの災いであるか分かるように見出しを書き込ませる(災いのリストはこの考え方の提案にある表を参照)。生徒が描いた絵を順不同で提示し、残りの生徒に、それらを起きた順番に並べさせる。(間違っていても次の活動のときに訂正できる。)

黒板に生徒用学習ガイドにある出エジプト7-10章のための活動Bにある表を描く。それぞれの生徒またはグループに、災いに関する参考聖句を一つずつ割り当てる。生徒に聖句を読ませ、学んだことを報告させる。報告の間、必要に応じて災いの絵を正しい順番に並べ換える。報告が終わる度に、生徒にその出来事についての感想を述べたり、質問をしたりするよう勧める。

災いは、パロにイスラエルの民を解放させただけでなく、そのほかにも大切な目的があったことを話す。『旧約聖書：

創世記－サムエル記下』にある出エジプト7－10章のための注解の内容（102－103ページ）と以下の表を紹介する。（「末日の預言」の欄にある情報はまだ紹介しない。）

災い	エジプト人の神々	末日の預言に見られる類似点
1. 血に変わった水 (出エジプト7：17－25参照)	ハピ（またはホピ）——それ自体が神聖であると見なされていたナイル川の水を管理していた	黙示8：8；16：3－6参照
2. かえる (出エジプト8：2－6参照)	ヘクト（またはヘケト）——かえるの頭を持った女神	黙示16：12－14参照
3. ぶよ (出エジプト8：16－17参照)	セト——大地の神。ぶよになった	
4. あぶ (出エジプト8：21－24参照)	恐らくウアジェト——あぶによって表される	教義と聖約29：18－20参照
5. 家畜の死 (出エジプト9：2－7参照)	アピスとムネビス——雄牛の神々。ハトホル——雌牛の頭を持つ女神。クヌム——雄羊の神	
6. うみの出るはれもの (出エジプト9：8－11)	セクメト——病気を支配する女神。ヌヌ——悪疫の神。イシス——治癒の女神。	
7. 電と火 (出エジプト9：22－26参照)	ヌート——天空の女神。オシリス——穀物と豊作の神	黙示8：7参照
8. いなご (出エジプト10：12－15参照)	オシリス——穀物と豊作の神	黙示9：3参照
9. くらやみ (出エジプト10：21－23参照)	ケブリ、レー（またはラー）、およびアン——太陽の神々	黙示6：12；教義と聖約45：42；ジョセフ・スミスマタイ1：33〔英文〕参照
10. ういごの死 (出エジプト12：12－30参照)	パロ——神と見なされていたが、自身の息子を死から救う力を持っていなかった。イシス——子供たちを守った女神	

以下の質問について話し合う。

- エジプト人が再現することができた災いはどれですか。
- ナイル川や家畜など、自然のものに対して災いがもたらされたのはなぜだと思いますか。

- 主がエジプト人だけに災いを送られてイスラエルの民には送られなかったのはいつですか（出エジプト8：22参照）。
- イスラエルの民に教訓を与えるための災いは何でしたか（出エジプト6：1－8参照）。
- あなたがエジプト人だったら、これらの災いによって神についてのあなたの考えはどのように変わったと思いませんか（出エジプト7：17；8：22；9：13－16参照）。
- あなたならどの災いの後でイスラエルを去らせたと思いますか。
- あなたがイスラエルの民の人だったら、これらの奇跡はイスラエルの神に対するあなたの気持ちにどのような影響を与えたと思いますか。
- ジョセフ・スミス訳は、出エジプト7：13についてどのような補足的概念を教えていますか。（『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳出エジプト4：21参照）。

教義と聖約84：96－97を読ませ、出エジプト7－10章との共通点に注目させる。表の「末日の預言」の欄にある聖句を紹介する。主は古代イスラエルを災いから守るためにどのようなことをなさったか尋ねる（出エジプト8：22－23参照）。2ニーファイ6：13－15を読み、末日の滅亡から守られるのはだれか見つけさせる。キリストを信じる者は守られるために何を行わなければならないか尋ねる（教義と聖約133：7－11参照）。

今は世の誘惑の中で生活しなければならないが、それでも世の悪事に関与しないでいることの大切さについて、教師の証を述べる。

出エジプト7－10章。奇跡はすでにある信仰を強めることはあるが、^{あかし}でも信仰や証を生み出すことはない。（10－15分）

クラスに白紙を1枚、小さな文字が書かれている同様の紙を1枚、それと虫眼鏡を1つ持参する。黒板に「虫眼鏡と紙に書かれている文字」と書く。

白紙を見せ、一人の生徒に虫眼鏡を使って紙に書かれている小さな文字を見つけて読むよう指示する。しばらく奮闘した後で、文字を読むことができないのはなぜか尋ねる。次に小さな文字が書かれている紙を渡し、紙に書かれている文字を読むよう指示する。生徒が文字を見つけて読んだ後、黒板にある言葉を書き換えて、以下に示されている未完成の方程式を完成させる。今日、虫眼鏡と紙がどのような点でモーセとパロに関係しているか見つける。

虫眼鏡 = _____
紙に書かれている文字 = _____

以下の質問を尋ねる。

- 今日の預言者が大きな奇跡を行ったら、預言者を信じるあなたの信仰は増しますか。それはなぜですか。

- だれもがあなたと同じようにその人物が預言者であると確信すると思いますか。それはなぜですか。

出エジプト7:13-14; 8:15-19; 9:7-12; 10:27; 11:1-10を読ませる。パロが奇跡を見ても真理を確信しなかったのはなぜか尋ねる。生徒とともに教義と聖約63:7-12を読み、奇跡と信仰について主がおっしゃったことを話し合う。十二使徒定員会会員であったブルース・R・マッコンキー長老が語った以下の真理を紹介する。

「信仰の法則には、奇跡が信仰を生むという側面はありません。しるしは伴うものであり、先立つものではありません。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1966-1973年〕, 第1巻, 632)

黒板にある未完成の方程式に戻り、空欄を埋めることができるか生徒に尋ねる。次の質問をする。

- 紙に何も書かれていないとき、虫眼鏡はどのくらい役立ちますか。
- パロのように反抗と不信仰を選ぶ人々にとって、奇跡はどのくらい役立ちますか。

紙に書かれている文字は、それがどれほど小さいものであれ、わたしたちの信仰を象徴しており、虫眼鏡は奇跡またはしるしを象徴していることを生徒に理解させる。虫眼鏡が文字を大きくするのと同様、奇跡は信仰を増す。しかし、虫眼鏡が文字を生み出すことはないのと同じように、奇跡が信仰を生み出すことはない。「信じる者には……しるしが伴う」(教義と聖約84:65。教義と聖約58:64も参照)ことを思い起こさせる。

出エジプト11-13章

はじめに

ニーファイは、すべてのものは世の初めからイエス・キリストとその贖罪の予型あるいは象徴として与えられてきたと教えた(2ニーファイ11:4参照)。例えば、神がイサクを犠牲としてささげるようアブラハムに命じられたとき、それは天の御父がその独り子を犠牲とされることを示す予型となった(モルモン書ヤコブ4:5参照)。また、エジプトに売られたヨセフも、キリストとその務めの予型あるいは象徴であった(創世47:14-25参照)。

出エジプト11-13章には、イエス・キリストのあらゆる予型の中でもきわめて深遠なものについて記されている。「過越」である。エジプトでの束縛から解放されたイスラエルの民の物語は、歴史上の最も劇的な出来事であつただけでなく、象徴的な意味にあふれている。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は過去や未来における御自身の力強い業をわたしたちに思い起こさせるために、過越や聖餐などの象徴や儀式を用いられる(出エジプト12:5-7, 13, 43-50参照)。
- 主は忠実で従順な人々のために、悪人にもたらされる物質的および靈的な滅亡から逃れる方法を備えてくださる(出エジプト12:23参照。教義と聖約89:18-21も参照)。
- 過越はイエス・キリストの贖罪の象徴であった。
 - イスラエルの子らが常に覚えなければならなかった過越は、新たな人生の始まりを示すものであった。わたしたちが常に覚えなければならない贖罪は、靈的な意味でわたしたちに新たな人生をもたらすものである(出エジプト12:1-2, 14参照。アルマ11:45; モロナイ4:3も参照)。
 - 子羊はイエス・キリスト、すなわち「神の小羊」を表していた(出エジプト12:3参照。ヨハネ1:29-36も参照)。
 - 子羊は雄で「傷のないもの」(不完全な点のないもの)であり、キリストの完全さを象徴していた(出エジプト12:5参照。ヘブル4:15も参照)。
 - 子羊は殺された。その血はイエス・キリストの血を象徴していた(出エジプト12:6-7, 13参照。アルマ21:9も参照)。
 - エジプトの偽りの神々は裁かれて打たれた。それはキリストの贖罪が悪に勝利することを象徴していた(出エジプト12:12参照)。
 - エジプトにおけるういごの死は、イスラエルの子らに解放をもたらした。神のういごであられるキリストの死は、わたしたちを靈的に自由にしてくれる(出エジプト12:12; 13:14-15参照。コロサイ1:13-18; 教義と聖約93:21も参照)。
 - 「滅ぼす者」はイスラエルの子らを過ぎ越した。贖罪はサタンの力からわたしたちを救ってくれる(出エジプト12:21-23, 26-27参照)。
 - 過越によって、イスラエルの民の約束の地への旅が始まった。キリストはわたしたちを日の栄えの王国へと導いてくださる(出エジプト12:25参照。アルマ37:45も参照)。
 - イエスの骨がまったく折られることができなかったのと同様、子羊の骨を折ってはいけなかった(出エジプト12:46参照。詩篇34:20; ヨハネ19:31-36も参照)。

教え方の提案

〔「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション〕13「過越」は、過越の祭の象徴について教えている再現ドラマである(教え方の提案は「旧約聖書」ビデオガイドを参照)。

出エジプト11-12章。神の戒めと主の預言者の勧告に従うことにより、靈的にも物質的にも守られる。(25-35分)

次の質問をする。

- 預言者が、あなたの地域で災害が起ころうとしていると言ったとします。教会の集会所へ行く人は皆助かると言ったら、あなたは行きますか。それはなぜですか。
- 行かない人がいると思いますか。
- 行かない理由として、人々はどのようなことを挙げると思いますか。

エジプトにもたらされた最初の9つの災いを思い起こさせる（出エジプト7-10章参照）。出エジプト11:4-10を読ませ、最後の災いは何だったか調べさせる。次の質問をする。

- パロはモーセの警告にどのように応じましたか（出エジプト11:10参照）。
- モーセが約束したことはすべて成就しました。それでもパロがモーセの警告を無視し続けたのはなぜだと思いますか。

出エジプト12:1-28を読ませ、「滅ぼす者」が自分たちの家を「過ぎ越」すように、イスラエルの人々は何をするよう命じられたか探させる。（注意：過越の象徴は出エジプト12章のための教え方の提案で教えられている。）生徒が見つけたことを黒板に列挙する。出エジプト12:29-30を読ませ、従わなかった人々に何が起きたか発表させる。生徒とともに出エジプト11:4-8と12:31-41を読み、その内容を比較する。次の質問をする。「これらの聖句から、預言者を通して与えられる主の預言についてどのようなことが分かりますか。」

預言者ジョセフ・スミスの絵を見せ、神が今日わたくしたちに与えておられる警告にはどのようなものがあるか尋ねる（教義と聖約1:1-17参照）。教義と聖約89:4-9, 18-21を読ませ、今日人々を滅ぼしているものについて話し合う。またそれらを避けるために、主は何をするようにおっしゃったか話し合う。（『リアホナ』の最新の総大会号や『若人の強さのために』のパンフレットを読み、主が今日与えておられる具体的な警告や勧告を幾つか話し合ってもよい。）次の質問をする。

- 今日ある人々が、主の警告や勧告を無視するのはなぜだと思いますか。
- 時代を問わず、預言者を通して与えられた主の警告に耳を傾けなかった人々には、どのようなことが起きましたか。

主の預言者やそのほかの教会指導者に従うことによって受けた祝福について、適切な経験を分かち合うよう生徒に勧める。

聖文の象徴。主が象徴を用いられる理由やその解釈の仕方を含め、聖文に出てくる象徴について理解することは、出エジプト記に限らず旧約聖書のそのほかの部分を学習する際にも役立つ。（15-20分）

注意：この教え方の提案を利用する前に、教師は『旧約聖書：創世記-サムエル記下』の特別講座C（105-111ページ）にある資料に精通しておく。特に「主は聖文の中でな

ぜこれほど多くの象徴を使われたのか」の項を参照する。

生徒にもすぐ理解できるような何かの象徴をクラスに持参するか、それらの絵を描いて見せる。これらのものや絵に共通していることは何か尋ねる。それらがすべて象徴であることを生徒が理解したら、聖文、とりわけ旧約聖書には象徴が多く用いられていることを指摘する。

十二使徒定員会会員であったブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を読んで聞かせる。

「救いを得るために受け入れて信じなければならない永遠の真理をわたしたちが心に刻み込むことができるよう、それらの真の意味と大きさを決して忘れられないほど強い印象を伴って表すために、そしてわたしたちの関心をこれらの救いの真理に向けさせるために、主は繰り返しひながたを用いられます。抽象的な原則は忘れやすく、その深い意味も見過ごされがちです。しかし、目で見ることができる行いや実際の経験は、頭に刻み込まれると決して失われることはありません。」（*The Promised Messiah: The First Coming of Christ* [1978年], 377）

主が聖文で、象徴や比喩的描写を用いられるのはなぜか尋ねる。生徒の答えを黒板に列挙する。2ニーファイ11:4とモーセ6:63を読ませる。聖文で使われる象徴のおもな目的は何か尋ねる。

『旧約聖書：創世記-サムエル記下』の『『旧約聖書』の表象や象徴を解き明かすための指針』（107-111ページ）を紹介する。この項目には6つの見出しがある。これらの見出しを黒板に書き、これを概略として利用しながらこの資料を使った話し合いに役立てる。

聖文に出てくる象徴を解釈するためのヒントをカードに書き、旧約聖書を学習しながら参照できるように聖典に挟んでおくよう勧める。出エジプト12-13章で過越について学習する際に、これまで学んできた事柄を活用する機会があることを生徒に伝える。

出エジプト12章。過越はイエス・キリストの犠牲と贖罪の象徴であった。（35-45分）

過越について教える際、このレッスンを分かりやすくするために、旧約時代の服装を着たり、種入れぬパンなど、過越の食物を持参したりしてもよい。種入れぬパンは、以下の方法で作ることができます。水1カップ、小麦粉2カップ、塩小さじ1/3を混ぜる。油を塗ったオーブン用の天板の上で生地を厚さ約6.5ミリになるよう平らに延ばす。180度で表面がきつね色になるまで焼く。

注意：クラッカーを代わりに使ってもよい。クラッカーにもパン種は入っておらず、簡単に手に入る。

子羊の絵をクラスに持参するか黒板に描く。そのほか救命胴衣、救急箱、チャイルドシート、パラシュート、ガスマスク、シートベルト、スポーツ用ヘルメットなど、命を救うことができるもの、またはその絵を2, 3用意する。これらの

ものを見せて尋ねる。「これらの中であなたの命を救ってくれるものはどれですか。」それぞれがどのように命を救うかについて簡単に話し合った後、子羊の絵を掲げて尋ねる。

・子羊の血はどのようにしてイスラエルの民の初子を救いましたか。

・聖文で同じように「小羊」として表現されているのはどなたですか。

・その小羊はどのようにして人類を救いましたか。

生徒とともに出エジプト12:1-13を読み、質問する。

・子羊によって救われたのはだれでしたか。どのようにして救われましたか。

・8節によれば、イスラエルの民はほかにどのようなものを子羊と一緒に食べなければなりませんでしたか。

黒板に「子羊」、「種入れぬパン」、「苦菜」と書き、主がイスラエルの民にこのような風変わりなことを行うよう求められたのはなぜだと思うか尋ねる。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』の出エジプト12:8-10; 12:14; および12:18-20のための注解（115ページ）を利用して、エジプトでの束縛と、主がイスラエルの人々をどのように救い出されたかを思い出させるために、過越の食事の象徴がどのように役立ったか生徒に理解させる。

以下の絵を見せ、エジプトからの解放を思い起こさせること以外に、子羊にはどのような目的があったか尋ねる。



出エジプト12:3-28, 43-50を読ませる。イエス・キリストの贖罪について象徴的に教えていたる過越の要素を黒板に列挙し、それらについて話し合う。すでに学んだ聖文の象徴を理解するための技術を利用するよう勧める。

生徒とともに出エジプト12:24を読み、今日のわたした

ちにも過越を遵守することが求められているのかどうか尋ねる。十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー会長の以下の言葉を読む。

「犠牲の律法は、十字架の死により成就されました。主はその代わりに聖餐を定められました。それはわたしたちが永遠に守るべき儀式です。」（『リアホナ』1996年7月号、23）

子羊の血が従順であったイスラエルの民の初子を救ったのと同じように、わたしたちが忠実であるならば、神の小羊であるイエス・キリストの血がわたしたちを救ってくださることについて証する。聖餐を取る度に、救い主とその贖罪について深く考えるよう生徒を励ます。

出エジプト13:1-6。イエス・キリストの贖罪がなければ、わたしたちは神から絶たれ、永遠の苦痛を受けるであろう（2ニーファイ9:7-9参照）。（30-35分）

贖罪について理解できるよう、『生徒用学習ガイド』にある出エジプト13章のための活動Aをさせる。

出エジプト14-15章

はじめに

出エジプト14-15章は、紅海の水が分かれたことやメラの水が甘くなったことなど、主がイスラエルの子らのために行われたさらなる奇跡について教えている。ここで学ぶ聖句と次に出てくる聖句（出エジプト16-17章）を読みながら、エジプトからの奇跡的な解放を喜んだ民の態度が、いかに早く変化し、砂漠での苦難につぶやき始め、エジプトに戻りたいとさえ願うようになったかに注目する。明らかに、イスラエルの子らをエジプトから救い出すよりも、イスラエルの子らからエジプトを取り除く方が難しかったのである。

学び取るべき重要な福音の原則

・主はわたしたちを危険から救い出し、物質的および靈的な必要を満たせるよう助けてくださる（出エジプト14:13-31参照。出エジプト16:2-30; 17:2-14も参照）。

教え方の提案

出エジプト14:5-31。主は、御自分の民を救い出す力を持っておられる。（15-20分）

解決法を見いだせず絶望的と思えるほど困難な状況に陥ったことがないか尋ねる。適切であれば1, 2名に経験を紹介させる。あまりに個人的なものや周囲への配慮に欠ける話題は避ける。

出エジプト14:5-12を読ませ、イスラエルの民が陥っていた危険な状況と、彼らが絶望的に感じていた理由を調べさせる。何人かに、出エジプト14:13-31を2,3節ずつ朗読させ、イスラエルの民がその状況からどのように救い出されたかを見つけさせる。必要に応じて朗読を中断し、主の助けを得て問題を解決するために、生活に応用できる大切な語句について話し合う。以下の事柄を強調してもよい。

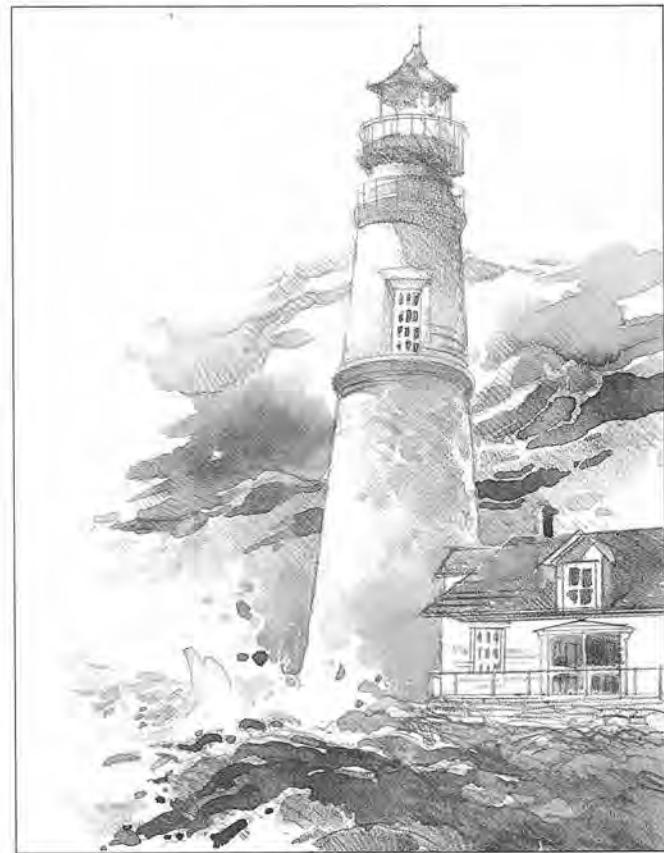
- **13節**：「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って……〔主の〕救を見なさい。」わたしたちは、恐れのあまり性急に行動し、間違った選択をすることがある。恐れと信仰は反対のものである。次の質問をする。「かたく立って」とはどういう意味でしょうか。自分自身が抱えている問題を何とか解決しようと一生懸命になるあまり、問題解決の過程に主をお招きする時間を取りらずにいることはないでしょうか。」
- **14節**：「主があなたがたのために戦われる。」彼らが主に対して不平を言ったときでさえも、主は聖約の民を心から憐れまれた。主は悔い改めて主の戒めに従う者を助けてくださる。
- **15-18節**。教義と聖約8:2-3には、主がモーセにこの奇跡を行うように命じられたとき、モーセに与えられた啓示は、ごく普通の方法でもたらされたと記されている。すなわち、わたしたちが通常啓示を受けるように、聖霊の力によって思いと心に告げられた。天からの劇的な声を聞いて水を分けたのではなかったのである。
- **15節**。この奇跡における最初の命令は「進み行かせなさい」であり、それはまだ水が分かれ始めていないときに与えられた。このことは信仰が奇跡に先立つものであることを示唆している。
- **19-20節**。主の御靈を象徴する雲はイスラエルの敵に闇をもたらし、イスラエルの民には光を与えた。
- この奇跡の間中、主の預言者に大きな力が与えられた。わたしたちは主が預言者に与えられる力に信仰を持つことができる。

次の原則が理解できるよう生徒を助ける。時に応じて主は、問題を取り除く代わりに、それらを堪え忍ぶことができるよう、わたしたちを強めてくださる（モーサヤ24:14-15参照）。次のことについて教師の証を述べる。わたしたちに主に対する信仰があり、そしてそれが主の御心であれば、主は絶望的と思われる状況からわたしたちを救い出してくださる。結びとして、生徒の学習ガイドにある出エジプト14章のための活動Aをさせてよい。

出エジプト14:19-20。イエス・キリストは世の光であり、わたしたちが従うならばわたしたちを導いてくださる。（15-20分）

灯台の写真または絵を見せ、その目的を尋ねる。出エジプト13:20-22を読ませ、イスラエルの子らを安全に導くために主が彼らに与えられたものを見つけさせる。この雲と火の柱は、主がともにおられてイスラエルを導かれたことを示している。次の質問をする。「主がともにおられたことはどのような点で灯台にまさっていたでしょうか。」（光を与えただけでなく、前を行き、導かれた。）生徒に出エジ

プト14:19-20を読ませ、その他に主がともにおられたことによって起きた、灯台にはできない出来事は何かを尋ねる。（義人が悪人から守られた。）イスラエルの民のこの経験がわたしたちの現世での生涯をどのように象徴しているかについて話し合う。



以下の聖句を調べさせ、この火の柱のようなものとして、主は今日何を与えてくださっているかを列挙させ、それについて話し合う。

- 詩篇119:103-105（聖文）
- ヨハネ14:26（聖靈）
- 2コリント6:17（戒め。戒めはわたしたちを悪人から遠ざける。）
- 3ニーファイ15:12; 18:15-16（キリストと正しい聖徒の模範。祈り。）
- 教義と聖約84:45-46（キリストの光、良心）

今日、目に見える火の柱がないため、若い人々の中には神からもたらされる光や導きを認識するのが難しいと感じたり、逆にこの世やサタンからのささやきを見分けるのが難しいと感じたりする人がいる。雲が現れる前、イスラエルの子らがだれに従っていたか聞く。（モーセ。）生徒と一緒に教義と聖約21:4-6を読む。預言者はだれに従うか、また生ける預言者に従う人々に主は何を約束しておられるか尋ねる。

わたしたちが主から受ける導きをたたえた賛美歌が幾つかある。生徒と一緒に以下の一つを読むか歌うとよい。

- ・「イスラエルの救い主」(『賛美歌』4番)
- ・「導きたまえよ」(『賛美歌』41番)
- ・「取り巻く闇の中を」(『賛美歌』52番)
- ・「光の中進もう」(『賛美歌』194番)

出エジプト15章。わたしたちは祝福に対して主に感謝を表さなければならない。(25-30節)

一人の生徒に、大切な目標を達成したとき、またはその他の事柄で成功したときにどのように感じたかクラスで紹介してもらう。その経験について詳しく説明させ、生徒はそれを祝うため具体的にどのようなことをしたかを話す。全員に次の質問をする。「何か良いことがあってそれを祝うときに、忘れてはならない大切なことは何でしょうか。」

出エジプト15:1-21を読ませ、紅海を渡るという祝福をモーセがどのように祝ったか探させる。以下の質問の幾つかについて話し合う。

- ・歌うことは感謝の適切な表現だと思いますか。なぜそう思いますか。(教義と聖約25:12参照)
- ・あなたはモーセの歌のどの部分が好きですか。
- ・わたしたちが祝福への感謝を表さないとき、主はどのようにお感じになると思いますか。(教義と聖約59:21参照)

エズラ・タフト・ベンソン大管長が十二使徒定員会会長のときに語った以下の言葉を読む。

「かつて預言者ジョセフは、末日聖徒が犯しがちな最大の罪の一つは感謝の欠如である、と語ったそうです。わたしたちの多くも、これを重大な罪と見なしてはこななかつたように思います。わたしたちは祈るときに、主に嘆願して、さらに多くの祝福を願い求める強い傾向があります。しかしあたしは時々、すでに受けた祝福に対する感謝の祈りをもっと頻繁にささげる必要があると感じます。もちろん、わたしたちは日々主からの祝福を必要としています。しかし、祈りに関してわたしたちが罪を犯しているとすれば、それは日々の祝福に対する感謝の祈りを欠いていることではないでしょうか。」(The Teachings of Ezra Taft Benson, 364。教義と聖約25:12; 59:21; 78:19も参照)

出エジプト15:22-24を読ませ、イスラエルの民は何に対して「つぶやいて」いたか見つけさせ、見つけたことを発表させる。次の質問をする。

- ・紅海が分かれてからどのくらいの時間が経過していましたか。(約3日。22節参照。)
- ・彼らの信仰と感謝が長続きしなかったことについて、主はどのように感じられたと思いますか。

十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老はこう語っている。

「肉欲に従う生まれながらの人にとって、つぶやきはいわばつきものです。……

つぶやく人は物事をすぐに忘れてします。イスラエルの民はシナイに到着し、その後聖地へ向けて旅を続けましたが、時折飢え渴くことがありました。しかし、主がうずらを運び、岩を打って水を出すなどの奇跡を起こし、彼らを救われました。(民数11:31; 出エジプト17:6参照) その彼らが過去の恵みをすぐに忘れてあれこれと注文ばかりするのです。過去の恵みを忘れれば先を見通すことはできません。

次に挙げる旧約聖書の力強い一節は、わたしたちに眞実を思い起こさせてくれます。

『あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためにであった。』(申命8:2) (『聖徒の道』1990年1月号, 82参照)

これまでの人生で目にした信仰と感謝の模範を紹介するよう生徒に求める。個人の祈りの中で、主から受けた祝福について深く考え、主に対する感謝を伝える時間を見るよう勧める。「み恵み数えあげ」(『賛美歌』153番)など、現代の賛美歌の中から主に対する感謝を表しているものを1曲生徒に選ばせ、全員で歌うか読む。

出エジプト16-17章

はじめに

イスラエルの人々がエジプトを去ってからちょうど1ヶ月が経過していた(出エジプト16:1参照)。人々の不平はやむことがなかった。しかし、主は救い出されたばかりの御自分の子らに対して忍耐強く助けの手を差し伸べられた。主は奇跡をもって人々の必要を満たされ、敵に対して人々を強くされた。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・教会の教義や手順、または指導者などに対してつぶやいたり不平を言ったりするとき、実際には主に対してつぶやいていることになるのである(出エジプト16:8参照)。
- ・イスラエルの人々に奇跡的に与えられたマナと水は、イエス・キリストの象徴であり、わたしたちが主に依存していることを象徴している(出エジプト16:2-30; 17:1-7参照。ヨハネ4:5-14; 6:31-58も参照)。

教え方の提案

出エジプト16-17章。水、マナ、そして、うずらの奇跡は、主について、また主がその子らをどのように扱われるかを教えている。これらの物語が教えている原則を応用することは、主に近づくのに役立つ。(10-15分)

次のように尋ねる。「主が求めておられる事柄に対して、人々が不平を言ったり、つぶやいたりするのはなぜでしょうか。」この質問について話し合った後で（または話し合いの一貫として）、主に関する知識を基に、主に対してつぶやくことが実に愚かであるのはなぜか尋ねる。これから学ぶモーセとイスラエルの人々の経験は、主について、また主がその子らをどのように扱われるか教えており、わたしたちがさらに忠実になるうえで役に立つ。

生徒を3つのグループに分け、各グループに以下の聖句を一つずつ割り当てる。

- 出エジプト16:1-13
- 出エジプト16:14-31
- 出エジプト17:1-7

グループごとに担当の聖句を研究させ、以下について報告させる。

- イスラエルの人々に対する主の対応について学んだこと。
- 信仰を増し、つぶやくことなく主に従いたいという望みを強めるために、学んだ事柄をどのように応用できるか。

この活動の間、教師は各グループを回って助けを与えるとよい。グループが報告を行った後、これらの聖文の物語から学んだことについて、教師自身の考え方や証を述べる。

出エジプト16:1-17:7。主は水、マナ、そして、うずらの奇跡を通して多くのことを教えられた。(20-30分)

これから何年にもわたって砂漠を旅するグループに、食糧を供給する責任が自分に課せられたとする。もし必要なすべての食糧と水を運ぶことができず、途中でそれらを購入する場所もないとしたらどうするだろうか。この責任を果たすうえで生じる問題点について簡単に話し合った後、次の質問をする。「これはモーセが砂漠でイスラエルの人々に食糧を供給する際に直面した問題とどのように似ているでしょうか。」

黒板に、「出エジプト16:1-13」、「出エジプト16:14-31」および「出エジプト 17:1-7」と書く。生徒を3つのグループに分け、聖句を一つずつ割り当てる。担当の聖句を研究させ、以下について報告させる。

- どのような奇跡について記されているか。
- イスラエルの人々はどのようなことを学んだか。
- これらの教えは今日のわたしたちにどう応用できるか。

これらの奇跡はどのような意味で救い主を象徴していたか尋ねる。ヨハネ6:48-51を読ませ、命のパンとはだれのことか調べさせる。3ニーファイ20:8-9を読ませ、主が御自分の教会の会員にどのような方法で靈的な食糧と水を与えておられるか尋ねる。奇跡は信じる者の証を強める

が、信じない者に証を得させることはないことをしっかりと理解させる。主がわたしたちを愛しておられること、また忠実であれば主はわたしたちの靈的および物質的な必要を満たしてくださることを証する。

出エジプト17:8-13。わたしたちは主が教会を導くように召される人々を支持しなければならない。(15-20分)

一人の生徒に前に出てきてもらい、聖書を喜んで「支持し、支える」か尋ねる。生徒が「はい」と答えたら、そのことをどれほどうれしく思うか伝え、これからその意志を証明する機会を与えると話す。

生徒の左右の手それぞれに一冊の聖書を持たせ、腕を横に広げて目の高さまで持ち上げさせる。もしこの姿勢で15分間聖書を持っていることができれば、残りの生徒にとつてすばらしい模範であると生徒に言う。生徒が疲れ始めたら、聖書を持ち上げていられるように助けがほしいかを尋ねる。別の二人の生徒に出て来てもらい、最初の生徒の腕を支えさせる。以下の質問をする。

- だれかが腕を支えてくれたら、どのくらい聖書を持ち上げていることができますか。
- 自分一人ならどのくらい持続できるでしょうか。

生徒が席に戻った後、全員に出エジプト17:8-13を読ませ、以下の質問をする。

- なぜモーセは手を上げている必要があったのでしょうか。
- 自分がモーセだとしたら、アロンとホルの助けについてどのように感じたと思いますか。
- 現代の預言者にとってアロンとホルのような人物はだれでしょうか。(大管長会の顧問。)

預言者が背負っている責任の重さについて証を述べる。また次の質問をする。

- 大管長の顧問以外で、預言者がその責任を果たせるように助けるのはだれでしょうか。(中央幹部、地元の指導者、およびすべての教員員。)
- 預言者を支持していることをどのように示すことができるでしょうか(教義と聖約43:12; 93:51; 107:22参照)。

教義と聖約21:4-6を読ませ、わたしたちが言葉と行いにおいて生ける預言者を支持するとき、どのようなことが起きるかを理解させる。以下の質問をする。

- この聖句は、アロンとホルがモーセの腕を支えたときにイスラエルに起きたこととどのように似ていますか。
- 人々が預言者を支持できないのはどのようなときでしょうか。

出エジプト16:8を読ませる。預言者に対してつぶやくことは何を意味するか、よく理解させる(教義と聖約1:38も参照)。現在そして生涯を通じて主の戒めを守り、自分の召しを果たすことによって預言者を支持するよう生徒に勧める。

出エジプト18-24章

はじめに

エジプトを去り、約3か月間砂漠を旅した後、主はイスラエルの人々をシナイ山に導かれた。近代の啓示は、このときモーセが民を聖めて、彼らを神のみもとに連れて行こうとしていたことを明確に教えていている。残念なことに、民はより高い律法に進んで従おうとしなかった。イスラエルの人々は心をかたくなにしたため「荒れ野にいる間神の安息に入れな〔かった〕。この安息とは、主の完全な榮光のことである。」(教義と聖約84: 23-24参照。ジョセフ・スミス訳出エジプト34: 1-2, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 159も参照) 代わりに、主はイスラエルの人々にモーセの律法として知られている戒めをお与えになった。

学び取るべき重要な福音の原則

- 預言者は、主の代理人として人々の前に立ち、その業を助ける人々を召す。主の僕はわたしたちに、自分自身を治めるのに必要な神の原則を教える(出エジプト18: 13-26参照。出エジプト4: 16; モーサヤ18: 18も参照)。
- 主は御自分のもとに来るようすべての人を招かれる。主の招きを受け入れて必要な聖約と戒めに従う者は、主のみもとへ行くことができる(出エジプト19: 4-11, 14, 17-24; 24: 1, 9-11参照。教義と聖約84: 19-27も参照)。
- 神は、その子らがこの世においてより大きな喜びを得、来るべき世において永遠の命を得ることができるよう、戒めを与えられる(出エジプト20-23章参照。ヨハネ15: 10-11; アルマ41: 10も参照)。
- 神を愛することと、人を愛し人に仕えることは、戒めの中心的なメッセージである(出エジプト20-23章参照。マタイ22: 37-40も参照)。

教え方の提案

出エジプト18章。教会は、天の御父の子供たちがみもとに戻るために組織されている。主は人々が靈的に成長し、救いの儀式を受けられるよう教会の指導者を召される。(15-20分)

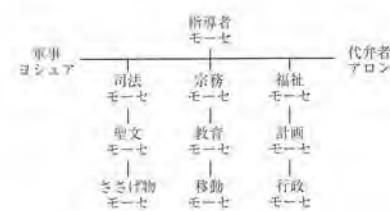
例えば、ビショップや若い女性の指導者、教師、定員会会長など、自分たちの靈的成長を見守る責任にある教会指導者を生徒に挙げさせる。次の質問をする。

- あなたの靈的成長にこれほど多くの人がかかわっているのはなぜですか。
- ビショップや支部会長がすべてのことを自分で行わなければならないとしたら、ワードや支部はどうなるでしょうか。

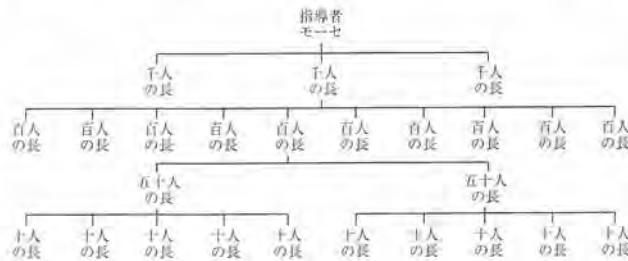
生徒用学習ガイドにある出エジプト18章のための活動Aをさせ、見つけたことについて話し合う。(組織に関する原則の現代の例については、教義と聖約136章を参照。エテロについて知りたい場合は、『旧約聖書：創世記一サムエル記下』121ページにある出エジプト18章についての注解を参照。)

教会の召しを果たすことでの祝福について話し合う。生徒用学習ガイド出エジプト18章の「聖文を研究する」の項にある組織図に注目させる。エテロが助言した前と後で、イスラエルの指導者はどのように組織されただろうか(下記も参照)。教会全体が十分に機能するように、それぞれの会員が自分の役割を果たすことの大切さについて話し合う(教義と聖約84: 109-110参照)。また自分の召しを尊んで大いなるものとすることが、指導者を支持する一つの方法である理由について話し合う。

エテロがモーセに助言を与える前、イスラエルの組織図は以下のようであった。



モーセが組織を再編成して自身の責任を委任した後、以下の図が加わったと考えることができる。



出エジプト19: 3-6。主はわたしたちが主のみもとへ来て、主のようになるのを助けてくださる。(15-20分)

宝箱の絵を見せるか描く。生徒に自分の持ち物の中で最も大切なものを2つか3つ書き出させ、そのリストをだれにも見せないように指示する。出エジプト19: 3-6を調べさせ、そのあらゆる所有物の中で、神が御自分の特別な「宝」(peculiar treasure) とするよう望んでおられるのは何かを見つけさせる。今日、peculiar という言葉は「異なった」または「普通ではない」という意味であることを説明する。しかし、ラッセル・M・ネルソン長老は次のように語っている。

「旧約聖書で、 “peculiar” に当たるヘブライ語は “segullah” で、その意味は『貴重な財産』や『宝』を意味します。新約聖書では、 “peculiar” に当たるギリシャ語は “peripoiesis” で、その意味は「所有物」または「入手した物」という意味があります。

したがって、聖文の中の “peculiar” は『貴重な宝』『神に選ばれたもの』を表しています。主の僕にとってこのような表現は、最高の賛辞なのです。」(『聖徒の道』1995年7月号、37参照)

次の質問をする。「神はイスラエルを御自分のもとへ連れて来るためにどのような奇跡によって彼らを祝福されたでしょうか」(出エジプト19:4 参照)。5節にある「もし」と「ならば」という言葉を見つけて印を付けさせる。イスラエルは、主の特別な宝となるために何を行なうよう求められていたか尋ねる。以下の質問の幾つかを話し合う。

- 出エジプト19:3-6から、主が大切にされるものについて何が分かりますか。
- 主が大切にされるものは、あなたが大切にしているものとどのように異なりますか。(モーセ1:39も参照)
- 出エジプト19:3-6は、主がイスラエルの民をエジプトでの束縛から救い出された理由を理解するうえで、どのように役立つでしょうか。
- 今日、人々を束縛しているものにはどのようなものがあるでしょうか。
- 主はわたしたちを罪や誘惑の束縛から救い出すために、どのような奇跡を与えてくださっているでしょうか。(アルマ7:10-16参照)。
- 主の特別な宝となるために、わたしたちは何をしなければならないでしょうか。それはなぜですか。(出エジプト19:5-6; モーサヤ18:8-10; モロナイ10:32-33参照)。

出エジプト20章では、主がイスラエルの人々に十戒を与えられたことが記されている。この章を学ぶとき、次のことを考えるよう勧める。「これらの戒めとわたしたちが神の『大切な宝』になることとの間には、どのような関係があるでしょうか。」

出エジプト19:3-25。主のみもとへ行くには、ふさわしく忠実であることによって自らを備える必要がある。
(20-25分)

出エジプト19:3-25の導入として、生徒たちが特に行きたいと思う場所を尋ねる。交通費や入場料など、そこへ行くために必要なものについて説明させる。

シナイ山の写真を見せる(生徒用学習ガイドの出エジプト19章の導入参照)。モーセは民をシナイ山へ連れて行こうとしたが、民はそのために必要な靈的代価を支払おうとなかったことを話す。「モーセは……その民が神の顔を見ることができるよう、彼らを聖めようと熱心に努めた。」(教義と聖約84:23) これはいつの時代にあっても、神の預言者の目的であることを説明する。

預言者ジョセフ・スミスはこう教えている。

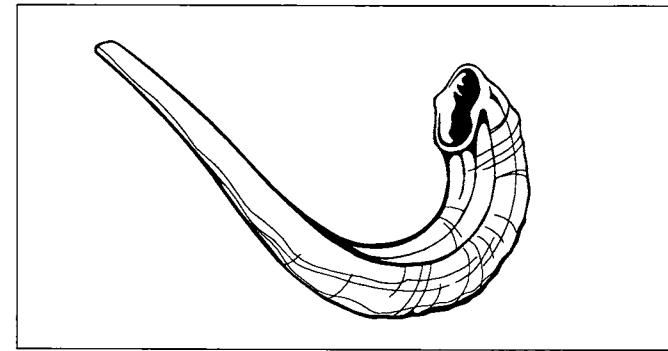
「アダムが〔アダム・オンダイ・アーマンの谷で(教義と聖約107:53-54参照)〕その子孫に祝福を受けた理由はこれである。すなわち、アダムは子孫を神のみもとに導きたいと思ったのである。彼らは一つの都を待ち望んだのである。『その都をもくろみ、また建てたのは、神である。』(ヘブル11:10) モーセは、神権の力によってイスラエルの子らを神のみもとに導こうとしたが、できなかった。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 159)

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、十二使徒定員会会長を務めていたときに次のように語った。

「アダムは自分の子孫をどのようにして主のみもとへ導いたのでしょうか。」

答えはこうです。アダムとその子孫たちは神権の位に入ったのです。現代の言い方をすれば、主の宮居に行って、祝福を受けたということです。」(「神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号、5参照)

モーセとイスラエルの人々にとってのシナイ山は、わたしたちにとっての神殿と同じだったように思われる。出エジプト19:5-13を読ませ、主のみもとへ行くために民に求められたことを見つける。ショーファ(図のような、羊の角で作ったラッパ)の絵を見せ、このラッパが鳴ったときに民は何をするはずだったか尋ねる。出エジプト20:18-19を読ませ、民が何をしたか答えさせる。



生徒に出エジプト19:16-19と教義と聖約84:23-24を読ませ、次のことについて話し合う。「主が民を召されたとき、民はなぜ登って行って主にお会いすることを恐れたのでしょうか。」以下の質問をする。

- イスラエルの民は、自らをふさわしく備えるのではなく、自分たちに代わってだれかが主にまみえるように望みました。それはだれでしょうか。
 - 今日の世の中に、預言者を信じていない人や、神と語ることができるのは預言者だけだと考えている人はいるでしょうか。
 - キリストのみもとに来るようという呼びかけに心を留めないと、わたしたちはどのような祝福を失うでしょうか。
- 黒板に以下のような表を書き、答えは空欄にしておく。

わたしたちは主にお会いする用意ができているでしょうか。

	エノクと その民	モーセと イスラエルの民	預言者と わたしたち
預言者はその 義務を果たし ましたか。	はい	はい	はい
民は用意をし ましたか。	はい	いいえ	?
その違いは何 でしょうか。	彼らは従い、 聖められた。	彼らは従わず、 聖められなか った。	?

モーセ7：18-21を読ませ、エノクとその民についての答えを記入させる。モーセとイスラエルの民について学んできたことを基に、該当する欄に記入させる。エノクの民とモーセの民の違いについて話し合う（特に出エジプト20：18-19；教義と聖約84：23-24を参照）。

主がわたしたちに行うように求めておられることを具体的に挙げ、これらの質問がわたしたちにどう当てはまるか話し合う。話し合うために、神殿推薦状を得るために基本的な条件について話し合ってもよい。ふさわしい状態で主の宮に入るなら、わたしたちは主のみもとに入ることになる（教義と聖約97：15-17参照）。どのようにしたら神のみもとへ行く用意ができていると判断することができるか尋ねる。

 **出エジプト20：1-17（マスター聖句、出エジプト20：3-17）。**十戒は神と隣人をどのように愛すればよいかを教えている。これらの戒めを守ることは、主のみもとへ行くためのふさわしさを保つのに役立つ。（75-90分）

十戒についてよく知っているか尋ねる。紙に1から10まで番号をふらせ、十戒のすべてを順番どおりに書き出せるか試してみる。（十戒を覚えるのに役立つ方法を教師が知つていれば、それを教えてよい。）

イエスは十戒のすべてを二つの戒めに集約された。マタイ22：36-40を読ませ、この二つの偉大な戒めを黒板に書かせる。（神を愛する、および隣人を愛する。）十戒について学ぶ際、それぞれの戒めがこの二つの戒めのどちらに当てはまるか分類させる。（1から4までの戒めは神を愛すること、5から10までの戒めは隣人を愛することに関するものである。）

主はイスラエルの人々のために何をしたいと望んでおられたか、またイスラエルの人々はその特権を得るために何をするよう求められていたかを説明する（出エジプト19：5-11；教義と聖約84：19-23参照）。以下のことを見いだせるように助ける。

・民は主が命じられることは何でも行うと決意した（出エジプト19：8参照）。

- ・主から十分に教えを受けるまではだれも山に登ることが許されなかった（出エジプト19：12, 21-25参照）。
- ・主はその後、民に戒めを与えられた（出エジプト20-23章参照）。
- ・民は教えられたばかりの戒めを守るという聖約を交わした（出エジプト24：3参照）。
- ・イスラエルの70人の長老たちは約束どおりに主を見ることができた（出エジプト24：9-11参照）。

次のことを理解させる。「十戒は、主が与えたいと望まれたすべての祝福をイスラエルの民が受けるために必要な土台であった。」

十戒の一つ一つの戒めは、神が求めておられる、あるいは禁止しておられる行動や態度について明確に記している。わたしたちはそれぞれの戒めに熱心に携わる必要がある（教義と聖約58：26-28参照）。クラス全体、または個人で、十戒の一つ一つを研究しながら以下のステップを活用させる。必要に応じて『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にある「十戒」の章（125-136ページ）を参照する。

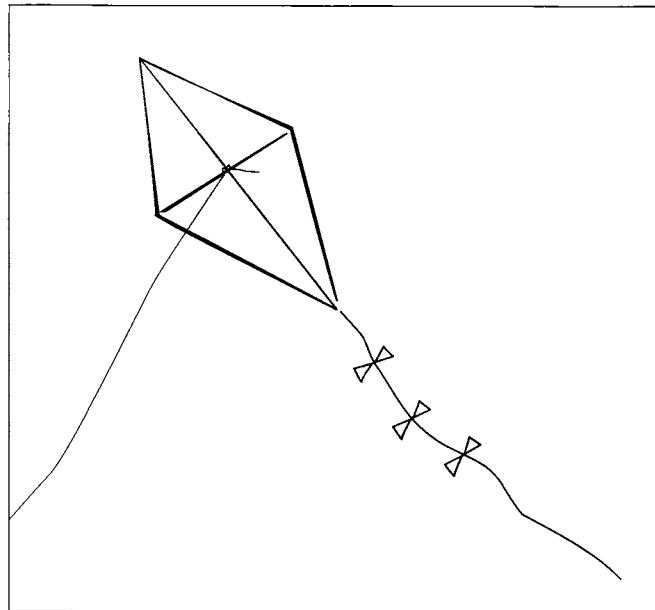
1. 出エジプト20章を読み、戒めを一つ選択する。
2. その戒めの意味、およびそれが示すものを明らかにする。
3. その戒めに背くことにつながる行動を幾つか挙げる。
4. その戒めを生活で応用するための積極的、または建設的な行動を列挙する。

各生徒にワークシートを用意し、それぞれの戒めについて話し合いながら書き込めるようにしてもよい。以下の例を参照する。

戒め	意味	戒めに背く行為	生活で応用するためにはが できるか
5. 「あなたの父と母を敬え。」	愛する。尊敬する。義をもって従う。	勧告を拒む。敬意を示さない。家族の名誉を傷つける。	両親に相談する。助言に従う。
6. 「あなたは殺してはならない。」	罪のない者の血を流してはいけない。	墮胎：あらゆる種類の殺人。人を傷つけることや、争いや戦争につながる怒りや憎しみ。	すべての命を尊重する。

すべての十戒について学んだ後、たこ、またはたこの絵を見せる。黒板に「戒めは_____」のようです。」と書く。次の質問をする。「たこが空中にとどまることができるのはなぜでしょうか。」（大半の生徒は風があるためだと答える。）糸は何のためにあるのか、また糸が切れたたらどうなるのか尋ねる。次のことを生徒に理解させる。「糸があると、たこは風に乗ってどこまでも飛んで行くことはできなくなるが、糸がなければ、たこは姿勢を保つことさえできず失速してしまう。」たこの糸と戒めとを比較させる。次の質問をする。「戒めはわたしたちを押さえつけるものでし

ようか。それとも高めるのに役立つものでしょうか」(1ニーファイ13:37;エテル4:19参照)。戒めは一見わたしたちを束縛するように見えるが、実際はわたしたちを罪から解放してくれるものであることを理解させる。



磐石、道路地図、鍵、階段など、戒めと類似点のあるものを空欄に当てはめ、黒板の文を完成させる。戒めは、わたしたちが現世においても永遠の世においても、幸福になるために与えられたものであることを証する。

出エジプト21-24章。出エジプト21-24章には、十戒を具体的な場面に適用するための事例が記されている。モーセの律法の大切なメッセージは、報復ではなく、償いと義にかなった生活である。(30-60分)

出エジプト21-23章から、幾つかの状況を選んで生徒に紹介する。それぞれの状況について説明しながら、生徒に判事になってもらう。それぞれの事例において正義を満たすにはどうすればよいか判断させる。次に、それぞれの事例についてどのような判決を下すべきか、主の言葉が記されている節を参照させる。例えば次のようなものがある。「あなたは隣人からシャベルを借りましたが、使用中に壊してしまいました。あなたは何をすべきでしょうか。」しばらく話し合った後、出エジプト22:14-15を読ませ、主が命じられたことを見つけさせる。

幾つかの例について学んだ後で、黒板に「報復」および「償い」と書き、これら二つの言葉がどのように異なるか説明させる。参考資料として、出エジプト21:24-25と出エジプト22:1を比較させる。

多くの人が、出エジプト21:24をモーセの律法の特徴として考えていることを伝える。そのような人々はそれを報復の律法、すなわち自分がされたように相手にすることであると考えている。律法がどのように適用されるかについて、これまでに学んだ事例を振り返り、この律法が要求したのは報復か償いかを話し合わせる(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』142-143ページにある出エジプト22:1-17

についての注解を参照)。

生徒と一緒に出エジプト23:1-9を読み、以下の質問をする。

- 友人の中には、時々戒めを破るように誘惑する人がいます。彼らはどのように誘惑するでしょうか。
- そのようなプレッシャーに負けないために、どのような関係を築くことができるでしょうか。
- 神の律法に従順になることで、どのような祝福が与えられますか。
- 人々がこれらの律法に従うとき、社会にどのような影響を及ぼしますか。

出エジプト23:20-33を読ませる。主がイスラエルの民に約束された祝福と、民に与えられた警告を挙げさせる(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』144ページにある出エジプト23:20-31についての注解を参照)。

次のことを理解させる。「モーセの律法は原始的な律法ではなく、信心深い振る舞いと、聖約への忠実さを要求するものであった。」生徒に次の質問をする。「わたしたちはいつ戒めを守ると誓約するのでしょうか」(教義と聖約20:77, 79参照)。

生徒とともに出エジプト24:1-11を読み、イスラエルの70人の長老たちがその忠実さゆえに主とまみえた経験について話し合う。ブルース・R・マッコンキー長老はこのように語っている。

「『神性の力』つまり義がなくては、『だれも神、すなわち父の御顔を見て、なお生きていることはできない。』不義な人は神の前に焼き尽くされるであろう。『さて、このことを、モーセは荒れ野の中でイスラエルの子らに分かりやすく教え、その民が神の顔を見ることができるよう、彼らを聖めようと熱心に努めた。』聖められるとは、清く、純真で、染みのない、罪のない状態となることである。最後の日に、聖められた者は日の榮えの王国、すなわち神とキリストが住まわれる王国にいる。『しかし、彼ら〔イスラエルの子ら〕は心をかたくなにし、神の臨在に堪えることができなかつた。』彼らは心の清い者になろうとしなかつたからである。『そのため、主の怒りは彼らに向かって燃え、主は激しく怒って、彼らは荒れ野にいる間神の安息に入れないと誓った。この安息とは、主の完全な榮光のことである。』(教義と聖約84:21-24)モーセの勧告に従っていたならば、すべてのイスラエルが主にまみえていたかもしれない。しかし、実際に従ったのはわずかであった。例えばあるとき、モーセとアロン、アロンの息子のナダブとアビウ、および『イスラエルの七十人の長老たち……がイスラエルの神を見』たが、モーセが尽くしてきた人々は暗黒と無知の状態にとどまった(出エジプト24:9-10)。」(A New Witness for the Articles of Faith, 494)

真の平安と幸福および永遠の祝福は、戒めを守ることによってもたらされることを証する。

出エジプト25-40章

はじめに

シナイ山において、主はモーセにイスラエルの人々を贖うための栄光に満ちた計画を明らかにされた。この計画は、主の完全な栄光を受ける機会をイスラエルの人々に与えた（出エジプト25:8; 40:34-38; 教義と聖約84:19-24参照）。この計画の一部として、モーセは幕屋の建築、その目的、およびその中で職務を行う人々に関する指示を受けた。その幕屋の中で、イスラエルの人々は神の儀式を受け、救いの聖約を交わすことができた。そのとき明らかにされた真理の多くは、現代の神殿においても再現されている。ほとんどの情報は二度繰り返されている。出エジプト25-30章は幕屋に関してモーセに授けられた計画であり、35-40章は実際の建築についての記録である。

出エジプト32-34章では、イスラエルの人々がその不従順さゆえに神の完全な祝福を失うという悲しむべき出来事が記されている。その結果、人々は祝福の一部だけしか享受できなくなってしまった。モーセが石の板を受け取りに行く前に、イスラエルの人々は主の戒めを守ると聖約した（出エジプト24:1-7参照）。ところが、イスラエルの民はモーセがいない間に聖約を破ってしまったため、祝福と機会の一部を失ってしまったのである。

主と交わした聖約を守ろうと努力するときに、これらの章を自分自身の生活にどのように応用できるか考える。イスラエルの人々を愛し、彼らのために嘆願し、彼らを教え導き続けたモーセの、キリストのような模範に注目する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神はその子らに神殿を建てるように指示される。神殿は聖約を交わし、救いの儀式を受ける場所である。そこで教えられる原則は天の御父のみもとへ戻るための規範を明らかにしている（出エジプト25-31章；35-40章参照）。
- 人は神から召され、権能を持つ者によって神の聖任を受けなければならない（出エジプト28:1参照。ヘブル5:4；信仰箇条1:5も参照）。
- 不従順は、主が与えたいと望んでおられる特権と祝福を遠ざける（出エジプト32:7-9, 15-16参照。ジョセフ・スミス訳出エジプト34:1-2；教義と聖約84:19-25も参照）。
- 主はその御心のままに地上の義にかなった人々に御姿を現される（出エジプト33:11参照。出エジプト24:9-10；ジョセフ・スミス訳出エジプト33:20, 23；教義と聖約88:67-68; 93:1も参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』14「幕屋」では、歴史を再現することで幕屋が象徴しているものを説明している（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

 **出エジプト25-40章。**現代の神殿と同じように、幕屋はイスラエルの人々にとって神聖な場所であった。そこで行われた救いの儀式は、天の御父のみもとに戻るための規範を教えている。（40-50分）

生徒が来る前に、テープまたは糸を使って教室の床に幕屋とその庭の略図を描く（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』160ページにある図を参照）。教室に古代および現代の神殿の写真を飾るか、黒板に幕屋とその庭を描いてそれらが何であるかを書き添えておく。

生徒に神殿の目的を説明させる。聖文には神殿の持つ二つの一般的な目的が記されている。以下の聖句を読ませ、それらの目的を答えさせる。

- 出エジプト25:8; 29:42-45; 教義と聖約97:15-16（主の宮とすること。）
- 教義と聖約124:38-41（聖約を交わし、神聖な儀式を受けること。）

次の原則が理解できるように助ける。「神殿の大切な目的の一つは、救いの計画についての理解を深めさせ、この計画を通して与えられるあらゆる祝福をこの世から永遠にわたって受けける方法について教えることである。」これはイスラエルの神殿であった幕屋に関して同じであった。

黒板に、『旧約聖書：創世記-サムエル記下』（160ページ）にあるような、幕屋とその庭の図を描き、それらが何であるか書き添えておく。教室の床に描いておいた「幕屋」の図のどの部分に自分が座っているか、それぞれの生徒に判断させる。座っている場所ごとにグループ分けし、幕屋のその部分で何が行われたか、またそこで行われたことは永遠の命に向かって進歩することについて何を教えているか発表させる。「幕屋の庭」にいる生徒は、燔祭の祭壇や洗盤について発表する。「聖所」にいる生徒は、供えのパンの机、純金の燭台、および香の祭壇について発表する。「至聖所」にいる生徒は、契約の箱について発表する。その際、生徒用学習ガイド出エジプト25-27章と30章の資料を参照させ、これらの質問や聖典の記述から、幕屋のそれぞれの場所や物が持つ靈的な意味を理解するのに役立つ情報を見つけさせる。

グループが発表の準備を終えたら、全員で教室に描かれた幕屋を回り、各グループに、割り当てられた場所や物が持つ靈的な意味について説明させる。発表に基づいて、それぞれが持つ靈的な意味を黒板の図に書き加える（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』161ページの図を参照）。

入手できれば、『末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿』（35863 300）に載っている現代の神殿の写真を見せる。（写

真はそのほかに、教会付属図書館、教会機関誌、および福音の視覚資料セットからも入手できる。) 次のことを認識させる。「これらの神殿の内装やそれぞれの部屋もまた、天の御父のみもとへ戻るための規範を示している。」

この活動から学んだことを二つ以上書かせる。時間があれば、何人かに書いたことを紹介してもらう。

出エジプト28:1。人は神から召され、権能を持つ者によって神権への聖任を受けなければならない。(15-20分)

全員の前で、一人の生徒から時計や指輪など高価なものを一つ借りる。それを格安で売ると伝える。持ち主が反対したら、他人の所有物を売ろうとすることがなぜ間違っているのか尋ねる。(そのようなことを行う権利や権限がないから。) このたとえを、神権を持っていない人が教会員でない友人にバプテスマを施そうとしている状況になぞらえさせる。次の質問をする。「そのバプテスマは有効だと思いますか。それはなぜですか。」

出エジプト28:1を読ませ、アロンとその息子たちは何を受けるように主から召されたか見つけさせる。出エジプト28:1とヘブル5:1, 4および信仰箇条1:5に印を付けて相互参照させる。次の質問をする。「これらの節によると、人はどのようにして神権に召されるでしょうか。」

デビッド・O・マッケイ大管長はこう記している。

「神権に関するこの質問こそ、イエス・キリスト教会とキリスト教プロテstant各派の信条とを区別する、大切な要素の一つです。教会は、誤解の余地がないはつきりとした言葉で『福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならない』(信仰箇条第5条)と宣言しています。ここで教会が宣言している内容は、時の絶頂にキリストの権能について語った使徒の言葉を繰り返すものであり、この質問に対してその使徒は『だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである』(ヘブル5:4)と書き記しているのです。」(Gospel Ideals [1953年], 165)

ブルース・R・マッコンキー長老はこう記している。

「神権は、人の救いに必要なすべての事柄を行うために、地上の人間に委譲された神の力と権能です。……主から授けられるこの権能を実際に持つていなければ、主の務めを行う者は、悪魔を追い出し、病人を癒し、聖靈を受け、天で認められるバプテスマを施すことはできないのです。また、地上における主の王国の正当な代理人だけが執行できるほかのいかなる事柄も行うことはできないのです。ルカ9:1-6参照。」(Doctrinal New Testament Commentary, 第1巻, 748-749)

出エジプト28:1には、アロンとその息子たちが、祭司として務めを果たすよう油を注がれ聖任された召しのこと

が記されている。

次のことについて教師の証を述べる。「神の真の権能は、教会の中に見ることができる。なぜなら神権を持つすべての人が、アロンやその息子たちと同じように神から召され聖任されているからである。」

出エジプト28章。わたしたちが身に着ける衣服はメッセージを伝える。(15-25分)

雑誌や新聞から、いろいろな格好をした人々の写真を見る。どのような服装をしているかを見て、彼らが何をしているか、どこに行こうとしているかなど、それらの服装が伝えていると思われるメッセージについて説明させる。

スポーツをしている生徒に、競技の際にどのような格好をするか尋ねる。また、身に着けるものの機能や、それを身に着けることで伝えようとしているメッセージを説明させる。次の質問をする。

- 晩餐会や聖餐会に運動着を着て行くことは適切なだと思いますか。なぜ適切ではないのでしょうか。
- 服装はわたしたちの振る舞いや態度にどのような影響を与えると思いますか。

出エジプト28:2-4を読み、アロンとその息子たちに関して神が明らかにされたことを調べる。次の質問をする。

- 祭司が幕屋で着る衣服を主が啓示によって明らかにされたことから、何が分かるでしょうか。
- 今日、主は同じような要求をしておられるでしょうか。

これらの節で述べられている6つの衣服について調べさせ、黒板に書き出させる。生徒に衣服の意味と象徴を理解させるために、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にある出エジプト28章と39:1-43についての注解を利用する。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老による以下の言葉を紹介する。

「聖餐を執行する祭司、教師、執事の兄弟は、できるだけ白いワイシャツを着るように提案したいと思います。教会の神聖な儀式では、しばしば儀式用の服装をしますが、白いワイシャツはバプテスマを受けたときに着た白い服装や、間もなく皆さんのが神殿に参入し、伝道に出るときに着る白い服装を思われます。」

この簡単な提案は、慣習や形式を意図したものではありません。わたしたちは、執事や祭司の兄弟たちを型にはめたいのではありません。あるいは清い生活を送ることを差し置いて、必要以上に悩んでほしくはないのです。若者の服装は、神聖な原則を教えるのに非常に効果があり、神聖な印象を与えることは確かです。かつてデビッド・O・マッケイ大管長は次のように教えました。『白いシャツは聖餐の神聖さを印象づけるのに役立つ。』(Conference Report, 1956年10月, 89参照) (『聖徒の道』1996年1月号, 73参照)

以下の質問をする。

- ホlland長老の言葉から何を学びましたか。
- アロン神権者の服装は、聖餐の神聖さを印象づけるのにどう役立つのでしょうか。
- パプテスマを受けるときや神殿に入るときに白い衣服を着るのはなぜでしょうか。

小冊子『若人の強さために』(14-15)にある服装と外見に関する指針を読む。次のことを理解するように助ける。「幕屋における祭司たちがそうであったように、多くの場合において、人々の服装は彼らがパプテスマの聖約を守って神の証人となるのに役立つ。」(モーサヤ18:10-12参照)

出エジプト29章。古代の幕屋で勤めを果たすために人々を職に任じた、または任命した方法は、主の家に入るためにはどのように備えればよいかを教えてくれる。(30-40分)

神殿に参入したときのことについて、または神殿で経験した最も神聖な出来事を思い起こさせる。神殿に参入し、それをできるかぎり最高の経験とするためにはどのような準備ができるか尋ねる。教義と聖約97:15-17を読み、次のことを調べさせる。「神殿参入をすばらしい経験とするにはどうしたらしいでしょうか。また何が神殿参入を満たされないものとするのでしょうか。それについて主は何とおっしゃっているでしょうか。」神殿推薦状の面接で一般的にどのような質問をするか紹介する。(神権指導者をクラスに招待してそれらの質問について話し合ってもよい。)次の質問をする。「ふさわしい状態で神殿に参入するために、また神殿の祝福をもっとよく理解するために、定期的に何ができるでしょうか。」

これから次のことについて学ぶと生徒に伝える。「モーセの時代、祭司たちはどのようにして幕屋に入る備えをしたのでしょうか。」イスラエルの民はより高い儀式を受ける資格を失ったため、幕屋の最も神聖な場所へは祭司だけしか入れなかつた。祭司を聖別し任命することは、多くの点で、神殿の業に携わる備えをするためにわたしたちが行うべきことを表している。

生徒用学習ガイドの出エジプト28-29章にある活動Bをさせる。それから学んだことを発表させる。以下の6つの出来事を見つける度に黒板に書き出し、それらが何を象徴しているか話し合う。以下をガイドとして用いる。

- **出来事1:**アロンとその息子たちは水で洗われた。これは清められることを象徴している(モーセ6:57)。
- **出来事2:**アロンとその息子たちは聖なる着物を着た。これは「新しき人」を着て、主において新たなる人となることを象徴している(コロサイ3:10-14参照)。『旧約聖書:創世記-サムエル記下』156-158にある出エジプト28章、39:1-43についての注解も参照)。
- **出来事3:**アロンとその息子たちは油を注がれた。油は明かりのために必要なもので、聖靈を象徴している。御靈は人生を導くために与えられる(サムエル上16:

13;教義と聖約45:56-59参照)。

- **出来事4:**アロンとその息子たちは罪祭をささげた。これはすべての不義を捨て去ることを象徴している(アルマ22:18参照)。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老はこう語っている。

「個人の犠牲として、祭壇に動物をささげることはしません。代わりに、わたしたちの中の動物的な欲望を祭壇の上において、焼き尽くすのです! それは犠牲として主にささげる『打ち碎かれた心と悔いる靈』であり(教義と聖約59:8)神を知るために『自分の罪をすべて』捨て(アルマ22:18)、十字架を負うために必要なことです。自分を捨ててはじめて主を完全に受け入れができるのです。」(『聖徒の道』1995年7月号、73参照)

- **出来事5:**アロンとその息子たちは燔祭をささげた。これはイエス・キリストの犠牲を象徴している(アルマ34:14-16参照)。

- **出来事6:**アロンとその息子たちの右耳、右手の親指、および右足の親指に血がつけられた。耳は聞くこと、手の親指は行うこと、足の親指は歩くことを象徴している。これは彼らが神の言葉を聞き、神が彼らに求められることを行い、神が彼らに求められるように歩むべきであることを示すために行われた(申命10:12-13参照)。

モーセ6:57-60を読ませ、アダムの経験とアロンとその息子たちの経験とを比較させる。主はアダムに次のように説明された。「わたしたちは水と御靈みたまと血によって再び生まれ(59節参照)、この過程を通して『神の前に住む』(57節)ことができるようになる。」主はアダムに次のように言われた「あなたがたが水によって戒めを守り、御靈によって義とされ、血によって聖められるからである。」(60節)

アロンとその息子たちが任命された過程にこの規範が見られる。

- アロンとその息子たちは洗い清められた。これは彼らが新しい着物を身に着け、新たな人となることを象徴している。
- アロンとその息子たちは聖靈を象徴する油を注がれた。こうして象徴的に御靈が注がれた後、彼らが神の前に義とされるために犠牲がささげられた。
- アロンとその息子たちは聖められるために血を注がれた。すなわち彼らのために流された血(この場合は動物によるもの)によって聖くされた。

アロンとその息子たちは「彼らを職に任じ、聖別するため、あがないに用いた」犠牲を食べた(出エジプト29:31-34参照)。これは今日わたしたちが聖餐を受ける理由である。聖餐はわたしたちのためになされた贖罪しょくざいを示しており、それを受けることは贖罪をわたしたちの生活の一部とすることを象徴している。

パプテスマの聖約と儀式および聖餐を受けることは、ア

ロンとその息子たちの任命において象徴されている事柄とどのように似ているだろうか。それを生徒に説明させる。福音の原則と聖約に従順であるならば、神殿でさらなる儀式と聖約を受けることができることを証する。

出エジプト32:1-8。イスラエルの人々のように、こんにち多くの人々が偽りの神々を拝んでいます。(60-90分)

以下の項目を黒板に書く。バアル。石や木の像。お守り。星占い。お金。車。スポーツ選手、テレビタレント、俳優、ミュージシャン。「はい」または「いいえ」で答えられる質問を20回まで使って、これらに共通するものを見つけるよう伝える。(これらは時として、わたしたちが時間、お金、関心をつぎ込む重要な対象となる。わたしたちはしばしばこれらのものに心を奪われることがある。)

生徒が答えを当てた後で次のように質問する。「偶像崇拝(創造者よりも被造物を愛すること〔ローマ1:25参照〕)はなぜ重大な罪なのでしょうか。」(偶像崇拝に関するその他の情報は、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』267-271にある特別講座「古代および現代の偶像崇拝」を参照。)預言者ジョセフ・スミスの以下の言葉を紹介する。

「ここで、理性と知性を備えた者が、命と救いを与える神への信仰を行使するには3つの事柄が必要であることを認識しましょう。

第1に、神が実在するという考え方。

第2に、神の特質、完全さ、および属性についての正しい考え方。

第3に、自分が歩んでいる人生が神の御心にかなつたものであるという確かな知識。これら3つの大切な要素についての知識がなければ、すべて理性を備えた者の信仰は不完全で実りのないものとなります。しかしこの知識があれば、それは完全で実り多いものとなり得るのです。」(Lectures on Faith, 38)

以下の質問をする。

- 神の特質について正しく理解することは、信仰にとってなぜ大切なのでしょうか。
- 出エジプト32:1-8を読む。イスラエルが拝んだのはどのような偽りの神でしたか。
- 出エジプト20:3-5を読む。偽りの神について主が前もってイスラエルの民に告げられたのはどんなことですか。
- 出エジプト24:3を読む。人々にとって偶像崇拝がそれほどまでに重大な罪だったのはなぜでしょうか。
- 出エジプト32:1を読む。なぜ彼らは金の子牛を造って拝んだのでしょうか。(預言者への信頼が足りなかった。忍耐に欠け、靈的なものを物質的なものと引き換えた。)
- 今日人々は、どのような形でこれらと同じ問題に苦しんでいるでしょうか。



出エジプト32:9-35をクラス全体で読む。一人に1,2節ずつ割り当てる。読み進めながら、以下の質問の中から、幾つかを尋ねる。

- イスラエルが偽りの神を拝んだとき、主はどのように感じられたと思いますか。(9-10節参照)。
- モーセは民を救おうとして主にどのようなことを願いましたか。(11-14節参照。出エジプト32:12も参照)。
- アロンは自分の罪を正当化するために何と言ひ訳しましたか。(21-24節参照)。
- 今日わたしたちはどのような方法で時々自分の罪を正当化しますか。
- モーセは26節で、現代の預言者と同じことを求めています。それは何ですか。
- わたしたちは、どのようにして自分が主につく者であることを示すことができるでしょうか。
- キリストがすべての罪人のために行われたことを思い起こさせる言葉、または文章がありますか。(30節参照)。
- 30-34節には、民の悪事にもかかわらずモーセが彼らを愛していたことが分かります。どのようなことからそれが分かりますか。

次のことを説明する。「わたしたちの行動には常に結果が伴い、神はわたしたちに自らの行動に対して責任を問われる。」以下の参考箇所を黒板に書き、偶像を拝んだことによってイスラエルが被った結果を見つけさせる。

- 出エジプト32:25-29(3,000人が殺された。)
- 出エジプト33:1-6; 教義と聖約84:23-24(主は民のもとから離れられた。)
- 出エジプト33:7-8(モーセもまた民の中から出て行った。)
- 出エジプト33:19-23; ジョセフ・スミス訳出エジプト33:20(すべてのイスラエルの人々に与えられていた神を見る特権が失われた。)
- ジョセフ・スミス訳出エジプト34:1-2; ジョセフ・スミス訳申命10:2(民は初めの板、すなわち、より高い

神権とそれにかかる儀式とを失った。)

イスラエルの民は、より高い神権の儀式を失うことによって、どれほど大きな影響があるか完全には理解していなかった。これを説明するために次のことを行う。一人の生徒に小さくておいしいキャンディー、または生徒の注意を引くものを渡す。次に、キャンディーを持っていたいから、それとも教師のポケットに入っている（もっとおいしいキャンディーや、食事券などのキャンディーよりずっと価値ある）ものと交換したいか尋ねる。教師のポケットに入っているものをもらうためには、最初に手にしたものをおきらめ、教師のために何か特別なことをしなければならない。

生徒が最初に手にしたものと交換しない場合は、次のことを話し合う。「神殿の祝福のすばらしさを、それらを経験したことのない人に説明することはどれほど難しいでしょうか。」生徒がポケットの中身を知りたがっても教えない。さらに次のことを説明する。「最も恐ろしいことは、手にすることができたにもかかわらず、自らの忍耐の不足、不従順、無関心、または喜んで犠牲を払わなかつたために受けられなかつたものについて後から知ることである。」最後に、生徒が逃したものを見せ、自分が何を失ったか知るために今持っているもので満足する人がいることを話す。しかし、自分が失ったものを知るとき、そのような気持ちは消え失せてしまう。

生徒がポケットの中のものを選んだ場合は、最初のものをそのまま選んでいたら何を失うことになったか指摘する。

今日、石や土でできた偽りの神々を拝む人はほとんどいない。しかしそれ以外にも偽りの神々となり得るものはたくさんある。スペンサー・W・キンボール大管長の以下の言葉を読む。

「何であれ、人が最も信頼を置くものはその人の神となる。そして、もしその神が生ける真のイスラエルの神でないならば、それは偶像崇拜につながるのである」（「偽りの神々」『聖徒の道』1977年8月号、351）。

わたしたちが心を奪われるものの例を挙げさせる。それらを黒板に書き出し、さらに当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老が以下の言葉の中で述べているものを加える。

「現代の偶像や偽りの神々は、衣服、家、仕事、機械、自動車、ヨット、そのほか種々の物質的なものであって、わたしたちを神の道からそらそうとしている。……

手で触ることのできないものは、容易に神になる。学位、証書、称号は偶像になる。多くの若者たちは、第一に伝道に出るべきなのに、そうしないで大学へ進学しようとする。……

多くの人はまず家を建て、家具を備え、自動車を購入する。その後で什分の一を納める『余裕がない』ことに気づくのである。このような人々はだれを礼拝している

のであるか。……学位を得るまで子供をもうけないでおこうとする若い夫婦は、そのような態度は偶像礼拝であると指摘されたとしたら、少なからず打撃を受けることであろう。……

多くの人は狩り、釣り、休暇、週末のピクニックや旅行を礼拝している。野球、フットボール、闘牛、ゴルフといったスポーツを偶像としている人々もいる。……

人々が礼拝するほかの偶像に権力と権勢がある。成功への階段を上るために、靈的なこと、特に道徳的に価値あることを踏みつけようとする人が大勢いる。これら権力、富、勢力の神は、イスラエルの民が荒野にあったときに礼拝した黄金の子牛に匹敵するほどの強制力を持っている」（『赦しの奇跡』、40-41参照）。

唯一の生ける真の神に信頼を置くよう生徒を励ます。

出エジプト33:9-20（マスター聖句、出エジプト33:11）。主は地上の義人に御姿を現すことがおきになる。また、実際に御姿を現される。（20-25分）

3人の生徒に前に出て来てもらい、二人の宣教師と一人の求道者の役をしてもらう。求道者は出エジプト33:20とヨハネ1:18を読み、宣教師に対して以下の質問をする。「これらの聖句が真実だとしたら、神がジョセフ・スミスに御姿を現されることなどあり得るでしょうか。」宣教師にこの質問に答えさせる。必要であれば、残りの生徒たちに彼らを助けさせる。

出エジプト33:11；ヨハネ14:21, 23；教義と聖約67:10；93:1を読み、神を見ることについてこれらの聖句が何を教えているか話し合う。『聖句ガイド』を使い、神が人々に御姿を現された例を見つけさせる。以下はその例である。

- アダム（教義と聖約107:54参照）
- セツ（モーセ6:3参照）
- エノク（モーセ7:3-4参照）
- アブラハム（アブラハム3:11参照）
- イサク（出エジプト6:3参照）
- ヤコブ（創世32:20参照）
- ソロモン（列王上9:1-2参照）
- エゼキエル（エゼキエル1:26-28参照）
- アモス（アモス9:1参照）
- ステパノ（使徒7:55-59参照）
- ヤレドの兄弟（エテル3:20参照）
- ニーファイ、ヤコブ、およびイザヤ（2ニーファイ11:2-3参照）
- モルモン（モルモン1:15参照）
- モロナイ（エテル12:39参照）

- ジョセフ・スミス（ジョセフ・スミス－歴史1：16－17参照）
- そのほか記録に残されていない多くの人々（エテル12：19参照）

この一見矛盾しているように思われる問題を解決するために、『聖句ガイド』の巻末にあるジョセフ・スミス訳出エジプト33：20およびジョセフ・スミス訳ヨハネ1：19に注目させる。ジョセフ・スミス訳の参照聖句を読ませ、預言者ジョセフ・スミスによってこの問題がどのように明らかになったか尋ねる。預言者ジョセフ・スミスはこう教えていている。

「福音の第一の原則は、神の属性を確実に知ること、それに加えて、人が人と語るようにわたしたちが神と語り得ることを知ることである。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 345）

主が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたことを証する。生徒にも証をするように勧める。主は、義にかなった御自分の子供たちに御姿を現すことがおできになり、また実際に御姿を現される。しかし、それは『神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って』（教義と聖約88：68）起こることを理解させる。教義と聖約93：1を読み、すべてのふさわしい教会員にどんなことが起こるか尋ねる。

出エジプト34：1－4。主はイスラエルの人々により低い律法を与えられた。（5－10分）

手紙を書くときに、何度も書き直さなければならなかつた経験があるか尋ねる。主は、出エジプト記の中でそれと似たことをされたと説明する。

- 出エジプト32：19を読む。主が用意され、モーセに与えられた石の板はどうなりましたか。
- 出エジプト34：1－4およびジョセフ・スミス訳出エジプト34：1－2を読む。2番目の板はどのように造られましたか。だれによって造られましたか。それらは初めのものとどのような点で異なっていたでしょうか。
- 教義と聖約84：19－27を読む。イスラエルの民に、より低い律法が与えられたのはなぜでしょうか。
- ガラテヤ3：24－25を読む。より低い律法の目的は何だったでしょうか。より高い律法を与えられているわたしたちには、どのような責任があるでしょうか。

出エジプト35－40章。幕屋の建築。（5－10分）

出エジプト25－30章は35－40章とよく似ていることを説明する。25－30章には幕屋はどのようなもので、どのように建てるべきかを示したモーセの啓示が載っており、35－40章には実際に幕屋を建築したときの記録が載っている。

生徒用学習ガイドにある出エジプト35－40章のための活動Aをさせ、幕屋を奉獻したときの出来事について学ぶ。神殿の奉獻式に出席したことがあるか尋ねる。出席したことがあれば、希望する生徒に、その経験を通してどんなことを感じたか話してもらう。

イスラエルの人々はメルキゼデク神權とその儀式への靈的な備えができていなかった。そのため主は、イスラエルの人々をアロン神權すなわちレビ神權の下で組織し、彼らにモーセの律法を与えられた（出エジプト32:19；ヨセフ・スミス訳出エジプト34:1参照）。レビ記（Leviticus）は「レビ族にかかる」という意味を持ち、レビ神權の職務を果たして、モーセの律法にある燔祭の儀式を執行するにはどうすればよいかを記した手引きのようなものであった。そこには、イスラエルの民が荒れ野をさまよっていたときに建築し奉獻した幕屋内での儀式の執行方法が詳しく記されている。また、レビ記にはすべての人に当てはまる幾つかの特別な指示も記されている。

聖くなる過程は、レビ記の重要なテーマの一つである。非常に興味深いことに、レビ記には「聖なる」（holy）という言葉や「聖別」（sanctify）など、それに関連する言葉が150回以上出てくる。聖なるために、わたしたちはまず清くなる必要がある。すなわち罪の影響から解き放たれて、神の前で義とされる必要がある。しかし聖さとは、清くあること以上のものである。それには聖めの過程、すなわち敬虔な人格を培っていくことが含まれる。レビ記の全体的な構成には、靈的成長の過程と同様のパターンが見られる。

・レビ1-16章では、ふさわしい犠牲をささげることによって、また「日々の勤めと儀式」（モーサヤ13:29-30参照）を通して従順さを示すことによって、神の前に清く正しくなることが教えられている。

・レビ17-27章では、聖約の民であるイスラエルをほかのすべての人々から区別した、モーセの律法における聖さの標準が教えられている（出エジプト19:5-6参照）。レビ記に関するそのほかの情報やより詳しい内容については、『聖句ガイド』の「レビ記」（291ページ）を参照する。

レビ1-16章

はじめに

モーセの律法は「〔イスラエルの人々〕をキリストに連れて行く養育掛」であった（ガラテヤ3:24。2ニーファイ25:24参照）。レビ1-16章には、福音の原則を教えた律法の幾つかの勤めと儀式に関する指示が記されている。

- 1-7章では、民がささげる様々な種類の犠牲について述べられている。これらの犠牲は救い主とその贖いの犠牲を象徴していた。
- 8-10章では、犠牲をささげるふさわしさを保つために、祭司に求められた条件が説明されている。

- 11-15章では、清さと汚れに関する様々な律法が説明され、その大切さが強調されている。これらの律法は、個人として（11章参照）、家族として（12章参照）、および民として（13-15章参照）清くあることの必要性を示していた。

- 16章は、清さに関するあらゆる律法の靈的頂点を成すものである。ここでは毎年の贖罪の日にささげられる大いなる清めの犠牲に関する指示が与えられている。

これらの章を研究しながら、モーセの律法が勤めと儀式の厳しい律法（モーサヤ13:29-30参照）、肉の戒めの律法（教義と聖約84:27参照；「肉の」とは肉体に関するという意味である）、および養育掛（ガラテヤ3:24参照）と呼ばれている理由を探す。特にモーセの律法そのものが、どのように神の御子の大いなる最後の犠牲を指示するものとなっていたかに注目する（アルマ34:13-14参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- モーセの律法で説明されている犠牲とささげ物は、イエス・キリストの贖罪を象徴している（レビ1-7章参照。モーセ5:5-8も参照）。
- 完全に悔い改めるには、人は真の悲しみを経験し、自らの罪を告白し、誤った行いに対する償いをしなければならない（レビ1:1-4；5:5；6:4-7参照。イザヤ1:16-19も参照）。
- 神權の儀式は主が指示されたとおり正確に、またそれを執行するよう聖任されているふさわしい者によって執行されなければならない（レビ8:6-13；10:1-11参照）。
- イエス・キリストのもとへ来るには、どのようなものであっても主が汚れていると言われるあらゆるものから遠ざかる必要がある（レビ11:44-47；12-15章参照。モロナイ10:32も参照）。
- イエス・キリストとその贖罪の力への信仰行使することは、罪から清められ、罪への誘惑に打ち勝つうえで助けとなる（レビ16章参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』15「モーセの律法」では、モーセの律法の教え方が提案されている。これは生徒に見せるために作成されたものではない（教え方については『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

レビ1-27章。モーセの律法はイエス・キリストの福音の基本原則を教えるのに役立った。それは犠牲、清さ、この世的なものからの分離、そして記念という4つの主な原則を中心としていた。（40-50分）

ある料理のレシピに書かれた材料をクラスに持参する。

レシピを見せずに、生徒の一人にこれらの材料を使ってクラスのために何かおいしいものを作るよう命ぜる。生徒が1、2分間奮闘した後で、レシピや説明書なしに作業を行うことがいかに難しいか、または不可能であるかについて話し合う。次の質問をする。

- 指示に従わないとどのような結果を招くと思いますか。
- レシピや説明書はどのように役立ちますか。

教会で使用されている説明書すなわち手引きにどんなものがあるか挙げさせる（アロン神権の手引き、若い女性の『成長するわたし』など）。『教会指導手引き』を見せ、このような資料がいかに役立つか話し合う。

生徒用学習ガイドのレビ記の導入部分を読んで話し合うよう勧める。レビ記がどのような点で手引きに似ているか見つけるよう指示する。モーサヤ13：29-30を読み、次の質問をする。

- モーセの時代の人々に、モーセの律法のように具体的な指針が必要だったのはなぜですか。
- 彼らの手引きは現代の人々にとってどのような点で価値がありますか。

レビ記には、モーセの律法に含まれている4つの基本原則についての指示が記されていることを教える。黒板に4本の柱を描き、それらに「犠牲」、「清さ」、「分離」、「記念」と書く。これらの原則一つ一つについて説明し、なぜ重要だったのか話し合う。以下の説明や、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるレビ記についての注解（163-203ページ）から、役立ちそうな資料を引用する。

1. 犠牲。動物が犠牲としてささげられたのは、救い主イエス・キリストが人々の罪のために御自身の命を犠牲にされたことを民に教えるためであった（モーセ5：6-7参照）。それぞれの犠牲がささげられた方法は、将来成就する救い主の贖罪に民の思いを向けさせる役割を果たした。イエス・キリストの象徴として、犠牲には特定の条件を満たす動物だけが選ばれた。

2. 清さ。モーセの律法の下で、民は肉体的な清さを維持するよう求められた。これには適切な食事と、汚れたり病気になったりした人々や動物を避けることが含まれていた。これらの律法は生活に密着していたので、従順と悔い改めを通して罪から清められることを民に思い起こさせた。

3. 分離。主はイスラエルの民に、この世の邪悪な民とかかわりを持たないように命じられた。この戒めはイスラエルの民に、この世的なものや罪から自らを遠ざけるように教えた。民は最終的に非常に邪悪な民（カナンびと）の中で生活することになるため、その生活様式と行動規範において独自性を保ち続ける必要があった。同じ信仰を持たない者との結婚は認められていなかった。

4. 記念。モーセの律法はイスラエルの民に、主が彼らにどれほど祝福を与えてこられたかを思い起こさせた。また受け継ぎ（先祖が示した模範）や、イスラエルの人々が

主の選ばれた聖約の民であることを思い起こさせた。祭日や祝日、および安息日の遵守は、イスラエルの民が主を覚えるのに役立った。

以下の参照聖句の幾つかを黒板に書く。生徒をグループに分けて聖句を読ませる。それぞれの聖句が、モーセの律法に含まれている4つの原則のどれについて説明しているか見つけさせる。

- 出エジプト12-13章；22：29；レビ1-6章；16章；17：11；申命15：19-23（犠牲）
- レビ8：6；10：10；11-15章；22：6（清さ）
- レビ18：3-5；19：19；20：23-26；申命22：9-11；26：18-19（分離）
- レビ23章；申命8：2；16章；26章（記念）

聖句と一致するモーセの律法の原則を見つけた後、この活動から学んだ重要な事柄を幾つか発表させる。今日与えられている儀式、戒め、または指示の中から、わたしたちがこの4つの原則に従ううえで役立つものを挙げさせる。（例えば、教会の召しは犠牲を要求する、バプテスマの聖約は清さの大切さを思い起こさせる、知恵の言葉は社会の邪悪な習慣を遠ざけるうえで役立つ、聖餐はイエス・キリストを絶えず思い起こさせる。）以下のようないくつかの質問について話し合う。

- 犠牲を払うことや清さを保つことはなぜ大切ですか。
- この世的なものから遠ざかることは、敬虔さを保つのにどう役立ちますか。
- 主を思い起こさせてくれるものにはどのようなものがありますか。
- 神権の儀式はどのような意味でイエス・キリストの福音の基本原則を教えていますか。

生徒用学習ガイドにあるレビ記のための活動のどれかを行った生徒がいれば、学んだことをクラスで発表させてよい。

レビ1-7章。モーセの律法で説明されている犠牲は、イスラエルの民が悔い改めて神への感謝と献身を表すのに役立った。福音は今日わたしたちが同じことをするのに役立つ。モーセの律法が求めていた事柄を研究すると、神との関係を確立するための原則を見直すことができる。（35-45分）

黒板に以下の言葉を書く。

- 人間の弱さと過ちに対する赦し
- 犯した罪に対する赦し
- 神への献身
- 自分の人生の方向は神の御心にかなっている
- 自分の所有物はすべて神から与えられたものである

福音の教えや教会で行われていることの中から、上記のそれぞれのことを感じたり、経験したり、実践したりする

のに役立つことを書き出させる。例えば、祈りや罪の告白、聖餐を受けること、バプテスマ、什分の一を納めること、御靈の慰めを感じることなど。生徒が書いたことについて話し合う。

モーセの律法は、イスラエルの人々が上記の事柄を実践するための方法であったことを指摘する。モーセの律法にある個々の慣習は今日では行われていないが、そこで教えられている原則は現在も有効であり、犠牲の律法はそれぞれの概念に当てはまる。

以下のささげ物を、黒板に書かれている該当する概念の横に書く。

- 人の弱さと過ちに対する赦し——罪祭
- 犯した罪に対する赦し——懲罰
- 神への献身——燔祭
- 自分の人生の方向は神の御心にかなっている——酬恩祭
- 自分の所有物はすべて神から与えられたものである——素祭
- 感謝——素祭

生徒が各種のささげ物について基礎的な知識を得られるように、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』(166-167ページ)にある表「モーセの律法の犠牲とささげ物」を利用する。レビ1章で述べられている燔祭から始めるとよい。

燔祭で求められている一つ一つの事柄について考え、それらが悔い改めと贖いについて教えていることを生徒に気づかせるため、生徒用学習ガイドにあるレビ1章の活動Aをさせてもよい。全部のささげ物について話し合った後、それぞれのささげ物がどのような形で先ほど黒板に記した概念を反映しているか尋ねる。

それぞれの犠牲が教えている原則をわたしたちの日常生活で実践する方法について、新たに気づいたことを生徒に発表させる。その後、以下の質問をする。

- モーセの律法で犠牲をささげた祭司は、どのような点で今日の執事、教師、祭司と似ているでしょうか。
- 旧約の時代、祭司はだれを代表していましたか。
- 今日、アロン神権者はだれを代表していますか。
- 今日の聖餐の目的は、どのような意味で旧約の時代の犠牲と似ていますか。

犠牲の原則がわたしたちの靈的成长に不可欠であることを再度強調するために、十二使徒定員会会員であるM・ラッセル・バラード長老の以下の言葉を紹介する。

「この教会の歴史について深く考えるうちに、わたしの思いは、犠牲の律法の永遠に変わらない性質に向けられるようになりました。これはイエス・キリストの福音の中心を成す事柄です。

犠牲の律法には二つの大きな永遠の目的があることを知る必要があります。この二つの目的は、アダム、アブラハム、モーセ、そして新約聖書の使徒たちに適用しました。また、犠牲の律法を受け入れて従おうとしている

今日のわたしたちにも、この目的は適応されます。その二つの大きな目的とは、わたしたちのふさわしさを試し証明すること、そして同時に、わたしたちがキリストのもとへ行くのを助けることです。……

犠牲の律法の主な目的がわたしたちを試しキリストのもとへ来るのを助けることであるという事実は現在も変わりません。しかし、キリストの究極の犠牲の後に、二つの変更がなされました。第一に、聖餐の儀式が犠牲の儀式に取って代わりました。そして第二に、この変更によって犠牲の焦点が、動物からその動物の所有者に移りました。つまり、ささげ物ではなくささげ手こそが犠牲の本質となったのです。……

現世での務めの後、キリストは犠牲の律法を新しい段階へと引き上げられました。ニーファイ人の使徒たちに犠牲の律法がどのように継続するか話されたとき、イエスは弟子たちに、これからは燔祭ではなく「打ち碎かれた心と悔いる靈」(3ニーファイ9:19-20。教義と聖約59:8, 12も参照)をささげなければならないと言わされました。主はわたしたちに、動物や穀物をささげるのではなく、神の御心に添わないものをすべて捨てるよう求めておられるのです。これは犠牲の律法の、より高度な実践形式です。それは人の内なる靈に及ぶものなのです。ニール・A・マックスウェル長老はこのことを次のように表現しています。『個人の犠牲として、祭壇に動物をささげることはしません。代わりに、わたしたちの中の動物的な欲望を祭壇の上において、焼き尽くすのです!』(『聖徒の道』1995年7月号, 73)

象徴的な意味で、自分自身を現代の犠牲の祭壇上に置いていることを、わたしたちはどのようにして主に示すことができるでしょうか。わたしたちは今日、第一の偉大な戒めに従うことによって犠牲の律法に喜んで従うことを主に示します。イエスは言われました。

『「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。

これがいちばん大切な、第一のいましめである』(マタイ22:37-38)。

自らの利己的な欲望を克服し、毎日の生活の中で神を第一とし、払うべき犠牲の大小にかかわらず聖約を交わして神に仕えるとき、わたしたちは犠牲の律法に従っていることになります。第一の偉大な戒めを守る最善の方法の一つは、第二の偉大な戒めを守ることです。主御自身が、『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』(マタイ25:40)、また『あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである』(モーサヤ2:17)と教えておられます。犠牲は純粋な愛の表れです。主と同胞に対する愛は、わたしたちがそのために何を喜んで犠牲とするかによって測ることができます。」(The Law of Sacrifice [1996年8月13日, 宗教教育者への説教], 1, 5-6)

レビ10章。神権の儀式は、清くふさわしい者により、主が指示された方法で執行されなければならない。(20-25分)

以下の質問について生徒に短い答えを書かせる。

- あなたはなぜ、神権は神聖なものだと感じますか。
- バプテスマ、聖餐、神権の聖任、神殿の儀式などの神権の儀式について、あなたはどのくらい神聖だと感じていますか。それはなぜですか。

何人かに答えを発表してもらう。以下の質問をする。

- ふさわしい人だけが神権の儀式に携わることはなぜ大切なのでしょうか。
- 神権の儀式が不適切な方法で執行された場合、どのような対策が取られるでしょうか。(おそらく生徒たちは、管理者が聖餐の祈りやバプテスマなどの儀式をやり直すよう適切に指示する場面を見たことがあるだろう。)
- 神聖な儀式が正確に執行されることはどれくらい大切だと感じますか。それはなぜですか。

レビ10:1-2を読ませ、ナダブとアビフの犠牲のささげ方にはどのような問題があったか尋ねる。(『旧約聖書：創世記－サムエル記下』175ページにあるレビ10:1-7についての注解を参照)。次の質問をする。「主の指示に従わなかつたこの二人の神権者は、どのような結果を招いたでしょうか。」

レビ10:3-7を読ませる。次の質問をする。

- アロンとその他の息子が、ナダブとアビフの死を表立って嘆かないよう命じられたのはなぜだと思いますか。
- この章から、神権の儀式の神聖さについてどのようにことが分かりますか。
- 今日、神権を正しく行使しない神権者はどうなるでしょうか。

十二使徒定員会会員であったブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を紹介する。

「偽預言者は、復活の時もその後も、まったく効験、效能、効力のない偽りの儀式を執行します。……

主の祭壇の上で『異火』——すなわち自分たちが考え出した儀式——をささげたナダブとアビフのことを……考えていただきたいと思います。彼らを焼き滅ぼした天からの火は、自分自身の方法を優先して主の正しい道を曲げる者たちにやがて下される靈的な滅亡の予型であり影であるとは言えないでしょうか。」(The Millennial Messiah, 80)

レビ11章。モーセの律法の食物に関する規定は、イスラエルの民に聖く汚れない状態を保つべきことを思い起こさせ、自分たちの聖約を思い起こさせた。(35-40分)

黒板に以下の表をあらかじめ書いておく。

清いものと清くないもの

らくだ	魚
馬	ねずみ
牛	かぶとむし
豚	かたつむり
野うさぎ	ふくろう
貝	とかげ
にわとり	いなご
かめ	かに

主がモーセに、動物の中には「汚れたもの」(食用とすることを禁じられた)と「清いもの」(食用とすることが許された)があると言わされたことを生徒に話す。それぞれの欄にある動物のうち、どれが清いものだと思うかを尋ね、それらの動物の名前にしをつける。レビ11:1-31を調べさせ、自分たちの想像が正しいかどうか確認させる。(「清い」動物は、牛、にわとり、うろことひれのある魚、かぶとむし、いなご。)

おそらく生徒は、イスラエルの民に禁じられていた動物の中に、今日わたしたちが普通に食べているものがあることに気づくであろう。その理由は、イエス・キリストの贖罪によってモーセの律法が成就されたため、もはやそれを守る必要がなくなったからである。『聖句ガイド』(85ページ)の「清いものと清くないもの」を調べさせ、それらの食物に関する規定が与えられたのはなぜだと思うか尋ねる。

次の原則が理解できるよう助ける。「ある動物は『清いもの』で食用に適し、別の動物は『汚れたもの』で食用に適さないと主が宣言された背景には、ある程度実用的な健康上の理由があつただろう。しかし、モーセのこの律法は、靈的な真理を目に見える物質的な方法で伝えるための手段として与えられたものである。」主は、この食物に関する律法を、教えるための手段として用いられた。人は、祈りや運動、仕事、あるいは礼拝を忘れたり怠ったりすることはあっても、食事を忘れるることはまれである。自分の意志で特定の食物を控えたり、それらを特別な方法で調理したりすることによって、従順なイスラエル人たちは、自らの信仰に対する個人的な決意を日々新たにした。形式的な選択を通して、搖るぎない自制心が生み出された。律法に従うことは強さをもたらし、それを理解することで視野が開けた。さらに、何を食べ(受け入れ)何を食べないか(遠ざけるか)判断することは、わたしたちが清い状態を保ち、肉体と同じように靈も悪い影響から遠ざけるべきことを象徴的に思い起こさせてくれる。

主が今日与えてくださっている健康と食物にかかわる律

法にはどのようなものがあるか尋ねる。教義と聖約第89章にある主の勧告を読み、わたしたちが「清い」あるいは「汚れている」と考えているものを黒板に挙げる。昔のイスラエル人に与えられた食物に関する律法とは異なり、知恵の言葉は健康への実質的な脅威に警鐘を鳴らしていること、また、栄養に関する勧告を与えていたことについて話し合う。その一方で、知恵の言葉は象徴的な役割も果たしており、わたしたちに交わした聖約を思い起こさせ、わたしたちをこの世の多くのものと区別し、従順さを測るための試しともなっている。ある種の原則に関して、わたしたちは主が命じられたという理由だけで従うのである。神の聖約の民には、いつの時代にも自らを清く保つための特別な指示が与えられてきたことについて証を述べる。

レビ11：43-44；1コリント3：16-17；教義と聖約89：18-21を読ませる。次の質問をする。

- 主は自らを清く保つ者にどのような祝福を約束しておられますか。
- これらの約束には、求められている犠牲を払う価値があります。それはなぜでしょうか。

今日の社会で主が汚れていると言わされたもの避け、自らを清く保つよう生徒を励ます。十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老の以下の約束を紹介する。

「このような習慣性のある刺激物から自分たちの体を守る人々には、『知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝』〔教義と聖約89：19〕である靈的な祝福が与えられます。また、知恵の言葉に従順であれば個人的な啓示の窓が開かれ、わたしたちの心は神の光と真理で満たされます。このようにして体を清く保つ人々には、聖靈が『[わたしたち]に降って[わたしたち]の心の中にとどま』〔教義と聖約8：2〕り、『不死不滅の栄光の平和なること』〔モーセ6：61〕が与えられるのです。」（『聖徒の道』1996年1月号、84）

レビ16章。イエス・キリストの贖罪により、わたしたちは罪の赦しを受けて神のみもとに帰ることができる。贖罪の日について研究することは、この教義に対する理解を深めるのに役立つ。（25-30分）

黒板に幕屋の平面図を描くのを生徒に手伝わせる。至聖所がどこにあり、それが何を象徴していたか説明できるよう助ける（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』159-161ページにある「理解を深めるために」の注解と図を参照）。大祭司は年に一度、主の厳しい指示に従って至聖所に入ることが許されたことを話す。レビ16章には、贖罪の日と呼ばれた日に大祭司が行うべきことが記されている。

生徒用学習ガイドにあるレビ15-16章のための活動Aをさせる。活動が終わったら、それぞれの質問に対する生徒の答えについて話し合う。次の質問をする。

- 贖罪の日の大祭司はだれの象徴ですか。（キリスト）

- 祭司がキリストを象徴していることについてどう思いますか。（このような質問を通して、自分の答えについてより深く考え、学んだことを見直すことができる。）
- マルコ15：37-38を読み、ブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を紹介する。

「神は神殿の幕を『上から下まで』裂かれました。今や至聖所はすべての人に開かれ、小羊の贖いの血によりすべての人が、あらゆる場所の中で最も気高く、最も神聖な場所、すなわち人に永遠の命を得させる王国に入ることができるようになりました。パウロはその言葉を駆使して（ヘブル9章および10章），かつて神殿の幕の内側で行われた儀式は、キリストが行われた贖いの業のひながたであったと教えました。主はその業をすでに成し遂げられました。すべての人が幕を通して主のみもとへ行き、完全な昇栄を受け継ぐことができるようになりました。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 第1巻, 830）

マルコ15：38が教えている重要な原則は何か尋ねる。（キリストの贖罪によりすべての人は神のみもとへ戻ることが可能になった。）

生徒に以下の文章を完成させる。この書き出しで始まる文章ができるだけたくさん作る。「キリストの贖罪がなければ……」

数分後に書いたものを発表させ、答えを黒板に挙げる。2ニーファイ9：7-9およびモルモン書ヤコブ7：12を読む。モルモン書のヤコブはこの文をどのように完成させるか確認する。次の質問をする。

- 贖罪によって罪の赦しが可能になりました。そのことを思い起こさせる神聖な儀式にはどのようなものがありますか。
- キリストが与えてくださる赦しを受け、最終的に神のみもとに戻って住むために、どうしたらこれらの儀式をより意義あるものとし、頻繁に思い起こすことができるでしょうか。

レビ17-27章

はじめに

レビ記の最初の16章では、清くなることが採り上げられていた。残りの章では、イスラエルが神の前に清くあり続け、より聖く、また信仰深くあるにはどうすることができるかに焦点が当てられている。以下はこれらの章の概要である。

- 17章——個人の聖さ
- 18章——家族および性的関係における聖さ
- 19-20章——会衆など、社会的関係における聖さ
- 21-22章——神権における聖さ
- 23-25章——聖さを奨励する祭典や神聖な行事
- 26章——聖約を守る者にもたらされる祝福
- 27章——個人の所有物を主にささげることに関する指示

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちは自分を愛するのと同じように隣人を愛するよう命じられている（レビ19：18参照。マタイ5：43-44も参照）。
- 主は御自分の民が聖くなるのを助けるために、世の邪悪な習慣を遠ざけて生活するよう人々に命じられる（レビ19-25章参照。特に20：26を参照）。
- 神の聖約と戒めには、従順に対する祝福と不従順に対する報いが伴っている（レビ26章；申命28章；教義と聖約130：20-21参照）。

教え方の提案

レビ18-20章。主は御自分の民に、この世の習慣から遠ざかり、清い者また聖なる者となるよう求めておられる。（20-25分）

生徒数が500人で、末日聖徒が1人しかいない学校を訪問しているとする。次の質問をする。

- 全生徒を見て、だれが末日聖徒か分かると思いますか。
- どのような特質あるいは特徴に注目しますか。
- この世的なものとは異なった存在となるために、どのような福音の教えが役立つと思いますか。

レビ18：2-5, 27-30；19：1-2, 37；20：7-8, 22-26を読み、次の質問をする。

- 主はイスラエルに何を求められましたか。
- エジプトやカナンの人々の生活様式を取り入れずに生活することは、イスラエルの人々にとってどのような役に立ったと思いますか。

レビ記の以下の節から、少なくとも1節を生徒に割り当てる。19：3, 4, 9-10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 23-25, 26, 27-28, 29, 30, 31-34, 35-36；20：9, 10。以下の活動の後に、お互いの答えを比較させる。

1. その節に記されている戒めを見つける。
2. イスラエルの民が世の邪悪な習慣を遠ざけるべきことを思い起こすうえで、この戒めに従うことはどのように役立ったと思うか列挙する。

3. 今日その戒めを守るために何ができるか考える。

レビ18：19-26および20：6, 9-10を読ませ、主がイス

ラエルに避けるよう命じられた罪を見つけさせる。それらの罪が当時普通に行われていたことを指摘する。次の質問をする。

- これらの罪は今日よく見受けられるものですか。
- 末日聖徒はなぜこれらの行為を避けなければならないのですか。
- そのほか、主が行うように、または避けるように命じられていることで、世の標準と異なるものにはどんなものがありますか。（小冊子『若人の強さのために』によい例が幾つか記されている。）
- 教義と聖約53：2を読む。主はわたしたちに何をするよう命じておられますか。
- それはあなたにとって簡単なことですか、それとも難しいことですか。なぜでしょうか。
- この世的なものを捨てることで何が得られますか。

レビ19：18（マスター聖句）。わたしたちは隣人を愛し、隣人に仕えなければならない。（10-15分）

善い隣人がいるか、またなぜその人のことを善い隣人だと思うのか尋ねる。これまで自分や家族が隣人から受けた親切な行いについて思い起こさせ、数人に紹介させる。マタイ22：36-40を読ませ、二つの偉大な戒めを確認する。これらの戒めを黒板に書き出し、次の質問をする。「旧約聖書のすべての律法と預言者のすべての教えが、これら二つの戒めにかかっているのはなぜでしょうか。」

レビ19：18および申命6：5を読む。次の質問をする。

- 二つの律法が初めて教えられたのは旧約の時代でした。これはあなたにとって驚くべきことですか。なぜでしょうか。また、驚くことではないのであれば、その理由も答えてください。
- 隣人を愛することはなぜ大切ですか。
- 隣人とは、あなたの家の近所に住んでいる人だけですか。
- あなたの隣人にはほかにどんな人がいますか。

ルカ10：25-37を読ませ、ほかにどんな人がわたしたちの隣人と言えるか考えさせる。次の質問をする。「自分と同じくらい周りの人を愛していることを示すために、どんなことができるでしょうか。」

数日以内に、隣人のために何か簡単な奉仕や親切な行いをするよう勧める。最後に賛美歌「共に愛し合え」（『賛美歌』192番）を歌う。

レビ25章。ヨベルの年に、イスラエルは他人の負債を免除するよう命じられた。これはイスラエルにとって、いつの日か悔い改めた罪人に赦しを与えてくださるキリストの象徴であった。（10-15分）

全員に、住居、交通、その他という3つの項目が書かれた紙を配る。それぞれの項目について平均的な支出額を書

かせ、その合計額を計算させる。これが生徒たちの負債になる。黒板に「今日はヨベルの日」と書き、次の質問をする。「もしその紙に記されている合計額が自分の借金だとしたら、古代イスラエルが行っていたようにヨベルを祝いたいでしょうか。」ほとんどの生徒は、個人の負債とイスラエルのヨベルにどのような関係があるのか知らない。レビ25:10-17, 25-27, 35-37を読ませ、ヨベルを祝うとはどのようなことか見つけさせる。

『旧約聖書：創世記－サムエル記下』(199-200ページ)にあるレビ25章についての注解を読み聞かせた後、次の質問をする。

- ヨベルの年を過ごすことは、どのようにすばらしいでしょうか。
- もしあなたがお金を借りた側ではなく貸した側だったとしたら、ヨベルの年にはどのように感じるでしょうか。
- ^{じょくぎ}贖罪はわたしたちに、どのような形で「ヨベル」の報いをもたらしてくれますか。
- わたしたちの罪の代価を支払ってくださったイエス・キリストについて、どのように感じますか。

生徒と一緒に、生活の中でヨベルの精神を実践するためには何ができるか挙げる。教義と聖約64:9-11を読ませる。「ヨベル」に対するわたしたちの責任について、これらの節から何が分かるか尋ねる。

ハワード・W・ハンター大管長は、1994年のクリスマスマッセージで、このヨベルの精神を強調した。大管長は次のように語った。「わたしたちはキリストへの愛と感謝の気持ちから、『主がお与えになったように与えるよう懸命に努力』しなければならない。」そして続けて以下の勧告を与えていた。

「このクリスマスの季節に、仲たがいを解決しましょう。忘れられている友人を捜し出しましょう。疑う気持ちを捨てて信頼と置き換えましょう。手紙を書きましょう。穏やかに答えましょう。青少年を励ましましょう。言葉と行いによって誠実さを示しましょう。約束を守り、ねたみを捨て、傷つけられたときのことは忘れるのです。敵を赦しましょう。謝りましょう。理解しようと努めましょう。自分がほかの人々に求めていることをもう一度考えましょう。ほかの人々のことを第一に考え、親切、そして柔軟であります。もう少しほほえみましょう。感謝の気持ちを表しましょう。見知らぬ人を歓迎しましょう。子供の心を喜ばせましょう。大地の美しさと不思議を楽しみましょう。愛を繰り返し伝えましょう。」(“To Give of Oneself Is a Holy Gift,” Prophet Tells Christmas Gathering,” Church News, 1994年12月10日付, 4)

クリスマスの季節だけでなく、常にハンター大管長の勧告に従うよう生徒に勧める。

レビ26章。聖約に忠実な者は大きな祝福を受け、聖約を破る者はのろわれる。(15-20分)

簡単な契約書を生徒に見せる。黒板に「もし～ならば」「～する」と書き、以下の質問について話し合う。

- これら二つの言葉は契約とどんな関係がありますか。
- 契約には必ず「もし～ならば」という言葉が入っています。それはなぜですか。
- 契約上の自分の責任を果たしたにもかかわらず「～する」という約束が果たされなかったとします。どう感じますか。もしだれかが契約で交わした約束を果たさなかったらどう感じますか。

主と交わしている契約や聖約について考えるよう求める。教義と聖約82:10を読み、主がおっしゃられたことについてどう感じるか尋ねる。教義と聖約130:20-21を読み、これらの節はわたしたちの理解をどのように深めてくれるか尋ねる。レビ26:3-4と26:14, 16にある「もし」と「であろう」にしるしをつけさせる。これらの言葉と教義と聖約130:20-21の記述との共通している教えについて話し合う。

レビ26:3-12, 14-28を読み、民の義に応じてイスラエルにもたらされるよう備えられていた祝福と災いを探させる。次の質問をする。

- あなたにとって最も重要な約束はどれですか。それはなぜですか。
- 最もひどい災いはどれだと思いますか。それはなぜですか。

わたしたちに対する主の約束について話し合う（例えば、モーサヤ18:8-10；教義と聖約20:77; 76:5-10参照）。わたしたちが忠実ならば、神はすべての約束を果たされることについて証する。

民数記は、イスラエルの民がシナイ山から約束の地の東端に至る荒れ野を旅していた間の歴史を記録したものである。荒れ野における40年間のうちの38年間が含まれており、主がなぜこれほど長い間イスラエルの民を荒れ野にとどめおかれたかが説明されている。わたしたちは民数記から、主がその子らに対してどのように対応されるか、またどのようにすれば約束された祝福を受けることができるかを学ぶことができる。

モーセがイスラエルの「民を数える」ために行った2回の人口調査の話が含まれていることから、この書は「民数記」と名付けられている(『聖句ガイド』『民数記』252ページ参照)。これらの人口調査では、戦いに出られる健康な男性の数が調べられた。イスラエルは約束の地を与えられるはずであったが、それは流血によってしか手に入れることはできなかった。最初の人口調査(民数1-4章参照)の対象となった人々は、残念ながら不従順のためにその義務を果たすことができなかった。そして2度目の人口調査(民数26章参照)のときまで、約束の地を受け継げるほど忠実になることはできなかった。

民数記は3つに区分することができる。

1. 1-10章には、シナイからの進軍についての指示と準備が記されている。
2. 11-21章には、イスラエルが荒れ野にとどまっていたときの歴史が記されている。
3. 22-36章には、ヨルダン川の東側で起きた出来事が記されている。

民数1-10章

はじめに

イスラエルの「民の数」を記録した人口調査に加えて、民数1-10章にはモーセの律法の一部として追加された指示が含まれており、イスラエルが進軍し宿営する際の民の配置について記されている。またこれらの章では、レビ族が幕屋で仕えるように選ばれたことが記されており、さらにイスラエルの陣営がシナイから約束の地に向けてどのように進軍を開始したかについても述べられている。

学び取るべき重要な福音の原則

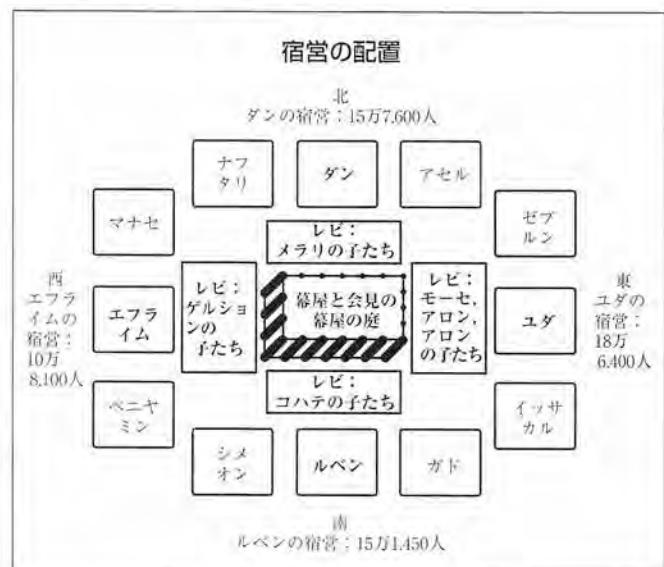
- わたしたちは、主と主の業、そして主の王国を生活の中心に置かなければならない(民数2章参照)。
- 神権を持つ者によって神から召され聖任された者だけが、有効な儀式を執行することができる(民数3:5-13参照)。
- 真の悔い改めには、告白、償い、および罪を捨てることが求められる(民数5:5-7参照。教義と聖約58:43も参照)。

- わたしたちは聖約を通して自らを主に奉獻することができる(民数6章参照)。
- 主は御自身の忠実な子供たちに、尊きと祝福を与えられる(民数9:15-23参照)。

教え方の提案

民数1-4章。イスラエルの陣営の配置は、主と主の業、そして主の王国を自分の生活の中心に置かなければならぬことを民に思い起こさせた。(30-40分)

教室内を以下に示したイスラエルの陣営の「宿営の配置」と同じ配置にしておく。教室の中央に毛布を敷いて幕屋を表すか、黒板に図を描く。生徒が12人以下の場合は、一人の生徒に2部族以上を代表してもらう。それぞれの壁に東西南北を示すしをはる。



生徒が教室に入って来たら、彼らを「イスラエルの宿営」に歓迎し、一人一人にイスラエルの部族の名前が書かれたカードを渡す。同じ部族を割り当てられた生徒同士で集まって一緒に民数記2章を読むように指示する。自分たちの部族が宿営のどこに配置されているか見つけさせ、教室の該当する場所に座らせる。全員が着席したら、イスラエルの民がシナイの荒れ野を旅したことを説明する。民数記1章を調べて、自分が代表している部族の人数を見つけさせる。何人かの生徒に以下の質問をする。

- 荒れ野の中で、これほど大勢の人々を世話する責任を負ったとしたら、あなたはどう感じますか。
- そのような責任は、あなたの祈り方や主に助けを求める方法にどのような変化を生じさせるでしょうか。

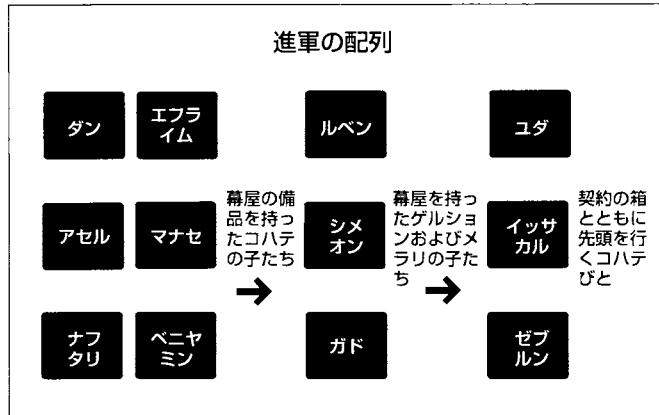
宿営の配置について話し合うときに、以下の質問をする。

- 宿営の中心には何がありましたか(民数2:2参照)。
- 主はイスラエルの人々を、幕屋を取り囲むように配置されました。なぜでしょうか(『旧約聖書:創世記-サム

エル記下』209—210ページにある民数2章および3章についての注解を参照)。

- わたしたちが生活の中心に置くものは、天の御父との関係にどのような影響を与えるでしょうか。
- 自分の生活の中心にあるものは何でしょうか。どうしたらそれが分かるでしょうか。

オーバーヘッドプロジェクター、紙、または黒板を使って、進軍の配列を示した以下の図を見せる。



以下の質問をする。

- 進軍の配列はイスラエルの人々にとってどのような意味があったのでしょうか。
- それはわたしたちにとってどのような意味を持つでしょうか。

主を日々の生活の一部とするよう生徒を励ます。

民数1-4章。神権を持つ者によって神から召され聖任された者だけが、有効な儀式を執行することができる。(10-15分)

民数1:47-53を読ませ、人口調査の対象とならなかつた部族とその理由を見つけさせる。生徒とともに民数3:5-12, 25-26, 30-31, 36-38; 4:5-16を読み、主が祭司およびレビびとに命じられたことについて話し合う。彼らの義務を今日の執事、教師、祭司の義務と比較する(教義と聖約20:46-60; 107:8-20, 85-88参照)。次の質問をする。「現代においてアロン神権の務めを果たすことと、昔のレビびとに与えられていた大きな名誉と特権とは、どのように似ていますか。」アロン神権者の一人に、神権の務めを果たすことについて感じていることを話させてよい。

民数3:38を読み、以下の質問をする。

- モーセとアロンはどこに天幕を張るように指示されましたか。それはなぜですか。
- かつてモーセがしたように、現代において神殿を建て、そこで働く儀式執行者に権能を付与する責任はだれにありますか。(預言者)
- 古代の祭司やレビびとがしたように、現代において「ほかの人」や許可されていない人が神殿に入らないように

する責任はだれにありますか。(ビショップ、支部会長、ステーク会長、伝道部会長)

神権指導者を招待して、アロン神権を尊ぶことがメルキゼデク神権に備えるうえでどれほど大切か話し合ってよいし、神殿の聖約を通して祝福を受けられるようすべての会員を備えるために、神権がどれほど大切か話し合ってよい。

民数6章。わたしたちは聖約を通して、自らを主に奉獻することができる。(10-15分)

七十人会長会の一員であったディーン・L・ラーセン長老の以下の言葉を読ませる。

「今日、教会の青少年の中に、世の風潮を追い求める傾向が多少見られます。わたしたちは必ずしも世の先端を行っているわけではありません。しかしある面では、さほど遅れているわけでもないのです。」(『聖徒の道』1983年7月号、63参照)

ラーセン長老の言葉はどのような点で真実を言い当てているか尋ねる。一人の生徒に当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老の以下の言葉を読ませる。

「わたしたちは異なっています。わたしたちは特異な民です。わたしたちが常にほかとは異なった、特異な民であるようにと願っています。」(In the World but Not of It, Brigham Young University Speeches of the Year (1968年5月14日), 10)

以下の質問について話し合う。

- この言葉はあなたにとってどんな意味を持っているでしょうか。
- 人と異なっていることは、どのような点で難しいでしょうか。
- 主の方法に従って、ほかとは異なった生活を送ることを決意した人には、どのような祝福が与えられるでしょうか。

民数6:2を読ませる。主と特別な聖約を交わした人々には、どのような称号が与えられただろうか。次の質問をする。「『聖別』されていることと『異なっている』ことにはどのような類似点があるでしょうか。」「ナザレ人(Nazarene)」すなわちナザレの町の出身者と「ナジルびと(Nazarene)」とは同じではないことを説明する(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』212ページにある民数6:1-21についての注解を参照)。

生徒とともに以下の参考聖句を読み、ナジルびとにはどのような人がいたか調べる。

- 士師13:5, 24

- ・サムエル上 1:11, 19-20, 28
- ・ルカ 1:13-15

民数6:3-8を読ませ、ナジルびとが立てた3つの具体的な誓いを見つけさせる。民数記6章の中で「聖別」という言葉が何回出てくるか数えさせる。(12回)次の質問をする。

- ・聖別されていることはあなたにとってどのような意味がありますか。
- ・自分を世の中から聖別または区別するために、教会員は何を約束しているでしょうか。

教会員はどのような点でほかの人々と異なっているか話し合う。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の言葉を読む。

「もしわたしたちが、自分たちの価値観を捨てることなく、受け継ぎの上にさらに打ち建てるならば、また、主の前に従順に歩み、ひたすら福音の教えに従って生活するならば、わたしたちは驚くほど豊かな祝福を受けるでしょう。わたしたちは、天与の幸福への鍵を見いだした特異な民として、世間の注目を浴びるでしょう。」(『聖徒の道』1998年1月号、79参照)

民数11-21章

はじめに

民数記11-21章には、イスラエルが荒れ野にとどまっていた間の歴史が、3つの時期に分けて記されている。

1. シナイ山からカデシに近いバランに至るまでの時期（民数10:10-14:45参照）
2. 約束の地に入ることを拒まれたときから、約38年後に再びカデシに集合するまでの時期（15-19章参照）
3. カデシからホル山への進軍（20-21章参照）

後半の章で見られるように、イスラエルの人々は約束の地に向かって移動するにつれ、より忠実さを増していった。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・主はわたしたちの望みに応じて祝福を与えてくださる。わたしたちは正しいことを祈り求めるように注意しなければならない（民数11:18-20, 31-35参照。サムエル上8:5, 20-22; ヤコブ4:14; アルマ29:4も参照）。
- ・人は自分のために個人的な啓示を受けることができる。しかし、教会全体のための啓示は預言者しか受けることができない（民数11:16-12:15参照）。

- ・信仰を持ち、主を信頼するなら、わたしたちは主が命じられるすべてのことを成し遂げることができる（民数13:1-14:12参照。1ニーファイ3:7も参照）。
- ・主が命じられたことは、命じられたときに行なうことが大切である（民数14:40-45参照）。
- ・教会指導者に反抗したり反論したりする人は、神に反抗しているのと同じである。そのような人は悔い改めなければ災いを受ける（民数16-17章；20:1-11, 13; 21:4-6参照。3ニーファイ28:34; 教義と聖約121:16-22も参照）。
- ・主は、イスラエルの人々を御自分のもとへ招くことで祝福を受けられた（民数21:4-9参照）。

教え方の提案

民数11章。靈的な事柄を捨てて肉欲を優先することは、靈の死を招く。(30-35分)

黒板に「靈」および「肉体」と書く。以下の質問をする。

- ・肉体の病気はなぜ起りますか。
- ・死に至る可能性のある病気としてどのようなものが挙げられますか。

肉体の病気が死を招くように、靈の病気は靈の死を招くことを説明する。2ニーファイ9:10-12を読ませ、靈の死を経験するとはどういう意味かを見つけさせる（The Great Plan of Happiness, 13も参照）。

それぞれの生徒に次の二つのリストを作らせる。最初のリストには肉体の健康を維持するために24時間以内に行なったこと、2番目のリストには靈の健康を維持するために行なったことを書かせる。現在、自分の靈と肉体では、どちらがより良い状態にあるか考えさせる。

以下の質問をする。

- ・靈を「養う」ために、毎週何ができますか。
- ・聖餐を通して、わたしたちは靈に養いが必要であることを思い起こすことができます。なぜでしょうか。
- ・聖餐が象徴しているものは何ですか。（イエス・キリストの体と血。）

出エジプト16:14-15を読む。次のことを調べる。「イスラエルの民が主に依存していることを日々思い起こせるように、主は何をお与えになったでしょうか。」ヨハネ6:49, 51を読み、マナがどのような意味でイエス・キリストを象徴していたか話し合う。

黒板に「飢える」および「欲する」と書く。この二つの言葉が、どのような点で似ていて、どのような点で異なるか考えさせる。3ニーファイ12:6を読ませ、主がこの聖句で「飢え」という言葉をどのような意味で用いておられるか、また飢えている人に何が約束されているか説明させる。民数11:4-9を読んで「欲心」という言葉を見つけさせる。次の質問をする。

- ・モーセが民のことを肉に「飢えていた」とせずに「欲心を起こし〔た〕」と描写したのはなぜだと思いますか。

- ・「欲」という言葉にはどんな意味がありますか。（辞書で意味を調べてもよい。）

- ・「肉」という言葉は何を象徴していると思いますか。（食物の「肉」だけでなく、「肉体の欲求」も表している。）

民数11：10-15を読ませ、民の不平に対してモーセはどう対応したかを説明させる。11章の残りの聖句を読ませ、主がモーセと民に語られた言葉と、主が教えられた靈的に重要な原則に特に注目させる。民数11：16-17、24-29と民数11：18-20、31-34を読んで比較する。これらの聖句は御靈と「肉」についてどのようなことを教えていると思うか尋ねる。ローマ8：5-14を読み、パウロの教えがどのような点で民数記11章にある物語の解説と言えるか説明する。

米国では、政府が健康を維持するために必要な食物やビタミンなどの「一日当たりの推奨摂取量」を公表している。クラス全体で、靈の健康を維持するために必要な事柄の一日（または一週間）当たりの推奨摂取量を作成する。この活動のために以下の聖句が役立つだろう。

- ・ヨハネ4：13-14、31-34
- ・ヨハネ6：51-58
- ・2ニーファイ9：50-51
- ・2ニーファイ32：3
- ・3ニーファイ12：6

七十人のL・ライオネル・ケンドリック長老はこう語っている。

「聖典は人の魂に栄養を与える靈の食物であり、肉体のために食物を摂取するのと同じくらい大切です。」（『聖徒の道』1993年7月号、14）

民数11-12章。人は自分のために個人的な啓示を受けることができる。しかし、教会全体のための啓示は預言者しか受けることができない。（30-40分）

教会の総大会で、預言者、聖見者、啓示者として支持を受ける人が15人いることを指摘する（例えば、最新の『リアホナ』5月号にある教会役員の支持を参照）。生徒にそれらの人々の名前または召されている責任を挙げさせる。（大管長会および十二使徒定員会。）

民数11：11-14を読ませ、モーセが主に訴えた二つの問題が何だったか答えさせる。（民が肉を食べたがっていたこと、モーセが自分の責任を果たすうえでの助け手を求めたこと。）民数11：16-17、24-29を読み、主がモーセを助けるために何をされたか見つける。以下の質問をする。

- ・モーセはこれら70人の助け手を何と呼びましたか。（預言者。29節参照。）
- ・モーセは、預言者が何人必要だと言いましたか。

『旧約聖書：創世記－サムエル記下』（214ページ）にある民数11：16-17、24-29についての注解を紹介する。生徒の一人にブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉

を読ませる。

「預言をするのはだれだろうか。啓示を受けることができるるのはだれだろうか。示現や天の現れはだれに与えられるだろうか。十二使徒定員会の会員だけではなく、ビショップやステーク会長だけでもなく、教会指導者だけでもない。人を偏り見ることなくそのすべての子らを愛しておられる神は、その声に心を留めるすべての人に語りかけられる。預言はすべての人のためのものである。男性、女性、子どもたち、眞の教会に属するすべての会員のためのものである。そしてイエスの証^{あかし}を持っている人には預言の靈がある。なぜなら『イエスのあかしは、すなわち預言の靈である』（黙示19：10）からである。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 第2巻, 387）

以下の質問をする。

- ・預言者が持っている預言の靈と、そのほかの個人が持つことができる預言の靈には、どのような違いがあると思いますか。
- ・複数の人が教会全体のために啓示を受けたと主張したら、どのような問題が生じると思いますか。
- ・教会全体を導く預言者、聖見者、啓示者は一人しかいないという知識は、どのように役立つと思いますか。

ダリン・H・オーラス長老の以下の言葉を読んで話し合う。

「教会の大管長だけが、教会全体を導くための啓示を受けます。ステーク会長だけが、ステークに特別な指導を与えるための啓示を受けます。ワードのために啓示を受けるのはビショップです。家族のために啓示を受けるのはその家族の神権指導者です。指導者は、自身の管理の職に対する啓示を受けます。個人は自分自身の生活の導きとなる啓示を受けることができます。」（“Revelation,” Brigham Young University 1981-82 Fireside and Devotional Speeches [1982年], 25）

民数12：1-2を読ませ、以下の質問をする。

- ・預言者になりたいと望んだのはだれですか。
- ・彼らはどのようなことを主張しましたか。
- ・12章に記されているミリアムとアロンの行動、および11章にある70人の長老たちの行動とでは、どのような点が異なっていましたか。（70人の長老たちは、主から授かれた賜物を自分たちの召しの範囲内で用いた。しかし、ミリアムとアロンは、自分たちの召し以上の力を求め、主に選ばれた指導者を批判した。）
- ・ミリアムとアロンの主張に対して、主はどのように対応されましたか（4-10節参照）。
- ・これらの聖句から、モーセまたは主の代弁者が召されて

いる職について、何が分かりますか。

- 主の指導者を批判することについてどんなことが分かりますか（教義と聖約1：14も参照）。

当時十二使徒定員会会員であったハロルド・B・リー長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしは、自らの経験から学んだことについて皆さんに証を述べたいと思います。この教会の指導者を批判する人は、靈の病の徵候を示しているのであり、もしそのような態度を改めなければ、ついには靈の死を招くことになるでしょう。」（Conference Report, 1947年10月号, 67）

民数13-14章。信仰を持ち、主を信頼するなら、わたしたちは主が命じられるすべてのことを成し遂げることができる。（40-50分）

注意：この教え方の提案をより効果的なものとするために、何人かの生徒の親に、子どもにあてて手紙を書いてもらう。手紙には、自分が主の戒めに信頼を寄せている理由を記し、たとえその戒めが理解できないものや、とても困難なものであっても、主の命令に対する信頼は変わらないことを強調する。手紙は、後に教え方の提案で指示された時点で利用する。

民数記13-14章の学習を始める準備として、生徒用学習ガイドの13-14章の導入にある質問を活用する。出エジプト記以降の記述で、主がイスラエルの人々のために行われたことの中から、不可能だと思われたことや奇跡だと思われたことを生徒と一緒にリストにする。次のように尋ねる。「主がそのような方法で、イスラエルを祝福されたのはなぜでしょうか。」（例えば、出エジプト6：6-8参照。）13-14章を通して、それらの奇跡が当時の民の信仰にどのような影響を与えたか理解することができる。

民数13：17-14：10にある密偵の物語を読ませる。読み終えたら、約束の地に攻め入るよう当時のイスラエルの民を説得する手紙を書かせる。何人かの生徒に書いたものを発表させる。

準備してあれば、親からの手紙を2通、親や生徒の名前は明かさずに読む。次のことを指摘する。「わたしたちにとってイスラエルがどうすべきだったか判断するのは容易に思える。しかし、主がわたしたちに行うよう求めておられるこ^{とにち}とに関しては、現代のわたしたちも、当時と同じような試しに直面している。」民数14：1-4を読ませ、今日の人々が取ると思われる言動について簡単に書かせる。

全員で民数14：21-39を読み、不信仰が原因で民にどのような罰が下ったか調べる。次の質問をする。

- 不信仰な人々は、^{こんなに}今日どのような罰を受けますか。
- わたしたちにとって、約束の地が象徴するものは何ですか。

- 主がわたしたちに示されるすべてのことについて、主を信頼し、ヨシュアやカレブのような態度を持つように生徒を励ます。

 **民数21：1-9。「〔主は〕 ごく小さな手段によって……多くの人を救われる。」（アルマ37：7）（35-40分）**

袋の中から、勢いよくおもちゃのへびを取り出す。もし用意できなければ、へびの絵を見せる。へびを怖がる生徒に、なぜ怖いのか説明させる。次の質問をする。

- へびが毒を持っているかどうか、何で判断しますか。（きばの種類、頭の形、色または皮の模様。）
- 毒へびにかまれたときに、どのような処置をすればいいと思いますか。

「毒へび用救急箱」と書いた箱の中にイエス・キリストの絵を入れておく。この箱を生徒に見せ、箱の中に毒へびにかまれたときのための治療薬が入っていることを伝える。

民数21：4-9を読ませ、イスラエルの人々に起きた出来事を説明させる。この出来事について、モルモン書の預言者がさらに詳しく教えていることを説明する。1ニーファイ17：41とアルマ33：18-22を読ませ、聖書の記述には見られない事柄を挙げる。次の質問をする。

- イスラエルの民の一部が、青銅のへびを見るのを拒んで死を選んだのはなぜでしょうか（1ニーファイ17：41；アルマ33：20参照）。
- エデンの園にいたへびはだれでしたか。

「毒へび用救急箱」の中に何が入っているか当てさせる。箱を開けてイエス・キリストの絵を見せる。次の質問をする。「救い主はどのようにしてへびの力を打ち碎かれたでしょうか。」（贖罪を通して。）



ヨハネ3：14-15とヒラマン8：13-15を読み、以下の質問をする。

- 青銅のへびについての出来事は、何を象徴していましたか。
- イエス・キリストに目を向けるとき、どのように靈的な癒しを受けると思いますか。
- 現代において、へびにかまれて死んだイスラエル人と同じような人々がいますか。それはどのような人々ですか。（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』228ページにある民数13-36章の「理解を深めるために」に掲載されているボイド・K・パッカー長老の言葉を読む。）
- 肉体の死から救われるため、青銅のへびに目を向けることが大切でした。では、永遠の命と昇栄を得るために何をすればいいと思いますか。
- わたしたちが教会で行うことの多くは、いわゆる「簡単なこと」です。わたしたちが行う簡単な行動の中で、永遠の命を得るのに役立つものには、どんなものがありますか。（例えば、両親を敬い従うこと、家庭の夕べなどの家族の活動を助けること、慎み深い服装をすることなど。）
- 青銅のへびを見ることによってイスラエルの人々が肉体的に癒されたように、聖餐を受けることによってわたしたちは靈的に癒されます。どのように癒されるのでしょうか。

民数22-36章

はじめに

イスラエルの民が40年間荒れ野をさまよった後、主は彼らがヨルダン川の東側の野営地に集合することを許された。イスラエルの民は、そこで約束の地に入るための準備をした。彼らはまずモアブびとおよびミデアンびとと戦うよう命じられ（民数22-25章参照）、イスラエルの軍勢を構成する人々を数えるために2度目の人口調査が行われた（民数26章参照）。

ミデアンびととモアブびとに勝利すると、モーセは領土を分けて、マナセ、ガド、そしてルベンの部族に嗣業を与えた（民数31：1-32：15参照）。イスラエルの人々はついにヨルダン川を渡り、主からの嗣業を受ける備えができた。民数記は、約束の地を手に入れることに関して、モーセがイスラエルに与えた勧告で結ばれている（民数33：50-36：13参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神に仕えるためには、この世的な望みを捨てなければな

らない（民数22-25章：31：8、16参照。マタイ6：24；1テモテ6：10も参照）。

- 旧約聖書には、イエス・キリストの来臨についての詳しい預言が記されている（民数24：14-19参照。モルモン書ヤコブ7：11も参照）。
- 最後まで忠実に堪え忍ぶことによって、わたしたちは約束の地において嗣業を得ることができる（民数26：63-65参照。民数14：1-39；ヘブル11：8-10；アルマ37：38-45も参照）。
- 教会指導者は神によって召され、彼らが仕える人々によって支持され、正当な権能を持つ者による按手によって任命される（民数27：18-23参照。信仰箇条1：5も参照）。

教え方の提案

民数22-25章、31章。神に仕えるためには、この世的な望みを捨てなければならない。（50-60分）

黒板に「裕福になることは罪でしょうか」と書く。生徒の答えに対して、その理由を尋ねながら話し合う。1テモテ6：10とモルモン書ヤコブ2：18-19を読ませ、富と義について主が語られたことについて話し合う。今日のレッスンでは、富に執着したためにすべてを失ってしまった人の興味深い物語について学ぶことを伝える。

民数記21章には、イスラエルの民がアモリびとの王シホンとバシャンの王オグを打ち破ったときの記録が記されていると伝える。この出来事はミデアンびととモアブびとを恐れさせた。そのためミデアンびととモアブびとは、イスラエルを打ち払うことができるよう同盟を結んだ。

時間があれば、民数記22-24章にあるバラムの物語を読むとよい。まず個人またはグループに、以下の質問に答えさせる。続いてクラス全体でその答えを確認し、必要に応じてこの出来事について話し合う。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』（224-226ページ）にある民数記22-24章についての注解をコピーし、利用できるようにする。

- バラムとはどのような人物でしたか。彼は本当に神の僕でしたか（『聖句ガイド』「バラム」210ページ参照）。
- バラクはバラムに何をするよう求めましたか（民数22：1-6参照）。
- バラクが自分の神に助けを求めなかったのはなぜですか。
- 主はバラムに行かないよう命じられたにもかかわらず、なぜバラムはバラクのところへ行こうとしたのですか（民数22：7-21参照）。
- 主はバラムに行ってもかまわないと言われました。しかし主は、バラムが行ったことに対して怒りを示されました。なぜでしょうか（民数22：20-22参照）。ジョセフ・スミス訳〔英文〕では、民数22：20は「立ってこの人々と一緒に行きなさい」から「あなたが望むなら、

立ってこの人々と一緒に行きなさい」(強調付加)へと変更されている。つまり行くかどうかは、バラムにゆだねられていたのである。

- ろばには主の使いが見えましたが、バラムには見えませんでした。なぜだと思いますか。なぜ、ろばは話すことができたのでしょうか (民数22:22-30参照)。
- ろばの口を開くことと、バラムの目を開くことでは、どちらがより難しかったと思いますか (民数22:27-33参照)。このことから何が分かりますか。
- バラムがイスラエルを祝福するために遣わされたのであれば、なぜ彼は巴拉クに手の込んだ犠牲をささげるよう求めたと思いますか (民数23:1-24:13参照)。
- 民数24:14-19で、バラムはだれについて預言していると思いますか。
- イスラエルを、偶像崇拜やモアブの娘たちとのみだらな行いへと至らせたものは何だと思いますか (民数25:1-5参照)。
- ビネハスとはどのような人物でしたか。彼はどのような行いを通して、主の「平和の契約」を受けることになりましたか (民数25:6-13参照)。
- イスラエルが、ミデアンおよびモアブの同盟と戦うために出て行ったのはなぜですか (民数25:16-18参照)。
- バラムが殺されたのはなぜですか (民数31:8, 16参照)。

当時七十人会長であったブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしたちはしばしば、教会からはっきりとした指針を与えられていながら、バラムのように世の報酬を追い求めることがある。その結果、次のような答えを得るのである。『もしあなたが莫大な富や、世の誉れを得たとしても、主に仕える気持ちを失わないようであれば、自分の思うままにしなさい。』そしてわたしたちは、神の王国のことを第一に行っていったときほど、物事がうまく行かないことに頭を抱えるのである。……

かつて強く搖るぎない証を持っていた人々が、富と権力のためにその判断力をゆがめられ、この世における主の目的と御心に反する行いをするようになったという例を皆さんお存じであろう。

かつては神から靈感を受け、雄々しく歩んでいた預言者バラムは、永遠の富ではなく、この世の富を追い求めたため、最後には身も靈も滅ぼしてしまった。」(「バラムから学ぶ教訓」『聖徒の道』1979年8月号, 35-36参照)

黒板に書かれている質問を使ってまとめながら、以下の質問をする。

- バラムはどのような過ちを犯しましたか。
- バラムが得たこの世の富は、彼に幸福をもたらしましたか。



マタイ6:19-24をともに読み、次のことについて話し合う。「生活の中で主を第一としながら、物質的に恵まれた生活をおくるために努力するにはどうしたらいいでしょうか。」この世の物質的なものは必要であるが、それらを永続するものに優先させてはならないことを証する。

民数24:14-19。旧約聖書には「イエス・キリスト」という名前は出てこない。しかし、この古代の記録には、主についての詳しい預言が数多く含まれている。(10-15分)

黒板に次のように書く。「主のすべての預言者は_____のことを証しています。」空欄に正しいと思う答えを入れさせ、次にモルモン書ヤコブ7:11を読んで正しい答えを見つけさせる。救い主の絵を見せ、次のように尋ねる。「イエス・キリストはなぜ人類にとって最も大切な人物なのでしょうか。」『聖句ガイド』を開き、「イエス・キリスト」についての関連項目とキリストを示すすべての称号を挙げさせる。

旧約聖書にイエス・キリストという名前は出てこないが、そこにはキリストについての注目すべき預言が数多く記されていることを説明する。民数24:14-19を読み、この預言に記されているイエス・キリストに関する詳細を黒板に挙げる。以下のようなリストになるであろう。

- 主はバラムの時代よりずっと後に来られる (17節参照。マタイ2:1も参照)。
- 主はヤコブの子孫としてお生まれになる (17, 19節参照。ルカ3:23-34も参照)。
- 主の来られるしるしとして星が現れる (17節参照。マタイ2:1-2も参照)。
- 主は「つえ」を持つ王となられる (17節参照。イザヤ9:6も参照)。
- 主はその敵に対して大いなる力を持たれる (17-19節参照。2テサロニケ2:8も参照)。
- 主は大いなる権威を持たれる (19節参照。教義と聖約29:11も参照)。

預言の中でまだ成就していないものはどれか生徒に尋ねる。

民数26-27章。戒めを忠実に守って最後まで堪え忍ぶことにより、わたしたちは約束の地において嗣業を得ることができる。(25-30分)

以下の質問をする。

- ・「約束の地」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか。
- ・約束の地とは何ですか。
- ・それはなぜあなたにとって約束の地なのですか。
- ・それを手に入れるために、あなたは何をしたいと思いませんか。

以下の聖句を読ませ、共通する言葉や原則を見つけさせる。申命6:1-3; ヘブル11:8-10; 1ニーファイ2:20; 17:13。次の質問をする。

- ・これらすべての節に共通しているものは何ですか(約束の地)。
- ・それを得るために何をしなければならないと記されていますか(戒めを守る)。
- ・古代のイスラエルにとって、約束の地とは何でしたか(『聖句ガイド』地図3参照)。

主はイスラエルの人々を約束の地へ導くために、彼らを奴隸の状態から救い出されたことを説明する。カナンの地を探りに行った密偵の話を簡単に復習する。民数13:31-33を読み、当時イスラエルが約束の地に入れなかつた理由を見つける。以下の質問をする。

- ・密偵の報告に対するイスラエルの反応を、最もよく言い表す言葉は何ですか(恐れ)。
- ・戒めを忠実に守ろうとするとき、恐れはどのような影響を及ぼしますか。

民数14:28-31を読む。恐れを抱いたイスラエル人に、神が下された罰を見つける。

民数記26章のころまでには、主がイスラエルを罰せられてから40年近くが経過していたことを説明する。モーセは約束の地に入るのに備え、再度イスラエルの兵士の数を調べた。民数26:63-65を読み、生き残って約束の地に入れたのはだれか調べる。以下の質問をする。

- ・これらの人々が、生きて約束の地に入ることを許されたのはなぜでしょうか。ほかの人々が同じことを許されなかつたのはなぜでしょうか。

- ・この聖句から、主の約束と罰について何が分かりますか。
- ・ヨシュアとカレブについて、わたしたちは何を知っていますか。

民数27:15-23を読ませる。次の質問をする。

- ・モーセはイスラエルの人々を約束の地に連れて行くのに備えて、主にどのようなことを願いましたか。
- ・ヨルダン川を渡るときに、イスラエルの民を導いたのはだれですか。
- ・ヨシュアは、どのようにしてイスラエルを導く権能を授かりましたか。
- ・ヨシュアに権能が授けられた方法と、^{こんにち}今日権能が授けられる方法とは、どのようなところが似ていますか(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』226ページにある民数27:18-23についての注解を読む)。

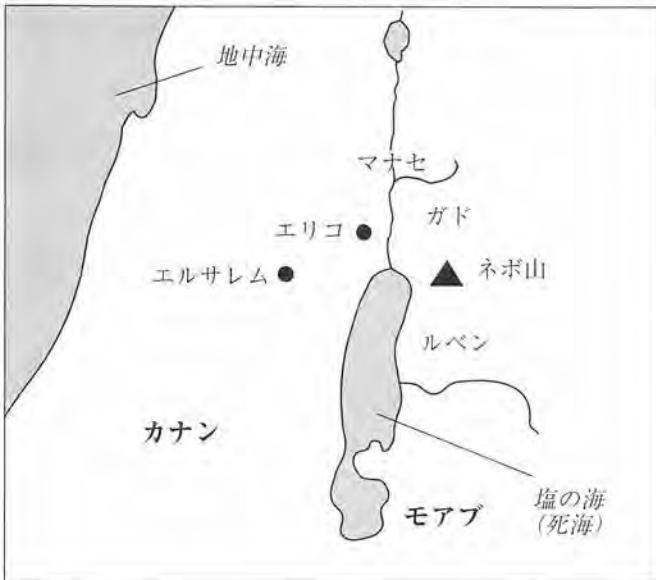
民数27:12-14を読ませ、モーセが民を率いてヨルダン川を渡らなかつた理由を見つける。メリバの水についての出来事を簡単に復習し、『旧約聖書:創世記-サムエル記下』(223ページ)にある民数20:2-13についての注解から、この出来事に関する解説を紹介する。モーセがこの出来事のために、約束の地に入ることができなくなつたのはなぜだろうか。モーセは自分の使命をすでに成し遂げていたこと、そしてイスラエルをカナンへと導くのはヨシュアの使命であったことを説明する。

モーセに何が起きたか尋ねる(マタイ17:1-3; アルマ45:18-19参照。また『旧約聖書:創世記-サムエル記下』223, 252ページにある民数20:2-13と申命34:5についての注解から、これに関する解説を紹介する)。モーセは、救い主が地上でその務めを果たされるときに、自らが成し遂げるべき重要な使命に備えてその身を変えられたことについて^{あかし}証する。モーセは古代の使徒たちにイスラエルの集合^{かぎ}の鍵を渡し、後に預言者ジョセフ・スミスにもその鍵を渡したことを説明する。

主に従順で、忠実であろうと努力するときに、モーセやヨシュアやカレブの模範に従うよう生徒を励ます。そうすれば、生徒も日の栄えの王国で約束の嗣業を得るであろうことを^{あかし}証する。最後に「み旨のまま行かん」(『賛美歌』172番)を歌うか、その歌詞を読むこともできる。

はじめに

「申命記」にあたる英語の *Deuteronomy* は、ギリシャ語の *deutero*（「第二の」）と *nomos*（「律法」）が合わさった言葉で、「第二の律法」または「律法の写し」という意味がある。キリスト教の世界では、（最初のギリシャ語訳『旧約聖書』である）七十人訳聖書からこの説明的な表題を取り入れている。ヘブライ語の申命記の表題であり、申命記（英文）の最初の2語「これらが言葉である」の原文となる *Eileh Hadvareem* を起源とするものではない。



申命記には、モーセが要約したモーセの律法が含まれているため、第二の律法と呼ばれている（『聖句ガイド』「申命記」140ページ参照）。

申命記を研究するとき、特に申命記以外のモーセの五書に関する相互参照聖句に注目するとよい。そこには同じ出来事についての別の記述があるため、それらの記述を比較することによって、新たな情報や考えをしづしづ得ることができる。

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちは、自分が交わした聖約を思い起こさせてくれるものと、それらを守るための励ましを必要としている（申命 1-33章参照）。
- 聖約に基づいた結婚は、自分と子孫が福音の原則に忠実であり続けるために役立つ（申命 7:3-4 参照）。
- 試練を通して、わたしたちは靈的に成熟することができる（申命 8章；10:12-17 参照）。

- 主はわたしたちに、什分の一とささげ物をささげるよう命じておられる（申命14:22-29；15:7-11参照）。
- わたしたちは、占い師や超自然的なものではなく、神と預言者に真理を尋ね求める必要がある（申命18:9-22参照）。教義と聖約1:37-38も参照）。
- 神の戒めに対する従順は祝福をもたらし、不従順は悲しみをもたらす（申命28:1-45；30:15-20参照）。
- 主は、御自身の子らと交わした聖約を通して彼らを祝福される（申命29:1, 9-14, 21, 25；31:16, 20参照）。
- 聖文は礼拝の正しい方法を教えている（申命31:9-13；33:9-10参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』16「イスラエルの家」では、歴史年表を用いてイスラエルの家の概観をまとめている（教え方の提案『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

申命1:1。わたしたちには、福音の聖約を思い起こさせてくれるものが必要である。（5-10分）

何か珍しいものを描くための詳しい説明文を用意する。説明文は、一度聞いただけでは理解できないくらい詳細なものにしておく。その結果、何の絵を描いたらいいか完全に理解するために、教師に説明を繰り返すよう頼む必要がでてくる。絵を完成させる必要はないが、繰り返し説明を受けることの必要性を生徒が実感できるようにする。この活動は2-3分で終える。

説明を繰り返すよう求められたら、なぜ何度も説明を聞く必要があったのか話し合う。この手引きの冒頭にある「申命記」についての説明と『聖句ガイド』の「申命記」についての記述を読む。次の質問をする。

- 申命記と今行った活動とは、どのような点が似ているでしょうか。
- モーセがイスラエルの民に、彼らの歴史、律法、そして民に対する主の約束を思い起こさせたのはなぜだと思いますか。

以下の質問について話し合う。

- わたしたちはこれまでに、正直になるように、毎日祈るように、そして隣人を愛するように勧告されてきました。どのくらい頻繁に勧告を受けてきたでしょうか。
- これらの勧告を何度も思い起こさせるのはなぜだと思いますか。

このような勧告を、憤りや怠慢な態度ではなく、感謝をもって受け入れるように生徒を励ます。

申命1-3章。死に直面することは、福音の聖約の大切さを思い起こす助けとなる。(15-20分)

40年間にわたって荒れ野で民を導いてきたモーセは、まもなく自分がイスラエルの人々のもとを離れることを知っていた。モーセは民のことをいとおしく感じていたに違いない。申命記1章から、イスラエルの民に対するモーセの最後のメッセージが始まっている。モーセがどのように感じていたか理解できるように、以下の質問について考えさせる。

- 自分の寿命が残り少ないことが分かっているとしたら、家族にどのようなことを伝えたいですか。
- あなたはどのような経験を通して福音に対する証を確立しましたか。^{あかし}
- あなたはこの世を去るとき、どのような人物として人々の記憶にとどめてもらいたいですか。

自分の考えをクラスで発表するよう生徒に勧める。

創世17:7-8を読ませ、神がアブラハムと交わされた聖約を挙げさせる。申命記1-3章を幾つかに区切ってグループごとに割り当てる。割り当てられた聖句を調べさせ、神がアブラハムと交わした聖約をどのように守られたかを記した箇所を見つけさせる。創世17:7-8で述べられている聖約が、申命記1-3章でどのように成就されたか比較する。モーセがイスラエルの民に与えた最後のメッセージに、これらが含まれていたのはなぜだと思うか尋ねる。

申命1:34-42を読み、イスラエルの民の中で約束の地に入ることができた人々と、できなかった人々を区別させる。それぞれの理由について話し合う。次の質問をする。

- わたしたちが守るように求められている聖約や戒めのうち、どれが日の榮えの王国に入る資格を得るために役立つと思いますか。
- 主の僕がこれらの聖約や戒めを繰り返し思い起こさせるのはなぜだと思いますか。^{しらべ}

モーセの別れの説教をニーファイ（2ニーファイ33章参照）、ヤコブ（モルモン書ヤコブ7:27参照）、エノス（エノス1:25-27参照）、ベニヤミン王（モーサヤ2-6章参照）、モロナイ（モロナイ10章参照）などの預言者が残した最後のメッセージや別れの勧告と比較する。

申命1-34章。主を覚えることは、最後まで堪え忍ぶことの大切な一部である。(45-50分)

主を覚えることはバプテスマの聖約の一つであり、それは聖餐の祈りの中でも繰り返されている。申命記の主要なテーマの一つは、モーセがイスラエルの民に与えた、主とその律法や戒めを覚え「忘れる事のないように」という勧告である。

生徒の一人に、**申命記**の意味を説明してもらう（だれも知らなければ『聖句ガイド』『申命記』140ページを開かせる）。民数14:29-33を読ませ、モーセが民に律法を繰り

返さなければならなかった理由を見つけさせる（モーセが語った民の大半は、最初にシナイで律法が与えられたときにはまだ生まれていなかった）。出エジプト記、レビ記、および民数記から、イスラエルの民について何を学んだか考えさせ、次の質問をする。「モーセがイスラエルの民のうちの荒れ野で育った世代に対して強調したかったことは何でしょうか。」

生徒の一人に、生徒用学習ガイドの申命記8章の冒頭にある、スペンサー・W・キンボール長老の言葉を読ませる。次の質問をする。「キンボール長老が、辞書の中で最も大切な言葉は覚えるであろうと言ったのはなぜでしょうか。」以下のアイデアの幾つかを話し合いに活用する。

- 覚えるという言葉は、聖餐の二つの祈りの中で重要な意味を持つ言葉である（『聖徒の道』1996年1月号、73にあるジェフリー・R・ホランド長老の説教を参照）。
- 救い主は、ルカ22:19と3ニーファイ18:7、11で、覚えることについて語られた。
- つぶやくことと忘れるとは、同時に起こるようである。例えば、主はイスラエルの民のために紅海を分けて彼らの敵を滅ぼされた。——その後ほどなくして、民は十分な食物がないことをつぶやいた。主は奇跡的にマナとうずらを与えられた。——その後民は十分な水がなかったためにつぶやいた。イスラエルの民は、主が彼らのために行われた奇跡的な事柄をすぐに忘れるようであった。

モルモン書のとびらのページの第2段落を読ませ、モルモン書の目的として最初に挙げられているものを見つけさせる。（「これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示す[思い起こさせる]ものである[る]。」）次の質問をする。「この目的は、申命記の目的とどのようなつながりがあるでしょうか。」

申命記8章を読む。モーセが民に「覚えなければならぬ」すなわち「忘れる事のないように」と言った事柄を生徒とともに挙げる。主が生徒たちに直接語られたとしたら、どのようなことが「覚えること」のリストに載ると思うか考えさせる。次の質問をする。

- 人生の大切で靈的な経験を忘れないことは、わたしたちが靈的に落ち込んでいるときに、どのような励ましとなるでしょうか。
- 日記をつけることは、日々の主の祝福を覚えるうえで、どのように役立つと思いますか。

若い女性のペンダントかCTRの指輪を見せる。これらのアクセサリーの目的を尋ねる。（福音の真理に忠実であるよう思い起こさせること。）『旧約聖書：創世記-サムエル記下』（235ページ）にある絆をつけた少年の写真を見せ、次のことについて話し合う。「律法を『あなたの目の間に』置くことは、その律法を覚えるうえでどのように役立つでしょうか。」思いと行いにおいて主を常に覚えるための方

法を紹介するか、生徒が紹介する。

次の質問をする。「モーセの律法の覚えられるもの（律法には600以上の具体的な項目がある）の中で、主がイスラエルの民にいちばん覚えてほしいと思われたことは何でしょうか。」（申命6：4-5参照）申命6：4-5とマタイ22：34-38を相互参照する。ここでイエスは、この戒めを「いちばん大切な、第一のいましめ」と呼ばれた。生徒用学習ガイドの申命記6章の「聖文を理解する」から、この戒めについて述べたエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉を読む。この言葉をカードにして、生徒が持ち歩いたり、よく目にする場所にはったりできるようにするとよい。また、生徒用学習ガイドにある申命記6章のための活動として、何をするか発表させてもよい。

日々の生活の中で、主を頻繁に思い起こすよう勧める。3ニーファイ18：7、11と教義と聖約20：77、79を読ませ、生活の中で主を覚える者に約束されている祝福を見つけさせる。

申命1-11章。主はイスラエルを精錬し清めるために、彼らを40年間荒れ野でさまよわせた。（20-25分）

生徒が住んでいる場所から400キロメートルほど離れた場所にある町や有名な建造物を選ぶ（これはカイロからエルサレムまでのおおよその距離である）。次の質問をする。

- 目的地まで歩くと、どのくらいの時間がかかると思いますか。
- 主はイスラエルの人々が約束の地に入るまで、どのくらいの時間がかかると言われましたか。

申命1：1-8を読ませ、次の質問をする。「民は40年間のうち、どのくらいを荒れ野で過ごしてきたでしょうか。また、主はその40年間、民に何をするよう望んでおられたでしょうか。」

申命記1-4章の大部分は、イスラエルが40年間さまよわなければならなかった理由を述べている。これらの章から、イスラエルが40年間荒れ野をさまよった理由に焦点を当てている部分を読む。

クラスを4つのグループに分け、各グループに申命記7、8、10、11章を1章ずつ割り当てる。割り当てられた章を調べ、モーセがイスラエルの民の新しい世代に対して、成功するためには何をしなければならないと言ったか見つけさせる。各グループに見つけた内容を発表させる。以下の質問をする。

- モーセがイスラエルの人々に与えた勧告は、わたしたちにどう当てはまると思いますか。
- わたしたちが直面するチャレンジの中で、主の助けを得るために何をしなければならないと思いますか（教義と聖約82：10参照）。

 **申命7：3-4（マスター聖句）。**同じ信仰を持つ、ふさわしい末日聖徒と結婚することによって、家庭内の多くの不和を避けることができる。（15-20分）

以下の一つまたは両方の状況について、二人の生徒にロールプレーをさせる。

- 生徒の一人は教会員の役を、もう一人は教会員ではなく、宗教には特に関心がない伴侶の役を演じる。場面は日曜日で、教会員は子供たちと一緒に教会に行きたいと思っているが、教会員でない伴侶は家族でレジャーを楽しみたいと思っている。二人の生徒に、自分の意見に従うよう相手を説得させる。
- 生徒の一人は教会員の役を、もう一人は別の教会に集う会員の役を演じさせる。最近子供が生まれ、末日聖徒の教会で幼児の祝福を受けさせるか、別の教会で「洗礼」を受けさせるかを決めなければならない。自分の選択が子供にとって最善であることを分からせるために互いに相手を説得させる。

結論が出るか、話し合いが行き詰またらロールプレーをやめさせ、以下のことについて考えさせる。

- 選択には、どのような結果が伴いますか。
- それぞれの望みを満たす方法はあると思いますか。それはどのような方法ですか。
- このような状況を和やかに解決するために、会員である伴侶は何ができますか。（例えば、教会員でない伴侶を愛し支える、会員としての徳を示す、模範を示す。）

生徒とともに申命7：1-6を読み、3-4節に印を付けるように勧める。次の質問をする。

- 主は、聖約に基づいていない結婚はどのような結果を招くとおっしゃいましたか。
- この聖句の内容は、今のロールプレーとどのような関係があるでしょうか。
- 聖約の下で結婚しないと、ほかにどんな結果を刈り取ることになると思いますか（教義と聖約131：1-4；132：7、15-18参照）。
- 日々の決断の中で、将来の神殿結婚を左右するものには、どのようなものがあるでしょうか。

申命13：1-10；18：15-22。わたしたちは、神と神が承認された代理人に真理を尋ね求めるべきであり、人を欺くものに求めてはならない。（15-20分）

世の中には、考え方や、信条、また行いを押し付けようとする人々が大勢いる（教義と聖約46：7；50：1-3参照）。現世での大きなチャレンジの一つは、神を代弁する者とそうでない者とを区別できるようになることである。

可能であれば、生徒が知っている人の声を数人分録音しておき、それを聞かせる。その中に必ず預言者の声を入れる。ほかには、両親、教会の教師、ビショップ、宣教師な

どを入れるとよい。そのような録音テープを準備できなければ、だれもが知っている著名人の言葉を読み、それがだれの言葉か当てさせる。黒板の右側に「イエス・キリストの福音を教える人々」と書き、それに当てはまる人々を挙げさせる。黒板の左側には「人や悪魔の教義を教える人々」と書く。申命13:6-10と18:10-12を読み、主の教えではなく、自分自身の哲学をしばしば教える人や、わたしたちを主から離れさせようとする人々を挙げる。

今日の世の中で教えられている哲学や習慣で、福音の原則と相いれないものを幾つか挙げさせる。申命13:1-5と18:18-22を読ませ、原則の真偽を見分ける方法を見つける。モロナイ7:16-17と10:5-7を読み、真理と誤りを区別するためのそのほかの方法について話し合う。

現代において、偽り者や偽りの教師を死刑に処することはない。偽りの教義から自分たちを守る方法について生徒と話し合う（教義と聖約21:4-6; 45:56-57; 46:7-9; ジョセフ・スミス訳マタイ1:37参照）。預言者、聖文、祝福師の祝福、および聖霊を通じて主の導きを受けられることを証する。次の質問をする。「預言者はどのようにわたしたちを欺きから守ってくれるでしょうか。」

クラスの締めくくりとして、「感謝を神に捧げん」（『讃美歌』11番）を歌い、希望する生徒に生ける預言者についての証を述べるよう勧める。

申命14:22-29; 15:7-11; 26:12-15。主はわたしたちが、什分の一とささげ物をささげることによって、貧しい人々と祝福を分かち合うよう求めておられる。（15-20分）

以下の「正誤」クイズに答えさせる。

1. 什分の一の律法は、預言者ジョセフ・スミスによって始められた（誤。申命14:22参照）。
2. 什分の一は常にお金で支払われてきた（誤。申命14:22-25参照）。
3. 什分の一は、貧しい人々に必要なものを提供するため使うことができる（正。申命14:29; 26:12-13参照）。
4. 主は什分の一の祝福について何も述べておられない（誤。申命14:29; 26:15参照。マラキ3:8-10も参照）。
5. わたしたちには貧しい人々に必要なものを提供する責任がある（正。申命15:7参照）。
6. 貧しい人々に対するわたしたちの責任は、必要なものを提供した時点で終了する（誤。申命15:8参照）。
7. 主はわたしたちが貧しい人々に与えるために、物質的な祝福をくださる（正。申命15:10参照）。

問題と一緒に記されている聖句を生徒と一緒に読んで答えを確認させる。次の質問をする。

- 天の御父がわたしたちに貧しい人々の世話をするよう求められるのはなぜだと思いますか（マタイ25:31-40; モーサヤ4:16-23参照）。

- 祝福をほかの人々と分かち合うことで、キリストのような特質を伸ばすことができます。どのような特質でしょうか。

申命28-30章。聖文では、わたしたちが選択に伴う結果を理解することができるよう、「～ならば、～であろう」という文が度々用いられる。（15-25分）

長さ約1メートルの棒を2本クラスに持参する。1枚の紙に「罪」と書き、その下に薬物、アルコール、喫煙、不道徳、不正直、慎みのなさ、暴力など、青少年が直面する誘惑を幾つか列挙する。その紙を1本の棒の先に付ける。反対側の先には「結果」と書いた別の紙をつけ、誤った判断、健康障害、事故、収監、さらには死など、それらの罪を犯すことによって生じる幾つかの問題を挙げる。これらすべての選択に伴う永遠の結果は、悲しみや御霊の喪失であり、もし悔い改めなければ永遠の命を失うことになる。

もう1本の棒の先には、「義」と書いた紙を付け、その紙に、什分の一を納める、聖文を読む、安息日を聖く保つ、純潔を守るなど、義の原則や行いを列挙する。反対側の先には「結果」と書いた紙をつけ、幸福、精神と心の平安、安全、実りある人生、永遠の命など、戒めを守ることで得られる祝福を幾つか挙げる。

一人の生徒が前に出てきて、2本の棒の「罪」と「義」の側だけを読む。その生徒に、もし自分が教員ではなく、神についてほとんど知らないとしたら、どちらの棒を選ぶか尋ねる。次にそれぞれの棒の「結果」の側を読ませ、事前に結果を知っていたなら、もっと簡単に良い選択をすることができたと思うか尋ねる。

人はしばしば、選択するものだけに目を向け、その結果については考えていないことを説明する。また、後でどうにか結果を変えられると考える人々や、結果について警告する人の言葉を信じない人もいる。棒の一方の端、すなわち「罪」か「義」を選ぶとき、わたしたちは棒のもう一方の端、すなわち結果も自動的に選んでいることを理解させる。

申命記28章には、「～ならば、～であろう」という文体でイスラエルの前に提示された、選択と結果の典型的な事例が記されていることを説明する。生徒に1節から「～ならば」と記されている箇所を見つけさせ、2-14節で述べられている祝福を受けるためにイスラエルがしなければならなかつたことを列挙させる。

15節にある「～ならば」の箇所を見つけさせる。次のように尋ねる。「イスラエルが『主の声に聞き従わ』なかった場合には、どのような結果が待っていたでしょうか。」16-47節に目を通し、不従順がもたらすのろいに印を付けさせる。悲しむべきことに、古代のイスラエルは神に従うことよりも、従わないことを選ぶことが多かったと伝える。

申命29:1-13を生徒と読み、以下の質問をする。

- モーセは民が忠実であり続けることはないと知っていました。それでもモーセは、民が何をするよう望みました

か（神との聖約に入る）。

- なぜモーセは民がそうすることを望んだのでしょうか（民が行うすべてのことにおいて榮えるように）。
- あなたは正式な聖約を主と交わしていますか。それはどのような聖約ですか（バプテスマの聖約）。
- 申命29：9にある約束は、わたしたちが神と交わす聖約にも当てはまると思いますか（モーサヤ5：7-10；18：8-10；教義と聖約97：8-9参照）。

聖約が自分にとってどれほど大切なものが書かせる。次の1週間で、聖約を守るためにさらに努力することを少なくとも一つ挙げるよう求める。

申命32章。義人の歌は天の御父への祈りである。（10-15分）

生徒用学習ガイドにある申命記31-32章のための活動AとBをさせる。

申命34：10。救い主の生涯における出来事と、モーセの生涯における出来事には多くの類似点があった。（15-20分）

モーセの生涯における多くの出来事は、救い主の生涯がどのようなものとなるかをあらかじめ教えている。以下の表の参照聖句だけを記した紙を配る。聖句を読んで類似点を記入させる。

モーセ	類似点	イエス・キリスト
出エジプト 1：16-2：10	どちらも王が幼な子を殺すよう命じたとき、虐殺から逃れた。	マタイ 2：13-16
出エジプト 18：13； 使徒7：35	どちらも支配者、解放者、裁判人と呼ばれた。	イザヤ 9：6； ヨハネ 5：22；教義と聖約138：23
出エジプト34：28	どちらも40日間断食した。	マタイ 4：2
モーセ1：12	どちらも直接サタンから誘惑を受けた。	マタイ 4：1-11
出エジプト 16：4-15	どちらも奇跡的な方法でパンと肉を用意した。	ヨハネ 6：9-13
出エジプト17：6	どちらも水を用意した。	ヨハネ 4：10-14
出エジプト7：20	どちらも水を別のものに変えた。	ヨハネ 2：1-11
出エジプト 14：21-22	どちらも風や水に対して力を行使した。	マタイ 8：27
教義と聖約 138：41	どちらも偉大な立法者であった。	イザヤ33：22
出エジプト 2：11-14； 使徒7：22-37	どちらもイスラエルを初めて導こうとしたときに拒まれた。	ヨハネ 19：13-15； 使徒3：13-15
出エジプト 32：30-32	どちらも自分の民のために嘆願し、執り成しをした。	教義と聖約 45：3-5
申命18：15-18	キリストはモーセ「のような」預言者と呼ばれた。	使徒3：22-26； 3ニーファイ 20：23-26

主の眞の預言者に従うとき、わたしたちは主イエス・キリストにも従っていることを証する。

ヨシュア1-24章

はじめに

ヨシュア記には、その主要な登場人物である預言者の名前がつけられている。この書の大半は恐らくヨシュアによって記録、あるいは監修されたものであろう。しかし、ヨシュアの死と埋葬についての記述が含まれていることから、ヨシュアがすべてを書いたわけではないと思われる。ヨシュアとは、ヘブライ語で「主は救われる」または「主は勝利をお与えになる」という意味である。この言葉に相当するギリシャ語が「イエス」である。

ヨシュア記には、イスラエルの民が約束の地を手に入れるのを主がどのように助けられたかが記されている。この征服についての記録を読めば、民を勝利に導かれたのは主であることがはっきりと分かる。ヨシュア記の物語は多くの点で、後に現れる本当のヨシュアすなわちイエス・キリストを象徴している。この御方が、わたしたちの敵と「あらゆる義の敵」（モロナイ9:6）である悪魔に打ち勝ち、人生の荒れ野を経て、わたしたちを日の栄えの王国という約束の地に導いてくださるのである。

ヨシュア記は、主が約束を果たされることを証している。主はアブラハムの子孫が、カナンの地を所有すると聖約された。自らの不従順ゆえに、イスラエルの民はアブラハムに約束されたすべての地を所有することはできなかったが、アブラハムの子孫はヨシュアの時代に初めて、実際にカナンの地を治めたのである。

ヨシュア記は3つの主要な部分にまとめることができる。

1. カナンの征服（1-12章）

2. イスラエルの部族による土地の分割（13-22章）

3. 死期を迎えたヨシュアの最後の指示と証（23-24章）

詳しくは『聖句ガイド』「ヨシュア」（275ページ）を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちが忠実であるなら、主はわたしたちが困難に打ち勝つことができるよう、時には奇跡的な方法で助けてくださる。また、主から求められたことを行えるよう祝福してください（ヨシュア1:1-9; 3-4章:6:1-20; 8:1-22; 10:5-21, 40-42; 11:1-10, 15-16; 21:43-45; 23:1-11; 24:1-24参照）。
- 日々の聖文研究は、わたしたちが福音を理解し実践して主の祝福を得るのに役立つ（ヨシュア1:7-8; 8:32-35参照。教義と聖約33:16-17も参照）。

- 主は御自分の指導者を人々の目に尊んで大いなる者とされる（ヨシュア1:16-18; 4:14参照）。
- 従順と個人の清さは、わたしたちの信仰を増す。そして困難に打ち勝つことができるよう天の力を身に付けることができる（ヨシュア6:1-20; 7:1-26; 10:8-16; 11-12章参照）。
- わたしたちの行いは、周囲の人々の生活に良くも悪くも影響する（ヨシュア7:1-5, 10-21参照）。
- 主は時々、「罪悪が熟し」たときに人々を滅ぼすによって、彼らの悪事に終止符を打たれる（ヨシュア8:1-29; 10-11参照。申命20:16-18; 1ニーファイ17:32-35; モーセ8:20-22, 28-30も参照）。
- 主は常に約束を果たされる（ヨシュア21:45; 22:1-4参照。教義と聖約1:37-38; 82:10も参照）。
- 神はその子らに選択の自由を与えられた。主を愛して主に仕えるか、それともこの世の偽りの神を愛してそれに仕えるか、人はどちらかを自由に選ぶことができる（ヨシュア22:5; 23:11-16; 24:14-25参照。アルマ5:38-42; 教義と聖約1:16も参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』17「わたしのほかに、なにものも神としてはならない」では、一酸化炭素のたとえを用いて偶像礼拝の影響が示されている（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

ヨシュア1章。日々の聖文研究は、わたしたちが福音を理解し実践して主の祝福を得るのに役立つ。（30-40分）

ヨシュア1章を学ぶための導入として、ヨシュアが助言を求めて書いた以下の架空の手紙を読む。

関係者各位

わたしはヨシュアと申します。わたしは、イスラエルの子らをエジプトから導き出し、今では亡き人となった偉大な指導者モーセに代わって、民の新しい指導者に任命されました。わたしはこの召しの前に身が縮む思いです。あのようなすばらしい預言者の後を引き継ぐには、あまりにも力不足だと感じています。わたしが召されたこの新しい責任をうまく果たすためにどうすればよいか、助言をいただけますでしょうか。民は、彼らがモーセに従ったようにわたしにも従うと約束してくれています。

敬具

ヨシュア

生徒とともにヨシュア1章を読み、主がヨシュアにお与えになった勧告を見つける。クラス全体で、ヨシュアがイ

スラエルの指導者として成功できるよう主が語られた事柄をリストアップする。「強く、また雄々しくあれ」という指示に特に注目する（6-7、18節参照）。「強く、また雄々しくあれ」とはどういう意味だと思うか尋ねる。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の言葉を紹介する。

「これは主の御業です。決して忘れないでください。愛と熱意をもってそれを受け入れてください。

恐れではありません。イエスがわたしたちの導き手であり、力であり、王なのです。

今は悲観的な考えがはびこっている時代です。わたしたちには信仰の使命があります。世界中の兄弟姉妹の皆さん、自分の信仰を再確認し、この御業を世界に推し進めていこうではありませんか。皆さんは自分の生き方によつて御業を強めることができます。……

この偉大な御業の歴史はなんと栄えあるものでしょう。勇敢で雄々しく、信仰に満ちているのです。そして、わたしたちが主の僕の声に耳を傾ける世界中の人々を祝福するために前進するなら、現代もまたすばらしい時代となります。全能者が推し進めておられるこの輝かしい御業の行く末は、何とすばらしいものになることでしょう。神は、福音を受け入れて実践しようとするすべての善良な人々の心を動かされます。そして世の頗る主への愛で心を満たされた人々の無私の働きを通して、あらゆる世代の神の息子娘のために備えられた永遠の祝福を得させようとしておられるのです。……

みなさんがどこにいようと、この教会の会員として、自分の足で確固として立つようにお勧めします。心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に励むようにしましょう。ともにこの道を歩み続け、信仰を保ち、全能者を力の源としていこうではありませんか。」（『聖徒の道』1996年1月号、78参照）

ヨシュア1:8（マスター聖句）。聖文を研究することは、福音を理解し実践するのに役立つ。（10-15分）

ヨシュア1:8を読み、以下の質問をする。

- 主はヨシュアに何を行うように勧告されましたか。
- わたしたちは律法を思うために何を行っているでしょうか。（聖文の研究。）

生徒用学習ガイドにあるヨシュア1章のための活動Bをさせてもよい。

聖文を研究することの大切さを理解させるために、エズラ・タフト・ベンソン大管長の以下の言葉を紹介する。

「聖典を読み研究することは、主から〔聖徒に〕課せられた重荷ではなく、すばらしい祝福の機会で〔す〕。……

主がヨシュアに約束されたのは、物質的な富や名声ではなく、正義の中で繁栄することでした。そして、人生で最も重要なこと、すなわち真実の幸福を見いだすことでした（2ニーファイ2:25参照）。」（「み言葉の力」『聖徒の道』1986年7月号、82）

黒板に以下の聖句を書いて、生徒に割り当てる。聖句を読んで、聖文の研究を通して得られる祝福を見つける。

- 1ニーファイ15:24（悪に打ち勝つ力）
- アルマ4:19（正しい生活をする力）
- アルマ17:2-3（確信をもって教える力）
- モルモン書ヤコブ4:6（天の力を得る力）
- ヒラマン15:7（心や性質を変える力）
- ローマ15:4（希望と喜びが増す）
- アルマ31:5（靈性が増す）
- 2ニーファイ32:3（知識と理解力が増す）
- ヒラマン3:29（識別の力が増す）
- 教義と聖約18:36（証が強まる）（ジェイ・E・ジェンセン『聖徒の道』1993年1月号、90-91参照。）

 ヨシュア3-6章。信仰を行使して主の戒めを守るとき、わたしたちの信仰と自信が増し、困難に対処するために必要な力を主から授かる。（20-25分）

注意：この項には、週に1度のクラスを教える教師のための教え方の提案がもう一つ掲載されている。恐らく1回のクラスで両方を教えることができるであろう。

テーブルの上に、6、7冊の本を積み重ねて置く。その隣には水がたっぷり入ったバケツを置き、中にクリップかボタン、または何か小さなものを入れる。二人の生徒に前に出てきてもらう。一人には、本をどなりつけて、声だけではテーブルから払い落とすように言い、もう一人には、バケツを動かしたり手をぬらしたりしないで、底に沈んでいるものを取り出すように言う。生徒がそのようなことはできないと言ったら、全員にヨシュア3章と6章に目を通させる。一見不可能に見えながらも、主の助けによってイスラエルが成し遂げた二つの出来事を見つける。これらの奇跡がどのように成し遂げられたか尋ねる。生徒がはつきり答えられない場合は、ともにヨシュア3:7-13および6:2-5、10を読む。以下の質問をする。

- これらを成し遂げるようという指示は、論理的なものに思えますか。
- 実際に水を「うず高く」させ、エリコの城壁を崩れさせたのは何だったと思いますか。
- これらの出来事は、あなたの信仰にどのような影響を与えると思いますか（生徒用学習ガイドにあるヨシュア6章のための活動Bは、この質問について話し合ううえで役立つ。）。

人々が、変えることはできないと思っている弱点や性癖、態度をリストアップさせる。例えば、習慣や怒り、反抗的または闘争的な性格、あるいは特定の誘惑に対する弱さなどを挙げることができる。以下の質問をする。

- これらのうち、主が変える力を持っておられるのはどれですか。
- 主はわたしたちを変える力を持っておられますか。自分の生活を変えるためにわたしたちはどのような責任を負

っていますか。

- 生活の中で主の驚くべき助けを受けるために、わたしたちは何をするよう求められていますか。

以下の聖句の幾つかを読み、それらをリストに挙げた事柄と結びつける。

- モーサヤ23:21-22
- アルマ36:3
- エテル12:27
- 教義と聖約90:24

これらの指示が一見論理的でなく思える理由を尋ねる。次のことを説明する。「ヨシュア3章と6章の奇跡は、預言者を通して神から与えられた指示に、民が厳密に従ったときに初めて起きた。」エテル12:6を読み、ヨシュア記の二つの奇跡とどのように関係しているか答えさせる。わたしたちが祝福を願い求めるとき、この原則がどのように当てはまるか尋ねる。

人の考えでは、務めが不可能に思えたり、指示が非論理的に思われたりする場合でも、主にとっては難しすぎることはないことを説明する。信仰と従順によって、起こり得るはずのないような祝福を受けたときの経験を話す。生徒にそのような経験を話すように勧めてもよい。

ヨシュア3:13-17。わたしたちはイエス・キリストへの信仰に基づいて、自ら進んで行動しなければならない。
(10-15分)

鍵などの小さなものをクラスに一つ持参し、紙袋に入れておく。中身を見せずに、袋に何が入っているか伝え、どのくらいの人が信じるか尋ねる。アルマ32:21およびヘブル11:1を読ませ、信仰とはまだ見ていない真実のことを信じることであることを理解させる。これは、彼らが袋に入っているものを信じたのと似ている。袋を振って、中に何か入っていることが音で分かるようにし、教師の言葉に対する彼らの信仰にどのような影響があるか尋ねる。袋の中身を見せ、それによって彼らの信仰がどう変化するか尋ねる。信仰が知識になったことを理解させる（アルマ32:34参照）。

ヨシュア3:13-17を読ませ、以下を尋ねる。

- ヨルダン川はどのような状態でしたか。
- 川の流れが止まったのはいつでしたか。

エテル12:6を生徒とともに読み、次のことを話し合う。「川の流れが止まる前に、祭司は足をぬらす必要があった。それはなぜでしょうか。」次のように尋ねる。「これまでに自分が行うよう求められたことのなかで、水の流れが止まる前に足をぬらすことには相当するものがあるでしょうか。」十分の一や献金を納めること、伝道に出ること、16歳までデートを控えること、および教会の召しを受け入れることなどが例として挙げられる。ヨシュア4:23-24を読み、主がわたしたちに、信仰に基づいて行動するよう求められるのはなぜか尋ねる。

ヨシュア5:13-15。ヨシュアとモーセの同じような経験を比較することによって、だれが「主の軍勢の将」であるか知ることができます。
(15-30分)

生徒用学習ガイドにあるヨシュア5章のための活動Aを行い、それについて全員で話し合う。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』(258ページ)にあるヨシュア5:13-14についての注解の内容を紹介する。活動Bをする時間を与え、彼らが書いたことについて話し合う。

ヨシュア7章。わたしたちは罪を隠し通すことはできない。主が御存じだからである。わたしたちの行いは、人々の生活に影響を与える。
(25-30分)

黒板に以下の文を書く。

自分の人生だ。やりたいようにするさ。だれも傷つけではない。

自分が何をしようと、だれにも関係がない。だれもそれを知る必要はない。

これらの考えがなぜ間違っているか尋ねる。

一つの理由に、わたしたちがしばしば、自分の行いが人々にどのような影響を与えていたか気づいていないことが挙げられる。これを説明するために、容器に水を入れてそこに小さな石を落とすとよい。たとえ小石を真ん中に落としたとしても、その波紋は容器の端にまで広がることを指摘する。次のことを尋ねる。「小石の波紋は、どのような意味でわたしたちの行いが及ぼす影響——特に罪が及ぼす影響——と似ているでしょうか。また、個人的な罪であったとしても、どのように人々に影響を与えるのでしょうか。」生徒に例を挙げさせる。個人的な罪や特定の人物の罪について話し合うことのないように注意する。

これらの考えが間違っていることのもう一つの理由は、神がわたしたちのすべての罪を知っておられるということである。神に対して自分の罪を隠すことは絶対にできない。教義と聖約121:37-38を読ませ、罪を隠そうとするとどうなるか探させる。

ヨシュア6:17-19を読ませる。イスラエルの民が、エリコを攻撃する前に主から与えられた命令を調べさせる。ヨシュア7:1, 20-21を読み、彼らがその命令にどれほど忠実に従ったかを見つけさせる。ヨシュア7:2-13を読ませ、アカンの行いが民の残りの者にどのような影響を与えたか見つけさせる。14-19節を読ませ、アカンは自分がしたことを神に隠すことができたか確認させる。次の質問をする。「5節によると、アカンの罪のために何人の人が命を失ったでしょうか。」マタイ16:25; 教義と聖約42:46; 98:13-14を読ませ、神に仕えて自分の命をささげる者に対する神の約束を見つけさせる。次の質問をする。

- これらの聖句にある約束は、命を失わない者にも当てはまるのでしょうか。なぜですか。
- 主はアイでイスラエルへの助けを控えられることによつ

て、何を教えようとされたと思いますか。

出エジプト19:5-6を読ませ、主がイスラエルの人々に望んでおられたことを見つけさせる。ローマ14:7を読ませ、その内容がこの原則にどう当てはまるか尋ねる。教義と聖約110:7-8とアルマ39:11を読み、次のことを話し合う。「一人の行いがほかの人々の生活に影響を与える例として、ほかにどんな場合が考えられるでしょうか。」例えば、カンニングは学習を妨げ、飲酒運転は罪のない人々の命を奪いかねない。また、不道徳は妊娠や病気を引き起こしかねない。アルマ7:13と教義と聖約19:15-19を読ませ、キリストの贖罪がわたしたちにもたらす影響を調べさせる。

なぜアカンは殺されたのか疑問に思う生徒がいるかもしれない。ヨシュア1:16-18を読ませ、イスラエルが背きと不従順に対する罰としてどのようなことに同意していたか見つけさせる。ヨシュア7:20-21を読ませ、以下の質問に答えさせる。

- アカンはエリコのぶんどり物に関する聖約と命令を知っていましたか。
- ヨシュア7:5によると、アカンの行いはどのような結果を招きましたか。
- 罪はどのような点で癌に似ていますか。
- 癌を取り除くことはどれほど重要でしょうか。
- 治療しないと、あなたの体はどうなると思いますか。
- 悔い改めを引き延ばすことはなぜ危険なのでしょうか。

わたしたちの行いがほかの人々に与える良い影響についても話し合う。人々を助け、彼らの模範となるように、どのような良い行いができるか尋ねる。罪と同様、わたしたちの良い行いにも人々に影響を与える力があることを思い起こさせる。

ヨシュア8-12章。カナンの人々はその悪事のために滅ぼされた。 (15-20分)

「戦い進め」(『贊美歌』155番)または「見よ、王の軍は」(『贊美歌』160番)を歌ってクラスを始め、以下の質問をする。

- 聖徒を「つわもの」や「王の軍」としているのはなぜですか。
- この贊美歌から、どのようなメッセージを受けますか。
- わたしたちが戦う相手はだれですか。

ヨシュア8-12章で、イスラエルは、カナンに住む民を滅ぼすように命じられたことを説明する。1ニーファイ17:32-35を読み、カナンびとの道徳的な状態を調べさせる。次の質問をする。「ニーファイはカナンに住む人々に何が起きたと言っているでしょうか。」エテル2:9-12を読ませ、カナンの地に住む人々と今日のわたしたちに共通して当てはまる点に注目する。

ヒラマン6:37を読ませ、義にかなったレーマン人が、

どのようにしてガデアントンの強盗団を滅ぼしたか見つけさせる。以下の質問をする。

- 今日わたしたちが悪と戦う方法と、どのようなところが似ていますか。
- 今日わたしたちは悪と戦うときに、どのような武器を使いますか。

戦争はキリストのメッセージではないことを思い起こさせる。わたしたちは人とではなく、罪と戦うことを理解させる。

教義と聖約4:2-7を読ませ、宣教師として成功するために必要な特質について調べさせる。教義と聖約27:15-18を読み、今日福音を宣べ伝える勇士のために、主が用意しておられる武具について調べる。できれば、4月に行われた最近の総大会(『リアホナ』)より教会の統計報告を紹介し、この戦いに参加している宣教師の数と、この戦いでどれほど多くの人々が改宗しているか指摘する。教義と聖約63:37を読んで、主が宣教師としてだれを召されたか調べさせる。まとめとして「われらは天の王に」(『贊美歌』157番)を歌ってクラスを終えてもよい。

ヨシュア13-21章。主は、約束の地を受け継ぐであろうというイスラエルの民への約束を成就された。 (25-30分)

最近だれかに約束をしたか考えさせ、以下の質問をする。

- なぜその約束をしたのですか。
- その約束を守ることは、あなたにとってどれくらい難しいことでしたか。
- ほかの人があなたとの約束を守らないと、どのように感じますか。
- 彼らがその約束を守ると、どのように感じますか。

出エジプト23:27-30を読ませ、神がイスラエルにした約束の詳しい内容を調べさせる。ヨシュア21:43-45を読み、主が約束を果たされたかどうか尋ねる。教義と聖約1:38と82:10を読ませ、以下の質問をする。

- 今日において、主の約束はどれほど確かなものですか。
- 教義と聖約82:10によると、主が約束を守ろうとされるのを妨げる要因は何ですか。

『聖句ガイド』地図3を開かせ、各部族が受け継いだ土地を調べさせる。最も大きな嗣業を受けた部族と、最も小さな嗣業を受けた部族を見つけさせる。民数26:52-56を読んでその理由を確認させる。

地図に見当たらない部族はどれでしょうか(ヨシュア13:33参照)。民数1:47-53を読み、次のことを話し合う。「レビの部族はある責任があったため、ほかの部族と異なっていた。どのような責任でしょうか。」民数35:1-8を読ませ、主がレビびとの嗣業についてモーセに明らかにされたことを見つけさせる。ヨシュア21:3を読み、レビびとが約束されていたものを受けたかどうか見つける。

以下の聖句を生徒に割り当て、主のわたしたちに対する約束を見つけさせる。

- モロナイ10:4-5
- 教義と聖約58:42
- 教義と聖約59:23
- 教義と聖約76:50-70

教義と聖約88:16-20を読み、主がわたしたちにどのような受け継ぎの地を約束しておられるか見つけさせる。主は約束を果たす力を持っておられ、実際に約束を果たされる。それに関して、旧約聖書の研究や自らの経験を通して学んだことを紹介するよう勧める。

 ヨシュア23-24章（マスター聖句、ヨシュア24:15）。わたしたちには選択する自由があるが、それぞれの選択において結果を受け入れなければならない。（35-40分）

3つの袋に、価値の異なる3つのもの（例えば、キャンディーのかけら、キャンディーの半分、キャンディー1個）を入れておく。生徒の一人に、一つの袋を選ばせる。生徒が何を選んで、何を選ばなかったか見せて、選択には結果が伴うことを理解させる。ある選択は、別の選択よりも良い結果をもたらすことについて話し合う。

生徒の一人にヨシュア24:15を読ませ、ヨシュアが民にどのような選択をするよう勧告したか答えさせる。ヨシュアとその家族がどちらの道を選んだか尋ねる。ヨシュア23:14-16と24:1-15を読み、次のことについて話し合う。「ヨシュアが主に従うことを選んだのはなぜでしょうか。」当時十二使徒定員会会員だったハワード・W・ハンター長老が、ヨシュア24:15について語った以下の言葉を読む。

「この言葉には、すべてを神にゆだねる人の全き決意がうかがわれます。……ヨシュアは、イスラエルの民がどのような決定を下そうと、自分は自らが正しいと信じるところを行なうと言いました。民がどう決心しようと、自分は主に仕えると宣言したのです。人に惑わされることはありませんでした。主の御心を行おうというヨシュアの決意は、何が起ころうと、だれがどうしようと変わらなかったのです。ヨシュアは意志の強い人で、その目は常に主の戒めをじっと見つめていました。」（『聖徒の道』1983年1月号、103参照）

次のことを尋ねる。「今まで、この世のやり方ではなく、主に従うことを選んできたのはなぜでしょうか。」その理由を黒板に書き出す。この世のやり方に従う人がいるのはなぜか尋ね、その理由を黒板に書き出す。黒板に書いた二つのリストを比較させ、この世に従うことが、偽りの神々を礼拝することとどのような点で似ているか話し合う。モーサヤ2:38-41；3ニーファイ27:10-11；教義と聖約19:16-19を読ませ、主に従わない人にはどのような結果が待っているか考えさせる。

わたしたちが交わる人々は、わたしたちの選択にとても大きい影響力を持っている。ヨシュア23:13を読ませ、次のことを話し合う。「ヨシュアは、誤った選択をするようイスラエルを誘惑する民について何と言っているでしょうか。」6-11節を読み、次のことを見つけさせる。「イスラエルを取り巻く影響力に対して、ヨシュアはどう対処するよう教えたでしょうか。」申命7:1-5を読ませ、これらの聖句が今日のわたしたちにどう当てはまるか考えさせる。一人の生徒に『若人の強さのために』（12-13ページ）にある友人との関係について書かれた部分を読ませてもよい。生徒とともに以下の参照聖句を読み、次のことを話し合う。「わたしたちを取り巻くこの世の影響力に対して、主は何をするよう命じておられるでしょうか。」マタイ5:15-16；アルマ5:56-58；教義と聖約101:22；88:81-86。

士師 1-21章

はじめに

士師記には、ヨシュアの死からサウル王によって君主政治が開始されるまでのイスラエルの歴史が記されている（サムエル上8:1-9参照）。この士師の時代を正確に特定するのは難しいが、その始まりは紀元前1250年から1000年の間と推定されている。士師記を年代順に整理するのが難しい理由の一つは、それぞれの嗣業の地を所有して各部族が分散した後（ヨシュア13-17章参照）、民全体の一致よりも部族への忠誠が重要視されたことにある。記録されている士師は、通常約束の地における一つの部族、または一つの地域を代表しているにすぎない。したがって、士師の中には同時期に統治していた者がいたかもしれない。これらの士師は、神または自分が尊く民のいずれかによって選出された。彼らは民を敵から救うという責務を負っていたことから、法律の専門家というよりむしろ軍の司令官のようであった。以下の表はこの時期のイスラエルの士師を概観したものである。

士師および部族	イスラエルを虐げた者
ユダのオテニエル (士師3:9参照)	メソボタミヤの王クシャン・リシャタイム
ベニヤミンのエホデ (3:15参照)	モアブの王エグロン
シャムガル（3:31参照。部族は不明）	ベリシテびと
唯一の女性士師であるエフライムのデボラ、およびナフタリのバラク（4:4-6参照）	カナンの王ヤビンおよびヤビンの軍勢の長シセラ
マナセのギデオン (6:11参照)	ミデアンびとおよびアマレクびと
自ら王と名乗り、シケムで短期間統治したギデオンの息子アビメレク（9章参照）	
イッサカルのトラ（10:1参照）	不明
マナセのヤイル（10:3参照）	不明
マナセのエフタ（11:11参照）	アンモンびと
ユダのイブザン（12:8参照）	不明
ゼブルンのエロン（12:11参照）	不明
エフライムのアブドン (12:13参照)	不明
ダןのサムソン（15:20参照）	ベリシテびと

サムエル上ではさらに二人の士師、エリとサムエルについて述べられている。サムエルは、サウル王の統治する前の最後の士師であった。

イスラエルは各地に分散したため、敵からの攻撃を受けやすかった。しかし、分散したこと以上に民を弱体化させたのは、主との聖約を堅実に守らないことにあった。その結果、背教と悔い改めが繰り返されたのである（士師記1-3章の教え方の提案、113ページを参照）。士師記1-16章では、イスラエルを救った士師たちの生涯を通じて、背教と悔い改めのサイクルを伝えている。17-21章にある幾つかの物語は、背教したイスラエルの堕落した状態を例証している。当時「イスラエルには王がなかったので、おのの自分の目に正しいと見るところをおこなつ」ていた（士師21:25）。

また士師記は、ヨシュア記と同じように、主が御自分の民を救う力を持っておられることを明らかにしている。このことはいずれの士師の物語からもはっきりと見てとることができる。

- エホデはイスラエル最小の部族、ベニヤミンびとであった。
- デボラは、戦いにおいてイスラエルを導いた最初の女性である。またその物語のなかで、デボラと同じように勇敢に戦ったのは、イスラエルの敵の指導者を殺した女性ヤエルであろう。
- ギデオンは何千人というミデアンびとの軍隊を破るに先立って、自らの軍隊を300人にまで縮小した。
- エフタは遊女の子であった。
- サムソンは不妊の女性から奇跡的に生まれた。

これらの指導者が民を救うに当たって、そこに主の御手があったことは、それぞれの事例において明らかである。このように、イスラエルの歴史の中でも比較的悲しむべき時期においてさえ、何人かの卓越した男女がいたことが分かる。信仰と勇気行使したこれらの人々から、わたしたちは大切な教えを学ぶことができる。また、主を捨てて悲惨な結果を招いた人々の悪い例からも学ぶことができる。

士師記についてさらに知るには、『聖句ガイド』「士師記」（118ページ）、および『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にある士師記1-12章の「はじめに」（273ページ）を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主と交わした聖約を守らなければ、苦しみや悲しみを引き、約束されていた祝福を失うことになる（士師1:18-3:7; 8:32-35; 10:6-9参照）。
- 人々が悔い改めて神を呼び求めるなら、神は御心にかなった時期に彼らを苦難から救われる（士師3:9、15; 10:10-16; 11:32-33参照）。
- 主の指示に進んで従い、主の強さを受けるなら、ごく普通の人々でも並外れた働きをすることができる（士師

4:1-16; 6:11-16; 7:1-22参照)。

- 義にかなった家庭に生まれたり、大いなる使命に予任されたりしても、それによって個人の義が保証されるわけではない。主への従順さは、わたしたちの才能やその他の優れた条件以上に大切なものである(士師13-16章参照。アルマ2:26-31; モルモン5:16-18も参照)。
- 高慢と利己心は人に悲劇をもたらし、主から受けた召しを果たせなくしてしまう(士師16章参照)。

教え方の提案

士師1-3章。主に完全に従順でなければ、いつか悲しみを招くことになる。(25-30分)

以下の質問をする。

- 小さな子供が、交通量の多い道路の真ん中で遊んでいるとします。あなたは何をすべきですか。
- 両親から注意されているにもかかわらず、子供は時々そのような危険なことをします。それはなぜでしょうか。
- 両親や周りの人々は、子供たちにとって最もよいものを知っています。子供たちが彼らの勧告を無視し続けたら、どんな結果を招くでしょうか。

イスラエルの人々は、この教えがなかなか理解できなかったことを説明する。

士師2:1-3を読ませ、次のことを話し合う。「イスラエルは主の使いの命令に従いませんでした。どのような命令でしたか。」士師1:18-19を読む。ユダが、与えられた地域をすべて手に入れることができなかった理由を見つけさせる。次の質問をする。「この地域を手に入れることができなかった理由として、ほかにどのようなことが考えられますか。」(不従順と信仰の欠如。)

士師1:27-33を調べさせ、ほかの部族もほとんど同じような状況だったことに注目させてもよい。下にあるような戦車の絵を描くか見せる。次の質問をする。「本来ならこ

の種の戦車が問題になるはずはありません。なぜでしょうか。」(出エジプト14:23-31参照)今日の若人が直面している「鉄の戦車」のような問題を幾つか挙げさせる。天の御父は、わたしたちが最も恐れている問題や苦しんでいる問題を克服できるよう助ける力を持っておられる。エテル12:27を読んで確認させる。

黒板に以下の表を書く。生徒が埋められるように各欄は空欄にしておく。

不従順により、聖約の祝福が失われる

昔のイスラエル

カナンびとを地にとどまらせた

現代のイスラエル

生活の中で見過ごしにしている罪がある

強制労働をさせ、協定を交わし、偶像礼拝を認めた

罪やいかがわしい活動を黙認する

異民族との結婚

聖約に基づかずに結婚し、神殿の祝福が受けられなくなる

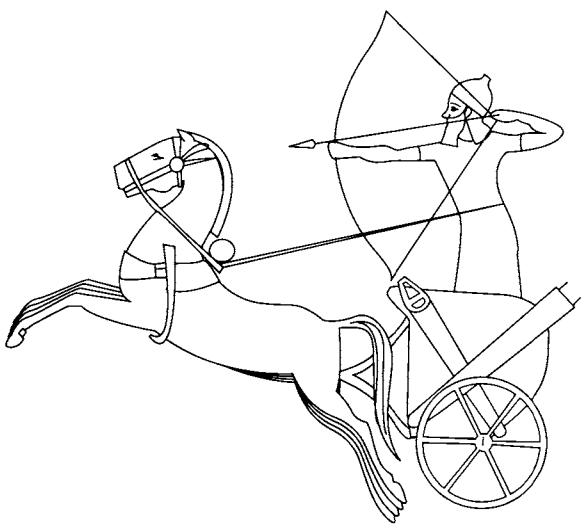
偶像礼拝

不活発や背教

士師1:27, 29-33を読ませ、「昔のイスラエル」の最初の欄に、その部族がどのような点で不従順だったか、また、どのような問題を黙認したか記入させる。士師1:28および2:1-2を読ませ、2番目の欄に、これらの聖句から、イスラエルの民が行ったことについて何が分かるか記入させる。「強制労働」という言葉の意味を尋ね、次の質問をする。「イスラエルの民は、カナンびとを滅ぼすという聖約を守らないで、彼らを強制労働に服そうとしました。なぜでしょうか。」士師3:5-7を読んで、その後イスラエルの民が何をしたか次の二つの欄に記入させる。

もう一度士師2:3を引用し、次のことを尋ねる。「主は、イスラエルの不従順がどのような結果を招くとおっしゃったでしょうか。」士師記の要約とも言える18-19節を読ませ、後の世代がどうなったか説明させる。

次のように尋ねる。「現代の人々も、昔のイスラエルと同じような行いや過ちをします。どのようなものがあるでしょうか。」両者を比較対照して「現代のイスラエル」の表の該当する欄を埋めさせる。選択について述べたニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を読む。



「もちろんすべての選択は自由です。自由でなければならぬのです。しかし残念なのは、わたしたちが怠惰であることを選ぶとき、その影響は自分だけにとどまらず、第2世代や第3世代にまで及ぶということです。親のちょっとしたあいまいな言葉が、子供たちを大きく迷わせることができます。先祖は献身的な信仰を守り抜いたかもしれません。しかし、その子孫はあいまいな信仰生活を送っているのです。そして悲しいことに、浸食作用が現れて、さらに次の世代の中には教会に異議を唱える人が出てくるかもしれませんのです。」（『聖徒の道』1993年1月号、72参照）

次の質問をする。「世の中において、何が聖約を守らない者のわなとなるでしょうか。」生徒とともに1ニーファイ17:45; 3ニーファイ6:17; 4ニーファイ1:38; およびモルモン2:13-15を読む。以下の質問に対する答えを考えさせる。

- ・イスラエルの民と同じわなに陥らないようにするために、何をする必要がありますか。
- ・邪悪な世の中にあって、義にかなった生活をし、聖約を守るにはどうすればいいでしょうか。

士師1-21章。イスラエルの民は、神と交わした聖約を常に守ることができなかつた。そのため、奴隸と自由の状態を繰り返した。（20-30分）

黒板または配付資料に以下の表を描く。表を空欄にしておき、士師記2-4章を研究しながら埋めていくとよい。

士師記に見られる背教のサイクル

主が民を救うために、士師を選ばれる。

民が悔い改めて主に叫び求める。

民が主の前に悪を行ふ。

民が敵の手に渡される。

士師2:11-19と3:5-11を読ませ、次の質問をする。「聖約を守らなかつた結果、どのようにして苦難のサイクルが繰り返されたでしょうか。」士師3:5-11から、表の各欄に該当する節を探させる。見つかった順に表に記入する。

士師3:12-15; 4:1-6; および6:1, 11を生徒と一緒に読み、次の質問をする。「主に助けを求める前に、新しい世代は苦しみと虐げを受けなければなりませんでした。それはなぜでしょうか。」士師記のほぼ全体にわたつてこのサ

イクルが見られることを説明する。士師2:11; 3:7, 12; 4:1; 6:1; 10:6; および13:1を読んで、「イスラエルの人々は主の前に悪を行ひ」という記述に印を付けさせる。

イスラエルの民と同じ過ちを犯さないようにするにはどうしたらよいだろうか。1ニーファイ2:16-17; 15:21-25; ヒラマン3:27-30, 35; 5:12を読ませ、その方法を見つけさせる。

 **士師3-16章。**主は「地の弱い者たち」を用いて、御自分の民の中で力強い業を成し遂げられる。（35-50分）

教会の若い宣教師たちの写真を見せる。次のように尋ねる。「世の人々は、これらの若者についてどのように考えていると思いますか。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、宣教師が世の中において、しばしばどのように見られているか述べている。

「わたしはBBCラジオの国際放送サービスからインタビューを受けました。レポーターの男性は、以前に宣教師たちを見たことがあります。その若々しさを心に留めていたのでした。彼は『まだひよっここの若者たちの話に人々が耳を傾けると思いますか。』と聞いてきました。

ついでながら、この『ひよっこ』という言葉には、未熟、経験が乏しい、洗練されていない、というような意味があります。」（『聖徒の道』1996年1月号、58）

主は御業を行うためにどのような者を召すと言つておられるだろうか。教義と聖約1:17-20と35:13-15を全員で読み、それを説明する言葉や文章を見つける。次の質問をする。

- ・主が「弱い」者たちを選ばれるのはなぜだと思いますか。
- ・そのことから主の力について何が分かりますか。
- ・主が最も強い者、最も賢い者、最も富んだ者をお選びになったとしたら、人々はどのような誘惑を受けると思いますか。
- ・最も強い者、最も賢い者、最も富んだ者が、最も義にかなつた人々だと言えますか。
- ・人々に間違つた理由で従うとき、どのような問題に直面するでしょうか。

レポーターに対するヒンクレー大管長の返答を読む。

「わたしはレポーターに笑つて答えました。『ひよっここの若者ですか？この宣教師たちは、パウロの時代のテモテと同じなのです。パウロは自分の若い同僚に書き送つた手紙の中でこう言いました。〔1テモテ4:12参照〕……』

驚くべきことですが、人々は宣教師たちを受け入れて、

彼らの話に耳を傾けています。彼らは健全です。明るく、機敏で、正直です。清潔な感じがしますし、人々は彼らをすぐ信頼します。』……

『ひよっここの若者たち?』そうです。世の中のことによく知らないかもしれません。しかし、それは何とすばらしい祝福でしょうか。彼らには少しもごまかしがありません。人を欺いたり、だましたりすることもないので。彼らは、自分自身の確信に基づいて語ります。一人一人が生ける神の儀であり、主イエス・キリストの使いです。彼らの力は、この世につける事柄を学んだことから来るのではありません。彼らの力は、信仰、祈り、謙遜から来るものです。』(『聖徒の道』1996年1月号、5参照)

以下の指導者は、英雄になることなどありそうもなかつた。その理由を説明するよう生徒に割り当てる。

- ・エホデ(士師3:15参照)
- ・デボラ(士師4:4;5:7参照)
- ・ヤエル(士師4:17-22参照)
- ・ギデオン(士師6:14-15;7:1-6参照)
- ・エフタ(士師11:1-2参照)

士師4:23と7:7と一緒に読み、民がこれらの指導者に従ったときに何が起きたか注目する。ギデオンの時代に、民は主が教えようとしておられたことをまだ理解していなかった。民はギデオンが彼らの王になることを望んだ。士師8:23にあるギデオンの返答を読む。

次のことについて意見を発表させる。「主の御手にあって主の業を行うより良い器となり、主の力の生きた証となるにはどうしたらいいでしょうか。」モーセ、エノク、預言者ジョセフ・スミスなどについて聖文から例を用いて話し合い、彼らが主の器として使われるためにどのような備えをしたか指摘してもよい(モーセ1:3-8;6:31-37;ジョセフ・スミス-歴史1:14-20参照)。

士師7-8章。わたしたちは自らに頼るのではなく、主に信仰を持って主を信頼しなければならない。(15-20分)

教室の壁から3メートルほど離れたテーブルの上に、二つのキャンディーを置く。キャンディーを食べたい生徒に、片手を壁から離さないで手が届くなら一つ食べてもよいと話す。キャンディーに手が届かないことが理解できたら、次のことを説明する。「だれかに手をつないでもらっていたら、キャンディーに手が届いたのではないでしょうか。」

次のことを尋ねる。「現世において、時々自分の力だけではできないことがあります。どのようなことが挙げられますか。」マタイ5:48を読み、ここで与えられている自分の力だけでは達成できない戒めを探す。モロナイ10:32-33を読み、どうすれば完全になれるか見つけさせる。

以下の表を黒板に書き、右側は空欄にしておく。左側の聖句を読み、それに述べられている兵士の数を右側に書くよう指示する。主がイスラエルの民に示されたことと、その理由を尋ねる。

士師7章	兵士の数
2節	あまりに多い(3万2,000人)
3節	2万2,000人が帰り、1万人が残った
7節	300人
12節	数多く
16節	100人が3組

士師7:17-23を読ませる。イスラエルの敵が目にした恐ろしい姿や音を4つ列挙させる。次のように尋ねる。「この出来事を通して、主はイスラエルの民に何を教えようとしておられたのでしょうか」(士師7:2参照)。士師8:22-23を読ませ、以下の質問をする。

- ・イスラエルの民は原則を理解しましたか。
- ・ギデオンは原則を理解しましたか。
- ・この物語は、わたしたちが神の王国を築こうとする際にどのように役立つと思いますか。

大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長の以下の言葉を紹介する。

「主はわたしたち一人一人に大いなる業を用意しておられます。皆さんは、そんなことがありまするだろうかと思うかもしれません。自分は何のとりえもなければ、優れた才能もないと感じているかもしれません。もしかしたら、今まで自分は愚かだと感じたり、人からそう言われ続けてきたりした人がいるかもしれません。わたしたちの多くは、自分は愚かだと感じたことがあります。また、ある人々はそう言われてきました。ミデアンびとからイスラエルを救うよう主に命じられたギデオンも、同じように感じたのです。ギデオンは、『わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いものです。わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです』と言いました。そして300人しか部下がいなかったにもかかわらず、主の助けによって、ミデアンびとの軍勢を打ち破ることができたのです。

主は、たとえ並外れた能力を備えていなくとも、謙遜で信仰深く、熱心に主に仕え、向上心のある人を通して、大いなる奇跡を起こすことがおできになります。それは神こそが、力の究極の源だからです。」(『聖徒の道』1996年1月号、53参照)

士師13：1-8。子供たちを義にかなった家族に迎え入れることは、幸福の計画の大切な一部である。(15-20分)

赤ちゃんの写真を何枚か見せる。幼い子供たちがいかに美しく純真であるか、また彼らが両親にもたらす喜びについて指摘する。人類に与えられた最初の戒めは何であるか生徒に質問する(創世1：28参照)。この戒めは現代においても求められていることを説明する。

次のように尋ねる。「サタンが人々に、子供を持つのをやめさせることができたら、幸福の計画にどのような影響があるでしょうか。」子供がほしくても授からない人の気持ちはどのようなものだと思うか答えさせる。士師13：1-8を読み、子供を産んだことがなかった人物を見つけさせる。8節でサムソンの両親が求めていることは何だろうか、またそのことから彼らについて何が分かるか尋ねる。

以下の質問をする。

- 両親が子供を育てるうえで、神の助けを必要とするのはなぜですか。
- 子供を育てるとき、両親はどんな場合に神の導きを求めて祈ると思いますか。
- 両親は子供にどんな期待を抱くと思いますか。
- 天の両親はわたしたちにどんなことを望んでおられると思いますか。

士師13-16章。高慢と利己心は人に悲劇をもたらし、主から受けた召しを果たせなくしてしまう。(35-40分)

レッスンの前に、黒板に以下の質問を書いておく。

- サムソンは神から与えられた能力をどのように用いたでしょうか。
- イスラエルの敵と戦うことにおいて、サムソンとギデオンとではその動機が違っていました。どのように違っていたのでしょうか。(この質問に答えるために、生徒用学習ガイドの士師記14-15章のための活動Aにある表を利用してもよい。)
- イスラエルを救ったサムソンの成功は、ギデオンの場合と比べるとどう違いますか。
- サムソンがデリラの策略にはまったのはなぜですか。
- 主は再びサムソンを強められたのはなぜですか。

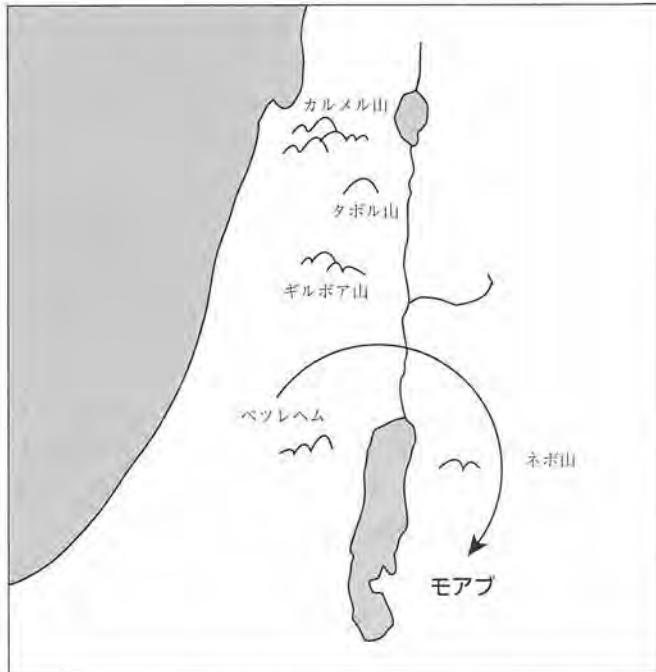
生徒が質問を読んだ後、ともに士師記13-16章を読む。読みながら黒板にある質問への答えを見つけるよう指示する。質問の答えが見つかったら読むのをやめる。または、手を上げてほかの生徒の注意を喚起するように言う。読み終わった時点でまだ答えていない質問がある場合は、それについてクラス全体で話し合う。

必要であれば、『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にある士師記13-16章についての注解(283-285)を利用する。また生徒用学習ガイドにある士師記16章のための活動を利用してもよい。

ルツ1-4章

はじめに

ルツ記は、イスラエルの士師の時代の物語である。当時イスラエルの民とモアブとの間には平和が保たれていた（『聖句ガイド』「モアブ」257ページ参照）。ルツの物語はモアブ、およびイスラエルのユダの部族が住んでいた地域が舞台となっている。



士師記には、イスラエルの背教に関する悲しい物語が数多く収められている。対照的に、ルツの物語には、信仰と献身、そしてキリストのような慈愛についての喜びあふれる物語が記されている。ルツ記を通して、どれほど邪悪な世にあっても個人的な正しさを保てるということが分かる。

ルツの物語は、正しい決断を下し、勇気をもって困難に立ち向かうようわたしたちを励ましてくれる。もしわたしたちがそのようにするなら、最終的にはすべてが益となるであろう。またルツの物語の根底には、贅いというテーマがある。ルツは元々イスラエル人ではなかった。ルツは貧しく、夫も子供もなかった。ボアズによって「あがな〔われた〕」（ルツ4:4-10参照）ルツは、一人のイスラエル人として完全に受け入れられ、裕福な女性となった。そして再び結婚の聖約に入り、子供たちを得た。この贅いというテーマについて考えるとき、イエス・キリストがルツの子孫の一人であることは興味深い（マタイ1:5-16参照）。

中央扶助協会の顧問であったアイリーン・H・クライド姉妹は、ルツの物語から学んで応用することの大切さにつ

いて語っている。「ルツは、愛する人の死、新しい土地での孤独感、糧を得るために必死に働くことなど、現代と同じような困難に、自信をもって立ち向かいました。ルツの数々の小さな努力が、後の偉大な出来事に結びついたのです。わたしはルツの行いを通して、日々の生活の価値と、神に従う選びをすることの大切さを学びました。」（『改宗を通して得られる自信』『聖徒の道』1993年1月号、102参照）

学び取るべき重要な福音の原則

- 天の御父は、御自身のもとに来て戒めを守るあらゆる国民を受け入れられる（ルツ1:16-17；2:11-12；3:13-17参照。使徒10:34-35も参照）。
- 年老いた両親や親戚を、愛をもって世話をする人々に、主は祝福を与えられる（ルツ1:16-19；4:1-8参照）。

教え方の提案

ルツ1-2章。主にすべてをゆだね、自らをささげる人は、謙遜さ、勇気、そして人々への親切な行いを通してその決意を示す。（15-25分）

ルツ1-2章の物語をよく理解することができるよう黒板に以下の名前を書く。「ルツ」「エリメレク」「マロン」「キリオン」「ナオミ」「オルバ」「ボアズ」。ルツ1-2章に目を通し、それぞれの人物がだれか説明させる。黒板に書いた名前の横に、それぞれの人物についての簡単な説明を書く。必要に応じて『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるルツ1-4章についての注解（286-290ページ）を利用する。

二人の生徒に、前に出てルツとオルバのロールプレーを行わせる。二人には義理の姉妹であるルツとオルバを演じさせ、義母とともに異国の方に行くべきかどうかを決めるに当たって、彼女たちが交わしたと思う会話を再現させる。残りの生徒には、もし自分がルツまたはオルバだったら何と言うか考えさせる。次の質問をする。

- ナオミと一緒に行くようルツを突き動かしたものは何だったと思いますか。
- ルツの決意は何から來るものでしたか。

聖句を使って自分の答えの根拠を示させる。

以下の質問をする。

- ルツの行いは、決して容易なものではありませんでした。なぜでしょうか。
- イスラエルでのルツの生活はどのようなものでしたか。（ルツは貧しく、食物のために畑で落ち穂を拾わなければならなかった）
- ルツ2章で、ルツは自分と義母が生活できるように働きました。そのことから、ルツについて何が分かりますか。
- ボアズはどのような人物でしたか。

今日の教会の改宗者とルツを比較する。以下の質問をする。

- 今日改宗者が福音を受け入れるとき、どのような問題に直面すると思いますか。
 - 改宗者がその生活を変えるために、ルツの模範をどのように生かすことができると思いますか。
 - 「異邦人」であるルツに対するボアズの対応は、すでに改宗している教員にとっての模範と言えます。なぜですか。
 - わたしたちが求道者や改宗したばかりの教員に接するとき、どうすればボアズの模範に従うことができますか。
- 生徒とともにエペソ 2:19にあるパウロの言葉を読み、「もはや異国人でも宿り人でもなく」という部分を強調する。
- 以下の質問をする。
- ルツの物語が、わたしたちのために聖書に収められているのはなぜでしょうか。
 - あなたは、ルツ、ナオミ、ボアズのどのような特質を自分の生活に取り入れたいと思いますか。

ルツ1-4章。生活の中で神を第一とし、自分自身よりも、まず周りの人々のことを考えると、わたしたちはより大きな祝福と幸福を得る。 (25-30分)

黒板に2本の木を描く。一方の木の幹に「利己的」、もう一方の幹に「無私」と書く。これら二つの言葉の意味を尋ね、以下の質問に対する答えを話し合う。

- それぞれの木の実を、言葉で表現してください。どのような言葉が当てはまると思いますか。
- サムソンの生涯を表しているのはどちらの木だと思いますか。
- サムソンは利己的になることで、どのような実を結びましたか。
- ルツの生涯を表しているのはどちらの木だと思いますか。
- ルツの無私の心はどのような実を結びましたか。

士師記にある多くの物語とは対照的に、ルツ記には無私の心を持った人々の物語が記されていることを説明する。ルツ記の人々は、自分のことを考える前に、まず周りの人々が何を必要としているか考えた。

マタイ22:37-39を読ませ、神と人とを愛するために何をすべきか見つけさせる。次の質問をする。「もし本当に無私の精神を持ちたいなら、自分のことについて考える前に、だれの必要について考えるべきですか。」ルツはその生涯で、愛の原則をどのように応用しただろうか。ルツ1:8-19を読んで、それを示している言葉や表現を見つけさせる。

以下の表を黒板に書くか、資料として配付する。答えは空欄にしておく。挙げられている聖句を読ませ、それぞれの名前の下に、その人物がだれのことを心にかけていたか書かせる。

だれのことを心にかけていましたか。

	ルツ	ナオミ	ボアズ	親戚の人
ルツ 1:11-13		オルパとルツ		
ルツ 1:14-18	ナオミ			
ルツ 2:1-10			ルツ	
ルツ 2:11-12	ナオミ			
ルツ 2:13-17			ルツ	
ルツ 2:18	ナオミ			
ルツ 3:1		ルツ		
ルツ 3:2-11	ナオミとエリメレク			
ルツ 3:12-18			ルツとナオミ	
ルツ 4:6				自分自身
ルツ 4:9-10			エリメレク	
ルツ 4:13-17	ナオミ			

次の質問をする。「無私の生活を送ったことによって、ルツや周りの人々の生涯にどのような『実』がもたらされたでしょうか。」(例えば、愛、交友関係、結婚、子供、および生活において物質的な必要が満たされたこと。)

ルツ4:18-21を読み、ダビデ王がルツとボアズの子孫であることを指摘する。ルカ3:23-32を読み、イエス・キリストがこの家系からお生まれになったことに注目させる。以下の質問をする。「イエスの生涯において、無私の精神を表している出来事にはどのようなものがありますか。」主が、この無私の精神を持った夫婦の子孫であることは何とふさわしいことだろう。

ルツ1-4章。ルツとボアズの物語は、わたしたちが救い主を通して贖いを受けることの予型といえる。 (10-15分)

ルツの物語を研究した後、次のことを考えさせる。「ルツは、どのような点でわたしたち全員を象徴しているのでしょうか。ボアズは、どのような点でイエス・キリストの予型と言えるでしょうか。」ルツ1-4章を振り返って、ルツとボアズの言葉や行動の中から、それを表しているものを見つけ、書き留めさせる。何人かの生徒に書いたことを発表させる。

サムエル記上およびサムエル記下はともに、その最も重要な登場人物である預言者サムエルの名を冠している。サムエル記上の最初の部分は、サムエル自身の記録から取られた可能性があるが、第25章にサムエルの死についての記述が見られることから、すべてをサムエルが記したとは考えられない。特定はできないが、著者はサムエルが記した資料だけでなく預言者ナタンとガドが記した資料も合わせて用いたものと思われる（サムエル上10：25；歴代上29：29参照）。

サムエル記上およびサムエル記下は、ヘブライ語の聖書では「サムエル」として一つにまとめられている。ギリシャ語の聖書では二つの書に分けられており、現在の聖書にはその形式が引き継がれている。欽定訳聖書にあるサムエル記上の副題では、「The First Book of the Kings」（「列王紀第一書」）と呼ばれている。同書にはイスラエルの最初の王として油注がれたサウルについて記されていることから、これは適切な表題といえる。

サムエル記上には、サムエルの誕生からサウルの死（紀元前約1010年ころ）までの間の出来事が記されている。この時代、イスラエルの部族間には、ある程度の一致が見られた。これはモーセやヨシニアの時代以来なかったことである。この一致は、サムエルより油注がれたイスラエルの最初の王によってもたらされた。

サムエル記上より詳しい分析は、『聖句ガイド』「サムエル（旧約の預言者）」（110-111ページ）を参照する。

サムエル上1-11章

はじめに

サムエル記上は、エリの死とそれに続く士師の地位の移譲についての記述である。士師の地位は、イスラエルの士師として最初の祭司となったエリから、イスラエルの最後の士師であり少年預言者となったサムエルへと引き継がれた。サムソンと同様、サムエルはそれまで不妊であった女性から神の力によって誕生した約束の子であった。またサムエルとサムソンはともにナジルびとであった。しかしサムエルは信仰によってペリシテびとを打ち負かした。これは肉体的な強さを持ちながらも靈的に忠実でなかったサムソンにはできなかったことである。またこれらの章では、イスラエルが士師を廃止して地上に王を持つことを望んだことについて語られている。これによってイスラエルは、自分たちの本当の王である天の神、イエス・キリストを事实上拒んだのである。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・ 信仰をもって求める者には奇跡がもたらされる（サムエル上1：1-17参照。モルモン9：15-20も参照）。
- ・ 両親には、主を愛し、悪を避けるよう子供に教える責任

がある（サムエル上2：27-34；3：13参照。教義と聖約68：25-32も参照）。

- ・ 主は様々な方法でわたしたちに語りかけられる。主の声を認識できるようになることは、この生涯におけるわたしたちの靈的成長に欠かせないことである（サムエル上3：1-10参照）。
- ・ わたしたちは義にかなっていなければ、自分たちのために天の力を十分に受けることはできない（サムエル上4-7章参照。教義と聖約121：34-44も参照）。
- ・ 預言者や教会指導者の靈感された勧告を拒むとき、わたしたちは事実上神を拒んでいるのである（サムエル上8：7参照。教義と聖約1：37-38も参照）。
- ・ 主からの召しは権能を持つ者に明らかにされる。その後、権能を持つ者は、主が選ばれた人々を召し、賛意を表明するために提議し、任命し、訓練する（サムエル上9-10章参照）。

教え方の提案

 「『旧約聖書』ビデオプレゼンテーション』18「この子を与えてくださいと、わたしは祈りました」では、現代の物語を用いて両親の神聖な召しが説明されている（教え方の提案は『『旧約聖書』ビデオガイド』を参照）。

サムエル上1-3章。両親には、主を愛し悪を避けるよう子供に教える責任がある。（35-45分）

世の中に最も必要なものは何だと思うか尋ねる。彼らの考えについて1、2分話し合わせ、その後デビッド・O・マッケイ大管長の以下の言葉を読む。

「もしこの世の中に最も必要なものを挙げるように言われたら、わたしはためらうことなくこう言うでしょう。思慮深い母親と、……称賛に値する父親であると。」（Richard L. Evans' Quote Book [1971年], 20にて引用）

なぜこれが真実であると思うか尋ねる。

サムエル上1-2章に簡単に目を通し、ハンナが思慮深く称賛に値する母親であったことを示す特質や行動を書き留めさせる（サムエル上1：10-11, 15-18, 20, 24-28；2：1-10参照）。書いたものを発表させる。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上1-2章についての注解（293-295ページ）を利用してよい。次の質問をする。

- ・ ハンナが何よりも求めていたものは何でしたか。
- ・ ハンナが熱心に子供を求めたのはなぜだと思いますか。
- ・ 神の幸福の計画で、子供を持つことにはどのような意義がありますか。
- ・ 子供を授かった後、両親にはどのような責任がありますか（教義と聖約68：25-31参照）。

サムエル上2：12-17, 22を読ませ、以下の質問をする。

- ・ エリの息子たちは、幕屋の祭司としてどのような罪を犯しましたか。
- ・ サムエル上2：22-25および3：12-13を読む。息子たちの行いにエリはどう対処しましたか。

- ・サムエル上2:27-36および3:12-14で主がエリに言われていることを読む。エリはどのような過ちを犯しましたか。
- ・エリが「〔主〕よりも自分の子らを尊〔んだ〕」とはどういう意味ですか。
- ・主がエリに下された罰の厳しさから、どのようなことが分かりますか（サムエル上4:10-18参照）。
- ・エリに下された罰は、わたしたちが家族に関する義務を怠った場合にもたらされる永遠の結果を象徴しています。どのように象徴していますか。

次のことを理解させる。「子供には選択の自由があるため、両親が最善を尽くしてきた場合でも道からそれることがあります。」サムエルの場合がそうであった。サムエルの息子たちも不従順であったが、そのことで主がサムエルを罪に定められることはなかった（サムエル上8:1-3参照）。

次のことを尋ねる。「『思慮深い母親や称賛に値する父親』になりたいと望んでいる現代の若人が直面している問題には、おもにどのようなものがあるでしょうか。」次の質問をする。「男性、女性、そして家族のあり方についての世の標準は、主が支持しておられるものと同じ信条を支持し奨励していると思いますか。」可能であれば、218ページにある「家族—世界への宣言」のコピーを配付する。

「思慮深い母親や称賛に値する父親」がすべきことを述べている文章や段落を見つけさせる。宣言の中で述べられているような両親となるために、今何ができるか話し合う。

サムエル上3:1-10。主の声を認識できるようになることは、この人生において靈を良い状態に維持するうえで欠かせないことである。（20-25分）

聞き慣れた音とそうでない音を、6種類から8種類カセットテープに録音しておく。または、それらの音を教室で出せるように用意する。生徒は目を閉じる。音を一つ一つ聞かせて、それが何の音か当てる。その後、次のように尋ねる。「聞き分けられた音と、そうでない音があったのはなぜでしょうか。」サムエル上3:1-10を読ませ、以下の質問をする。

- ・サムエルはある音を耳にしましたが、最初は認識することができませんでした。それはどのような音でしたか。
- ・「そのころ、主の言葉はまれで、黙示も常ではなかった」とはどういう意味だと思いますか（1節）。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上3:1についての注解、295ページも参照）。

主は御自身の声によってサムエルを預言者に召された。神は預言者を通して御自分の民に語られるが、御自分の子ら一人一人に直接語られることもある。主はほかにどのような方法でわたしたちに語られるか、生徒にリストアップさせる。聖霊、聖文、両親、地元の教会指導者などが挙げられる。クラス全体またはグループで、以下の聖句を調べさせ、主の声をさらにはっきりと認識するためにできることを列挙させる。

- ・1ニーファイ17:45
- ・アルマ5:57
- ・教義と聖約1:14, 38
- ・教義と聖約18:34-36

主の声を認識するうえで役に立った教師自身の経験を紹介するとよい。

サムエル上4-7章。わたしたちのために奇跡が行われるには、まず信仰と義が求められる。（25-30分）

四つ葉のクローバーやお守りなど、幸運または不運を象徴する物を幾つか見せる。それらが奇跡を起こすのにどれだけ役立つか尋ねる。ヨシュア3:9-17を読ませ、次のことについて答えさせる。「イスラエルの民は、奇跡にまつわるある物を持っていました。それは何でしょうか。」

サムエル上4:1-11を読ませ、契約の箱がイスラエルの民をペリシテびとから救わなかった理由を説明させる。契約の箱と幸運を招くお守りの違いについて尋ねる（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上4-7章についての注解、296ページも参照）。モルモン9:15-21を読ませ、奇跡をもたらす真の源は何か見つけさせる。また、生活の中で奇跡を見るためには何を行う必要があるか見つけさせる。

『旧約聖書：創世記－サムエル記下』（296ページ）にあるペリシテびとの神ダゴンの絵を見せる。サムエル上5:1-4を読んで、ダゴンの宮で起きた奇跡について説明させる。生徒とともにサムエル上5:6-12を読み、契約の箱を持って来たためにペリシテびとの上に及んだ災いについて話し合う。サムエル上6:1-12を読み、ペリシテびとが契約の箱をどうしたか見つけさせる（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上5:2-3および5:6-12; 6:1-9についての注解、296-297ページも参照）。

敵に打ち勝つ力を得るために、サムエルはイスラエルの民にどのような助言をしただろうか。サムエル上7:3-13を読ませ、助言の内容を調べさせる（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上7:13についての注解、297ページも参照）。次のように尋ねる。「これらの方法は、サムエル上4-6章で、イスラエルがペリシテびとを破るために行おうとしたことと、どのように比較できるでしょうか。」サムエルの勧告を自分自身の戦いに応用する方法を挙げさせる。

 **サムエル上8:1-5。わたしたちはこの世の方法ではなく、主が命じられた方法に従って生活しなければならない。（45-50分）**

服装や髪型、流行語、ダンスなど、教師が若かったころに流行していたものを幾つか黒板に書き出す。またはそれらの写真を見せる。生徒がそれらを見て時代遅れと笑ったら、現在若い人々の間で流行しているものを幾つか挙げてもらう。次の質問をする。

- ・20年後、皆さんの子供たちはこれらの流行についてどう感じると思いますか。
- ・このように流行が一時的なものであるとするなら、なぜ人々はそれを懸命に追いかけようとするのでしょうか。

サムエル上8:1-5を読んで、次のことを見つけさせる。「昔のイスラエルが望んだ習わしとは何でしょうか。また民はなぜそれを望んだのでしょうか。」イスラエルは、ほかの多くの国々と同等になるため王制を望んだ。そのとき主は、イスラエルが事実上何を行っていると言われただろうか。6-8節を読んで、答えさせる（『旧約聖書：創世記－サム

エル記下』にあるサムエル上 8:3-7 についての注解、297 ページも参照)。生徒用学習ガイドにあるサムエル 8 章のための活動 A を行わせた後、書いたものについて話し合う。次の質問をする。

- ・ サムエルの預言は、正しくない王を持つことの危険性についてわたしたちに何を教えていますか。
- ・ イスラエルの民が、サムエルの警告に注意を払わなかつたのはなぜだと思いますか。
- ・ 今日、ある人々が主の方法ではなく、この世の方法に従おうとするのはなぜだと思いますか (ヒラマン 12:4-6; 教義と聖約 10:20-22; 123:12 参照)。
- ・ 主は、不幸をもたらすものであっても、人々がそのような選択をするのをお許しになります。なぜでしょうか (『選択の自由』、13 ページ参照)。

人気のあるものすべてではないが、その一部は邪悪で誤っていることを理解させる。社会に受け入れられ奨励すらされている流行や慣習の中で、主の戒めに反しているものには何があるだろうか。幾つか黒板に書き出させる。次のことを尋ねる。「間違っていることを知つていながらこの世の標準に従うとき、わたしたちはどのように点で昔のイスラエルの民と似ているでしょうか。」

当時十二使徒定員会会員だったスペンサー・W・キンボール長老の言葉を紹介する。キンボール長老は、今日の人々と、昔のイスラエルの民とを比較している。

「サムエルは民を集め、主の民は異なっている必要があると言いました。高い標準を掲げなければならぬと説明したのです。しかし、人々は次のように求めました。『わたしたちはほかの民と同じようになりたいのです。異なつてはいたくはありません。』」

今日のわたしたちもこれと大差はありません。わたしたちは愚かさの代償について考えることなく、この世の魅力的なものやむなしいものを求めます。……またある人々は……付き合い酒にふけります。——『わたしたちにもほかの国々のように王が必要なのです。』

俗悪な金の亡者によって生み出される流行のスタイルは、常に極端なものを求め、流行の衣服を時代遅れなものとします。そして商人たちの金もうけの機会を生み出していくのです。わたしたちは異なつてなどいられません。『時代に乗り遅れる』くらいなら死んだ方がましです。普通のドレスがひざ丈なら、さらに短いひざ上のドレスを着ます。ショートパンツが流行なら、一番短いものを身に着けます。……水着の露出度が高ければ、最も露出度の高いものを着るのです。『わたしたちにもほかの国々のように王が必要なのです。』

主は特異な民となることを求められます。しかし、わたしたちは特異な者にはなりたくはないのです。……男女の性的な関係が普通に行われているのなら、わたしたちもそのように行います。『わたしたちにもほかの国々のように王が必要なのです。』

ある人々は映画のように華やかできらびやかな、これ見よがしに飾り立てた豪華な結婚式を挙げます。わたしたちにもキャンドルと、ガウン、そして危険なほどに慎

みのない服装をした美男美女が必要です。『わたしたちにもほかの国々のように王が必要なのです。』

世の中には、あらゆる業界、ビジネス、工場、学校、そして社会集団などに女王が存在します。それらの女性は、ビジネス、娯楽、社会集団などの経済的な利益を促進するために、慎みのない服装をしてその容姿を人目にさらし、公の場に現れます。……わたしたちの女王もまた、人々に見てもらうために、美しい顔をした、魅力的で、スタイルの良い人でなければなりません。ほかに選択の余地などないので。『わたしたちにもほかの国々のように女王が必要』なのですから。……

ああ、末日聖徒はいつになつたら自分の足でしっかりと立ち、みずから標準を確立し、適切な模範に従うのでしょうか。また、いつになつたら福音が示す模範に従って自分たちの栄えある生活を送るのでしょうか。……楽しい時や幸福な生活、汚れのない楽しみは、魅惑的なもの、華やかなもの、極端なものなどとはまったく無関係なのです。」(“Like All the Nations,” Church News, 1960年10月15日付, 14)

学んだことを応用できるように、生徒に自分の親しい友人か家族のだれかが、この世の誘惑に陥つて苦しんでいると仮定させる。この世に従うよりも、主に従う方がはるかに幸福になれるることをその人に教えるにはどうしたらよいだろうか。それに役立つ聖句や聖典の中の物語を『聖句ガイド』を使って見つけさせる (例えば、アルマ 40:11-14; 41 章)。

サムエル上 9-10 章。主は、権能を持つ者の靈感を通して、人々を奉仕の業に召される。(25-30 分)

大管長会のトーマス・S・モンソン管長は、第二顧問であったとき次のように語った。

「主は御自分が召される者をふさわしくされる。」(Conference Report, 1988年 4月号, 52)

生徒の一人が信仰箇条第 5 条を引用し、その意味を説明する。教師は、教会で召しを受けたときの経験を紹介する。その召しに対する自分の気持ちと、主から受けた助けについて話す。召しが主から来たものであることをどのようにして知ったか説明する。

次のことを伝える。「イスラエルの地上における最初の王となったサウルの召しから、幾つかの重要な原則を学ぶことができます。人がどのようにして神の王国で働くよう召されるか知ることができます。」生徒とともにサムエル上 10:1, 6-12, 17-27 を読み、以下の質問への答えから学ぶ。

- ・ サムエルはサウルを召して油を注ぎました。サムエルは、その召しと油注ぎは実際にはだれから来たと言いましたか (サムエル上 10:1 参照。サムエル上 9:15-17; 信仰箇条 1:5 も参照)。
- ・ 主はサウルが王としての召しにふさわしくなるよう、どのように助けられましたか (サムエル上 10:6-7, 9 参照)。多くの教会指導者が、召しへの支持と任命を受けたときに、主の御業に対する深遠な思いと、自分が仕

えるように召された人々へのさらに深い愛が沸き起こったと証している。また正しい判断ができるよう主が靈感を与えてくださることを見いだしている。

- ・サムエルは助けるために何をすると約束しましたか（8節参照）。管理者には自分の下で働く人々を訓練する責任がある。
- ・ある人々はサウルを受け入れ、ある人々は受け入れませんでした。そのときサウルは何をしましたか（9-11, 26-27節参照）。
- ・サムエルが民を集めてサウルを王として紹介したのはなぜでしょうか（17-24節参照）。これは同意の律法と呼ばれている（教義と聖約26:1-2参照）。これはその人物が召されたこと、および会衆が義のうちにその人を支持し、その人に従うと聖約することを神の前に認める神聖な機会である。

話し合ったそれぞれの原則について、教会の管理方法の中に主の御手を見いだす助けとなるような意見や個人的な経験を紹介する。ビショップや支部会長などの神権指導者を招待して召しについて話してもらってもよい。

サムエル上12-15章

はじめに

イスラエルを統治し始めたころのサウルは謙遜で靈的であった。サウルはそのような特質があったため、イスラエルの王として大きく貢献し、主の御手にあってその器となる可能性を秘めていた。このような初期のすばらしい状態にもかかわらず、サウルは権力に執着してしまったため、謙遜さを高慢と置き換えてしまい、悲しむべき出来事の典型となつた。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・多くの場合、不従順は高慢の結果として起こる。高慢な人は神よりも自分自身の判断に頼る（サムエル上13:5-13; 14:24-32, 38-46; 15:1-24参照。2ニーフアイ9:28も参照）。

教え方の提案

サムエル上12-15章。高慢はしばしば不従順を招く。それは神よりも自分の判断に頼ることである。（25-35分）

サムエル上12-15章の導入として、生徒用学習ガイドにあるサムエル上13章の最初の部分を読み、そこで尋ねられている質問について話し合う。サウル王に関する今日のレッスンでは、それらの質問に焦点を当てるなどを伝える。

次のように尋ねる。「イスラエルが地上の王を求めたとき、主はどう感じられたでしょうか。またサムエルはどう感じたでしょうか。」（サムエル上8:6-7参照）サムエル上12:1-13を読ませ、民が王を求めたことに対してサムエルが落胆した理由を見つけさせる。次のように尋ねる。「サム

エルは、どのような奇跡を民に示してくださるよう主に求めましたか。それはなぜでしょうか。」（16-18節参照）

次のことを説明する。「主は、王を持ちたいというイスラエルの望みを非難されました。しかし、イスラエルとその王が主に仕え続けることを条件に、ある約束をされました。」次の質問をする。

- ・それはどんな約束でしたか（サムエル上12:20-24参照）。
- ・イスラエルが「悪を行う」ならば、どうなるのでしょうか（サムエル上12:25参照）。
- ・サムエル上12:20-25の内容は、現代における主と預言者、そして教員の関係について、どのようなことを教えていると思いますか。

クラス全体でサムエル上13:1-14を以下のように区切って読む。それぞれの聖句を読むごとに、提案されていることを質問し、話し合う。

- ・サムエル上13:1-4。当時、民はサウルについてどのように思っていたでしょうか。サウルは自分自身についてどう感じていたでしょうか。また、戦場でイスラエルを導く自分の能力についてどのように感じていたでしょうか。
 - ・サムエル上13:5-7。ペリシテびとは前回の敗北を受けてどのような対応を取りましたか。ペリシテびとの兵の数をサウルやヨナタンとともにいた兵の数と比較してください（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にあるサムエル上13:5についての注解、299-300ページ参照）。ペリシテびとの軍隊を見たとき、イスラエルの民はどのような反応を示しましたか。
 - ・サムエル上13:8-10。サムエルのギルガルへの到着はどのくらい遅れましたか（サムエル上10:8参照）。サムエルが遅れたため、サウルは何をしましたか。それはなぜだと思いますか。なぜサウルが犠牲をささげてはいけなかつたのでしょうか（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にあるサムエル上13:5-14についての注解、299-300ページ参照）。
 - ・サムエル上13:11-14。サウルは自らの不従順をどのように正当化しようとしたか。これらの聖句の中で、サウルが主よりも軍隊を頼みとしていたことを示している部分はどこですか。サムエルはサウルの不従順はどのような結果を招くと言いましたか。この物語から考えて「〔主の〕心にかなう人」とは、どのような人物でしょうか。以下の質問をし、サウルの物語をわたしたちがどのように応用できるか話し合う。
 - ・わたしたちが与えられている戒めで、忍耐を要するのはどのようなものですか。
 - ・自分自身の判断に頼って主の戒めに従わず、「主を待ち望む」ことをしないとき、わたしたちは主に対してどのようなことを口にしますか。
 - ・サウルは自分の行動を正当化しました。わたしたちは自分が待たなかつたことをどのように正当化しようとすると思いますか。
- 詩篇37:34-40には、主を待ち望むという原則についての価値ある教えが幾つか記されている。生徒とともに読んで話し合うよい。

神を信じる信仰には、神の時期を信じることが含まれる

ことを理解させる。神はわたしたちにとって何が最善であるか御存じであり、わたしたちが従順であるならば、神の戒めに対する理解と祝福を与えてくださる。また幾つかの戒めについては、従った後でしか実際の証を得ることはできない（ヨハネ7：17；エテル12：6参照）。

高慢になったことで、サウルの判断力にどのような影響があつただろうか。それを示すもう一つの例として、サムエル上14章にある物語を簡単に説明するとよい。

サムエル上15章。不従順、罪を認めようとしないこと、また悔い改めないことは、しばしば高慢の結果である。
(10-15分)

サムエル上15章には、サウルの不従順さを示すもう一つの例が記されている。1-3節を読ませ、サウルが命じられたことを説明させる。6-9節を読んで、サウルが何をしたか説明させる。全員で10-23節を読み、以下の質問について話し合う。

- サウルは、主の預言者の命令に従順でなかった理由としてどのようなことを挙げましたか。
- 本当の理由は何だったと思いますか（24節参照）。
- サウルが自分の罪を告白せず正当化したのはなぜだと思いますか。
- そのことから、サウルの人格についてどのようなことが分かりますか（教義と聖約58：43参照）。
- サウルを戒めなければならなかったとき、サムエルはどうに感じていたでしょうか（11節参照）。
- サウルは不従順であり続けたことで、どのような結果を招きましたか（26-28節参照）。
- サムエルによれば、サウルはどのような態度に欠けていたために不従順となったのでしょうか（17節参照）。

エズラ・タフト・ベンソン大管長の以下の言葉を紹介するとよい。

「わたしたちは、兄弟姉妹に対する憎しみを克服し、彼らを自分自身のように尊び、また自分以上に尊重することによって、進んでへりくだることができます（教義と聖約38：24；81：5；84：106参照）。

勧告と懲らしめを受け入れる人は、自分の意志で謙遜になる道を選ぶことができます（モルモン書ヤコブ4：10；ヒラマン15：3；教義と聖約63：55；101：4-5；108：1；124：61，84；136：31；箴言9：8参照）。

わたしたちは、自分を傷つけた人を赦すことにより、進んでへりくだる方を選ぶことができます（3ニーフアイ13：11，14；教義と聖約64：10参照）。

また、無私の奉仕を行うことによっても、進んでへりくだることができます（モーサヤ2：16-17参照）。

伝道に出て、人を謙虚にする神の御言葉を宣べ伝えるなら、自分からへりくだる道を選ぶことができます（アルマ4：19：31；5：48；20参照）。

もっと頻繁に神殿に参入することにより、自らへりくだることができます。

罪を告白して、悪を捨て、神によって生まれる人は、自分の選びによって謙遜になることができます（教義と聖約58：43；モーサヤ27：25-26；アルマ5：7-14，49参照）。

そして、神を愛し、自分の思いを神の御心に服従させ、神を第一にした生活を築き上げることによって、わたしたちは進んでへりくだることができます（3ニーフアイ11：11；13：33；モロナイ10：32参照）。

自分からへりくだる道を選びましょう。わたしたちはそれができます。確かにできるのです。」（『聖徒の道』1989年7月号、7）

次のことについて話し合う。「生活の中でもっと謙遜になるにはどうしたらいいでしょうか。」（モーサヤ3：19；エテル12：27；教義と聖約3：4-8も参照）。

サムエル上16-17章

はじめに

羊飼いの少年ダビデは、イスラエルで最も有名な王となった。その若き日々には次の格言がよく当てはまる。「行動に移すときには、すでに備えの期間は終わっている。」サムエル上16-17章を研究しながら、ダビデがどのように備えられたか見つける。また、ダビデは備えられたことによって、実際にそれを実行する時が来たときに、その遂行能力にどのような違いができたか探すとよい（『聖句ガイド』「ジョセフ・スミス訳サムエル上16：14-16，23」；『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にあるサムエル上16-31章の「はじめに」[305ページ]も参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は外見ではなく、わたしたちの人格で判断される（サムエル上16：7参照）。
- 主を信じる信仰と個人の備えによって、わたしたちは人生のいかなる問題をも克服することができる（サムエル上17：20-51参照。マタイ19：26も参照）。

教え方の提案

サムエル上16-17章（マスター聖句、サムエル上16：7）。主はわたしたちを外見では判断せず、その人格によって判断される。（25-30分）

袋を二つ用意し、一方の袋には非常に価値があるもの、もう一方にはほとんど価値のないものを入れておく（一方には生徒の好きな食べ物、もう一方にはその包装紙だけ、など）。二つの袋を生徒に見せ、次の質問をする。「中身を見ないで選ぶとしたら、どちらの袋を選びますか。」少し話し合った後で、次のように尋ねる。「だれかが中身を見て、どちらを選ぶべきかアドバイスできたとしたらどうですか。」

サムエル記上に記されている物語は、わたしたちが何かを選択し決断するときに、「内部情報」をもたらしてくれる助け手について教えている。生徒とともにサムエル上16：1-13を読み、以下の質問の幾つかを話し合う。

- サムエルはベツレヘムのエッサイの家族へ遣わされました。

た。それはなぜですか（1節参照）。

- ・サムエルは、主が次の王としてだれをお選びになったと思いましたか。（6節参照）。
- ・主はサムエルの考えに同意しましたか。それはなぜですか。（7節参照）。
- ・サムエルはダビデのどのような特徴に注目しましたか（12節参照）。
- ・7節にある主の言葉から、主はダビデのどのような特質を御覧になったと思いますか。
- ・この物語と二つの袋についての活動はどのような点が似ていますか。

黒板に次の特質を書く。「明るい」「人気がある」「積極的な思い」「運動が得意」「教養がある」「純粋」「謙遜」「勇敢」「優しい」「従順」「正直」「顔立ちが良い」「才能がある」「靈的」「人から尊敬されている」次の質問をする。

- ・これらの特質を指導者に必要な特質として最も重要なものから並べます。この世の常識ではどんな順番になると思いますか。
- ・主の判断はこの世の常識とどのように異なると思いますか。

十二使徒定員会の会員であったマービン・J・アシュトン長老は、これらの判断について次のように語っている。

「わたしたちは、人を外見で判断する傾向があります。『容貌』だと、社会的地位、家柄、学歴、そして資産などによって判断しがちなのです。

しかしながら、主はこれとは異なった基準で人を測られます……（サムエル上16:7）。

主は人を測られるとき、……その心を測られ、人々に祝福をもたらす力があるかどうかを知るための指標とされるのです。

ではなぜ心を測られるのでしょうか。それは、心が人格を表すからです。……

心を測るということは、わたしたちのあらゆる行いを測るということです。主が語られた『心』とは、自分や他人を、そして自分の置かれている状況を改善するためにどれだけ努力したかなのです。」（『聖徒の道』1989年2月号、16参照）

サムエル上16:7に印を付けさせる。暗記させてもよい。心が人格を表していることに注目させる。次のように尋ねる。「主が指導者を選ばれるとき、わたしたちよりも正しい判断がおできになるのはなぜでしょうか。」主を信頼し、主がお選びになった指導者の助言に耳を傾けるよう生徒にチャレンジする（箴言3:5-7参照）。

サムエル上16:14-23。音楽はわたしたちの靈に影響を与える。（10-15分）

生徒用学習ガイドにあるサムエル上16章のための活動Bを行なう。

 **サムエル上17章。主を信じる信仰と個人の備えによって、わたしたちは人生のいかなる問題をも克服することができる。（45-60分）**

ゴリアテの実際の背丈を実感できるように、教室にゴリ

アテの等身大の絵を用意するか、壁に正確な高さを示すしるしをつける（『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル上17:4-11についての注解、306ページ参照）。このレッスンを教える際に、教師がゴリアテと大体同じ背丈になれるよういすや机の上に立つのもよい。



ダビデが若いころ、どれほどよく備えたか生徒に理解させるために、図にあるような石投げを作るとよい。袋部には丈夫な布地またはやわらかい皮を（約8×13センチメートルの楕円形）、ひもには靴ひもなど（長さは46-60センチメートルの間）を利用する。1本のひもの端に結び目を作り、もう1本には輪を作る。人差し指または中指に輪をかけ、結び目を親指と人差し指で挟む。石を投げるには、石投げを頭の上でぐるぐる回し、袋が標的に向かったときにひもを放す。タイミングが大切で、簡単には習得できない。

生徒とともにサムエル上17章を読み、イスラエルの軍勢がエラの谷で直面していた状況を思い描かせる。この章について学びながら、以下の質問について話し合うとよい。必要に応じて『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるこの章についての注解（306-307ページ）を参照する。

- ・ゴリアテの身長はどのくらいでしたか（4-10節参照）。
- ・ゴリアテが一対一で戦うことを求めたのはなぜだと思いますか（8-10節参照）。
- ・ゴリアテの挑戦を聞いたとき、ダビデはどうしましたか（26-32節参照）。
- ・ダビデはゴリアテに勝つことができると信じていますか（32-37節参照）。
- ・ダビデは、サウル王が差し出したよろいと剣を断りました。なぜでしょうか（38-39節参照）。
- ・ダビデは剣の代わりにどんな武器を選びましたか。ダビデが頼みとしたよろいはどのようなものでしたか（40-47節参照）。
- ・ダビデは石投げを使う能力をいつ身に付けたと思いますか（34-37節参照）。
- ・ゴリアテと戦うために、「民のだれよりも……背が高かった」（サムエル上9:2）サウルではなくダビデが選ばれたのはなぜだと思いますか。

石投げを使ってゴリアテの絵に的中できるか試させる。ダビデがどれほど練習しなければならなかったか理解させる。石は用いない。安全に注意し、人や建物に危害を及ぼさないものを用いる。紙を丸めたものなど、小さくてやわらかいものがよい。マシュマロを使うのもよい。

若いうちに主を信頼するという特質を身に付けることの

大きさについて話し合う。次の質問をする。

- ・ダビデが直面したのと同じくらい危険な現代の「ゴリアテ」にはどんなものがありますか。
- ・こんにち今日、わたしたちは何のために戦いますか（サムエル上17：29参照）。生徒の答えを黒板に書き出す。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は大管長会第二顧問のときに、今日の人々が直面しているチャレンジについて語った。

「皆さんの周囲には至る所にゴリアテがいて、皆さんを滅ぼそうとたくらんでいます。このゴリアテは3メートルもの大男ではありません。それは魅惑的で有害なものを操って戦いを挑み、皆さんを無力にして滅ぼそうとする人や組織のことです。これにはビール、酒、タバコなどが含まれます。このような商品を売り込む人々は、皆さんをとりこにしようとしています。多くの学校ではいろいろな種類の有害な薬がたやすく手に入ると聞きます。……また人々を引き付け、惑わし、墮落させるポルノグラフィーがあります。これは巨大な産業の一つとなり、雑誌や映画、そのほかの商品により皆さんのお金を奪い、自らを滅ぼす行動へと駆り立てようとしています。

こうした悪の背後には、狡猾で手ごわい大男たちが潜んでいます。彼らは皆さんに仕掛ける戦いについて莫大な経験を積んでいます。そして皆さんをわなにかけようとしているのです。

彼らのわなを完全に避けて生活することは、ほとんど不可能です。皆さんは至る所でそれを見かけるからです。しかし、真理の石投げを手に持ってさえいれば、恐れることはありません。すでに皆さんは、勧告と教えと指示を受けています。そして、皆さんを征服しようとするこれらの敵を打ち倒すために、徳と誉れと高潔という石が与えられています。……自己を制して悪を避けることにより、彼らに打ち勝つことができます。……

勝利は皆さんのものです。わたしの話を聞いている人の中には、悪の勢力に降伏するような「人」は一人もいないと思います。……皆さんは主の力を与えられており、それによって支えられているのです。」（『聖徒の道』1983年7月号、88参照）

ヒンクレー大管長が挙げている現代のゴリアテのうち、生徒が挙げなかったものを黒板に書き出す。主が与えてくださる勧告を理解できるようになること、またわたしたちを強め、敵の力から救い出してくださる主の力を信頼することの価値について証する。

「そなえよう神権に」（『子供の歌集』88）、「神のみ業に進みて」（『賛美歌』149番）、「見よ、王の軍は」（『賛美歌』160番）などの歌で閉会するとよい。

サムエル上18-31章

はじめに

サウルは偉大な王となる可能性を秘めていた。しかし残念なことに、彼はその可能性を生かすことができなかった。サウルは初め、靈的に生まれ変わったえり抜きの若者だった（サムエル上9：2；10：9参照）。しかし、高慢や嫉妬、そのほかの罪のために御靈を失い、その心はダビデの命をつけねらう殺人者の心となってしまった。サムエル上18-31章を研究しながら、サウルの動機や行動をダビデのものと比較する。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・真の友はわたしたちの永遠の幸いを求め、わたしたちを義へと促す（サムエル上18：1-5；19：1-11；20：1-9参照）。
- ・嫉妬や高慢はそのほかの罪を招く（サムエル上18：5-15参照）。
- ・わたしたちは主が承認しておられる方法で知識を求めるべきである。そのほかの手段による啓示から祝福を得ることはない（サムエル上23：1-12；28：3-14参照）。
- ・人間としての不完全さがあろうと、わたしたちは主が指導者として召された人々を敬わなければならない（サムエル上24：9-12；26：9参照）。

教え方の提案

サムエル上18-20章、23章、25章。真の友はわたしたちを愛し、擁護し、守り、わたしたちが正しいことを行えるよう助けてくれる。（20-40分）

次の文の続きを書かせる。「真の友とは……」

書いたものを発表させ、それがなぜ大切だと思うか説明させる。マービン・J・アシュトン長老は友について以下のように定義している。

「友とは、どのような結果が伴うとしても、わたしたちにとって最良の提案をし、最善を尽くしてくれる人です。……

……友とは、わたしたちをあるがままに受け入れ、より良い人間になる機会を進んで与えてくれる人を指すのです。」（Ensign, 1973年1月号, 41, 43）

このレッスンでは、二人の若者について学ぶことを伝えよう。その若者たちは、アシュトン長老が述べたような友情で結ばれていた。黒板に以下の参照聖句を書き出し、ヨナタンとダビデがどのような友であったと思うか、またその理由を調べさせる。

- ・サムエル上18：1-5, 14-16

- サムエル上19：1-7
- サムエル上20章
- サムエル上23：16-18

見つけたことについて話し合う。ヨナタンがそのような行動を取ったのはなぜだと思うか説明させる。サウルの子ヨナタンは、古代イスラエルにおける最も高潔な友であつたことを話す。ヨナタンは、サウルがそうであったように、ダビデを王位継承者としての自分の地位を脅かす者と見なしてもおかしくはなかった。しかしヨナタンはダビデに嫉妬するのではなく、自分と同じ誠実さと高潔な望みを持つ親友としてダビデを愛した。

自分の上着やいくさ衣、剣、弓をダビデに渡したとき(サムエル上18：4参照)、ヨナタンはダビデが次の王になることを認めていた(サムエル上23：17参照)。彼はダビデがサウルから逃れるのを何度も助け、ダビデを守るために自らの命を危険にさらすことさえした(サムエル上19：1-11；20章参照)。後にダビデは、その友情のしるしとしてヨナタンの家族を厚く待遇すると誓った。ダビデはこの誓いを守り、ヨナタンの死後にその息子メビボセテの世話をした(サムエル下9：3、7；21：7参照)。

サムエル上25章にある、アビガイルの物語を読ませてもよい。アビガイルはダビデを助け、ついにはその妻となつた。この章を読みながら、この女性がダビデにとってどういう意味で友であったかを見つけさせる。

自分の友人について考えさせる。次の質問をする。

- その友人は、あなたを神に近づけてくれますか。それとも神から遠ざけますか。
- 自分はどちらのタイプの友人だと思いますか。

クラスで話し合った友情の定義に添って、自分の親友だと言える人をリストアップさせる(リストには両親、教会の指導者、兄弟姉妹、祖父母、教師が含まれるであろう)。ヨハネ15：13から、救い主の友情についての定義を読み、次の質問をする。「この定義によると、わたしたちにとっかけがえの無い親友とはだれですか。」ヨハネ14：15を読み、救い主の友と見なされるためにわたしたちが行わなければならぬことに注目する。次のように尋ねる。「イエス・キリストに仕え、主が友として示してくださった究極の行いに感謝を示すために、わたしたちには何ができるでしょうか。」

サムエル上18-26章。人間としての不完全さがあろうと、わたしたちは主が指導者として召された人々を敬わなければならない。(20-25分)

ひじを直角にして右腕を上げ、次のように尋ねる。「教会の集会において、これは何を意味するでしょうか。」(人々を教会の召しに支持すること。彼らを支援し、助け、彼らのために祈り、従うことに同意することを意味する)以下の質問について話し合う。

- これまでに教会で召しや割り当てを受けたことのある人はいますか。

- その召しや割り当てに伴う責任をすべて果たしましたか。
- 教会の指導者に、その召しを完全に果たしてほしいと思いますか。
- 自分が何か失敗した場合、ほかの教会員にどのように接してほしいと思いますか。
- 指導者を支持するために何ができますか。

クラス全体で、生徒用学習ガイドにあるサムエル上25-26章のための活動Aを行う。ダビデがイスラエルの王としてのサウルの召しに敬意を払っていたことを理解させる(サムエル上26：23参照)。サウルは、ダビデを助けた祭司たちを残らず殺させた。これによって、サウルの墮落とダビデの忠実さとの差はますます顕著なものとなった(サムエル上22：6-23参照)。

大管長会第一顧問であったマリオン・G・ロムニー管長の以下の言葉を読む。主が指導者として召された人々を批判することは、どのような点で間違っているだろうか。ロムニー管長が何と言っているか注意して聞くように言う。

「福音の精神を十分に理解し、教会員と親しい交友を続けながらも、教会の指導者や、その勧告および指示に従わない教会員もいます。そのような立場はまったく矛盾しています。なぜなら、教会は聖典からだけでなく、絶えざる啓示によっても導きを受けているからです。そして啓示は、主が選ばれた預言者を通して与えられているのです。福音を受け入れていると宣言しておきながら、預言者の勧告を批判し拒む人は、言い逃れができます。こうした人々は背教に向かっているのです。」(『聖徒の道』1983年7月号、30参照)

次のように尋ねる。「ロムニー管長は、わたしたちは指導者にやみくもに従うべきであると言っているのでしょうか。求められていることに対して何も考えないように言っているのでしょうか。」当時十二使徒定員会の会員であったハロルド・B・リー長老の次の言葉を読む。

「末日聖徒であるわたしたちは、指導者に従い、その勧告を受け入れるだけでは十分ではありません。わたしたちはさらに大きな義務を負っています。指導者が神から任命されているという搖るぎない証を持ち、彼らが語ったことが神の御心であるという証を得なければならぬのです。」(Conference Report, 1950年10月, 130)

次のように尋ねる。「教会指導者の勧告について証を得るにはどうしたらいいでしょうか。」モロナイ10：4-5を読ませ、その約束が教会指導者を支持することにどのように当たるか尋ねる。

サムエル記下

サムエル記下には、預言者サムエルの名が付けられているが、この書の中にサムエルについての記述は含まれていない。これはサムエル記上とサムエル記下が元々一つの書であったためである（サムエル記上の最初の部分を参照、119ページ）。サムエル記下にはイスラエルを一致させ、民をその力の絶頂へと導こうとしたダビデ王の懸命な取り組みの様子が記されている。またダビデを成功へと導いたその特質をはっきり記している。

若いころ、ダビデは純粋かつ謙遜であった。しかし悲しむべきことに、サムエル記下にはダビデの人生における悲劇的な転換期が記録されている。若く純真なダビデが、ニール・A・マックスウェル長老が述べたように「自分を全権の王と思う」（*We Will Prove Them Herewith*, 71）ようになってしまったのはなぜだろうか。ダビデの人生を左右することになった選択を見つける。（その他の背景については、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル下1－12章および13－24章の「はじめに」、317、327ページを参照。『聖句ガイド』「ダビデ」、163ページも参照。）

サムエル下1－10章

はじめに

サムエル記下の最初の10章には、ダビデの権力と人望が頂点に達する様子が記録されている。これらの章を研究しながら、ダビデが主とどのような関係を持っていたか、また成功するためにどのようにして天の力を求めたか調べる。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は義人にも悪人にも、それぞれの行いによって報いると約束しておられる（サムエル下3:1, 27-39; 4:1-5:3, 19-25参照。アルマ41:3-15も参照）。
- 主に頼るとき、わたしたちは自分だけではできない事柄を成し遂げることができる（サムエル下5:17-25; 8章）。
- 神聖な事柄を軽々しく扱う態度や行いは、主の怒りを招く（サムエル下6章参照。教義と聖約63:64; 84:24-25, 54-58も参照）。

教え方の提案

サムエル下1-4章。ダビデの知恵と誠実さは、イスラエルとユダを統一するうえで役立った。（20-25分）

サムエル下1-4章を読ませるために、生徒を2-4人のグループに分ける。各グループにこれらの章に目を通させ、登場人物とその行いを結ぶクイズを作らせる。最初の欄にこれらの章に登場している人物を書き出し、隣の欄にその行いを説明する文を書く。以下の例をコピーして配付する。

だれが何をしたでしょう

ダビデ	A. (アサヘルに関する事)
アビシャイ	B. (イシボセテに関する事)
レカブ	C. (アブネルに関する事)
アブネル	D. (レカブに関する事)
ヨアブ	E. (バアナに関する事)
一人のアマレクびと	F. (ダビデに関する事)
アサヘル	G. (ヨアブに関する事)
バアナ	H. (一人のアマレクびとに関する事)
イシボセテ	I. (アビシャイに関する事)

グループごとにクイズを交換させ、それぞれにクイズを解かせる。全グループが解き終わったら、ダビデの知恵と誠実さをこれらの章に登場するほかの人々と比較させる。これらの章でダビデが行った最も称賛すべきことは何だと思うか尋ね、その理由を説明させる。

サムエル下5章:8章。主に頼るとき、わたしたちは自分だけではできない事柄を成し遂げることができる。（10-15分）

現在、戦争の真っ最中で、敵が攻め寄せて来ていると仮定する。スパイ衛星や偵察機、熱気球などの写真を見せ、それがこれから経験する戦闘にどのように役立つか尋ねる。サムエル下5:17-25を読み、ダビデが行ったことで敵を上空から眺めるのに似ていることを見つけさせる。

主に対するダビデの変わらぬ信頼がイスラエルの敵との戦いに勝利をもたらしたことを理解させる。イスラエルがペリシテびととの二度の戦いに勝利したのは、それぞれの戦いの前にダビデが主に指示を求めたからである（サムエル下5:19, 23参照）。

サムエル下8章にすばやく目を通させ、ダビデが破った民を幾つか挙げさせる（ペリシテびと、モアブびと、スリヤスナわちアラムびと、アンモンびと、アマレクびと、およびエドムびと）。6節と14節を読ませ、ダビデがそれほど成功できた理由に印を付けさせる。ダビデの模範から何を学べるか話し合う。自分の問題について信仰をもって主の助けを求めるなら、より大きな成功を認められることを強調する。

エズラ・タフト・ベンソン大管長が語った以下の真理を紹介する。

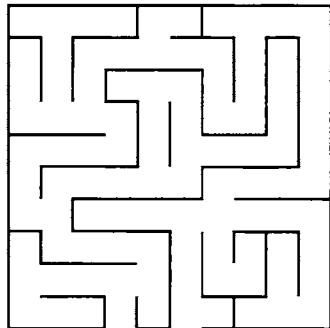
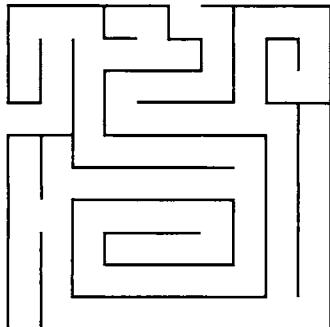
「自分の命をささげて神の御心をなそうとする人は、神が自分たちの能力を引き出してください、想像以上に多くのことを成し遂げられることに気づくでしょう。神はそのような人に対して、さらに大きな喜びと展望を与える、また理解力を増し加え、肉体を強め、精神を高め、

祝福を豊かに注ぎ、もっと多くのすばらしい機会を授け、慰め、友人、平安を与えてくださることでしょう。神の務めにおいて自らの命を失う者は、だれでも永遠の命を見いだすのです〔マタイ10：39参照〕。」(Jesus Christ – Gifts and Expectations [クリスマスディボーショナルにおける説教、1986年12月7日]、3)

主に助けを求めるものの価値について教師の証を付け加えるとよい。

サムエル下6：1-11。権能を持たずに人を正そうすることは適切ではない。(10-15分)

以下の二つの迷路をコピーするか、二つの異なる迷路を作る。



二人の生徒を別々の机に背中合わせに座らせ、相手のしていることが見えないようにする。一人の生徒に、迷路のコピーを渡して解かせる。次に二番目の生徒に異なる迷路のコピーを渡し、最初の生徒が与える指示に注意深く従ってゴールを目指すように言う。最初の生徒は、自分の迷路を使って、ゴールに到達するための細かい指示を与える。二人の迷路がそれぞれ異なっているため、自分が持っていない迷路の解き方を相手に教えることはできないことがすぐに明らかになる。

これから、今行った活動と関係のある原則について聖典から読むことを生徒に伝える。サムエル下6：1-7をともに読み、ウザが殺されたのはなぜだと思うか尋ねる(『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル下6：1-11についての注解、320ページ参照)。民数4：15を読み、イ

スラエルが行つてはならないと命じられたことについて話し合う。契約の箱の神聖さとその扱いに関する規制を生徒に理解させる。

サムエル下6：8-10を読ませ、以下の質問をする。

- ・ウザに起きたことについてダビデはどのように感じましたか。
- ・ダビデが怒り、恐れたのはなぜだと思いますか。

歴代上15：2、11-15を読み、ダビデが契約の箱の運び方をどのように変更したか見つける。次のように尋ねる。「主はウザの死によって、イスラエルの民にどのようなことを教えようとされたのでしょうか。」

『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル下1-12章「理解を深めるために」(323-324ページ)から、ウザに関するデビッド・O・マッケイ長老の勧告を紹介する。次に、迷路、マッケイ長老の言葉、そしてウザが契約の箱を支えようとしたことが、どのように相互に関係しているか尋ねる。迷路を解いた最初の生徒は、別の生徒の迷路について見当がつかなかった。同様に、わたしたちは自分が導くよう託されていない人々の「契約の箱を支える」ことはできない。また、彼らに指示する権能も靈感もないことを理解させる。

サムエル下6：12-23。主に対する畏敬の念は、神聖な場におけるわたしたちの態度に影響を及ぼす。(10-15分)

次のように尋ねる。「天の御父を心から愛し礼拝している人を見分けるにはどうしたらいいでしょうか。」以下の質問が役立つであろう。

- ・そのような人は、どんな服装、話し方、行いをすると思いますか。
- ・そのような人は、聖餐会や教会の集会の間、どのように振る舞うと思いますか。
- ・そのような人は、教会や指導者、聖文、神殿についてどのような態度で話すと思いますか。

サムエル下6：16-18、20-22を生徒とともに読み、次のように尋ねる。「ミカルがダビデの行動を不愉快に思ったのはなぜでしょうか。」ミカルは、ダビデが王衣を傍らに置いて主の前に踊って喜んだことを非難した。そのことを理解させる。ミカルは明らかに、この行動がダビデの王としての威儀を損ねるものだと感じていた。ダビデの返答には、たとえ自分の行動がミカルの機嫌を損ねたとしても、自分は主と聖なる箱に敬意を表し続けようという気持ちが表れている(『旧約聖書：創世記－サムエル記下』にあるサムエル下6：12-23についての注解、320ページ参照)。ダビデは自分が民を支配しているのではなく、彼らとともにいることを示したかったのである。

次のように尋ねる。「ミカルの不平に対するダビデの返答は、契約の箱に対するダビデの畏敬の念について何を教えているでしょうか。」数分時間を持って、主と主の宮居、および主の儀式に対してこれまで以上に敬意を払う方法を提案させる。

サムエル下9章。敵だと思っている人も含め、わたしたちの人々に対する接し方^{あがな}は、贖い主との聖約に対するわたしたちの決意を表している。(10-15分)

次のことについて考えさせる。「最もひどい接し方をされたときのことを思い出してください。その人についてどう思いますか。その人の家族に対してどう感じますか。」次のように尋ねる。「彼らを夕食に招待することについてどう感じますか。」

サウルがダビデに行おうとしたことを思い起こさせる。サムエル下9章には、サウルの孫、すなわちヨナタンの息子は足が不自由であったと記されている。この章をクラス全員で読み、ダビデがメビボセテに対して行ったことを見つける。マタイ5:38-47にある救い主の勧告とモーサヤ18:8-9にあるアルマの勧告に照らし合わせながら、ダビデの優しさについて話し合う。

サムエル下9:7を読み、ダビデがメビボセテに優しくした理由を見つける。次の質問をする。「このことからヨナタンに対するダビデの愛について何が分かりますか。」

サムエル下11-24章

はじめに

サムエル下1-10章では、ダビデ王の最も輝かしい時期について学んだ。しかし、11-24章にはダビデの悲劇と、その結果、統一されたイスラエルにどのような影響が及んだかが記録されている。たとえ偉大な王であっても、悔い改めなければその罪の結果を免れることはできない。ダビデが姦淫を悔い改めずに隠そうとしたとき、その人生の行く末は永遠に変わってしまった。これらの章を研究しながら、ダビデの罪が自らの家族とイスラエル王国全体に及ぼした影響に注目する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 不純な動機による決断は、御靈の影響力を取り去り、さらに大きな罪や悲しみへつながる（サムエル下11:2-17; 12:7-14; 13:1-19参照。教義と聖約42:22-26; 63:16-18も参照）。
- 罪を悔い改めなければ悲しみを招く。悔い改めていない罪を神に隠すことはできない（サムエル下11:1-23; 13:1-29）。
- 罪のない者の命を故意かつ不當に奪う殺人の罪については、イエス・キリストの贖罪をもってしても、その代価を完全に払うことはできない（『聖句ガイド』ヨセフ・スミス訳サムエル下12:13参照。1ヨハネ3:15; 教義と聖約42:18, 79も参照）。
- 指導者の義にかなった正しさは、国の福利に影響を及ぼ

す（サムエル下15:1-6; 19:9-10; 20:1-3; 23:1-5参照）。

教え方の提案

 **サムエル下11章。**不純な動機による決断は、御靈の影響力を取り去り、さらに大きな罪や悲しみへつながる。(35-45分)

生徒用学習ガイドのサムエル下11-12章の最初の部分にある物語を読む。当時十二使徒定員会会員であったゴードン・B・ピンクレー長老は、列車のポイント（転轍機）について話した。サムエル下11章を研究するときに、この物語を心に留めておくよう伝える。

生徒用学習ガイドにあるサムエル下11-12章のための活動Aを行う。黒板に表を書く。最初の欄に記された参照聖句を読んで、隣の二つの欄に何が入るか話し合う。生徒がすでにこの活動を終えている場合は、書いたことを発表させる。この章を研究する際、生徒の疑問に答えるための資料として、『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にあるサムエル下11:2および11:3-27についての注解（321ページ）を参照する。

活動を終えた後、次のように尋ねる。「ダビデの人生におけるポイント、すなわち彼の人生をまったく違う方向に向かわせた小さな決断にはどのようなものがあったでしょうか。」ウリヤを死に追いやる前に、ダビデには正しい道に戻る機会や方法が何度あったか、どうすればそれぞれの罪を完全に悔い改めることができたか説明する（『旧約聖書：創世記-サムエル記下』にあるサムエル下12:13についての注解および「理解を深めるために」の最初の部分、322-323ページ参照）。

次の活動を利用して、永遠の標準に基づいて賢明な選択をすることの重要さを説明する。黒板に、神殿までの地図か、神殿に行くために利用する空港や駅までの道を示した地図を描く。一人の生徒に黒板の道をたどらせる。ただし、曲がる必要のある交差点に来るたびに、硬貨を投げさせる。もし「表」が出たなら右へ、「裏」が出たなら左へ曲がらなければならぬ。次の質問をする。

- この方法で神殿に到達することができると思いますか。
- ある人々の生き方は、どのような点でこれと似ていますか。
- 人生におけるポイントに来たとき、わたしたちは何に基づいて決断すべきですか。
- ダビデの決断に影響を及ぼしたのはどのようなものでしたか。

ダビデをヨセフと比較させる（創世39:7-12参照）。次のように尋ねる。「ヨセフの決断は、ダビデのものとどのように異なっていたでしょうか。ヨセフは誘惑を退けることができ、ダビデにはそれができませんでした。なぜでしょうか。」

クラスを小さなグループに分け、各グループに『若人の

強さのために』のパンフレットを1部ずつ配付する。生徒に最も読ませたいページを選ぶ。各グループがそれぞれ違った項目を研究できるように、ページを適当に区切る。ダビデが犯した罪から、生徒たちを守るのに役立ちそうな標準を見つけさせる。グループごとに見つけたことをクラスで発表させる。

教義と聖約42:22-26または63:16-18とヒラマン3:29-30を比較しながら、以下について考える。「天の御父のもとへ戻るために、わたしは何を信頼しているだろうか。それによってどのような結果がもたらされるだろうか。」日々の選択をするときに、わたしたちは永遠の命への道にとどまるためのポイントに立っていることを認識するよう促す。

サムエル下12:1-23;13:1-29。悔い改めていない罪を神に隠すことはできず、そのような罪は常に悲しみをもたらす。(25-35分)

二人の生徒に、サムエル下12:1-14にある預言者ナタンとダビデ王の会話を読むよう用意させる。彼らの発表の後、黒板に以下の言葉を書く。「富んでいる人」、「貧しい人」、「多くの羊と牛」、「小さい雌の小羊」。以下の質問から、役立つと思われるものについて話し合う。

- これらの言葉はナタンのたとえの中でだれを表していますか。
- ダビデはどのような点で、多くの羊を持つ富者と言えるのですか。
- ダビデの罪を明らかにするために、ナタンがたとえを用いたのはなぜだと思いますか。
- ダビデの罪、すなわち姦淫と殺人のうち、最も重大のはどちらですか。(アルマ39:5参照)。『聖句ガイド』ジョセフ・スミス訳サムエル下12:13;『旧約聖書:創世記-サムエル記下』にあるサムエル下12:13のための注解および「理解を深めるために」の最初の部分、322-323ページも参照)。

ナタンがダビデを訪れたのは、ダビデが罪を犯してから、少なくとも9か月後であったことを指摘する(サムエル下11:26-27参照)。それ以前にダビデが悔い改めようとしたという記録はない。

黒板に次の表を書き、見出しの下の欄に参照聖句だけを記入しておく。

預言者ナタンの預言は成就した	
預言された結果	預言の成就
サムエル下12:10(剣はダビデの家を離れない。)	サムエル下13:26-29;18:14-15;列王上2:25(ダビデの子アムノン、アブサロム、およびアドニヤはそれぞれ恐ろしい死を遂げた。)
サムエル下12:11(ダビデの家からダビデのうえに災いが起きる。)	サムエル下15:6-14;16:11(ダビデの子アブサロムは父ダビデに背いて彼を打ち倒そうとした。アブサロムはダビデの命さえもねらった。)
サムエル下12:11-12(ダビデの妻たちは民の前で辱められる。先の王の妻を取った者が王となるのが慣習であった。)	サムエル下16:21-22(アブサロムはダビデの妻のうち10人を公然と辱めた。)
サムエル下12:12(ダビデの罪はひそかに行われたが、主の罰は全イスラエルに知らされる。)	サムエル下16:21-22(アブサロムはダビデのめかけたちを公然と奪った。)
サムエル下12:14(バテシバとの姦淫によって生まれる子は死ぬ。)	サムエル下12:15-18(ダビデは7日間断食し祈ったが、子は死んだ。)

クラスを二つのグループに分け、一つのグループに「預言された結果」の欄にある参照聖句を読ませる。そしてダビデの罪の結果としてナタンが預言したことを見つけ、黒板に書き出すように割り当てる。もう一つのグループには「預言の成就」の欄にある参照聖句を調べさせ、ナタンの預言がどのように成就したか書き出させる。それらの悲劇的な結果と、どうすればそれらを避けることができたかについて話し合う。

ダビデの罪の結果について話し合いながら、サムエル下13:1-29にあるアムノンとタマルの物語を読んでもよい。アムノンは自分の欲望を満たすために友人と陰謀を企てたが、後に妹を憎んで追い出したことに注目する。サムエル下13:15-20, 23-29を読ませ、以下の質問をする。

- タマルは辱められた後に何をしましたか。
- アムノンはどうなりましたか。
- これらもダビデの罪の結果であるとみなすことができます。なぜでしょうか。(『旧約聖書:創世記-サムエル記下』にあるサムエル下13:1-14および13:15-22についての注解、327ページ参照)。

ダビデの罪が招いた永遠の結果について理解するため、教義と聖約132:39を読ませる。詩篇第51篇は、ダビデがナタンに会った後に書かれたものであることを指摘する。生

徒とともにこの箇所を読み、その会見の後にダビデがどのように感じていたか話し合う。罪が見つかるまで悔い改めない人がいるのはなぜかを話し合う。

生徒用学習ガイドのサムエル下13-14章の「聖文を理解する」にあるエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉を読む。悔い改めとともに重荷が取り除かれ平安が宿ることについて、教師自身の証を述べるとよい。

サムエル上16章-サムエル下24章。決断は将来に影響する。(25-30分)

ダビデが神から授かった強さは、彼が人生における数々の障害を克服する助けとなった。しかし、「ダビデはバテシバとの間に犯した姦淫の罪によって、人生最後の20年間を数々の不幸に苦しめられた」(『聖句ガイド』「ダビデ」163ページ)。

黒板に以下の見出しと参照聖句を書く(括弧内の要約は書かない)。半分の生徒に前半の聖句を読ませ、ダビデがどのように神に従い、神に頼ったかを示している記述を見つけさせる。残りの生徒には後半の聖句を読ませ、ダビデの悪い行いの後に起きた災いを見つけさせる。両方のグループの代表に、見つけたことの簡単な要約を黒板に書かせる。

1. ダビデの生涯の前半

- ・サムエル上17:45-49(神の助けによってゴリアテを倒した。)
- ・サムエル上24:3-7(サウルに命をねらわれていたにもかかわらず、サウルを傷つけることを拒んだ。)
- ・サムエル下5:19, 25(主を求め、主に従った。)
- ・サムエル下8:6, 15(主によって守られた。賢明な裁きを行った。)
- ・サムエル下9:1-3, 7, 13(足の不自由なメピボセテの世話をした。)

2. ダビデの生涯の後半

- ・サムエル下13:1-2, 10-14, 27-29(アムノンが姉タマルを辱めた。)
- ・サムエル下15:1-6, 12(ダビデに背くようアブサロムが民を扇動した。)
- ・サムエル下16:11(アブサロムがダビデの命をねらった。)
- ・サムエル下18:9-10, 14, 33(アブサロムが殺された。)
- ・サムエル下20:1-2(イスラエルの部族がダビデに反乱を起こした。)

まだクラスでこれらの章を扱っていない場合、ダビデについてのこれらの短い記述、特にダビデの生涯の後半に関する記述を理解するには、その背景を説明する必要がある。生徒が理解できるように以下の内容を紹介する。

- ・メピボセテはダビデが大切にすると約束していたヨナタンの子であった(サムエル上20:14-16参照)。
- ・タマルとアブサロムはマアカによるダビデの子らであった(サムエル下3:3; 13:1参照)。
- ・アムノンはアヒノアムが産んだダビデの長子であった(サムエル下3:2参照)。

また『旧約聖書:創世記-サムエル記下』から、参照聖句に関連する情報を紹介してもよい。1ニーファイ8:24-28を読む。そして、この聖句とダビデの生涯との関係について話し合い、バテシバとの罪の前と後のダビデの人生を比較させる。

かつては強い証を持っていると思われた人が、福音の道から離れてしまうのはなぜだろうか。その理由を幾つか挙げさせる(特定の行動や人物には触れない)。次のように尋ねる。「なぜそれほど多くの祝福を得ている人が、主から遠く離れることができるのでしょうか。」

清く汚れない状態でいることにより得られる幸福について話し合う。主の道を離れた人でも、悔い改めれば赦しの喜びを再び受けることができることを証する。十二使徒定員会会員であるリチャード・G・スコット長老の悔い改めに関する約束と教えを紹介する。

「ルシフェルは全力を尽くして皆さんをとりこにしようとするでしょう。その方法は皆さん御存じのとおりです。ルシフェルはこうささやきます。『だれにも分かりはしないよ。』『あと一度だけさ。』『変わることなんてできないさ。前にもやろうとしてできなかったのだから。』『これだけやってきているのだから、手遅れさ。』サタンの手に落ちてはなりません。

救い主が示されたあの険しい上り坂を行くとき、その途中には様々な報いがあります。正しいことをしたとき、誘惑に打ち勝ったとき、目標に到達したときなどに、よい気持ちを感じます。それは平安と慰めをもたらし、前進する励みとなります。また戒めを破ったときに感じる気持ちとは非常にかけ離れたものです。

皆さんが助けを祈り求めるとき、主は皆さんの中に神権指導者や友人を遣わしてくださるでしょう。皆さんが望むならば、彼らは助言や励ましを与えてくれます。しかし、このことは忘れてはなりません。キリストがその旅路のために定めてくださった規則に皆さんのが従わないかぎり、彼らには皆さんを助けることはできないのです。皆さん自身の変わろうという決意がなければ、永続的な進歩はあり得ないです。(モーサヤ3:17-20参照)」(『聖徒の道』1990年7月号、81)

ヘブライ語の聖書では、列王紀上下は一つの書として**列王紀**と呼ばれている。列王紀を最初に二つの書に分けたのは『セプトゥアギンタ』(『七十人訳聖書』。ギリシャ語訳旧約聖書)で、その後出版された翻訳版聖書の大半がそれに倣っている。列王紀上下は(欽定訳聖書の副題で列王紀第一書、第二書と呼ばれている)サムエル記上下の続きである(列王紀の副題では続けて列王紀第三書および第四書と呼ばれている)。列王紀上下には、サムエルの統治(紀元前約1095年)からバビロニア捕囚(紀元前約587年)に至るイスラエルの王たちの歴史が記されている。列王紀を著した人物は、「ソロモンの事績の書」(列王上11:41)やイスラエルおよびユダの王の歴代志の書(列王上14:19, 29参照。『聖句ガイド』「列王紀」, 289-290ページも参照)などの、現在では所在の分からぬ記録を基にこの歴史を編さんしている。

列王紀上の前半にはソロモンの物語が記されている。ソロモンは最初、イスラエルの指導者として前例がないほど成功を収めたが、後には靈的に堕落し、民をも同じように堕落させてしまった。ソロモンの統治の終わりには、イスラエルは物質的にも靈的にも衰退し、その結果、王国はソロモン王の死後1年もしないうちに分裂してしまった。記録を読みながら、ソロモンとイスラエルの悲劇的な没落の理由を見つけ、それらについてよく考える。

列王紀上の後半では、分裂したイスラエル王国について記されている。政治上の歴史も若干述べられてはいるが、それよりもむしろこの記録には、神がイスラエルと交わされた聖約を政治上の指導者たちがどのように守ったかについての歴史が記されている。ここでは、聖約を守ることに關して非常に忠実であった王、反対に忠実ではなかった王、そして彼らに教えを説いた預言者に焦点が当てられている。列王紀上に記されている良い例と悪い例の両方から、教えを学ぶことができる。

列王上1-10章

はじめに

列王紀上の最初の10章には、ダビデの子ソロモンがどれほど父の軍事的な成功の恩恵にあずかったかが記されている。ソロモンは平和、繁栄、安全を受け継ぎ、イスラエルのいわゆる「黄金時代」を継承した。ソロモン自身は、知恵、富、名誉、および長命を約束され、それらを受けた。多くの国々のあらゆる社会階層の男女が、王から知恵を求めた。

ソロモンの最も偉大な業績は、神殿の建築と奉獻であろう。その完成には約20万人の労力と7年の歳月を要した。その奉獻には驚くべき現れが伴った。

後にソロモンは主から離れた。これらの章を研究しながら、若いころのソロモンが靈的また物質的に成功した理由に注目する。それらをソロモン王の人生の後半、および王とその民の堕落につながった行動と比較する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神の王国で働く召しは、適切な権能を通じて靈感によって与えられる(列王上1:5-10, 28-31参照)。
- わたしたちが熱心に義を求めるとき、主は喜ばれ、祝福を与えてくださる(列王上2:1-4; 3:5-15; 4:29-30; 10:14-23参照。アルマ29:4も参照)。
- 主は御自分の民に、神殿を建てるように命じられる。それは神殿が偉大な幸福の計画に不可欠であり、神が御自分の民に祝福を注がれる場所だからである(列王上5章; 6:14-38; 7:13-51; 教義と聖約132:19-20参照)。

教え方の提案

列王上3章。善惡を問わず、わたしたちは自分の望みに応じて刈り取る。わたしたちは自分の望みを主の御心と調和させなければならない。(25-35分)

以下の質問をする。

- もし主、または主の使いが訪れて、何でも望むものを与えると言われたら、あなたは何を求めますか。それはなぜですか。
- 列王上3:3-5を読む。これに似た申し出を受けたのはだれですか。
- ソロモンはその申し出をだれから受けましたか。
- 列王上3:6-9を読む。ソロモンは主に何を望みましたか。

黒板に「聞きわかる心」または「知恵」と書き、ソロモンがそれを望んだ理由を話し合う。当時のソロモンの態度を示している言葉を見つけさせる。ソロモンが自分は「小さい子供」であると認めていることをマタイ18:1-5; モーサヤ3:19; 3ニーファイ11:37-38と比較する。列王上3:10-14を読ませ、主がソロモンの願いを喜ばれた理由を尋ねる。

ソロモンが願ったものと、自分だったら願っていたであろうものとを比べてみるように言う。次の質問をする。

- あなたの願いについて、主はどのようにお感じになると思いますか。
- 主は知恵以外に、ソロモンにどのようなものをお与えになりましたか。

黒板に「富」「誉れ」「従順ならば長命」と書く。時間があれば、列王上3:16-28にあるソロモンが神から与えられた知恵の有名な例を読んで話し合う。

ニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしたちが望み続ける事柄は、やがては実現し、永遠にわたってわたしたちが受け継ぐものとなるでしょう。『主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。』（教義と聖約137:9。エレミヤ17:10も参照）」（『聖徒の道』1997年1月号、22）

生徒とともにアルマ29:4-5を読み、以下の質問をする。

- 主は義にかなった望みを持つすべての人に、どのようなことを約束しておられますか。
- わたしたちの望みが義にかなっていないときの主の約束はどのようなものですか。
- 正しくない望みを抱いて苦しんでいる場合、義にかなった者となる見込みはないのでしょうか。それは絶望的だということを意味するのでしょうか（エテル12:27参照）。
- 主は聖文の中で「求めなさい。そうすれば与えられるであろう」と何度も言われています。しかし、求めるものがいつも与えられるとはかぎりません。それはなぜでしょうか（ヒラマン10:4-5；3ニーファイ18:20；モルモン9:27-28；教義と聖約8:10；50:29；88:64-65参照。『聖句ガイド』「祈り」第2および第3段落、40ページも参照）。

列王上6-9章。神殿は神の宮であり、幸福の計画に不可欠である。（20-30分）

神殿の写真を見せ、次のように尋ねる。「神殿は幸福の計画に欠かせないものです。なぜそれほど重要なのでしょうか。」ハワード・W・ハンター大管長の以下の言葉を紹介する。

「福音を宣べ伝え、聖徒を完全な者とし、死者を贖うるために払われるあらゆる努力は、聖なる神殿と関連しています。なぜなら、神殿の諸儀式は非常に重要なものであり、儀式がなければ神のみもとに戻ることはできないからです。皆さん一人一人がふさわしい状態で神殿に参入するよう、あるいは、聖なる宮に参入して自身の儀式と聖約を受けられる日に向けて努力するようお勧めします。」（『聖徒の道』1995年1月号、97）

生徒と一緒に列王上6章と歴代下2-4章を読み、ソロモン神殿の建築に要した費用と努力について話し合う。次の質問をする。「ダビデとソロモンは、主の宮のために多大な努力を払って美しい建物を建設しました。今日の教会においても同じことが言えます。なぜそれだけの努力をして神殿を建設するのでしょうか？」

黒板に「主の宮」と書く。生徒は次の質問について熟考し、答える。「『主の宮』という言葉を聞くと、どのような思いを抱きますか。」出エジプト25:8；列王上6:11-13；教義と聖約124:25-27を読ませる。次の質問をする。「神殿が主の宮であることを理解するときに、神殿に対して

どのような態度を取るべきだと思いますか。」

主の宮としての神殿について話し合う際に、以下の二つの項目について検討させる。

1. 神殿は主に奉獻される。神殿が奉獻された日、神殿が眞に主の宮であることを示す出来事が起こった。列王上8:1, 10-14を読ませ、どのような出来事があったか発表させる。次の質問をする。「列王上9:1-3で、主は同じように神殿を受け入れられました。どのようなことが起きたでしょうか。」ソロモンの神殿の奉獻をカートランド神殿の奉獻（教義と聖約110章参照）と比較してもよい。神殿の奉獻式に参加したことがある生徒がいれば、その経験をクラスで紹介させる。
2. 奉獻後は清くないものが神殿に入ることはできない。以下の質問をする。「神殿でそれほど偉大な靈的経験ができるのであれば、だれもが神殿に入って御靈にあずかることができないのはなぜですか。神殿推薦状が必要なのはなぜですか。」（1ニーファイ15:34；教義と聖約97:15-17参照）これはわたしたちが神殿を奉獻する理由と関係している。次のことを指摘する。神殿を奉獻した後、ソロモンと主は民に勧告を与え、神殿があらゆる祝福を自動的に保証するものではないことを理解するよう促した。列王上8:55-61と9:3-9を読ませ、神殿について民に与えられた勧告を挙げさせる。次の質問をする。「ここで述べられていることは、神殿の祝福を受けるうえで今日どのように役立つでしょうか。例えば、エンダウメントの祝福はどのようなときにわたしたちに与えられますか。神殿結婚の祝福はどうでしょうか。」（祝福は、それらの儀式を受けるときだけでなく、そこで交わす聖約に従って生活し続けたときに与えられる。）

教義と聖約97:12-16を読み、主の宮としての今日の神殿について教師の証を述べる。

列王上11-16章

はじめに

ソロモン王は、以前の王であったサウルやダビデと同じように、大いなる約束を受けてその統治を始めた（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』列王上1-11章の「はじめに」、1ページ参照）。しかし、やはりサウルやダビデと同じように、ソロモンは後に主から離れてしまった。ソロモンの背教は全イスラエルを罪へと誘い、主からの守護を受けられなくなった。

ソロモンの死後、イスラエルの連合王国は分裂し、ダビデとソロモンの下で極めた繁栄と国力を享受することはなかった。11-16章を研究しながら、主の道を踏み外すことになった、ソロモンの誤った選択を見つける。また王の罪がその民と国家にどのような影響を与えたかにも注目する。

学び取るべき重要な福音の原則

- たとえ召しを受け才能や祝福に恵まれても、謙遜になって主に頼らなければ失敗することがある（列王上11：6-26参照。2ニーファイ32：9；教義と聖約3：4も参照）。
- わたしたちは義にかなった人々を指導者として選ばなければならない。義にかなっていない指導者は、民を罪へと誘うこともあるからである（列王上12：6-14, 25-33；18：1-18；22：1-29参照。教義と聖約98：9-10も参照）。

教え方の提案

 **列王上11章。**サウル、ダビデ、ソロモンはいずれも、統治を始めたときには謙遜であって大いなる才能と可能性を秘めていた。しかし、3人ともやがて主から離れ、自らの可能性を生かすことができなかった。（25-35分）

注意：列王上17-19章のために、週ごとに教える教師のための教え方の提案がもう一つ用意されている。それを一緒に用いてもよいし、別個に用いてもよい。

最初はすべてが順調に進んでいるかのように見えたが、結局すべてが裏目に出て悪い結果となった出来事について話し合う。例えば、勝てると思った選手が何らかの理由で敗れたなど。以下の質問をする。

- その出来事についてどのように感じましたか。
- 人生のあらゆる出来事は、すべて悪い結果で終わると思いますか。
- 2ニーファイ2：27を読む。人生で経験する出来事は、何によって左右されるでしょうか。この聖句から、何が分かりますか。

サウルとダビデの人生に起きた変化について考えさせる。次の質問をする。

- 王として召されたとき、彼らはそれぞれどのような人物でしたか（サムエル上9：2；サムエル上16：7, 12-13；列王上3：3-10参照）。
- その統治が終わるころに、彼らはどのように変わっていましたか（サムエル上15：22-26；サムエル下12：7-12参照）。

ダビデの子ソロモンも、同様の道をたどったことを伝える。生徒とともに申命17：14-20を読み、モーセが将来イスラエルの王となる者に与えた警告を挙げさせる。列王上10：14, 26-27；11：3を読ませ、ソロモンがどの点でモーセの警告を無視したか見つけさせる。ソロモンはどうすれば罪を犯さずに済んだかを話し合う。

生徒とともに列王上11：1-10を読み、次のことを話し合う。「ソロモンはなぜ聖約を離れて外国人の妻たちと結婚したのでしょうか。また、そのような結婚はどれほど重大な罪を招いたでしょうか。」次の質問をする。「ソロモンの背教は悲しむべき結果を招きました。それはどのようなものでしたか。」（列王上11：14-43参照）

イスラエルが最初に王を求めたとき、主は何と言われただろうか。生徒に思い起こさせる（サムエル上8章参照）。義にかなっていなかった3人の王たちについて学ぶ。その後、自分が列王紀上の著者になったつもりになって、「このようにして、……が分かるのである」という表現を使い、イスラエルの王たちの経験が教えていることを要約させる。書いたものを発表させ、サウル、ダビデ、ソロモンの過ちから学んだことについて話し合う。

列王上12章。小さな選択が重大な結果をもたらすことがある。それは将来の世代にさえ及ぶことがある。（20-30分）

黒板に次の言葉を書く。「国々の歴史と同じように、人生は往々にして小さな選択（ちょうどつがい）に大きく左右される。」できればちょうどつがいを見せ、そのわずかな動きによってドアが大きく開閉することを説明する。黒板の言葉はどのような点で真実であるかを説明させ、小さな選択が将来にどれほど大きな影響を及ぼすか、例を挙げさせる。次の質問をする。

- どのような選択が、あなたや周りの人々の生活を変えましたか。
- それらの選択は、ほかの人々にどのような影響を与えたか。

レハベアムとヤラベアムの選択について調べる。彼らがどのような選択をすべきだったか話し合い、イスラエルの歴史を変える「ちょうどつがい」となった選択を探させる。

- レハベアム：列王上12：1-24および14：21-31を読み、レハベアムがどのような選択をしたか見つける。列王上12：7；マタイ20：25-27；教義と聖約50：26；121：39で、主が指導者の行いについて指示されたこととレハベアムの選択を比較させる。次の質問をする。「レハベアムの選択はどのような結果を招きましたか。」
- ヤラベアム：列王上11：26-40と12：25-33；14：1-20を読み、ヤラベアムがどのような選択をしたか見つける。次の質問をする。「ヤラベアムはどのような言い訳をしてイスラエルに偶像礼拝を始めさせましたか」（列王上12：28参照）。ヤラベアムの論法と、難しそうな戒めをなおざりにしがちなわたしたちの傾向とを比較する。そのような正当化にどのような危険が潜んでいるか尋ねる。列王上13章；歴代下11：13-17および列王上19：10を読み、ヤラベアムの選択がどのような結果を招いたか尋ねる。

レハベアムとヤラベアムの選択がもたらした長期的な影響を理解させるために、以下の活動を行う。

- 『聖句ガイド』地図3「カナンにおけるイスラエルの十二部族への土地の分配」を見て、ユダとイスラエルとの境界を見つける。
- 列王上15：25-26；16：2, 25-26, 30-31；22：51-52；列王下3：1-3；10：29-31；13：6, 11；14：24；

15:9, 18, 24, 28を読み、これらに共通する一つの概念を見つける。次の質問をする。「『ヤラベアムの道に歩み』という概念は、一人の人の選択がもたらす長期的な影響についてどのようなことを教えていると思いますか。」

- バビロニア人とアッシリヤ人によるイスラエルとユダの捕囚は、どのような点で彼らの罪悪の結果だったと言えるか説明する（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』にある特別講座DおよびG, 131-135, 279-281ページ参照）。

レハベアムとヤラベアムの選択がもたらした結果をよく吟味させる。自分自身の一見ささいな選択がそのような結果をもたらすかどうか、深く考えるよう促す。

列王上17-22章

はじめに

列王上17-22章には、預言者エリヤが登場する。エリヤは、死者を生き返らせ、天から火を招き、天を閉ざして雨が降らないようにした。また、かめの粉が尽きることのないようにし、火の車に乗って地上から取り上げられた。現世における数々の功績によって、エリヤはイスラエル史上最も偉大な英雄の一人となった。エリヤが地上から取り上げられたという事実と、マラキ4:5-6にある預言により、厳格なユダヤ人の家庭では、過越の祭の度に席を設けてエリヤの再来を待ち設けるようになった。世のほとんどの人々には知られていないが、エリヤは1836年の過越の日に戻って来てマラキの預言を成就している（教義と聖約110:13-16参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 大いなる奇跡は、イエス・キリストを信じる信仰の力によってもたらされる（列王上17:1-22; 18:31-39参照）。
- 神はサタンやその僕をしのぐ力を持っておられる（列王上18:19-39参照。ヨハネ17:3も参照）。
- 神がわたしたちに語られる方法の一つに「静かな細い声」がある（列王上19:11-12参照。1ニーファイ17:45も参照）。

教え方の提案

 **列王上17-19章。大いなる奇跡は、イエス・キリストを信じる信仰の力によってもたらされる。** (40-50分)

全員で「ニーファイの勇気」（『子供の歌集』、64ページ）か、完全な従順さに伴う力について教えている適切な賛美歌を歌う。1ニーファイ3:7を読み、それがどのような点で信仰の大いなる表れと言えるか話し合う。

列王上17章には、主が命じられたことに進んで従い「行って〔主が命じられたことを行った〕」二人の人物と、その信仰のゆえに受けた祝福についての物語が記されている。列王上17章から、「行って、〔その〕とおりにした」（5, 15節）、「立って……行った」（10節）、および「行って、〔その〕とおりにしなさい」（13節）という言葉を見つけさせる。これらの言葉に線を引き、それぞれの言葉の余白に「1ニーファイ3:7と相互参照」と書き込むように言う。

列王上17章の1-7, 8-16、および17-24節にある3つの短い物語を読んで話し合う。それぞれの物語について、次のことを尋ねる。「信仰を表した人物はだれでしょうか。主の命令に従った時点で彼らが知らなかつたことは何でしょうか。」3番目の物語で起きたことは2番目の物語で示された信仰に基づいていることに注意する。信仰をもって喜んで行わないならば、わたしたちは大きな祝福を逃すことになるかもしれない。

列王上18章では、信仰がもたらす強さと力について記されている。生徒に、ナレーター、アハブ、オバデヤ、エリヤ、バアルの預言者たち、民、およびエリヤの僕の役を割り当てて朗読劇をしてもよい。

以下の質問をする。

- この章に出てくる様々な人物や例から、信仰についてどのようなことが学べますか。
- 17節のアハブの質問から、彼の信仰についてどのようなことが分かりますか。
- エリヤがカルメル山で示した信仰について、どのようなことが印象に残りましたか。
- 民は奇跡的な出来事に対してどのような反応を示しましたか。
- 列王上19:1-3を読んでください。イゼベルはどのような反応を示しましたか。

次のことを理解させる。「御靈の静かで穏やかな声は、証をもたらし強めます。またそれは、謙遜で従順な人にだけ与えられます。」

列王上18章。神はサタンやその僕をしのぐ力を持っておられる。 (20-30分)

バケツに入った水と、木片、大きな石を見せる。次のように尋ねる。「これら3つのものに関係している旧約聖書の物語はどれでしょうか。」ヒントとして、それらはすべて「焼きつく」され「なめつく」されたことを伝える。

全員で列王上18:17-40にある、エリヤとバアルの預言者たちの物語を読む。次の質問をする。

- 17節でアハブは、エリヤが干ばつでイスラエルを悩ましていると言いました。それはなぜですか（列王上17:1参照）。
- エリヤは、実際に干ばつをもたらしたのはだれだと言いましたか。それはなぜですか（列王上18:18参照）。

天を閉ざして雨を降らせないために、神がエリヤにお与

えになった偉大な力について話し合う。エリヤが神からこの力を授かったのは、イエス・キリストを信じる信仰と義にかなった行いのためであった。ヒラマン10-11章には、ニーファイが結び固めの力を授かったいきさつと、それがどのような力であるか記されている。主が称賛されたニーファイの特質とエリヤの特質とを比較する。現代の預言者がエリヤと同じ結び固めの力を持っていることを理解させる（教義と聖約110：13-16；132：7参照）。

以下の質問をする。

- 列王上18：21でエリヤは、イスラエルが二つのもの間に迷っていると記しています。それはどういう意味だと思いますか。
- それら二つのものとは何ですか。
- 今日わたしたちの前にある二つの選択肢はどのようなものですか。
- それらはどのようにエリヤやバアルと比較することができますか。数が多いのはどちらですか。救いの力を持っているのはどちらですか。大言壯語しながらも救いの力を持っていないのはどちらですか。
- エリヤが偶像礼拝の祭司たちに、自分の挑戦に応じるよう望んだのはなぜだと思いますか（19、22節参照）。
- まことの神であるかどうか試すために、エリヤは天から火を呼ぶことを提案しました。それはなぜだと思いますか（23-24節参照）。（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある列王上18：22-24についての注解、61ページ参照。）
- エリヤはなぜ、バアルの預言者たちから最初に行わせたと思いますか。
- バアルの預言者たちは、自らの神から答えを得るためにどのくらいの時間努力しましたか（26-29節参照）。
- エリヤが自分の祭壇に水を注いだのはなぜだと思いますか（33-35節参照）。
- 主はエリヤにこたえて、御自身の力をこのような印象的な方法で示されました。それはなぜでしょうか。（36-39節参照）。
- このことから、現代の預言者に従うことについて何が学べますか。
- 現代の預言者は、どのような点でエリヤに似ていると思いますか（預言者は同じ結び固めの力を持っており、たとえ世の大多数が彼に反対しようと、主は預言者の語る言葉を擁護される）。

まことの預言者に従うことの大切さについてさらに証するため、列王上22章にあるヨシヤパテとアハブ、そして預言者ミカヤの物語を読んで話し合ってもよい（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある列王上22章についての注解、63ページ参照）。

列王上19章。わたしたちは御靈のささやきに聞き従う必要がある。（20-25分）

列王上18章で起きたことを一人の生徒に要約させる。以下の質問をする。

- もし今日、預言者がこれと似たようなことをしたら、あ

なたはどのような反応を示すと思いますか。

- それは伝道に役立つと思いますか。
 - 列王上19：1-10を読みます。エリヤが主に語ったことからすると、カルメル山での奇跡を通して改宗した人は大勢いましたか。
 - 民が真の改宗をしなかったのはなぜだと思いますか。
 - 真の改宗はどのようにしてたらされると思いますか。
- あかし 証を得、強めるうえで、御靈が最も重要な役割を果たすのはなぜか話し合う。列王上19：11-13を読ませ、「静かな細い声」は聖靈の現れであることを伝える。ボイド・K・パッカー会長も次のように説明している。

「聖靈の声は聞くというより感じるものです。それは「静かな細い声」と表現されています。そして、御靈のささやきに『耳を傾ける』ことについて語るとき、その靈的な促しを指して『わたしは……と感じました』と言うことが多いようです。……

啓示は『聞く』言葉よりも『感じる』言葉として与えられます。天使の訪れを受けたにもかかわらず、かたくなな態度を改めなかった兄たちに向かって、ニーファイはこう言いました。『あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした。』（『聖徒の道』1995年1月、65）

当時管理ビショップリックの第一顧問であったヘンリー・B・アイリングビショップは次のように語っている。

「わたしは確かに〔御靈〕が静かな声であることを証します。それはささやきであって、叫び声ではありません。だからこそ、内なる声に耳を澄まさなければならないのです。その声に耳を傾けたいと思うときには、断食をすることも賢明なことでしょう。また、『父よ、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください』という気持ちを抱くときに、一番素直に耳を傾けることができます。『み旨のままに行いたいのです』という思いを持ったとき、静かな細い声がまるで皆さん的心を貫き通すような思いを味わうのです。そして『骨を……震わせる』ことでしょう。多くの場合、心が内に燃えるのを感じます。静かに、しかし、思いを高め、新しい確信を与えてくれるよう燃えるのです。」（『聖徒の道』1991年7月号、68参照）

以下の質問をする。

- わたしたちが、御靈の声から耳を背けたり、集中しなかったりする原因にはどのようなものがあるでしょうか。
- 日常生活の中で、静かな細い声に、より敏感になるために、どのようなことができるでしょうか。

御靈のささやきに耳を傾けるだけでなく、御靈の導きに従うことの大切さを理解させる。

列王紀上の導入で述べられているように、ヘブライ語の聖書では列王紀上下は一つの書であった。列王紀下には、分裂したイスラエル王国とユダ王国における、紀元前850年から紀元前560年ごろまでの出来事が記録されている。この書には預言者エリヤ、エリシャ、およびイザヤについての記述があり、アッスリヤによるイスラエルの北王国の滅亡とバビロニアによるユダの南王国の滅亡という悲劇的な話で結ばれている。これらの滅亡と捕囚は、モーセ（申命8:10-20参照）やサムエル（サムエル上12:14-15, 24-25参照）の預言的な警告の成就となった。

列王紀下を研究しながら、イスラエル王国がアッスリヤに破れた理由を探す。また、南北両王国がともに同じ相手と敵対していたにもかかわらず、ユダ王国がイスラエル王国よりも100年以上長く存続したのはなぜか考える。ユダが最終的にバビロンに占領された理由は何か、どうすれば彼らの滅亡を防ぐことができたかについても探す。

列王紀下を研究する際に、イスラエルとユダの王の一覧表が役立つ（『聖句ガイド』『年表』、194-195ページ参照。本書の「イスラエルとユダの王と預言者」、219-222ページ；『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある図表、42, 45-46, 49ページも参照）。

列王下1-13章

はじめに

エリヤとエリシャは、イスラエル王国とユダ王国が偶像礼拝にふけっていた時期に働いた、驚くべき預言者であった。彼らはともに大いなる奇跡を行ったが、教え導いていた間に生ける神に帰依したイスラエル人は比較的わずかであった。奇跡は信仰ある者を強めるが、信仰のない者を改心させることはできない（教義と聖約35:8-11; 63:7-12参照）。

列王下1-13章を研究しながら、エリヤとエリシャの教導の業について古代イスラエルの民がどのように感じていたか学ぶ。なぜ預言者たちはそれぞれの時代にしばしば拒まれるのか、また、生ける預言者に耳を傾けることの大切さについて何が分かるか考える。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主から下された預言は常に成就する（列王下1:9-17; 4:14-17; 5:1-14; 7:1-2, 12-17; 8:1-15; 9章参照。教義と聖約1:37-38も参照）。
- 靈感による勧告に従う人は祝福を受け、奇跡を見ることがある（列王下2:1-15; 4章:5:1-14; 6:1-7参照。教義と聖約21:1-9も参照）。
- 主は御自分がお選びになった僕に權威と權能の「外套」

を着せられる（列王下2:7-15参照）。

- 身を変えられた人物とは、死すべき肉体を持ちながらも一時的に肉体的な痛みや死を味わうことのない状態に変えられた人である。彼らの死と復活は瞬時に起きる（列王下2:11参照。3ニーファイ28:4-9, 36-40も参照）。
- 不義な指導者はしばしば民を罪へと導く（列王下3:1-3; 10-13章参照）。
- 神の力は個人的な利益のために用いるべきものではない（列王下5:20-27参照。サムエル上8:1-5も参照）。

教え方の提案

列王下1-4章。主は御自分がお選びになった僕に權威と權能の「外套」を着せられる。その權威と權能によって、彼らは多くの力ある業を行い、主が人々に知らせたいと望んでおられることを教える。（50-55分）

教会の大管長の写真を見せ、預言者が亡くなったら教会の将来に不安を抱くかどうか尋ねる。当時大管長会第一顧問であったゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の証を読む。

「この業は、宇宙を支配しておられる、生ける永遠の父なる神の御業です。また、わたしたちの救い主、贋^{あがな}主であられる生ける神の子、主イエス・キリストの御業なのです。この業は神聖な權能によってこの地上に打ち立てられました。そして預言者や指導者が啓示の声によって召され、長年の働きを通して訓練されているのです。この御業に失敗はありません。成功し続けるのみです。」（『聖徒の道』1993年1月号、65参照）

どのようにして教会の次の大管長を知ることができるか尋ねる。預言者ジョセフ・スミスの死後、主はジョセフの後継者としてだれが教会の預言者になるべきか分かるよう、特別な証を用意されたことを説明する（『時満ちる時代の教会歴史』、291ページ参照）。今日では、教会の大管長が亡くなると、十二使徒定員会の先任会員が新しい預言者になる。

列王下2:1-15を読ませ、次のことを説明させる。「エリシャがエリヤの後継者であることをエリシャと預言者のともがらに知らせるために、主は何を行われましたか。」必要であれば、以下の質問をする。

- エリシャは「[エリヤ]の靈の二つの分」を求めましたが、それはどういう意味ですか（申命21:17参照）。
- エリヤの外套は何を象徴していましたか（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある列王下2:14についての注解、65ページ参照）。
- 「エリヤの靈がエリシャの上にとどまっている」のを預言者のともがらに見せることはなぜ大切だったのでしょうか（列王下2:15参照）。

昔の預言者の生涯は、しばしば救い主の生涯と使命を予兆していた。以下のエリシャの奇跡を読み、イエス・キリストの行わされた奇跡とどのように似ているか見つけさせる。

- 列王下 4:1-7 (油が増えた。ヨハネ 2:1-11参照)
- 列王下 4:18-37 (シェネムの女の息子が死からよみがえった。ルカ 7:11-15; 8:41-42, 49-56; ヨハネ 11:1-44参照)
- 列王下 4:42-44 (大麦のパンが増えた。マルコ 6:33-44; 8:1-9参照)
- 列王下 5:1-14 (ナアマンが、重い皮膚病から癒された。マルコ 1:40-45; ルカ 17:11-19参照)
- 列王下 6:1-7 (鉄が浮いた。マタイ 14:22-33参照)

エリヤとエリシャの生涯は、現世における救い主の務めのひながたであつただけでなく、末日における救い主の教会の業についても予兆していたことを伝える。以下の表を見せるか、コピーして配付する (レネット・ハドリー・リード、「エリヤとエリシャ」、Ensign、1988年3月号、24-28より部分的に抜粋)。各項目を生徒に順番に読ませ、自分の聖典の該当箇所にしるしをつけるよう勧める。

エリヤとエリシャ	末日の教会	カルメル山の祭壇で、エリヤは古代イスラエルに唯一まことの神と交わした聖約を思い起こさせた (列王上18:19-39参照)。	末日において、エリヤは現代のイスラエルが神殿の聖壇で主と永遠の聖約を交わすことができるように鍵を回復した (教義と聖約110:13-16参照)。
エリヤは天を閉じ、開く力を持っていた (列王上17:1参照)。	1836年、救い主はエリヤを遣わして教会に結び固めの権能の鍵を回復された (教義と聖約110:13-16参照)。	エリヤは天から火を呼び悪人を焼き尽くしたが、謙遜で従順な人々の命は助けた (列王下1:9-15参照)。	再臨のとき、火が悪人を滅ぼすが、義人は命を助けられる (1ニーファイ22:17; ジョセフ・スミス-歴史1:37参照)。
主は飢饉のときに、エリヤに食物を与えるためにからすを送られた (列王上17:4参照)。	世の中は靈的に飢えた状態にある。この靈的な飢饉の中にあって、主は、啓示、力、祝福をもって教会を強められる (例えは、教義と聖約110章参照)。	エリシャはエリコの水を清め、それらがもはや死や流産を起こすことのないようにした (列王下2:19-22)。	救い主の再臨のとき、この世は再び樂園の栄光を受け、星の栄えの状態は終わる (イザヤ11:6-9; 信仰箇条1:10参照)。
エリヤは、やもめと父のいない子の命を救うために油と粉を増やした (列王上17:9-16参照)。	救い主のもとに来ていない人は靈的なやもめであり父のいない子である。彼らは花婿であるイエス・キリストと天の御父から絶たれている。イエス・キリストとその福音を受け入れる者には神の息子、娘、およびイエス・キリストと共同の相続人となる力が与えられる (ヨハネ1:12; ローマ8:16-17; 教義と聖約39:4参照)。	エリシャは絶望的なほどの負債を抱えていた忠実なやもめと彼女の子どもたちを救うために、油を増やした (列王下4:1-7参照)。	わたしたちは皆、靈的に絶望的なほどの負債を抱えているため、イエス・キリストは「油しばり」を意味するゲツセマネで、そして十字架の上で、忠実な者を救うために全人類の罪の代価を支払われた (マタイ20:28; モーサヤ16:4-5参照)。
エリヤとエリシャはともに死者をよみがえらせた (列王上17:17-23; 列王下4:14-37; 13:20-21参照)。	靈罪と復活によって、イエス・キリストはすべての人を肉体および靈の死からよみがえらせられる (1コリント15:21-22; モーサヤ16:7-8参照)。また主は御自分のもとに来て靈の死からよみがえるようすべての人を招くために、預言者を召し、御自分の教会を回復された (教義と聖約1章参照)。	エリヤは毒の入った煮物を清め、100人の忠実な人々のためにパンを増やした (列王下4:38-44参照)。	イエス・キリストは地上に御自身の教会を回復された。回復された教会の使命の一つは、イエス・キリストの福音、すなわち命のパンを全世界に携えて行くことである (ヨハネ6:33-35; 教義と聖約84:62参照)。
		スリヤびとナアマンはイスラエルの神の僕エリシャのもとを訪れ、ヨルダン川で体を洗うことによって、重い皮膚病から癒された (列王下5:1-14)。	現代のイスラエルは、すべての人が神の僕から福音の救いの儀式を受ける (教義と聖約22章; 信仰箇条1:5参照)。
		エリシャは悪人の目をくらまし、忠実な者の目を開いた (列王下6:15-18参照)。	悪人は靈的に盲目の状態にあるが、義人は見て、理解し、救われる (マタイ13:10-17参照)。
		エリヤとエリシャの生涯が持つ象徴的な意味を理解したら、次のことを尋ねる。「主が末日にお選びになった僕たちには、『外套』である権能が引き継がれ、授けられている。エリヤとエリシャの生涯が持つ象徴的な意味は、どのようにそれを証しているでしょうか。」	エリヤとエリシャの生涯が持つ象徴的な意味を理解したら、次のことを尋ねる。「主が末日にお選びになった僕たちには、『外套』である権能が引き継がれ、授けられている。エリヤとエリシャの生涯が持つ象徴的な意味は、どのようにそれを証しているでしょうか。」
		列王下2:11。エリヤは後に戻ってきて、自分が所有していた神權の結び固めの権能の鍵を回復できるように、身を変えられて天に取り上げられた。身を変えられるとは、死すべき肉体を持ちながらも肉体的な痛みや死を味わうことのない状態に変えられることであるが、その変化は復活のときに起こる不死の体への変化とは異なる。(15-20分)	列王下2:11。エリヤは後に戻ってきて、自分が所有していた神權の結び固めの権能の鍵を回復できるように、身を変えられて天に取り上げられた。身を変えられるとは、死すべき肉体を持ちながらも肉体的な痛みや死を味わうことのない状態に変えられることであるが、その変化は復活のときに起こる不死の体への変化とは異なる。(15-20分)
		3ニーファイ28:7-9, 36-40を読み、身を変えられた人物の特徴を幾つか見つけさせる。それらを黒板に書き出す。列王下2:11を読み、だれが身を変えられたと記されているか見つける。エリヤが身を変えられたのはなぜだと	3ニーファイ28:7-9, 36-40を読み、身を変えられた人物の特徴を幾つか見つけさせる。それらを黒板に書き出す。列王下2:11を読み、だれが身を変えられたと記されているか見つける。エリヤが身を変えられたのはなぜだと

思うか尋ねる（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』にある列王下2：11についての注解、64-65ページ参照）。マラキ4：5-6；マタイ17：3；および教義と聖約110：11-16を読み、それらを列王下2：11の相互参照箇所として記入させる。エリヤはマラキ4：5-6にある預言をどのように成就したか話し合う。

列王下5章。靈感による勧告に従う人々は大いなる祝福を受ける。（35-45分）

以下の質問をする。

- 慎重に指示に従うことが絶対必要なのはどのようなときですか。（例えば、エンジンを修理しているとき、地図をたどっているとき、難しい曲を演奏しているとき。）
- 指示に従わないと、たいていどのようなことが起こりますか。
- もしあなたが重病にかかっていて、預言者が癒される方法についてあなたに指示を与えたとしたら、あなたはその指示どおりに行いますか。
- その指示が一風変わった奇妙なものに思えたとしたらどうですか。

旧約聖書の中で、預言者の指示についてそれと似たような経験をした人物がいたことを説明する。生徒とともに列王下5：1-14を読み、以下の質問について話し合う。

- ナアマンは最初ヨルダン川に入るのを拒みましたが、その際に高慢はどのような影響を及ぼしていましたか。（11-12節参照）。
- ナアマンの僕は、エリシャの指示に従うようどのようにナアマンを説得しましたか。
- 預言者から言わしたことを行ったとき、ナアマンに何が起きましたか。

モーサヤ3：19を読ませ、ナアマンにどのように当てはまるか話し合う。当時七十人であったビクター・L・ブラウン長老の以下の言葉を紹介する。

「身分の高いナアマンは、エリシャが自ら出て来て敬意を示さず、使者をよこしたことに屈辱を感じました。加えて、あまりに簡単な伝言にも気分を害したのです。……

「ナアマンは、その体を幼な子のように清くするために、幼な子のような信仰を持ち、幼な子のように従順にならなければなりませんでした。」（『聖徒の道』1985年7月号、17-18参照）

以下の質問をする。

- 今日人々は、何と言って勧告を自分の都合に合わせて解釈しますか。
- それはどのような点でナアマンと似ているでしょうか。
- ナアマンとその僕の物語は、預言者の勧告についてわた

したちにどのようなことを教えていますか。

当時十二使徒定員会会員であったゴードン・B・ヒンクリー長老の以下の言葉をコピーし、各生徒に配付する。

「プライドを重んじるあまり、道を誤ることのないようにしてください。福音は容易な道です。あなたにとつて幾つかの条件はあまりにも初歩的であり、不必要に思えるかもしれません。しかしこれを軽視しないでください。謙遜になり、従順に歩んでください。従順のもたらす実はまことに麗しく、味わいのあるものです。」（『聖徒の道』1977年2月号、131参照）

黒板に「従順は天の第一の律法である」と書き、一人の生徒にブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読ませる。

「従順は天の第一の律法である。すべての進歩、完成、救い、信心、正しく眞実であること、すべての善いことは、永遠である御方の律法に従う者にもたらされる。神の戒めを守ること以上に重要なことは永遠にわたって存在しない。」（The Promised Messiah, 126）

次のことについて話し合う。「神が従順であるよう求めおられる理由が完全に理解できないときでも、従順になることは大切です。それはなぜでしょうか。」アブラハムが息子のイサクをささげるよう求められたときや、エジプトでイスラエルの民が戸の周囲に子羊の血を塗るように言われたときのことを思い起こさせる。次の質問をする。

- 従順さの結果、彼らはどのような祝福を受けましたか。
- 今日預言者がわたしたちに行うように求めていることで、一部の人々が不必要または無意味だと思っていることにはどのようなものがありますか。
- それらの戒めを守る人はどのような祝福を受けると思いますか。

列王下5：15-27を読ませ、エリシャの僕ゲハジが行ったことを見つける（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』にある列王下5：15-16, 20-26についての注解、78参照）。次の質問をする。

- ゲハジは何をしたために罰せられたのですか。
- 主の眞の僕が主の御業を行う理由について、この物語からどのようなことが学べますか（2ニーファイ26：29-31）。

列王下6：1-23。主は御自分のすべての子らの希望や恐れを気にかけておられ、御心を達成するために必要な助けを送ってくださる。（15-30分）

生徒用学習ガイドにある列王下6-7章のための活動Aを行わせ、生徒たちの答えについて話し合う。列王下6：1-7について話し合いながら、以下の質問をする。

- おのの頭がそれを失った人にとって大切だったのはなぜですか。
- おのの頭を取り戻すために、エリシャが神の力を用いたのはなぜだと思いますか（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』にある列王下6:1-7についての注解、78参照）。

ほかの人には重要でなかったが自分にとって非常に重要な問題について主の助けを受けたときの経験を紹介するとよい。（神聖な経験は、クラスがそれを聞く靈的な備えができるときのみ話すべきであることを忘れてはならない。）同じような経験を生徒にも紹介するよう勧める。以前大管長会の第一顧問であったジョージ・Q・キャノン管長の次の話を読む。

「わたしたちは謙遜な民だが、時として自分は価値のない無益な人間だと思い込んでしまう場合がある。しかし、自分で思うほど無益だということはないのである。神が愛し、心にかけておられない人は一人もいない。神はすべての人を救いたいと望んでおられ、救うための方法を用意しておられる。そのために見守る天使を送ってくださる。自分や他人の目に、自分がつまらない人間であり、卑しむべき人間に見えることがあったとしても、わたしたちは神の子であり、神がわたしたちのために送ってくださる天使が、わたしたちを見守り、導いているというのは事実である。」（*Gospel Truth: Discourses and Writings of President George Q. Cannon*, ジェラルド・L・ニューキスト選、全2巻 [1974年]、第1巻、2）

列王下6:8-23について話し合いながら、「われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多い」（16節）という言葉が今の時代にどのように当てはまるか尋ねる。教義と聖約38:7と84:88を読み、ニール・A・マックスウェル長老の次の証を紹介する。

「この混乱と騒動、不安、動搖、および暴動が広く見られる時代に、多くの人々は気落ちすることでしょう（教義と聖約45:26; 88:91）。また別の人々は厳しい試しに遭うでしょう。しかしそのような窮地にあって彼らは、古代イスラエルが取り囲まれたときに不安を覚えて預言者エリヤに話しかけた若者のように、聖見者に援助を求めるでしょう。『ああ、こんなにわが主よ、わたしたちはどうしましょうか。』そして今日の預言者も同じように答えるでしょう。『恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。』わたしたちは靈的に安定しているときにのみ、それを実感することができます。そして初めて、あの若者のように、わたしたちの目が開かれるのです」（*We Will Prove Them Herewith*, 19）

マックスウェル長老が語った「靈的に安定している」状態とはどういう意味か、またどうすればそのような状態に

到達することができるか尋ねる。

列王下6-13章。不義な指導者はしばしば民を罪へと導く。イスラエルとユダはともに邪悪な王のために苦しんだ。（15-20分）

黒板、ポスター、またはオーバーヘッドプロジェクター用の透明シートに以下の表を書く。表には空欄を20行用意し、列王紀下を研究しながら情報を書き加えることができるようとする。この表は、列王紀下を研究し続けながら簡単に更新していくことができる（列王下14-19章および列王下20-25章の教え方の提案参照）。

イスラエルの王	邪悪または忠実	参照聖句	ユダの王	邪悪または忠実	参照聖句

生徒を7つのグループに分け、各グループに以下の王の一人を割り当てる。10分与えて担当した王に関する参照聖句を研究させ、王の生涯について1分間の発表ができるようまとめさせる。その内容について表に記入させる。（イスラエルとユダの王の一覧は、本書の「イスラエルとユダの王と預言者」、00ページおよび『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』、43ページに掲載されている。）

- ヨラム（列王下8:16-24参照）
- アハジヤ（列王下8:25-29; 9:27-29参照）
- エヒウ（列王下9:1-10:36参照）
- アタリヤ（列王下11章参照）
- ヨアシ（列王下12章参照）
- エホアハズ（列王下13:1-9参照）
- ヨアシ（列王下13:10-25参照）

モーサヤ29:16-18を読み、義にかなった王ではなく邪悪な王を持つことの影響について話し合う。以下を質問する。

- イスラエルに住むとしたらどの王の統治する時代に住みたいですか。ユダに住むとしたらどうですか。それはなぜですか。
- 列王下6-13章から学べることで、こんなに今日のわたしたちにとって重要なこと、または役立つことにはどんなことがありますか。
- 教会の指導者を支持するために、わたしたちはどのようなことができますか。（教義と聖約107:22参照）。

列王紀下14-25章

はじめに

モーセは、イスラエルの民にもたらされる祝福とのろいについて詳しく語った（申命28章参照）。それは聖約を守る度合いに応じたものであった。またサムエルは、不義な王が原因で起こる滅亡について警告した（サムエル上8章参照）。列王上から列王下の前半に至る章では、裁きに当たって神がいかに忍耐強くあられ、繰り返し民とその王たちに悔い改めの機会をお与えになったかを学んだ。一方、列王下の後半の章には、民と王たちが預言者の警告に耳を傾けなかったため、イスラエル王国がアッスリヤの手によって、またユダ王国がバビロンの手によって受けた悲劇的な結末について記録されている。

それぞれの国に神の裁きが下されている最中でさえ、神は民に悔い改める機会をお与えになった（エゼキエル18：30-32参照）。中にはその招きに応じた者もいたが（1ニーファイ1：20-2：3参照）、大部分の者は主と主の祝福を拒んだ。

列王下14-25章の期間には、ヨナ、アモス、ホセア、イザヤ、ミカ、ゼバニヤ、ナホム、ハバクク、エレミヤなど、多くの旧約の預言者が生存してその務めを果たしていた。

学び取るべき重要な福音の原則

- 人は自分自身の罪に対して責任を負う。一方で、他人の罪のために苦しみを受けることがある（列王下14：6；24：2-4参照。信仰箇条1：2も参照）。
- 背教した国々は神の守りを失う（列王下15：19-31；17：3-23；24：1-4；25：4-7参照。エテル2：8も参照）。
- 偶像礼拝は重大な罪である（列王下17：7-12；21章参照。出エジプト20：1-6も参照）。
- 主と主の預言者の勧告を拒むとき、わたしたちは囚われの身となり、主から絶たれることになる（列王下17：6-8；24：20参照。モーセ4：3-4も参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』19、「紀元前600年のニュースステーション」は、列王下24-25章で紀元前600年ごろの歴史的な背景を教える際に利用することができる（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』参照）。

列王下14-19章。悪事と背教のためにイスラエル王国は主の守りを失った。ユダ王国は奇跡的に救い出されて自由を保った。（45-60分）

注意：この教え方の提案は、列王下6-13章にある教え方

の提案の続きとして用いることができる。

列王下6-13章の教え方の提案にある、表を使った活動の説明（140ページ）を参照する。生徒をグループに分けて以下の王を割り当てる。

- ・アマジヤ（列王下14：1-22参照）
- ・ヤラベアム二世（列王下14：23-29参照）
- ・アザリヤまたはウジヤ（列王下15：1-7参照）
- ・ゼカリヤ（列王下15：8-12参照）
- ・シャルム（列王下15：13-15参照）
- ・メナヘム（列王下15：16-22参照）
- ・ベカヒヤ（列王下15：23-26参照）
- ・ペカ（列王下15：27-31参照）
- ・ヨタム（列王下15：32-38参照）
- ・アハズ（列王下16章参照）
- ・ホセア（列王下17：1-6参照）
- ・ヒゼキヤ（列王下18：1-7参照）

各グループに割り当てられた王について参照聖句を調べさせた後、その結果を表に記入させる。

申命28：1-26にあるイスラエルの子らについてのモーセの預言、特に1節と15節を読む。主の祝福と守りを受けるために、イスラエルの子らは何をしなければならなかつただろうか。生徒に尋ねる。

イスラエルとユダの王を記した表を見て、それぞれの王国に義にかなった王が何人いたか数えさせる。生徒とともに列王下17：1-23を読み、イスラエル王国がアッスリヤの手に落ちた理由についてその聖句から何が分かるか話し合う（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある特別講座Dおよび列王下17章についての注解、115-119、130-131ページ参照）。

イスラエルの邪悪な王たちを、義において多少勝っていたユダの王たちと比較する。列王下18：1-7を読ませ、アッスリヤ人がイスラエルを滅ぼそうとしていたころに、ユダの王ヒゼキヤが何をしていたか説明させる。

『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある列王下18-19章についての注解（131-132ページ）を参考にして、これらの章のどの部分を生徒に読ませるか決める。列王下18章は要約してもよいが、列王下19：1-7、32-37については生徒とともに読み、ユダをアッスリヤ人から救うために主が行われたこととその理由について話し合うとよい。

以下の質問をする。

- ・イスラエルの北王国の滅亡と十部族が失われたことから、何を学べますか。
- ・サタンのわたしたちに対する態度や意図は、アッスリヤ人がイスラエルに対して持っていたものとどのように似ていますか。

2 ニーファイ 1:13-16; 2:27; ヒラマン 3:27-30; 5:12を読ませ、サタンに捕らえられないようにするために主は何を行うよう勧告しておられるか説明させる。「神の言葉を手に入れる」(ヒラマン 3:29)とはどういう意味か話し合う。教師自身の経験を紹介し、旧約の神でありエホバであられるイエス・キリストを土台として人生を築くことが喜びと平安をもたらすことを証するといい。

列王下20-25章。義はある特定の行いによってもたらされる結果ではない。それは生涯にわたって善を選び続けることにより得られるものである。(45-60分)

黒板に、邪悪な選択をしたことで知られる聖典に出てくる人物の名前を書く。以下の質問をする。

- その人は親切な行いや善い行いをしたことがあると思いますか。(恐らくあるだろう。)
- では、なぜ彼らは善人ではなく邪悪な人として知られているのだと思いますか。
- 主はわたしたちに、時々善い行いをすること以上に、何を期待しておられると思いますか(教義と聖約14:7参照)。

生徒とともに、ユダ王国がどのようにしてアッシリヤ人から救い出されたかを読み(列王下19:32-37参照)、以下の質問をする。

- イスラエルは捕らえられたにもかかわらず、ユダが救われたのはなぜだと思いますか(列王下19:32-37参照)。
- ユダは、永遠に守られると保証されていたのでしょうか。それはなぜですか。
- ユダの民にとって不義に陥らないよう常に注意することはなぜ大切だったと思いますか。

列王下6-13章(140ページ)と列王下14-19章の教え方の提案にある、表を使った活動を参考し、生徒をグループに分けて以下の王を割り当てる。

- マナセ(列王下21:1-18参照)
- アモン(列王下21:19-26参照)
- ヨシヤ(列王下22:1-23:30参照)
- エホアハズ(列王下23:31-33参照)
- エホヤキムまたはエリアキム(列王下23:34-24:7参照)
- エホヤキン(列王下24:8-17参照)
- ゼデキヤまたはマッタニヤ(列王下24:17-25:21参照)

割り当てられた王に関する参考聖句を調べさせた後、その結果を表に記入させる。次の質問をする。

- ヨシヤ以後のユダの王たちは、どのような点でイスラエルを最後に統治した数人の王に似ていますか。
- 彼らがイスラエルと同じように邪悪な状態に陥ったことから考えて、ユダはどのような運命をたどると思いますか。

列王下25:1-21を読み、最終的にユダ王国がどうなったかについて話し合う(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』にある列王下24-25章についての注解、231-234ページも参照)。1ニーファイ1:4を読んで以下の質問をする。

- ユダを救うために主はどのようなことをなさいましたか。
- 当時エルサレムでは、どのような預言者が教えを説いていましたか(エレミヤ、ゼパニヤ、オバデヤ、ナホム、ハバクク、エゼキエル、そしてリーハイ。『聖句ガイド』「年表」、194-195ページ参照)。
- ユダの王と民は、預言者に対してどのような反応を示しましたか(エレミヤ20:1-2; 1ニーファイ1:19-20参照)。
- 今日主の預言者はどのようなことについてわたしたちに警告していますか。
- 今日の人々が預言者の教えを軽視している状態は、ユダの民が彼らの預言者に示した反応とどのような点で似ていますか。
- わたしたちは、現代の預言者のメッセージにどのようにこたえるべきだと思いますか。
- 預言者を無視したら、どのような結果を招くと思いますか(エテル2:10-11:教義と聖約1:1-17参照)。

以下の質問と聖句を用いて、今の時代をユダ王国の時代と比較する。

- わたしたちの世代は、どのような脅威に直面していますか(教義と聖約1:35参照)。
- 終わりの日に主の怒りが燃えるのはなぜですか(1ニーファイ22:16:教義と聖約133:48-51参照)。
- それから逃れるための唯一の望みは何ですか(1ニーファイ22:17-19, 22:教義と聖約1:36; 133:52; モーセ7:61-62参照)。
- これらの時期を無事に乗り越えられるかどうかは、何によって決まると思いますか(教義と聖約1:14, 38; 56:14; 84:36; 90:5; 108:1; 121:16-21)。

列王下22:3-23:3。わたしたちが心を開くなら、聖文にはわたしたちの生活を変える力がある。(15-25分)

以下の質問への答えを書かせる。書いた答えは生徒が自分自身のためだけに用いるもので、他人には見せないことを伝える。

1. あなたは自分の聖典を自宅のどこに保管していますか。
2. あなたは聖典をどのくらいの頻度で読みますか。
3. 以下について、1(低)から10(高)で答えてください。
 - あなたは自分の聖典をどのくらい大切に扱っていますか。例えば、きれいに印を付ける、きちんと片付ける、丁寧にページをめくるなど。

- b. もしあなたの聖典がなくなったり、盗まれたり、破れたりしたら、あなたの生活にどのくらい影響がありますか。
4. あなたの周りで自分の聖典を心から大事にし、尊んでいる人を一人挙げてください。

5. だれかが聖典を大切に扱っていなかったら、あなたはどのように感じますか。

列王記22:3-7を読み、ヨシヤが何を行なうように求めたか調べる。8-10節を読み、作業中に大祭司が何を発見したか調べる。以下の質問をする。

- 聖文は民にとってどれほど大切だったでしょうか。これらの聖句からどのようなことが分かりますか。
- 彼らは聖文をどのくらいの頻度で読んでいたと思いますか。
- 聖文を読んだ後でヨシヤはどうしましたか（11-13節参照）。
- ヨシヤはなぜそうしたのだと思いますか。

列王記23:1-25を読ませ、聖文がヨシヤの生活にどのような影響を与えたか話し合う。以下の二つの引用を読み、現代において聖文が持つ影響力について理解させる。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語っている。

「わたしたちはよくステークでの活動のレベルを高めようと、大変な努力をします。また聖餐会の出席率を上げるために一生懸命働きかけます。さらに宣教師の数や神殿結婚の数を増やそうと努力します。もちろんこうした努力は立派なことですし、王国の発展のために大切なことです。けれども、もし個人や家族が定期的に続けて熱心に聖典を読むならば、これらの様々な領域の活動は自動的に成し遂げられます。もっと証が深まり、人々はさらに熱心に参加するようになるでしょう。家族が強められ、個人のうえに啓示が注がれることでしょう。」（『聖徒の道』1986年7月号、81）

七十人のL・ライオネル・ケンドリック長老は次のように語っている。

「聖典は生活の中で、最も重要な位置を占めるべきものです。社会の圧力や現代の誘惑の中で靈的な力を保つには、聖典を調べ、預言者、聖見者、啓示者の言葉に耳を傾けて、力を得なければなりません。

人も國も聖典がなければ滅びます。聖典は人の魂に栄養を与える靈の食物であり、体のために取る食事と同じように大切です。」（『聖徒の道』1993年7月号、14参照）

ヨシヤについて最も印象深かったことを話すよう生徒に求める。本提案の冒頭で尋ねた質問への答えで、紹介してもよいと感じるものを読む。次の質問をする。「聖文はあなたの人生にどのような影響を与えてきましたか。」2テモテ3:15-17; 1ニーファイ15:23-24; 2ニーファイ32:3; アルマ31:5; 37:38, 43-45; およびヒラマン3:29-30を読み、聖文がわたしたちの生活に与える力について教える。

歴代上1-29章

はじめに

歴代志上と歴代志下は本来一つの書物であったが、ギリシャ語のセプトゥアギンタ（七十人訳聖書）以降、ほとんどすべての翻訳版において二つの書に分割されている。歴代志は上下とも、クロス王の布告によってユダヤ人のバビロン捕囚からの帰還が許可された後（紀元前約538年）にまとめられた。いわばサムエル記と列王紀の続編であり、帰還後の歴史がつづられている。歴代志の著者は不明である。この歴代志の歴史記述の続きがエズラ記とネヘミヤ記である。

歴代志の目的は、帰還した流浪の民に自分たちと主との関係を思い起こさせることであり、かつ自分たちとかつての統一イスラエル王国との関係を思い出させることであった。歴代上1-9章にある系譜や歴代上10-29章にあるダビデの王国の成功についての話は、主御自身が民を選び導かれたことをイスラエルに思い起こさせた。

歴代志の内容の半分近くはサムエル記や列王紀から引用されている。しかし著者は、イスラエルが神の選民であるということを民が理解するうえで役立つと思われる事柄だけを収録している。そのような考えを損なわせる事柄はほとんど省かれている。例えばウリヤに対してダビデの犯した罪やアブサロムの背きなどは収録されていない。また歴代下1-9章で、著者はソロモンが建てた神殿の栄光と神殿での礼拝の重要性を強調しているが、ソロモンの外国人の妻たちやその偶像礼拝については一切触れていない。

ユダの王たちの歴史、その中でも特に歴代下10-32章は、王あるいは神殿を持つことでさえも神の守りと祝福を保証するものではないことを明らかにしている。王と民が神の律法に従順であったときにしか、アブラハムの聖約に伴う約束は実現しなかった。

帰還した後、民には王を持つ独立国家としての地位は認められなかった。彼らは依然としてペルシャの支配下にあった。捕囚から帰還したユダヤ人に対しては、神の祝福の源として、神殿での礼拝と律法への従順が強調された。これが功を奏し、イスラエルはエジプトから救出されて以来悩まされ続けてきた罪から立ち直った。捕囚の後、イスラエルはもう二度と異教徒の偶像礼拝に陥ることはなかった。ところが、やがて異なる種類の偶像礼拝が異教徒の偶像礼拝に取って代わることとなる。一部のユダヤ人にとっては「律法」そのものがあまりにも重要となり、救い主が現世で教え導かれるところには、彼らは「律法」を礼拝するようになってしまった。そして立法者であられるイエス・キリストを拒んだのである。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主の預言者は、しばしば福音に従うことを思い起こさせ、励ましを与える（歴代上1-29章参照）。
- わたしたちがこの地上にいるのは、主を愛し、主に従い、主に仕えることを学ぶためである。そのためには、以下のことを行う必要がある。
 - 悔い改めて、義にあって勇敢であり、主に頼る（歴代上5:18-26；10:13-14；28:20参照。歴代下20:14-17；アルマ53:20-21も参照）。
 - 神がお与えになるものや、行ってくださるすべてのことに対して、絶えず感謝と賛美をささげる（歴代上16:7-19, 23-36参照。エズラ3:10-11；教義と聖約59:7も参照）。
 - 心と思いを尽して主を求める（歴代上28:9参照。歴代下7:14；15:12-15も参照）。
- 聖書には、神が預言者に明らかにしてこられた事柄がすべて載っているわけではない（歴代上29:29参照。歴代下9:29；12:15も参照）。

教え方の提案

歴代上1-29章。主の預言者は、しばしば福音に従うことを見出させ、励ましを与える。（15-20分）

黒板に「実践こそが完成への道である」と書き、それに同意するか生徒に尋ねる。その下に「正しい原則の実践こそが完成への道である」と書き、どちらの言葉がより正しいか尋ねる。その理由も尋ねる。（誤った原則を実践することによって完成に至ることはできない。）2番目の言葉は、教会の指導者がなぜ度々同じテーマについて勧告を与えるのかを理解するのに役立つことを説明する。教会の指導者が度々語るテーマを幾つか挙げさせる。それらの原則が頻繁に教えられるのはなぜか尋ねる。

人々の中には、歴代志上下の著者が、なぜ旧約聖書すでに教えられている多くの事柄を繰り返し採録したのか不思議に思っている人もいる。著者はその資料の多くをほかの書、おもにサムエル記と列王紀から収集したことを説明する。以下の表を使って、類似している聖句を探し、比較することができる。

歴代上	出来事	類似点
1:1-4	アダムからヤベテまでの世代	創世5:1-32
1:5-28	ヤベテからアブラハムまでの世代	創世10:2-31；11:10-26
1:29-31	イシマエルの子孫	創世25:12-16
1:32-33	ケトラの子孫	創世25:1-4
1:34-54	エサウの子孫	創世36:10-43
2:1-2	イスラエル（ヤコブ）の子孫	創世35:22-26
2:3-17	ユダの子孫	創世38:2-7, 29-30；ルツ4:18-22；マタイ1:3-6

歴代上	出来事	類似点
3:1-9	ダビデの子ら	サムエル下3:2-5; 5:14-16
4:24-33	シメオンの子孫	ヨシュア19:1-9
5:3	ルベンの子ら	創世46:9
5:23-26	イスラエルの民、主を捨てて囚われの身となる	列王下15:19-31; 17:6-18
6:54-81	レビの町々	ヨシュア21:3-39
9:1-18	エルサレムに住む民	ネヘミヤ11:3-19
10:1-12	ペリシテびとがイスラエルを破る。サウルの死	サムエル上31章; サムエル下1:4-12
11:1-9	ダビデ、油を注がれて王になる	サムエル下5:1-10
11:10-41	ダビデの勇士	サムエル下23:8-39
13章	ダビデ、キリアテ・ヤリムから契約の箱を運ぶ	サムエル下6:1-11
14章	ダビデ、ペリシテびとを破る	サムエル下5:11-25
15:25-16:3	契約の箱がエルサレムに運ばれる	サムエル下6:12-19
16:8-22	ダビデの感謝の歌	詩篇105:1-15
16:23-33	ダビデ、主を賛美する	詩篇96篇
17章	ダビデ、主の家を建てるこことを申し出る	サムエル下7章
18章	イスラエルの敵が征服される	サムエル下8章
19章	アンモンの人々、ダビデの使者を虐待する	サムエル下10章
20章	イスラエル、アンモンびとペリシテびとを破る	サムエル下11:1; 12:29-31;21:15-22
21章	ダビデ、イスラエルを数える	サムエル下24章
29:26-30	ダビデの死	列王上2:10-12

表に挙げられている項目から幾つか選び、類似している部分を比較させ、類似点と相違点を見つけさせる。表は各生徒用にコピーするか、大きな紙に書いて掲示する。

福音の教えが繰り返されることのさらなる例として、マタイ5:3-12と3ニーファイ12:3-12を比較させ、主が第三ニーファイで至福の教えを繰り返されたのはなぜだと思うか尋ねる。ヨセフ・スマス-歴史1:45-49を読み、これほど短い間にモロナイがヨセフ・スマスに4度メッセージを繰り返したのはなぜか話し合う。正しい原則が繰り返し教えられるとき、それはわたしたちがどのように生活すべきか思い起こさせてくれるだけでなく、それによってこれらの重要な原則を教会の新会員や新しい世代の会員たちに確実に教えることができるのである。

歴代上5:18-26。わたしたちは悔い改め、義にあって勇敢であり、主に頼らなければならぬ。(20-25分)

イエス・キリストの贖罪の祝福を完全に受けるためには、何を行わなければならないだろうか。生徒と話し合う。サムエル上8:1-20と12:14-25を調べさせ、イスラエルが

王を望んだ理由と、王の統治を受けることについてサムエルが預言したことを調べさせる。サウル、ダビデ、ソロモンの生涯から、サムエルの預言が真実であることを示している例について話し合う。歴代上1-29章の「はじめに」の内容を幾らか紹介し、帰還したユダヤ人にはもはや頼るべき王がいなかったことを理解させる。

歴代上5:18-26を調べさせ、イスラエルの勝敗を左右していたものは何か話し合う。主に従い、主を頼るよう教えているそのほかの聖句を見つけさせる。「はじめに」に記されている内容を利用して、バビロン捕囚からの帰還後、ユダヤ人の礼拝にどのような変化が起きたか説明する。今日、ある人々は主に頼らないでどのようなものに頼っているか、生徒に尋ねる。アルマ36:3を読み、もし完全に主に頼つて従うなら、わたしたちの生活はどのような点でより良いものとなるか尋ねる。

 **歴代上29:29。**聖書には、神が預言者に明らかにしてこられた事柄がすべて載っているわけではない。神はあらゆる時代に、御自分がお選びになつた預言者を通して子らに御心を明らかにされる。(20-25分)

注意:エズラ記の教え方の提案の中に、この週の2番目の提案がある。

黒板に「ナタン2:7-8」および「ガド7:16」と書く。生徒にこれらの参照箇所を開いて聖書についてどのようなことが記されているか調べさせる。これらの書が聖書に含まれていないことに生徒が気づいた時点で、歴代上29:29を読ませ、それらがかつて存在していたことを理解させる。

聖書には神の言葉のすべてが載っているので、現代の聖典など必要ないと思っている人が大勢いることを生徒に理解させる。旧約聖書についてのこれまでの学習から、天の御父が御自分の預言者と語られる方法や理由についてどのようなことを学んだか尋ねる。次のことを考えさせる。「もしノアが、主とアダムに関する記録以外に啓示を受けていなかつたらどうなつていただしようか。もしモーセが、すでにノアに明らかにされていたこと以外に主からの勧告を受けていなかつたら、どのようなことが起きていたでしょうか。」現代の啓示が必要である理由として、今日の世がほかの時代とどう異なつてゐるか尋ねる(アモス3:7;エペソ4:11-14;教義と聖約1:11-17参照)。

ほかの聖文の目的について、また神がすべての子らを愛しておられ、御自分の選ばれた預言者によって引き続き御心を明らかにされることについて、2ニーファイ29章では何を教えているだろうか。話し合う。

歴代下1-36章

はじめに

歴代上1-29章の「はじめに」を参照。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神殿は主の聖なる宮である（歴代下3:1; 7:1-3参照。教義と聖約109:1-5; 110:1-10も参照）。
- この地上にいるのは、主を愛し、主に従い、主に仕えることを学ぶためである。そのために以下のことを行う必要がある。
 - 主の指導者の忠告を受け入れる（歴代下15:1-15; 19:1-11; 30章; 36:11-20参照）。
 - 主の前にへりくだる（歴代下32:26; 33:12-13参照）。
 - 神の言葉を学び、それに従い、教える（歴代下34:14-21, 29-33参照。エズラ7:10; アルマ17:2-3も参照）。
 - 主と聖約を交わして守る（歴代下34:31参照。ネヘミヤ10:29; 教義と聖約136:4も参照）。
- ユダの民は罪を犯し、バビロンでの70年間の捕囚をもって罰せられたにもかかわらず、神は彼らを拒まれなかつた。十分な懲らしめを受けた後、主は彼らを約束の地へと戻された（歴代下36:14-23参照）。

教え方の提案

歴代下3:1。モリアの山は主によって聖別された場所であった。（10-15分）

以下の質問をする。

- 神聖であると見なされている場所には、ほかにどのような場所がありますか。
- そのような場所は、なぜ神聖なのでしょうか。

入手できれば、エルサレムにある神殿の丘の写真を見せ、『聖句ガイド』『地図5』を見させる。そこにはイエスの時代のエルサレムが描かれている。創世22:1-2; サムエル下5:6-7; および歴代下3:1を読ませ、これらの聖句から、この丘の重要性について分かることを話し合う。

エゼキエル37:21-28を読ませ、将来その地に建てられる神殿についてどのようなことが記されているか調べさせ（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるエゼキエル37:26-28についての注解、305ページ参照）。神殿の丘すなわちモリアという場所は、イスラエルの歴史と預言との

かかわりにおいて、なぜそれほど重要な役割を果たしているのだろうか。理由を尋ねる。預言者ジョセフ・スミスの以下の言葉を読む。

「ユダは戻り、エルサレムは再建されなければなりません。また神殿も再建されます。そして神殿の下から水がわき出て、死海の水が癒されます。市の城壁と神殿を再建し、そのほかの様々なことを行うのに、ある程度の時間が必要です。そして、これらすべてのことが、人の子がその御姿を現される前に起こらなければならないのです。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 286）

歴代下5章；7:1-3。神殿は主の聖なる宮である。（20-25分）

入手できれば、建物の設計図を生徒に見せる。次の質問をする。

- 設計図はなぜ、またどのように用いられますか。
- もし理想の家を設計することができるとしたら、あなたはどの部屋を一番大きくしますか。それはなぜですか。
- 主の宮の設計は、あなたの家の場合とどのように異なっていますか。

生徒とともに列王上6章および歴代下2-4章に目を通し、ソロモンの神殿の建築に費やされた費用と労力について話し合う。ダビデとソロモンは、なぜそれほどの努力を注いで主の宮のために美しい建物を建てたのか理由を尋ねる。現代の神殿の写真を幾つか見せる。主に自分たちの最高のものをささげたいと願うのはなぜだろうか。話し合う。かつて十二使徒定員会会員であったジェームズ・E・タルメイ長老の次の言葉を読む。

「人からの贈り物であろうと、国からの贈り物であろうと、もし最高のものが、心から清い思いをもってささげられるのであれば、たとえほかのものに比べて劣っていようとも、それは神の目に常にかなっていることを心に留めましょう。」（*The House of the Lord*, 改訂版〔1976年〕, 3）

歴代下5:11-14と7:1-3を読ませ、主は神殿を受け入れたことをどのような方法で示されたか尋ねる。教義と聖約109:1-5, 12-13, 37を読む。カートランド神殿の奉獻のときに祈り求められた靈的な現れは、ソロモンの神殿を奉獻したときの靈的な現れとどのように似ているだろうか。話し合う。カートランド神殿の奉獻の祈りから、神殿を持つことの祝福が示されている節を選んでもよい（特に教義と聖約109:12-59参照。教義と聖約110:1-10も参照）。今日における神殿の重要性について証する。

エズラ1-10章

はじめに

最古のヘブライ語の写本では、エズラ記とネヘミヤ記は一つの書であり、歴代志上下の続きであった（歴代下36：22-23とエズラ1：1-3を比較）。エズラ記とネヘミヤ記の2書は旧約聖書の最後の歴史書であり、紀元前540年から430年ごろまでの期間を扱っている。エズラ記の書名は、その中心的な登場人物で、祭司であり写本筆記者であったエズラの名を取つてつけられているが、その著者がだれであるかは不明である。

紀元前721年ごろ、アッシリヤはイスラエルの北王国を征服し、その民を捕らえて連れ去った。その結果民は散らされ、その所在が不明であることから「行方の知れない十部族」として知られるようになった。紀元前587年ごろには、バビロンがユダの南王国を征服し、その民を捕らえて連れ去った。民は、紀元前約537年にメデヤとペルシャがバビロンを倒し、クロスによってユダヤ人のエルサレムへの帰還が許されるまで捕らわれていた（ダニエル5章も参照）。

エズラ記は二つの部分に分かれている。1-6章には、ゼルバベルの率いるユダヤ人の最初の一団がバビロンから帰還したことと、神殿を再建するために払われた彼らの努力が記録されている。7-10章には、最初の帰還から60年以上も後に、エズラの率いる2番目の一団が帰還したことが記録されている。

エズラ記は、神には力があることを思い起こさせてくれる。神は民を救い出し、目的を果たされる。そして不信者にさえ靈感を与えて主の目的を手助けさせることができになる。また、神殿と神殿での礼拝の大切さを理解できるよう助けてくれる（その他の情報は『聖句ガイド』「エズラ」、50ページを参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神はあらゆる宗教の善良な人々に靈感を与えることがおできになる（エズラ1：1-4、7-11；5：6-6：12；7：1-6、11-28参照）。
- 主は御自分の民をお集めになるときに、いつも神殿を建てるようお命じになる（エズラ1：5-6；3：10-13；6：16-22参照）。
- この地上にいるのは、主を愛し、主に従い、主に仕えることを学ぶためである。そのためには以下のことを行う必要がある。
 - 主の助けを得るために断食して祈る（エズラ8：21-23；10：6参照。ネヘミヤ1章；エステル4：1-3、

16；イザヤ58：6-11も参照）。

- 聖約に基づいた結婚をする（エズラ9：1-10；14参照。ネヘミヤ13：23-27；教義と聖約132：15-17も参照）。

- 罪を告白し、悔い改める（エズラ10：1、11参照。ネヘミヤ9：2-3；教義と聖約58：43も参照）。

教え方の提案

 エズラ1：1-6。神は御自分の預言を成就するためには、あらゆる宗教の善良な人々に靈感を与えることがおできになる。（20-30分）

家族で集まっていたときに、だれかがある本を持ってやって来たと仮定する。その本は200年以上前のものであり、その中には自分たちの名前が記されていて、自分たちが驚くべきことを行うであろうと書かれている。生徒に、自分ならどのような反応を示すか尋ねる。これに似たことが古代ペルシャのある王に起きたことを説明する。

イザヤ44：28-45：4を読ませる。預言者イザヤは、その王がだれで、何を行うであろうと預言したか調べさせる。以下の表を見せる。

年	出来事
紀元前740年	イザヤ、預言を始める
539年	ペルシャ、バビロンを倒す（ダニエル5：30-31参照）
538-537年	クロス王の統治第一年（エズラ1：1-4参照）
約537年	神殿の祭壇が再建される（エズラ3：1-3参照）
536年	神殿の工事が始まる（エズラ3：8参照）
536-530年	クロス王統治時代のサマリヤ人の妨害（エズラ4：1-5参照）
530-520年	神殿の工事が中止される（エズラ4：24参照）
520年	神殿の工事が再開される（エズラ5：2；ハガイ1：14参照）
516年	神殿が完成する（エズラ6：14-15参照）
458年	エズラ、バビロンを去りエルサレムに到着する（エズラ7：6-9参照）
458年	エズラ、ユダヤ人に悔い改めを呼びかける（エズラ10：9-17参照）

イザヤとクロスの時代にどのくらい歳月の隔たりがあるか指摘する。エズラ1：1-4を読ませ、クロスが預言を信じたかどうかを調べさせる。この章の残りの部分を読み、クロスがどのような人物であったか調べさせる。エズラ2：1、64-70を調べさせ、帰還したユダヤ人の人数を見つけさせる。

以下の聖句を読み、その預言が示唆しているのはだれか特定させる。

- 2ニーファイ3：6-15（預言者ジョセフ・スミス）
- 2ニーファイ27：12（モルモン書の三人の証人）

● イザヤ29：11(マーティン・ハリスとチャールズ・アンソン)

次のように尋ねる。「これらの預言を読むことは、彼らが信仰を増し加えるうえでどのように役立つでしょうか。」ヨエル2：28；モルモン8：34-41；モロナイ10：24-27；およびモーセ1：7-8を読ませ、昔の預言者たちは何を見たか調べさせる。

エペソ1：4-5を読み、わたしたちが福音を受けるよう予任されたことについて話し合う。また、末日の業がわたしたちによって押し進められることを、預言者たちがどのように預言してきたか話し合う(教義と聖約121：25-29参照)。次のように尋ねる。「昔の預言者たちが現代を予見ていたことを知ることは、正しい選択をするうえでどのように励ましとなるでしょうか。」

最後に、「シオンの若者、真理を守り」(『賛美歌』163番)、「山のごとく強く」(『賛美歌』167番)、「As Zion's Youth in Latter Days」(『賛美歌』〔英文〕256番)など、青少年は高潔であって成功する力を秘めていることを教えている賛美歌を歌うか、歌詞を読んでまとめとする。

エズラ3：3-13；6：16-22。主は御自分の民を集めるとき、いつも神殿を建てるようお命じになる。(20-30分)

世界地図を見せ、神殿がある場所をできるだけ多く挙げさせる。近くに神殿があると教会員はどのように感じると思うか話し合う。小規模な神殿を多数建設するというゴードン・B・ヒンクレー大管長の発表が、世界中の教会員の生活にどのような影響を与えるか話し合う(『聖徒の道』1998年1月号、57-58参照。1998年7月号、95-96も参照)。

エズラ1：1-3を読み、70年近くも神殿のない状態で過ごした後でエルサレムへの帰還と神殿の再建を許されたとき、ユダヤ人たちがどのように感じたと思うか生徒に尋ねる。エズラ1：4-11と2：64-3：7を読ませ、民の多くが神殿再建の手助けをしたいと切望していたことを示す箇所を見つけさせる。エズラ3：11-13を読み、神殿の基礎が据えられたときの民の気持ちについて話し合う。エズラ6：16-22を読み、神殿が奉獻されたときの民の気持ちについて話し合う。

神殿は、主の定められた時にかなって建設される。全員でエズラ1：1-2；4：23-24；および6：1-15を読み、神殿の建設に関して國の指導者が持っていた影響力に注目する。次の質問をする。「準備が整ったとき、主は御自分の目的を達成する手段として國の指導者を感化することがおきになると思いますか。」

神殿の建設は、教会員の義にも左右されることを生徒に教える。説明するために、教義と聖約57：3；58：57；88：119；および95：1-14を比較する。それぞれの命令が与えられた日付に注目し、それらをカートランド神殿が奉獻された日付と比較する(教義と聖約109章参照)。次の質問をする。「今日わたしたちが行う靈的な備えは、将来の神殿建

設にどのような影響を与えると思いますか。」

エズラ5：1-2を読み、神殿の建設を始めるに当たって最も大きな影響を及ぼした人物はだれであったか尋ねる。またこれらの聖句から、預言者に従うことについて何が分かるか尋ねる(ハガイ1：1-8；2：12-18；ゼカリヤ1：12-17も参照)。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の言葉を読む。

「わたしは、世界中の末日聖徒のために神殿が比較的近い所に置かれるようになることを切に願っています。」(『聖徒の道』1996年1月号、60)

ヒンクレー大管長の望みを果たすために、わたしたちは何ができるか生徒に尋ねる。

エズラ7章。主は、御自分の勧告を受け入れる備えのできた人々を通して、御業をお進めになる。(10分)

生徒用資料のエズラ7章のための活動Aをさせる。

エズラ9-10章。人の経験から学ぶことは、主に従う助けとなる。(15-20分)

最近の地元の新聞を持参し、生徒とともにざっと目を通す。その際、過去の経験から悲劇的な結果を招くことが分かっているにもかかわらず、人々が度々罪を犯すのはなぜか話し合う。

バビロンによるユダの捕囚の歴史を簡単に復習する(列王下24-25章参照)。列王下21：13-16を読み、主はなぜ彼らが征服されるのをお許しになったのか尋ねる。エズラ9：1-2を読ませ、帰還した民がどのような罪を犯していたか調べさせる。次の質問をする。「彼らが犯した罪は、どのような点でその先祖が犯した罪と似ていましたか。」エズラ9：3-15を読み、エズラが民についてどのように感じていたか話し合う。

正しいことと間違ったことを見分けるだけでは不十分であり、正しいことを行わなければならないことを生徒に理解させる。エズラ10：1-2を読み、次のように尋ねる。「民は何が正しいか知っていたでしょうか。」民が正しいことを行おうとしていたことを、3-5節から見つけさせる。6-17節から、民に対するエズラの愛を示しているものを見つけさせる。次の質問をする。

- エズラは自らの愛を示すためにどのようなことを行いましたか。
- どのようにすればエズラの模範に従うことができると思いますか。

ネヘミヤ1-13章

はじめに

最古のヘブライ語の写本では、ネヘミヤ記はエズラ記の続きであった。文体が自叙伝的であることを見ると、ネヘミヤ自身が著者であったかもしれない。この書では紀元前446年から405年ごろまでのユダヤ人の歴史が扱われており、旧約聖書の歴史書の中では最も後期の記録である。

ネヘミヤはユダヤ人の中でも、ペルシャ王アルタシャスタの「給仕役」という信頼を受けた地位にあり、王の食べ物や飲み物に毒が盛られることのないよう見守っていた（ネヘミヤ1章参照）。アルタシャスタは、ネヘミヤがエルサレムへ行って町の城壁の再建を手伝うことを許した（ネヘミヤ2:1-6:15参照）。ネヘミヤはエルサレムで12年間総督として働き、その後バビロンに戻り、しばらくそことどまつた後に再度エルサレムに戻った（ネヘミヤ5:14-15; 13:6; 13:7-31参照）。

エルサレムの城壁の再建という実務的な課題と、民の信仰生活の再建という靈的な課題の両方において、ネヘミヤはこれ以上ないほどの献身と勇気を示した（『聖句ガイド』「ネヘミヤ」、192ページも参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は、悔い改めて忠実に主のもとに来るすべての人を祝福される（ネヘミヤ1:5-11; 4章; 8-9章参照）。
- わたしたちは熱心に善いことに携わり、積極的に悪に立ち向かわなければならない（ネヘミヤ2:12-20; 4章; 13:4-30参照。教義と聖約58:26-28も参照）。
- 聖文研究は、わたしたちが信仰、勇気、内なる平安を増し加えるのに役立つ（ネヘミヤ8-10章参照）。
- 聖日に売り買いをするとき、わたしたちは安息日を汚すことになる（ネヘミヤ13:15-18参照）。

教え方の提案

 歴代下36章；エズラ1-10章；ネヘミヤ1-13章。
主は、悔い改めて忠実に主のもとに来るすべての人を祝福される。（30-40分）

何か壊れているものをクラスに持参し、次のように尋ねる。「壊れているものを修理するか、または捨てるか、どのように判断しますか。」ネヘミヤ1:1-3を読ませ、ネヘミヤは何が破壊されていることを知ったのか調べさせる。次の質問をする。

- エルサレムの城壁が修理に値するものであったのはなぜ

ですか。

- 当時城壁はどのような点でユダヤ人国家の象徴でしたか。
- 今日、イエス・キリストの教えを聞いたことのない人々にとって、壁は何を象徴していると思いますか。

生徒とともにユダのバビロン捕囚の原因について考える（歴代下36:14-21参照）。今日の人々は靈的な意味でユダヤ人と似たような状況に置かれることがよくある。すなわち不義に捕らわれる危険にさらされているのである。主は憐れみ深い御方であるため、御自分の子らがみもとに戻る機会をお与えになる。昔のユダヤ人が、どのようにして物理的および靈的に戻る機会を与えられたか尋ねる（エズラ1章参照）。

エズラとネヘミヤは、ユダヤ人が帰還できるよう主が状況を整えられたときに、ユダヤ人の一団を率いてエルサレムに戻った。彼らの経験は、主のもとへ戻ろうとするすべての人に一つの規範を示している。

エズラ記およびネヘミヤ記の以下の部分を読んで話し合うことにより、ユダヤ人が神殿とエルサレムの城壁を再建するためだけでなく、彼らの靈的な生活を再建するために何を行ったか示すことができる。

- エズラ3:1-7。神殿を完成させる前に、民は祭壇を再建して動物の犠牲をささげ始めた。次の質問をする。「どのような犠牲は、キリストに心を向けるうえでどのような役割を果たしていましたか。贖罪の後には、どのような犠牲が求められましたか。」（3ニーファイ9:19-20参照）
- エズラ4章；ネヘミヤ2:19; 4章; 6章。敵が工事を中止させるために用いた様々な方法に注目する（特にエズラ4:4-6; ネヘミヤ2:19; 4:1-3, 7-12; 6:1-13参照）。次の質問をする。「これら昔の敵対者たちが用いた方法は、今日、世の人々がキリストのもとに来る者を妨げる方法とどう似ていますか。」
- エズラ5:1-2；ネヘミヤ1章；2:17-20; 4章；6章；8-10章。以下の聖句を読み、何がユダヤ人の成功に役立ったか調べる。エズラ5:1-2；ネヘミヤ1:4-11；2:18; 4:4-5, 9, 14, 19-23; 6:3, 9, 12。次のことを思い起こす。神殿と城壁の復元が終わったとき、民はエズラが聖文から教える言葉に謙遜に耳を傾けた（エズラ8章参照）。そして生活を変えることにより、さらなる靈的成长を体験した（エズラ9-10章参照）。

簡単ではないかもしれないが、主に立ち返り、損なわれた主とのきずなを回復することは可能である。そのことを生徒が理解できるようにする。ボイド・K・パッカー会長の以下の話を紹介する。

「わたしは昔から、木片を鳥の形に削って色づけするのを気晴らしにしてきた。時には一つの彫像に丸一年かけること也有った。……あるとき、わたしは完成したばかりの彫像を、A・セオドア・タトル長老の運転する車の後部座席に置いていた。しかし彼が突然急ブレーキを踏んだために、鳥の彫像は床に投げ出され壊れてしまった。」

タトル長老は一年間の作業を台なしにしてしまったと思い、ひどく恐縮していた。わたしが気にする必要はないと言うと、彼はこう言った。『確かにがっかりしてはいらっしゃらないようですが、ほんとうに大丈夫ですか。』

わたしは彼を安心させようとして言った。『心配なさらいでください。わたしが作ったのですからまた直せます。』実際、その彫像は作っている途中で何度も壊れただので、その度に直してきたのである。

後にタトル兄弟は、この出来事を人生に打ちひしがれ傷ついている人々にたとえた。もうやり直すことさえ出来ないと思っている人々——つまり、人をお造りになつた創造主がいらっしゃり、たとえ救いようがないと思えようとも、自らが創造したすべての人や物を修復することができる造り主がいらっしゃることを知らない人々にたとえたのです。」(The Play and the Plan, 6-7)

ネヘミヤ8-13章。聖文研究は、わたしたちが信仰、勇気、内なる平安を増し加えるのに役立つ。(25-35分)

次のように尋ねる。「もし聖文を1か月、3か月、あるいは10年間読むことができないしたら、どのような悪影響が生じるでしょうか。」標準聖典を見たことがないとする。次にネヘミヤ8:1-2を読んで聞かせる。次の質問をする。「初めて聖文を耳にするとき、それはあなたにとってどれほど胸躍る体験だと思いますか。」3-8節を読ませ、聖文を耳にして民がどのような反応を示したか調べさせる。9節を読み、民が泣いたのはなぜだと思うか尋ねる。聖文の大切さについて証を述べる。

次の文を完成させる。「聖文はわたしに強さを与えてくれます。なぜなら……。」

ネヘミヤ9章に目を通した後、ネヘミヤが読んだ内容を聞いたユダヤ人なら、前述の文をどのように完成させていたか考えさせる。

モロナイ10:3を読ませ、聖文についてモロナイがわたしたちに覚えておくよう望んでいることは何か調べさせる(1ニーファイ1:20も参照)。次の質問をする。

- 神の憐れみについて理解することは、昔のユダヤ人にとって祝福となりました。それはなぜですか。
- それはわたしたちにとって、どうしたら祝福となるのでしょうか。

ネヘミヤ9:1-3, 36-38を読む。聖文のメッセージは、ユダヤ人が神に従うと聖約するうえでどのように役立ったか話し合う。民の多くは、すぐに再び戒めを破り始めたことを説明する(ネヘミヤ13:15-22参照)。民が再び道を踏み外し始めたのはなぜか生徒に尋ねる。1ニーファイ8:30を読み、聖文研究は、1日あるいは1週間だけすればよいというものではなく、生涯継続すべきものであることを証する。

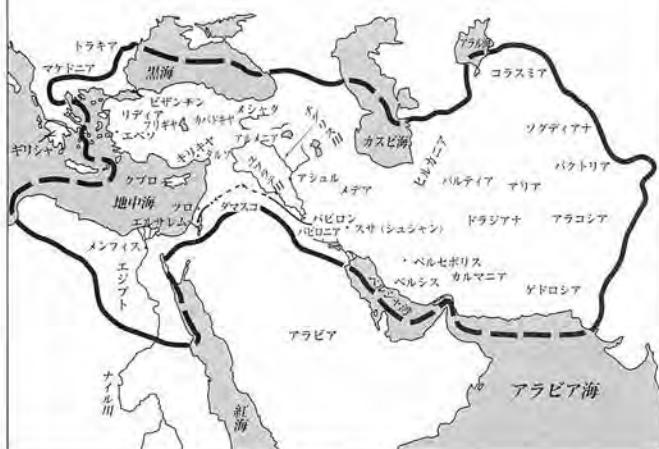
エスティル1-10章

はじめに

バビロニアがユダの民を統治し始めたのは紀元前587年ごろであった。そして紀元前538年ごろにペルシャがバビロニアを征服する。ペルシャはユダだけでなく、バビロンに残っていた囚われの身にあるユダヤ人をも統治した。紀元前464年から425年ごろ、ペルシャの統治者アハスエロスは、エスティルという名の若いユダヤ人女性をペルシャの王妃に選んだ。エスティル記はこの出来事にまつわる記録である。

エスティルはエズラやネヘミヤとほぼ同時代の人物であり、大いなる勇気と愛国心にあふれた義にかなった女性であった。ペルシャの王宮における自らの地位によって、彼女は征服された自らの民を助けることができた。エスティルの物語は、一人の人物が国家の行く末にさえ確かに影響を与えるということを理解するのに役立つ。

紀元前500年ごろのペルシャ帝国



学び取るべき重要な福音の原則

- 主は御自身の民に益をもたらすために、政治的な出来事に介在されることがある（エスティル1-10章参照）。
- たった一人の義人の勇敢な行いが、大勢の人々の人生に多大な影響を及ぼすことがある（エスティル1-10章参照）。
- 神は前世において、御自分の多くの子供たちを現世での重要な召しに予任された（エスティル4:14参照。アルマ13:3-9も参照）。
- 断食は霊的な強さを培うのに役立つ（エスティル4:16参照。マタイ17:14-21も参照）。

教え方の提案

エスティル1-10章。エスティル記の概観。（30-35分）

生徒を4つのグループに分け、それぞれに以下の箇所から一つを割り当てる。エスティル1-2章；3-4章；5-7章；8-10章。生徒は、割り当てられた箇所を研究し、その内容を3分間のニュースにして発表する。例えば、歴史に関する報道そのものと、主要な登場人物へのインタビュー（例えば、宮廷の外でレポーターが王妃ワシテにインタビューし、彼女が王妃を退位させられた理由を尋ねる）を交えながら行うことができる。

グループが放送原稿を発表した後、エスティルの物語で教えられている幾つかの原則について話し合う（「学び取るべき重要な福音の原則」およびほかの教え方の提案を参照）。

エスティル1-4章。たった一人の義人の勇敢な行いが、大勢の人々の人生に多大な影響を及ぼすことがある。断食は霊的な強さを培うのに役立つ。（25-30分）

次の事例を読んで聞かせる。ランディーは数学クラスの最も優秀な生徒の一人で、今日は期末試験である。今朝、学校に向かうバスの中で、ランディーの二人の友人であるジョージとトムが自分たちは勉強していないと言った。彼らはランディーに、試験のときに答案を書き写すことができるよう、とびきり大きな文字で書くように頼んだ。

以下の質問をする。

- 友人の頼みに対して、ランディーは何と答えるべきだと思いますか。
- ランディーが友人に自分の答えを見せたとしたら、どのような結果を招くと思いますか。
- 友人に自分の答えを見せなかったら、どうなると思いますか。

正しいことを行なうことが往々にして難しいのはなぜか、またそれがどのような結果をもたらすか話し合う。エスティル1:5-11を読ませ、以下の質問をする。

- 彼らはどのくらいの期間酒を飲んでいましたか（10節参照）。
- 飲酒は、彼らがした行いにどんな影響を与えたと思いますか。
- 王は王妃に何を求めましたか。

エスティル1:12を読ませ、王妃が王に従うのを拒んだのはなぜだと思うか答えさせる。エスティル2:1-4, 8-9, 15-20を読ませる。次の質問をする。

- ワシテを退位させた後、王は何をしましたか。
- 王は新しい王妃としてだれを選びましたか。
- エスティルが自分はユダヤ人であることを王に言わなかつたのはなぜだと思いますか。

生徒のために、エステル2:21-4:9にあるモルデカイとハマンの話を要約する。エステル4:10-11を読み、エステルが置かれていた困難な状況について説明させる。次の質問をする。「もしエステルが、呼ばれてもいないのに王の前に行ったらどうなっていたと思いますか。」

エステル4:12-17を読ませる。次の質問をする。

- エステルが結果を恐れずに行おうと決めたことは何ですか。
- エステルがそう決意したのはなぜだと思いますか。
- エステルの決意から、彼の人柄や神に対する信仰についてどんなことが分かりますか。
- 成功する可能性を高めるために、エステルは何をしましたか。(断食をした。エステル4:16参照。)

エステル6:1-3を読み、以下の質問をする。

- エステルと民が断食したこと、王のどのような行動に影響があったと思いますか。
- 今日の若人が迫られている選択の中に、ワシテやエステルが示したのと同じような勇気が求められるものがありますか。例えば、これまでに不適切な催しに出席したり、出席するよう招待されたりしたことがありますか。それが不適切なものであると分かったとき、すぐに出席を辞退したり退場したりする勇気を持てましたか。退場したなら、そのときにどのような気持ちがしましたか。あなたの行いは、あなたが去るのを見た人々にどのような影響を与えたと思いますか。

箴言3:5-6を読ませ、困難な決断を下せるよう、人に強さを与えるものは何か見つけさせる。マタイ17:14-21を読ませ、主を信じる信仰と義にかなった選択をする能力を増すためにできることは何か見つけさせる。

エステル4:13-14。神は前世において、御自分の多くの子供たちを現世での重要な召しに予任された。(5-10分)

ハロルド・B・リーダ管長の以下の言葉を紹介する。

「アブラハムと同じように、大勢の人が生まれる前から選ばれていた。主はそのことを、モーセにもエレミヤにも語っておられる。この教えは、末日の預言者ジョセフ・スミスによっていっそ明確なものとなった。ジョセフ・スミスはこう述べている。『わたしは、神の王国において重要な働きをなすよう召されている人は皆、この世に先だってその職に召され、予任されていたものと信じている。』」(『聖徒の道』1974年6月号、274参照)

以下の質問をする。

- どのような人が重要な業に予任されていたと思いますか(例えば、エレミヤ1:5参照)。
- 予任されたのは預言者だけだと思いますか。

エステル4:13-14を読ませ、ある重要な目的のために予任されていたであろうとモルデカイが示唆した人物はだれか見つけさせる。ブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしたちはジョセフ・スミスやエレミヤ、使徒や預言者、賢者、偉大な者、善良な者が、特定の務めに予任されたことはよく知っています。しかしそれは予任の教義のごく一部にすぎません。予任の大いなる、そして栄えある点は、イスラエルの家に属するすべての者が予任されていたということであり、何百万という大勢の人々が、前世にいたすべての靈に比べれば比較的少数ですが、それでも何百万という人々が特定の福音の祝福を得るように予任されたのです。」(Making Our Calling and Election Sure, ブリガム・ヤング大学年次講話[1969年3月25日], 6)

「イスラエルの家に属するすべての者」でない人々は、バプテスマを受けるときにイスラエルの家に養子縁組される(『聖句ガイド』「養子縁組」、272ページ参照)。

自分たちがイスラエルの家に属し、マッコンキー長老が語っているように、回復された福音の祝福を受けるよう予任された者であることを生徒が理解できるようにする。次の質問をする。

- イスラエルの家に属する人々は、今日どのような重要な業を行うよう予任されていると思いますか。
- どうすれば自分は予任された業を忠実に果たしていると確信することができますか。

義にかなった選択をすることで、エステルやモルデカイは、与えられた重要な使命を果たすためにどのように備えられたか考える。日々の選択が、どのようにして自分自身の将来だけでなく、ほかの人々の将来にも影響するか話し合う。

ヨブ1-42章

はじめに

ヨブ記は、旧約聖書の詩歌または知恵文学に属する最初の書である（8ページの「旧約聖書はどのような構成になっているのか」参照）。この書の大半（ヨブ3章-42:6）は、詩的な言い回しで書かれており、その内容は文学的にも優れたものとして認められている。ヨブ記には、苦しむ者の問い合わせ、疑い、恐れが記録されている。わたしたちはこの書を通して、試練と苦難に遭うときにそれらの苦しみに対する神の目的を思い起こし、強められる。

ヨブ記では、人生における二つの重大な問い合わせが採り上げられている。

- ・ 義人が苦しみを受けるのはなぜか。
 - ・ 義を囂るよう義人を感化するものは何か。

ヨブ記は3部に分けることができる

- 序（1-2章）では、背景と話の流れが説明されている。
 - 詩（3：1-42：6）では、ヨブがこれほど大きな苦しみを受ける理由について話し合う、ヨブと友人たちとの対話が記されている。
 - 結び（42：7-17）では最終的な主の祝福と恵みが記録されている。

詳しくは『聖句ガイド』「ヨブ」(279ページ)を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・ サタンは実在する。サタンはこの地上にいて、わたしたちを誘惑することを許されている。しかし、もしわたしたちがサタンの影響を打ち払って救い主に従うなら、サタンはわたしたちを支配する力を持つことはできない（ヨブ1：7、12-22；2：2、6-10参照。教義と聖約10：22-27、43も参照）。
 - ・ 救いの計画とイエス・キリストの贋いの犠牲について理解することは、現世における試練と苦難を理解し、堪え忍ぶのに役立つ（ヨブ1：21-22；2：10；5：6-11；7：1-5；19：25-26；38：4-7；42：1-6参照）。
 - ・ わたしたちはすべてのことにおいて誠実でなければならない。それは何が起こっても自分たちの標準に従って生活し、主を信じる信仰を保つことを意味する（ヨブ2：7-10；13：15；19：25-26；27：1-6参照。モーサヤ23：21-22；教義と聖約124：15、20も参照）。
 - ・ わたしたちは苦しむ者を助け、慰め、強めなければならない（ヨブ2：11-13；6：14；30：25参照。モーサヤ

18:8-9も参照)。

- 主の懲らしめを受け入れることによって、わたしたちは向上し、さらに大きな幸福を得ることができる（ヨブ5：17-18；34：31参照。詩篇94：12；ヘブル12：6；教義と聖約136：31も参照）。
 - 現世では、時々義人が大きな苦難に遭い、一方で悪人が繁栄しているように思えることがある。大いなる祝福は苦難を堪え忍んだ人々に与えられ、悪人はその正当な報いを受ける（ヨブ6：24；10：15；12：6；20：4-5；21：7-14；24：13-24；27：8-23；28：12-13；42：5-17参照。詩篇7：7-20；マラキ3：14-18；教義と聖約101：4-5；122：5-7も参照）。
 - イエス・キリストの復活によって、すべての人が死後再び生きることができる（ヨブ19：25-27参照。1コリント15：21-22；アルマ11：42-44も参照）。
 - 正しいことを行うなら、試練は大いなる祝福となる（ヨブ19：26-27；23：10-12；42：9-17参照。教義と聖約98：1-3も参照）。
 - 神の知識と力は永遠である。死すべき人間の限りある思いは、神の無限の思いを理解することはできない（ヨブ38：1-42：3参照）。

考え方の提案



ヨブ1-42章。現世では、時々義人が大きな苦難に遭うことがある。大いなる祝福は苦難を堪え忍んだ人々に与えられる。(75-90分)

クラスに石炭を1個持つて来るか、以下の図にある絵を黒板かオーバーヘッドプロジェクター用紙に描く。話し合ひながらそれらが指し示すものを書き込む。



石炭からダイヤモンドを造るために必要なものを尋ねる。生徒が答えた後に、図の中央の欄を埋める。次の質問をする。

- どんな石炭でもダイヤモンドになるのでしょうか。
 - それはなぜですか。(石炭の中には、熱や圧力、時間が不十分であったり、またそれに耐え切れなかつたりするものがある。)

図の「石炭」「ダイヤモンド」の下にそれぞれ「人間」

「神性」と書く。以下の質問をする。

- 石炭からダイヤモンドを造るために熱と圧力と時間が必要であるなら、不完全な死すべき人間が神のようになるには何が必要だと思いますか。
- どんな人でもいつかは神のようになると思いますか。
- それはなぜですか。

一人の生徒にブリガム・ヤング大管長の以下の言葉を読ませる。

「ジョセフは迫害を受けなかったとしたら、たとえ1,000年間生きたとしても、完全な者となることはできませんでした。ジョセフがたとえ1,000年間生きてこの民を導き福音を宣べ伝えても、迫害を受けなかったならば、彼が〔38〕歳のときのように完全になることはできなかったでしょう。」(Discourses of Brigham Young, ジョン・A・ウイットナー選 [1954年], 351)

以下の質問をする。

- 重量挙げの選手が、進歩に伴ってバーベルにさらにおもりを加えていくのはなぜですか。
- おもりを加えることによって、バーベルを持ち上げることは難しくなりますか。
- おもりを加えることは、選手にとってよくないですか。
- おもりを次々加えていくことで、選手は強くなりますか。それとも弱くなりますか。
- この人生で、時々負うように求められる靈的成長に欠かせない特別なおもり、すなわち試練や苦難にはどのようなものがありますか。(例えば、病気、落胆、一人親の家庭での生活、望んでいる能力や才能の欠如。)

ヨブは多くの重荷を負った人物であったことを伝える。ヨブがどのようにして自らの苦難を堪え忍んだか注意するよう求める。

生徒はヨブ1:1-19と2:7-10を読む。試練を受ける前にヨブがどのような祝福を享受していたか生徒に尋ね、黒板に書き出す。次に以下の質問をする。

- それらの祝福を、ヨブはどれほど失いましたか。
- ヨブの苦難の中で、最も堪え難かったものはどれだと思いますか。
- 試練や苦難が、御父の幸福の計画の一部であるのはなぜだと思いますか。

ヨブ10:15-16と28:12-13を読み、ヨブはこれらの試練がなぜ自分に降りかかるのか思い悩んでいたことを伝える。人生において多くの苦しみを受けた義人について考えさせる。次の質問をする。「神が、御自身の力を用いてすべての苦しみを解消なさらないのはなぜでしょうか。考えた

ことがありますか。」以下の質問を黒板に書く。

- 善良な人々に悪いことが起きるのはなぜだと思いますか。
- 義をもって試練を堪え忍ぶことは、どのような益となりますか。

以下の聖句を調べさせ、苦難が時々義人に訪れる理由を話し合う。

- 創世22:1-2; アブラハム3:24-25 (従順さを試すため)
- ヨブ1:14-15, 17; アルマ14:8-11; 60:12-13 (悪人に選択の自由を行使させ、罪の宣告を公正なものとするため)
- ヘブル5:8; 教義と聖約122:7; 136:31 (個人の成長と発達のため)
- ヨブ1:18-19; ヨハネ9:2-3; 2ニーファイ2:11 (苦しみは、死すべき世の自然の結果である)

アルマ62:41を読ませ、人が苦難に対して示す2種類の反応を探させる。以下の参照聖句を読ませ、試練を堪え忍んだ者にもたらされる祝福について話し合う。

- ヨブ42:5; ピリピ3:8-10 (救い主についてさらに深い理解を得る)
- 2ニーファイ2:11 (真の喜びと幸福を理解する)
- 教義と聖約58:2-4 (永遠の命を得る)

ヨブ42:10-17を読み、ヨブに与えられた最終的な祝福と当初得ていた祝福とを比較する。黒板にあるヨブが当初得ていた祝福の横に、最終的な祝福を書き出す。失ったことに対するヨブの悲しみや痛みがどれほどのものであったかを忘れないよう注意する。最終的な祝福は大きいものであったが、それでもヨブは苦しんだ。

試練に直面する理由や試練に伴う祝福について理解することは、苦難を堪え忍ぶうえで役立つであろう。しかし、中には罪のない者が苦しみを受け、なぜそうなったかまったく説明のつかないときがある。苦しむ理由が分からないということが、実は試しの一部でもあることを生徒に理解させる。当時十二使徒定員会会員であったハロルド・B・リー長老の以下の言葉を紹介する。

「わたしたちの生活や世の中の状況が複雑になればなるほど、イエス・キリストの福音の目的と原則を明確にしておくことが重要になります。宗教の役割は、善惡の原則に基づいた神による宇宙の統治についてのあらゆる質問に答えることではなく、現在の状態では決して答えを見いだすことのない疑問を抱きながらも、信仰によって先へと進む勇気を人に与えることなのです。」(Conference Report, 1963年10月, 108)

教義と聖約76:5-7を読ませる。次の質問をする。

- これらの聖句は、なぜ苦しみを受けているのか分からない人々をどのように安心させてくれますか。
- 神から知識を受けるために、何を行うよう記されていますか。

生徒に最近あった嫌な経験を思い出させ、自分がどう反応したか考えさせる。以下の聖句を読み、ヨブが試練にどう反応したかを見つけさせる。ヨブ1:21; 2:10; 13:15; 19:25-26; 23:10; 27:4。生徒とともに、そのような苦しみに遭いながらもヨブがこれほど前向きに対応できたのはなぜだと思うか話し合う。ニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を紹介する。

「靈的な耐久力には強さが必要です。それは、イエス・キリストの福音を定期的に、深く、そして心を研ぎ澄ましながらよく味わうことによって得られる強さです。もしあなたやわたしが、神がわたしたちの前に惜しみなく広げてくださっている福音から養いを受けないなら、わたしたちは強くなるどころかむしろ弱くなってしまうでしょう。」(“If Thou Endure Well” [ブリガム・ヤング大学におけるファイヤサイドでの説教, 1984年12月2日], 5)

教義と聖約121:7-8を読み、逆境や苦難をよく堪え忍ぶ者に、主がどのようなことを約束しておられるか尋ねる。

ヨブ2:11-13。わたしたちは苦しむ者を助け、慰め、強めなければならない。 (15-20分)

次のように尋ねる。「知り合いの中で、悲しい経験をした人がいますか。その経験から立ち直るために、彼らは何をしましたか。また、周りの人はどんなことをしましたか。」ヨブ1-2章でヨブに起きた出来事を読む。ヨブ2:11-13を読み、友人たちがヨブのために何をしたいと思ったか見つける。モーサヤ18:8-9を読み、この聖句がその状況にどう当てはまるか話し合う。

以下の聖句を順番に読ませ、友人たちがヨブを助けようとして何と言ったか見つけさせる。ヨブ4:7-8; 8:6, 20:11:3-6; 15:20; 18:5-6; 20:5, 29:22:5, 23:34:35-37。次の質問をする。

- 友人たちとは、ヨブの不幸の原因は何だと言いましたか。
- 友人のそのような言葉は、あなたに慰めを与えてくれると思いますか。
- ヨブ16:1-2を読む。ヨブは友人たちが言ったことについてどのように感じたと思いますか。

ヨブ9:13, 17, 22; 12:6; および21:7-13を読み、友人たちに対するヨブの言葉を見つける。ヨブの言葉は、不幸は必ずしも罪の結果とは言えないことを理解するのに役立つ。ヨブ1:1を読み、ヨブがどのような人物であった

か生徒に思い出させる。次の質問をする。

- ヨブの友人たちの犯した過ちから何が学べますか。
- ヨブの友人たちとは、何を語り、何を行うべきだったでしょうか。

助けを必要としている人を見つけ出し、試練に直面している人を慰め、強めるよう生徒を励ます。

ヨブ19:25-26。救いの計画とイエス・キリストの贖いの犠牲について理解することは、現世における試練と苦難を理解し、堪え忍ぶのに役立つ。 (10-15分)

賛美歌「主は生けりと知る」(『賛美歌』, 75番)を歌う。「ああよろこびの言葉」の部分を繰り返す。贖い主が生きておられることを知るときに、幸福や慰めが与えられるのはなぜか話し合う。

ヨブの苦難を生徒に思い起こさせ、なぜヨブが慰めを必要としていたか思い出す。黒板に以下の聖句を書き出す。生徒はそれらの聖句を読み、試練を堪え忍ぶことができた理由としてヨブが挙げているものを見つける。

- ヨブ1:20-21 (わたしたちが得ているものはすべて神から来ており、試練によって神から離れることは正当化されない)
- ヨブ2:10 (試練は死すべき世の一部にすぎない)
- ヨブ13:15 (わたしたちは神を信頼しなければならない。特に苦しみを受ける理由が見当たらないように思えるときこそ信頼する必要がある)
- ヨブ19:25 (試練は、救いの計画という、より大きな観点から見なければならない)
- ヨブ23:10 (試練は、最終的に益をもたらすためにある)
- ヨブ27:4-6 (神への献身は状況に左右されるものであってはならない)
- ヨブ42:7-12 (主は公平であり、義人を祝福される)

マタイ11:28-30を読ませ、重荷がどのような形で人々にやって来るか話し合う。アルマ7:11-13を読む。わたしたちが経験する苦しみがどのようなものであろうと、イエスはその苦しみを、身をもって知っておられる。その事実を知って感じたことを生徒に書かせる。

ヨブ19:25-26 (マスター聖句)。イエス・キリストの復活により、すべての死すべき者が復活する。 (5-10分)

ヨブ19:25-26を暗記させる。

生徒を二つのグループに分け、5分間で復活に関する聖句をできるだけ多く見つけさせる。見つけた聖句をグループ同士で比較させ、学んだことを発表させる。聖書のヨブ19:25-26の横に、自分たちが見つけた重要な参照聖句を幾つか書き込むように勧める。

詩篇1-150篇

はじめに

詩篇を研究する前に、『旧約聖書：創世記－サムエル記下』の特別講座G「ヘブライ文学の表現形式」(335-339ページ)を読む。ヘブライ詩の特徴を理解すると、詩篇の理解力が飛躍的に高められる。詩篇はヘブライ詩または歌を集めたもので、その一部は幕屋や神殿での公式の神聖な儀式(礼拝式)で用いられた。あるものは神をほめたたえて書かれたものであり、あるものは祈りであった。明らかに楽器の伴奏とともに歌われていたものもあれば、伴奏を伴わずに詠唱されていたと思われるものもある(『聖句ガイド』「詩篇」122ページ参照)。『旧約聖書：創世記－サムエル記下』の「詩篇の作者はだれか」341-342ページも参照)。

「Psalms(詩篇)」という表題は『セプトゥアギンタ』(『七十人訳聖書』。聖書のギリシャ語訳)から来ており、「歌」という意味である。詩篇のヘブライ語名は「Tehillim」であり、「贊美」または「贊美の歌」を意味する。詩篇はヘブル人の教会の贊美歌であった。新約聖書の中で、この書がほかのいかなる旧約の書よりも数多く引用されているのはそのためであろう。

伝統的に、ヘブル人は150篇の詩を5書に分けていた。今日の聖書では以下のように分けることができる。

1. 詩篇1-41篇
2. 詩篇42-72篇
3. 詩篇73-89篇
4. 詩篇90-106篇
5. 詩篇107-150篇

各部の最後には、神の力と栄光の公式の宣言である詠頌がある(詩篇41:13; 72:19; 89:52; 106:48参照)。詩篇150篇はそれ自体が詠頌であり、最初と最後に「主をほめたたえよ」(ヘブライ語では「Hallelujah」という言葉が用いられており、それ以外に「ほめたたえよ」または「ほめたたえさせよ」という言葉が11回用いられている。これは「Tehillim」すなわち贊美の歌にふさわしい結びである。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は、御自分を信じて信頼する人々に、しばしば次のような祝福を与えてくださる。

- 主は彼らを保護し、守り、救い出される(詩篇4:1, 3, 5-6; 5:1-3, 11-12; 7:1-2, 10; 18:1-6, 30-32; 20:6-9; 23:4-5; 37:39-40; 56篇; 71:1-5; 143:9-12; 145:18-20参照。モーサヤ7:33も参照)。

- 主は御自分の光で彼らを導かれる(詩篇4:5-6; 18:28; 27:1; 37:3-6; 143:6-10参照。ヨハネ8:12も参照)。

- 主は彼らに憐れみと赦しをお与えになる(詩篇6:1-9; 13:5; 23:3, 6; 25:1-13; 51篇; 103:17-18参照。アルマ12:33-34; 34:15-18も参照)。

- 主は彼らが苦しむときに彼らを理解し強めてくださる(詩篇6:2-10; 22:1-5; 23篇; 25:15-22; 28:6-9; 38:8-15; 40:1-4, 11-13, 16; 57:1-3; 61篇; 63:1-8; 69:1-20, 29-36; 86篇; 130篇; 142篇; 146:5-9参照)。

- 主は彼らに誉れと栄光の冠をお与えになる(詩篇8篇; 24:3-6; 73:24; 82:6; 84:11-12; 106:1-5参照。1ペテロ5:1-4; 教義と聖約76:92-95; 109:76も参照)。

- 詩篇の多くにはメシヤについての預言や、イエス・キリストの生涯と務めにかかわる描写が含まれている(詩篇22篇; 110篇; 118篇参照)。
- 罪は悲しみと絶望をもたらし、従順さと戒めの遵守は心と思いに平安をもたらす(詩篇23-25篇; 34篇; 51篇参照)。
- わたしたちは神聖な音楽によって神を礼拝することができる。そのような音楽はわたしたちを教化し、御靈を感じるのに役立つ。



教え方の提案

詩篇23篇; 42篇; 51篇; 73篇; 137篇; 145篇。詩篇は人間の様々な感情を表現している。(15-20分)

生徒に異なる種類の音楽を聴かせる(悲しい曲、陽気な曲、軍隊の行進曲、神聖な贊美歌など)。それぞれの曲を聴

かせる度に、以下の質問をする。

- この曲はどのような感情を表現しようとしていると思いますか。
- この曲を聴くときにどのように感じますか。

音楽を通して様々な感情が沸き起こることを説明する。次の質問をする。

- 音楽が持つこの力にはどのような価値がありますか。
- 感情を左右する力に危険は伴っていませんか。

当初、詩篇には曲がつけられていたことを説明する。詩篇の楽譜は現在に伝わっていないが、わたしたちは言葉を読むことによって作者の感情を理解することができる。クラスまたはグループで、詩篇23篇；42篇；51篇；73篇；137篇；および145篇を読ませ、これらの詩の言葉によってどのような感情が表現されていると思うか話し合う。希望、絶望、悲しみ、疑い、怒り、あるいは喜びや感謝の気持ちを抱いたときのことを思い起こさせる。次の質問をする。

- そのように感じたとき、人生にはどのようなことが起こっていましたか。
- これらの詩のメッセージはどのように役立ちますか。

生徒に、詩篇の中で最も印象深かったもの、あるいは人生において大きな祝福となってきたものに対する自分の気持ちを語ってもらう。

詩篇24:3-4 (マスター聖句)。主はわたしたちが従うべきふさわしさの標準を定めておられる。それらは世の標準よりも高く、大きな祝福をもたらす。これらの標準はすべての人が守らなければならないものであり、不变である。(15-20分)

ジョセフ・F・スミス大管長が紹介した次の夢を読んで聞かせる。

「わたしは旅をしている夢を見た。わたしは急がなければならぬと感じていた。手遅れにならぬように、全力で急がなければならなかつた。できるかぎり道を急いだが、その間も自分が小さな包み、何か小さなものを包んだハンカチを持っていることに気がついた。わたしはそれが何であるか分からぬまま、全力で道を急いだ。そしてついにすばらしい邸宅に着いた。それは人手によるものにしてはあまりに大きく、邸宅と呼ぶにはあまりにすばらしいものに思えたが、わたしはそれが自分の目的地であることを知っていた。大急ぎで進んで行くと、『浴室』という表示が目に留まつた。わたしは瞬時に身を翻して浴室に入り、体を洗つた。そして手にしていた小さな包みを開くと、中には一組の真っ白で清潔な衣が入つてゐた。そのようなものは長い間目にしたことがなかつた。わたしが一緒にいた人々は、ものをとてもきれいにすることにはあまり注意を払わなかつたからである。しかしおのの衣はきれいであり、わたしはそれを身に着けた。そして、大きな入り口のような所に急いだ。

ノックするとドアが開き、そこには預言者ジョセフ・スミスが立つてゐた。彼は少々非難するような目でわたしを見ると、まずこう言った。『ジョセフ、遅かった。』しかしわたしは自信を持って言った。

『はい、でもわたしは清く、汚れがありません。』

ジョセフ・スミスはわたしの手を握ると中に引き入れ、大きなドアを閉めた。わたしは彼の手をこの世の人々の手と同じように、実感することができた。わたしは彼を知つており、中へ入るとわたしの父、ブリガムとヒーバー、ウイラード、そのほかわたしの知つてゐる善良な人々が一列に並んで立つてゐるのを見た。わたしはそれがこの谷の向こう側であるかのように眺めると、そこは無数の人々で満ちているようであったが、わたしの知つてゐる人々は全員壇上にいた。わたしの母もそこにいて、ひざに幼子を抱いて座つてゐた。わたしは覚えてゐるかぎりの名前を挙げることができたが、彼らはそこに座り、選ばれた者たち、昇栄した者たちの中にいるようであった。」(Gospel Doctrine, 第5版 [1939年], 542)

以下の質問について話し合う。

- スミス大管長が話しているのはどのような種類の「清さ」だと思いますか。
- 清さはなぜ重要なのでしょうか。

生徒とともに詩篇24:1-5を読み、「主の山」、「手が清く」、「心のいさぎよい」とはどういう意味か尋ねる。ダリン・H・オーカス長老の以下の言葉を紹介する。

「義にかなつた行いをし、邪悪な行いを避けるとき、わたしたちの手は清いものとなります。

正しい動機のために行い、禁じられている望みや態度を避けるとき、わたしたちの心はいさぎよいものとなります。」(Pure in Heart [1988年], 1)

『聖句ガイド』で「清いものと清くないもの」(85ページ)および「清さ」(87ページ)を調べて、人が清くなる方法を示している聖句を見つける。または、黒板に以下の参考聖句を書き出し、人はどうすれば清くなることができるか語られた主の勧告を調べさせる。詩篇1篇；イザヤ1:18；ヨハネ15:1-4；モーサヤ4:2；ヒラマン3:35；モロ Naomi 7:48；10:32-33；教義と聖約88:74, 85-86。

詩篇1-150篇。詩篇には、救い主の生涯と使命についての預言が数多く含まれている。救い主がその務めを果たされる過程でこれらの預言が成就したことは、主が実際に神の子であられたことの証拠と言える。(20-25分)

一人の生徒を選び、クラス全員にヒントを与えてだれを選んだか当てさせる。この活動の目的は、できるだけ少ないヒントで選ばれた人を見つけ出すことであり、各生徒とも1回だけ答えることができると伝える。かなりの確信を得るまで答えないように言う。すべてのヒントを与え終え

るまで、答えは明かさない。

ほとんどの生徒に当てはまるようなヒントから始める（「男の子です」「身長が150センチ以上あります」あるいは「学生服を着ています」など）。次に、より具体的だが外見からは分からぬヒントを与える。（生徒の両親に連絡を取つて、趣味、才能、靈的面での長所など、あまり知られていないと思われるようなヒントを見つけておくとよい。）活動後、以下の質問をする。

- だれのことか、どの時点で分かりましたか。
- 最も役立ったのはどのヒントでしたか。それはなぜですか。

詩篇には救い主についての多くの預言、すなわちヒントが含まれていることを伝える。主がどなたであり、どこに降誕なさるかを特定できるようにするためであった。黒板に、以下の表の最初の欄にある聖句を列挙する。幾つかの聖句を読み、救い主について与えられているヒントを見つける。それぞれの預言を読みながら、そのヒントが新約の時代の人々にとってどれほど明白なものであったか話し合う。その際に以下の質問を使う。

- もし救い主の時代に生きていたとしたら、この表にあるヒントから主を特定することができたと思いますか。
- これらの預言が、救い主によって成就されたことに気づかなかつた人が大勢いたのはなぜだと思いますか。

詩篇	メシヤに関する預言	成就
詩篇16:9-10	キリストは復活される	使徒13:34-37
詩篇22:1	主は見捨てられたと感じられる	マタイ27:46
詩篇22:7-8	人々は主をあざ笑う	マタイ27:43
詩篇22:16	主の手と足は刺し貫かれる	ヨハネ20:24-27
詩篇22:18	主を苦しめる者たちは主の着物をくじで引く	マタイ27:35
詩篇31:5	主は御自身の靈を神の手にゆだねられる	ルカ23:46
詩篇34:20	主の骨は一つも折れない	ヨハネ19:31-33,36
詩篇41:9	主は裏切られる	ヨハネ13:21-27
詩篇65:7	主は海を鎮められる	マタイ8:26; ルカ8:24
詩篇68:18	主は高い所に上られる	エペソ4:7-10
詩篇69:21	主はにがみと酔いぶどう酒を与えられる	マタイ27:34; ヨハネ19:28-30
詩篇91:11-12	主は天使によって守られる	マタイ4:5-6; ルカ4:10-11
詩篇110:1,4	主は神の右にお座りになる。とこしえに祭司となられる	マタイ22:41-46; ヘブル5:1-6
詩篇118:21-22	主は拒まれるが隅石となられる	ルカ20:9-19

預言の成就を示すものとして表に挙げられている参照聖句を生徒とともに読む。各自の聖典に、それらの参照箇所を相互参照として、詩篇の関連聖句の横にある余白に書き込むよう勧める。次の質問をする。

- これらの預言はどのくらいはっきりと成就しましたか。
- 預言どおりであることは、なぜ大切だったのでしょうか。

イエス・キリストの使命と、預言者たちが主の生涯を先見していたことについて教師自身の証を述べる。以下の質問をする。「現在の預言者は、わたしたちが救い主の再臨に備えるうえでどのように助けてくれますか。」

詩篇1-150篇。現代の賛美歌は、昔の詩篇に相当する。(35-55分)

主を礼拝する方法の一つに、適切な音楽を通して行うという方法がある。適切な音楽はわたしたちが御靈を感じるのに役立つ。数名の生徒に好きな教会の賛美歌を尋ね、なぜ好きか説明してもらう。それらの賛美歌を何曲か生徒とともに歌うか朗読し、賛美歌を歌った後にどう感じるか話し合う。教義と聖約25:12を読み、賛美歌を歌うことが主を礼拝する方法の一つであるのはなぜか尋ねる。詩篇は昔の教会にとって賛美歌のようなものであったことを伝える。

こんにち 今日の賛美歌で表現されている天の御父とイエス・キリストへの証と、詩篇の幾つかの証とを比較する。例えば、詩篇23篇と、その詩を基にしている「主はわが飼い手」(『賛美歌』63番)とを比較するとよい。あるいは、詩篇138篇と「救い主、われ信ず」(『賛美歌』72番)など、内容が似ているが言葉が異なる詩篇の詩と賛美歌を比較してもよい。詩篇の具体的な聖句と類似したテーマを持つ賛美歌について、『賛美歌』の346ページにある「参照聖句索引」の「詩篇」を参照する。書かれている言葉から、作者が救い主に対して抱いていた気持ちについて何が分かるか生徒に尋ねる。

賛美歌はわたしたちの思いと心を救い主に向けさせる。しかし一方で、一部の世俗的な音楽はわたしたちを主から遠ざける。サムエル上16:23を読み、以下の質問をする。

- よい音楽はサウルにどのような影響を与えましたか。
- 今日クラスで歌った賛美歌には、人を鼓舞し高める力がありましたか。
- 適切な音楽が、心を救い主に向けるうえで役立つのであれば、一部の不適切な音楽がわたしたちの生活に悪を招くと考えることは妥当ですか。
- どうすればどの音楽が適切か判断できますか。(モロナイ7:15-19; 教義と聖約50:23; 信仰箇条1:13参照)。

靈性を高め、わたしたちをキリストのもとへ導いてくれる音楽を選ぶに当たって、以下の4つの原則がどのように役立つか話し合う。

- 歌詞は前向きで健全なものであるべきである。
- リズム、拍子、音量、および音の強さは、みたま 御靈を招き、

わたしたちの思いを高めるものであるべきである。

- バンドや演奏者の名前や、その音楽のパッケージには、ポルノグラフィーや悪の様相を呈するものが含まれていてはならない。
- その音楽の販売促進用資料（ビデオなど）はすべて適切なものであるべきである。

自分の持っている音楽、あるいは聴いている音楽が、自分をキリストのもとへ導いてくれるものであるか考えるよう生徒に勧める。自分の生活に祝福をもたらす音楽を聴き、御靈を悲しませる音楽はすべて避けるようにチャレンジする。以下の大管長会の言葉を紹介する。

「靈を鼓舞する音楽は、教会の集会に欠かすことができません。贊美歌は主の御靈を招き、敬虔な霧囲気を醸し出し、教員を一つにし、主に贊美をささげる機会を与えてくれます。

贊美歌を歌うことが、すばらしい説教となることもあります。贊美歌は、人を悔い改めと良き行いへと驅り立て、証と信仰を強めてくれます。また、疲れた者を元気づけ、悲しむ者を慰め、そして終わりまで堪え忍ぶよう励ましを与えてくれます。」（『贊美歌』9ページ）

ダリン・H・オーツ長老の以下の言葉を紹介する。

「贊美歌を歌うことは、主の御靈と一致する最良の方法の一つです。……

贊美歌を歌うことは、回復された福音を学ぶ最良の方法の一つです。……

……靈的な力や靈感を必要とするときは、贊美歌を活用すべきです。

神聖な音楽を靈感によって伝え、礼拝に活用するよう命じられた御方にさらに近づくために、『贊いをもたらす愛の歌を歌おうと感じた』ならば、わたしたちは歌い続けなければなりません。わたしたちが熱心に贊美歌を歌えるように、へりくだつてお祈りします。」（『聖徒の道』1995年1月号、11-13）

『旧約聖書：創世記-サムエル記下』の「詩篇」の「はじめに」（341ページ）にあるブルース・R・マッコンキー長老の言葉を紹介してもよい。

箴言1-31章

はじめに

箴言は、人間の行動についての真理を端的に表した短い言葉を集めたもので、旧約聖書に収められている詩歌としては3番目の書である。ヨブ記、詩篇、箴言、および伝道の書は、知恵文学と呼ばれることがある。律法、歴史、預言者などに分類される諸書とは異なり、これらには神の啓示というよりも人間の知恵に基づいた教えが多く含まれている（「旧約聖書はどのような構成になっているか」、8ページ；『聖句ガイド』「箴言」、135ページ；『旧約聖書：列王紀上～マラキ書』の箴言についての導入部、15ページ参照）。

格言やことわざは通常、直接的に分りやすい形式で表現される。例えば、今日よく耳にする例として「一円を笑う者は一円に泣く」「捕らぬたぬきの皮算用」や「虎穴に入らずんば虎子を得ず」などがある。しかし格言の中には、もっと複雑で難解なものもある。proverb（箴言、格言、ことわざ）という言葉はヘブライ語の *mashal* に由来しており、「～を表す」または「類似した」という意味がある。

聖文のほかの書にも幾つかの箴言、すなわち格言やことわざを見つけることができる（サムエル上24：13；ヨブ28：28；エゼキエル18：2参照）。救い主もその教えの中でことわざを用いておられる（ルカ4：23；ヨハネ16：25参照）。旧約聖書に収められている箴言は、それを読み、教えられている知恵について深く考えるなら、靈感と勧告、そして導きの源となる。箴言を研究しながら、その教えを現代のわたしたちの生活にどう応用できるか考える。昔のたとえを現代の事柄を使って表現し直すことによって、その知恵が当時と同様、今日でも適切なものであることをしばしば見いだすことができる。

学び取るべき重要な福音の原則

- 人生の指針を得るために、わたしたちは神からの知恵を熱心に求めなければならない（箴言1：1-7；2：1-12；3：13-20；4：7-8；16：16参照）。
- 主は、御自分を信頼する人々の道をまっすぐにされる（箴言1：24-33；3：5-7参照）。
- 主は徳と知恵、勤勉さをもって御自分を敬う人々を喜ばれる（箴言31：10-31参照）。

教え方の提案

「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』20「主に信頼せよ」では、3つのたとえを使って主を信頼することの重要性が教えられている（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

箴言1-31章。箴言の中に見いだすことのできる知恵は、わたしたちが決断を下し、疑問に対する答えを見つけ、重要な真理を理解するうえで助けとなる。（25-30分）

生徒に自分が対処しなければならなかった重大な危機、決断、または問題について考えさせる。それから以下の質問をする。

- そのような問題に自分一人で取り組みたいと思いますか。それとも、ほかの人々に助言や指示を仰ぐ方が助けになりますか。
- 特に困難な問題に関して、あなたはだれに頼りたいと思いますか。それはなぜですか。
- あなたは彼らの助言に従おうと思いますか。それとも無視すると思いますか。

箴言は、様々な問題に対処するうえで役に立つ知恵ある言葉を集めたものであり、その多くは主の靈感によってもたらされたものである。そのことを生徒が理解できるようにする。箴言1：1；10：1；25：1；30：1；および31：1を読み、箴言の大半を書いた人物を見つけさせる。列王上4：29-34を読み、ソロモンが幾つの箴言を書いたか見つける。

「はじめに」の項目に記されている内容を生徒に紹介し、箴言の学習にどのような意義があるか話し合う。箴言1：1-7；2：1-12；3：13-20；4：7-8；および16：16を読ませる。以下の質問をする。

- 知恵の価値について、これらの聖句には何と書かれていますか。
- 日々の選択において知恵を用いることは、なぜ重要ですか。
- 問題に対処するうえで、主の指示が常に賢明な勧告であると言えるのはなぜですか。

箴言には多くの知恵が盛り込まれている。生徒一人一人に箴言から異なる章を一つずつ選ばせ（割り当ててもよい）、役立つ考え方や教義を含んでいる言葉を一つ見つけてクラスで紹介させる。その言葉を声に出して読ませ、その教えがわたしたちの生活とどのようなかかわりがあるか、またその箴言の言葉に従うとどのような祝福が得られると思うか説明させる。

箴言1-31章。だれもが人々と分かち合うに十分価値ある知恵を持っている。（25-30分）

生徒に、心を鼓舞する大好きな引用句を思い浮かべさせる。覚えているものでもどこかに書き留めているものでもよい。以下の質問をする。

- その言葉をどのくらい頻繁に思い浮かべますか。
- その言葉はどのように役立ってきましたか。

箴言には、わたしたちの生活に取り入れると役に立つ多くの有名な言葉が記されていることを説明する。ボイド・K・パッカー長老が紹介した次の簡単なパターンに従って、自分自身の箴言を書かせる。

「イエスは教師として、見ることも触ることもできない福音の概念を学識のない人々にお教えになりました。信仰、愛、兄弟愛、そして悔い改めについて教えるために、主はたとえをお使いになり、見ることも触ることも

できない概念を主の弟子たちがすでに知っていた身近なものになぞらえる手法を用いられました。これは類化と呼ばれる方法で、以下がその典型的な表現です。

_____は_____のようである

最初の空欄には、教えようとしている概念や理念を入れます。例えば、最初の空欄に『信仰』と書きましょう。

信仰は_____のようである

ここで想像力を發揮します。生徒のよく知っているもので、信仰にたとえることのできる具体的なものを思い浮かべてください。家庭にある身近なもの、ごく一般的なもの、だれもが知っているものであれば、さらに優れた例になります。もしかすると皆さんは次の例を使うかもしれません。『「信仰」は「一つの種」のようである。』信仰は本当に一つの種に似ています。少なくともアルマはそう思っていました…… (アルマ32: 28-29)。

一度信仰を何か具体的なものにたとえたなら、それを生き生きとした言葉で表現し、説明し、比較します。その大きさや形、色や手触りについて話すのです。」 (Teach Ye Diligently, 28-29)

独創的な箴言（格言、ことわざ）を書くように勧める。生徒が書いた箴言の幾つかをクラスで紹介させる。

◆ 箴言3:5-6 (マスター聖句)。主は御自分を信頼する者の道をまっすぐにされる。(30-35分)

深刻な問題を抱えているときに、助けを求めるであろう最も信頼すべき人を3人挙げさせる。(例えば、自分の命が危険にさらされているとき、あるいは法律上のトラブルに巻き込まれたとき、など。) それぞれの名前の横に、その人が信頼に足る理由を書かせる。希望するならば、何かの生徒にリストに挙げた名前とその人を選んだ理由を発表させる。全員で箴言3:5-6を読む。次の質問をする。

- この聖句には、どなたを信頼すべきだと記されていますか。
- 主を信頼する人にどのような約束が与えられていますか。
- ほかにどのようなことが求められていますか。
- あなたにとって主の導きを受けることはどのくらい重要ですか。

もしまだ挙げられていなければ、リストにイエス・キリストの名前を記させる。以下の参照聖句を読ませ、主が信頼すべき御方である理由を書き留めさせる。2ニーファイ2:5-8; モーサヤ3:5-11; アルマ7:11-13; モーセ1:39。キリストを信頼する理由と、リストにある人々を信頼する理由を比較させる。生徒一人一人に対する救い主の愛について、また主を信頼できる御方であることについて、教師の証を述べる。

箴言3:5-6を学習する際には、主がわたしたちの道をまっすぐにするという約束をどのように果たされるか、またこれを成し遂げるために主が用いられる手段を理解することが重要である。以下の3つの比較を使って、主が、聖霊、聖文、および生ける預言者によってわたしたちの道をまっすぐにされることを理解できるようにする。

1. 聖霊の導きと愛する人々の助言や励ましを比較する。次の質問をする。

- あなたを愛している人々があなたに助言を与えてく

れるのはなぜですか。

- あなたが聞き従うかどうかで、彼らから助けや励ましを与える頻度は変わりますか。それはなぜですか。

ヨハネ14:26とモロナイ7:16-19を読ませ、主がわたしたちに語られる方法を見つけさせる。モーサヤ2:36-37を読み、次の質問をする。

- この聖句には、主の御靈みたまをないがしろにするとどうなると書かれていますか。
 - これまでの人生の中で、聖靈の導きはどのくらい重要なものでしたか。
 - 聖靈の影響力は、これまでどのような形であなたに平安や守り、幸福をもたらしてきましたか。
2. 聖文を取扱説明書と比較する。次の質問をする。
- 初めて自分自身のパラシュートを折り畳むとしたら、どのくらい注意深く取扱説明書に従いますか。
 - いいかげんな気持ちで説明書を読むと、どのような危険を招くことになりますか。
 - 聖文はどのような点で取扱説明書と似ていると思いますか。
 - これまでに聖文を通して、主からどのような導きを受けてきましたか。
 - 聖文を注意深く読むために、あなたはどのようなことをしていますか。

3. 生ける預言者をジャングルのガイドにたとえる。

- アマゾンを旅するときに、ガイドに同行してもらうことは重要ですか。
- あなたはどのような人にジャングルのガイドをお願いしたいと思いますか。
- 預言者はどのような点で、経験と知識の豊かなガイドと似ていますか。
- 生ける預言者を通して与えられる主の導きは、どのような形で与えられますか。
- 預言者の勧告に従わない人には、どのような危険が待ち受けていますか。

モロナイ10:4-5; 教義と聖約1:14-18; および33:16-18を読ませる。御靈に従うこと、聖文を研究すること、そして預言者に従うことについて、これらの聖句から何が分かれるか話し合う。聖靈、聖文、または預言者から導きを受けた経験について分かち合わせる。次の質問をする。

- それらの導きは、個人的にどのような助けとなりましたか。
- それらの導きを受けられるよう備えるために、何が役に立ちましたか。

主がどのように人生を祝福してくださったか証する。

箴言31:10-31。わたしたちはキリストのような特質を持つ人と結婚すべきである。(10-15分)

それぞれの生徒に、神殿で結婚する準備ができていて今夜にも婚約するところだと仮定させる。次の質問をする。「どんな人と結婚したいですか。」黒板に「あなたの条件」と書き、その下に生徒が挙げる特質を書き出す。なぜこれらの特質が重要なのか尋ねる。

箴言31:10-31を読ませ、義にかなった女性の特質を見つけさせる。それらの特質がどのように義にかなった男性にも当てはまるか尋ねる。それらの特質はなぜ重要なのか話し合う。

伝道の書、伝道者

伝道の書1-12章

はじめに

「伝道の書」と訳されている *Ecclesiastes* という言葉は「会衆を呼び集める者」という意味である。時には「伝道者」と訳されることもある。伝道の書はヨブ記や箴言とともに「知恵文学」と呼ばれることがあり、詩歌と呼ばれる部門の第4の書である（『聖句ガイド』「聖書」の第4段落、148ページ参照）。

伝道の書の中心となっているテーマは、神を中心としなければ人生はむなしいという概念である。伝道者は次のように書いている。「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。」（伝道12：13）

この書についてのさらに詳しい概観は、『聖句ガイド』の「伝道の書」を参照する（180ページ。『旧約聖書：列王紀上ーマラキ書』にある「伝道の書、伝道者の言葉」、19ページも参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 平安といつまでも続く幸福は、この世の業績や財産ではなく、イエス・キリストの福音の中に見いだされる（伝道1：1-3、12-18；2：1-11；12：13-14参照）。
- 救いの計画は、神のあらゆる目的に適切な時や順序があることを教えている。神の計画に従うことは幸福をもたらす（伝道3：10-11参照）。

教え方の提案

伝道1-12章。主と親しい関係を持って生活しなければ、わたしたちの人生はむなしいものになる。（30-35分）

スペンサー・W・キンポール大管長の次の言葉を紹介する。

「わたしたちの生活が、わたしたち自身を天の御父や隣人に近づけるものでなければ、どうしようもない空虚だけが残ることだろう。」（『豊かで満ち足りた人生』『聖徒の道』1979年6月号、4参照）

次の3つの概念について、以下に用意した質問を使いながら簡単に話し合う。

- 自分の行動について神から責任を問われたり、自分の選択に対して裁かれたりすることはないと信じるとき、人々がどのような決断を下すか考える。

- 彼らが下す決断は、永続する幸福をもたらすと思いますか。

- 義にかなったことを選ぶ理由として、単に神の罰を避けること以外にもっとよい理由がありますか。

- 死後の生活ではなく、人生の経験は死とともに終わると仮定する。

- あなたに対して不正で不公平な扱いをし、矛盾した行動を取る人々はどうなると思いますか。

- 救いの計画を理解することは、それらに対処するうえでどう役立つと思いますか。

- あなたの気に入っている所有物について考える。

- 物質的な所有物が幸福をもたらすと信じていますか。

- 一般に、この世的な所有物に基づく幸福はどのくらい持続するでしょうか。

伝道の書では、教師がここで尋ねたのと同じような質問が採り上げられていることを説明する。伝道の書の著者は、その書の大半を、まるでこの世の人生のほかには何も存在しないと信じているかのように書いていることを指摘する。著者はこの書の全体を「空」という言葉を使って、意味のない、一時的な、あるいは満足感の得られないものを表現している。そのような視点から書くことによって、著者は福音がなければ人生がいかにむなしいか示している。その文体は、わたしたちが神に仕えて、神のすべての子どもたちに必ず訪れる裁きに備えなければ、人生には意味も幸福もほとんどないことを示している。

伝道の書は章に分けられているが、実際には一つの説教である。生徒がそのメッセージを理解できるように、順番に学んでいく。

伝道2：1-10を読ませ、著者がいつまでも続く喜びや幸福感を見いだそうとして探し求めたものは何か見つけさせる。著者が探し求めたものについてどう感じるか生徒に尋ねる。伝道1：1-3、14-15；2：11、17-18を読む。次の質問をする。

- 「日の下」という言葉は、どのような点でこの世的なものをうまく言い表しているでしょうか。
- 人生はむなしいもの、すなわちいつまでも続く平安や幸福をもたらさないもので満ちているという著者の結論に、あなたは賛成しますか。

生徒用学習ガイドにある伝道3章の最初の部分を読ませる。次の質問をする。「伝道の書3：1-8で教えられていることから、あなたはどのような慰めを得ますか。」

伝道4-5章では、たとえ神や救いの計画あるいは死後の生活を信じていない場合でも、善を行う方が悪を行うよりも大きな幸福を得られると教えている。伝道4：13-5：6を読み、この聖句がそのことをどう教えているか見つけさせ

せる。

生徒用学習ガイドにある伝道7-11章の最初の部分を読ませ、その活動をさせる。それらの章が教えていることについて話し合う。

伝道12章では、著者が人生の永続性を心から信じていたことが明らかにされている。伝道12:13-14を読み、著者がこの書を書いた本当の目的を探す。次の質問をする。

- この聖句が真実であることを知ると、どのような変化が生じると思いますか。

- 「人の本分」と裁きについて理解することは、あなたが幸福を探求するうえでどう役立つと思いますか。
- 伝道の書の説教は、わたしたちがこのレッスンの初めに話し合った3つの概念を理解するうえでどのように役立つと思いますか。

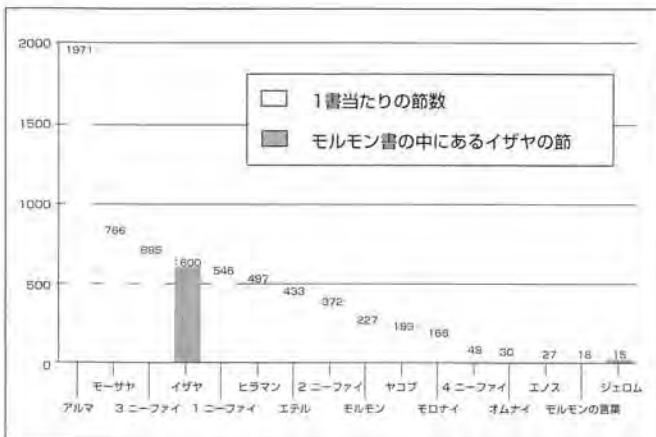
最後に「戒めを守る人を」(『贊美歌』193番)を歌う。神の計画を理解してそれに従うことが人生にどのような意義をもたらすか証する。

雅歌

預言者ジョセフ・スミスは、雅歌は靈感によって書かれたものではないと教えた(『聖句ガイド』「雅歌」、67ページ参照)。

イザヤはアモツの息子で、紀元前740から701年までの40年にわたりエルサレムで預言者として働いた。ヒゼキヤの治世には、ヒゼキヤの主要な相談役として宗教的にも政治的にも大きな影響力を持っていた。イザヤはあらゆる預言者の中で最も引用されることが多く、イエスやパウロ、ペテロ、ヨハネによって、ほかのいかなる旧約の預言者よりも頻繁に引用されている。

わたしたちにとってイザヤ書が非常に重要である理由が、少なくとも3つある。第1に、救い主がイザヤ書を熱心に調べるように命じておられること（3ニーファイ23:1参照）。第2に、イザヤはほかのいかなる預言者よりも多く聖文で引用されていること。イザヤ書の66章のうち19章がそのままモルモン書に引用されており、2節の例外を除いて、さらに2つの章が完全に引用されている。イザヤの1292節のうち、約430節がモルモン書の中で引用されており、その幾つかは2回以上用いられている（合計で600近くになる）。もしモルモン書の中にあるイザヤからの引用をすべて1か所に移して「イザヤ書」としたならば、それは以下の表に示されているように、モルモン書の中で4番目に大きな書となる。



またイザヤは新約聖書の中で137回、教義と聖約の中では106回引用されている。ほかの預言者たちが実に頻繁にイザヤ書を引用したり同書に言及したりしていることから、聖文自体がイザヤを理解するうえで最も役立つ情報源となることも珍しくない。例えば、モルモン書で引用されているイザヤの節の半分以上は、英語の欽定訳聖書とは違ったものとなっている。これらの違いは、イザヤの意味を明確にするのに役立ち、聖文の意味についてのさらなる洞察を与えてくれる。

イザヤのメッセージがわたしたちにとって非常に重要である第3の理由は、イザヤがまみえたイエス・キリストによる贋いに焦点を絞っているためである（イザヤ6:5; 2ニーファイ11:2参照）。ニーファイがイザヤの書いたものを引用した理由は、自分の民に「主なる贋い主を信じるようさらに十分に勧めるため」であった（1ニーファイ19:23）。末日聖徒の学者であるモンテ・S・ナイマンは次のように書いている。「モルモン書で引用されているイザヤ書の425節のうち、391の節がイエス・キリストの属性または使

命について何らかのことを述べている。」(Great Are the Words of Isaiah [1980年], 7) 預言者の主要な職務の一つはキリストについて証することであり (モルモン書ヤコブ7:11参照), キリストについて語っている預言者たちの教えを学ぶことは, わたしたちにとって非常に重要である。イザヤの名前は, いみじくも「エホバはお救いになる」という意味である。

預言者イザヤとイザヤ書についてさらに知るには、『聖句ガイド』「イザヤ」(33-34ページ)を参照する。イザヤ書を理解するための具体的な資料としては、『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にある特別講座E(135-139ページ)を参照する。

イザヤ1-12章

はじめに

イザヤがその務めを始めた当時（紀元前約740年）、イスラエルとユダはともに外部の敵の脅威にさらされていた。しかし彼らの最大の問題は、その内部が義に欠けていたことであった。イザヤはユダの民に、主からの叱責のメッセージをもたらした。しかしそのメッセージには、もし悔い改めるならば民は主と和解できるという、希望の約束も含まれていた。イザヤ1-12章を読みながら、ユダに対するイザヤのメッセージを自分自身に「当てはめ」応用する方法を見つける（1ニーファイ19:23参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・イザヤはイエス・キリストの生涯と使命について預言した（イザヤ2:3-12; 6:8; 7:14-16; 9:1-7参照。1ニーファイ19:23; ヤコブ7:11も参照）。
 - ・主はわたしたちが悔い改めて主の戒めを守るときに、完全に清くなり自分の罪の赦しを受けることができるようにしてくださった（イザヤ1:16-18参照）。
 - ・主の宮（神殿）の中で、主は御自分の民に義の道をお教えになる。神殿の儀式を受け、そこで交わす聖約を守ることは、わたしたちがシオンを確立し、主の来臨のときに主にお会いする用意をするのに役立つ（イザヤ2:2-5参照）。
 - ・モルモン書と教会は、福音が回復されたことを世の人々に知らせるための「旗」である（イザヤ5:26; 11:10-12参照。2ニーファイ29:2も参照）。

教え方の提案

イザヤ1-12章。預言者は、わたしたちが永遠の命を得るために何を知り、何を行う必要があるか教えてくれる。(20-25分)

当時十二使徒定員会会長であったエズラ・タフト・ベンソン会長は次のように語っている。

「生ける預言者が、わたしたちの知つておくべきことで、受け入れ難いことについて教えるとき、その言葉にどのような態度を示すかで、わたしたちの忠実さが試されます。……

預言者が真理を明らかにすると、民は二つに分けられます。心の正直な者はその言葉に注意を払いますが、不義な者は預言者の言葉を無視するか反論するのです」("Fourteen Fundamentals in Following the Prophet," in 1980 Devotional Speeches of the Year [1981年], 28-29)

イザヤ1-12章の中から、悔い改めを呼びかける言葉やキリストのような生活をするよう勧告している言葉を見つける。それらの教えが利益となり知識となるようにというニーファイの勧告に従って、見つけた勧告を自分の生活に取り入れるよう生徒を励ます(1ニーファイ19:23参照)。以下の参照聖句をクラスの生徒に割り当て、イザヤが与えた勧告を見つける。

聖句	イザヤの勧告
イザヤ1:11-13	偽善者になってはならない。
イザヤ1:16	バプテスマを受け、洗われて清くなりなさい。
イザヤ1:17	人々に仕えなさい。
イザヤ1:18	悔い改めなさい(イザヤ1:16-19の教え方の提案参照)。
イザヤ1:28	主を捨ててはならない。最後まで堪え忍びなさい。
イザヤ2:2-3	神殿に行きなさい(イザヤ2:2-5の教え方の提案参照)。
イザヤ2:4	平和をつくり出す人になりなさい。
イザヤ2:5	主の光の中を歩みなさい。主の御靈に近くありなさい。
イザヤ2:7-8	神が人を祝福するためにお使いになるものを拝したり偶像にしたりしてはならない。
イザヤ3:9	ソドムの民のように公然と反抗的に罪を犯してはならない。
イザヤ3:16-24	この世的な流行や習慣を避けなさい。
イザヤ5:11-12	安易な道を歩まないように注意しなさい(2ニーファイ28:8も参照)。
イザヤ5:18	動物が荷車や荷物に縛りつけられているように、罪に縛りつけられてはならない。
イザヤ5:26	主がその子らをお集めになるのを手伝いなさい。
イザヤ6:8-10	生ける預言者に従いなさい。

聖句

イザヤの勧告

イザヤ10:33	高慢と悪事を避けなさい。それらは再臨のとき滅ぼされるであろう。
イザヤ12:2	イエス・キリストを信じる信仰を持ちなさい(イザヤ1-66章の教え方の提案参照)。

イザヤ1-12章。イザヤが主に対して用いた様々な名前は、イエス・キリストの属性、目的、使命について教えている。(20-25分)

生徒用学習ガイドにあるイザヤ12章のための活動Aを行わせる。主の名前について学んだことを話し合う。

イザヤ1-66章。幾つかの重要な概念が、イザヤ書に対する理解を深めるために役立つ。(5-10分)

黒板に次の6つのヘブライ文字を書く。נ נ, א א, ו ו, י י, ס ס。生徒にその意味を解読するように言う。助けがなければ恐らく分からぬであろう。

次の2つのヒントを与える。

- נ = H, א = A, ו = I, ס = S
- ヘブライ語は右から左に読む。(訳注——答えはISAIAH, イザヤ)

これらのヒントがその意味を理解するのに役立ったのと同じように、イザヤを理解するためにも幾つかの重要なヒントが役立つ。そのことを生徒に伝える。

『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』の特別講座E(135-139ページ)には、イザヤを理解するための10の鍵が記されている(例えば、「『預言の靈』を持つ」や「ユダヤ人の預言の仕方を知る」など)。これらの鍵の中から役に立つと思うものを生徒に紹介する。クラスで話し合うそれぞれの鍵ごとに、鍵の形に切り抜いた大きな紙を提示する。それぞれの概念を見つけるよう参照聖句を与え、概念を鍵の形をした紙に書く。イザヤを学習する間、それらの鍵を常に掲示する。

イザヤ1-66章。イザヤはイエス・キリストの生涯と使命について預言した。(20-25分)

イザヤの最も重要な教えの一つを手早く学習する方法として、メシヤに関するイザヤの預言を調べていく方法がある。以下の表を参照聖句のみ記入して生徒に配付する。クラス全体または幾つかのグループに分かれて、すべての聖句を調べ、キリストとその降誕および再臨についてできるかぎり多くのことを見つける。完全ではないが、この表にはイザヤ書に含まれているメシヤに関する主要な預言がまとめられている。

聖句	イザヤの救い主に関する預言
イザヤ2:3-12:4-5	主の再臨のときには悪人が滅ぼされる。地上は主によって統治され、義人はそこで主の光の中を歩む。
イザヤ6:8	「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」という言葉は、前世でキリストがその神聖な使命を自発的に申し出されたことを表している。
イザヤ7:14-16	キリストはおとめから誕生し、インマヌエルと呼ばれる。主は悪を拒み、善をお選びになる。
イザヤ8:13-15	主が来られるとき、ある者は主を受け入れ、ある者は主を拒む。
イザヤ9:1-6	キリストは霊的な暗闇の時代に世にお生まれになる。主はガリラヤの人々に大いなる祝福をもたらされる。
イザヤ9:6-7	キリストは「大能の神」「平和の君」と呼ばれ、永遠にダビデの王座にお座りになる。
イザヤ11:10-12	主は力と栄光をまとめて来られ、福千年の扉を開かれる。
イザヤ12:6	福千年の間、主は御自分の民の中に住まわれる。
イザヤ25:8	キリストは復活を通して、死に打ち勝たれる。
イザヤ28:16	キリストは「隅の石」となり、試みを経た確かな土台となられる。
イザヤ32:1-4, 15-18	福千年の間、主は王として治められる。そこには安全と平和がある。
イザヤ33:22	主はわたしたちの裁き主、つかさ、王、救い主であられる。
イザヤ40:3	主は御自身の前に道を備えるために、使者をお遣わしになる。
イザヤ40:4-5; 42:1-4	再臨のとき、キリストは裁きのうちに来られ、「人は皆ともにこれを見る。」
イザヤ50:4	キリストは「 ^{おしえ} 教をうけた者の舌」をお持ちになる。
イザヤ50:5-6	キリストは進んで御父に従い、迫害を身に受けられる。
イザヤ53:2-12	キリストの贖罪の使命が説明されている。
イザヤ53:2	キリストは外見的にはほかの人と違っておられない。
イザヤ53:3-4	キリストは侮られ、捨てられ、悲哀をお知りになる。主はすべての人の悲哀と悲しみを負われる。
イザヤ53:5-6	キリストはわたしたちの罪の代価を払い、わたしたちを癒される。
イザヤ53:7	キリストは御自身を虐げる者を非難なさらない。
イザヤ53:8, 11-12	キリストは、御自分の民の罪のために殺される。
イザヤ53:9, 12	キリストは強盗とともに十字架につけられ、金持ちの墓に葬られる。
イザヤ53:9	キリストはどのような悪事もなされない。
イザヤ53:10	キリストがわたしたちのために死なれることは天の御父の御心である。

イザヤ53:12	キリストは栄光を得られる。
イザヤ54:5	キリストは創造主であり贖い主であられる。イスラエルは回復される。
イザヤ59:19-20; ジョセフ・スマスマータイ 1:26 (英文)	再臨のとき、主は昇る太陽のように東からおいでになる。
イザヤ60:19-20	福千年の間、主の栄光の輝きが世の光となる。
イザヤ61:1-2	キリストは獄にいる靈たちを含め、靈的な束縛の状態にある人々を助ける油注がれた者であられる (ルカ4:16-21; 1ペテロ3:18-19; 4:6も参照)。
イザヤ63:1-6; 66:15	キリストは「ひとりで酒ぶねを踏んだ」後、「報復の日」に力と栄光のうちにおいでになる。

イザヤ1:16-19 (マスター聖句、イザヤ1:18)。
イエス・キリストの贖罪と自ら悔い改めることによって、わたしたちは赦されて清くなることができる。(15-20分)

水の入った透明なガラス容器を持参する。生徒が見ていく前で、食紅を1-2滴入れる。色が広がるのを見ながら、食紅はどのような点で罪と似ているか尋ねる。生徒とともにイザヤ1:16-19を読み、次の質問をする。

- わたしたちの罪について、主はどのような約束をしてくださいましたか。
- わたしたちは悔い改めることで罪から清められるのでしょうか。それとも贖罪によるのでしょうか。

この質問に対する答えを、アルマ42:12-15とヒラマン5:10-11の中から見つけさせる。わたしたちは悔い改めることで、贖罪の力にあずかり清められることができることを生徒に理解させる。

キャップ1杯の塩素系漂白剤を水に落とし、ガラス容器をわきに置く。色は徐々にしか変化しない。悔い改めによって赦しへと導かれるには時間がかかることを生徒に説明する。(クラスが終わるころには、水は最初と同じように透明になっているであろう。) 次の質問をする。

- 水が赤くなるのにどれくらいの時間がかかりましたか。
- 水が透明に戻るまでにどれくらいの時間がかかりましたか。
- これらは罪や赦しにどう当てはめることができますか。

『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のイザヤ1:16-20についての注解にあるチャールズ・W・ベンローズ長老の言葉(142ページ)を紹介する。アルマ41:3-7を読み、悔い改めによってもたらされる祝福について話し合う。

イザヤ2：2-5。神殿の儀式と聖約は、教員が贖罪の祝福をさらに享受するのに役立ち、教員の生活や周りの人々の生活を変える。(25-30分)

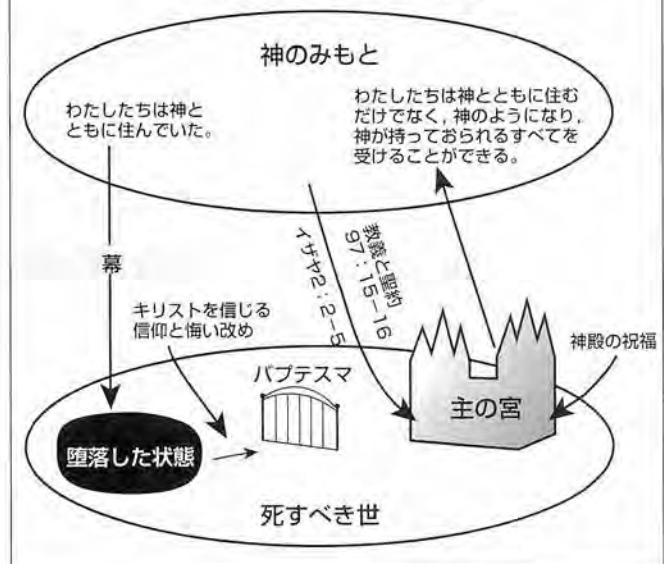
それぞれの生徒に、イザヤ2：2-3でイザヤが見たものを描かせる。何人かの生徒に描いた絵を見せてもらう。絵について話し合いながら、次の質問をする。

- イザヤが神殿を「主の山」と呼んだのはなぜだと思いますか。
- イザヤが神殿は「もろもろの山のかしら」として立つ、つまり最も高い位置に置かれる、と教えたのはなぜだと思いますか。
- 最も高い位置に置かれているものが、わたしたちの生活で最も重要なものを表すなら、神殿に取って代わるほど重要なものがあるでしょうか。

イザヤ2：6-9を読ませ、昔のイスラエルの民が、主と主の神殿よりも大切にしたものを見つけさせる。次の質問をする。「3-5節によれば、イスラエルの家が神殿を最も大切なものとするとき、どのようなことが起きますか。」

神殿がなぜそれほど重要なのか生徒に理解させるために、下にある図を描く。わたしたちが神のみもとに戻るのに神殿がどう役立つか話し合いながら、言葉を書き込んでいく。

救いの計画における神殿



生徒とともに、今年度の最初に前世と墮落について学んだことを復習する(13-14ページ参照)。以下の中から幾つか質問し、聖文から答えを見つけさせる。

- わたしたちは、墮落した状態でこの世に誕生しました。御父のみもとに戻るためには、まずどのようなステップを踏む必要がありますか。わたしたちが通らなければならない門は何ですか(2ニーファイ31：17-21；信仰箇条1：4参照)。
- バプテスマによって神のもとに戻る道に入った後、わた

したちが通らなければならないもう一つの門は何ですか(創世28：17参照)。

- 主はふさわしい状態で神殿に入ることを条件に、御自分の子らにどんなことを約束しておられますか(イザヤ2：2-5；教義と聖約97：15-18；109：14-19, 22-26, 35-38；128：15；131：1-3；132：19-24参照)。

責任能力のあるすべての者は、神殿の儀式によってしか福音の完全な祝福を得ることはできない。そのことを生徒に理解させる。ハワード・W・ハンター大管長は次のように語っている。

「教員に勧めたいのは、……主の宮を教員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる聖約を交わす至高の場所として確立することです。

神殿に参入し、神殿を愛する民になりましょう。時間とお金と個人的な状況の許すかぎり頻繁に神殿へ参入しましょう。亡くなった親族のためだけでなく、神殿での礼拝による個人的な祝福のため、奉獻された聖なる建物の中で与えられる神聖さと安全のためにも神殿に足を運びましょう。神殿は、美しさと啓示の場所であり、平安の場所です。そこは主の家なのです。」(ジェイ・M・トッド, "President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 5)

最近神殿に行った人を招待して、神殿での礼拝によって自分の生活がどのように改善されたか話してもらってよい。神殿にかかる詳しい事柄にではなく、神殿での経験がもたらした祝福について話してもらう。

イザヤ11章。イザヤ、終わりの時における福音の回復とイエス・キリストの再臨について預言する。(10-15分)

おおかみやそのほかの肉食動物の写真と子羊の写真を見せる。次のように尋ねる。「もしこれらの2頭の動物が同じおりの中に一緒に入れられたらどうなるでしょうか。」以下の絵を見せ(同じ絵が227ページにもある)、イザヤ11：6-9を読ませる。



次の質問をする。

- ・絵の中の光景が現実のものとなるのはいつですか。
- ・「主を知る知識が地に満ちる」のはいつですか。(福千年。イザヤ11:9参照。『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のイザヤ11:9についての注解、154-155ページも参照。)これらの聖句について深く考えさせ、福千年の間の生活について最も好きな点を発表させる。

イザヤ11:1-5を読ませ、次の質問をする。

- ・これらの聖句は、だれについて語っていると思いますか。(キリスト。)
- ・福千年が来る前に何が起こりますか。(悪人の滅亡とキリストの再臨。)

教義と聖約113:1-4を読み、この聖句から何が分かるか話し合う。生徒とともにイザヤ11:10-16を読み、福千年が来る前に起こるそのほかの事柄について話し合う。(イスラエルが集められる。『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のイザヤ11章についての注解、153-156ページ参照。)以下の聖句の幾つかを読み、生徒が、自分たちはどのようにして集められてきたか理解できるようにする。また、生徒たちがほかの人々の集合を助けるよう召されていることも理解させる。エレミヤ16:14-16;1ニーファイ10:14;教義と聖約29:7-8;45:9;88:81。

イザヤ13-23章

はじめに

『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』にあるイザヤ13-23章の「はじめに」(159ページ)を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・主は、御自分の選ばれた民を懲らしめるために悪人をお使いになることがあるが、悪事は最終的にすべての国民の中で滅ぼされる(イザヤ13:6-11, 19-22; 14:24-26参照。イザヤ10:5-27も参照)。
- ・前世で権威ある地位にあった靈ルシフェルは、自分自身を神よりも高くして、御父のほかの子供たちを支配しようとした。そのため、神の前から追い出されてサタンとなつた(イザヤ14:12-20参照。教義と聖約29:36; 76:25-28; モーセ4:1-4も参照)。
- ・約束されたメシヤとして、キリストは全人類の永遠の命の鍵を持っておられる。主の贖罪によって、全人類は必ず墓の中からよみがえる(イザヤ22:20-25参照。1コリント15:22; 黙示1:18も参照)。

教え方の提案

イザヤ13-14章。サタンの堕落とその「王国」(靈のバビロン)の本質を理解することは、サタンの誘惑を避けるうえで助けとなる。(35-45分)

次のような状況について想像させる。あなたは未来へ行くことができる。未来に来たときにあなたは1冊の歴史書を見つけるが、その歴史書には、あなたが元いた時代から今いる未来までの間の出来事が記されている。元の時代に戻るときに、その本で読んだことの大半を記憶したまま帰ることができる。

- ・その情報をどうしますか。
- ・自分の将来について賢明な決断をするうえで、その情報はどのように役立ちますか。
- ・預言とは、未来をかいま見たり歴史を読んだりするのに似ていることを説明する。この意味でイザヤ13-14章は特に興味深い。なぜなら、それは二元的であって、一つの聖句が、すでに起きた出来事と将来起こる出来事の両方について述べているからである。

イザヤ13:1と14:4の中で、イザヤはだれについて預言しているのか見つけさせる(『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のイザヤ13:1についての注解、160ページ参照)。黒板に「バビロンは、昔の國の名以外にどういう意味があるか」と書き、その答えを見つけるため教義と聖約133:14を読ませる。一つのグループにイザヤ13:6-22を読ませ、別のグループにイザヤ14:4-23を読ませる。次の質問をする。

- ・主は、昔のバビロンとその王に何が起こると言われましたか。それはなぜですか。
- ・それらの聖句は、今日の靈のバビロンにどのように当てはまりますか。
- ・歴史上のバビロンに対するイザヤの預言は成就しました。このことから、わたしたちの時代と靈のバビロンに対するイザヤの預言はどうなると予想されますか。

生徒用学習ガイドのイザヤ13-14章のための活動Aにあるアイデアを利用して、ルシフェルの堕落を説明する(『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のイザヤ14:12-15についての注解、161ページも参照)。サタンは、常に神の力の支配下にあることを生徒に思い起こさせる。また、主は御自分に頼る者を常にお守りになることも思い起こさせる。賛美歌「日は暮れ」(『賛美歌』、92番)の3番の歌詞を読むか歌う。

イザヤ24-35章

はじめに

第24-35章になると、イザヤ書の内容はその時代の邪悪な民に対して宣言された裁きから、終わりの時と福音の最後の神権時代に対する預言的な教えに移っていく。イザヤは、自分自身の時代と救い主の地上での務め、そしてこの終わりの時を実にはっきりと見た。このことを考慮すると、イエス御自身が「イザヤの言葉はまことに偉大……である」と言い、わたしたちに「これらのことを熱心に調べるように」とお命じになったのも驚くべきことではない（3ニーファイ23:1）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 再臨のとき、主は悪人を滅ぼし、義人を救われる（イザヤ24-25章；33:15-17；34:1-10参照）。
- キリストは御自身の復活を通して死に打ち勝たれ、全人類が復活して再び生きるための道を開かれた（イザヤ25:8；26:19参照。アルマ11:44も参照）。
- イエス・キリストを生活の土台として常に主に頼って強さを求めるならば、わたしたちは堕落する事がない（イザヤ28:16；30:15-18参照。ヒラマン5:12も参照）。
- 昔の預言者たちは、モルモン書の出現と、それが福音の回復において果たす重要な役割について預言した（イザヤ29章参照。エゼキエル37:15-17；2ニーファイ3:11も参照）。

教え方の提案

イザヤ24-35章。義にかなった備えのできている者にとって、イエス・キリストの再臨は栄えある出来事となる。そうでない者にとっては、神の裁きの恐るべき時となる。（40-50分）

「いざ救いの日を楽しまん」（『賛美歌』5番）を歌わせると、再臨に先立つ災難について非常に多くのことが教えられているにもかかわらず、わたしたちがその賛美歌にあるような、主の再臨についての歓喜と喜びの言葉を歌うのはなぜかを尋ねる。イエス・キリストの再臨に関する、エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を読む。

「この世は、かつてないほどの争いの光景を見せるでしょう。それでもなお、人々は天からの啓示に対して心をかたくなにするのです。そして主の大いなる日が近づいていることを明らかにするために、さらに大いなるしるしが与えられます。

『彼らは数々のしるしと不思議を見るであろう。これらは、上は天に、下は地に示されるからである。

彼らは血と、火と、立ち込める煙を見るであろう。

また、主の日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血に変わり、星は天から落ちるであろう。』（教義と聖約45:40-42）

これは喜ばしい話題ではありません。わたしはこの描写を好んでいるわけでもなければ、ますます多くの災難が人類に訪れる日を楽しみにしているわけでもありません。しかし、これらはわたし自身の言葉ではなく、主が語られたものなのです。主の僕としてこれらを知りながら、来るべき日に備えるために耳を傾ける人々に対して警告の声を上げるのをためらうことができるでしょうか。そのような災難を目の前にして黙っていることは罪です！

しかしそのような悲観的な状況の中にも、明るい面があります。——それは、わたしたちの主がそのすべての栄光のうちに来られるということです。主の再臨は、残された者の靈的な状態次第で、栄えあるものにも恐ろしいものにもなり得るのです。』（“Prepare Yourselves for the Great Day of the Lord,” in Brigham Young University 1981 Fireside and Devotional Speeches [1981年], 66-67）

イザヤ24:3-6を読ませ、イエス・キリストの再臨前と再臨時に、地が清められなければならない理由を見つけさせる。5節には、清めはだれに対するものであると書かれているか尋ねる。イザヤ25:9および26:2-4, 7-9, 13を読ませ、どのような人々がそれらの裁きを受けるか尋ねる。イザヤ25:3-8および26:12, 19-21を読み、再臨前と再臨時に、主が義人に対して何をされるか説明する。

ベンソン大管長の言葉を思い起こさせ、特に「主の再臨は、残された者の靈的な状態次第で、栄えあるものにも恐ろしいものにもなり得る」ことを強調する。どうすればわたしたちは主の再臨に備えることができるか尋ねる。生徒とともに次の聖句の一部またはすべてを読み、生徒に手伝わせながら、わたしたちが備えるためにできることのリストを作る。1ニーファイ22:16-22；教義と聖約1:12-14；38:30；45:32；64:23。義人は再臨を恐れる必要はなく、そのときに起きるすばらしい出来事を楽しみに待つことができることを生徒に理解させる。

イザヤ28:16-20。イエス・キリストを生活の土台とし、常に主に頼って強さを求めるならば、わたしたちは堕落する事がない。（20-25分）

クラスに大きくて硬そうな石1個と、毛布1枚を持参する。それらを生徒に見せる。時間を与えて、それら二つのものを使ってイエス・キリストについて教える方法を考えさせる。何人かの生徒にアイデアを紹介させる。イザヤ28:16-20を読ませ、イザヤが主について教えるためにそれらをどのように使ったか見つけさせる。次の質問をして16節について話し合う。

- わたしたちがキリストを土台の石としなければならないのはなぜですか。
- 主はどのような点で「堅く」据えられた土台なのですか。

イザヤ28:16とマタイ7:24-27およびヒラマン5:12を相互参照しておくとよい。

イザヤ28:20について話し合う際、次のような人物を想像させる。その人物は、背が高すぎて自分のベッドに入りきれないうえ、持っている毛布は小さすぎて自分を覆うことのできない。次の質問をする「それは、救い主の贖罪が及ばない生活とどのように似ていますか。」またその聖句は、人が贖罪を受け入れさえすれば、贖罪の効力が人を完全に「おおう」ことも思い起こさせてくれる。

贖罪の力について話し合い、証する際に、2ニーファイ9:21；アルマ7:11-12；および教義と聖約19:15-19を参照するとよい。

 **イザヤ29章（マスター聖句、イザヤ29:13-14）。**イザヤ、モルモン書の出現について預言する。（35-40分）

以下の活動は、モルモン書の出現に関するイザヤの預言を生徒に理解させるのに役立つであろう。次の表は、モルモン書が世に出されることに関するイザヤの預言と、それぞれがどのように成就したかを比べたものである。右側の欄にある参照聖句の順番を変えておき、個人やグループで左右両方の欄の聖句を調べさせ、預言とその成就とを適切に結ばせる。

モルモン書についてのイザヤの預言	イザヤの預言の成就
イザヤ29:4	ヨセフ・スミス-歴史1:29-34, 42, 51-52
イザヤ29:10	ヨセフ・スミス-歴史1:10, 18-19
イザヤ29:11	エテル4:4-6
イザヤ29:11-12	ヨセフ・スミス-歴史1:63-65

イザヤの預言について話し合う際に、以下の質問が役立つであろう。

- 昔の預言者たちがモルモン書の出現について知っていることを預言していたことを知ることは、今日の人々にとってどのように役立つと思いますか。
- 聖書の中のそのような預言は、人々をモルモン書の出現に備えるうえでどのように役立つと思いますか。
- 神が、預言者たちにそのような詳しい知識をお授けになるのはなぜだと思いますか。
- これらの預言は、神の先見の明について何と教えていますか。
- 神が全知全能であられることを理解することは、神を信頼するうえでどのように役立ちますか。

エゼキエル（エゼキエル37:15-17参照）やエジプトのヨセフ（2ニーファイ3:11参照）、およびニーファイ（2ニーファイ27:6-23）など、ほかにもモルモン書の出現を預言した昔の預言者がいる。

マスター聖句の節（イザヤ29:13-14）に印を付けさせ、それらをヨセフ・スミス-歴史1:19と相互参照させる。次の質問をする。

- 人々は言葉で神を敬うが心では敬わない、とはどういうことですか。
- 福音の回復とモルモン書は、どのような点で「不思議な驚くべきわざ」なのですか。
- モルモン書は、どのようにして世の賢い人々の知恵を滅ぼすと思いますか（イザヤ29:11-14参照）。

3人の生徒に、二人の宣教師とモルモン書について質問する求道者のロールプレーをさせてもよい。残りの生徒は、宣教師の役を演じている生徒に参照聖句を教えることができる。求道者役の生徒が尋ねる質問として、次のようなものを準備する。ただし求道者は議論好きな人物ではなく、素直に真理を求めている人とする。

- 聖書には、モルモン書について何か書かれていますか。
- なぜ聖書以外にも聖典が必要なのですか。
- なぜほかの教会はモルモン書を受け入れていないのですか。
- ジョセフ・スミス以外に金版を見た人はいますか。
- モルモン書が真実であり、ジョセフ・スミスが預言者であることは、どうすれば分かりますか。

何人かの生徒に、モルモン書に対する気持ちと、モルモン書が自分の生活に及ぼしてきた影響について話してもらう。

イザヤ28:23-29; 30-31章；36-37章；40章。主の力は人の力よりも無限に大きい。わたしたちが主を「待ち望む」とき、すなわち忍耐強く主を信頼して主への信仰を持つとき、わたしたちは主の力を受けて試練や困難を堪え忍んでそれらに打ち勝つ助けを得る。そして最終的には、主の約束されたすべての祝福を受ける。（35-40分）

次の質問をする。

- あなたが信頼している人にはどのような人がいますか。なぜその人たちを信頼していますか。
- アマゾン川の危険な旅を安全に導いてくれる人として、どのような人を信頼しますか。
- 自動車を修理する必要があるときには、どのような人を信頼しますか。
- 手術を受ける必要があるときには、どのような人を信頼しますか。
- 救いの道の導き手として、どのような方を信頼しますか。
- 主を信頼する必要があるのはなぜですか。
- 主を信頼しないようにという誘惑はどのような形でやってきますか。

イザヤの時代、敵からの救いを求めていたイスラエルは、主よりもむしろエジプトなどの近隣諸国を信頼したいという誘惑に駆られた（イザヤ30:1-3, 7; 31:1-3参照）。イスラエルの民はしばしば偽りの神々を礼拝し、主以外の別のものに助けを求めていた。そのため、救われるためには主を信頼して主に仕えることを学ぶ必要があった。

イザヤ30:15-17を読ませ、主がイスラエルの民に何を約束されたか自分の言葉で説明させる。また、イスラエルの民が信頼を寄せていたものについて、主は何と警告されたか説明させる。それらの聖句をヒラマン4:13と相互参

照させる。次の質問をする。

- わたしたちは、なぜこれほど主の助けを必要としているのでしょうか。救いの計画では、その理由についてどのように教えていますか。(わたしたちはだれもが罪を犯し、墮落の影響下にある。そしてだれもがイエス・キリストの贖罪を必要としている。)
- もし主から助けや強さを得られないとすると、わたしたちの将来はどうなると思いますか。

全員でイザヤ30:18を読み、わたしたちが自分自身の力に頼り続けて(そして失敗して)いる間に主が何をなさるか説明する。次の質問をする。

- 主を待ち望むとはどういう意味だと思いますか。
- 主を待ち望む者が祝福を受けるのはなぜですか。

イザヤ30:19-21を読ませ、主が御自分を待ち望む者に約束しておられる祝福を見つけさせる。

イザヤ36-37章を要約する。ここではヒゼキヤ王とエルサレムの民が、主を待ち望むことについて学んだときのことが記されている。この話がわたしたちの時代にどう応用できるか生徒が理解できるように助ける。特に、主とその戒めに信頼を置くことで、誤解や批判を受けるときにどう応用できるか理解できるようにする。次のように尋ねる。「もしわたしたちがヒゼキヤのように忠実に待ち望んで堪え忍ぶなら、どのようなことが起きるでしょうか。」

イザヤ40:10-31は、主の力について証している。また主が悪人を滅ぼし、主を待ち望む義人に報いられることが証されている。幾つかの節を選んで生徒とともに読む。特に28-31節は声に出して読むとよい。これらの節が真実であると分かったときの経験を紹介するか、生徒にそのような経験を話してもらう。

イザヤ28:23-29では、主を信頼することについてイザヤがさらに証している(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』のイザヤ28:23-29についての注解、172ページ参照)。これらの聖句を通して、どのような状況に置かれようとも、主は信頼できる御方であることを生徒に理解させる。

イザヤ36-39章

はじめに

イザヤ36-39章には、歴史の移り変わりが記されている。アッスリヤによる侵略の脅威がなくなり、ユダの将来にとって真の脅威となるバビロンの台頭が記録されている。これらの章は、列王下18:13-20:19の話と非常に似ている。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は、憐れみ深く思いやりがあり、その子らが御靈を感じて悔い改め、罪の赦しを受けられるよう様々な方法を

用意してくださる(イザヤ38:17参照。ヤコブの手紙5:14-15, 20; 教義と聖約62:3も参照)。

- 死と苦しみは、御父の幸福の計画の一部である(イザヤ38:10-20参照)。

教え方の提案

イザヤ38-39章。死と苦しみは、御父の幸福の計画の一部である。(15-20分)

以下の質問をする。

- 自分がいつ死ぬか知りたいと思いますか。
- それはあなたの残りの人生にどのような影響を及ぼしますか。
- それは物質的および靈的なものに対する、あなたの価値観をどのように変えますか。

イザヤ38:1を読ませ、次の質問をする。

- ヒゼキヤがイザヤの言葉を聞いて悩んだのはなぜですか。
- ヒゼキヤが祈った後、イザヤはヒゼキヤにどのような言葉を伝えましたか(イザヤ38:4-6参照)。
- 主は、約束がすべて果たされることを示すために、ヒゼキヤにどのようななしをを与えると言われましたか(イザヤ38:7-8参照)。

イザヤ38:10-20を読ませ、ヒゼキヤが死について話したときに用いた比喩表現を見つけさせる。次の質問をする。「ヒゼキヤが癒されたとき、救はどのような役割を果たしましたか。」(イザヤ38:17参照)。次の質問をする。

- わたしたちは死を恐れるべきですか。
- 福音はわたしたちに、福音なしには得られない希望を与えてくれます。それはどのような希望ですか。

ヒゼキヤは自分が神によって救い出されたことを理解していた。そのことを示すためにイザヤ38:15-17を読む。苦しみを堪え忍ぶことは、どうして神の幸福の計画の一部になるのだろうか。生徒に尋ねる。ヒゼキヤは、わたしたちの人生は御父の目的にかなって用いるように与えられた賜物であると教えている。その知識は人の生き方にどのような影響を及ぼすか生徒に尋ねる。

イザヤ40-47章

はじめに

イザヤ36-39章には、歴史的な出来事がおもに散文で書かれている。それ以前のほとんどの部分は美しい詩的な文体で書かれている。第40章以降も再びこの詩的な文体に戻り、それが最後まで続く。第40-47章の主要なテーマは、

救いをもたらす神の力と、それ以外の人や物に人生と救いをゆだねる愚かさとの対比である。

学び取るべき重要な福音の原則

- 偽りの神々や人が造ったそのほかの物には、救いや祝福をもたらす力はない。わたしたちの創造主は天の御父であり、御自分を頼る者を救い、祝福し、強められる（イザヤ40：12-31；41：8-29；43：14-21参照）。
- 主は時折、主の業を成し遂げるために国々の指導者や民に靈感をお与えになる。たとえその靈感がどこから来るか指導者には分からなくても、主の導きを受け入れられるときにそれがおこる。（イザヤ41：1-4；45：1-4参照）。

教え方の提案

イザヤ40-47章。どのようなものであっても、偽りの神々には祝福や救いをもたらす力はない。（25-35分）

お金、軍事用品、科学者や科学の機器、芸能界やスポーツ界の著名人、あるいは政権の象徴など、現代の偶像となり得るもの、または写真を見せる。また、救い主の絵も見せる。これらのすべてに共通していることを尋ねる。（それらは、人々が幸福を得たり困難から救われたりするためのよりどころとなる。）教義と聖約1：12-16を読み、それらの聖句で主が偶像礼拝について何とおしゃったか尋ねる。17-23節を読み、主はわたしたちを将来に備えさせるために何をしてこられたか尋ねる。

イザヤは印象的な表現を用いて、イスラエルの神の力と偶像の無力さとを対比している。クラスをグループに分け、各グループに以下の6つの聖句から1つを割り当てる。（時間やクラスの人数に比べて聖句が多すぎる場合は、イザヤ40章；44章；および47章だけを用いる。）

- イザヤ40：12-31
- イザヤ41：4-29
- イザヤ43章
- イザヤ44：6-28
- イザヤ46章
- イザヤ47章

グループで割り当てられた聖句を研究し、神の力と栄光、および偶像や魔術の無益さについてイザヤが語ったことを書き出す。特に現代の偶像に焦点を当てながら、見つけたことを発表する。

教義と聖約の中で、主は偶像礼拝をバビロンと同列に扱われている（教義と聖約1：16参照）。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるイザヤ47章の注解に付いているバビロンに関する表（199-200ページ）について話し合う。マルビン・J・バラード長老が幾つかの難問を解決しようとしていたときの以下の経験を読む。

「そのような状況の下で、わたしは主に祈り求めていると、……その晩、以後二度と忘れる事のできないすばらしい示現と印象を受けたのです。わたしはこの場所〔ソルトレーク神殿〕、つまりこの部屋に連れて来られました。……わたしは、さらにもう一つの特権が与えられると言わされました。そして、ある部屋へ通され、だれかに会うことになっていると告げられました。部屋に入ると、1段高い所に座っている御方がおられました。それはこれまでに出会ったことのない栄光に満ちた御方でした。わたしは前の方へ導かれ、その御方に紹介されました。近づくと、その御方はにっこりと笑ってわたしの名前を呼び、両手を差し伸べました。たとえ百万年生きたとしても、わたしは一生その笑顔を忘れないでしょう。その御方はわたしを両手で抱きしめ、口づけをして、祝福してくださいました。全身喜びに震えながら、わたしはその御方の足元に身を投げ出しました。そして釘跡のあるその御方の足に口づけをし、深い喜びに満たされ、まさしく天国にいるという気持ちを味わったのです。そのとき次のような強い思いがわき起ってきました。これから80年かかるとも、ふさわしい生活を送り、主の御前に行き、そのとき主に会って感じた気持ちを再び味わえるように、現在、そして将来にわたって自分自身のすべてをささげよう。」（Melvin J. Ballard-Crusader for Righteousness [1966年]，66）

イザヤ40章。イザヤの預言はわたしたちに再臨について教え、最後まで忠実に堪え忍ぶことができるよう希望をもたらしてくれる。（15-25分）

イザヤ40章には、メシヤすなわちイエス・キリストについての幾つかの重要な教えが記されている。ジョージ・フレデリック・ヘンデルは1-11節の大半を、その作品『メサイア』の中で用いている。もしCDやテープなどを入手できれば、イザヤ40章が引用されている箇所を幾つか選んで聴かせる。（『メサイア』の中でイザヤ40章が引用されているものは、「わが民を慰めよ」、「もろもろの谷は高くせられ」、「こうして主の栄光が」、「よきおとずれをシオンに伝える者よ」、および「主は牧者のようにその群れを養い」がある。）生徒に注意深く聴くように言い、次に聖句のどの箇所が歌われているか見つけさせる。クリスチャンではない人が大勢いる中で、世界中の人々が救い主とその神聖な使命についてのこの曲を歌っていることを説明する。この曲には、人の心に感情的で靈的な影響を及ぼす大きな力がある。

この章を読んで話し合い、その教えを生活に応用するに当たって、生徒用学習ガイドにあるイザヤ40章のための活動A, B, またはCを利用する。活動の後、生徒は自分を靈的に鼓舞してくれる聖句を一つ選び、選んだ理由を残りの生徒に説明する。その聖句を暗記し、自分を靈的に高める必要のあるときに暗唱するよう生徒に勧める。

イザヤ48-66章

はじめに

末日聖徒の著述家シドニー・B・スペリーは次のように書いている。「〔イザヤ〕40-66章の根底に流れるテーマは、イスラエルの贖いである。これらの章は、預言書に分類される旧約聖書の文献の中で、いわば珠玉の宝石とさえ言えるものである。その巧妙な美しい言葉遣いで、イザヤは人々を慰め、民が贖われて神の王国が地に打ち勝つときを目を向けさせている。」(The Spirit of the Old Testament, 第2版〔1980年〕, 188)

イザヤ書のこの最後の部分には、イエス・キリストの生涯と使命が述べられているが、これは恐らく旧約聖書の中で最も偉大な言葉であろう。第48-66章を読みながら、贖い主であられるキリストを信じるようさらに説き勧めるイザヤに目を向ける(1ニーファイ19:23参照)。『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』イザヤ48-54章の「はじめに」, 203ページも参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

- 昔のイスラエルの民は、その悪事のために散らされた(イザヤ18:2, 7参照)。終わりの時にイスラエルは義を受け入れて集められる(イザヤ49:5-6, 11-12, 22; 51:11; 52:8; 54:7, 14参照)。
- イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、御父に対する弁護者であられる。贖罪を成し遂げる中で、主は全人類の苦難と罪を受け、復活によって死に打ち勝たれた。贖罪はわたしたちに、救いの計画を通して永遠の命を得る機会を与えてくれる(イザヤ53章参照。モーサヤ3:7-11; アルマ7:11-12も参照)。
- 人は全能者の思いと目的を完全に理解することはできない。したがって、わたしたちは信仰を行使して、主の知恵と勧告に頼らなければならない(イザヤ55:8-9参照)。
- 断食の律法に従うことによって、罪に打ち勝ち、啓示を受けるための強さが与えられる。また、貧しい者を世話をための手段が用意される(イザヤ58:3-12参照)。
- 安息日を聖なる日として保つことによって、幸福と繁栄がもたらされる(イザヤ58:13-14参照。教義と聖約59:9-16も参照)。
- 罪はわたしたちを神から引き離すが、イエス・キリストの贖罪のおかげで、わたしたちは悔い改めて神のもとに戻ることができる(イザヤ59章参照)。
- 再臨の時、主は悪人を滅ぼし、義人を救い、福千年をお始めになる(イザヤ63:4-6; 64:1-3; 65:17-25; 66:15-23参照。教義と聖約101:25-31も参照)。

教え方の提案

「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション22「わたしの選ぶ断食」では、現代の事例を用いて断食がもたらす祝福について説明されている(教え方の提案は「旧約聖書」ビデオガイドを参照)。

イザヤ49-54章。昔のイスラエルの民は、その悪事のために散らされた。終わりの時にイスラエルは義を受け入れて集められる。(20-25分)

一人の生徒に信仰箇条第10条を暗唱させる(信仰箇条1:10参照)。イザヤ18:2, 7を読み、次の質問をする。

- イザヤは、信仰箇条第10条に関係のあるどんなことについて語っていますか。
- イスラエルは、なぜ散らされなければならなかったのですか(1ニーファイ21:1参照)。
- イスラエルが悪事のために散らされたとすれば、集められるためには何をする必要がありますか。

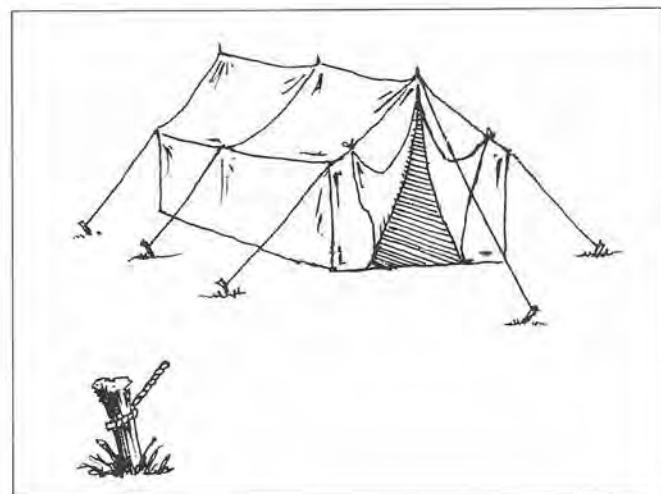
黒板に以下の聖句を列挙する。生徒にそれらを読ませ、集められることに関連する語句を見つけさせる。

- イザヤ49:5-6(帰らせ、集める、おこし、残った者を帰させる)
- イザヤ49:11-12(大路、遠くから来る)
- イザヤ51:11(あがなわれた者は……帰ってきて)
- イザヤ52:8(帰られる)
- イザヤ54:14(堅く立ち)

次の質問をする。

- これらの語句は、物質的な集合とどのような関連があるでしょうか。また、義になかった者となることとどのような関連があるでしょうか。
- イザヤ54:2-3の中で、シオンは何にたとえられていますか。(天幕。)
- それらの聖句の中で、シオンの天幕を支えるものとしてどのような象徴が用いられていますか。(杭。)

以下の絵をコピーするか黒板に描き、イザヤ54:2-3の説明に役立てる。



次の質問をし、生徒の答えを黒板に書き出す。

- 天幕はどのような点でイスラエルの集合を象徴していますか。
- 集合を助けるために、今わたしたちに何ができますか。（例えば、福音の原則に従って生活する、よい模範を示す、福音のメッセージを教会員でない友人に紹介する、伝道に出る準備をする。）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を紹介する。

「目的なくさまよい、麻薬や非行、不道徳な行為、そしてそれらにまつわるあらゆる罪悪に巻き込まれ、悲しみの道を歩いている若人が非常に多くいます。夫に先立たれ、親切な声や、愛に満ちた心からの気遣いを待ち望んでいる人々もいます。かつては信仰を持って熱心だったにもかかわらず、だんだんそれが冷めてきている人がいます。教会に戻ることを望んでいるのですが、どうしたらよいのかまったく分からずにいる人も大勢います。彼らは優しく差し伸べられる手を必要としています。わずかの努力があれば、その多くの人が、また戻って来て、主の食卓で再び恵みにあずかれるようになります。

兄弟姉妹の皆さん、わたしには今、望み、祈っていることがあります。……困っている人、苦しみを抱えて困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会に導く決心をしていただきたいのです。そしてその人たちが、教会員の力強い手と優しい心によって温かく迎えられ、慰められ、支えられ、幸せの道を歩めるようにしてほしいのです。」（『聖徒の道』1997年1月号、99）

 **イザヤ53章（マスター聖句、イザヤ53：3-5）。**イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、御父に対する弁護者であられる。贖罪しゆくざいを成遂げる中で、主は全人類の苦難と罪を受け、復活によって死に打ち勝たれた。贖罪はわたしたちに、救いの計画を通して永遠の命を得る機会を与えてくれる。（30-40分）

生徒に、敵意に満ちた邪悪な人々に捕えられ、死刑を宣告されたと想像させる。次の質問をする。

- あなたは最後に何と言いますか。
- 一般的に、人が最後に語る言葉からどのようなことが分かると言われていますか。（最後の言葉によって、その人の大切なものが分かる。）

モルモン書の預言者アビナダイは、邪悪なノア王とその祭司たちによって殺された。アビナダイの最後の言葉には、イザヤ53章の全文が引用されていることを説明する（モーサヤ14章参照）。

生徒用学習ガイドにあるイザヤ53章のための活動Aを行わせる。その活動の中で救い主について最も印象に残ったことを発表させる。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のイザヤ53章についての注解（210-213ページ）の内容を幾つか紹介してもよい。

イザヤ53：11-12；ローマ8：16-17；および教義と聖約76：92-95を読む。次の質問をする。

- 死すべき世で受けたあらゆる苦しみの後で、主は何をお受けになりましたか。
- 主はそれをだれと分かち合われるのですか。

全員で、「主イエスの愛に」（『賛美歌』、109番）、「高きに満ちたる」（『賛美歌』、112番）、「いやしく生まれ」（『賛美歌』、113番）など、イザヤ53章の精神や趣旨、教えなどを反映している賛美歌を1曲または数曲歌うか読むとよい。ニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を紹介する。

「この驚嘆すべき栄光ある贖罪は、人類史上あらゆるものの中に位置する出来事です。ちょうどちょうどつがいのように、すべてが贖罪に……かかっているのです。」（『聖徒の道』1985年7月号、74）

救い主とその犠牲に対する教師自身の気持ちを伝える。また、自分の気持ちを話したい生徒のために数分時間を取る。

イザヤ55：1-7。キリストに来るすべての者は赦しと幸福、および平安を受ける。（15-20分）

コップ1杯の水と一切のパンを持ち上げる。イザヤ55：1-3を読ませ、その中で水とパンについてどのようなことが記されているかを見つけさせる。ヨハネ4：13-14および6：47-51を読ませ、水とパンがだれを表しているかを見つけさせる。次の質問をする。「パンと水はどのような点で救い主のことを適切に象徴していますか。」

教義と聖約89：14を読む。次の質問をする。

- この聖句によれば、「命の糧」は何ですか。
- パンは何からできていますか。
- パンと水が命を維持するのに不可欠であるなら、キリストを象徴するパンと水から、靈的な命の源について何が分かりますか。

エズラ・タフト・ベンソン大管長が総大会の最後に語った以下の言葉を紹介する。

「今回の大会において見事に打ち出された神聖な教会の使命に対して、新たな献身の気持ちを持って、お帰りいただきたいと思います。その使命とは、すなわち、『キリストのもとに来るようすべての人を招』（教義と聖約20：59）くことで〔す。〕」（『聖徒の道』1988年6月号、89）

イザヤ55：3-7を読ませ、二つのリストを作らせる。一つには主のもとに来る方法を記し、もう一つにはキリストのもとに来ることによって受ける祝福を記す。発表する時間を与える。マタイ11：28-30；モーサヤ26：30；およびモロナイ10：32-33を読ませ、キリストのもとに来る人々

に与えられるそのほかの祝福を見つけさせる。

 **イザヤ55:8-9 (マスター聖句)。**人は全能者の思いと目的を完全に理解することはできない。したがって、わたしたちは信仰行使して、主の知恵と勧告に頼らなければならない。(15-20分)

クラスが始まる前に、教室の中に障害物の多いコースを作り、机や列の間を曲がりながら進まなければならないようにしておく。コースには本やそのほかの障害物を置く。生徒の一人に目隠しをし、別の生徒に、目隠しをした生徒が障害物の多いコースを進むのを声で導くように割り当てる。

イザヤ55:8-9を読ませ、障害物の多いコースがそれらの聖句とどのように関連しているか見つけさせる。次の質問をする。

- 目隠しをしていない生徒は、なぜ最善の道が分かったのですか。
- それは、わたしたちの視野を神の視野と比べることどのように似ていますか。
- 目隠しをした生徒は、なぜ指示が出されるのか、いつも理解していましたか。どんな危険があったか知っていますか。
- 目隠しをした生徒が目隠しをしていない生徒の指示に従ったのはなぜですか。
- これらの質問は、わたしたちと主との関係にどのように当てはまりますか。

もう一度イザヤ55:8-9を読ませ、聖典に印を付けさせる。

神の道と人の道の違いについて教えるために、黒板に以下の表を作る。

	神の道	人の道
幸福		
成功		
礼拝		

生徒とともに、幸福、成功、および礼拝についての神の勧告と人の勧告を表に記入する。完成したら、次の質問をする。

- もし目隠しをした人が、同様に目隠しをした人から指示を受けて障害物の多いコースを進んだとしたらどうなると思いますか。
- それは、靈感を受けていない人の勧告に従ったときの結果とどのような点で似ていますか。
- 神の勧告に従うとどのような結果が得られますか。
- すべてを御覧になり、すべてを御存じである神に従つていると知るとき、どのような気持ちがしますか。

親や教会指導者の勧告に従いたくなかったが、後になってその勧告が最善のものであったことを知ったときの経験を紹介してもらう。

イザヤ58:3-14。断食の律法に従うことによって罪に打ち勝ち、啓示を受けるための強さが与えられる。また、貧しい者の世話をするための手段が用意される。安息日を聖なる日として保つことにより、幸福と繁栄がもたらされる。(20-25分)

可能であれば、一人の神権指導者をクラスに招待し、断食や安息日を聖なる日として保つことについて答えてもらう。神権指導者には以下の質問リストを渡し、生徒がほかの質問をするかもしれないことを伝えておく。指導者に、これらの原則について証を述べてもらう。(必ず事前に計画し、指導者が数日の準備期間を持つようする。)

- 断食は通常どのくらい続けるべきですか。
- 断食をしている間に水を飲むことは許されますか。
- どのくらいの頻度で断食するべきですか。
- どのようなことのために断食するべきですか。
- 断食献金はどのくらいの金額を納めるべきですか。どのくらいの頻度で納めるべきですか。
- 病気のときは、断食するべきですか。
- 子供は何歳から断食を始めるべきですか。
- 断食をしていてイライラする場合はどうすればよいですか。
- 断食とただ空腹でいることの違いは何ですか。
- 安息日を聖なる日として保つためのよい方法にはどのようなものがありますか。
- 会社から安息日に働くように求められた場合はどうするべきですか。
- 安息日に宿題をしても問題ないですか。
- なぜ教会は、安息日にしてよいこととしてはいけないとのリストを用意してくれないのでですか。

神権指導者の訪問を手配できない場合は、教師自身がこれらの質問の幾つかまたはすべてに答える。資料として『福音の原則』(31110 300)、第24-25章を用いるとよい。話し合いの一部として、『若人の強さのために』から、日曜日の過ごし方について記した部分(32-33ページ)を読むのもよい。

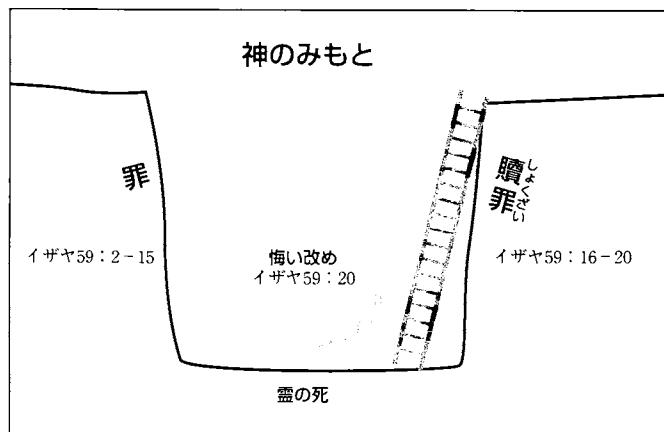
イザヤ58:3-14を読み、主が断食と安息日の律法を心から守る者に約束しておられる祝福を書き出し、それらについて話し合う。これらの節を、主が安息日について教義と聖約59:9-14の中で明らかにしておられることと比較する。これらの福音の原則に従うことによって靈性を高めるよう生徒を励ます。

イザヤ59章。罪はわたしたちを神から引き離すが、イエス・キリストの贖罪しょくざいのおかげで、わたしたちは悔い改めて神のもとに戻ることができる。(25-30分)

ローマ8:35-39を読ませ、パウロがした質問を見つける。 (わたしたちを神の愛から引き離せるものがあるだろうか。) イザヤ59:1-2を読ませ、何がわたしたちを主から離れさせるのか見つける。パウロが言っているように、神の愛は決して変わることはないが、罪を犯すと神の愛の祝福を享受できなくなる (教義と聖約95:12も参照)。そのことを理解できるようにする。この概念を視覚的に説明する方法として、生徒用学習ガイドのイザヤ59章にある図を利用するのもよい。

イザヤ59:3, 7で、イザヤは民が完全に罪にのめり込んでしまったことを印象的な方法で語っている。イザヤは体の各部分を挙げることで、民がどのような神の律法を犯したか、現実的な意味でも象徴的な意味でも指し示した。これらの罪こそがイスラエルの民が主から引き離された理由であった。手、指、くちびる、舌、足、思いのそれぞれについて、イザヤがどのような種類の罪を結びつけたか調べさせる。もし義にかなった人について述べるとしたら、主はこれら体の各部について何と言われると思うか生徒に尋ねる。

わたしたちがどれほど善い行いをしようとも、贖罪しょくざいなくして救われることはできないことを生徒が理解できるようにする。以下の図を黒板に描くか、絵のコピーを配付する。参考聖句は記入するが、ほかの部分は空欄にしておく。



イザヤ59章を読ませ、この図が神のもとに戻ることどのような関係があるか見つけさせる。読みながら、生徒がそれぞれの箇所に該当する語句を書き込めるように助ける。全員で2ニーファイ25:23を読み、この聖句がイザヤ59章をどのように要約しているか説明する。イザヤ59:1-2近辺の余白に相互参照として2ニーファイ25:23と書かせる。

イザヤ60-66章。終わりの時、再臨、および福千年の出来事を理解することは、それの大いなる出来事に備えるうえで役立つ。(25-35分)

黒板に線を引いて3つの欄を作り、それぞれの欄に「終わりの時」、「再臨」、「福千年」と書く。今日はイザヤ書から、それら3つの出来事について教えている聖句を学習することを説明する。クラスを3つのグループに分け、各グループにそれらの出来事の一つと、以下の聖句を割り当てる。

- 終わりの時。イザヤ60:1-15, 22; 65:2-16
- 再臨。イザヤ63:1-6, 15-16; 64章; 66:14-18
- 福千年。イザヤ60:16-21; 65:17-25

各グループに、割り当てられた出来事について学んだことを報告させる。これらの聖句で、義人と悪人はどうなると記されているかに特に注意を払うよう指示する。

次のように尋ねる。「これらの大いなる出来事に備えるために、わたしたちは何ができるでしょうか。」『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のイザヤ60-66章についての注解(221-226ページ)で理解したことの中から、役に立つと思うものを利用する。生徒は、これらの出来事に関する預言の一部が成就しつつある今の時代に生きていることについて、自分の気持ちを話す。

エレミヤ書

エレミヤはアナトテ出身のレビ人で、出身地であるアナトテの町はベニヤミン領内のエルサレムから北東数キロメートルの場所にあった。エレミヤは、ヨシヤ王の統治からゼデキヤ王の統治に至る約40年間にわたって預言者としての召しを果たした。預言者ハバクク、ゼバニヤ、リーハイおよびそのほかの人々と同時代の人物である（「イスラエルとユダの王と預言者」の表、221-222ページ参照）。エレミヤはユダ王国がバビロンの手に落ちることを預言し、後に捕囚の時期を生き延びた。

末日聖徒の学者シドニー・B・スペリーは次のように書いている。「エレミヤは……自分の民の中に偶像礼拝や高き所での誤った礼拝、さらには異教の習慣が蔓延しているのを見た。神殿の中には異教徒の偶像が立ちならび〔エレミヤ32:34〕、子供たちがバアル、モレクに犠牲としてささげられ（7:31；19:5；32:35）、特にバアルはなじみの深い異教の神として礼拝されていた。……国民の宗教儀礼の退廃には、当然のこととして、あらゆる種類の不道徳と不義が伴い、預言者は頻繁にそれらを責める証をしなければならなかつた。貧しい者たちは忘れられた。エレミヤはほぼ完全な背教の中に一人取り残されてしまったのである。」（*The Voice of Israel's Prophets* [1952年], 153）

エレミヤは、モルモンの場合と同じように、悔い改めを拒んだため何の希望も見いだせない民の間で働くように召された。「それゆえ主はこう言われる、見よ、わたしは災を彼らの上に下す。彼らはそれを免れることはできない。彼らがわたしを呼んでも、わたしは聞かない。」（エレミヤ11:11。モルモン2:15も参照）

世がますます邪悪になり、再臨が近づく中で、わたしたちの時代の預言にも似通ったメッセージがある。すなわち、預言者に従って悔い改めなければ、滅びるのである（黙示9:20-21；16:9, 11；教義と聖約1:11-16；43:22-27参照）。

モルモン書の預言者リーハイとニーファイは、エレミヤの預言を幾つか知っていた。それらは真鑑の版に記録されていた（ニーファイ1:4；5:13参照）。

エレミヤ1-19章

はじめに

エレミヤ1-19章で、預言者はこの後に続く預言と歴史にかかる章の土台を据えている。これら最初の章では、エレミヤの召しと備え、またイスラエルの悪事に対するエレミヤの非常に厳しい非難が記されている。

エレミヤは反抗的な民だけでなく、主の言葉に公然と反対する大勢の偽預言者に対してもその務めを果たした。これらの章を読みながら、民が悔い改める見込みがないことを知っていたにもかかわらず、どれほどエレミヤが民を救おうと努力し続けたかに注目する。エレミヤのひるむことのない努力から何を学べるか考える（モルモン3:12と比較する）。

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちは生まれる前に天の御父とともに生活していた。御父は多くの人々を予任して地上で特別な責任を果たすよう召された（エレミヤ1:4-5参照。アルマ13:3；教義と聖約138:53-56；アブラハム3:22-23も参照）。
- たとえ民が拒もうとも、主は御自分の僕をお支えになる（エレミヤ1:6-10, 17-19；15:15-21；20:7-13；26:12-15, 24参照。イザヤ54:17；教義と聖約109:24-29も参照）。
- わたしたちは自分の罪のゆえに罰を受けるが、罪そのものからもしばしば苦しめられる（エレミヤ2:19参照）。
- この世の知恵と快樂のために主を捨てる者は、自分自身の知恵には自分を救う力がないことを知らされる。そして、自らの罪が自分自身を罰するのを見るであろう（エレミヤ2:13-19参照）。
- 罪に長くとどまり続けるほど、悔い改めが難しくなる。罪に執着して離れない人は、悔い改める能力を失うことがある（エレミヤ11:1-11, 21-23；13:23；14:10-12参照。ヒラマン13:38；教義と聖約101:7も参照）。
- 主は、安息日を聖なる日として保つ者に祝福と繁栄をお与えになる（エレミヤ17:21-27参照）。

教え方の提案

エレミヤ1:1-11。前世で、天の御父はエレミヤを預言者として予任された。（20-25分）

黒板に「エルサレム——紀元前約600年」と書く。その下に、「リーハイと_____」と書く。生徒にニーファイ1:4を読ませる。リーハイがエルサレムにいたころ、その町にいた預言者の数についてニーファイが何と語っているか尋ねる。ニーファイ7:14を読ませ、そこでニーファイが名前を挙げている預言者を見つけさせる。黒板の空欄に「エレミヤ」と書く。

エレミヤ1:5を読ませ、エレミヤの預言者としての召しについてそこから分かることを説明させる。次の質問をする。

- エレミヤを預言者として召したのはどなたですか。
- エレミヤはいつ召されましたか。

多くの人々は、わたしたちがこの地上にやって来る前から存在していたという事実を理解していない。そのことを生徒に伝える。預言者ジョセフ・スミスの以下の言葉を読む。

「世に住む人々を教え導くために召された人は皆、この世界が存在する前に、天上で開かれた大会議でその目的のために聖任されたのです。わたしは、自分はその大会議でまさにこの職に聖任されたと思います。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 365）

次のように尋ねる。「自分が何を行おうと予任されているか、どうしたら分かるでしょうか。」（例えば、ふさわしい

生活を送る、祝福師の祝福を読む、断食する、祈る、父親の祝福を求める。)

ある人が伝道の召しを受けたが、その人は次の点で自分は不適当だと感じていて、召しを受け入れるのをためらっているとする。

- ・わたしは聖文をあまりよく知らない。
- ・わたしは家を離れるにはまだ若すぎる。
- ・わたしは話しがあまり上手ではない。何を言えばいいのか分からんだろう。
- ・わたしは人前に出るとおどおどしてしまう。

エレミヤ1:6を読ませ、預言者に召されたときにエレミヤがどのような気持ちを抱いたか見つけさせる。同じように、ほかの預言者や教会指導者の中で、召されたときに自分は不適当だと感じた人物を知っているか尋ねる。7-10節を読み、以下について話し合う。

- ・主はエレミヤを慰めるために何と言われましたか。
- ・この聖句から、主の預言者について何が分かりますか（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のエレミヤ1:6-10についての注解、253-254ページを参照）。

教会で召しや割り当てを受けたときの気持ちについて考えるよう生徒に言う。次の質問をする。「エレミヤを御存じであるように、主はわたしたちのことも知っておられると思いますか。」

圧倒されたり不適切だと感じたりするのは預言者に召される場合だけではないことを理解させる。主は御自分の王国において働くように召すすべての人を支え助けると約束しておられる。そのことを知るとき、わたしたちは慰めを受けることができる。総大会の神権部会で、トーマス・S・モンソン管長は次のように語っている。

「もし今わたしの話を聞いている兄弟たちの中で、召しにこたえ、犠牲を払い、ほかの人々に祝福をもたらす準備ができていないと感じる兄弟がいれば、『神は、御自分が召される者をふさわしくされる』という真理を覚えてください。主はスズメが地に落ちるのさえも御存じです。ましてや、主に仕える人々を見捨てられるはずがありません。」（『聖徒の道』1987年7月号、48参照）

 エレミヤ1-19章。この世の知恵と快樂のために主を捨てる者は、自分自身の知恵には自分を救う力がないことを知らされる。そして、自らの罪が自分自身を罰するのを見るであろう。（35-50分）

クラスに幾つかの穴のあいたバケツまたは水差しを持参する。それに水を注ぎ、水が漏れる様子を見せる。次の質問をする。「もし水がイエス・キリストの福音を象徴し、バケツまたは水差しがわたしたちの生活を象徴しているとすれば、穴は何を表していると思いますか。」エレミヤ2:13を読ませ、エレミヤの時代の民は、どのような点でこの穴のあいた容器のようであったか調べさせる。水ためとは岩に掘られた地下貯水池で、雨や泉の水を蓄えるのに使われ

ていたことを説明する。水ためそのものが水を生じることではなく、壊れた水ためは天から与えられた水を入れておくこともできない。

この水ためについて、マリオン・D・ハンクス長老は次のように語っている。

「わたしたちが神の代用として作り出すものには、實際には水を入れておくことができません。『生ける水』を拒めば拒むほど、わたしたちは得られたはずの喜びを失うことになるのです。」（Conference Report, 1972年4月、127；またはEnsign, 1972年7月号、105）

エレミヤ2:14-23を読み、次の質問をする。

- ・民を壊れた水ためのようにしていたのは、どのような罪でしたか。
- ・主の選ばれた民が、福音の生ける水をまったく入れておくことのできないほど邪悪になってしまったのはなぜだと思いますか。

黒板に以下のリストを書き、参照聖句を調べさせてそれらの共通点を見つけさせる。

- ・カナン人——1ニーファイ17:33-35
- ・ノアの時代の邪悪な民——モーセ8:17, 20
- ・ニーファイ人——モルモン2:8, 12-15
- ・ヤレド人——エテル15:6
- ・アモナイハの民——アルマ15:15

2ニーファイ26:11およびエテル2:9-10を読ませ、どのような状況になったら主は民を地から取り去られるか尋ねる。

ユダの民は罪悪が熟していたことを生徒に理解させる。エレミヤ2-35章は、悔い改めなければ滅ぼされるというユダに対する預言者の警告で満ちている。以下の幾つかまたはすべての聖句について、エレミヤがユダに何と警告したか調べさせる。エレミヤ2:5-8; 3:1-11; 5:1-8, 23-31; 6:10-15; 7:1-31; 9:1-9; 10:1-14; 17:19-27。

これらの聖句を読みながら、民の罪のリストを作り、彼らが悔い改めなかった理由について話し合う（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のエレミヤ2-19章についての注解、254-261参照）。

以下の質問について話し合い、エレミヤの時代とわたしたちの時代とを比較させる。

- ・現代の罪はどのような点でエレミヤの時代の罪と似ていますか。
- ・エレミヤが民に対して行ったように、こんなに今日の預言者や使徒もわたしたちに警告していると思いますか。それはなぜですか。
- ・預言者は、最近の大会での説教や教会機関誌の記事の中でどのようなことについて警告していますか。
- ・人はどのようにして抜け出すことができないほどの大き

な罪に陥ると思いますか。(『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のエレミヤ13：22-27およびエレミヤ15：1-14についての注解、258、259ページ参照)。

生徒に、罪を悔い改めて預言者の警告に耳を傾けることによって水ための穴をふさぎ、靈的な水が流れ出さないよう勧める。

エレミヤ14-26章。サタンは、人々を惑わしてまことの預言者から離れさせるために偽預言者を送る。(40-50分)

中身が空の玉子を事前に一つ作っておく。作り方は、ピンや針を使って玉子の上下に小さな穴を開ける。片方の穴から息を吹き込むと、玉子の中身が出てきて、殻だけが残る。

穴を指で隠しながら、中身が入っている玉子と入っていない玉子を見せる。二つの玉子に違いがあるか尋ねる。両方の玉子を割り、中身に重要な違いがあることを指摘する。

黒板に「羊の衣を着たおおかみ」と書く。生徒に次の質問をする。

- これはどういう意味だと思いますか。
- 二つの玉子とどのような関係がありますか。

マタイ7：15を読ませ、救い主はだれを指して羊の衣を着たおおかみとおしゃったか探させる。

エレミヤは何度か偽預言者と遭遇している。以下の表を黒板に書くか、資料として配付する。参照聖句は記入しておき、答えは空欄にしておく。生徒に参照聖句を調べさせ、まことの預言者と偽預言者の違いを見つけさせる。

偽預言者の特徴

申命18：20；エレミヤ14：14；23：16	主によって遣わされていない。
イザヤ30：8-10；エレミヤ23：25-27, 32	偽りの預言をし、民が聞いて喜ぶことを話す。
エレミヤ23：14	姦淫を促す。
エレミヤ14：13	安全と平安について偽りの約束をする。
哀歌2：14	罪を責めない。
エレミヤ26：8-9, 11	まことの預言者を滅ぼそうとする。

まことの預言者の特徴

エレミヤ1：5-9	主によって召されている。
エレミヤ18：7-10	安全を得るための唯一まことの手段として、悔い改めと義にかなった生活を教える。
エレミヤ24：9-10；2ニーファイ9：40	たとえ苦痛を伴うものであっても、真実を預言する。
エレミヤ23：1-2, 11-13	偽預言者や祭司を罪に定め、罪を責める。
エレミヤ20：4-6；25：8-12	その預言は成就する。

次のように尋ねる。「神によって遣わされていない人は、なぜ自分は神に代わって語っていると主張してはいけないのでしょうか。」申命13：5；エレミヤ14：15-16；および23：9-40を調べさせ、主が偽預言者についておしゃられたことを挙げさせる。

主が偽預言者についてどう感じておられるか示すために、エレミヤ28章にあるエレミヤと偽預言者ハナニヤの対決を読ませてもよい(教義と聖約121：11-24も参照)。今日の偽預言者と見なされ、神を信じるわたしたちの信仰を滅ぼそうとする人々から自分自身を守る方法について話し合う。

エレミヤ16：16 (マスター聖句)。今日主が召される宣教師は、エレミヤが預言した「漁夫」や「獵師」の一部である。(15-20分)

黒板に「漁夫」「獵師」と書く。生徒にそれぞれの仕事を説明させる。また、どのような準備や道具が必要か、どの程度の努力、時間、集中力が必要か説明させる。

黒板に「宣教師」と書き、「漁夫」「獵師」から「宣教師」まで線を引く。エレミヤ16：16を読み、次の質問をする。

- 宣教師の業は、どのような点で漁や狩りにたとえることができますか。
- 見つけ、教え、バプテスマを施し、改宗者を定着させるために、宣教師にはどのような技術が必要ですか。

可能であれば帰還宣教師を一人招待して、真理を探し求めている人々を見つかったときの経験を話してもらう。それぞれの生徒に以下の言葉を配付し、全員で話し合うとよい。

十二使徒定員会員であったリグランド・リチャーズ長老は次のように語っている。

「エレミヤの偉大な預言に記されている漁夫や獵師は、どこで見つけることができるでしょうか。彼らはこの教会の宣教師であり、また預言者ジョセフ・スミスが受けた真理を世界に広めるために使者を送って以来、伝道してきた人々です。このように、彼らは出て行って漁や狩りを行い、丘や山、岩の裂け目から人々を集めているのです。」(Conference Report, 1971年4月, 143; またはEnsign, 1971年6月号, 99)

使徒のL・トム・ペリー長老は次のように語っている。

「今や、これまで以上に大勢の専任宣教師が必要とされています。すべてのふさわしい若人が、預言者の声に耳を傾けて伝道に出るように、今一度呼びかけたいと思います。ビショップや支部会長の皆さんには、すべてのふさわしい、能力のある若人が伝道の機会にあずかれるようにしていただきたいと思います。……

スペンサー・W・キンボール大管長は、伝道に出る若い女性たちについて次のように述べています。『多くの若い女性が専任宣教師として伝道に出ることを望んでいます。姉妹たちが主のために奉仕するのを、わたしたちは喜んで歓迎します。長老たちのような義務や責任は、

姉妹たちにはありませんが、無私の犠牲に対しては豊かな祝福を受けるでしょう。人々を主のもとへ連れ帰ろうという姉妹たちの気持ちを、主は喜んでおられます。」(President Kimball Speaks Out [ソルトレーク・シティ、デゼレトブック社、1981年]、30)」(『聖徒の道』1992年7月号、27)

ハワード・W・ハンター大管長は次のように語っている。

「主は、この地上における教導の業に携わっておられたとき、招きとして、またチャレンジとして、ある言葉を繰り返されました。ペテロとアンデレに向かい、キリストはこう言われました。『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』(マタイ4:19) わたしたちは、人の魂を救い、人々をキリストのみもとに来るよう招き、バプテスマの水へと導く業に携わっています。それによって、人々が永遠の生命に通じる道に沿って進歩し続けられるようにするのです。この世はイエス・キリストの福音を必要としています。福音は世に平安をもたらす唯一の方法です。わたしたちはイエスに従う者として、全世界の人々の間で愛と理解の輪を広げるよう努めていかなければなりません。これまでの預言者たちは、有能でふさわしいすべての若い男性は、専任宣教師として伝道に出るべきであると教えてきました。わたしも今日、その必要性を強調したいと思います。また、伝道に出る有能で経験豊かな夫婦も大いに必要とされています。イエスは弟子たちに言われました。『収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいたいなさい。』(ルカ10:2)」(『聖徒の道』1995年1月号、98)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っている。

「さて、ビショップとステーク会長の皆さんに宣教師の奉仕について少しお話したいと思います。これは繊細な問題です。今教会の中に、若い男性だけでなく若い女性もすべて伝道に出るべきであるという考えが出始めているようです。わたしたちはある程度若い女性を必要としています。姉妹たちはすばらしい働きをしますし、長老たちが入れない家にも入ることができます。……

……大管長会と十二使徒評議会は若い女性の皆さんに、皆さんには伝道に出る義務はないことをお知らせしたいと思います。わたしのこの言葉に気を悪くされる方がないことを望みますが、若い女性の皆さんは伝道に関して、若い男性の皆さんほど義務感を抱く必要はないということです。中にはどうしても出たいという方もいらっしゃることでしょう。そうであれば、両親やビショップと相談してください。それでも決心が変わらなければ、必要な手続きはビショップが知っています。」(『聖徒の道』1998年1月号、61)

はじめに

エレミヤ20-29章には、バビロン捕囚寸前に、エレミヤが民に与えた教えと警告が記されている(列王下24-25章参照)。ただしエレミヤは、単に悪人の滅亡を預言したのではなかった。彼は救い主の来臨と末日における主の教会の回復を見た(エレミヤ23章参照)。ほかの旧約の預言者たち(イザヤ、エゼキエル、リーハイ、ホセア、アモス、ミカ、およびゼカリヤなど)と同じように、エレミヤは散らされたイスラエルがいつの日か集められること、ユダはその受け継ぎの地に戻ること、そしてついには全イスラエルが大いなる者となるのを見た。

学び取るべき重要な福音の原則

- まことの預言者は、必ずしもわたしたちの知りたいことではなく、知る必要のあることを語る(エレミヤ21:1-7参照)。
- 主の言葉は必ず成就する(エレミヤ28章; 29:24-32参照。エレミヤ32:26-27; 36-37章; 38:6-13; 39:15-18; 教義と聖約1:37-38; 3:1-3も参照)。
- 心を尽くして主を求める者は、主を見いだすであろう(エレミヤ29:13参照)。
- いつの時代にも偽預言者が現れて、まことの預言者に反対する(エレミヤ28-29章参照)。

教え方の提案

エレミヤ20-21章。まことの預言者は、主から命じられたことを語る。(15-20分)

預言者はわたしたちに、必ずしもわたしたちの知りたいことではなく、知る必要のあることを語る。そのことを生徒に伝え、それがどういう意味か、またなぜそうなのか尋ねる。これまでに預言者が与えてきた勧告の中で、一部の人々から歓迎されていないもの、または従うのが難しい、あるいは不都合だと思われているものを幾つか挙げさせる。

主が望んでおられることを人々に語るとき、預言者はしばしば問題を抱えることを説明する。生徒にエレミヤ20:1-2を読ませ、バビロンがユダを捕えて連れ去ると預言したためにエレミヤに何が起きたか調べさせる(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』のエレミヤ20:1-6についての注解、263ページ参照)。エレミヤ20:3-6を読ませ、次の質問をする。

- 罰を受けたことで、エレミヤは自らの預言を変えましたか。また、民が聞きたがっていたことを語りましたか。(ユダの民が聞きたがっていたことの例として、エレミヤ28:1-4を参照)。それはなぜですか。
- エレミヤがパシュルの名前を「恐れが周囲にある」に変えたのはなぜですか。それはどういう意味ですか(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』のエレミヤ20:1-6についての注解、263ページ参照)。

エレミヤ21：1-7を読ませ、ゼデキヤ王がエレミヤにさせたかったことと、主がエレミヤを通してゼデキヤの質問にどのようにお答えになったかを見つけさせる。次の質問をする。

- エレミヤが、民の聞きたがっていたことを語ることができなかったのはなぜですか。
- 生ける預言者がわたしたちの聞きたがっていることだけを語らないのはなぜですか。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語っている。

「生ける預言者が、わたしたちの知つておくべきことで、受け入れ難いことについて教えるとき、その言葉にどのような態度を示すかで、わたしたちの忠実さが試されます。」(“Fourteen Fundamentals in Following the Prophet,” 1980 Devotional Speeches of the Year [1981年], 28)

エレミヤ23-29章。昔のイスラエルがそうしたように、わたしたちはまことの預言者と偽預言者を識別できなければならない。(20-25分)

次のように尋ねる。「どうすれば偽預言者に欺かれずに済むでしょうか。」現在の預言者の写真を見せ、彼が、主の選ばれた預言者であることを確かに知るためにどうすればよいか尋ねる。

エレミヤの時代には、まことの預言者たちが民に語っていただけでなく、偽預言者たちも民に教えを説いていた。エレミヤ23：9-34を生徒とともに読み、次の質問について話し合う。

- これらの偽預言者や祭司はどのような悪事を行っていますか (9-17, 24-32節参照)。
- 主は、まことの預言者の特徴としてどのようなことを挙げておられますか (18, 21-22, 28節参照)。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のエレミヤ23章についての注解、271ページも参照)。
- それらの偽預言者にはどのようなことが起ころうとしていましたか (12, 15, 33-34節参照)。

預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を読み、学んだことを尋ねる。

「預言をして、人々を自分の教えに従わせようとするとき、その人は、まことの預言者と偽預言者のどちらかにならざるを得ません。偽預言者はいつもまことの預言者に対抗して起こります。そして、真理に非常に近いことを預言して、選民さえも惑わそうとします。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 365ページ)

この言葉を説明するために、エレミヤ27：6-14, 19-22を調べさせ、エレミヤがユダとバビロンについて預言したことと調べさせる。エレミヤ28：1-4, 10-11を読ませ、エレミヤに反対した偽預言者と、その教えを調べさせる。

生徒とともにエレミヤ28：5-9, 13-17を読み、エレミヤがハナニヤに何と答えたか、また主がその偽預言者に何を行われたか話し合う。次の点を理解できるようにする。すなわち、6節にあるエレミヤの返事は、承認したという意味ではない。「アーメン。どうか主がこのようにしてくださるように」という言葉は、皮肉の意味で言われたか、あるいは民が悔い改めてそのような祝福が可能になるようにという願いを表していたのであろう。次の質問をする。

- まことの預言者であるかどうかを判断する方法の一つとして、エレミヤはどんなことを挙げていますか (9節参照)。申命18：20-22も参照)。
- 今日の偽預言者に欺かれないようにするために、わたしたちには何ができるでしょうか。

戒めを守ることが偽預言者に欺かれないようにするうえでどのように役立つか、教師の証を述べる。当時使徒であったゴードン・B・ヒンクレー長老の次のメッセージを紹介する。

「兄弟姉妹たち、わたしたちはこの混沌した困難な時代を歩むときに、預言者の存在をどれほど感謝すべきでしょうか。またどれほど感謝しているでしょうか。預言者は神聖な知恵の言葉によって勧告を与えていているのです。わたしたちが心に抱く確信、すなわち神が御自分のお認めになった僕の口を通して御心を明らかにされるという確信は、わたしたちの信仰と行動のまことの基盤です。預言者がいなければ、何もないのです。そして預言者を通してすべてが与えられるのです。」(『聖徒の道』1974年4月号, 182)

エレミヤ30-33章

はじめに

主は終わりの時にイスラエルとユダを回復すると約束された。エレミヤはそれらの約束を記録するように命じられた (エレミヤ30：1-3参照)。エレミヤ30-33章を研究しながら、この回復すなわち集合におけるアブラハムの聖約とエフライムの部族の持つ意義について理解する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 終わりの時には、長子の特権を持つエフライムの部族が最初に集められる。彼らは、イスラエルの家の残りの者が集められるのを助ける責任がある。このようにして、主がその永遠の聖約を果たされるのを助けるのである (エレミヤ31：1-14, 18-21, 31-34; 32：36-41参照)。
- 福千年の間、だれもが福音に従い、主を知る (エレミヤ31：31-34; 32：36-41参照)。

教え方の提案

 **エレミヤ30-33章。**エレミヤは、終わりの時に起こる多くのすばらしい出来事について預言した。
(55-65分)

最近自分たちの地域で行われた大きなスポーツイベントを思い起こさせ、そのイベントが楽しかったと思っている人がいるのに対して、楽しくなかったと思っている人がいるのはなぜか話し合う。次の質問をする。

- 人によって、同じイベントに対する態度が異なるのはなぜですか。
- 見方によっては、良いとも悪いとも取ることができる出来事や時期として、ほかにどのようなものがありますか。
- 再臨は喜びの時だと思いますか、それとも悲しみの時だと思いますか。

これから、終わりの時と福千年に関するエレミヤの預言の幾つかを学習すると伝える。

エレミヤの預言の大部分は、バビロニア人によるユダの滅亡と捕囚を扱ったものであると同時に、終わりの時の滅亡についても語っている。しかし、エレミヤは終わりの時にに関して、多くのすばらしい出来事についても預言しており、義人にとって再臨がどのような形で大きな幸福の時となるかを理解するのに役立つ。

エレミヤの預言は幾つかの分野に分類できる。黒板に以下の3つの分野を書き、生徒とともに関連する参照聖句を読み、必要に応じて添付の資料を用いながら、それについてクラスで話し合う。

1. イスラエルとユダは集められ、自分たちの地に安全に住む。

- **エレミヤ30:3, 8-11, 17-18。**イスラエルとユダが捕囚から帰還するという預言が成就するのは1度だけではない。この預言は、バビロンでの70年にわたる捕囚の後、主がクロス王にユダヤ人のエルサレムへの帰還を許可するように靈感をお与えになったことについて述べている（エズラ1:1-2参照）。また同時に、終わりの時にユダヤ人が母国へと帰ることや、行方の知れない部族が北の国々から帰還することについても語っている（教義と聖約133:11-35参照）。
- **エレミヤ31:1-20。**主はこれらの節で、主御自身がイスラエルとユダの集合をお導きになることを繰り返し証しておられる（1-4, 8-11節参照）。主はその子らを見守り、集めるための助け手として、「エフライムの山の上に立って」「見守る者」、すなわちステーク会長、ビショップ、宣教師、ホームティーチャー、およびその他の人々を召される（6節。エゼキエル3:16-21も参照）。これらの見守る者のうちで最も重要な人物が末日の預言者であり、彼らはイスラエルの集合の鍵を受けている（教義と聖約110:11参照）。

これらの見守る者は「イスラエルの残りの者」を「北の国」から、そして「地の果」から集める（エレミヤ31:8。教義と聖約133:26も参照）。エレミヤ31:9で「泣き悲しんで」と述べられているのは、何世紀にもわたる苦しみが、イエス・キリストを拒んだことに起因していることを民が理解したためであろう（エレミヤ50:4；ゼカリヤ12:10参照）。その悲しみを、預言者を心に留め、「来てシオンの山で声高く歌〔う〕」人々の歓喜と比較する。

長子の特権を持つ部族として、エフライムはこの集合において重要な役割を担っている（エレミヤ31:9, 18-20参照。申命33:13-17；教義と聖約133:26-34も参照）。

- **エレミヤ33:16。**主がユダとイスラエルをお集めになるとき、彼らは自分たちの地に安全に住む（エレミヤ23:5-6も参照）。これは敵と、自らの罪の結果から守られることを意味する。

2. ユダとイスラエルは、イエス・キリストを自分たちの主および救い主として受け入れる。

- **エレミヤ30:8-9; 33:15。**これらの節について、ブルース・R・マッコンキー長老は次のように解説している。

「ダビデの枝がキリストであることは明白である。よって、主がダビデとも呼ばれること、主がその古の先祖の王座に就いて永遠に統治する新しいダビデ、永遠のダビデであられることが分かる。」（*The Promised Messiah*, 193。イザヤ11:1；エレミヤ23:5-8も参照）。

- **エレミヤ32:37-42。**これらの聖句で、エレミヤはユダヤ人がその約束の地にだけでなく、まことの教会に戻ること、そして主が「彼らと永遠の契約を立て〔られる〕」ことを預言している（40節）。これまでに大勢のユダヤ人が教会に加わり、今後さらに大勢が加わるに違いない。しかし、この約束はまだ完全には成就していない（3ニーファイ20:29-46; 21章参照）。ブルース・R・マッコンキー長老は次のように書いている。

「ユダヤ人の大いなる改宗、彼らが一つの国民として真理に立ち返るのは、メシヤの再臨に続いて起こることになっています。極限の状況と悲嘆の中で、その日堪えることのできた者はこう尋ねるでしょう。『あなたの両手と両足のこの傷は何ですか』……。そのとき、彼らはわたしが主であることを知る。わたしは、「この傷は、わたしの友の家で負った傷である。わたしは上げられた者である。十字架につけられたイエスである。神の子である」と彼らに言うからである。」（教義と聖約45:51-52；ゼカリヤ12:8-14; 13:6）（*Mormon Doctrine*, 722-723）

3. 福千年のとき、人々は主を知り、主の律法がその心に記される。

- エレミヤ31:31-34。主を知るとは、主の律法と儀式を理解して守り、聖霊とともにいることを意味する。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。

「わたしたちが出版する啓示を調べなさい。また真理を明らかにしてくださるように、御子イエス・キリストの名によって、天の御父に求めなさい。そして、もしあなたがたが何も疑わずに、御父の栄光にひたすら目を向けてそれを行なうならば、御父は聖なる御靈の力によって答えてくださるであろう。そのとき、あなたがたはほかの人によらず、自分自身で知るのである。そのとき、あなたがたは神の知識について人に頼らなくて済むようになる。また、憶測する必要もなくなる。人をお造りになった御父から指示を受けるとき、人は、御父が自分をどのように救われるかを知るからである。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 11-12)

わたしたちは今神を知ることができるが、これらの聖句が完全に成就するのは、主が自らわたしたちの中にお住みになる福千年の間であると思われる(教義と聖約84:96-100参照)。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、エレミヤ31:31-34に関して次のように語っている。

「この預言が成就するためには、多くの教会員が悔い改めて、もっと熱心に聖文を研究し、祈り、福音の律法と戒めに従う必要があります。もしこれらのことを行わないならば、主が御座に着いて、統治するために主の主、王の王として降りてこられるその大いなる日に、主の前から絶たれるでしょう。」(Conference Report, 1963年10月, 21-22)

エレミヤ34-52章

はじめに

エレミヤ34-52章は、ユダとその指導者に対するエレミヤの預言の続きであり、エレミヤはそのために迫害され、投獄された(エレミヤ34-38章参照)。これらの預言は、エルサレムがバビロニア人の手に落ちたときに成就した。多くのユダヤ人が捕らえられてバビロンに連れて行かれた一方で、一部の者はエジプトに逃れたが、彼らはエレミヤも連れて行った(39-45章参照)。

イスラエルのほかの預言者と同様、エレミヤはイスラエルを取り囲むもろもろの異国民について預言している。エレミヤはまず西のエジプトから預言を始め(エレミヤ46章

参照)，次に東に移動してイスラエルの近隣諸国について預言し(エレミヤ47-49章参照)，東のバビロンについての預言で結んでいる(エレミヤ50-51章参照)。エジプトとバビロンはエレミヤがその務めを果たしていた期間にエルサレムの支配権を争った2大勢力であった。

エレミヤ書は、エルサレムの捕囚と滅亡の詳細で結ばれている(エレミヤ52章参照)。詳しくは、『聖句ガイド』「エレミヤ」(57-58ページ)を参照する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主が預言者にお与えになる啓示は、耳を傾ける人々を備え、祝福する(エレミヤ42-44章参照)。
- 主は悔い改めた人を受け入れられるが、反抗的な人々はどの家系や国民に属するかにかかわらず罰せられる(エレミヤ46:1-2, 27-28; 47:1; 48:1-2, 47; 49:1-8, 23-39; 50:1-3, 17-19, 33-34; 51:5参照)。

教え方の提案

エレミヤ34-52章。主は耳を傾ける人々を備え祝福するために、御自分の預言者に未来を明らかにされる。(40-60分)

次のように尋ねる。「あなたの周りで、易者や霊能者、占星術師などに未来を占ってもらった人がいますか。」次の質問をする。

- そのような習慣について、主は何とおっしゃいましたか(申命18:10-14参照)。
- それらの誤った習慣よりも優れたものとして、主はわたしたちにどのような助けを与えてくださっていますか。(祈り、聖文、祝福師の祝福、そして特に預言者。)

以下のことについて話す。エレミヤの預言の一部は遠い将来の出来事を予告したものだったので、多くの人々はそれらが成就するのを見ることがなかった。しかし、エレミヤの預言の多くはその生涯の間に成就した。預言は神の先見の明に基づいて与えられるので、わたしたちはそれらがすべて成就するという確信を持つことができる。

エレミヤ34:1-3; 37:1-10; および38:17-23を読ませ、エレミヤがエルサレムとその指導者に起こると語ったことを挙げさせる。エホヤキム王がエレミヤの預言にどのように答えたか話す(エレミヤ36:1-7, 14-16, 20-26参照)。エレミヤ36:28-32を読み、主はエレミヤに何をするように言われたか尋ねる。

エレミヤ37:1-2, 15-21; 38:1-6を生徒とともに読み、エレミヤの預言に対してゼデキヤ王とそのつかさたちがどのような反応を示したか挙げさせる。次の質問をする。

- それらの聖句から、エレミヤについて、また多くの預言者についてどのようなことが分かりますか。
- 現代の預言者は、主の業を行うときにはどのような問題や試練、困難に直面すると思いますか(例えば、教義と聖約122章参照)。

エレミヤの時代の民は、エレミヤの勧告と警告の大半を拒んだ。エレミヤ39：1-9（および教師が希望する場合はエレミヤ52章）を生徒とともに読み、エルサレムとゼデキヤ王に何が起きたか読む。次の質問をする。「それらの出来事はエレミヤが予告したこととどのくらい似通っていましたか。」

自分が下す、あるいはこれまでに下してきた決断が、後の自分にどう影響するか考えるように生徒に勧める。

そのような悲劇のただ中にあっても、一つの良い模範が見られたことを生徒に伝える。エレミヤ38：7-13を読ませ、エレミヤが地下牢の中で飢えていたときに、エレミヤを救うためにだれがやって来たか調べさせる。エレミヤ39：15-18を読ませ、預言者を信じた異邦人の僕エベデメレクに起きたことと、預言者を拒んだユダヤ人の王ゼデキヤに起きたこととを比較させる（使徒10：34-35参照）。モルモン書を読むと、エルサレムの陥落時にゼデキヤの息子がすべて殺されたわけではないことが分かる（オムナイ1：14；ヒラマン8：21参照）。

エルサレムが陥落した後でさえも、人々は預言者の勧告になかなか従えずにいたことを話す。次の質問を黒板に書くか、紙に書いて配付する。

- ヨハナンとほかの人々は、エレミヤに何をしてほしいと思っていましたか。
- 彼らは「幸を得る」ように、エレミヤと主にどんな約束をしましたか。
- 主はエレミヤを通じて彼らに何と言われましたか。
- その勧告に対して彼らはどう反応しましたか。
- エレミヤはエジプトで最終的にどうなりましたか。

エレミヤ42：1-43：7を生徒とともに読み、黒板の質問のどれか一つに対する答えを見つけた時点で手を挙げさせる。次に一人の生徒を指名し、質問に答えさせる。

次の質問をする。

- なぜ人々は主に導きを求めておきながら、導きを受けたときにはそれに従わないのでしょうか。
- 主の勧告に故意に従わない人にはどのようなことが起きますか。

エレミヤ44：21-30を読ませ、それらの反抗的なユダヤ人について予想したことが正しかったかどうかを確認する。

エレミヤと預言者に従うことについて、一つか二つの段落で学んだことを書かせる（注意：時間がある場合は、生徒とともに44章すべてを学習するとよい。この章は、人々が自分たちの不従順をどのように正当化するかを表した好例である。）

エレミヤ49：7-39。主は悔い改めた人を受け入れられるが、反抗的な人々はどの家系や国民に属するかにかかわらず罰せられる。（20-30分）

次の質問をする。

- もしお金や言語に何の問題もないしたら、どこにいちばん行きたいですか。
- 避けた方がよいと思う国はありますか。それはなぜですか。
- 外国について学ぶには、どうしたらしいですか。

生徒に、これからエレミヤの時代に存在した幾つかの国々について学ぶことを伝える。それらの国民が義にかなった状態にあるかどうか考え、エレミヤが彼らに関して預言した事柄を見つける。

グループごとに次の聖句を割り当てる。これらの聖句はエレミヤの時代の有名な場所について述べている。

- エレミヤ46：1-13（エジプト）
- エレミヤ47章（ペリシテ人の地）
- エレミヤ48：1-16（モアブ）
- エレミヤ49：7-22（エドム）
- エレミヤ49：23-27（ダマスコ）
- エレミヤ49：30-33（ハザル）
- エレミヤ49：34-39（エラム）
- エレミヤ50：1-14（バビロン）

可能であれば、各グループに現在の世界地図を渡すか、大きな世界地図を黒板に掲示する。

各グループに担当の聖句を読ませ、聖句に記されている場所の名前を見つけさせる。次に『聖句ガイド』の「地図と地名索引」を使って、その場所を『聖句ガイド』の地図上に見つけさせる。それから現在の地図上にそれに該当する場所または国を見つけさせ、次の質問に答えさせる。

- それらの民に関する預言は望ましいものでしたか、それとも望ましくないものでしたか。
- エレミヤは、彼らにどのような滅亡が来ると預言しましたか。
- 聖文はそれらの人々が邪悪であったと伝えていますか、それとも義にかなっていたと伝えていますか。

グループで見つけたことを、一人の生徒が代表して発表する。代表者は、担当した聖句の中でエレミヤがどの国について預言しているか話し、その場所を現在の世界地図上に示してもらう。それぞれの預言は、エレミヤが預言したとおりに成就したことを生徒に伝える。

現代の世界について話し合うことにより、このレッスンを今日に応用する。次の質問をする。

- 国民全体に与えられる祝福にはどのようなものがありますか。
- 伝道の業が広まり、近代の神殿が置かれていることは、主が地のすべての人を祝福しようとしておられることをどのように証していますか。
- すべての人が主の祝福を受けたいと同じように強く望んでいますか。
- わたしたちは全世界に福音を広めるのを手伝うために何ができますか。

哀歌1-5章

はじめに

古代のユダ王国では、亡くなった友人や親族について哀悼の詩を書いて歌うことがよくあった。エレミヤは愛する街エルサレムを亡くなった人に見たててそれを行った。哀歌では、聖なる街の滅亡に対するエレミヤの悲しみが吐露されている。この書のヘブライ語の表題は「eikhah」(「どうして」の意)であり、これはこの書の書き出しの言葉(訳注——日本語の聖書では「ああ」と訳されている)から取られている(哀歌1:1, 2:1-4:1も参照)。この表題には、エルサレムの運命に対する衝撃と失望の混じり合った思いが込められている。哀悼の詩は旧約聖書に収められているほとんどすべての預言書に見られるが、書全体がこの文学形式だけで構成されているのは哀歌だけである。

詩歌は様々な文化において胸を刺すような感情を表現するのに用いられており、哀歌はその全体が入念に組み立てられた詩歌で書かれている。第1-2章および第4章は「アクロスティック」(折り句の一種)になっている。つまりこれらの各章は22節で構成されており、一つ一つの節の始まりがヘブライ語全22文字の一文字から始まり、しかもヘブライ語のアルファベット順になっている。エリス・T・ラスマッセンは次のように書いている。「アルファベット順アクロスティック詩が持つ効果の一部は、その詩がテーマとしている様々な感情のすべてが、詩の中で採り上げられているという印象を与えることである。」(A Latter-day Saint Commentary on the Old Testament [1993年], 577-578)

第3章は66節(22の3倍)から成り、同じくアクロスティックになっている。この章では最初の3節がヘブライ語アルファベットの最初の文字で始まり、次の3節が2番目の文字で始まるという具合に続いている。5章は22節で構成されているが、アクロスティックではない(『聖句ガイド』「哀歌」, 7ページ参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちは教員であるというだけでは救われない。わたしたちは忠実で雄々しくなければならぬ(哀歌1:1-8, 16-22; 2:1-7参照)。
- 主は罪人に対して憐れみと思いやりを持ち、彼らが悔い改めるのを喜んでお助けになる。主の預言者も同様である(哀歌3:22-26, 31-32, 40, 58; 5:21参照。2ペテロ3:9; アルマ34:15-18も参照)。

教方の提案

哀歌1-2章。わたしたちは教員であるというだけでは救われない。わたしたちは忠実で雄々しくなければならぬ。(20-30分)

黒板に「哀歌」と書き、その意味を知っているか尋ねる。「エレミヤの哀歌」の「はじめに」の部分に書かれている事柄を紹介し、この書にどのような名前がつけられた理由を理解させる。

哀歌1:1-8, 12-20を調べさせ、エルサレムが滅びた理由を見つけさせる。それらの理由を黒板に列挙する。多

くのユダヤ人は、自分たちには神殿とモーセの律法があるので、エルサレムが征服されるのを主が許されることは決してないと感じていたことを生徒に思い起こさせる。偽預言者たちは、エルサレムは安全であるとさえ預言していた(エレミヤ28:1-4, 15-17参照)。

哀歌2:1-7を読み、以下のような質問を用いて、神殿がどうなったか話し合う。

- 神殿があることで、エルサレムとユダヤ人はどのくらい守られましたか。
- 民が非常に邪悪であったとき、主は神殿についてどのようにお感じになっていましたか(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』の哀歌1:12-22および2:1-10についての注解、268ページ参照)。
- 主が今日与えてくださっている神聖な建物や儀式にはどのようなものがありますか。
- わたしたちに、それらに入るふさわしさがないなら、神殿があるというだけで守りが得られると思いますか。
- 主にとって、神聖な建物や儀式以上に大切なことは何ですか(サムエル上15:22-23参照)。
- わたしたちが暗闇のただ中にあって義にかなっているならば、主はわたしたちにどのような守りを与えると約束されましたか(教義と聖約45:66-71参照)。

困難に直面するとき、義にかなった教員であることがどのような形で守りとなり支えとなるか教師の証を述べる。主のすべての約束を享受するためには、わたしたちは強い証を得る必要があり、また雄々しくなければならぬ。

哀歌1-5章。主は罪人に対して憐れみと思いやりを持ち、彼らが悔い改めるのを喜んでお助けになる。主の預言者も同様である。(20-25分)

非常に悲しかった経験について思い浮かべさせる。そのような悲しみを感じる理由を幾つか挙げる。マタイ23:37-39; モルモン書ヤコブ5:40-42; 教義と聖約76:25-27; およびモーセ7:28-29, 32-33をともに読み、時々主が悲しまれる理由を列挙する。

- 預言者もまた深く思いやる心を持っている。モルモン書ヤコブ1:19-2:3; モルモン6:16-22; 1ニーファイ8:37; およびモーセ7:41を読ませ、これらの預言者が感じていた気持ちとその理由について話し合う。以下の質問をする。
- 民から拒まれて命をねらわれたにもかかわらず、彼らが怒りではなく悲しみを感じたのはなぜだと思いますか。
 - わたしたちの預言者は、今日わたしたちにどのようなことを望んでいると思いますか。

エレミヤは悔い改めを説いたが、民は悔い改めず、エルサレムは滅んだことを生徒に思い起こさせる。その悲しい出来事の後に、エレミヤは哀歌を書いた。哀歌を書いていたとき、エレミヤはどのような気持ちだったと思うか尋ねる(『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』「バビロニア捕囚」の「はじめに」、263ページ参照)。それぞれの生徒に哀歌から一つの章を選んで読むように指示し、エレミヤの悲しみと、悲しんでいた理由が最もよく述べられていると思う箇所を選ばせる。何人かの生徒に見つけたものを発表させる。マタイ23:33-38を読み、そこに言い表された救い主の気持ちとエレミヤの気持ちがどのように似ているか話し合う。

エゼキエル書

紀元前約597年、エホヤキン王がネブカデネザルによって退位させられて囚われの身となったときに、エゼキエルもまたバビロンに連れて行かれた（列王下24：6-16参照）。エゼキエルはその地で預言者としての召しを受け、捕囚された民の中で働くこととなった（エゼキエル1：1-3参照）。紀元前587年、バビロニア人はエルサレムを滅ぼし、その住民の大半をバビロンに連れて行った（エゼキエル24：21-27；列王下25章参照）。エゼキエルはそのときから少なくとも11年にわたって、それらの捕囚された民の中で預言し続けた（エゼキエル29：17参照）。

主は不従順なイスラエルに対し、エゼキエルを通して警告と裁き、そして憐れみの声を上げられた。主が怒りながらも悔い改めを望んでおられたことは疑う余地はなかった。エゼキエル書は、神がそのすべての子らを管理しておられ、御自分のもとに来るよう望んでおられることを教えている。この書には「あなたがたはわたしが主であることを知るのである」という言葉が（多少表現の異なるものも含めて）少なくとも65か所ある。以下はエゼキエル書の概観である。

1. 導入。エゼキエルの召しと任務（エゼキエル1-3章参照）
2. ユダとエルサレムに対する預言。最終的にはバビロニア人によるエルサレムの陥落と捕囚に至る（エゼキエル4-24章参照）
3. 周囲の国々であるアンモン、モアブ、エドム、ペリシテ、ツロ、シドン、およびエジプトに対する預言（エゼキエル25-32章参照）
4. 救い主が地上に戻って来られる前に起こるイスラエルの回復についての預言（エゼキエル33-39章参照）
5. 将来エルサレムに建てられる神殿と、そこでの礼拝の方式についての示現（エゼキエル40-48章参照）

エゼキエル1-3章

はじめに

エゼキエル1-3章は、預言者エゼキエルに与えられた示現の記録である。エレミヤがエルサレムの住民に滅亡が迫っていると説いていたのと同じころ、エゼキエルはバビロンでユダの民に同じメッセージを伝え、その邪悪な生き方を変えなければ滅ぼされると警告した。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神権指導者、特に預言者は、見守る者である。彼らは迫り来る危険に注意を払い、民に警告する（エゼキエル3：17-21；33：1-9参照。モルモン書ヤコブ1：19-2；11も参照）。

教え方の提案

エゼキエル3：17-21。神権指導者は見守る者である。彼らは迫り来る危険に注意を払い、警告することによって、自分の仕える人々を守る。（35-45分）

大きな城壁に囲まれた古代の町に住んでいると仮定する。以下の質問をする。

- 城壁のいちばんの目的は何ですか。
- なぜ城壁が守りとなるのですか。
- もし城壁に見張り塔があつて常に見守る者がいたなら、どのような守りが増し加えられると思いますか。
- どのような特質を持った人に見守る者となってほしいですか（例えば、油断しない人、視力の良い人、声の大きい人、はっきりとメッセージを伝達できる人、危険をもたらすものと取るに足りないものをしっかりと判断できる人など。黒板に幾つか書き出す。）。



エゼキエル3：16-17を読ませ、主が見守る者として任命された人物はだれか見つけさせる。エゼキエル1：1-3；2：1-8；および3：4-11を読み、エゼキエルの召しと、彼が備えていた特質を幾つか見つけさせる。エゼキエル3：18-21を読ませ、以下のような質問をする。イスラエルの家を見守る者としてのエゼキエルの責任について話し合う。

- 主は18節で、エゼキエルは民に何と語らなければならぬと言われましたか。
- 主はもしエゼキエルが民に警告しないなら、彼はどうなると言われましたか。
- 19-21節で、主はもしエゼキエルが警告したにもかかわらず民が耳を傾けないなら、彼はどうなると言われましたか。
- 民はどうなると言われましたか（モルモン書ヤコブ1：19-2：11も参照）。

エゼキエル書を読みながら、預言者エゼキエルがどのようにして主から授かった責任を果たしたか見つけるよう勧める。

教義と聖約1：4、17、19-28、32-33、37-38を生徒とともに読む。読みながら、以下の質問について話し合う（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるエゼキエル3：17-21についての注解、287-288ページも参照）。

- 今日、主の見守る者はだれですか（4節参照）。
- わたしたちは人々に何を警告すべきですか。
- わたしたちが周りの人々に警告しないなら、わたしたちはどうなりますか。
- 民は警告に注意を払わないならどうなりますか。
- この神権時代に、最初に見守る者となったのはだれでしたか（17節参照）。
- 主はこの終わりの時に、福音のメッセージによって何を望んでおられますか（19-28、32-33節参照）。
- もし主御自身がわたしたちに語られたとしたら、メッセージは何か違ったものになると思いますか（37-38節参照）。

次に以下の質問をする。

- 預言者ジョセフ・スミスの生涯について知っていることから考えて、彼は見守る者として優れた働きをしたと思いますか。
- 預言者ジョセフは自分の召しをどれほどしっかりと果たしたでしょうか。教義と聖約135：3には何と書かれていますか。

現在の預言者が今日の見守る者であることを証する。生徒に、預言者がどのようなことについて警告しているか尋ね、預言者の言葉にどのくらい注意を払っているか考えさせる。

現在の預言者が総大会で行った説教の中から、できるかぎり新しいものを調べ、預言者がわたしたちに行うよう勧告した具体的な事柄を列挙する。教義と聖約1：4をもう一度読み、常に預言者の勧告に従うよう生徒を励ます。

エゼキエル4-32章

はじめに

エゼキエルは、優れた知性、豊かな知識、そして神と自分の民に対する愛情にあふれた人物であった。エルサレムやユダヤ人、さらには周囲の国々についての彼の大胆な宣

言は、エルサレムが滅びることはないという偽りの希望をすべて打ち碎いた。彼らの捕囚は、その悪事に対する神の裁きの結果であった（本書の「エゼキエル書」の「はじめに」、186ページ参照）。エゼキエル4-32章を読みながら、エゼキエルがどのようにしてユダヤ人に彼らの絶望的な状況を悟らせようとしたか注目する。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主（エホバ）は預言者たちに靈感を与え、福音の原則を教えるための効果的な方法として、たとえや比喩、その他の象徴を用いさせる（エゼキエル4章；5：1-5；15章；16：6-34参照）。
- 主は悪人を滅ぼして義人を救う力を持っておられる（エゼキエル9章；25：6-7、15-17；26：1-6；28：21-22；29：1-16参照）。
- わたしたちは自分の罪のゆえに罰を受け、自分の義のゆえに祝福を受ける（エゼキエル18章参照。信仰箇条1：2も参照）。

教え方の提案

エゼキエル4-18章。主は預言者たちに靈感を与え、福音の原則を教えるための効果的な方法として、たとえや比喩、その他の象徴を用いさせる。エゼキエルは象徴を用いて、神のメッセージを民に効果的に伝えた。（25-35分）

生徒に二つの果物を見せる。一つは熟したもので、もう一つは熟していないものにする。1ニーファイ17：36-43を読ませ、以下の質問をする。

- これらの聖句は、果物とどのような関係がありますか。
- 主が民のことを「罪悪が熟し〔て〕いる」と言われるとき、それは褒め言葉だったのでしょうか。それはなぜですか（2ニーファイ28：16；アルマ10：19も参照）。
- 第17章の前書きによると、ニーファイが1ニーファイ17：36-43に書かれている言葉を述べたのはいつごろのことでしたか。（紀元前591年。）

『聖句ガイド』にある「年表」を調べさせ、エゼキエルがその務めを始めたおおよその年を見つけさせる（紀元前598年）。罪悪が熟した、すなわちいつ滅びてもおかしくない状態になった民へのエゼキエルのメッセージはどのようなものだったと思うか尋ねる。エゼキエルの預言がエルサレムの滅亡とユダの捕囚に焦点を当てていたことを生徒に理解させる。

エゼキエルは靈感を受けて、幾つかの独特なたとえや類比、および象徴を用いて民に教えたことを生徒に伝える。生徒を6つのグループに分け、各グループにエゼキエル5-8章；13章；および15章から、1つの章を割り当てる。10-15分与え、その章で用いられているたとえや類比、象徴、ユダが陥っていた具体的な罪、およびその結果としてもたらされる罰を見つけさせる。難しい箇所を理解できるように、各グループに『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるエゼキエル5-15章についての注解（289-293ペー

ジ) の資料を紹介する。グループごとに学んだことをクラスで発表させる。

教義と聖約1:38:18:33-36; および85:6を読み、神がわたしたちに語られる方法を幾つか列挙する。教義と聖約88:88-92を読み、以下の質問をする。

- 終わりの時に、主はどのような「声」を用いられると思いますか。
- これらの声の中で、わたしたちが今日耳にしているのはどれですか。
- メッセージを伝えるために、神が厳しい方法を用いられることがあるのはなぜですか。(御自分の子供たちが聖文や神の僕、あるいは御靈の声に耳を傾けようとしないため。)
- これらの様々な声は、主がエゼキエルの時代にイスラエルに警告するために用いられたものとどのような点で似ていますか。

悪人に対する裁きから免れるために、神が語られるときは常にその声に注意を向けるよう生徒を励ます。最後に、一人の生徒にゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の言葉を読ませるとよい。

「さて、兄弟姉妹の皆さん、もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるよう精神を集中する時が来ました。今は堅固に立つべき時です。自分たちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解したうえで、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、それをいとわずに、正しいことをなすべき時です。戒めを守るべき時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に、愛と優しさを示す時です。すべての人間関係において、お互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なおいっそうキリストに近い生活をする時なのです。」(『聖徒の道』1995年7月号、76-77)

エゼキエル18章。周囲の人々が何を選ぶかに関係なく、わたしたちには善悪を選ぶ選択の自由があり、自分の選択に対して責任を負う。(15-20分)

生徒に以下の言葉にどのような共通点があるか尋ねる。それらはすべて、わたしたちの靈性が周りの人々の選択によって決定されるという間違った考えを扱ったものであることを理解させる。

- 神はわたしのことを気にかけてはおられません。わたしがどんなにひどい状況の下に生まれてきたかを見てください。
- わたしには神殿で結婚できるという希望はありません。両親はどちらも教会に活発ではないのです。
- わたしは祈るのにふさわしいとは思いません。わたしの家族は全員喫煙し、飲酒もするのです。
- わたしは救いについて心配する必要はありません。わたしの家族は何世代にもわたって教会員なのです。

エゼキエル18:1-2を読み、以下の質問をする。

- このことわざは、これらの4つの言葉とどのような関連がありますか。
- 今日このように感じている人々がいますか。
- このように感じている人にとって慰めとなるのは信仰箇条の何条ですか(信仰箇条1:2)。

エゼキエル18:1-2を理解させるために、ボイド・K・パッカー長老の以下の言葉を読む。

「わたしの知っているある父親は『善い両親から生まれ』ました。学問の分野では傑出した人物でした。表向きは教会に活発でしたし、教会の教義に公然と異議を唱えることは決してありませんでした。また息子たちの少なくとも何人かを伝道に送り出しました。しかしこの父親は、教会の教義のある部分についてはくだらないものだと思っていたのです。

彼の家族は世の中に出て行き、その何人かは自分たちの選んだ分野で卓越した地位を得ています。しかし現在教会に活発な人は一人もいません。この父親の子供たちや孫たちの人生の中に、次の預言の成就を見ることができます。『父がすっぱいぶどうを食べたので、子どもの歯がうく〔。〕』(エレミヤ31:29)彼らは父の愚かさによって、そのような道を歩んできたのです。」(Teach Ye Diligently, 181)

エゼキエル18:4-22を読ませ、エゼキエルならどのような言葉にどう答えたと思うか述べさせる。ブルース・R・マッコンキー長老の以下の言葉を読む。

「罪に対して一人一人が責任を負うことは、まさに救いの計画の根源を成すものです。すべての人は他人の罪に対してではなく、自分自身の罪に対して責任を負います。人は周りの人の行いによってではなく、自分が肉体をもつてした行いによって裁かれます。人は他人の救いではなく、自分自身の救いを得るのです。これこそが救いの計画です。すべての人が自分自身の働きによって裁かれ、すべての人が用意されているもろもろの王国の中に自分自身の場所を受けるのです。」(A New Witness for the Articles of Faith, 100。本書13ページにある「選択の自由」も参照)

以下のことが理解できるようにする。すなわち、両親のいかなる罪も義も、子供たちの主との関係を決定づけることはできない。また、子供たちがこの地上で成し遂げることができることを決めることもできない。地上での受け継ぎや背景に関係なく、すべての人は進歩して天の御父のようになることができる。次の質問をする。「アブラハムの生涯は、どのような点でこの原則の実例だと言えますか(アブラハム1:5参照)。」当時十二使徒定員会会長であったエズラ・タフト・ベンソン会長は、これがどのように成し遂げられるか説明している。

「主は心の内側から外側に向けて働きかけますが、この世は外側から内側に向けて働きかけます。この世は貧民窟から人々を連れ出そうとしますが、キリストは人々から悪や汚れた面を取り去り、自分自身で貧民窟から抜け出られるようにします。この世は環境を変えることによって人間を形成しようとしますが、キリストは人間自体を変え、それによって人間が自らの手で環境を変えられるようにします。この世は人の行動を変えようとしますが、キリストは人の性質を変えることができるのです。」（『聖徒の道』1986年1月号、6）

エゼキエル33-48章

はじめに

エルサレムの滅亡という悲劇的な現実を踏まえ、エゼキエルは将来に目を向け、末日におけるイスラエルの贖いを預言することによって希望のメッセージを伝えた。以下は末日の出来事の一部である。

- 羊（イスラエルの家）がまことの羊飼いのもとに集められて一つになる（エゼキエル34章参照）
- 散らされたイスラエルが集められる（エゼキエル36章参照）
- イスラエルのすべての部族が一つになる（エゼキエル37章参照）
- 聖書とモルモン書が一つに合わされる（エゼキエル37：15-20参照）
- 福千年（エゼキエル37：21-27参照）
- ハルマゲドンの戦いとイエス・キリストの再臨（エゼキエル38-39章参照）
- エルサレムに新しい神殿が建てられる（エゼキエル40-48章参照）

40-48章に書かれている新しい神殿に関するエゼキエルの預言は、神殿の再建とそこでの礼拝を扱っている点で特に興味深い。『聖句ガイド』『エゼキエル』（50ページ）も参照のこと。

学び取るべき重要な福音の原則

- 教会の指導者は、わたしたちに真理を教え、間違いを犯すときには警告するという責任を神から与えられている（エゼキエル33：1-9；34：1-10参照。エゼキエル3：15-21；モルモン書ヤコブ1：18-19も参照）。
- 神は寛容な御方である。神は裁きを下される前に繰り返し民に悔い改めの機会を与え、裁きを下されるときでさえも希望と愛をお与えになる（エゼキエル33：10-19参照。エゼキエル6：1-7；7：1-15；12：21-25も参照）。
- イエス・キリストの復活により、全人類は完全な肉体を持って復活する（エゼキエル37：1-14参照。アルマ11：43-44も参照）。

- 聖書とモルモン書は一つとなって、イエス・キリストについて証する（エゼキエル37：16-19参照）。
- 前世で始まった善と惡の戦いは、聖地での大いなる戦いにおいて頂点に達する（エゼキエル38-39章参照。ゼカリヤ12：9-10も参照）。
- 主は御自分の民に神殿を建てるように命じられる（エゼキエル40-47章参照。出エジプト25：8；列王上6：11-14；2ニーファイ5：16；教義と聖約124：39；127：4も参照）。

教え方の提案

エゼキエル33-48章。神は寛容な御方である。神は裁きを下される前に繰り返し民に悔い改めの機会を与え、裁きを下されるときでさえも希望と愛をお与えになる。（30-40分）

以下の質問をする。

- だれかから思いやりのないやり方で非難されたり、間違いを正されたりしたことありますか。
 - どのように感じましたか。
 - 自分を改善しようと思いましたか。それはなぜですか。
- 教義と聖約121：41-44を読ませ、間違いを犯している人々をどのような方法で正すべきか探させる。主がこの聖句で教えられたことを黒板に要約する。要約には以下の内容を含めるとよい。
- 責める——親切に誤りを正そうとする
 - そのときに——早めに、機会を逃さず
 - 厳しく——はっきりと、明確に
 - その後いっそうの愛を示す。

主は長年にわたって辛抱強くユダヤ人に接してこられたことを説明する。彼らが悔い改めを拒んだとき、より厳しく叱責する時が来た。主はバビロニア人がユダヤ人を征服して捕らえて連れ去り、エルサレムと神殿を破壊するをお許しになった（列王下25章参照）。以下の質問をする。

- 主が教義と聖約121章で明らかにしておられる規範によると、厳しく責めた後にはどのようなことが必要ですか。
- 主は「いっそうの愛」を示されたでしょうか。

以下の表をコピーして配付するか、黒板に描く。「末日の祝福」の欄は空欄にしておき、個人またはグループで参照聖句を読ませ、約束されている祝福を書き込ませる。

問題	希望のメッセージ	イスラエルに約束されている末日の祝福
イスラエルは散らされた	エゼキエル11：16-20；14：22-23；20：33-44；34：13；36：24	イスラエルは再び集められる。
イスラエルは心がかたくなで反抗的であった	エゼキエル11：18-20；36：26-27	主はイスラエルに新しい心と新しい靈をお与えになる。
民は死んだ	エゼキエル37：1-14	イスラエルは復活する（イスラエルの回復の象徴もある）。
イスラエルとユダは分裂した	エゼキエル37：15-22	イスラエルは主の手によって一つとなる（聖文が一つになることの象徴もある）。

問題	希望のメッセージ	イスラエルに約束されている末日の祝福
イスラエルは包囲された	エゼキエル38：14-16；39：1-7；ゼカリヤ12：9	主はゴゲとマゴグを打ち破られる。シオンに向かって戦う者はすべて滅ぼされる。
神殿は破壊された	エゼキエル47：1-12	末日の神殿が永遠の命の約束をもたらす。
祭司とレビ人は腐敗していた	エゼキエル44：10-24	真の祭司が、神聖なものと世俗的なものを見分ける方法を民に教える。

これらの原則を生活で応用できるように、ニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を読んで話し合う。

「必要な叱責や懲らしめを受け入れて改善できるようにならなければ、不完全なわたしたちが主のようになることなど期待できるでしょうか……。懲らしめや叱責を受け入れる能力は、何と必要不可欠なものでしょう。」(Even As I am [1982年], 63)

「叱責を歓迎するとまではいかなくとも、少なくともそれを拒んだり腹を立てたりしなければ、叱責は向上の機会となります。叱責はだれの目にも触れない個人的な状況で行われることもあれば、人々の前であからさまに行われることもあります。いずれにせよ、通常は自尊心をひどく傷つけられるものです。着飾ったときの自分が違う人のように感じられるのと同じように、叱責されるときもまるで身に覚えのないような気がします。それを受け入れるのは決して簡単ではありません。『悪いのはほかの人だ』と思っていた矢先に自分の間違いが明らかになった場合、それでも『よかった』と思えるほど、わたしたちは光を愛しているでしょうか。言い方が下手であったり無神経であったりしても、あるいはそれが間違った動機に基づくものであったとしても、相手の言っていることが基本的に正しいなら、その叱責を受け入れることができるでしょうか。わたしたちは人生という学校において、同期の人々が進級していく中で、特定の教えを学ぶまで喜んで同じ学年を繰り返すでしょうか。わたしたちの校長は、必要であればそうすることをためらわれないでしょう。」(We Will Prove Them Herewith, 118)

エゼキエル33：11-19。失われたものを回復することができないという理由から、悔い改めるのが難しい罪がある。(5-10分)

黒板に、「姦淫が盗みよりも深刻であり、殺人が姦淫よりも深刻なのはなぜでしょうか」と書く。エゼキエル18：27と33：19を読ませ、エゼキエルが悔い改めについて教えたことを要約させる。エゼキエル33：15-16を読ませ、罪から離れて正しいことを行う以外に、わたしたちが行うべきことを見つけさせる(出エジプト22：12も参照)。以下の質

問をする。

- 償いの必要性について理解することは、黒板の質問に答えるうえでどのように役立ちますか。
- 自転車を盗んだ人は、どのようにしてそれを償うことができますか。

『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のエゼキエル33：12-19についての注解(302ページ)にある、当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老の言葉を紹介する。

エゼキエル34：1-10。教会の指導者は、わたしたちに真理を教え、間違いを犯すときには警告するという責任を神から与えられている。もしも御父の子供たちを救うためにできることをすべて行わないなら、指導者は主に釈明をしなければならない。(10-15分)

次のように尋ねる。「教会の指導者は、行うべきことと行うべきでないことを絶えずわたしたちに思い起こさせていい。それはなぜでしょうか。」エゼキエル34：1-10を読ませる。預言者やその他の指導者が、わたしたちに正しいことを思い起こさせるように命じられているのはなぜだろうか。理由の一つを見つけさせる。また、『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のエゼキエル34：1-10についての注解(303ページ。モルモン書ヤコブ1：18-19も参照)にあるスペンサー・W・キンボール大管長の言葉を部分的に紹介してもよい。

教義と聖約88：81を読ませ、その聖句が個人の責任について何を教えているか尋ねる。

エゼキエル37：1-14。イエス・キリストの復活により、全人類は完全な肉体を持って復活する。(15-20分)

一足の履き古した靴を見せる。次の質問をする。「もしこの靴があなたの人生を表しているとしたら、どのような気持ちがしますか。」黒板に「すべての事物は衰え、古び、朽ち果てる時が来る」と書く。以下の質問をする。

- 大切にしているものを失ったり、愛する人をなくしたりするとき、どのような気持ちがしますか。
- 古びたり朽ちたりすることのない世界での生活はどのようなものだと思いますか。

主はそのような世界を用意してくださっていることを生徒に伝える。エゼキエル37：1-14を生徒とともに読み、主がエゼキエルにお見せになったものについて話し合う。次の質問をする。「自分や愛する人々が復活するという知識は、どのような影響を与えますか。」復活について生徒が理解できるようにするために、以下の質問や聖句の一部またはすべてについて話し合う。

- 復活の後、わたしたちの体はどうなると思いますか。わたしたちはどのような姿になりますか(アルマ11：43-45；教義と聖約88：27-32参照)。

- わたしたちは再び死ぬことがありますか。復活後の幸福は何によって決まると思いますか（アルマ41：1-7参照）。
- 復活を可能にしたのはどなたですか（1コリント15：22-23；2ニーファイ9：10-13参照）。
- この回復または復活は、どのような意味でイスラエルに当てはまりますか。

復活が現実のもので間違いなく起こることを証する。復活後の幸福は、わたしたちの忠実さにかかっていることを理解できるようにする。主の助けがあるならば、すべての生徒が必ず日の栄えの王国にふさわしくなれることを約束する。

 **エゼキエル37章（マスター聖句、エゼキエル37：15-17）。**聖書とモルモン書は対となってイエス・キリストを証する。わたしたちは、これらの聖典とともに、回復のメッセージを宣言することによって、イスラエルの家の回復という主の約束が成就するのを助けることができる。（30-40分）

注意：『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のエゼキエル37：1-14；37：15-20；および37：15-17についての注解（303-305ページ）を読むと役に立つであろう。

スプーンを見せ、それがどのような用途に使われるか答えさせる。聖文には複数の意味を伝えるために用いられている比喩的表現が多くあり、これからそれらの比喩の幾つかを学ぶことを説明する。

生徒とともにイスラエルの散乱に関する預言を読む（『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』にある特別講座DおよびJ, 115-119, 335-340ページ参照）。エゼキエルは、示現の中で自分の民の相次ぐ滅亡と散乱を見たとき、悲しみに圧倒されて、イスラエルが「ことごとく滅ぼされる」ことはあるのか主に尋ねた（エゼキエル11：13参照）。そのことを説明する。エゼキエル11：16-20を読ませ、以下の質問への答えを見つけさせる（生徒の答えを黒板に記録する）。

- 17節で、主はエゼキエルに何をすると約束しておられますか。（イスラエルの民を彼らの地に戻す。）
- 19節で、主は彼らに二つの祝福を授けると言っておられます。それは何ですか。（一つの心と新しい靈。）
- 20節で、民はそれらの祝福を受けるときに何を行うよう求められていますか。（主の定めに歩み、主のおきて〔儀式〕を守る。）

エゼキエル37章で、主はエゼキエルにこれらの約束がどのようにして成就するか教えておられることを生徒に説明する。またこの章には、一つの預言が複数の意味を持つ具体例が二つ見られる。一人の生徒に、エゼキエル37：1-10を読ませ、次にこの聖句で述べられていることについて尋ねる。（死からの復活。）別の生徒にエゼキエル37：11-14を読ませ、次の質問をする。「これらの復活した人々は何を象徴していますか。」（イスラエルの全家。）復活するのはイスラエルの家だけではないので、エゼキエルがイスラエル

の家の復活だけを見ていることには別の意味を見いだすことができる。そのことを生徒に伝え、以下の質問をする。

- 象徴的な墓から出て来たとき、イスラエルはどこに連れて行かれましたか。（彼ら自身の地。）
 - 主はイスラエルに何を与えると言われましたか。（主の靈。）
- 黒板に書かれている集合に関する主の約束のリストを読み、類似点に注目する。エゼキエルの示現に見られるもう一つの意味は何だと思うか生徒に尋ねる。（イスラエルの集合。）

2本の木の棒を見せる。一方に「ユダ」、もう一方に「エフライム」と書く。一人の生徒にエゼキエル37：15-17を読ませ、次の質問をする。「それらの木には何が書かれ、どうなることになりましたか。」「木」と訳されているヘブライ語は、翻訳によっては「木版」と表現されていることを説明する（『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のエゼキエル37：15-17についての注解、304-305ページ参照）。以下の質問をする。

- ユダの木とは何ですか。（聖書。）
- エフライムの木とは何ですか。（モルモン書。）
- それらはどうなる必要がありましたか。（一つになる。）

エゼキエル37：15-17と2ニーファイ3：12を相互参照し、これらの木が一つにならなければならない理由を見つける。以下の質問をする。

- 2ニーファイ3：12によると、これら二つの書を一つに合わせることによって神の民にもたらされる5つの祝福とは何ですか。（偽りの教義を打ち破る、争いを鎮める、平和を確立する、末日のイスラエルに彼らの先祖についての知識を与える、末日のイスラエルに主の聖約についての知識を回復する。）
- モルモン書と聖書を合わせることで、どのようにしてこれらのことが成し遂げられると思いますか。

ボイド・K・パッカー長老の以下の言葉を読む。

「エゼキエルの預言は、こんにち今日成就しています。年月を経るに従って、この聖典に触れる人々は、次々と主イエス・キリストを知って主の御心に従う忠実なクリスチヤンとなっていくことでしょう。

……今や、ヨセフの木とユダの木が彼らの手に置かれました。彼らには、過去の人々が到底成し得なかった研究ができるのです。彼らはイエスがキリストであるという証を持ち、そのように宣言し、主を擁護する力を持つようになるでしょう。」（『聖徒の道』1983年1月号、92-93参照）

復活に関するエゼキエルの示現と同様、木の示現にも複数の意味があることを説明する。『聖句ガイド』「地図3」を開かせる。ソロモンの統治の後、イスラエルは二つの王国に分裂したことを思い起こさせる。南王国はユダの家によって治められ、北王国はエフライムの家によって治めら

れた。エゼキエル37：19-23を読ませ、木が持つもう一つの意味を見つけさせる。次の質問をする。「主はエゼキエルに何を明らかにしておられたのでしょうか。」（エフライムとユダはいつの日か合わさって一つの王国になる。）エゼキエル37：24-26を読ませ、以下の質問をする。

- 一つになったイスラエルの子らを治める王はだれだと思いますか。（イエス・キリスト。）
- 主がここでダビデと呼ばれているのはなぜだと思いますか。（キリストはダビデの子孫であるから。）
- エフライムとユダはどのぐらいの期間一緒に住むでしょうか。
- この預言の成就において、モルモン書はどのような役割を果たすでしょうか。
- その実現を助けるために、わたしたちには何ができるでしょうか。

自分たちの役割を果たすために、回復された福音のメッセージを散らされたイスラエルに伝えるよう生徒を励ます。預言者ジョセフ・スミスがイスラエルの集合の鍵を受けたのは、モルモン書が翻訳された後であったことを指摘するといい（教義と聖約110：11参照）。

エゼキエル38-39章。前世で始まった善と惡の戦いは、聖地での大いなる戦いにおいて頂点に達する。（35-45分）

注意：『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のエゼキエル38-39章についての注解および特別講座I（305-306, 311-316ページ）を読むと役に立つであろう。

曜日だけで、日付が記されていないカレンダーと、短針のない時計を見せる。マタイ24：36-37を読ませ、これらが救い主の再臨とどのように関係しているか尋ねる。エゼキエルは再臨の前に起こるハルマゲドンの大いなる最後の戦いについて預言したことを生徒に伝える。

以下の表をコピーして配付するか、黒板に描く。クラスをグループに分け、各グループに「テーマ」の欄から項目を一つまたは複数割り当て、それらを研究して見つけたことを発表させる。

テーマ	エゼキエルの預言	裏付けとなる参考聖句
大きな軍隊がゴグのもとに集合する。	エゼキエル38：1-7	ヨエル1：1-6；黙示9：16；『聖句ガイド』「ゴグ」（101ページ）
末日にゴグの軍隊がイスラエルに向かって進軍する。	エゼキエル38：8-16	ヨエル2：1-9；ゼカリヤ14：1-3；黙示9：7-11, 16-19
その戦いに伴って大きな地震がある。	エゼキエル38：17-20	ゼカリヤ14：1-4；黙示16：18-20
戦いがすべての国々に広がり、疫病と流血と雹がそれに続く。	エゼキエル38：21-23	エレミヤ25：31-32；イザヤ3：25-26；13：11, 15-16；ゼカリヤ14：12-13；黙示16：21；教義と聖約29：15-19；87：6

テーマ	エゼキエルの預言	裏付けとなる参考聖句
主はイスラエルのために戦い、ゴグの軍隊に火を送られる。	エゼキエル39：1-7	イザヤ66：15-16；詩篇11：5-6；110：6；118：10；ゼカリヤ12：1-9
イスラエルは死者の埋葬に7か月、武器を埋めるのに7年を費やす。	エゼキエル39：8-16	イザヤ34：1-3；エレミヤ25：33
主の晩餐がある。	エゼキエル39：17-21	黙示19：17-18；教義と聖約29：20
イスラエルは聖約に立ち返り、自分たちの地に安全に住む。	エゼキエル39：22-29	エレミヤ46：27-28；ヨエル2：12-20

発表が終わった後でまだ質問が残っていれば、聖句を使ってそれらに答える。義にかなった生活こそが終わりの時と救い主の再臨への最もよい備えであることを生徒が理解できるようにする。教義と聖約115：5-6を読み、生徒に自分が交わした聖約を忠実に守り、ステーク、ワード、支部、および家庭を強めるために自分にできることをすべて行うように励ます。

エゼキエル40-48章。主はいつでも御自分の民に神殿を建てるように命じられる。エゼキエルは示現でエルサレムに建てられる神殿を見た。（50-60分）

神殿の写真を見せ、神殿がどのような意味で希望のメッセージと言えるのか生徒に尋ねる。エゼキエル37：25-28を読ませ、以下の質問をする。

- これらの節にある「すみか」や「聖所」は何を指していますか。（神殿。）
- この神殿はどこに建てられるのですか。
- それはいつですか。（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のエゼキエル37：26-28についての注解、305ページ参照。）

エゼキエル40-48章には、イスラエルの家に希望と祝福をもたらすために、末日のエルサレムに建てられる大いなる神殿についての示現が記録されていることを説明する。エゼキエル40-42章から、神殿の詳細について述べている節を幾つか選ぶ。以下の質問をする。

- 主がエゼキエルに神殿とその庭をこれほど細かくお見せになったのはなぜだと思いますか。
- 今日エルサレムには主の神殿がありますか。

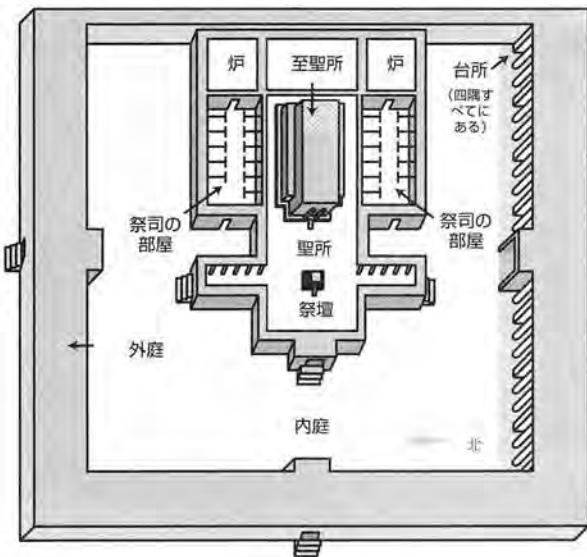
エゼキエル43：1-9を読ませ、主が神殿にお住まいになる前に、民がしなければならないことを説明させる。教義と聖約97：10-17と比較し、この件について主が今日どのようなことを明らかにしておられるか見つけさせる。

生徒に自分は神殿にいると仮定させるか、もし参入した

ことがあれば、そのときのことを思い起こさせる。それから、以下の質問に答えさせる。

- ・神殿を見るときにはどのような気持ちがしますか。
- ・神殿の外側にはどのような言葉が書かれていますか。(「主の宮居——聖きを主に捧ぐ」)
- ・その言葉から神殿についてどんなことが分かりますか。
- ・神殿に入りたいと希望する人々が、そのふさわしさについて見極めを受ける必要があるのはなぜですか。

エゼキエル44:6-9を読みませる。神殿に参入するための一般的な資格について話し合う。次の質問をする。「神殿に参入する人を制限することはなぜ大切なですか。」(教義と聖約97:15-17参照) 注意:神殿推薦状の質問について話し合うためにビショップを招待してもよい。



ふさわしい状態で神殿に参入する人々のために用意されている祝福があることを説明する(教義と聖約109:10-15, 21-28参照)。神殿についてのエゼキエルの記述には数多くの象徴が含まれていることを伝える。エゼキエル47:1-2を読みませる、神殿の下から流れ出るものは何か尋ねる。ヨハネ4:10-14を相互参照し、読む。その水が何を象徴しているか尋ねる。神殿の下から流れ出る水は、文字どおりの水も意味する。預言者ジョセフ・スミスは次のように語っている。

「ユダは戻り、エルサレムは再建されなければなりません。また神殿も再建されます。そして神殿の下から水がわき出て、死海の水が癒されるのです。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 286)

エゼキエル47:8-9を読み、以下の質問をする。

- ・その水に触れるすべてのものはどうなりますか。
- ・それはわたしたちの生活における、イエス・キリストの影響とどのように似ていますか。

神殿の中で、救い主の影響力をどのように感じができるか証する。エゼキエル47:3-5を読みませ、川の水がどのくらい深くなるか見つけさせる。(くるぶしまで、ひざまで、腰まで、そして泳げるほど深く。)以下の質問をする。

- ・イエス・キリストの影響が「くるぶしまでの深さ」であるとは、どのようなことを象徴していますか。
- ・それはイエス・キリストの影響が「ひざまでの深さ」であること、あるいはイエス・キリストの影響に「浸っている」状態とどのように異なるでしょうか。
- ・これらの祝福はあなたの生活にどのような影響を与えると思いますか。
- ・それらは教会にどのような影響を与えると思いますか。

ハワード・W・ハンター大管長の以下の言葉を紹介する。

「末日聖徒の皆さんのが主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とするようにお勧めします。わたしの心からの願いは、すべての教会員が神殿に参入するふさわしさを身に付けることです。すべての成人会員が有効な神殿推薦状を受けるにふさわしくあり、しかもそれを所持するなら、主は喜ばれることでしょう。神殿推薦状を得るためにすべきこととすべきでないことは、わたしたちが個人として、また家族として、幸福になるのを約束する事柄でもあるのです。」(『聖徒の道』1995年1月号、9-10)

ダニエル1-12章

教え方の提案

ダニエル1章。主の戒めへの従順さは、物質的および靈的な祝福をもたらす。(15-20分)



可能であれば、「王の食物と酒を拒むダニエル（ダニエル1：3-21）」（『福音の視覚資料セット』[34730 300]、114）の絵を見せる。ダニエル1：1-7をともに読み、以下の質問をする。

- ・ダニエルとその友人たちは、なぜバビロンにいたのですか。
 - ・ネブカデネザルの宮殿に送られたのはなぜですか。
- 8-13節を読ませ、以下の質問をする。
- ・ダニエルは宦官の長に何を頼みましたか。かんがん
 - ・ダニエルの要求が、勇気あるものであったのはなぜですか。
 - ・ダニエルとその友人たちは、王の用意した食物を食べたくなかったのはなぜですか。

ダニエルの主への献身が、禁じられていたものを口にすることを拒むよう彼を促した。そのことを生徒が理解できるようにする（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル1：8についての注解、319ページ参照）。教義と聖約89：5、8-14を読み、以下の質問をする。

はじめに

ダニエル書は、一人の預言者の生涯に起こった出来事の記録である。この預言者は、バビロンで囚われの身となっていたユダの民に仕えた。預言者エレミヤによる主の勧告に反して、ユダヤ人はバビロニア人からの救出をエジプトに期待していた（エレミヤ27：12-13；37：7-8 参照）。紀元前約605年、バビロニア人はネブカデネザルのもと、カルケミシでエジプト人を破った。この勝利は、世界的な強国としてのエジプト帝国の終わりを告げる兆しとなった（エレミヤ46：2；列王下24：7 参照）。紀元前約597年、ネブカデネザルはエルサレムを征服して略奪を行い、多くの兵士、職人、および貴族を異郷の地へと連れて行ったが、ダニエルもその中にいた（列王下24：8-14；ダニエル1：1-6 参照）。後に残ったユダヤ人は再び反乱を起こすが、紀元前約587年、ネブカデネザルはエルサレムに戻って町を滅ぼし、さらに多くのユダヤ人をバビロンに連れ去った（列王下25章参照）。

ダニエル書には、周囲の人々が福音に従っていないときに、あるいは周囲の状況から福音に従うことが困難であるときに、どのように福音に従った生活をすることができるのかが示されている。また、神の王国が世界のあらゆる列強や王国に打ち勝つことも預言されている。この書の重要なテーマは、神は個人も国々も含めて全地を支配する力を持っておられるということである（『聖句ガイド』「ダニエル」、162ページ；『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるダニエル書の「はじめに」、319ページも参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・主の戒めへの従順さは、物質的および靈的な祝福をもたらす（ダニエル1：8-21；2：16-28；3：17-28；4：18-27；5：11-12；6：10-28；9：1-20 参照）。
- ・預言者には将来のことを預言し、しるしや夢を解き明かす力がある（ダニエル2：28-45；4：19-26；5：25-28；7-8章；9：21-27；10：5-12；4 参照）。
- ・常に正しいことを選ぶためには、道徳面での大いなる勇気が必要である（ダニエル3章；6章 参照）。
- ・教会は、末日において地上に確立されている神の王国である。この王国は発展して世界に満ちる（ダニエル2：28-45；7-8章；11章；12：1-3 参照。教義と聖約65：1-6も参照）。

- これらの節は、ダニエルの物語にどのように関係しているでしょうか。
- もしダニエルが現代に生きていたなら、どのようなものを口にするのを拒むでしょうか。
- 自分の標準を捨てるようというプレッシャーに直面するとき、ダニエルの経験はどのような助けとなるでしょうか。

ダニエル1:14-20を読ませ、王よりも神に従うことによってダニエルとその友人が受けた助けを見つけさせる。それらの祝福を、今日知恵の言葉に従う人々に主が約束しておられることと比較する（教義と聖約89:1-4, 18-21参照）。ボイド・K・パッカー長老の以下の教えを紹介する。

「わたしは、靈感が声よりも感情を通して与えられることの方が多いことに気づくようになりました。

若人の皆さん、いつも靈感を受けられる状態であってください。

また、知恵の言葉の根源的な目的が、啓示と深い関連があることも分かるようになりました。

皆さんは幼いころから、茶、コーヒー、酒、タバコ、麻薬、そのほか健康に害を及ぼすものは避けるように教えられてきました。……

麻薬やアルコールに冒され、普通の話も満足に聞きとれないような状態の人は、この最も纖細な感情に働きかける靈的な感覚をどのように感じることができるのでしょうか。

知恵の言葉は健康の律法としても有益ですが、肉体的よりもむしろ靈的なことにおいてもっと価値があるのです。」（『聖徒の道』1980年3月号、28参照）

主の戒め、特に知恵の言葉を守ることによって、聖靈の導きに反応する能力がどのように高められてきたか、教師自身の気持ちを話すとよい。

 **ダニエル1章；3章；6章。常に正しいことを選ぶためには、道徳に対する大いなる勇気が必要である。**
(55-65分)

可能であれば、以下の3枚の絵を見るように置く。「王の食物と酒を拒むダニエル（ダニエル1:3-21）」（『福音の視覚資料セット』[34730 300]、114）、「火の燃える炉の中に投げ込まれた3人（ダニエル3:20-30）」（『福音の視覚資料セット』[34730 300]、116）、「ししの穴のダニエル（ダニエル6:11-24）」（『福音の視覚資料セット』[34730 300]、117）。これら3つの物語にどのような共通点があるかを考えるように言う。レッスンの最後に生徒の答えを尋ねることを伝えておく。

ガラスの容器（1リットルサイズ）に米または小麦を半分まで入れる。小さな軽いボール（ピンポン玉など）1個をその容器に入れ、ふたをする。次のように尋ねる。「これまでに、自分が苦難や困難の中に埋もれていく感じ

たことがありますか。」容器を持ち上げてすばやくひっくり返し、ボールが底になって米または小麦に覆われるようになる。今日はこれから、ある若者たちについて学ぶことを生徒に伝える。彼らは、「埋もれて」しまったと感じていたかもしれません。

ダニエル1:1-7を読み、捕らえられて別の国に連れ去られることについてどのように感じるか話し合う。アルマ36:3を読み、主が忠実な人々に何を約束しておられるか尋ねる。ダニエル1:8-20を調べ、次のことを発表させる。「主は、その約束をダニエルとその仲間たちに対して果たすために、何を行われたでしょうか。」これらの若者の従順さと、彼らの忠実さに対して主がどのように祝福されたか話し合いながら、容器を振り、ボールがダニエルとその友人たちのように覆われたものから出てくる様子を見せる。

全員でダニエル3:1-18を読む。生徒に17-18節を自分の言葉で書き直させる。次の質問をする。「これらの節から、この若者たちについてどのようなことが分かるでしょうか。」これらの節について話し合いながら、容器をひっくり返してボールが上に行くまで振る。物語の残りの部分で何が起こったかを一人の生徒に言わせるか、ともに19-27節を読む。以下の質問をする。

- もしあなたが似たような状況にあったとしたら、正しい選択をすることはどのくらい難しいでしょうか。
- 今日、正しい選択をするようにわたしたちを助けてくれるものとして、どのようなものがありますか。
- 主が3人の若者を炎からお救いにならなかったとしても、偽りの神の礼拝を拒むことは3人の命と引き換えにするだけの価値のあることだったと思いますか。なぜですか（アルマ14:8-11; 60:13参照。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル3:1-18および3:19-23についての注解、321-322ページも参照）。

次のように尋ねる。「現代の世俗的なやり方や習慣に従わないことを選ぶとき、わたしたちはどのような『火の燃える炉』に直面するでしょうか。」答えを黒板に書き出してもよい。3人が苦難の中にあったときに、炉の中にもう御一方おられたことに注目する（25節参照）。教義と聖約20:77を読み、「いつも御子の御靈を受けられるように」という言葉について話し合う。火の燃える炉の中にいた3人のように、生徒も一人ではないことを理解させる。

ダニエル6章を読んでもよい。何人かの生徒にナレーター、嫉妬深い総監および総督の代表、ダリヨス王、およびダニエルの箇所を読むように割り当てる。1-10節を読んだ後、以下の質問をする。

- 王が定めた法律があったにもかかわらず、ダニエルは何を行った決意をしましたか（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル6:10についての注解、325ページ参照）。
- それが困難な決断であったと思われるのなぜですか。
- そのような困難な状況の中で、正しい選択ができる人々

についてどのように感じますか。

章の残りを読む。1ニーファイ1:20およびアルマ30:60を読み、それらの聖句に書かれている原則が、ダニエル6章に登場しているどの人物にどのように当てはまるかを尋ねる。

前方の3枚の絵に生徒の注意を向けさせ、もう一度これらの物語の共通点を尋ねる。アルマ36:3に書かれている約束をもう一度読み（モーサヤ23:21-22；アルマ37:37も参照）、生活の中で主を第一とするときに、苦難の中にあってわたしたちを助けてくださる主の力について証する。

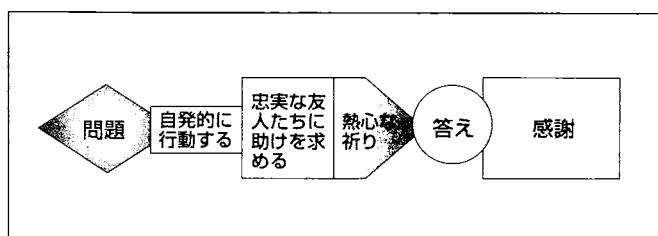
この聖句ブロックの別の学習法として、ダニエルとその友人たちの経験を、創世37章；39-41章にあるヨセフの生涯と比較してもよい。

ダニエル2:1-23。ダニエルがネブカデネザルの夢の解き明かしを求めて取った行動は、わたしたちが生活の中で主の助けを求める際の規範である。（15-20分）

注意：ダニエル書には幾つかの夢や示現が記されている。ネブカデネザルの夢を除いて、本書ではそれらを詳しく考察しない。これらの示現のある部分は、『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』（327-331ページ）にある注解を研究することによって理解を深めることができる。しかし、それらの意味の多くは、ダニエルにさえも明らかにされなかったことを心に留めておく（ダニエル12:4, 8-9参照）。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。「いかなる種類のものであれ、神がある表象的なもの、獸、形あるものを示現として授けられる場合、神は常にその示現の意味について、啓示や解釈を与える責任を負っておられます。そうでなければ、わたしたちはそれをどう考えるかに関して責任を問われることはありません。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 291）聖文や預言者の言葉によって理解の助けとなる道具が与えられている示現に焦点を当てる。

以下のように言う。「昨晩わたしは夢を見ました。それがどのような夢であったか、またどのような意味であるかをわたしに説明してください。」この夢を正確に説明できるかどうかに自分の命が懸かっているとしたらどう感じるか、またどうするか尋ねる。ダニエル2章で、ダニエルはそれに似た状況にあったことを伝える。

ダニエル2:1-13から抜粋した節を読んで要約し、生徒が理解できるようにする。14-23節を注意深く読ませ、ダニエルが自分や周りの人々の直面していた問題を解決するために行ったことを見つけさせる。生徒が読んでいるときに、黒板に以下の図を描き、言葉は空欄にしておく。



図の言葉を書き込みながら、ダニエルがどのようにして主の助けを求めたかを生徒自身の言葉で語らせる。これは、わたしたちが自分の問題に対する答えを求める際の規範となっていることを生徒が理解できるようにする。それぞれの要素について話し合う。またそれがダニエルにとって大切であったように、わたしたちにとっても大切である理由について話し合う。

ダニエル2章：4-5章；7-12章。主は預言者や聖見者に、将来のことを預言したり、しるしや夢を解き明かしたりする力を与えられる。（30-40分）

黒板に幾つかの道路標識の形を描く。以下の単語から生徒がよく知らない言語を選び、それぞれの標識の中に書く。gevaar（オランダ語）、gefahr（ドイツ語）、peligro（スペイン語）、fara（スウェーデン語）、perigo（ポルトガル語）。これらの標識の意味を理解できる人がいるか尋ねる。（すべて「危険」の意。）次のように尋ねる。「もしあなたが不慣れな道でこれらの標識を見た場合、それらの意味を理解することが重要なのはなぜでしょうか。」以下の質問をする。

- 今日、教会を代表して聖文を解き明かす権利を持っているのはだれですか。
- 預言者の聖文を解き明かす能力は、道路標識を使ったレッスンにどのように当てはまるでしょうか。

生徒とともに以下の聖句を読む。ダニエル2:47；4:4-5, 8-9, 18；5:10-12。人々が繰り返しダニエルに夢を解き明かすように頼んだのはなぜか尋ねる。（彼らはダニエルがそれらを理解する力を神から授かっていたことを知っていたため。）主はわたしたちにも、ダニエルと同じように預言の靈を持ち、自分たちの時代の出来事を解き明かし、適切な勧告をする預言者を与えてくださっていることを生徒が理解できるようにする。主は預言者に御自分の御心を明らかにされるので、わたしたちは確信をもって預言者に従うことができる。大管長会と十二使徒定員会による1980年の宣言から、以下の言葉を紹介する。

「わたしたちは、預言と啓示の御靈がわたしたちとともにあることを証します。『わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示される信じる。』（信仰箇条第9条）天は封じられてはいません。神はいにしえの時代と同様、今日も神の力を受けた預言者を通して、子供たちにその御言葉を明らかにしておられるのです。」（『聖徒の道』1980年9月号、85）

ダニエルにあったネブカデネザルの夢を解き明かす力を生徒に思い起こさせる（ダニエル2:1-23のための教え方の提案参照）。生徒とともにダニエル2:27-28を読み、次のように尋ねる。「夢の正しい解き明かしについて、ダニエルは王にどのような真理を教えましたか。」

生徒とともに、将来についてのダニエルの夢または示現から、以下の3つの例を読み、簡単に話し合う。

- 地上における将来の神の王国に関する示現（ダニエル7:13-14参照。ダニエル7:9-14のための教え方の提案も参照）
- メシヤがエルサレムに来られることに関する示現（ダニエル9:25参照）
- 終わりの時の悪人と義人の違いに関する示現（ダニエル12:10参照）

1 ニーファイ22:2を読み、ダニエルはどのようにして将来の出来事を知ることができたのか尋ねる。モーサヤ8:17を黙読させる。その節から聖見者について学んだことを一人か二人の生徒に話してもらう。ダニエルの夢の一部は末日について語っていることを生徒が理解できるようにする。ダニエルはそれらの啓示が現代まで保たれるように、それらを記録した。ダニエル以外にも、昔の預言者たちがわたしたちの時代を見て、その神聖な経験を記録していることを生徒に教える。これらの啓示の記録は、現在手もとにある聖文であり、わたしたちはそれを研究することができる。この預言の賜物のおかげで、わたしたちはそれらが自分たちに当てはまるなどを知りながら、聖文を読むことができる。ある。

エゼキエル3:17-21のための教え方の提案（187ページ）にあるように、黒板に、最近の総大会から現在の預言者の教えを幾つか書き出す。自分にとって従うのが最も難しい勧告について考えるように言い、現代の預言者の示現を信頼して、今日からその勧告に従った生活を始めるよう励ます。

ダニエル2:28-45（マスター聖句、ダニエル2:44-45）。教会は末日において地上に確立されている神の王国である。この王国は発展して世界に満ちる。（25-30分）

黒板に、「金」、「銀」、「青銅」、「鉄」、「粘土」、「石」、および「山」と書く。生徒にダニエル2:31-35を読ませ、夢の絵を描いて（線だけの簡単な図でよい）、それぞれの箇所に黒板にある単語を書き込むように言う。

生徒とともにダニエルの解き明かしを読み（36-45節）、それがどのようにして成就してきたかを話し合う（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル2:31-45および2:44-45についての注解、320-321ページ参照）。夢の解き明かしについて話し合いながら、黒板に書かれている項目がどの王国を表しているかを生徒に答えさせる。次の絵を参照する。

ネブカデネザルの夢

表されている王国



純金の頭
バビロニア帝国

銀の胸と両腕
メデアとペルシャ帝国

青銅の腹ともも
マケドニア帝国

鉄のすね
ローマ帝国

鉄と粘土の足と足の指
ローマ帝国の崩壊後に
起こるもろもろの王国

「それらの王たちの世」（ダニエル2:44）に教会が預言者ジョセフ・スマスによってどのように回復されたか話し合う。以下の質問をする。

- 1830年の6人の会員から、今日の何百万人もの会員に至る教会の発展は、王の夢に出てきた石にどのような点で似ているでしょうか。
- 石が「人手によらずに山から切り出され〔た〕」（ダニエル2:45）とはどういう意味でしょうか。（石すなわち神の王国は人が造ったものではない。教義と聖約65:2も参照。）
- 王国は「いつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされ〔ない〕」（ダニエル2:44）とはどういう意味でしょうか。（最終的に、人が造った王国はすべて終わりを迎える。神の王国だけが永遠に残る。）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を紹介する。ヒンクレー大管長は、その夢が成就するために、わたしたちがどのような形で協力できるか語っている。

「世界中の兄弟姉妹の皆さん、自分の信仰を再確認し、この御業を世に推し進めていこうではありませんか。皆さんは自分自身の生き方によって御業を強めることができます。福音を自分の剣と盾にしてください。わたしたちは皆、この地上で最もすばらしい大義の一翼を担っているのです。この教義は啓示によって与えられました。神権は神から授けられたものです。主イエス・キリストの証に、さらにもう一つの証が加えられました。それはダニエルの夢に出てくる『あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進む』（教義と聖約65:2）という小さな石そのものなのです。」（『聖徒の道』1996年1月号、78参照）

生徒に「この御業を世に推し進めてい〔く〕」というヒンクレー大管長の勧告を実践するために自分にできることを尋ねる。

ダニエル9:9-14。再臨の前に、イエス・キリストはアダム・オンダイ・アーマンに戻って来られる。（25-30分）

可能であれば、アダム・オンダイ・アーマンの谷の写真を見せる。またはその名前を黒板に書く。アダム・オンダイ・アーマンの場所を知っているか尋ねる（教義と聖約116:1および『聖句ガイド』の地図11「アメリカ合衆国のミズーリ州からイリノイ州にかけての地域」参照）。教義と聖約107:53-57を読ませ、昔その場所で何が起きたか説明させる。ダニエルは将来その場所で起こる一つの重要な出来事を予見した。そのことを生徒に伝える。末日の啓示によって、わたしたちはこの預言についてさらに多くを学ぶことができる。

生徒とともにダニエル7:9-14を読み、アダム・オンダイ・アーマンの大会議で起こることを説明させる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル7:9-14;7:13-14；および7:14についての注解、327-328ページ参照）。次の質問をする。「そこには何人の人が集まりますか。」（10節参照）。

教義と聖約27:5-13を読む。ここでは終わりの時にキリストが開かれる聖餐式について述べられている。ブルース・R・マッコンキー長老は、この儀式は「アダム・オンダイ・アーマンの大会議の一部となる」と書いている（*The Millennial Messiah*, 587）。以下の質問をする。

- この会議では何が起こり、そこにはだれがいますか。
- 教義と聖約27:14によると、ほかにだれが参加しますか。
- それは毎週の聖餐会とどのような点で違ったものとなりますか。

『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル7:13-14についての注解（327-328ページ）から、この集会についてのジョセフ・フィールディング・スミス大管長の記述を紹介する。次の質問をする。

- 救い主がその統治者となられるとき、この地上にはどのような変化が生じますか。
- あなたは自分の態度や振る舞いをどのように改善する、すなわち変えることができるでしょうか。

ダニエル9:1-19。ダニエルが自分の民のために行った主への嘆願は、義にかなった祈りの一例である。（15-20分）

これまでダニエルについて学んできたことを基に、ダニエルの神との交わりはどれくらい効果的なものであったと思うか尋ねる。ともにダニエル9:1-6, 9-11, 16, 19を読み、わたしたちの祈りをより効果的なものとするために、ダニエルの祈りから学べることを列挙する（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のダニエル9:1-19についての注解、329ページ参照。『聖句ガイド』「祈り」、40-41ページも参照）。ダニエルは祈りへの答えを受けたことを指摘する（20-27節参照）。

祈りに関するエズラ・タフト・ベンソン大管長の教えを紹介する。

「皆さんは祈るとき、すなわち皆さんの天の御父と話をするととき、自分の問題について御父とほんとうに話し合っていますか。御父に自分の気持ちと、疑いと、不安と、喜びと、心からの望みを伝えていますか。それとも祈りは同じ言葉や表現を用いた、単なる習慣的な文句となっているでしょうか。自分がほんとうに言おうとしていることについて、深く考えていますか。時間を取って御靈の導きに耳を傾けていますか。祈りの答えはほとんどの場合静かな声によってもたらされ、わたしたちの最も深い、最も内なる感情によって識別されます。もし皆さんが祈り、耳を傾ける時間を見るならば、皆さんは自分自身に関する神の御心を知ることができます。」（“To the Rising Generation,” *New Era*, 1986年6月号、8）

祈りをより効果的なものとすることについて、今日のレッスンや個人の経験から、これまでに学んだことを話してもらう。

ホセア1-14章

はじめに

ホセア書から、旧約聖書の中の「小預言者」とも呼ばれる部分（ホセアからマラキまで）が始まる。「小」と呼ばれるのは、彼らの書がイザヤ書やエレミヤ書、エゼキエル書よりもはるかに短いからである。

ホセアはイザヤやミカ、アモスと同時代の人物で、ホセアが教えを説いた時期（紀元前約755-715年）は厳しい時代であった。平和と繁栄は終わり、国内の反乱は増し、外国からは攻撃を受けていた。イスラエル王国は異教徒の国々と同盟を結び、そのために民は彼らの習慣を容易に受け入れるようになった。イスラエルは堕落して、性的に不道徳な儀式を含めた偶像礼拝を行った。

ほかの旧約の預言者と同様、ホセアは比喩的表現を用いてメッセージを伝えた。ホセア書を研究しながら、神との聖約を破って偶像を礼拝しているイスラエルを非難するために、この預言者がどのように結婚の聖約を象徴に用いているか見つける。ホセアは神が御自分の民を愛しておられ、もし神のもとに戻るならば、神は喜んで彼らを赦し、彼らと「離縁」されないことを証した。

ホセアがメッセージを教えるに当たって用いた、以下の4つのテーマも見つける。

- ・イスラエルの偶像礼拝
- ・イスラエルのそのほかの悪事
- ・目前に迫ったイスラエルの捕囚
- ・末日におけるイスラエルの集合と贖い

詳しくは、『聖句ガイド』の「ホセア」（241ページ）および『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるホセアの「はじめに」（105ページ）参照。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・神聖な聖約を破ることは神の裁きを招く（ホセア2:6-13; 4:1-6; 5:1-7; 7:12-13; 8:7-8; 9:7-12参照）。
- ・主は御自分の子らを愛しておられ、悔い改めて御自分のもとに来る者を受け入れ、赦される（ホセア2:14-23; 6:1-3; 14章参照）。
- ・神の裁きと憐れみは、御自分の子らへの愛の証である（ホセア1-14章参照）。

教え方の提案

-  ホセア1-3章。主はわたしたちが悔い改めるのを助け、わたしたちが悔い改めるときに赦してください。（25-30分）

黒板に花嫁と花婿の写真を掲示する。（新聞や雑誌から取ったものなど、だれも知らないカップルの写真を用いる。）以下の質問をする。

- ・結婚が重要なのはなぜですか。
- ・あなたは伴侶のどのような特質を重要視しますか。
- ・主は結婚の重要性についてどのようなことを明らかにしておられるでしょうか（教義と聖約131:1-4参照）。
- ・主は神殿で結婚してふさわしくあり続ける人に、どのようなことを約束しておられるでしょうか（教義と聖約132:19-20参照）。

写真の花嫁と花婿に「ゴメル」と「ホセア」と書く。主はイスラエルの民に彼らが御自分と交わしている聖約の神聖さを教えるために、預言者ホセアと結婚の聖約の象徴を用いられたことを生徒に伝える。生徒とともにホセア1:1-2を読み、次の質問をする。「もしホセアが主を、ゴメルがイスラエルを象徴しているとするならば、ホセア1章はどのようなメッセージを伝えていますか。」

ホセア1:3-11を読ませ、子供たちの名前を挙げさせる。彼らの名前の意味と、主がイスラエルに伝えようとしておられたことについて話し合う（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のホセア1:4-11についての注解、107-108ページ参照）。花嫁に「イスラエル」、花婿に「主」と書き加え、それらがゴメルとホセアにどのように当てはまるか手短に述べるように言う。

ホセア2:1-5を読ませ、偽りの神々を礼拝するがどのようにしてイスラエルに厳しい裁きをもたらしたか話し合う。以下の質問をする。

- ・これらの節から、主はイスラエルが忠実でなかったときにどのような気持ちを感じておられたことが分かりますか。
- ・もしわたしたちが忠実でないなら、主は同じ悲しみを感じになると思いますか。

ホセア2:6-13を読み、イスラエルの不忠実に対して主が宣言された罰を列挙する。14-23節を読み、悔い改めて主に立ち返ることを条件に、主がイスラエルに約束しておられることを列挙する。

ホセア3:1-3を読む。以下を説明する。1章で、主はホセアに、性的な罪を犯していた女性と（象徴的な意味で）結婚するようにお命じになり、彼はそれに従った。2章では、彼女がホセアに不忠実であって、主が彼女の姦淫をイスラエルの背教になぞらえた。そしてその罰を説明し、赦

しと帰還の約束を与えられたことが語られている。3章で、主はホセアに妻を束縛の状態から贖うようにお命じになり、ホセアは銀15枚で彼女を買い取った。

ホセア3:4-5を読み、以下の質問をする。

- ホセアがゴメルのために行ったことは、主がイスラエルのために、そして御自分のすべての子供たちのためになさることとどのような点で似ているでしょうか（『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のホセア3:2についての注解、108ページ参照）。
- このことから、主が喜んでわたしたちを愛し、^{あがむ}贖ってくださることについて、どのようなことが学べるでしょうか。

それぞれの生徒に救い主の絵を1枚ずつ渡すか、または大きな絵を前に掲示する。教師が次の聖句を声に出して読む間、絵を見ているように言う。ホセア2:14-15、19-20；3:2-3；6:6；13:14；および14:1-9。以下の質問をする。

- それらの言葉を聞くとき、どのような気持ちがしますか。
- 救い主はあなたのことをどのように思っておられるでしょうか。

生徒にキリストについての自分の証をクラスで分かち合うように勧める。また、「主イエスの愛に」（『賛美歌』、109番）を読むか、歌うとよい。

ホセア1-3章。ホセアとゴメルの象徴的な関係は、主の御自分の子らに対する愛と、彼らと交わされる聖約に対する主の約束を教えている。（20-25分）

ホセアとゴメルの物語をより良く理解できるよう、生徒用学習ガイドにあるホセア1-3章のための活動AおよびBを行う。

ヨエル1-3章

はじめに

預言者ヨエルが生きていたのは、恐らく紀元前850年から740年の間のことであると思われるが、これらの数字は確かではない（「イスラエルとユダの王国と預言者」、219ページ参照）。分かっているのは、悔い改めなければ滅ぼされるというメッセージを携えて、ヨエルがユダの南王国に遣わされたことである（『聖句ガイド』「ヨエル」、272-273ページ参照）。ヨエルは現代の出来事についても述べており、ヨエルが昔のユダヤ人に伝えたメッセージはわたしたちにも当てはまる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるヨエル書の「はじめに」、85ページ参照）。

ヨエル書を研究しながら、終わりの時の大いなる出来事に備えるうえで助けとなる教えを見つける。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・イエス・キリストの再臨の前および再臨の時に、ひどい戦争、荒廃、自然災害が罪悪の熟した人々を滅ぼす（ヨエル1章；2：1-11、28-32；3：1-16参照）。
- ・わたしたちは主の再臨に備えて主に立ち返らなければならない（ヨエル1：13-15、19；2：12-18、32参照。教義と聖約133：10-19も参照）。
- ・再臨に伴う破壊の間、またその後、義人には大いなる靈的および物質的な祝福がもたらされる（ヨエル2：28-32；3：15-21参照）。

教え方の提案

『「旧約聖書」ビデオプレゼンテーション』24「再臨」では、キリストの再臨に備えることの重要性が二つのたとえを用いて示されている（教え方の提案は『「旧約聖書」ビデオガイド』を参照）。

ヨエル1-3章。ヨエルはイエス・キリストの再臨に先立つ時代を見て、それらにどう備えればよいか勧告を与えた。（20-25分）

モロナイが預言者ジョセフ・スミスに現れたとき、モロナイはヨエル2：28-32を引用し、「これはまだ成就していないが、間もなく成就する」と語ったことを説明する（ジョセフ・スミス-歴史1：41）。ヨエル2：28-32を読ませ、イエス・キリストの再臨とそれに先立つ出来事についてどのように感じるか尋ねる。ヨエル2：11を読む。「大いにして」とは再臨がどれほど重要なものであるかを言っていると思われるが、その出来事は喜びに満ちたものにも、恐ろしいものにもなり得ることを伝える。

ヨエル2-3章を調べさせ、終わりの時の大いなる出来事に備えるうえで重要な、または役立つと思われるものを見つける（例えば、ヨエル2：12-13；3：16-21参照）。教義と聖約38：30を読んで聞かせ、備えていることによって再臨の時にどのような違いが生じるか話し合う。時間があれば、ヨエル2-3章を教義と聖約43：17-30および45：39-59と比較するとよい。

ヨエルの教えを自分の生活ですぐに応用する方法を理解させるために、以下の質問について考える。

- ・悪に対する善の最後の戦いのうち、現在すでに行われているのはどんなことでしょうか（教義と聖約76：25-30参照）。
- ・その戦いはハルマゲドンの戦いとどのように似ているでしょうか。
- ・この戦いで英雄はだれでしょうか。
- ・犠牲者はだれでしょうか。
- ・この戦いにおいて、わたしたちは攻撃に出るべきでしょうか、それとも守りに就くべきでしょうか（エペソ6：10-18参照）。
- ・ヨエルの勧告は、この戦いに効果的に備えるうえでどのような助けとなるでしょうか。

アモス1-9章

はじめに

アモスは、イスラエルとユダが比較的繁栄していた時期に預言者として召され、不従順な者と偶像礼拝を行う者に、迫っていた滅亡についてのメッセージを伝えなければならなかった。アモス書は、この預言者の教えを見事にまとめた、説得力に満ちたものとなっている。アモスのメッセージはおもにイスラエルの北王国に向けたものであったが（アモス2:6-9:15参照）、ユダと、彼らを取り囲む偶像礼拝の国々に対しても預言をしている（アモス1:3-2:5参照）。

詳しくは、『聖句ガイド』の「アモス」（17-18ページ）および『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるアモス書の「はじめに」（91ページ）を参照。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神の裁きは悪人のうえにもたらされる（アモス1-2章参照）。
- 主は御自分の御心を明らかにして民に警告するために、常に預言者を通して働く（アモス3:7; 7:1-9, 14-17参照）。
- 主は御自分の子らに悔い改めて御自分に立ち返るよう説き勧めるために、戦争、飢饉、疫病、またはその他の災害を用いられることがある（アモス3:9-15; 4章; 6章; 8章; 9:1-10参照）。

教え方の提案

アモス1-3章。主は、この末日に罰を警告しておられるのと同じ理由で、昔のユダとイスラエルのうえに裁きを下された。（20-25分）

クラスが始まる前に、約10センチ四方の正方形の紙を8枚用意する。そのうちの7枚に以下のように書く。シリヤ（ダマスコ）、ペリシテ（ガザ）、フェニキア（ツロ）、エドム、アンモン、モアブ、ユダ。慎重にそれぞれの紙の縁を焼く。8枚目の紙は完全に焼き、その灰を小さな透明の瓶に入れ、「イスラエル」と書いた札をはる。

縁の焼けた紙を見せ、次の質問をする。「ある預言者がこれらの紙をあなたに見せたとしたら、何を表していると考えられるでしょうか。」「イスラエル」と書かれた瓶を見せ、ほかの紙と比較してそれが何を意味しているかを尋ねる。

アモス1:3-2:5を調べさせ、主が預言者アモスを通じて言わされたことで、焼けた紙について説明している箇所を

見つけさせる。『聖句ガイド』の「地図3」でそれらの国を見つけさせる。ユダが罰せられた理由はそれらの異邦人の国が罰せられた理由とどのように異なるかを尋ねる。（そのほかの資料として、『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のアモス1-2章についての注解、92-93ページを参照。）

アモス書の残りの部分には、イスラエルの将来についての預言が記されていることを伝える。（瓶を持ち上げる。）生徒とともにアモス2:6-16および3:1-2, 9-15を読み、主がイスラエルに罰を宣告された理由を幾つか見つけさせる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のアモス2:4-16についての注解、93ページ参照）。以下の質問をする。

- 灰を入れた瓶は、どのような点でイスラエルに預言されたことのよい象徴であると言えるでしょうか。
- わたしたちはどのようにして正しい知識を得るのでしょうか。
- 今日わたしたちはどのようなときに、天の御父と聖約を交わすでしょうか。

教義と聖約82:3, 10を読ませ、主がそれらの節で言っておられることはどのような点で主が昔のイスラエルに語られたことと似ているか話し合う。

アモス3:3-8（マスター聖句、アモス3:7）。主は預言者に御自分の御心を明らかにされ、預言者はそれを民に宣言する。（10-15分）

生徒にこれから簡単な質問をすることを伝える。明らかに答えが「いいえ」である質問を5-6問尋ねる。例えば、「電話が鳴っていないのに電話に出ることがありますか。」あるいは「猫を飼っていないのに、キャットフードを買いますか。」地域に合った質問を用意する。

すべての質問の共通点を生徒に尋ねる。（すべて答えが「いいえ」である。）アモスは民に同じような質問をしたことを伝える。アモス3:3-6を読み、アモスは7つの修辞的な質問を尋ねていることを説明する。5節の最後の質問は「何もかかっていないのに、わなが閉じることがあるだろうか」という意味であり、聖書のジョセフ・スミス訳では6節の最後の文が「町に悪事があるのに、主がそれを御存じでないことがあるだろうか」と変更されていることを伝える。

アモス3:7を読んで印を付けるように言い、以下の質問をする。

- アモス3:7はそれまでの質問とどのような関係があるのでしょうか。
- 同じように明らかのこととして、アモスは預言者についてどのようなことを言っていますか。
- 預言者について、8節から、ほかにどのような明らかな真理を学ぶことができるでしょうか。

次のことが理解できるようにする。答えの明らかな7つの質問は、それらと同じように明らかである主の結論へと導くためのものである。その結論とは、主はこの地上で何かを行う前に、常に預言者に御自分の御心を明らかにされるということである。

8節で、アモスは同じく答えの明らかな質問をさらに二つ付け加えている。ライオンのほえる声に恐れを感じるように、預言者は主から受けたメッセージを必ず伝える。アモスは暗黙のうちに以下のように問い合わせていたのかもしれない。「ライオンを恐れる人々は、主の裁きにも恐れを感じているだろうか。主の裁きを十分理解しているだろうか。」耳を傾けて悔い改めることを拒んだイスラエルは、その結果に苦しまなければならなかった。

主が語られるとき、預言者はそのメッセージを必ず民に知らせるということを生徒に伝える。十二使徒定員会員であったマーク・E・ピーターセン長老は、次のように語っている。

「預言者がいない時代は神の導きがなく、神の導きを受けない民は闇の中を歩かなければならなかった。」

民を導くために神から生ける預言者を与えられていること、すなわちその時代に応じた啓示を神から受け、新たな聖文となる御言葉を記録する人々がいることこそ、眞の教会の確かなしるしである。」(『聖徒の道』1978年10月号、98参照)

注意：アモス書のための教え方の提案の残りは、アモスが民に理解してほしいと望んでいたそのほかの明らかな真理に焦点を当てたものである。アモス書がいかに見事にまとめられているかを生徒に理解させる方法の一つとして、そのいずれかまたはすべてを用いる。

アモス4-5章。主に立ち返って主の勧告を求めるとき、わたしたちは自分の問題に対して助けを受ける。(10-15分)

アモス4章(6, 8-11節)にある「それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」という言葉と、5章(4, 6, 8, 14節)にある「主を求めるよ、そして生きよ」と民に勧告している言葉に線を引くように言う。生徒が次の点に気づくようにする。アモスは民に、主の戒めと勧告に立ち返ることによって問題を解決することができると教えようとしたが、民はそうすることを拒んだ。

今日の社会が直面している幾つかの問題を黒板に列挙させる。次の質問をする。「これらの問題の中で、主の戒めと勧告に立ち返ることによって解決できるものはどれでしょうか。」

アモス5：21-27。主は表面的な宗教の実践ではなく、内なる義を望まれる。(10-15分)

何かの衣装を着るか変装をして、次のように尋ねる。「外見と中身とはどう違うでしょうか。」生徒にアモス5：21-

27を読ませる。以下の質問をする。

- 変装をすることは、イスラエルが行っていたこととどのように似ているでしょうか。
- アモスはどのような真理を教えようとしていたのでしょうか(『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のアモス5：4-27についての注解、94ページ参照)。
- 今日人々は、どのようにしてそれと同じ過ちに陥ることがあるでしょうか。幾つか例を挙げてください。
- キリストの弟子であるふりをしながら、実際はそうではない人々について、主はどのように感じておられるでしょうか(マタイ6：1-6；7：21-27参照)。

アモス8章。主の言葉がまれであるとき、人々は飢饉のとき^{ききん}に肉体的に苦しむのと同じくらい靈的に苦しむ。(10-15分)

クラスに熟した果実を1個持参する。1ニーファイ17：35, 43を読み、イスラエルの子らはどのような形で「罪悪が熟し」ていたか話し合う(エゼキエル4-18章のための教え方の提案、187ページ参照)。生徒とともにアモス8章を読み、アモスのメッセージを見つけさせる(『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のアモス7-9章についての注解にあるアモス8：1-9についての段落、95ページ参照)。以下の質問について話し合う。

- イスラエルはどのような点で一かごの熟した果実のようだったのでしょうか。
- アモス8：4-6ではどのような罪が述べられていますか。
- 主はどのような罰が下るとおっしゃいましたか(9-14節参照)。
- 今日世界のほとんどの人々が「主の言葉を聞〔く〕」ことに対する飢饉の状態にある証拠として、どのようなことが挙げられるでしょうか(教義と聖約123：12-13参照)。

アモス9：8-15。主は御自分の民を赦し、集めると約束された。(10-15分)

アモス9：8-10を読ませ、すでにアモスのイスラエルに対する預言で成就していることを言わせる。アモス9：11-15を読み、まだ完全に成就していないことを尋ねる。イスラエルが悔い改めて主に立ち返るときに主が約束しておられる祝福を書き出し、それについて話し合う。イスラエルになされた約束がどのようにわたしたちにも当てはまるか尋ねる(『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のアモス7-9章についての注解にあるアモス9：1-6についての段落、95ページ参照)。

オバデヤ1章

はじめに

「オバデヤ」という名前は「エホバの僕（または礼拝者）」の意味であり、旧約の時代には一般的な名前であった。預言者オバデヤ個人の歴史については、その名前がつけられた書に記録されていること以外は何も知られていない。オバデヤは、エドムがユダに対する残虐な行為のために滅亡することを書き記し、示現の中でイスラエルの救いと末日のその他の重要な出来事を見る特権を受けた。オバデヤ書は旧約聖書の中で最も短い書である。

学び取るべき重要な福音の原則

- 高慢と悪事は滅亡につながる（オバデヤ1:1-16参照。教義と聖約64:24も参照）。
- わたしたちは死者のための神殿の業を行うことによって、救いの計画を手伝うことができる（オバデヤ1:21参照。教義と聖約128:11-18も参照）。

教え方の提案

オバデヤ1章。わたしたちは自分自身だけでなく、周囲の人々を救うためにも働くなければならない。（25-35分）

空中に浮いている建物を黒板に描くか、建物の絵を床につかないようつり下げる。建物に「1ニーファイ8:26-28」と書き、その建物について知っていることを生徒に尋ねる。1ニーファイ11:35-36を読ませ、その建物が表しているものと、建物は最終的にどうなるかを答えさせる。

オバデヤはそのような場所について記していることを生徒に伝える。オバデヤ1:1-9を読ませ、エドムがどのような点で大きく広々とした建物に似ていたか答えさせる。類似点について話し合い、『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のオバデヤ1:1および1:3-9についての注解（276-277ページ）に書かれている情報を紹介する。

オバデヤ1:10-14を読ませ、以下の質問をする。

- エドムの民が行ったことで、大きく広々とした建物の人々が行ったことと似ていることは何ですか（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のオバデヤ1:10-15についての注解、277ページ参照）。

- 人々がほかの人々に向かってそのような行動を取るのはなぜでしょうか。
- 15-16節で、エドムの民の運命は、あの建物にいた人々の運命とどのように似ているでしょうか。
- 今日、大きく広々とした建物の人々と似ているように思われる人はいるでしょうか。
- 教員もあの建物の人々のようになる恐れがあるでしょうか。
- あの建物の人々は危険な状態にあるでしょうか。

神殿と宣教師の写真を見せる。生徒とともにオバデヤ1:16-21を読み、神殿や宣教師とシオンの山の救う者になることにはどのような関係があるか尋ねる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のオバデヤ1:16-21についての注解および「シオン山の救い手」、277-278ページ参照）。

真の英雄は道を踏み外す人々を救出するということを生徒に伝える。教義と聖約4章および15:6を読む。以下の質問をする。

- 大きく広々とした建物にいる人々を救出することが重要なのはなぜでしょうか。
- わたしたちはどのようにして彼らの救出を手助けすることができるでしょうか。

オバデヤ1:17, 21を読み、以下の質問をする。

- オバデヤは救出を手助けする人々のことを何と呼んでいますか。
- 自分がだれかの贅いにおける救い主のパートナーであると知るとき、どのように感じるでしょうか。

生者に対する伝道の取り組みと主の神殿における死者のための業が、どのようにしてオバデヤの預言を成就するか証する。以下の質問をする。

- ふさわしい状態で神殿に入る人々と大きく広々とした建物に入る人々には、どのような違いがあるでしょうか。
- それらに入るには、どのような条件があるでしょうか。
- 神殿に入ることを選ぶと、どのような祝福を受けるでしょうか。

自分の先祖を調べて、まだ神殿の儀式が行われていない人物を一人見つけるように勧めます。その人物の名前を神殿に提出することによって救う者となるように勧める。可能な地域では、限定神殿推薦状を入手して、自分でバプテスマの儀式を受けるように勧める。

ヨナ1-4章

はじめに

ヨナの名前は「鳩」を意味する。ヨナはアミッタイの子で、ナザレの北東約5キロ、ゼブルン領土内のガテヘベル出身であった（ヨナ1:1；列王下14:25参照）。ヨナは、長年にわたるダマスコへの服従の後にイスラエル本来の領域の回復に成功した、紀元前約788年のヤラベアム2世の軍事行動を預言した（列王下14:25参照）。しかし何よりも、ヨナはニネベの民への伝道と鯨の経験でよく知られている。

ヨナは、ニネベの民に対する主の公正な報いを証しており、鯨の腹の中での彼の祈りは、主の憐れみについての感動的な証である。アブラハムやイサクの場合と同様、ヨナの生涯に起きた出来事もイエス・キリストについて力強く証している。救い主は御自身の死と埋葬と復活について「預言者ヨナのしるし」を引き合いに出して語り、御自身の時代の人々に向かって、ヨナの警告を信じたニネベの民が彼らに対する証人として立つと警告された（マタイ12:39-41；ルカ11:29-30参照。『聖句ガイド』「ヨナ」、276-277ページも参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- わたしたちは主から隠れることはできない（ヨナ1章；2:9-10；3:1-5参照。モーセ4:13-25も参照）。
- 主の助けがあれば、一人の義人が数々の奇跡を行うことができる（ヨナ3章；4:11参照。アルマ23:4-5も参照）。
- 神は御自分のすべての子らを愛し、彼らが救われるよう に望んでおられる（ヨナ3:10；4章参照。ルカ15:1-7, 25-32；教義と聖約18:10-13；123:12も参照）。

教え方の提案

 ヨナ1-4章。能力のあるすべての若い男性は、ふさわしさを保ち、専任宣教師として働くべきである。ふさわしい若い女性も、希望する人は伝道に出ることができる。これらの若い男性や女性は、全世界にいる天の御父の子らにイエス・キリストの福音を教えるという特権を持つ。（40-50分）

それぞれの生徒にあてた伝道の召しの手紙を用意する。手紙にはそれぞれの生徒の名前と、具体的な伝道部の割り当てを書いておく。生徒が教室に入ってきたときに、召しの手紙を渡す。生徒は、自分の伝道部の名前を言い、自分の召しについてどのように感じるか話す。以下の質問をする。

- 伝道について不安を感じる理由にはどのようなものがあるでしょうか。
- 主から仕えるように召されるとき、どのような態度を持つべきでしょうか。

「み旨のまま行かん」（『贊美歌』、172番）を読むか歌うとよい。

これから、召された場所に行くことを望まなかった一人の預言者について学ぶことを生徒に伝える。ヨナ1:1-2を読ませ、以下の質問をする。

- この預言者はだれですか。彼はどこへ行くように召されましたか。
- ニネベのような場所での伝道について、ヨナはどのようなことを心配したと思いますか（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるヨナ書の「はじめに」、99ページ参照）。

ヨナ1:3を読ませる。以下の質問をする。

- ヨナは自分の召しにどのようにこたえましたか。
- ヨナがニネベではなくタルシシに向かったのはなぜだと思いますか。

下の地図を用いてヨナがどこに行こうとしていたのか示す。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のヨナ1:2-3についての注解（100ページ）も参照。



生徒とともにヨナ1:4-3:10を読み、以下の質問について話し合う。

- ニネベへの伝道から逃げようとしたヨナに、どのようなことが起こりましたか。
- 主はヨナがおぼれないようにされましたか。それはなぜだと思いますか。
- 救い主は、ヨナの「大いなる魚」の経験をどのように引用されたでしょうか（マタイ12:38-40；16:1-4参照）。

- ニネベの民は、ヨナの宣教にどのような反応を示したでしょうか。
- この物語は、御父の御自分の子らに対する愛と望みについてどのようなことを教えているでしょうか (『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のヨナ 3:5-9 についての注解、101-102ページ参照)。
- この物語は、道から外れた、愛する人々に対する希望を持つことについて、どのようなことを教えているでしょうか。

ヨナ4:1-3を読ませ、以下の質問をする。

- 主がニネベをお救いになったとき、ヨナが怒ったのはなぜですか。
- なぜヨナはニネベの人々の悔い改めを快く思わなかつたのでしょうか。

生徒とともにヨナ4:4-9を読み、主は御自分がすべての子らを愛していることを、どのようにしてヨナに教えられたか話し合う。以下の質問をする。

- 自分の知らない人々の所へ行くとき、どのような恐れを感じるでしょうか。
- 主は御自分のすべての子らを愛しておられます。どうすればわたしたちも人々を愛せるようになるでしょうか。
- 福音にさらに改宗することは、福音を人々に伝えたいという望みにどう影響するでしょうか (モーサヤ27:32-28:4 参照)。

黒板に「現代のとうごま」と書く。生徒に以下の質問をする。

- ヨナがニネベのことよりも、とうごまについて悲しんだのはなぜでしょうか。
- 主はとうごまの生長と枯死を用いて、ニネベの民に対するヨナの態度について何を教えようとされたのでしょうか。
- それは今日、福音のない状態で苦しんでいる人々を救うことよりも、この世の仕事や自分自身の必要に関心を持っている人々とどのように似ているでしょうか。

御父の子供たちに仕える際の障害となる「現代のとうごま」となり得るものを見出し (都合に合わないもの、そのほかの言い訳や注意をそらすものなど)。ヨナ4:10-11を読ませ、以下の質問をする。

- 主がニネベの民に進んで憐れみをおかけになったのはなぜでしょうか (2ニーファイ26:33:アルマ26:37参照)。
- 「右左をわきまえない」とはどういう意味でしょうか (『旧約聖書：列王紀上 - マラキ書』のヨナ4:1-11についての注解、102ページ参照)。

ミカ1-7章

はじめに

「ミカ」は「ミカヤ」という名前の短縮形であり、「エホバのような者はだれか」の意味である。「ほかの一部の預言者や族長の名前と同じように、『ミカ』という名前は」この人物の生涯の業にふさわしいものである。ミカは預言によって、だれ一人として主のような者はおらず、すべての人は主のような生き方をするように努めなければならないことを様々な形で示した。主がお持ちである力はほかのどこにもなく、主のような王はどこにもいないのである。」(エリス・T・ラスマッセン、*A Latter-day Saint Commentary on the Old Testament*, 664)

ミカはユダ南部の小さな町に住み(ミカ1:1, 14; エレミヤ26:18参照)、ヨタム、アハズ、およびヒゼキヤの統治の期間、紀元前約740-697年に預言した(ミカ1:1;『聖句ガイド』「ミカ」、249ページ参照)。「イスラエルとユダの王と預言者」、220-221ページも参照)。ミカが書いたものには一貫して恵まれない人々への思いやりが感じられるが、それは彼が小さな町の出身だからであろう。ミカはイザヤと同時代の人物である。

ミカのメッセージでは、来るべき裁きについての警告と将来の贖いについての約束が交互に述べられている。1-3章でミカは、イスラエル(サマリヤ)とユダ(エルサレム)への裁きを宣言している。しかし4-7章では、末日におけるイスラエルの家の集合と贖いを預言している。ミカはメシヤがベツレヘムに誕生することを預言している唯一の旧約の預言者である(ミカ5:2参照)。

学び取るべき重要な福音の原則

- 指導者は自身の利己的な利益に対してではなく、民に仕えなければならない(ミカ3章参照。マタイ20:25-28; モーサヤ2:12-19も参照)。
- 神殿で、主はわたしたちに御自身の道を教えてください、わたしたちは主の道を歩むと聖約する(ミカ4:1-2参照。教義と聖約109:11-16も参照)。
- 悪人に対する主の裁きにもかかわらず、もし人々が悔い改めるならば、主は彼らを慰めて癒される(ミカ4:6-7; 7:8-9, 18-20参照)。

教え方の提案

ミカ1-7章。悪人は罰せられるが、もし悔い改めるならば、主は彼らを慰めて癒される。(40-50分)

黒板に二つの大きな額縁を描く。一方に「前」、もう一方に「後」と書く。1冊の本を持ち上げて、以下の質問をする。

- 本の最後のページを最初に読んだことがありますか。
- それによって物語がつまらなくなってしまいましたか。
- 最後のページを最初に読むことには、どのような利点があるでしょうか。

ミカ7:18-20を読ませ、ミカが記録の最後で預言していることを見つけさせる。それらの約束を黒板の「後」の額の中に書く。

ミカの時代のイスラエルの様子を描写した「言葉の絵」の制作を手伝うよう生徒に言う。グループまたは個人に以下の参照箇所を割り当て、ヒントを見つけさせる。ミカ1:2-9; 2:1-2, 9-11; 3:2, 5, 9-12; 6:12-16; 7:1-6。見つけたものを黒板の「前」の額の中に書く。

以下の活動は、イスラエルがいつ約束された祝福を受けるのか理解するうえで役立つ。生徒とともに、以下に挙げられている5つの聖句を読む。参照聖句の後には、そこに用いられている象徴が述べられている。「後」の額の中に、象徴の絵を描くかテープではある。あるいは言葉による記述をそのまま書く。それから各聖句についての質問をする。

- ミカ2:12-13(さく、または門を打ち破る羊)。この比喩的表現は大勢の教会員から成る末日のイスラエルをどのように表しているでしょうか。これはアブラハムになされたどの約束を成就するものでしょうか(アブラハム2:9-11参照)。
- ミカ4:1-2(山の上の神殿)。神殿は、わたしたちが福音を全世界の人々に携えて行くのをどのように助けてくれるでしょうか(イザヤ2:1-4参照)。
- ミカ4:12-13(鉄の角と青銅のひづめ)。この比喩的表現はだれを表しているでしょうか。末日のイスラエルはどのぐらい力強いでしょうか(教義と聖約35:13; 133:59参照)。
- ミカ5:7(青草の上に穏やかに降る雨)。末日のイスラエルはどのような形で世界に命をもたらし、発展を促すでしょうか。
- ミカ5:8(羊の群れを散らすライオン)。この比喩的表現は、末日における神の王国が止めることのできないものであることをどのように示しているでしょうか。

預言者ジョセフ・スミスの以下の言葉を読む。

「わたしたちの宣教師は、様々な国に出向いている。……真理の旗は立てられた。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然といで立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることであろう。」(History of the Church, 4:540)

福音がどのようにして世界中に広がっているか、またミカの預言を成就するために乗り越える必要のある障害について話し合う。末日のイスラエルに約束された祝福を成就するために、どのような役割を果たすことができるか尋ねる。

以下の参照箇所を読ませ、それらに共通することを見つけさせる。3ニーファイ16:15; 20:13-17; 21:12-21; モルモン5:22-24; 教義と聖約87:5。ミカ5:8-15を読ませ、それらの聖句に共通することがほかにあるか尋ねる。(すべてミカの節を引用または繰り返している。)

ナホム1-3章

はじめに

ナホムはゼパニヤ、ハバクク、およびエレミヤと同時代の人物であった（「イスラエルとユダの王と預言者」、221ページ参照）。ナホムは紀元前663-612年の間のいずれかの時期にユダで預言をした。記録に残っているナホムのメッセージは、その全体がアッスリヤの首都ニネベの滅亡を預言したものとなっている。この預言は、終わりの時における悪人の滅亡の予型でもある。

ニネベは100年以上前に、預言者ヨナによって悔い改めるようにとの警告を受けていた。当時のニネベの民は悔い改め、命を助けられた（ヨナ3章参照）。しかし、ナホムの務めの時代には、ニネベは再び邪悪になっており、今回は主の裁きを免れようとしなかった。

紀元前約721年にアッスリヤ人がイスラエルの北王国を征服し、その住民を捕らえて連れ去った（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』の特別講座D、115-119ページ参照）。そのとき以降、アッスリヤ人はユダの生存者にとっても絶えず脅威となった。アッスリヤの滅亡について美しいヘブライ詩で書かれているナホムの預言は、ユダの民にとって希望と慰めの源であったに違いない。ナホムの名前は「慰める者」の意味である（『聖句ガイド』「ナホム」185ページ参照）。ナホムの約束は、エホバがいつの日かイスラエルに「慰め」をもたらされるというものであった。

学び取るべき重要な福音の原則

- 主は警告を与えてからでなければ、悪人を滅ぼされない。教員にはその警告をすべての神の子供たちに宣言する責任がある（ナホム1:1-7参照。ヨナ3章；教義と聖約88:81-82も参照）。

教え方の提案

ナホム1-3章。過去に忠実であつただけでは十分ではない。わたしたちは最後まで忠実に堪え忍ばなければならぬ。主は警告を与えてからでなければ、悪人を滅ぼされない。（35-45分）

生徒一人一人に、墓標が描かれている紙を1枚ずつ渡す。その墓標に、自分自身の墓に記したい墓碑銘を書くように言う。数名の生徒に書いたものを発表してもらい、なぜそのような形で覚えられたいのか話し合う。アルマ48:11-13、17を読ませ、次のことを話し合う。「わたしたちの生活

は、人々のわたしたちに対する思い出を左右します。どのように左右するでしょうか。」教義と聖約14:7および101:35-38を読み、以下の質問をする。

- 最後まで忠実に堪え忍ぶことによって、人々の心に残るわたしたちの姿は、どのように違ってくるでしょうか。
- 若いころは不従順であったけれども、後に悔い改めて忠実になった人はどうでしょうか（アルマ36:6-24参照）。
- 最初は忠実であったけれども、最後まで忠実であり続けなかった人はどうでしょうか（教義と聖約40:1-3参照）。

これから、滅亡する前に預言者ナホムによってその墓碑銘を記された、ある町について学ぶことを伝える。

アッスリヤ人とその首都ニネベについて知っていることを尋ねる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』の特別講座D、115-119ページ参照）。ヨナ3章でニネベに起きたことを読む（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のヨナ3:5-9についての注解、101-102ページ参照）。次の質問をする。「当時のニネベには、どのような墓碑銘を書くことができたでしょうか。」

ナホム3:1-5を読ませ、100年以上後のニネベの様子を答えさせる。次の質問をする。「ナホムの時代のニネベには、どのような墓碑銘がふさわしいでしょうか。」ナホム3:7-19は、ナホムによるニネベの墓碑銘と言うことができ、それはその町が滅亡する前に書かれたものであることを伝える。それらの節を読ませ、ニネベの墓標に最も適切な碑文になると思うものを一つ選ばせる。

ナホム1:1-7とアルマ46:8を相互参照するように言う。以下の質問をする。

- それらの節は、主がニネベを罰せられた理由を理解するうえでどのように役立つでしょうか。（主がヨナの時代に救われた町は、すぐに主を忘れて邪悪な道に戻った。）
- もしわたしたちも悪事に陥るならば、わたしたちの状況はどのような点でニネベに似たものとなるでしょうか。

ナホム1:8-10を読み、マラキ4:1と比較する。ナホムがニネベの崩壊について述べたとき、ほかに何について語っていたか生徒に尋ねる。（再臨。）旧約の預言の多くが持つ二重性を生徒が理解できるよう助ける（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のナホム1:2-10についての注解、237-238ページ参照）。次の質問をする。「人々が真理を知り、真理に従えるよう助けるために、わたしたち一人一人には何ができるでしょうか。」

ハバクク1-3章

はじめに

ハバククについて知られていることは、そのほとんどがハバクク書から断片的に集められたものである。ハバククはエレミヤやリーハイと同時代の人物で、恐らくエルサレムに住んでいたと思われる（「イスラエルとユダの王と預言者」、221ページ参照）。ハバククが預言をしたのは、紀元前約597年にユダヤ人が最初にバビロンへと追放される前のことであった（ハバクク1:6参照。『聖句ガイド』「ハバクク」、206ページも参照）。

ハバクク書は独特な書物である。たいていの預言書には、主のその子らに向けた警告のメッセージが記されているが、この書はハバクク自身が主と語り合った記録となっている。この記録を研究しながら、ハバククの二つの懸念（ハバクク1:2-4および1:12-2:1参照）および彼が受けた答え（ハバクク1:5-11および2:2-20参照）を見つける。また、ハバククがその書の結びに記している美しい賛美の詩にも注目する（ハバクク3章参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 忠実な人でさえも主の方法のすべてを理解するのに苦しむが、主は御自分を熱心に求める人に奥義を知らせると約束しておられる（ハバクク1-3章参照。イザヤ55:8-9; 1ニーファイ10:17-19; 教義と聖約76:1-10も参照）。
- 主は、主御自身の時に、主御自身の方法で悪人を罰せられる（ハバクク1:1-11参照）。
- 主は、悪人が互いに罰し合い、あるいは減ぼし合うのを許されることがある（ハバクク1:5-11参照。モルモン4:5も参照）。
- 主は、御自分の聖約の民に、民が受けている光に従って生活するよう望んでおられる（ハバクク1:12-2:20参照）。

教え方の提案

ハバクク1-3章。わたしたちは主の方法のすべてを理解するのに苦しむことがあるが、主は御自分を熱心に求める人に奥義を知らせると約束しておられる。（25-35分）

以下の質問をする。

- ある単語の意味が分からぬとき、だれに助けを求めるですか。
- 病気のときには、どこに行きますか。

- 悪人が栄えて、義人が苦しむことがあるのはなぜか理解したいとき、あなたならどうしますか。
- 主に尋ねることは適切なことでしょうか。

創世25:22; 出エジプト3:11; ヨブ3:11; および教義と聖約121:1-3を読ませ、これらの聖句の共通点を見つけさせる。困難な試練に直面し、主からの助けと理解力を必要としたときに、預言者やそのほかの人々が行ってきたことを話し合う。ヤコブ1:5を読んで話し合う。

ハバククが生きていた時代に、ユダの民はそのほとんどが邪悪であったことを生徒に伝える。ハバクク1:1-4を読ませる。以下の質問をする。

- ハバククは主にどのような質問をしましたか。
 - 義にかなった生活をしようと努力している人々を困らせているにもかかわらず、悪人が罰せられることなく、栄えているようにさえ思えることがあるのはなぜでしょうか。
- 生徒とともにハバクク1:5-11を読み、ハバククの質問に対する主の答えについて話し合う（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のハバクク1:2-4についての注解、245ページ参照）。以下の質問をする。
- 悪人は、罰を逃れられるでしょうか（3ニーファイ27:11; 教義と聖約121:7-22も参照）。
 - この主の答えは、こんなに今日同じ質問を抱いている人にとってどのような助けとなるでしょうか。

主の答えを聞いて、ハバククの心には別の質問が浮かんだ。ハバクク1:12-17を読ませ、ハバククの2番目の質問を見つけさせる。『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のハバクク1:5-17および2章についての注解（245-246ページ）を用いながら、以下の質問について話し合う。

- 主は時折、悪人が義人を苦しめるのをお許しになります。それはなぜでしょうか（教義と聖約122章も参照）。
- 主は、御自分の民に対して、あまり多くの真理を受けていない人々以上に、主の戒めと聖約を守るように求めておられます。それはなぜでしょうか（ルカ12:47-48; 教義と聖約82:3も参照）。

主がハバククの質問に答えられたことについて、どういう気持ちを感じるか尋ねる。自分自身の質問への答えを探し求めるときに、主と、生ける預言者の言葉に心を向けるように勧める。

主から答えや祝福を受けるとき、わたしたちは主に感謝を表さなければならない。教義と聖約59:7, 21を読み、主は御自分が祝福する人々に何を望んでおられるか尋ねる。ハバクク3:17-19を読み、これらの節が、どのように感謝の表れとなっているか尋ねる。主から祝福を受けるとき、あるいは主から理解力を授かるときに、神に感謝を表すよう生徒に勧める。わたしたちは主の方法のすべてを理解することはできないが、主は確かに御自分のすべての創造物を支配しておられることを生徒に告げる。

ゼパニヤ1-3章

はじめに

ゼパニヤは、エレミヤ、リーハイ、およびナホムと同時代の人物で、ヨシヤ王の統治の間、紀元前約639-608年ごろに預言した。ゼパニヤは、ヒゼキヤ王の子孫であった可能性がある（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のゼパニヤ1:1についての注解、241ページ参照）。ゼパニヤのメッセージは、ユダと周囲の国々の悪事に対する神の罰について述べた厳しいものである。ゼパニヤは民に次のように警告している。「主を求めるよ。正義を求めるよ。謙遜を求めるよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠される〔守られる〕ことがあろう。」（ゼパニヤ2:3）これは「主は隠される」という意味の名前を持つゼパニヤにふさわしいメッセージであった（『聖句ガイド』「ゼパニヤ」、156ページ参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 再臨の時に、悪人は滅ぼされ（ゼパニヤ1:3-18；2:4-15；3:2-8参照），義人は救われる（ゼパニヤ2:3, 5-9；3:9-20参照）。
- 義にかなった者となることで、再臨の結果として起こる滅亡を切り抜けて生き残ることができるよう備えられる（ゼパニヤ2:1-3, 9；3:7参照）。

教え方の提案

ゼパニヤ1-3章。義は再臨への最善の備えである。（20-25分）

黒板に次の質問を書く。「再臨の時に滅ぼされるのはどのような人でしょうか。」生徒に答えを求める。もしそれは悪人であると言ったなら、すべての人は罪を犯し、再臨の時に救われる人々でさえも完全ではないことを説明し、悪人にはどのような人が含まれるか尋ねる。ゼパニヤ1:3-18；2:4-15；および3:2-4, 8, 11を読ませ、民を滅亡へと陥れるものとして預言者ゼパニヤが語った罪を挙げさせ

せる。以下のような答えが考えられる。

- 偶像を礼拝する者（1:4-5参照）
- 主に背を向ける者（1:6参照）
- 主を求める者（1:6参照）
- 高慢な者（1:8, 14；2:10；3:11参照）
- 乱暴な者（1:9参照）
- 嘘をつく者（1:9参照）
- 富に頼る者（1:11, 18参照）
- 大酒を飲む者（1:12参照）
- 独り善がりな者（1:12参照）
- イスラエルを攻撃する国々（2:4-15参照）
- 不従順な者（3:2参照）
- 神の律法を腐敗させる者（3:4参照）

ゼパニヤは、再臨の時に滅ぼされるのを避ける方法を提案していることを生徒に伝える。ゼパニヤ2:1-3を読ませ、この預言者の勧告を要約させる。次の質問をする。「『前に』という言葉を繰り返すことによって、ゼパニヤは何を強調しようとしていたと思いますか。」

主が再び来られる「前に」備えをすることの重要性を証する。当時教会教育理事長を務めていたニール・A・マックスウェル長老の以下の言葉を読む。

「すべての教員は、キリストが尊厳と力をもって戻って来られるという現実を、その出来事が起こる『前に』受け入れる必要があります。なぜなら、C・S・ルイスが語っているように、立っていることが不可能なときにひざまずいてもほとんど役に立たないからであり、『芝居の作者が舞台に上がるときには、芝居は終わりである』からです。」（『質疑応答』New Era, 1971年1月号, 9）

時間があれば、ゼパニヤ3章から、福千年の間に生きる人々にもたらされる祝福を示している節を幾つか選ぶ（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のゼパニヤ3:8-20についての注解、242ページ参照）。

ハガイ1-2章

はじめに

ハガイの預言は、紀元前約537年にクロスの宣言の下でバビロニア捕囚から帰還したユダヤ人に向けたものである（エズラ1:1-8参照）。ハガイはエズラ、ネヘミヤ、およびゼカリヤと同時代の人物であった。

ユダヤ人は神殿の再建を開始したが、敵対と迫害のためにすぐにやめてしまった（エズラ4章参照）。『旧約聖書：列王紀上マラキ書』の特別講座およびエズラ4:1-10についての注解、335-340、344-345ページ参照）。紀元前約520年に伝えられたハガイの預言は、主によって約束されている祝福を得るために、困難であるにもかかわらず、もう一度神殿の再建に取りかかるようユダヤ人を励ますものであった（エズラ5:1; 6:14；『聖句ガイド』「ハガイ」、203ページも参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- 神殿の聖約と儀式は、人類の救いのための御父の計画に不可欠である（ハガイ1章；2:7-9参照。教義と聖約128:11-19；132:7-19も参照）。
- 主は神殿の儀式に参加する人々にふさわしくあるように求めておられる（ハガイ2:10-19参照）。

教え方の提案

ハガイ1-2章。神殿の聖約と儀式は、人類の救いのための御父の計画に不可欠である。（15-25分）

黒板に「すべての道は_____に通じる」と書く。空欄に入る言葉を尋ねる。これから、この空欄を埋めることのできる、一つの非常に重要な言葉について学ぶことを生徒に伝える。

生徒とともにハガイ1:1-14を読み、読みながら以下の質問について話し合う。

- ユダヤ人がエルサレムの神殿の建設を中止したのはなぜですか（2-6節参照）。
- 主によると、ユダヤ人が神殿の再建に失敗したのは、貧しさや迫害からでしたか。それとも再建に失敗したことで、貧しさや迫害が起こったのでしょうか（7-11節参照）。
- 貧しさの中にあっても神殿の再建に忠実であることを条件に、主はどのようなことを約束されましたか（13節参照）。

- 神殿がそれほど重要であったのはなぜだと思いますか。

ハガイ書に書かれている主の指示を、教義と聖約95章；109:1-5；および124:31-55に書かれている、現代のイスラエルに対する神殿に関する指示と比較する。教会指導者に対するボイド・K・パッカー長老の以下の言葉を紹介する。

「皆さん、会員たちの生活の中で教会の使命を実践し始めるにはどうすればよいのだろうかと思うかもしれません。……キンボール大管長は教会の使命について話したとき、どのように実践するか教えました。

わたしたちは『あらゆる国民、部族、国語の民、民族に主イエス・キリストの福音を宣言することで、教会員としてバプテスマと確認の儀式を受けられるよう人々を備えます。』

わたしたちは『福音の儀式を受けられるよう人々を備えることによって、また昇栄を得るために教え、訓練することによって、聖徒を全き者とします。』

わたしたちは『これまでに地上に生きていた人々のために身代わりの福音の儀式を行うことによって、死者を贖います。』

わたしたちは儀式と、それらに結び付いた聖約に焦点を当てることによって、人の不死不滅と永遠の命をもたらします。……

教会の組織の運営において、すべての道が神殿に通じているように取り計らうことが賢明です。なぜなら、わたしたちが主の御前に行く資格を得るためにすべてのことについて備えられるのは、まさに神殿においてだからです。」（宗務代表者のセミナー、1987年4月3日、4-5。最後の段落の強調付加）

空欄に「神殿」と書いて黒板の言葉を完成させ、すべての道が神殿に通じているとはどういう意味か説明させる。いちばん近くにある神殿の写真、または末日聖徒のいすれかの神殿の写真を見せる。神殿と、教会の集会を行う地元の集会所との違いを尋ねる。神殿はわたしたちが救いに必要な儀式を受けるために神が用意してくださった場所であることを生徒が理解できるように助ける。

神殿に行って死者のためのバプテスマや両親との結び固めを受けたことのある一人または数人の生徒に、彼らの経験と、神殿の重要性についての証をしてもらうとよい。（神殿の儀式については話さないよう生徒に伝える。）

ハガイ2：10-19。主はわたしたちに、ふさわしい状態で神殿の儀式に参加するように求めておられる。(10-15分)

以下の質問をする。

- マラソンではどのくらいの距離を走りますか。
- 明日マラソンに出場したいと思いますか。
- マラソンに出場できない理由として、どのようなことが考えられるでしょうか。
- そのようなレースに出場する前に、何をしておきたいと思いますか。
- マラソンに出場するには、どのような準備が必要でしょうか。
- 神殿に参入するには、どのような準備が必要でしょうか。

ハガイ2：10-19を読ませる(『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のハガイ2：10-19についての注解、352ページも参照)。神殿に入ることによってふさわしくない人が聖められることはなく、ふさわしくない状態で神殿に入る人は主の宮の神聖さを汚すことになることを生徒が理解できるようにする。教義と聖約110：7-8を読ませ、ふさわしさを保つことが、なぜ神殿で有意義な時間を過ごすうえで不可欠なのか話し合う。

ゼカリヤ書

ゼカリヤ1-14章

はじめに

ゼカリヤはハガイと同時代の人物で、同じくバビロニア捕囚から帰還したユダヤ人に向かって語った。「ゼカリヤ」という名前は「主〔エホバ〕は覚えられる」の意味である。ゼカリヤはイスラエルに、悔い改めて神殿を再建するよう勧ました（ゼカリヤ1：1-17参照。エズラ5：1-2；6：14；および本書のハガイ書の「はじめに」、211ページも参照）。

ゼカリヤ書には、キリストの地上での務め（ゼカリヤ9：9-12；11：10-14），ならびにイスラエルの集合や最後の大いなる戦い，そして再臨といった末日の出来事（ゼカリヤ3：8-9；10：6-12；12-14章参照）を鮮明に語った預言が記されている。ゼカリヤは主から幾つかのメッセージを示現の形で受けているが（1-6章参照），その象徴の多くは昔または現代の預言者による解き明かしがなされていないため，それらの意味は明瞭ではない（『聖句ガイド』「ゼカリヤ」、154ページ参照）。

学び取るべき重要な福音の原則

- ゼカリヤやそのほかの昔の預言者たちは，救い主の生涯と務めを見て預言した（ゼカリヤ3章；6：10-15；9：9，11-12；11：12-13；13：6-7参照。モルモン書やコブ7：11も参照）。
- ハルマゲドンの戦いのただなかにあって，キリストはエルサレムに来てユダヤ人を滅亡から救われる。彼らは主が十字架につけられた救い主であられることを知り，主を自分たちのメシヤおよび王として受け入れる（ゼカリヤ12：3-10；13：6，9；14：1-5，9参照。教義と聖約45：42-53も参照）。

教え方の提案

ゼカリヤ1-14章。ゼカリヤは救い主の現世での務めと再臨について，多くを詳細にわたって預言した。（20-25分）

以下の表のうち「救い主についての預言」の欄が空欄になっているものをコピーして，それぞれの生徒に配付する。

参照箇所	救い主についての預言
ゼカリヤ2：4-5，10-13	キリストは御自分の民とともに住まわれる（黙示22：1-5参照）。
ゼカリヤ3章；6：10-15	ヨシュアは偉大な大祭司の予型である（ヘブル3：1参照）。
ゼカリヤ3：8-9；6：12	イエスはわたしたちを贖う枝であられる（エレミヤ23：5-6参照）。

参照箇所	救い主についての預言
ゼカリヤ9：9	イエスは王として，ロバに乗って勝利のうちにエルサレムに入られる（マタイ21：1-11参照）。
ゼカリヤ9：11-12	捕われ人は穴から解放される（教義と聖約138：32-35参照）。
ゼカリヤ11：12-13	救い主は銀30枚のために裏切られる（マタイ26：14-16；27：3-10参照）。
ゼカリヤ13：6	ユダヤ人はイエスにその両手の傷について尋ねる（教義と聖約45：51-53参照）。
ゼカリヤ13：7	羊飼いは打たれ，羊は散らされる（マタイ26：31参照）。
ゼカリヤ14：1-15	主はエルサレムに御姿を現し，ユダヤ人を救われる（教義と聖約45：47-50参照）。

小さなグループまたはクラス全体で参照箇所を読み，「救い主についての預言」の欄を埋める。生徒の答えについて話し合う。「預言」の欄にある括弧内の参照箇所を用いて，預言されている出来事がいつ成就したか，あるいは成就するかを生徒が理解できるようにする。

汚れた布を見せ，以下の質問をする。

- この布をもう一度白くすることは可能だと思いますか。
- 布をきれいにするには何が必要でしょうか。
- わたしたちは罪から清くなるために，何をする必要があるでしょうか。

ゼカリヤ3章を開かせる。以下の質問について話し合う。

- 1節で，ゼカリヤはサタンが何をしているのを見ましたか。（「サタン」という名前の意味の一つは，「訴える者」である。）
- 大祭司ヨシュアは何を着ていましたか（3節参照。これはモーセに従ったヨシュアではないことに注意する）。
- 4節では何について述べられていると思いますか。
- わたしたちは何の力によって清められますか，またはきれいな衣を与えられますか。
- 7節では，主がわたしたちに求めておられることについて何が教えられていますか（「もし」の部分を参照）。
- 8節で語られている枝はだれですか。
- 主が来られるのはなぜですか（9節参照。エレミヤ23：5-6も参照）。

イエス・キリストの来臨によって，すべての人がこの世の罪を克服する力を得られることを生徒が理解できるようにする。もしわたしたちがそれを主の方法で求めるならば，それはサタンの訴えに答え，わたしたちを清める力となる。もしわたしたちが主の求められることを行うならば，主はその贖罪によってわたしたちの「罪を取り除い」てくださる（ゼカリヤ3：4参照）。

汚れた布ときれいな布を見せる。わたしたちを清める救い主の力について、教師の証を述べる。

ゼカリヤ12-14章。ゼカリヤ書には、再臨についての役立つ情報が含まれている。(35-50分)

黒板に「ハルマゲドン」と書き、それについて知っていることを生徒に言わせる。以下の質問をする。

- 終わりの時とキリストの再臨での出来事について考えるとき、どのような気持ちを感じますか。
- 救い主が戻って来られる前には、どのような出来事が起こらなければならないでしょうか。

それらの出来事を黒板に幾つか列挙する。例えば、福音がすべての国に宣べ伝えられる(教義と聖約133:37参照)、偽キリストが現れて多くの人を惑わす(マタイ24:24-27参照)。

預言者ゼカリヤは、再臨に伴う多くの出来事を目撃し、それらについて述べていることを生徒に説明する。ゼカリヤはゼカリヤ12-14章の中で、終わりの時に成就する出来事を示すために、「その日」という表現を何度も用いている。生徒を小さなグループに分けて各章を調べさせ、その表現を見つけさせる。ゼカリヤが述べている出来事とその参照箇所を紙に書き出させる。(注意:すべての出来事が「その日」という表現で始まっているわけではない。) 以下のような表ができるであろう。

参考箇所	末日についての預言
12:2-3	エルサレムは攻め囲まれるが、それに抵抗する。
12:4	エルサレムの敵は狂気に苦しむ。
12:5-7	ユダの諸族は火のようになる。
12:8	ユダの弱い者はダビデのようになる。
12:9	エルサレムの敵は滅ぼされる。
12:10-11	ユダヤ人は「その刺した者」であるイエスに気づく。

参考箇所	末日についての預言
13:1	民を清める泉が開かれる。
13:2-5	偶像は取り除かれ、偽預言者は消える。
13:6	ユダヤ人はキリストの傷を見る。
13:7-9	羊飼いは絶たれる。民の3分の2は死ぬ。
14:1-2	すべての国民がエルサレムに敵対して集合する。
14:3	主はエルサレムのために戦われる。
14:4-5	キリストはオリブ山に立たれ、その山は二つに裂ける。
14:6-7	不思議な光が現れる。
14:8	生ける水がエルサレムから流れ出る。
14:9-11	主は王となられる。イスラエルは平和になる。
14:12-15	疫病がイスラエルの敵を滅ぼす。
14:16-19	すべての国民がエルサレムで礼拝する。
14:20-21	鈴となべには「主に聖なる者」と記される。

『旧約聖書:列王紀上-マラキ書』の特別講座I(311-316ページ)から、その他の情報を追加してもよい。

救い主がオリブ山に御姿を現されることについてさらに知るために、ゼカリヤ13:6を教義と聖約45:48-53および133:17-20とともに読む。わたしたちは再臨を恐れるべきかどうか生徒に尋ねる。1ニーファイ22:16-17を読み、義にかなっているかぎり、わたしたちは恐れる必要がないことを説明する(教義と聖約38:29-30も参照)。再臨についてゼカリヤ書から学んだことをどう感じるか、数名の生徒に話してもらう。

マラキ1-4章

はじめに

「マラキ」は「わたしの使者」という意味で、預言者にふさわしい名前である。マラキは預言者ハガイやゼカリヤの後にユダに対して預言した人物で、ネヘミヤと同時代であった可能性がある。マラキの書は、キリストの誕生の約400年前に書かれた（『聖句ガイド』「マラキ」、247-248ページ；『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』にあるマラキ書の「はじめに」およびマラキ1:1についての注解、379ページ参照）。

マラキは、主の約束に対する民の信仰のなさを叱責した。また、神権の結び固めの力の回復、結婚と離婚、および什分の一とささげ物について教えた。救い主の再臨の前に来る一人の使者についても預言した。マラキ書の大部分は末日に当てはまるものである。この書を研究しながらそれらの預言を見つける。

学び取るべき重要な福音の原則

- ・ 結婚の聖約は厳肅で神聖なものであり、破られるべきものではない（マラキ2:11-16参照。教義と聖約131:1-4; 132:15-19も参照）。
- ・ 什分の一を納めることは、神の所有物を神にお返しすることである。もし什分の一とささげ物を認めないならば、わたしたちは神のものを盗み、約束された祝福を自分自身から奪うことになる（マラキ3:8-12参照。レビ27:30-32も参照）。
- ・ エリヤが回復した結び固めの力によって、家族がともに永遠に結び固められることが可能になった。このことなしには、地はのろいをもって打たれ、主の来臨の時に完全に荒廃する（マラキ4:5-6参照。教義と聖約2章；110:13-16; 128:17-18; 138:46-48も参照）。

教え方の提案

 マラキ3章（マスター聖句、マラキ3:8-10）。もしわたしたちが什分の一とささげ物を納めるならば、主はわたしたちを靈的にも物質的にも祝福してください。（20-30分）

強盗や窃盗についての新聞記事を見せる。何かを盗まれたことがあるか、またどのような気持ちがしたか尋ねる。次の質問をする。「犯罪のない社会での生活はどのようなものだと思いますか。」マラキはそのような時代について語ったことを生徒に伝える。生徒とともにマラキ3:1-6および4:1-2を読み、犯罪に終わりをもたらす再臨では、ど

のようなことが起こるか尋ねる。

窃盗についての新聞記事にもう一度戻り、以下の質問をする。

- ・ もしこれがあなたについての記事であり、あなたが窃盗で捕まったとしたら、どのような気持ちがするでしょうか。
- ・ あなたの両親はどのような気持ちがするでしょうか。
- ・ もしあなたの盗んだものが神のものであったら、あなたはどのような気持ちがするでしょうか。
- ・ 人はどのようにして神のものを盗むことができるのでしょうか。

マラキ3:8-9を読み、什分の一とささげ物を認めないことが、なぜ神のものを盗んでいるのと同じであるのか尋ねる（『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のマラキ3:7-9についての注解、381-382ページ参照）。教義と聖約64:23-24を読み、什分の一がそれほどに重要な戒めである理由を話し合う。ダリン・H・オーカス長老の以下の言葉を紹介する。

「什分の一を納めるということは、犠牲の律法を受け入れた証拠でもあるのです。それはまた、奉獻の律法や日の栄えの王国のそのほかの高い律法を受け入れる準備にもなります。」（『聖徒の道』1994年7月号、37）

以下の質問をする。

- ・ 什分の一以外に、マラキはユダの民がどのような形で神のものを盗んでいると言っていますか。（ささげ物をささげることにおいて。マラキ3:8参照。）
- ・ こんなに 今日わたしたちは、主にどのようなささげ物をささげるよう求められているでしょうか。

『什分の一・献金票』を見せ、断食献金や宣教師基金がどのように用いられるか話し合う。（断食献金は貧しい者の援助に用いられ、宣教師基金は援助がなければ伝道に行くことのできない世界中の宣教師を支援する。人道的援助献金は福祉に関する世界中のその他の必要を満たすために用いられる。）

マラキ3:10-12を読ませ、正直に什分の一とささげ物を納める者に、主は何を約束しておられるか答えさせる。当時十二使徒定員会会員であったエズラ・タフト・ベンソン長老の以下の言葉を紹介する。

「人は什分の一の律法に従順することによって物質的に祝福されます。しかし主の最も大いなる祝福は、結局のところ、靈的なものなのです。『わたし〔は〕天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ』（マラキ3:10）という表現には、恐らくそのようなさら

深い意味があると思われます。使徒の故メルビン・J・バラード長老は次のように語っています。『主は、正直な什分の一を納める男女には必要なものが与えられると約束しておられます。〔しかし、〕主は彼らを物質的に裕福にするとは約束しておられません。主の最も大いなる祝福は、物質的なものではなく靈的なものなのです。』(Crusader for Righteousness, 124) (The Teachings of Ezra Taft Benson, 472-473)

マラキ3:8-10を教義と聖約64:23と相互参照させる。主は什分の一を正直に納める者に対して、ほかにどのような祝福を約束しておられるか話し合う。(彼らは主の来臨の時に焼かれない。)

 **マラキ1-4章。もしイエス・キリストの再臨への備えができているならば、わたしたちは恐れる必要はない。** (25-45分)

今日は、学校の授業の初日であると仮定する。学校の教師は、生徒の最終成績を決める様々な宿題を説明するが、宿題の期日については何も言わない。ただ、今学期中であるということははっきりしている。すべての宿題を完成させるのに十分な期間が与えられるが、いつの日か、何の予告もなしに、教師は今学期のすべての宿題を提出するよう命じる。その日に宿題を完成した状態で持参する生徒は合格し、最終成績が与えられる。一つでも宿題を提出しなかった生徒は落第となる。

以下の質問をする。

- あなたはいつ宿題をやり始めますか。
- 学期末まで先延ばしにしますか。
- もしすべて完成しているなら、毎日授業に来るときにどのような気持ちがするでしょうか。
- 準備ができていなかったらどのような気持ちがするでし



ょうか。

- 重要なレポートや宿題について、教師が締切日をはっきりさせている場合、あなたは通常いつそれを行いますか。
 - 宿題をするのを最後の最後まで先延ばしにする人がいます。それはなぜでしょうか。
- マタイ24:36-42を読ませ、以下の質問をする。
- それらの聖句は、先ほど紹介した状況とどのような点で似ているでしょうか。
 - 主が御自分の来られる時をはっきりとお教えにならないのはなぜだと思いますか。
 - 主はわたしたちに、毎日何をするよう望んでおられるでしょうか。

ゼカリヤ12-14章のための教え方の提案(214ページ)をまだ利用していない場合は、ここで利用するとよい。あるいは、生徒とともに再臨につながる出来事を復習する。終わりの時について預言されているひどい滅亡を理解したら、マラキ3:2を開かせ、そこで尋ねられている質問に答えさせる。「その来る日には、だれが耐え得よう。」

マラキ3-4章を読ませ、以下の質問への答えを見つけさせる。

- マラキは、再臨に備えるために何をしなければならないと言っていますか。
- マラキは、わたしたちが備えのできていない状態にならないよう、何をしないよう警告していますか。

生徒の答えについて話し合う。読んでいる内容を理解できるよう、『旧約聖書：列王紀上-マラキ書』のマラキ3-4章についての注解(380-384ページ)を利用する。

全員でマラキ4:5を読み、以下の質問をする。

- 再臨を「大いなる恐るべき日」と呼ばれたとき、主は何を言おうとしておられたと思いますか。
- わたしたちは再臨を恐れるべきでしょうか(教義と聖約38:30参照)。

再臨により良く備えるために自分にできることを一つ考え、努力し始めるように生徒を励ます。

 **マラキ4:5-6(マスター聖句)。**主は「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」ために、再臨の前にエリヤを遣わすと約束された。(15-20分)

旧約聖書マスター聖句の中から、御父の「業」とは何かを教えている聖句を開くように言う(モーセ1:39)。その節を読んだ後、以下を伝える。預言者マラキは、神が御自分の業を確実に成し遂げるために行われることについて教えた。

生徒とともにマラキ4:5-6を読み、エリヤとはだれか尋ねる(『聖句ガイド』「エリヤ」、55-56ページ参照)。そ

これらの聖句は、教会のほかの標準聖典にも見られることに注意する（3ニーファイ25:5-6；教義と聖約2章；ヨセフ・スミス－歴史1:36-39参照）。『旧約聖書：列王紀上－マラキ書』のマラキ4:5-6についての注解（383-384ページ）を利用して、以下の質問について話し合う。

- ほかの預言者ではなくエリヤが遣わされることになっていたのはなぜでしょうか。（ヨセフ・フィールディング・スミス大管長によると、「エリヤは昔のイスラエルにおいて完全な神権を持っていました最後の預言者、言い換えれば、完全な結び固めの力をもっていた最後の預言者であった。エリヤの後に現れた預言者たちはこの完全な神権を持ってはいなかった。」〔『救いの教義』第3巻、135参照〕）
- エリヤは何をもたらすことになっていましたか（教義と聖約110:13-16も参照）。

- 「子供たちの心をその父に向けさせる」とはどういう意味でしょうか。
- もしエリヤが遣わされなかつたならば、何が起こるでしょうか（教義と聖約2:2-3；128:15, 17-18；ヨセフ・スミス－歴史1:39も参照）。
- わたしたちは今もなおエリヤが来るのを待っているでしょうか、それともエリヤはすでに来たでしょうか（教義と聖約110:13参照）。

主がエリヤの手によって送ると約束された結び固めの力がすでに回復されていることを証する。神殿推薦状にふさわしくあるように努力し、家族歴史の作成や神殿に参入することで「シオンの山の救い手」（オバデヤ1:21参照）となるためのあらゆる機会を生かすよう生徒を励ます。

世界への宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会ならびに十二使徒評議会

わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている靈の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、靈の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

います。「子供たちは神から賜わった嗣業であり」(詩篇127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも靈的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

この宣言は、1995年9月23日、ユタ州ソルトレーク・シティーで開催された中央扶助協会集会において、ゴードン・B・ヒンクリー大管長により、メッセージの一部として読み上げられたものである。

©1995 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。 (The Family : A Proclamation to the World. Japanese) 10/95 (10/95) 印刷 : 日本 35602 300

イスラエルとユダの王と預言者

イスラエル統一王国の王

サウル
ダビデ
ソロモン

紀元前約1050–930年

イスラエルの王

ヤラベアム一世——在位期間は22年（紀元前約930—909年）。主はヤラベアムを北の十部族を治める王として選ばれたが、ヤラベアムは戒めを守ろうとしなかった。それどころか、イスラエルを偶像礼拝に没頭させ、後のイスラエルのほとんどすべての王の手本となった（列王上12:25—14:20参照）。

ナダブ——在位期間は2年（紀元前約909—908年）。ヤラベアムの息子であるナダブは、父親が始めた悪事を続けた。ナダブはバアシャによって暗殺された（列王上15：25—31参照）。

バアシャ——在位期間は24年（紀元前約908-886年）。バアシャは、ナダブとヤラベアムの子孫を全員滅ぼすことによって王座を得た。バアシャはヤラベアムの悪事を統け、預言者エヒウは、彼がヤラベアムの家を滅ぼしたように自分自身の家も滅ぼされるであろうと予告した（列王上15：32-16：7参照）。

エラ——在位期間は2年(紀元前約886-885年)。パアシャの息子であるエラは、戦車隊の長であったジムリに殺された。その後ジムリはパアシャの家に属するすべての者を殺し、エヒウの預言は成就した(列王上16:8-14参照)。

ジムリ——在位期間は7日（紀元前約885年）。ジムリは軍隊の反乱に遭い、自殺した（列王上16：9-20参照）。

オムリ（紀元前約885–874年）とテブニ（紀元前約885–880年）——オムリとテブニは4年にわたって王国の支配権を争った。テブニは死に、オムリは王となった。オムリはサマリヤの町を見つけ、首都とした。オムリはさらに12年にわたって統治したが、その統治はこれまでの王たち以上に邪悪であった（列王上16:16–28参照）。

アハブ——在位期間は22年（紀元前約874—853年）。オムリの息子であるアハブは、北王国で最悪の王と見なされている。アハブは偶像礼拝を行うシドン人の王女イゼベルと結婚した。彼女はバアル礼拝を広め、エホバに従う人々を迫害した。王女イゼベルは預言者エリヤを殺そうとした。エリヤはアハブとイゼベルの死を預言した（列王上16：29—22：40；歴代下18章参照）。

アハジヤ——在位期間は2年（紀元前約853—852年）。アハジヤはその父アハブの悪事を続けた（列王上22:51—列王下1:18参照）。

ヨラム—in位期間は12年（紀元前約852—841年）。ヨラムはその父や祖父ほど邪悪ではなかったが、ヤラベアムの罪を続けた（列王下3:1-8; 15参照）。

預言者

イスラエル 南方 ユダ

472

エビウ
ノチニ

ミカ
アリエ
アヤ
オバヤシ

ユダの王

レハベアム——在位期間は17年（紀元前約930—913年）。ソロモンの息子であるレハベアムは、主に従順なときもあったが、近隣の国々の悪事に従ったときもあった。その結果、エジプトの王シシャクがエダに攻め入り、神殿を荒らした（列王上12:1-24; 14:21-31；歴代下10:1-12; 16参照）。

アビヤム——在位期間は3年（紀元前約913-910年）。アビヤムはアビヤも呼ばれ、レハバエムの息子である。アビヤムは、自分の父親が始めた罪を続けた（列王上15:1-8；歴代下13章参照）。

アサ——在位期間は41年（紀元前約910—869年）。アサはアビヤムの息子で、「主の目にかなう事をし【た。】」（列王上15：11）アサは地から偶像礼拝を排除するための改革を実施した。また軍隊を強化し、イスラエルとエチオピヤ人が攻撃してきたときに彼らを打ち破った（列王上15：9—24；歴代下14—16章参照）。

ヨシャバテ——在位期間は25年（紀元前約872—848年）。ヨシャバテは3年にわたって父アサとともに治め、5年にわたって息子ヨラムとともに治めた。ヨシャバテは賢明で義にかなった統治をしたが、イスラエルのアハブおよびアハジヤとあまりに親密な同盟を結んだ。ヨシャバテの息子とアハブの娘との不幸な結婚は、これが原因であった可能性がある（列王上22：41—50；歴代下17：1—21：3参照）。

ヨラム——在位期間は8年（紀元前約853—841年）。ヨラムはその父ヨシャバテの義に従わなかった。ヨラムは自分の兄弟たちを殺し、イゼベルとアハズの娘であるアタリヤと結婚し、邪悪な統治を行った（列王下8：16—24；歴代下21章参照）。

アハジヤ——在位期間は1年(紀元前約841年)。アハジヤは、イスラエルの王ヨラムを殺したエヒウに殺された。(列王下8：25-29；9：27-29；歴代下22：1-9；索引)

イスラエルの王

続

エヒウ——在位期間は28年（紀元前約841–814年）。エヒウはイスラエルの王として預言者から油を注がれ、アハブの家を滅ぼした。エヒウはバアル礼拝を滅ぼしたが、ヤラベアムの金の子牛は滅ぼさなかった（列王下9:1–10:36参照）。

エホアハズ——在位期間は17年（紀元前約814–798年）。エホアハズは、その父エヒウが排除しようとしたバアル礼拝を再び取り入れた（列王下13:1–9参照）。

ヨアシ——在位期間は16年（紀元前約798–782年）。ヨアシはその父エホアハズの罪を続けた（列王下13:10–25参照）。

ヤラベアム二世——在位期間は41年（紀元前約793–753年）。ヤラベアムは12年にわたってその父ヨアシとともに統治した。ヤラベアム二世は義人ではなかったが強力な王であり、主は彼を用いてイスラエルの敵を破り、民に悔い改める最後の機会をお与えになった（列王下14:23–29参照）。

ゼカリヤ——在位期間は6か月（紀元前約753年）。ヤラベアムの息子であるゼカリヤは、シャルムに殺された（列王下15:8–12参照）。

シャルム——在位期間は1か月（紀元前約751年）。シャルムはメナヘムに殺された（列王下15:10–15参照）。

メナヘム——在位期間は10年（紀元前約752–742年）。メナヘムはシャルムを殺して王座を得た。メナヘムはアッスリヤに貢ぎ物を納めるために、民に重い税を課した（列王下15:14–22参照）。

ベカヒヤ——在位期間は2年（紀元前約742–740年）。メナヘムの息子であるベカヒヤは、軍事クーデターでベカに殺された（列王下15:23–26参照）。

ベカ——在位期間は20年（紀元前約752–732年）。ベカはメナヘムの統治の時代にヨルダン川の東岸にあった敵対国を支配し始めた。アッスリヤ人の2度目の侵入で、多くのイスラエル人が囚われの身となって連れ去られた（列王下15:27–31参照）。

預言者

イスラエル

両方

ユダ

ヘリシヤ

ゼカリヤ

ヨナ

アモス

ホセア

オホテ

川力

ユダの王

続

アタリヤ女王——在位期間は7年（紀元前約841–835年）。アタリヤはアハジヤの母で、アハブとイゼベルの娘である。アハジヤの死後、アタリヤは隠されていた孫の一人ヨアシを除いて「王の一族をことごとく」殺し、王座を奪った（列王下11:1）。アタリヤはバアル信仰を広め、処刑された（列王下11章；歴代下22:10–23:21参照）。

ヨアシ——在位期間は40年（紀元前約835–796年）。アハジヤの姉妹であるエホシバが、幼いヨアシをその残忍な祖母アタリヤから救った。エホシバとその夫である祭司エホヤダは、ヨアシを6年間神殿に隠した。ヨアシが7歳のとき、エホヤダは民衆の暴動を先導してヨアシを王座に就けた。アタリヤは殺された。ヨアシはバアル礼拝をやめ、神殿を修復した（列王下12章；歴代下24章参照）。

アマジヤ——在位期間は29年（紀元前約796–767年）。ヨアシの息子であるアマジヤは、忠実でもあり愚かでもあった。アマジヤは預言者の警告に注意を向けてエドムを破ったが、その後偶像礼拝を行い、イスラエルの王ヨアシから屈辱を受けた。最後の24年間は息子アザリヤとともに統治した。アマジヤは流浪の身で殺された（列王下14:1–22；歴代下25章参照）。

アザリヤまたはウジヤ——在位期間は52年（紀元前約792–740年）。アザリヤは軍事的には強かったが靈的には弱かった。アザリヤはユダを近隣諸国の中で強力な国としたが、王国から偶像礼拝を取り除かなかった。アザリヤはらい病に悩まされ、最後の10年間は息子ヨタムとともに統治した（列王下15:1–7；歴代下26章参照）。

ヨタム——在位期間は16年（紀元前約750–732年）。ヨタムは有能な統治者であったが、父親と同様、ユダから偶像礼拝を取り除かなかった。最後の4年間は息子アハズとともに統治した（列王下15:32–38；歴代下27章参照）。

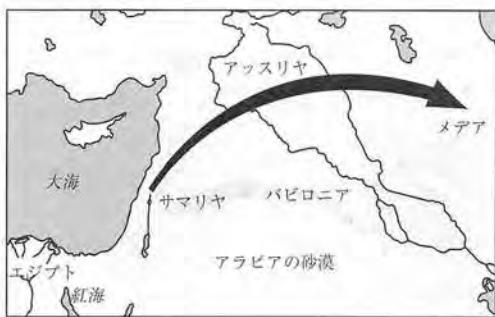
アハズ——在位期間は16年（紀元前約735–715年）。預言者イザヤの助言に反して、アハズはアッスリヤと同盟を結んだ。アハズはユダに偶像礼拝を行わせ、さらに自分の息子たちを火に焼いて犠牲にした（列王下16章；歴代下28章参照）。

イスラエルの王

続き

ホセア——在位期間は9年（紀元前約732-722年）。ホセアの統治のころには、イスラエルの捕囚は避けられないものとなっていた。サマリヤは紀元前約721年にアッスリヤの手に落ち、その住民のほとんどが追放された。その後イスラエルは散らされて「行方の知らない十部族」となった（列王下17:1-34参照）。

イスラエル北王国の終わり



アッスリヤへの捕囚

「それゆえ、主は大いにイスラエルを怒り、彼らをみ前から除かれたので、ユダの部族のほか残った者はなかった。」（列王下17:18）

預言者		
イスラエル	両方	ユダ
		イザヤ 川谷
		ナホム
		アモン
		ヨシヤ
		エホヤキム
		エホヤキン
リーハイ	エレミヤ ハバクク ダニエル	セバニヤ ホルダ（女預言者）

ユダの王

続き

ヒゼキヤ——在位期間は29年（紀元前約715-686年）。アハズの息子であるヒゼキヤは、ユダの最も義にかなった王の一人として知られている。ヒゼキヤは偶像礼拝をやめ、神殿を清め、再びエホバを礼拝した。ヒゼキヤの忠実さのために、主はアッスリヤ人の侵入を阻止し、ヒゼキヤの命を15年延ばされた。息子マナセが誕生したのはそのころであった（列王下18-20章；歴代下29-32章；イザヤ36-39章参照）。

マナセ——在位期間は55年（紀元前約697-642年）。11年間は父親のヒゼキヤとともに治めた。列王下21章では、マナセはイスラエルの民が滅ぼしたアモリ人よりも邪悪であったと述べられている。マナセは父親が成し遂げたすべての善いことを完全に覆した。彼は偶像礼拝を強制し、エホバの預言者たちを殺した。また自分自身の子供たちを偽りの神々への犠牲とした（列王下21:1-18；歴代下33:1-20参照）。

アモン——在位期間は2年（紀元前約642-640年）。アモンは父マナセの悪事を継ぎ、自身の僕たちによって殺された（列王下21:19-26；歴代下33:21-25参照）。

ヨシヤ——在位期間は31年（紀元前約640-609年）。8歳で王座に上ったヨシヤは、ユダの歴史上最も大規模な宗教改革を実施した人物とされている。モーセの律法が再発見されて教えられた。残念なことに、ヨシヤはエジプト人に対する軍事行動の際に殺され、その改革は続かなかった（列王下22:1-23:30；歴代下34-35章参照）。

エホアハズ——在位期間は3か月（紀元前約609年）。パロはエホアハズを追い出し、エホアハズの兄弟エリアキムを王座に就かせた（列王下23:31-33；歴代下36:1-4参照）。

エホヤキムまたはエリアキム——在位期間は11年（紀元前約609-598年）。パロは、エリアキムの名前をエホヤキムとした。エホヤキムは預言者エレミヤの勸告を繰り返し拒み、エレミヤを殺そうとした。エホヤキムはバビロンに反逆した後に殺された（列王下23:34-24:7；歴代下36:5-8参照）。

エホヤキン——在位期間は3か月（紀元前約598-597年）。エホヤキンとほかの大勢の者が囚われの身となってバビロンに連れて行かれた（列王下2:8-17；歴代下36:9-10参照）。

預言者		
イスラエル	両方	ユダ
		ハ シ ミ ヤ
	ハ イ ム イ ル	
		エ サ キ エ ル
		マ ラ キ

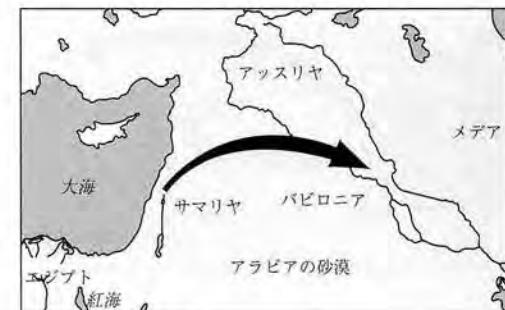
紀元前約537年、クロス王がユダヤ人のエルサレムへの帰還を認めた。ハガイ、ゼカリヤ、およびマラキは、帰還した後のユダヤ人に語った預言者である。

ユダの王

続き

ゼデキヤまたはマッタニヤ——在位期間は11年（紀元前約597-586年）。ゼデキヤもまたバビロンに服従するようにという預言者エレミヤの勧告を拒んだ。ゼデキヤはエジプトと同盟を結び、そのためにバビロンはエルサレムを滅ぼし、ユダヤ人を捕らえて連れ去った（列王下24：18-25：21；歴代下36：11-21参照）。

ユダの南王国の追放

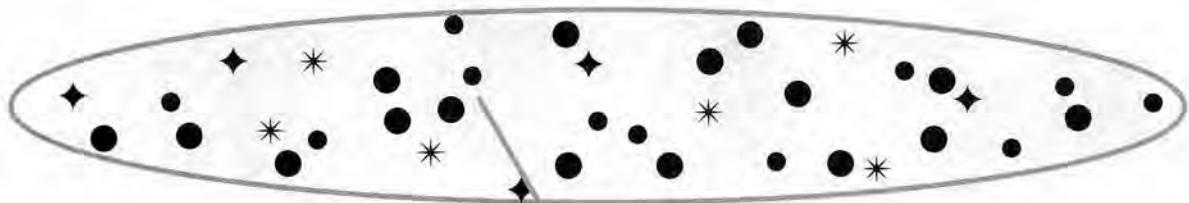


バビロニアへの捕囚

「ヤコブを奪わせた者はだれか。かすめる者にイスラエルをわたした者はだれか。これは主ではないか。われわれは主にむかって罪を犯し、その道に歩むことを好まず、またその教に従うことを好まなかった。」（イザヤ42：24）

解明されている宇宙

・直径400億光年



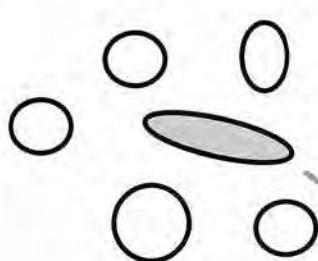
最短距離にある銀河群

・直径1億5千万光年

・数百万の銀河

銀河系ならびに最短距離に隣接する銀河

・直径400万光年



銀河系

・直径10万光年

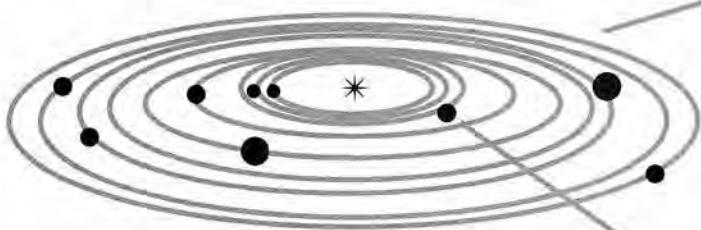
・何千億の星



太陽系

・直径0.000063光年

・太陽の光は5時間あまりで冥王星
に到達する。



地 球

・直径12,756キロメートル

・太陽から0.000016光年の距離

・太陽の光は8分で地球に到達する。



1光年は光が毎秒297,000キロメートルの
速度で1年間に進む距離、すなわち約9.5
兆キロメートルである。



